-to-in-jin. ❻存 ❼都法灌頂付屬の旨を記せる印信なり。子嶋流に相承す。

都法灌頂秘錄 ❶(日)To-hō-kwan-to-hi-roku. ❷一卷或二卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第一 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ❺貞觀四(A. D. 863)

❻本書は胎藏界、金剛界、蘇悉地、合行灌頂(又名=阿闍梨灌頂)、祕密灌頂(又名=自利利他冥合灌頂)、瑜祇灌頂(又名=內證究竟灌頂)の六種灌頂即ち本尊法に乖ざる密教の都法を各四重に分つて印明を記し、台密灌頂の深祕の傳授を揭げたもの。四重とは傳法灌頂、阿闍梨位灌頂、自利利他冥合灌頂、內證究竟灌頂である。胎の傳法灌頂には十三大會の各會毎に根本印明一つ宛を記し、金の傳法灌頂には九印明を以つて九會の各會の根本印明を示し、蘇の傳法灌頂には蘇悉地經と別行經との所說によつて八印明を記し、合の傳法灌頂では理智冥合の一印三明を記し、祕密の傳法灌頂では台金蘇の三部に各四印明を記し、瑜祇の傳法灌頂では理、智、冥合等の十印明を記してゐるが如きに依つて本書の內容一般を推定し得るであらう。本書には三種の異本がある。一は日本大藏經本。二は錄倉寶戒寺本。三は余の所藏本(上野國世良田長樂寺所傳を光明院二十六代齋存が慶長四年に顯慶阿闍梨から受けたもの)。日本大藏經本には口決祕傳の朱書が缺け、又嘉祿二年の受者を承辨と記し、延慶二年に義源が受けた次を元德二年に惠儼が受けたと記してあるが余の藏本には承辨を行忍と記し、義源の次に惠儼がなくて守明—息澄—什雄と次第に傳受し、次に息澄が花押を記した惣許可を揭げ次に祕錄相承を圖示し、什雄—源春—俊源—了惠—尋意と圓仁以下二十四代の相承を圖示し、次に元弘四年に世良田山眞言院了惠が上野州勸學寺俊源から慈覺大師の正脈を受けたことを記し、次に慶長四年に顯慶から齋存が祕錄を請取つたと記し、次に寶曆五年に山門金藏院香雲蟠谷が寫したとある。更に「異本云」として日本大藏經本の「惠儼記」以下「建武元年十一月二十三日沙門惠儼記之」までを記し、猶最後に相模國錄倉寶戒寺本の奥書「右一卷自レ元傳=持之=可レ謂=宿習深厚=哉、此抄山門日記家之骨目云云。仍自=成宗故沙門=傳授了。口傳等互畫=其底=了。爲=傳來弘誓=故染筆了。顯應二年五月廿三日。惠—示」と抄記してある。未だ寶戒寺本は拜讀の期を得ないが已上よつて本書には異本が三本あることが知られる。本書は卷末に「貞觀四年歲次壬午十二月朔乙卯十一日乙酉。阿闍梨圓仁記」とあるから、慈覺大師圓仁の記とすべきであらう。但し口決によれば前唐院、山王院の祕傳の他に葉上流、榮西口決、東密、什雄口決等が記されてゐるから、果して圓仁の記であるか否か未決。或は明雲、顯敞の頃(應保—齋永年間 A. D. 1162—1183)の撰かも知れない。台密灌頂を研究する者の參考すべき書であり、台密灌頂の祕印明を簡單に知る最も便利な密印傳授書である。本書は前唐院十三重灌頂と印信血脈が同一。本書寫本の異本奥書が天台霞標五之一(佛全一二六ノ一三)にある。霞標の同所に十三重灌頂の名稱も記されてゐるから併せ見るがよい。

❺明和九寫 ❻(叡山、眞如) (田島德晉)

都法祕錄 ❶(日)To-hō-hi-roku. 當流深祕記 ❷一卷 ❸存 ❹詮榮記 ❺天明六寫 ❻(明德院)

都法祕錄口決 ❶(日)To-hō-hi-roku-ku-ketsu. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(京大、日大未・三〇六)(西敎寺)

都法瑜祇私記 ❶(日)To-hō-yu-gi-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹智海 ❺正中二寫 ❻(高大、寄・一・三六)

徒師灌頂決疑鈔 ❶(日) To-shi-kwan-jō-ketsu-gi-shō. ❷四帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

兜沙經 ❶(日)To-sha-kyō. (支)Tou-sha-ching. ❷一卷 ❸存、大正一〇・四四五、Nj. 380、鎌天一〇、卍八・三、北944丈、南923丈、元923丈、明北933登、清938登、麗91伏、天944丈、指98伏、法91伏、至165可、明南93通、Nj. 102 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A. D. 147—186) ❻華嚴經の如來名號品の少分と、光明覺品の少分である。❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、花嚴宗經論章疏目錄

兜沙經 ❶(日)To-sha-kyō. (支)Tou-sha-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

兜率龕說集 ❶(日)To-sotsu-kan-kyō-sha-ku. (支)Tou-shuai-kuei-ching-chi. ❷三卷 ❸存、卍續二乙・二二・三 ❹清弘贊輯

❻本書は彌陀信仰と共に傳承された彌勒信仰特に兜率往生に關して諸經論傳記より檢出し乃至は見聞に依るものを蒐集したものである。即ち斯來佛としての彌勒出世を信じ、彌勒が補處の菩薩として兜率天內院を淨土とする彌勒の淨土へ往生すること所謂兜率往生を信ぜし人々の行業を記したものである。

廣州南海縣の寶象林弘贊和尙が、侍者遠目上座の上生の徵應を得たのを時人は驚嘆し淸士、曾通祖が弘贊和尙に彌陀の淨土たる西方極樂の往生に對比して彌勒の兜率往生に圖達ある名賢の行業を編纂して後世學人の指南に資せよとすゝめ本書の編述となつたものである。淸康熙十年四月(A. D. 1671)弘贊の法嗣たる寶象林開覺和尙が本書の緣起を叙し、左の如く卷上に應化垂迹、卷中に上生內院の人々、卷下に彌勒信仰に關する經呪願文を收めたものである。彌勒信仰と兜率往生に關しては明治四十四年二月の刊行に係る松本文三郎博士の彌勒淨土論に詳論されて居る。)

卷上(初集)應化垂迹 傳大士。契此和尙。婆羅門。二百億羅漢。末田地尊者。引正王。嗔嗔羅羅漢。淸辯論師。佛馱跋陀羅。德光論師。道法禪師。慧寶禪師。智顗法師。華手比丘。栴陀婆王。僧受法師。慧思禪師。森富婆。法穎禪師。道積法師。慧雲法師。負辯法師。馮楚法師。貧表律師。

卷中(中集)上生內院 金色孔雀。天女。童子。金鼎。野干。須達長者。舍利弗。迦葉。阿難。優波離。玄奘法師。僧伽法師。曇無讖法師。玄識尼。光影尼。慧瓊尼。淨秀尼。淮瑋法師。慧順法師。玄奘法師。道宣律師。寶基法師。法上法師。曇衍法師。道丕法師。寶曇法師。智曉禪師。智嚴禪師。惠倫法師。法誠禪師。大乘燈禪師。希圓法師。合譚法師。眞晦法師。恒超法師。箭州山神。鑑倫法師。從諫禪師。息塵比丘。居易侍郎。玄朗禪師。法興法師。智江法師。義本禪師。志德法師。成慈尼。雜問答。問羣求寂。鄭優婆夷

卷下(後集)經呪願文 法華經勸發品。大乘頂經。大乘本生心地觀經。分別功德論。願見彌勒佛呪。彌勒菩薩法身印呪。七佛所說神呪經。佛說陀羅尼集經。持地論。發菩提心論。讚彌勒佛四禮願文 (大久保堅璃)

兜率從悅禪師語要 ❶(日)To-sotsu-tsu-jō-dō-zen-shi-go-yō. (支)Tou-shuai-tsung-yueh-chʼan-shih-yu-yao. 從悅禪師語錄 ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿要第一 ❹宋兜率從悅(慶曆四—元祐六 A. D. 1044—1091)

❻實米の眞淨克文禪師の法嗣として兜率の三關を以て鳴る南岳下十三世眞寂大師從悅禪師の語要を輯めたものである。

從悅は江西贛州府の人、普圓院德嵩に出家し、澧州雲蓋山海會寺守智に參じ、洪州隆興府分寧(江西南昌府寧州)の兜率寺に住して眞淨克文に嗣ぎ大いに演法し、宋哲宗元祐六年十一月(A. D. 1091)壽四十八にして示寂された。室中三語を以て學人を勘驗したものである。三關とは

一曰、撥草瞻風祇圖見性即今上人性在甚麼處。

二曰、識得自性方脫生死眼光落地時作麼生脫。

三曰、脫得生死便知去處四大分離向甚麼去。 (大久保堅璃)

兜率上生錄 ❶(日)To-sotsu-jō-shō-roku. ❷二冊 ❸存 ❹元格逸山編 ❺寫本(高大、一・二二)

兜率淨土行因鈔 ❶(日) To-sotsu-jō-dō-gyō-in-shō. ❷一卷 ❸存、眞言宗安心全書第四、胆遍和尙全集第二 ❹上田胆遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907) ❺明治三六(A. D. 1903)

❻都率淨土外院生の觀行、上品生の六事法を敍說し、更に問答を設けて九品の行相、十善の功德、內院外院快樂の相、西方と都率とは理智二淨土にして不二なる所以等を論述されてゐる。

❼明治三六刊 ❽(正大、一四九・九) (高見寬應)

兜率天經 ❶(日)To-sotsu-ten-gyō. (支)Tou-shuai-tien-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考)武周錄第一二

兜率本圖禪師語錄 ❶(日)To-sotsu-hon-zen-zen-shi-go-roku. (支) Tou-shuai-pen-tuan-chʼan-shih-yu-lu. 三會語錄 ❸存 ❹清代本圓兜率 ❼(參考)禪籍目錄

兜率梵志經 ❶(日) To-sotsu-bon-shi-kyō. (支)Tou-shuai fan-chih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考)出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

兜調經 ❶(日) To-chō-kyō. (支) Tou-tiao-ching. (梵巴藏)分別善惡報應經參照 ❷一卷 ❸存、大正一・八八七 No. 79、鎌倉八、卍一四・二、北709若、南723若、元715若、明北607舊、清607舊、麗705止、天709若、指671止、法636皆、至945仕、明南598緣、Nj. 611 ❹失譯 ❺鶴鳴經の下を見よ。❼(參考) 出三藏記第三、開元錄第二、貞元錄第四

兜調婆羅門經 ❶(日)To-chō-ba-ra-mon-kyō. (支)Tou-tiao-pʼo-lo-mén-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 武周錄第一一

兜勒梵志經 ❶(日)To-roku-bon-shi-kyō. (支)Tou-le-fan-chih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

富木氏への御書 ❶(日)To-ki-shi-e-no-go-sho. ❷三十八篇 ❸存、口語譯 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1282)

❺日蓮が其の檀那富木胤綱(土木とも書す、入道して常忍、後弟子となり日常といふ)及び其の夫人に與へた書三十八篇を收む。「問註得意鈔」、「寺泊御書」、「眞言諸宗異目」等の重要篇が少なくない、內容は各項を參照。

富木殿御消息 ❶(日)To-ki-dono-go-shō-soku. ❷一紙 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1282) ❺文永六(A. D. 1269) ❻天台大師講の當番を檀那の富木(文には土木とす)胤綱に依頼した書。 (馬田行啓)

富木殿御返事 ❶(日)To-ki-dono-go-hen-ji. ❷八篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1282)

❻同名の書八篇あり、何れも檀那富木(土木、富城、とき等と書す、入道して常忍と言ひ、後に弟子となり日常と改む)胤綱に與へた書。

文永七年の書は白米の供養に對する禮狀文永八年の書は、龍口法難の直後佐渡流謫と定まつた時相州依智からの發信で、北條氏の迫害によつて「數々見擯出」の經文を色讀し、法華經の行者たる證據が顯はれたのであるから、寧ろ流罪は喜ぶべきで決して歎くべきではないと慰諭し、「人々御中」と添書がある。文永九年の書は、佐渡からの發信で、臨終の時を覺悟し、若し刑戮せられる如きことあらば大に悅べと諭し、法華經の行者であるに拘らず未だ諸天善神の擁護なきは、(一)善神が惡國を見捨てた故(二)法華經の法味を嘗めないため威力を失つた故(三)大惡魔の力が强くて諸天も力及ばざる故であると說き、迫害は寡知識であると法悅の境を述べてある。

文永十年の書は、流罪の赦されぬことを歎いてはならぬ。迫害は法華經流布の瑞相であると悅ぶべしと諭したもの。

文永十二年の書は、身延からの發信で、

頃九十歳になるまであるが、ちょうど鎌倉の頃に幕府に参詣したのに対する感慨が、はっきりとこの書は、法華経は法華経中王たる所以、一切の衆生が、法華経を信ずる功徳は実大である。

改めて信ずるならば、人の中の第一である。

全巻を貫き通じてある。

弘安二年の書は、記録術の最高を示唆したものである。

其の年号年代不明の書二通あるが、何れも刻文の前後である。

❹(中日法華経寺)　(高田行俊)

富木入道殿御返事　❶(日)To-ki-nyū-dō-dono-go-hen-ji.　❷一巻　❸存、日蓮聖人録者文之内　❹日蓮(真蓮)宛一弘安元年A. D. 1222—1282)　❺富木入(A. D. 1271)十一月

❹富木胤重(入道して妙蓮と号す)に与えられた書一巻。

今は正に富木法尼宛の書である。正嘉時代の知に書簡・天授・天台・華厳等の経典の中には、富木の妙法蓮華経の名を手本として、日本国に広めるべきことを願ふ。これ自ら法華経の名を選びて大乗仏教の中に、上行菩薩の出現と共に、菩薩の徒心を説かんとする。

(高田行俊)

富山法　❶(日)To-zan-jō.　❷一巻　❸存、弥勒菩薩浄土讃歌巻中(大正人三・二四四No. 2612)之内　❹鎌倉(建長二—一建暦二A. D. 1133—1212)　❺真言宗四平　❻(大正人)

二二三・五)(浄土宗聖人三五人)

土岐豊前守殿上奉　❶(日)To-ki-bu-zen-no-kami-dono-ni-tatematsuru-sho.　❸存　❹富木(日蓮人)宛

土巨方印可絡作法　❶(日)To-ko-gata-in-ka-ryaku-sa-hō.　❷一巻　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨方博捉雑教目録　❶(日)To-ko-gata-den-ju-shō-gyō-moku-roku.　❷二巻　❸存　❹藤原(一安貞二三A. D. 1830)記　❺富木(大正人)・二・一八・一二)

土巨方博捉目録　❶(日)To-ko-gata-den-ju-moku-roku.　❷一巻　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨方秘訣　❶(日)To-ko-gata-hi-ketsu.　❷二帖　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨抄　❶(日)To-ko-shō.　土公抄　❷一帖　❸存　❹医真(一弘安元A. D. 1261)口、鎌倉(建保三—建治二)A. D. 1215—1276記

❹真言宗の僧侶が、当時の流行の口伝にならって、四法五医真言口伝し、鎌倉に記したもの。❺天明元写(東番目録記)　写本(大正人「日大学・三五二)

土巨抄　❶(日)To-ko-shō.　❷一巻　❸存　❹鎌倉(建保三—建治二)A. D. 1215—1276)記　❺徳川中期写　❻(今園三番記)

土巨秘書位口訣　❶(日)To-ko-ryū-jū-i-ku-ketsu.　❷一冊　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨秘博捉目録　❶(日)To-ko-ryū-den-ju-moku-roku.　❷二二巻　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨方博捉雑教目録　❶(日)To-ko-gata-den-ju-shō-gyō-moku-roku.　❷二巻　❸存　❹藤原(一安貞二三A. D. 1830)記　❺富木(大正人「・二・一八・一二)

土巨方博捉目録　❶(日)To-ko-gata-den-ju-moku-roku.　❷一冊　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨方秘訣　❶(日)To-ko-gata-hi-ketsu.　❷二帖　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨抄　❶(日)To-ko-shō.　土公抄　❷一帖　❸存　❹医真(一弘安元A. D. 1261)口、鎌倉(建保三—建治二)A. D. 1215—1276記

❹真言宗の僧侶が、当時の流行の口伝にならって、四法五医真言口伝し、鎌倉に記したもの。❺天明元写(東番目録記)　写本(大正人「日大学・三五二)

土巨抄　❶(日)To-ko-shō.　❷一巻　❸存　❹鎌倉(建保三—建治二)A. D. 1215—1276)記　❺徳川中期写　❻(今園三番記)

土巨秘書位口訣　❶(日)To-ko-ryū-jū-i-ku-ketsu.　❷一冊　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土巨秘博捉目録　❶(日)To-ko-ryū-den-ju-moku-roku.　❷二二帖　❸存　❹徳川時代写　❺(東番記)

土岐豊前守殿上奉　❶(日)To-ki-bu-zen-no-kami-dono-ni-tatematsuru-sho.　❸存　❹富木(日蓮人)宛

土巨方印可絡作法　❶(日)To-ko-gata-in-ka-ryaku-sa-hō.　❷一冊

界智嚴經、佛塔界智嚴經 ❷一卷 ❸存、大正一二・二五〇 No.325、館宇三、卍六・五、北193愛、南201愛、明北52攝、清53攝、麗130翔、天193藏、指176翔、法136翔、至256良、明南191慈、No.56 ❹曾伽婆羅等譯 ❺至天監五—普通元(A.D.506—520)

度及度緣戒牒之研究 ❶(B)Do-kyū-dō-en-kai-chō-no-ken-kyū. ❷1卷 ❸存、佛教制度叢書第一 ❹鷲本良仙著 ❺大正一五刊 ❻(正)大、一〇八・一四五)(高大、一・二〇) ❼東京佛教制度叢書發行所

度迦多濱那經 ❶(B)Do-ka-ta-na-kyō. (支)To-chia-to-yen-na-ching. ❷1卷 ❸根本說一切有部尼奈耶雜事第二十卷第二十一卷の抄出。 ❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

度經 ❶(B)Do-kyō. (支)To-ching. (B) A. III. 61 Tittha ❺存、中阿含經第三(大正一・四三五 No.26,13)

度護經 ❶(B)Do-go-kyō. (支)Tu-hu-ching. 度法護經、度法經 ❷1卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

度諸佛境界智光嚴經 ❶(B)Do-sho-butsu-kyō-gai-chi-kō-gon-kyō. (支)To-chu-fo-ching-chieh-chih-kuang-yen-ching. (梵藏) 大方廣入如來智德不思議經參照、智光嚴經 ❷1卷 ❸存、大正一〇・九一二No.302、館天一一、卍七・二、北94伏、南85伏、麗95伏、天89伏、指74伏、法241首、至136來、明南83遐、No.85 ❹失譯 ❺圓都順多譯の佛頂最入如來總智不思議境界經(大正一〇)及び實叉難陀譯の大方廣入如來智德不思議經(同上)と同本。 ❼(參考) 法經錄第一、開元錄第四、貞元錄第六、華嚴宗經論章疏目錄

度生死海神船經 ❶(B)Do-shō-ji-kai-jin-sen-kyō. (支)To-shêng-ssū-hai-shên-ch'uan-ching. ❷1卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

度星經 ❶(B)Do-shō-kyō. (支)To-hsing-ching. 灌頂度星招魂鎮絕復連經、灌度星經 ❷1卷 ❼(參考) 開元錄第一八、奈良朝現在一切經疏目錄1734

度世經 ❶(B) Do-se-kyō. (支)To-shih-chi-ch'ing ❷1卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

度世經 ❶(B) Do-se-kyō. (支)To-shih-ching. 度世品經 ❷六卷 ❸存、大正一〇・六一七 No.292、館天一〇、卍八・三、北104迢、南105迢、光102迢、明北1102壺、指92光、法101光、麗104美、天104迢、清100壺、麗104美、至176王、明南101壺、No.104 ❹竺法護譯 ❺西晉元興元(A.D.291) ❻華嚴經の離世間品であるが、末後の菩薩と如來と問答の一段、大本に無し。 ❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第六、開元錄第二、貞元錄第三、第四

度世品經 ❶(B) Do-se-hon-kyō. (支)To-shih-p'in-ching. ❷六卷 ❸失譯 ❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、武周錄第一一、貞元錄第四

度僧復古談 ❶(B)Do-sō-fuk-kō-dan. ❷1冊 ❸存 ❹自輩述 ❺天保末(A.D.1843) ❻寫本(京大、一・二六ト・二)

度獲鬻答彌經 ❶(B) Do-sō-ka-ta-mi-kyō. (支) To-sou-ch'i-ta-mi-ching. ❷1卷 ❸根本說一切有部毘奈耶雜事第三十卷の抄出。 ❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

度脫狗子經 ❶(B) To-datsu-ku-shi-kyō. (支) To-t'o-kou-tzū-ching. ❷1卷 ❸失譯 ❼(參考) 法經錄第三、仁壽錄第四、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二八

度世不死經 ❶(B) Do-se-fu-shi-kyō. (支) To-shih-pu-ssū-ching. ❷1卷 ❸疑僞經 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

度世品經 ❶(B) Do-se-hon-kyō. (支)To-shih-p'in-ching. 度世經 ❷六卷 ❸存、大正一〇・六一七 No.292、館天一〇、卍八・三、北104迢、南105迢、光102迢、明北1100壺、清100壺、麗104美、天104迢、指92光、法101光、至176王、明南101壺、No.104 ❹竺法護譯 ❺西晉元興元(A.D.291) ❻華嚴經の離世間品であるが、末後の菩薩と如來と問答の一段、大本に無し。 ❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第六、開元錄第二、貞元錄第三、第四

度世品經 ❶(B) Do-se-hon-kyō. (支)To-shih-p'in-ching. ❷六卷 ❸失譯 ❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、武周錄第一一、貞元錄第四

度僧復古談 ❶(B)Do-sō-fuk-kō-dan. ❷1冊 ❸存 ❹自輩述 ❺天保末(A.D.1843) ❻寫本(京大、一・二六ト・二)

度獲鬻答彌經 ❶(B) Do-sō-ka-ta-mi-kyō. (支) To-son-ch'i-ta-mi-ching. ❷1卷 ❸根本說一切有部毘奈耶雜事第三十卷の抄出。 ❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

度人王並庶民受五戒正信除邪經 ❶(B) Do-nin-ō-hei-sho-min-ju-go-kai-shō-shin-jō-ja-kyō. (支) To-jên-wang-ping-shu-min-shou-wu-chieh-chêng-hsin-ch'u-hsieh-ching. ❷1卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、貞元錄第二八

度人儀 ❶(B) Do-nin-gi. ❷1卷 ❸存 ❹竺如撰 ❺〈京專〉

度人作法 ❶(B)Do-nin-sa-hō. ❷1卷 ❸存、慈雲寂者全集第六 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A.D.1718—1804)說、說證筆受 ❺寫延二(A.D.1749)七月七日

❻この作法は河內高井田等西方精舍に於て華受せる形同沙彌受法の式である。詳論を引證して出家の功德を說き、三歸三寬五戒を授くる得度作法に編述せられてゐる。 ❼寬政一二寫 ❽〈京都神光院〉(高見寬應)

度人要軌 ❶(B) Do-jin-yō-ki. ❷1帖 ❸存 ❹淨嚴(寬永一六—元祿一五 A.D.1639—1702)撰 ❺出家得度の法則を詳記せるものなり。

度貧母經 ❶(B) Do-hin-mo-kyō. (支) To-p'in-mu-ching. 摩訶迦葉度貧母經、摩訶迦葉度貧女經、迦葉度貧母經 ❷1卷 ❸存、大正一四・七六一 No.497、館宿八、卍一五・一、北949莫、南862莫、光256莫、明北719來、清719來、麗816無、天949莫、指256無、法256花、至1584上、明南723來、No.723 ❹求那跋陀羅譯、太元一九—泰始四(A.D.394—468)譯 ❺劉宋元嘉一二—同二〇(A.D.435—443) ❻摩訶迦葉度貧母經の下を見よ。

度法護經 ❶(B) To-hō-go-kyō. (支)To-fa-hu-ching. ❷1卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五

度梵志經 ❶(B) Do-bon-shi-kyō. (支)To-fan-chih-ching. ❷1卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

度無極響經 ❶(B)Do-mu-goku-hi-kyō. (支)To-wu-chi-ti-ching. ❷3卷(四卷) ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二、武周錄第一一

度量天地經 ❶(B)To-ryō-ten-chi-kyō. (支)To-liang-T'ien-ti-ching. ❷1卷 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四

どうして悟るか ❶(B)Do-u-shite-satori-ru-ka. ❷1卷 ❸存 ❹池上文德、今枝法雲共著 ❺大正八刊 ❻東京日本禪書刊行會

刀梯歌 ❶(B)Tō-tei-ka. (支)Tao-ti-ko. ❷1卷 ❼(參考) 傳教大師將來越州錄

冬谿外集 ❶(B) Tō-kei-ge-shū. (支)Tung-ch'i-wai-chi. ❷2卷 ❸存 ❹明方澤撰

冬谿內集 ❶(B) Tō-kei-nai-shū. (支)Tung-ch'i-nei-chi. ❷2卷 ❸存 ❹明方澤撰 ❺寫本(京大、藏・二四ト・七)

多武峯緣起 ❶(B)Tō-no-mine-engi. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、新校群書類從第一九 ❹一條良公(應永九—文明一三 A.D.1402—1481) ❻本書は大和多武峯の創立由來を記したものである。最初に大織冠藤原鎌足の傳を揭げ、次いで定慧和尙が淡海公不比等に請つて鎌足の遺骨を橘津岡島下郡阿威山から多武峯に移轉された本情を明し、更に後年の多武峯寺(妙樂寺)の草創に同和尙による事を記し、大織冠の神像破裂の事にも及んでゐる。尙此外不比等が大和興福寺を創建したこと、或は同寺維摩會の起源などを述べ、貴性僧都及び刑賞上人等の傳をも併載してゐる。 (不破幹雄)

多武峯破裂記 ❶(B) Tō-no-mine-ha-retsu-ki. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二 ❹吉藝 ❺慶長一三(A.D.1608)十一月 ❻本書は慶長十二年(A.D.1607)閏四月二日に大和多武峯の御陵山鳴動し大織冠の神像が破裂した時の記錄である。由來此の神像破裂のことは宣賀の『大織冠神像破裂記附錄』に列擧してゐる如く醍醐帝の昌泰年間から慶長年間に至る五十餘度に及び、其の都度朝廷から告文使の差遣が有つて平癒してゐるのである。

今回の破裂も矢張り此の例に漏れざる處で、本書は即ち多武峯から朝廷(の注進)、朝廷から告文使を登山せしめられて平癒に歸する迄の經緯を詳記したもので此間の事情を知るに便なものである。奧書に「雖然往古之記錄具不載事依之在之。只今爲後世之評定。此由々委書載記錄畢。全爲後代記之者也」とあるに依つて撰者の意が窺はれる。慶長十三年十一月の撰で萬藏院權少僧都昌藝以下六師の名を列ねてゐる。 (不破幹雄)

多武峯略記 ❶(B) Tō-no-mine-ryaku-ki. ❷2卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、新校群書類從第一九 ❹佛厲 ❺建久八(A.D.1197) ❻本書は大和多武峯に關する諸舊記及び古老の所傳などを積々の項目の下に撰錄したものである。上下二卷に分ち、上卷には第一寺名、第二國郡付山名、第三地形付路、第四四至、第五草創、第六行幸、第七住持、第八本寺、第九炎上、第十地主、第十一住侶、第十二有職、第十三佛事などの諸項を擧げ、下卷には第一塔婆付佛像、第二堂舍付佛像、第三聖廟付廻廊、第四惣社付拜殿、第五別院、第六末寺、第七田園、第八僞丁、第九僧異等を收めてゐて當山の寺誌として簡要のものである。建久八年(A.D.1197)閏六月十二日に多武峯南院に於て撥按靜厲の撰錄する所である。 (不破幹雄)

投子義青禪師語錄 ❶(B)Tō-shi-gi-sei-zen-ji-go-roku. (支) T'ou-tzu-i-ch'ing-ch'an-shih-yu-lu. 投子青和尙錄、妙機大師語錄、舒州投子青禪師語錄 ❷2卷 ❸存、卍續二・二九・三 ❹宋代自覺重編 ❺投子青和尙語錄、又は舒州投子青禪師語錄とも名づけられる。上下二卷中、上卷には白雲山海會禪院の語錄と、投子山勝因禪院語錄と、投子が同霖の十問や、圓鑑の五問に答へしものや、其ほか偈頌眞贊が收められる。中に就て五位偏正說と、綱宗と、四賓主の如きは、支那青洞獨特の禪風を知る好資料である。下卷は頌古一百則と、行狀と、跋より成れるが、頌古一百則は、古人の公案を頌したものであるから、恰も從容錄の天童正覺の如き投目を爲すものと云ふてよい。 ❻享保一〇刊 ❼〈谷大、餘大・二八 九七〉(駒大) (岡田宣法)

投子義青禪師語錄 ❶(B)Tō-shi-

zyō-zei-zen-ji-zyō-roku. (支) T'ou-tzu-i-chi'ing-tzu-chi'an-shih-yu-lu. 舒州投子山妙擬大師語錄、投子妙擬大師語錄 ❷一卷 ❸存、卍續二・二九・三 ❹道楷編 ❺本書は詳しくは舒州投子山妙擬大師語錄と名づけられ、自疊示重編せる語錄二卷本と姉妹の關係にあるものであるが、僅かに數紙に過ぎざるものである。（岡田宜法）

投子頌古稱提 ❶(日)Tō-shi-ju ko-shō-tei. ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六A.D.1683—1769) ❼(參考) 禪籍目錄

投子青和尚錄 ❶(日)Tō-shi-sei-o-ōshō-roku. (支)T'ou-tzu-ch'ing-ho-shang-lu. 投子義青禪師語錄、妙擬大師語錄 ❷二卷 ❸存、卍續二・二九・三 ❹宋代自疊編 ❾刊本(京大、藏・一七ト・二)

投子大同禪師語錄 ❶(日)Tō-shi-dai-dō-zen-ji-go-roku. (支)T'ou-tzu-ta-t'ung-ch'an-shih-yu-lu. 慈濟禪師語錄 ❸存、卍續二・二三・四古尊宿語要之內 ❹底投子大同(元和一三—乾化四A.D.818—914)語 ❺慈濟禪師語錄の下を見よ。

投子抱璧編 ❶(日) Tō-shi-hō-hen. 投子錄事略 ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

投子妙擬大師語錄 ❶(日)Tō-shi-myō-zokū-dai-shi-go-roku. (支) T'ou-tzu-miao-nai-ta-shih-yu-lu. 投子義青禪師語錄、舒州投子山妙擬大師語錄 ❷一卷 ❸存、卍續二・二九・三 ❹道楷編 ❾刊本(谷大、餘大・三三三九)

投身飼餓虎經 ❶(日)Tō-shin-shi-gaku-kyō. (支)T'ou-shen-i-e-hu-ching. 飼餓虎經、菩薩投身飼餓虎起塔因緣經、菩薩投身餓虎起塔因緣經、菩薩飼虎起塔因緣經 ❷一卷 ❸存、大正三・四二四No.172、縮黃一〇、卍一二・一二、北305行、南319行、元312行、明北432悲、清432悲、麗319餘、天314行、指472餘、法497餘、至456柔、明南312貫、No.456 ❹北涼法盛譯 ❺菩薩投身飼餓虎起塔因緣經の下を見よ。

投贈和答等諸詩小序 ❶(日)Tō-zō-wa-tō-tō-shō-shi-shō-jo. ❷一卷 ❸存、五山文學全集第三 ❹鉗之惠風(蕉吉年代A.D.1441—1442在世、享壽百餘歲、生歿年時不明)

❺著者には本書の外に竹居清事、竹居清藻集等二種の詩文集ありて文藻の甚だ豐富なるを見ることが出來る。本書は長短の雜篇八十篇を收めたもので、著者自ら書して學徒に附與し、詩文贈答に際し、序文の文例とせしめたものである。種類極めて多樣にして上奏文案を始めとし、和韻、答禮、弔問、慶賀、哀傷、述懷、歎德、送別、追懷、慶讚、自序、觀賞などを網羅してゐる。（高瀨承厳）

投摘草 ❶(日) Tō-teki-sō. ❸存 ❹宗少古外 ❼(參考) 禪籍目錄

東亞佛教大會記要 ❶(日) Tō-a-bukkyō-tai-kwai-ki-yō. ❷一卷 ❸存 ❹峰玄光編 ❺大正一五刊 ❾東京佛教聯合會

東矣吟 ❶(日)Tō-i-gin. ❷一卷 ❸存 ❹性易獨立(慶長元—寛文一二A.D.1596—1672) ❼(參考) 禪籍目錄

東域傳燈目錄 ❶(日) Tō-iki-den-tō-mokū-roku. 東域傳燈錄 ❷一卷或二卷 ❸存、大正五五・一一四五No.2185、大日本佛教全書第一佛教書籍目錄第一 ❹永超(長和三A.D.1014—)集 ❺寛治八(A.D.1094)

❻本錄は第一弘經錄、第二傳律錄、第三講論錄、第四雜述錄、第五傳記錄の五部門に分類さる。第一弘經錄は華嚴部、般若部、法華部、衆經部の四分より成り、華嚴部は華嚴論六百卷を始として十住經疏に至る九十四部の章疏を揭げ、般若部には放光經記一卷以下般若心經綱鍵一卷に至る百十六部を、法華部は正法華記並後記名一卷以下一乘諸經疏十五卷に至る百二十六部、衆經部は寶積經音義三卷以下略集諸經律論等中觀梵語書一卷に至る三百六十七部を揭ぐ。

第二傳律部は梵網經義記二卷より祇園國記に至る九十三部。

第三講論錄は十地論疏七卷より順正理論述文記二十四卷に至る大小論疏四百三十七部。

第四雜述部大乘義章三卷より一乘要決三卷に至る二百六十七卷。

第五傳記錄は西域諸賢著述一卷より卷尾に至る五十四部を揭出す、本書は聖典名の本に隨所に著者或は同本異名、異本同名等の考證を要するものには是を施し、且つ懇切なる註記を爲す。是れ他の諸目錄と趣を異にせる點であり、本書の成立は我國此の種目錄中最も古きに屬するものの一である。本錄の成立後數十年を經たる鎌倉期に於ても聖教を廣く見る事は容易ならざりし事態なりしに鑑み本書完成には苦心の伴ないたるを想像し得べく、また當代以後の研究者の好伴侶たりしこと亦論を俟たず、本錄は編者八十一歲に弘法の志を以て自ら校正し了り青蓮院に献じたものである、現流本は享保十年鷲宿光雲校合して校記を記入し、行誠更に校記を入る、第五傳記錄の部には多少の錯綜有るもの丶如し。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、淨土眞宗教典志第三 ❾享保一九寫(正大、一〇〇・二〇)明和二寫(谷大、餘大・四〇八九)寫本(谷大、餘大・一三四二)(正大、一〇〇・一九)（龍大二〇一二・一二）（林信雲）

東域念佛利益傳 ❶(日)Tō-iki-nen-butsu-ri-yaku-den. ❷二卷 ❸存 ❹寶洲(—享保頃A.D.1716—1735—) ❾元文三刊(正大、一〇三六・五一)(龍大、二九六五・一四五)安永七刊(正大、一〇三六・五二)

東胤錄 ❶(日)Tō-in-roku. ❸存 ❹義諦聖儁 ❼(參考)禪籍目錄

東叡開山慈眼大師傳記 ❶(日) Tō-ei-kai-san-ji-zen-dai-shi-den-ki. 慈眼大師傳記、東源記 ❷一卷 ❸存、慈眼大師全集卷上、中古叢書第一〇八 ❹東源記 ❺慶安三(A.D.1650) ❻慈眼大師傳記の下を見よ。

東叡山緣起 ❶(日) Tō-ei-zan-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東叡山開山慈眼大師緣起 ❶(日)Tō-ei-zan-kai-san-ji-zi-en-dai-shi-en-gi. 慈眼大師緣起 ❷三卷 ❸存、國文東方佛教叢書第五、慈眼大師全集卷上 ❹鳳海 ❺延寶七(A.D.1679)

❻本書は東叡山開山慈眼大師天海大僧正の和文體の傳記で、延寶七年(A.D.1679)實成院鳳海の著はす所である。延寶七年は時寇も大師の三十七回忌に當り、鳳海の父宗伯は嘗て家康に大師を謁見せしむるに幹旋した人であり、加之該文に依れば鳳海は幼時大師に隨侍したとあるから彼が本書を述作するに至つた由緣がよく窺はれる譯である。

大師の傳記は既にこれ迄に二つある。一は慶安三年(A.D.1650)に花園妙心寺の東源の手に成るもので『東叡開山慈眼大師傳記一卷』、今一つは慶安二年に東叡山現龍院謙泰作の草稿本を萬治二年(A.D.1660)に再治したもので『武州東叡開山慈眼大師傳一卷』である。此の二書は共に漢文體のもので大師の傳記としてはその體裁、內容に於て共に本書を凌ぐものである。本書述作に關する著者の意は前二書の如き所謂大師の傳を詳かにするに在つたのではなかつた樣で、此點「委は眞宗の傳記に侍れば、大概を記し、よはもらしつ」の著者の言ふ物語つてゐる。即ち本書は一には從來存した傳記示漢文體のもので一般庶民をして之を讀ましむるに不便であつた爲め、假名文を以て書きその各節の終りには插畫(住吉具慶筆)を挿入するなど專ら大師の威德の普及を目的としたものゝ樣である。更に又著者及び其父宗伯が大師の行跡に明るかつた爲め大師傳中餘り世に知られて居ない點を補ふの意の存した事と察せられる。要するに大師傳に於て前二書を以て經となす時、本書はその緯たるべきものであらう。

❾延寶八刊、寛政元重刻（正大、一三一・二二）（不破幹雄）

東叡山寛永寺圓頓院年中行事 ❶(日) Tō-ei-zan-kwan-ei-ji-en-ton-in-nen-chū-gyō-ji. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・三五九六)

東叡山寛永寺元三大師緣起 ❶(日) Tō-ei-zan-kwan-ei-ji-gwan-zan-dai-shi-en-gi. ❷三卷 ❸存 ❹鳳海(—延寶頃A.D.1673—1680—) ❾延寶八刊、寛政元重刻(正大、一三一・二二)

東叡山寛永寺山內細圖 ❶(日) To-ei-zan-kwan-ei-ji-san-nai-zu. ❷一枚 ❸存 ❾寫本(帝國、ゐ・一〇七)

東叡山寛永寺子院記 ❶(日)Tō-ei-zan-kwan-ei-ji-shi-in-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ❻東叡山寛永寺の子院三十六箇寺の略記を輯錄せるもの。

東叡山寛永寺子院歷代主僧記 ❶(日)Tō-ei-zan-kwan-ei-ji-shi-in-reki-dai-shu-sō-ki. ❷二卷 ❸存 ❾寫本(帝國、ニ三一・一〇六)

東叡山御建立旨趣並輪王寺御門室由來 ❶(日) Tō-ei-zan-go-kon-ryū-shi-shu-narabini-rinō-ō-ji-go-mon-shitsu-yu-rai. ❷一卷 ❸存、近世佛教集說之內 ❹孝泉述 ❾刊本(谷大、餘洋・四二四)、龍大、二〇三・一一)

東叡山御本坊圖[1] ❶(日)Tō-ei-zan-go-hon-bō-zu. ❷一枚 ❸存 ❾寫本(帝國、一九二・六五)

東叡山子院現住法脈記 ❶(日) Tō-ei-zan-shi-in-gen-jū-hō-myaku-ki. ❷三卷 ❸存 ❾寫本(京大、藏・二四ト・四)

東叡山志料 ❶(日) Tō-ei-zan-shi-ryō. ❷四卷 ❸存 ❾寫本(帝國、二二八・七五)

東叡山詩集 ❶(日) Tō-ei-zan-shi-shū. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一〇五・一〇〇)

東叡山諸堂建立記 ❶(日)Tō-ei-zan-sho-dō-kon-ryū-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四

❻本記は東叡山寛永寺の諸堂創建の由來を記したものである。最初に當寺の緣起を記し、次いで諸社寺の創建由來を詳にし、最後に當山內に存する德川氏の御靈屋を列ねてゐる。本記の撰者は未詳であるが本文中にある「右宣存禮僧正記」の文字が注意を惹く。宣存は圓珠院の傳法院宣存で『東叡山緣起』の作者である。而して本記の初めの緣起は即ち宣存作のものと同一であり、加之諸社寺の創建由來の終りに前記の文字が見えてゐるのであるから之等を併せ考ふるに時、既に元祿年間に宣存に依つて撰述された緣起に後年(延享年間?)他の人が追加して本記と爲したものであると思ふが如何か。（不破幹雄）

東叡山中堂山王事 ❶(日) Tō-ei-zan-chū-dō-san-ō-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❾龍大、二九七四・五六)

東叡山日記 ❶(日) Tō-ei-zan-nik-ki. ❸存、慈眼大師全集卷下

❻本記は元龜から延寶年間に至る輪王寺及び寛永寺に關する資料を輯錄したものである。天保年間、東叡山開山堂別當眞如院義敬大僧正の撰で編年體に寫輯されてゐるから日記と名づけたものであらう。義敬には本記の外に『慈眼大師御年譜並附錄八卷』がある。天保十三年(A.D.1842)は時寇も慈眼大師天海の二百回忌に相當するを以て本記の成る由緣が窺はれる。（不破幹雄）

東叡山年中行事記 ❶(日) Tō-ei-zan-nen-chū-gyō-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一〇八・一七二)

東叡山之記 ❶(日) Tō-ei-zan-no-ki. ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四

❻東叡山寛永寺の雜錄。即ち當寺の緣起及諸堂創建の略記、御靈屋、歷代執當譜、紅葉山御別當譜等を收載してゐる。（不破幹雄）

東叡山佛閣神社宗廟記 ❶(日) Tō-ei-zan-butsu-kaku-jin-ja-so-byō-ki. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(叡山、滋賀)

東叡山御堂建立並供養記 ❶(日)Tō-ei-zan-mi-dō-kon-ryū-narabini-kū-yō-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東叡山律院草創返翰 ❶(日)Tō-ei-zan-ritsu-in-sō-sō-hen-kan. ❷一巻 ❸存 ❹寫本(龍大、研史)

東叡山令條 ❶(日) Tō-ei-zan-rei-dai-kon-jō-ryō-raku. (支)Tung-yüan-hui-ts'ai-lü'an-shih-yü-lu. 晦會禪師語錄 ❷一巻 ❸存 ❹寫本(帝國、二四一・四四)

東苑晦臺禪師語錄 ❶(日)Tō-en-kai-dai-zen-ji-gyo-roku. (支)Tung-yüan-hui-t'ai-ch'an-shih-yü-lu. 晦會禪師語錄 ❸存 ❹明晦臺元鏡(一泰昌元A. D. 1620—)撰、道盛編 ❹(駒大)

東苑壽英 ❶(日) Tō-en-ju-ei. ❷一巻 ❸存 ❹道機鐵牛 ❷(参考) 禪籍目錄

東夏三寶感通錄 ❶(日) Tō-kasam-bō-kan-tsū-roku. (支)Tung-hsia-san-pao-kan-t'ung-lu. 集神州三寶感通錄、集神州寺塔三寶感通錄、三寶感通錄、感通錄 ❷三巻 ❸存、大正五三・四〇四No. 2106、鎌露七、卍二九・二、北1671星、南1087星、元1053星、明北1477宮、清1529微、魔1076右、天1071星、指1030右、法1038右、明南1468兵、N. 1434 ❹道宣(開皇一六—乾封二A. D. 596—667)撰 ❺唐神州三寶感通錄の下を見よ。 ❷(参考) 智證大師請來目錄、奈良朝現在一切經疏目錄2623

東海一影 ❶(日)Tō-kai-ichi-e. ❷五巻 ❸存 ❹演空 ❺寶暦六刊 ❻(正大、一〇三七・一六)、哲、ら、五・右・ち、六)

東海一滴集 ❶(日) Tō-kai-ichi-teki-shū. 中興和尚東海一滴集、中興集 ❷五巻 ❸存、五山文學全集第二 ❹中巌圓月(正安二—應安八A. D. 1300—1375)撰

❺中巌は號で、諱は圓月、又中正叟と號し、相模鎌倉に生れ、八歳にして臨濟寺に入り、次いで醍醐三寶院に顯密を學び、後ち鎌倉圓覺寺の東明、京師萬壽寺の絕學に禪要を叩き、正中元年秋(A. D. 1324)海を越へて元に遊び、天目百丈山に諸老を尋ねて禪旨を參究し、居ること七年、元弘二年(A. D. 1331)歸朝するや、上下の歸仰篤く、上野吉祥、下總龍澤、相模萬壽、建長、豐前萬壽、京都萬壽、建仁、近江龍興の諸寺に住し、化導に努む。應安八年正月病に罹り、病革まるに及び侍僧末期の句を求む。中巌偈ち筆を執して「吾平生に過少からず、今尚何をか云はん」と、七十六歳を以て寂す。後ち數月を經て北朝は謚を賜ふに佛種慧濟禪師を以てせらる。彼は常に好んで楊子法言を讀み、又曾て日本記を著はしたが、朝議して行はしめず。彼の性格は聰明敏慧で、不羈の才を有したやうである。即ち「吾才應無用、世情嫌不羈」、又は「丈夫期遠大、莫甘他殺歪」と述べ、或は「一片春雲雲、萬々天成文、數竿風前竹、蕭々自然曲、曲兮不入俚耳、文也不爲時俗寡」と詠ぜる如きは自己の性格を叙してあまりなきものであり、又彼は博識德才、文を善くす。元僧宗鼎は詩を以て「讀書汗牛充棟書、道情純鈞世情鋒」と讃し、師錄は本朝高僧傳に「錯綜三藏、敎其論詮、闡遠五車、嗜厭肥潤、振毫萬言立就、胸中寂然而金出、本朝編林有文章以還、無代而者、可謂光前肥後也」と述べてゐる。又彼は經綸の志を有し、濟世利民の道を講じ、政治思想を披瀝したるは、當時の僧侶中、稀に見るところである。著述少からず、『自歷譜』によると瑣細集、日本書、龍室集注釋を擧げ、『日本禪林撰述書目』には中巌語錄、中正子、東海一滴集、自歷譜、藤陰瑣語、文明軒雜談を數へてゐる。

東海一滴集は彼の外集で、彼の詩思才藻の紙葉に上せしもの、概ね巳の中に收めらる。この書は寶曆十二年(A. D. 1762)、彼の死後四百餘歲にして薩州明石大藏院の僧大解宗說上梓を圖り、桂州道倫校訂に從事し、中正子、自歷譜各一卷を合册して世に流布せしむ。本集收むるところ詩は古詩四十三首、五言律詩十四首、七言律詩四十四首、五言絕句一首、六言絕句四首、七言絕句一百〇九首、文は贊八篇(以上第一卷)、疏四十七篇、說四十七篇、上梁文二篇、銘六篇(以上第二卷)、表二篇、書八篇、記四篇、論二篇、雜文五篇、祭文二十篇(以上第三卷)であり、中正子は外篇六篇、內篇四篇に分れ、專ら彼の內外に亙る意見を述べたもの建武の初めに成り、後ち十年康永三年(A. D. 1344)修訂を加ふ(以上第四卷)、自歷譜は著者の自叙傳で六十八歳を以て終つてゐたのを應永三十年(A. D. 1423)、受敎の徒建輪が補筆したものである。

❷(参考) 日本禪林撰述書目、扶桑禪林書目 ❺寶暦二二刊

東海一滴集別集 ❶(日) Tō-kai-ichi-teki-shū-betsu-shū. 東海一滴集附東獄承旋禪師傳 ❶(日)Tō-kai-ichi-teki-shū-zen-ji-gyō-roku-tankotari-ki-gaku-shō-shun-zen-ji-den. ❷一巻 ❸存 ❹東獄承旋語、小畠文鼎編 ❷(参考) 禪籍目錄

東巖安禪師行實 ❶(日) Tō-gan-an-zen-ji-gyō-jitsu. ❷一巻 ❸存、續群書類從第九

❺東巖惠安禪師の行跡を實錄せるもの、初に其の資性を叙べ大智度論百卷を讀み、內心の名利を斷破せざれば、風狂の人となすと云ひ、京の泉涌寺に詣りて具足戒を受けたることを記し、次に悟空敬念禪師との問話、及び平生の話頭を記し、最後に遺戒、悟空、无庵諸禪師の示寂の場所と歲月を載せてゐる。 (後藤大用)

東巖和尚行實 ❶(日) Tō-gan-o-shō-gyō-jitsu. ❷一巻 ❸存 ❹寫本(帝國、二三五・三四四)

東記 ❶(日) Tō-ki. ❹空海(寶龜五—永和二A. D. 774—835)

❺本朝台祖撰述書部書目に曰く「弘法。私云。靈雲寺藏古本東記批。(正決ニモ弘法トノ)」云々。

東記作者記 ❶(日)Tō-ki-saku-sha-ki. ❷一册 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・五一)

東暉錄 ❶(日)Tō-ki-roku. 東輝和尚錄 ❹東暉永昊語 ❷(参考) 日本禪林撰述書目

東輝和尚法語 ❶(日) Tō-ki-o-shō-hō-go. ❷一巻 ❸存 ❹永昊語 ❷(参考) 禪籍目錄

東輝和尚錄 ❶(日) Tō-ki-o-shō-roku. 東暉錄 ❷一巻 ❸存 ❹永昊語 ❷(参考) 禪籍目錄

東歸集 ❶(日) Tō-ki-shū. 佛乘禪師東歸集 ❷一巻 ❸存、五山文學全集第一 ❹天岸惠廣(文永一〇—建武二A. D. 1273—1335) ❺正中元—建武二(A. D. 1324—1335)

❺著者天岸はその號で、諱は慧廣、佛乘禪師と謚さる、十三歳にして鎌倉建長寺佛光國師に投じ、諸剎に禪要を敲き造詣甚だ深きものあり。天目中峰の遺風を慕ひ、元應二年(A. D. 1320)同志とともに支那に赴く、會々船中にて中峰遷化の報を聞き「萬卷壓舟何所載、都盧一個大癡圓、中峰昨夜剎竿倒、打破疑團無應看」の偈を賦して哀悼の意を表するや、同船の物外等これに唱和したるもの數十篇、編して亘海一滴と云ふ。在元五年、諸山を歷訪して禪旨を參究し、正中元年(A. D. 1324)歸朝して化を天下に布くや、上下の歸仰篤きものあり。墓命により鎌倉浮妙寺に住す。本書は主として著者歸朝後の作品を集むるところなるを以て東歸集と名づく、收むるところ「物外藥口說、歸陸方休事秋註」、絲絲門逕長菊苦」、獄繁所却軒前竹、放取一天明月來」等の偈頌一百八十五首、「觀音、一葉蓮舟、上載下載、要、度未度、爲誰救墜、好箇正法明如來、全身何事入苦海」等の讚四首及び開堤和尚五七忌拈香、普濟寺安土塔、明絲和尚

東海和尚行實 ❶(日)Tō-kai-o-shō-gyō-jitsu. 諸具東海和尚行實 ❷一巻 ❸存、續群書類從第九

東海瑣藻集 ❶(日) Tō-kai-sa-sō-shū. ❷三巻 ❸存 ❹恠官得最、延文五—永享六以後A. D. 1360—1434—)撰 ❷(参考) 扶桑禪林書目、日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東海寺澤菴和上法語 ❶(日)Tō-kai-ji-taku-an-o-shō-hō-go. 天地陰陽人身和解 ❷一巻 ❸存 ❹寫本(龍大、二六七四・五三)

東海寺文書 ❶(日) Tō-kai-ji-mon-jo. ❸存 ❷(参考) 禪籍目錄

東海若解 ❶(日) Tō-kai-jaku-ge. (支)Tung-hai-yao-chieh. ❷一巻 ❸存、卍續二・一四・三 ❹唐代柳子厚述、清代實賢解

❺東海若とは海神の名で宏法大士に喩へたものである。是の東海若が自己の主宰する海(淨土海)を離れて陸遊(愛欲の岸に到つて三界の險道に遊ぶ)二氣(遊敎執理の人と順敎修行の人)を得て其の禍害得益に就て譬喩を以て法門の深義を說き信根を長養せしめ智慧の光明を得せしめて成佛道に入らしめんとしたものである。

東海若の著者は唐の傳者柳子厚、解所者は清の僧實賢である。

❹刊本(京大、藏・一七ノ・一五) (大久保堅璋)

東海周洋和尚語錄 ❶(日)Tō-kai-shū-yō-o-shō-go-roku. ❸存 ❹周洋東海、後嗣二一—永正一二(A. D. 1454—1515)

❼(参考) 禪籍目錄

東海鐵塔諸祖年譜略頌 ❶(日) Tō-kai-tet-tō-sho-so-nen-pu-ryaku-ju. ❷一巻 ❸存 ❹梶田雷斧(弘化三—昭和九A. D. 1846—1934)著 ❺明治二七刊 ❻東京森江書店

東海道之記 ❶(日) Tō-kai-dō-no-ki. ❷一巻 ❸存、禪門法語全集第一、澤庵廣錄之內 ❹宗彭澤庵(天正元—正保二A. D. 1573—1645) ❺寬永一四(A. D. 1637)

❺品川東海寺澤庵、台命により出廬し東海寺に住す、偶ま寬永十四年京都大德寺開山大燈國師三百年遠諱に當りしを以て香拜の爲め歸京の暇を請ふて十一月七日江戸を出發し、東海道の風物に接する毎に或は述懷を或は風景を、或は傳說を詩に賦し歌に詠じつゝ同月二十日京都紫野大德寺の舊居に入りし旅行記である。時に和尚六十四歳、鎌倉遊覽記と共に流麗の筆致讀む者をして自ら詩境に遊ばしむるものあり。(林岱雲)

東海夜話 ❶(日) Tō-kai-ya-wa. ❷二巻 ❸存、有朋堂文庫第二解第十九本 ❹宗彭澤庵(天正元—正保二A. D. 1573—1645)

❺萬松山東海寺の開祖宗彭澤庵禪師の法語錄。澤庵がその弟子雲侍者(烏有)の爲に說きしを管城子の錄する所である。

東鶴寺事蹟 ❶(日) Tō-kaku-ji-ji-seki. (支)Tung-hao-ssu-shih-chi. ❷一巻 ❸存 ❹(参考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

東嶽承旋禪師語錄附東嶽承旋禪師傳 ❶(日) Tō-gaku-shō-sen-zen-ji-gyō-roku-tankotari-ki-gaku-shō-shun-zen-ji-den. ❷一巻 ❸存 ❹東嶽承旋語、小畠文鼎編 ❷(参考) 禪籍目錄

東巖安禪師行實 ❶(日) Tō-gan-an-zen-ji-gyō-jitsu. ❷一巻 ❸存、續群書類從第九

❺東巖惠安禪師の行跡を實錄せるもの、初に其の資性を叙べ大智度論百卷を讀み、內心の名利を斷破せざれば、風狂の人となすと云ひ、京の泉涌寺に詣りて具足戒を受けたることを記し、次に悟空敬念禪師との問話、及び平生の話頭を記し、最後に遺戒、悟空、无庵諸禪師の示寂の場所と歲月を載せてゐる。 (後藤大用)

東巖和尚行實 ❶(日) Tō-gan-o-shō-gyō-jitsu. ❷一巻 ❸存 ❹寫本(帝國、二三五・三四四)

東記 ❶(日) Tō-ki. ❹空海(寶龜五—永和二A. D. 774—835)

❺本朝台祖撰述書部書目に曰く「弘法。私云。靈雲寺藏古本東記批。(正決ニモ弘法トノ)」云々。

東記作者記 ❶(日)Tō-ki-saku-sha-ki. ❷一册 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・五一)

東暉錄 ❶(日)Tō-ki-roku. 東輝和尚錄 ❹東暉永昊語 ❷(参考) 日本禪林撰述書目

東輝和尚法語 ❶(日) Tō-ki-o-shō-hō-go. ❷一巻 ❸存 ❹永昊語 ❷(参考) 禪籍目錄

東輝和尚錄 ❶(日) Tō-ki-o-shō-roku. 東暉錄 ❷一巻 ❸存 ❹永昊語 ❷(参考) 禪籍目錄

東歸集 ❶(日) Tō-ki-shū. 佛乘禪師東歸集 ❷一巻 ❸存、五山文學全集第一 ❹天岸惠廣(文永一〇—建武二A. D. 1273—1335) ❺正中元—建武二(A. D. 1324—1335)

❺著者天岸はその號で、諱は慧廣、佛乘禪師と謚さる、十三歳にして鎌倉建長寺佛光國師に投じ、諸剎に禪要を敲き造詣甚だ深きものあり。天目中峰の遺風を慕ひ、元應二年(A. D. 1320)同志とともに支那に赴く、會々船中にて中峰遷化の報を聞き「萬卷壓舟何所載、都盧一個大癡圓、中峰昨夜剎竿倒、打破疑團無應看」の偈を賦して哀悼の意を表するや、同船の物外等これに唱和したるもの數十篇、編して亘海一滴と云ふ。在元五年、諸山を歷訪して禪旨を參究し、正中元年(A. D. 1324)歸朝して化を天下に布くや、上下の歸仰篤きものあり。墓命により鎌倉浮妙寺に住す。本書は主として著者歸朝後の作品を集むるところなるを以て東歸集と名づく、收むるところ「物外藥口說、歸陸方休事秋註」、絲絲門逕長菊苦」、獄繁所却軒前竹、放取一天明月來」等の偈頌一百八十五首、「觀音、一葉蓮舟、上載下載、要、度未度、爲誰救墜、好箇正法明如來、全身何事入苦海」等の讚四首及び開堤和尚五七忌拈香、普濟寺安土塔、明絲和尚

滄海餘波序、兵侍者雪夜軸序等四篇及び巻末に作者不詳の佛乘禪師傳一篇を以てしてゐる。就中「永平鏡堂古和尚作之中峰和尚薪塔」(題上三首)、「下岡道中」及び「過金鼇長台」等の在元中の作品数十首も收められてゐる。本集は編纂後、著者晩年の住寺鎌倉報國寺に傳へ、轉寫して世に行はれてゐたが、湮没を慮れ、京都臨川寺龍睡によりて校讎を加へられ、元祿四年(A. D. 1691)峨山は序を作り、同十六年(A. D. 1703)宗章は跋文を作りて上梓した。著者には佛乘禪師語錄若干巻あり、報國寺に傳へられたが、夙に逸して亦見る能はず、師の禪風を味ふもの、實に本集あるのみ。

❼(参考) 日本禪林撰述書目 (高瀬承厳)

東歸集 ❶(日)Tō-ki-shū. ❷一巻 ❸存、五山文學全集第一 ❹別源圓旨・永仁二—貞治三(A. D. 1294—1364) ❺曆應三(A. D. 1340)

❻著者圓旨はその詩で、別源は字、從性と號す。六歳鄉黨越前の佛禪寺竹菴の室に投じ、次いで鎌倉圓覺寺に參學して禪旨を練め、元應二年(A. D. 1319)支那に渡び、諸山を歷遊して參究大に努む。元德二年(A. D. 1330)歸朝して鎌倉建長、圓覺、越前、善應、弘禪、古禪、飯西の壽膳、京都の眞如、建仁等に歷住して禪風の宣揚弘敎蒿だ大なるものあり。本書は主として著者歸朝後の作品を編纂せるもので「過和尚龍岩首十題」以下七言のもので一百二十七首、「題人憲禪花」以下長詩十七首、長篇觀音讚一篇、小佛事七篇を收めてある。七言詩は和韻最も多く、從別のものこれに次ぐ。觀音讚は實に一大雄篇にして、建長寺東明慧日の推賞措かざるところ、觀音大悲の妙智力を說いてあますなく、並愼遍べて盡さざるなし。本書は著者在元中の作品を集めた南遊集とともに、在世中の曆應三年に編纂され淨智寺梵燈序をなし、建長寺東明、跋を叙してゐる。 (高瀬承厳)

東歸艸 ❶(日)Tō-ki-sō. ❸存 ❹漢堂編 ❺(京大、一・二五五・二)

東京御參向一件 ❶(日)Tō-kyō-go-san-go-ichi-ken. 新御所樣東京御參向一件 ❷一巻 ❸存 ❺明治三寫 ❹(龍大、別置)

東溪遺文 ❶(日)Tō-kei-i-mon. ❷一巻 ❸存、眞宗全書第七 ❹若霖・延寶三—享保二〇(A. D. 1675—1735)

❺桃溪遺稿と同じく本派本願寺の難應院故信師の紀行文なり。南遊紀略と遊芳山記との二文を綴りて一冊とせるものである。南遊紀略は師京洛に在住の元祿十六年春の暮、紀州高野山に詣で和歌の浦に遊びたる時の紀行文にして、遊芳山記は其の後六年即ち寶永六年春三月、芳野の櫻花を狩り延元帝の古を偲び或は西行の舊居を訪ひ、落つる苔蒐す岩間淸水に詩腹を寫ほしたるものである。 (内藤康道)

東溪和尚語錄 ❶(日)Tō-kei-wa-shō-go-roku. 大圓禪師語錄 ❷三巻 ❸存 ❹宗牧東溪 ❼(参考) 禪籍目錄

東溪講外集 ❶(日)Tō-kei-kō-gai-shū. ❷二巻 ❸存 ❹亮潤(寬文八—寬延三 A. D. 1668—1750) ❺延享二刊 ❾(正大・一〇七・二五一)(谷大、餘大・八四〇)(立大、A一八・八)(觀山、淨土)

東源記 ❶(日)Tō-gen-ki. 慈眼大師傳記、東叡山開山慈眼大師傳記 ❷一巻 ❸存、慈眼大師全集卷上、中古叢書第一〇八 ❹東海記 ❺慶安三(A. D. 1650) ❻慈眼大師傳記の下を見よ。

東吳和尚行略 ❶(日)Tō-go-wa-shō-gyō-ryaku. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

東語西話 ❶(日)Tō-go-sai-wa. (支)Tung-yu-hsi-hua. ❷四巻 ❸存、卍三一・七中峰廣錄第一八—二〇、禪學大系眼錄部二 ❹元明本中峰(景定四—至治三 A. D. 1263—1323)語 ❺延祐(A. D. 1314—1320)前後

❻天目中峰和尚廣錄三十巻中、東語西話二巻は、其第十八巻の上と下の二巻である。而して其第十九巻と二十巻とは、東語西話續集の上下二巻となつて居る。故にこの四巻を東語西話の名稱下に收錄する事にする。本書は同巻の語にもある如く、師が病を養ふの餘暇、客ありて禪道佛法を問ふや、叩くに隨つて應答したものが、山房夜話で、これが廣錄第十一巻の上中下三巻である。然るに餘音未だ盡きず、事に觸れて感を興し學者に示したものが今の四巻であるから、凡そ學道に關する限り縱橫に說示して修道の指針たらしめたものである。

而して其文甚だ容易に、其語頗る要訣を盡して居るから、古來江湖に愛讀せられ、殊に巻毎に校訂、音釋が揭げられるから、讀者には頗からず便利である。

❾刊本(京大、藏・二四チ・九) (岡田宣法)

東行詩草 ❶(日)Tō-kō-shi-sō. ❷一巻 ❸存 ❹大溪(寶曆九—文化元 A. D. 1759—1804) ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

東高野山緣起 ❶(日)Tō-kō-yō-san-en-gi. ❸存、叢書科本第一一 ❾(帝國・一〇四・二三一)

東皐心越禪師語錄 ❶(日)Tō-kō-shin-etsu-zen-ji-go-roku. ❷一巻 ❸存 ❹興濤心越(寶永一七—元祿九 A. D. 1640—1695) ❾刊本(駒大)

東皐全集 ❶(日)Tō-kō-zen-shū. ❷二巻 ❸存 ❹興濤語(寶永一七—元祿九 A. D. 1640—1695) 淺野斧山編

❺東皐心越禪師傳(淺野斧山編)。五位正偏(心越興濤)。十牛圖次韻(同)。壽昌清規(同)。日本來由兩宗明辨(同)。 ❾明治四四刊 ❾(谷大、餘大・二〇七九)(駒大) ⑩東京一喝社

東國紀行 ❶(日)Tō-goku-ki-kō. ❷一巻 ❸存 ❹廣如 ❾寫本(龍大・二〇五九・六)

東國高僧傳 ❶(日)Tō-goku-kō-sō-den. ❷十巻 ❸存、大日本佛敎全書第一〇四 ❹高泉性潡(寶永一〇—元祿八 A. D. 1633—1695)撰 ❺貞享四(A. D. 1687)

❻本書は吾國古來の諸高僧の傳記を集めたるもの。道明より天海に至る正傳二百八十七人、附傳四十六人、並に從德太子傳を載せたり。傳後に系の加ふるものあるは即ち論贊の肇である。巻頭には運歐の序並に自序を添ふ。

著者高泉性潡はわが寬元元年(A. D. 1661)來朝歸化し、黃檗山第五世の住持となる。嘗てわが元亨釋書を繙くや未だ此編の支那に行はれざるを歎じ、それより高僧の傳記を採摘しかつ元亨以來の英跡を尋ねて僧傳二部を撰修す。一は禪傳十巻(扶桑禪林僧寶傳)であり、一は本書にして純ら敎門の名德を列したものである。運歐が序に「其叙事理筆削之宜所謂辨而不華質而不俚其文直其事核者乎然釋書之後登載者其少矣慮遍綱之夢」云々と評する。著しよくその肯綮を穿ちしものである。

❼(参考) 禪籍志巻下 ❺貞享五刊 ❾(正大、一〇三五・三三—三四)(龍大、研史)(谷大、餘大・一六一一)(高大、寄・一・二一一)(哲、な・八・右・八)(帝國、一三九・六八)(京專) (塚田弘導)

東國高僧傳彈誤 ❶(日)Tō-goku-kō-sō-den-dan-go. ❷十巻 ❸存 ❹師璧卍元(一元祿頃 A. D. 1688—17 3—) ❼(参考) 禪籍目錄

東國高僧傳評 ❶(日)Tō-goku-kō-sō-den-hyō. ❸存 ❹知愛(寬永一一—享保三 A. D. 1634—1718) ❺正德四刊 ❾(谷大、宗大・一一二)(龍大、研眞)

東國僧尼錄 ❶(日)Tō-goku-sō-ni-roku. (支)Tung-kuo-seng-ni-lu. ❷一巻 ❸存、卍續二乙・二三・三

❹圓鮮新羅代より李朝中葉に至る、名僧、尼姑、詩僧、畫僧、奸僧等の諸項に分ちて六十八人の行狀を記す。

❾寫本(京大、藏・二四ト・八) (塚田弘導)

東西佛敎大會紀要 ❶(日)Tō-zai-butsu-kyō-tai-kwai-ki-yō. ❷一巻 ❸存 ❹日本佛敎聯合會編 ❺大正一五刊 ❾(龍大、研佛)

東西問答 ❶(日)Tō-zai-mon-dō. ❷一巻 ❸存 ❹良定(天文二—寬永一六 A. D. 1532—1639) ❺寬文一〇刊 ❾(正大、一五五三・九七)

東山和尚語錄 ❶(日)Tō-zan-o-shō-go-roku. (支)Tung-shan-ho-shang-yu-lu. 雪峰慧空禪師語錄、雪峰東山和尚語錄、雪峰慧空和尚語錄、東山雪峰和尚語錄、東山雪峰空和尚語錄、東山空和尚語錄 ❷一巻 ❸存、卍續二・二五・二 ❹宋雪峰慧空(紹興三—紹興二八 A. D. 109 6—1158)語、慧南編 ❺雪峰慧空禪師語錄の下を見よ。 ❾寶永元刊(帝國、一二三・一・一一三)

東山外集 ❶(日)Tō-zan-ge-shū. (支)Tung-shan-wai-chi. 雪峰空和尚外集 ❷二巻 ❸存 ❹宋雪峰慧空(紹聖三—紹興二八 A. D. 1096—1158) ❺貞和五刊 ❾(帝國・八二一・五六)

東山外集校訛 ❶(日)Tō-zan-ge-shō-kō-kwa. ❷一巻 ❸存 ❹無著道忠(承應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(参考) 禪籍目錄

東山外集抄 ❶(日)Tō-zan-ge-shō-shō. ❷十巻 ❸存 ❹義堂周信(正中二—嘉慶二 A. D. 1325—1388) ❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東山外集抄 ❶(日)Tō-zan-ge-shō-shō. ❷三巻 ❸存 ❹中巖一瑞 ❼(参考) 禪籍目錄

東山所傳二十四流宗派圖 ❶(日)Tō-zan-sho-den-ni-jū-shi-ryū-shū-ha-zu. ❷二巻 ❸存 ❼(参考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東山禪窟祖師年譜 ❶(日)Tō-zan-zen-kutsu-so-shi-nen-pu. ❷一巻 ❸存 ❹高峰東岳撰 ❼(参考) 禪籍目錄

東山禪室松堂宗植禪師行狀 ❶(日)Tō-zan-zen-shitsu-shō-dō-shō-jō-gyō-jō. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東山湛照禪師語錄 ❶(日)Tō-zan-tan-shō-zen-ji-go-roku. 東山和尚語錄、寶覺禪師語錄 ❷一巻 ❸存 ❹東山湛照(寬喜三—正應四 A. D. 1231—1291)語 ❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東山湛照禪師語錄 ❶(日)Tō-zan-tan-shō-zen-ji-go-roku. 東山和尚語錄、寶覺禪師語錄 ❷一巻 ❸存 ❹東山湛照(寬喜三—正應四 A. D. 1231—1291)語 ❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東師列傳 ❶(日)Tō-shi-retsu-den. (支)Tung-shih-lieh-chuan. ❷六巻 ❸

存 ❶朝鮮幻如覺岸（嘉慶二五—光緒二〇 A.D.1820—1894）

⑪本書の著者は又鐵輪山人梵海と號し、全南大興寺の學僧である。本書は彼の交友門下より問訊識知せる近代の朝鮮名僧殊に全羅南北道及び慶尙南道の僧の傳記が大部分を占め、之に朝鮮僧傳の形式を整へる意味に於て、三國、新羅、高麗より李朝に至る著手の名僧を列傳したものである。更に其の後、弟子によつて最近代の僧數名の傳が增補せられた。斯くて本書に傳するもの凡て一百六十八人、中で李朝以前の者は僅かに二十人に過ぎなく、全六卷中、第一卷を塞ぐのみである。併し、本書の叙述は簡潔適要、僧傳の少い朝鮮にあつては亦貴重といふべく、只文章は稍生硬信用の遺がある。本書の著者には尙詩文集梵海遺稿二卷がある。試みに所取の僧名を擧ぐれば次の如くである。

〔第一卷〕 阿道和尙。元曉國師。義湘祖師。慈藏法師。眞鑑國師。智證國師。無染國師。金大城。朗空大師。道詵國師。慧徹國師。普照禪師。洞眞大師。大覺國師。普照國師。眞覺國師。眞靜國師。淨慶大師。懶翁王師。無覺王師

〔第二卷〕 太古王師。幻庵國師。元悟國師。涵虛禪師。龜谷王師。碧溪大師。碧松禪師。芙蓉靈師。敬聖大德。清虛堂者。泗溟堂者。靈默祖師。騎羊宗師。道悟宗師。楓潭宗師。海運禪師。醉如宗師。月渚宗師。信海普淨合傳。松坡大師

〔第三卷〕 招庵宗師。無川法師。華岳祖師。雪岩宗師。喚惺宗師。碧霞宗師。雪峰宗師。霜月宗師。虎岩宗師。涵月宗師。萬化講師。燕海講師。碧谷講師。楣庵講師。影波講師。頭輪大師。默庵宗師。錦洲講師。環岩禪師。夢月泳弧。東溟旭日。大印燈傳。海溟解貧。

〔第四卷〕 蓮潭宗師。晶岩禪師。白蓮禪師。懸解禪師。玩虎講師。朗岩講師。蓮波講師。白坡講師。羊岳禪師。雪谷和尙。龍岩禪伯。錦波禪師。隱溟大師。慈溟大士。錦牛禪德。華潭講師。雪岩禪師。袖龍講師。梨鉢講師。海鷗講師。縞衣大士。荷衣大士。草衣禪伯。松庵大師。鐵船講師。大隱禪伯。性潭禪伯。忍庵禪伯。映虛禪伯。洛波禪伯。雪月大師。霽溟禪伯。虛舟禪伯。影山禪伯。圓庵禪伯。荷隱禪伯。龍號講伯。智溟禪伯。枕溟講伯。鏡月禪師。晦山講伯。離溟禪伯。碧波禪師。龍雲禪伯。化蓮禪師。倚月禪伯。慈行禪師。清海大士。玩波禪師。萬休禪伯。應化講伯

〔第五卷〕 碧潭禪伯。退隱禪伯。仁谷講伯。南湖禪伯。閑庵講伯。雲岩禪伯。混性禪伯。圓潭禪伯。文潭講伯。雙月禪伯。虎溟禪伯。織鶴禪伯。漢陽禪師。恕庵講伯。枕月禪師。錦月禪師。浦雲禪師。寶雲禪師。一如禪伯。鏡庵講師。悔庵禪伯。烟湖大師。雲靈禪伯。無爲禪伯。惠溟禪師。雲坡禪師。寶霞禪師。優曇講伯。化月禪師。騎溟禪師。幻虛講伯。涵溟講伯。雪寶講伯。錦潭講伯。龍溟禪師。映月禪師。錦谷講師。普門禪師。月如禪伯。錦虛禪伯。湖月禪師。圓華講伯。祥雲禪師。德松禪師。蓮舟講伯。華先。龍波禪師。李枕山處士

〔第六卷〕 西潭講伯。涵虛講伯。清潤講伯。壽星禪師。普濟講伯。錦城禪師。雪鳳大士。應龍禪師。金波禪師。月華講師。湖隱講伯。圓海講伯。擎雲講伯。應雲講伯。九潤講伯。碧蓮禪師。法海講伯。清潭禪師。雲潭禪師。龍月禪師。圓應講伯。浩然禪師。八紘禪伯。性潭講伯。清岳禪伯。應庵禪師。青湖講伯。清華禪伯。祭雲講伯。慈雲禪師。錦月禪德。幻溟惣摘。晦光講伯

尙卷末に弟子某甲の筆になりしと覺しき「自序」? と題せる著者の記傳が附されてゐる。

❹寫本（江田俊雄）大正一四寫（駒大）

（江田俊雄）

東寺沿革略誌 ❶(B)Tō-ji-en-kaku-ryaku-shi. ❷一卷 ❸存 ❹山本忍巢著 ❺大正五刊 ❹(谷大、餘洋・四五八)（京帝）

東寺御舍利傳來記 ❶(B) Tō-ji-on-shari-den-rai-ki. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺行狀繪詞拔書 ❶(B) Tō-ji-gyō-jō-e-shi-nuki-gaki. ❷一册 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

東寺九百年忌大曼荼羅供私記 ❶(B) Tō-ji-ku-hyaku-nen-ki-dai-manda-ra-ku-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

東寺灌頂院御影供記 ❶(B) Tō-ji-kwan-jō-in-mi-e-ku-ki. ❷一軸 ❸存 ❺應永五寫 ❹(寶善提院)

東寺灌頂次第 ❶(B) Tō-ji-kwan-jō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

東寺灌頂超越諸家事 ❶(B) Tō-ji-kwan-jō-chō-etsu-sho-ka-no-koto. ❹道範（治承二—建長四A.D.1178—1253）❷(參考) 諸宗章疏錄第三

東寺灌頂堂供養曼荼羅供 ❶(B) Tō-ji-kwan-jō-dō-ku-yō-man-dara-gu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（谷大、餘大・三八二四）

東寺觀智院金剛藏祕册圖譜 ❶(B) Tō-ji-kwan-chi-in-kon-gō-zō-hi-satsu-zu-fu. ❷一卷 ❸存 ❹京都大藏會編 ❺大正九刊 ❹(龍大、別置)

東寺血脈聞書 ❶(B) Tō-ji-kechi-myaku-kiki-gaki. ❷一帖 ❸存 ❺天文三寫 ❹(寶龜院)

東寺結緣灌頂戒體 ❶(B) Tō-ji-kechi-en-kwan-jō-kai-tai. ❷一册 ❸存 ❺享保一八寫 ❹(寶善提院)

東寺結緣灌頂次第 ❶(B) Tō-ji-kechi-en-kwan-jō-shi-dai. ❷一册 ❸存 ❺天文二寫 ❹(金剛三昧院)

東寺古文零聚 ❶(B)Tō-ji-ko-monrei-jū. ❷八卷 ❸存 ❹伴信友（安永二—弘化三A.D.1773—1846）編 ❹寫本（帝國、二一三・四二九）

東寺光明院傳法灌頂日記 ❶(B)Tō-ji-kō-myō-in-den-jō-kwan-jō-ni-ki. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

東寺講堂緣起 ❶(B) Tō-ji-kō-dō-en-gi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

東寺灌頂堂供養曼荼羅供 ❶(B) Tō-ji-kwan-jō-dō-ku-yō-man-dara-gu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（谷大、餘大・三八二四）

東寺觀智院金剛藏祕册圖譜 ❶(B) Tō-ji-kwan-chi-in-kon-gō-zō-hi-satsu-zu-fu. ❷一卷 ❸存 ❹京都大藏會編 ❺大正九刊 ❹(龍大、別置)

東寺血脈聞書 ❶(B) Tō-ji-kechi-myaku-kiki-gaki. ❷一帖 ❸存 ❺天文三寫 ❹(寶龜院)

東寺結緣灌頂戒體 ❶(B) Tō-ji-kechi-en-kwan-jō-kai-tai. ❷一册 ❸存 ❺享保一八寫 ❹(寶善提院)

東寺結緣灌頂次第 ❶(B) Tō-ji-kechi-en-kwan-jō-shi-dai. ❷一册 ❸存 ❺天文二寫 ❹(金剛三昧院)

東寺古文零聚 ❶(B)Tō-ji-ko-monrei-jū. ❷八卷 ❸存 ❹伴信友（安永二—弘化三A.D.1773—1846）編 ❹寫本（帝國、二一三・四二九）

東寺光明院傳法灌頂日記 ❶(B)Tō-ji-kō-myō-in-den-jō-kwan-jō-ni-ki. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

東寺講堂緣起 ❶(B) Tō-ji-kō-dō-en-gi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

佛教全書續刊豫定書目

東寺講堂五佛等拳龍眞言 ❶(B) Tō-ji-kō-dō-go-butsu-tō-ken-ryō-shin-gon. ❷一帖 ❸存 ❹南北朝時代寫 ❹(寶善提院)

東寺金堂等本尊座位 ❶(B) Tō-ji-kon-dō-tō-hon-zon-za-i. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺雜記 ❶(B)Tō-ji-zak-ki. ❸存、史籍集覽第一七 ❹東寺三寶の霊と呈寶小傳。寶物の諸點。所傳佛舍利、東寺不開門、仁壽殿本尊の因由等。東寺に關する雜錄の小品である。

東寺西流加行日數略記 ❶(B) Tō-ji-sai-ryū-ke-gyō-nis-su-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（龍大、研佛）

東寺三密藏目錄 ❶(B)Tō-ji-sanmitsu-zō-mokū-roku. ❷二卷 ❸存 ❺大正三刊 ❹(寶善提院)

東寺寺務次第 ❶(B)Tō-ji-ji-mu-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺舍利供養事 ❶(B)Tō-ji-shari-ku-yō-no-koto. ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書 ❹東寺寶藏に安置せられてあつた舍利三枚弘長元年三月二十六日、東大寺眞言院に移奉せられた。本書は其の時に行はれた供奉會の狀況、次第等を記したものである。（藤島達朗）

東寺舍利代々勸計記 ❶(B) Tō-ji-shari-dai-dai-kan-ki-ki. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺執行日記私用集 ❶(B) Tō-ji-shu-gyō-nik-ki-shi-yō-shū. ❷四卷 ❸存 ❹寫本（帝國、一三九・四七）

東寺十三流事 ❶(B) Tō-ji-jū-san-ryū-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶龜院)

東寺准御齋會圖繪 ❶(B) Tō-ji-jun-go-sai-e-zu-e. ❷一卷 ❸存 ❺天保五刊 ❹(龍大、二九九七・四)

東寺小曼荼羅表具之事 ❶(B) Tō-ji-shō-man-da-ra-hyō-gu-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

東寺正法務次第 ❶(B)Tō-ji-shō-hō-mu-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺聖明決疑抄 ❶(B)Tō-ji-shō-myō-ketsu-gi-shō. ❷三卷 ❸存 ❼〔參考〕 眞言宗全書刊行豫定書目

東寺眞言宗血脈 ❶(B)Tō-ji-shin-gon-shū-kechi-myaku. ❷一卷 ❸存 ❹宥快（貞和元—應永二三A.D.1345—1416）❺文化一四寫 ❹(龍大、研佛)

東寺眞言宗血脈 ❶(B)Tō-ji-shin-gon-shū-kechi-myaku. ❷一册 ❸存 ❹宥盛 ❺享保一〇刊 ❹(正大、一四一・三三)

東寺眞言宗血脈記附三寶院相承次第 ❶(B) Tō-ji-shin-gon-shū-kechi-myaku-ki-tsuketari-san-bō-in-sō-jō-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（帝國、二一四・八八）

東寺眞言諸流由來祕聞書 ❶(B)Tō-ji-shin-gon-sho-ryū-yu-rai-hi-kiki-gaki. ❷一册 ❸存 ❺天文二四寫 ❹(金剛三昧院)

東寺蘇悉地事 ❶(B) Tō-ji-so-shi-ji-no-koto. ❹道範（治承二—建長四A.D.1178—1253）❷(參考) 諸宗章疏錄第三

東寺相承血脈 ❶(B) Tō-ji-sō-jō-ke-myaku. ❷一帖 ❸存 ❺寶曆二寫 ❹(高大、書・一・五五)

東寺大曼荼羅供私記 ❶(B)Tō-ji-dai-man-da-ra-ku-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❺享保一九刊 ❹(谷大)

東寺長者高野檢校等次第附傳法院座主次第 ❶(B) Tō-ji-chō-ja-hō-in-za-su-shi-dai-tsuketari-dem-bō-in-za-su-shi-dai. ❷一卷 ❸存、續群書類從第四 ❹本書は第一代の東寺長者弘法大師から第五十五代長者僧正殿海忠の歷代長者の略歷並にこれに隨伴せる高野檢校、傳法院座主次第等を記錄したものである。本書に於て弘法大師の條下に「天長元年六月十六日補東寺別當」とあるがこれを以て直ちに「眞言宗長者之始也」と斷定するは如何なものであらうか。當時は尙長者の語が用ひられてゐなかつたと見るのが妥當の樣に思ふ。（東寺長者補任の解說參照）高野檢校は以前は金剛峯寺座主と謂ひ一山を統領する職名である。第六長者僧正眞然が仁和五年に金剛峯寺座主に任ぜられたのを以て座主職の最初とする。且つ檢校は第十九長者大僧正寬朝の時雅眞を金剛峯寺檢校に補したのを以て最初としてゐる。又傳法院は大治二年に傳法堂造立を初め、長承元年同院の落慶供養を行ひ鳥羽上皇の行幸を仰いだ。尙本書には裏書が加へられてゐるがこれは其の裏書の長者履歷に更に注記として加筆されたものであらう。（高倉永孚）

東寺長者高野山拜堂記 ❶(B) Tō-ji-chō-ja-kō-ya-san-hai-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕 大日本佛教全書續刊豫定書目

東寺長者朝暮祕觀 ❶(B) Tō-ji-chō-ja-chō-mo-hi-kwan. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

東寺長者並金剛峯寺檢校次第 ❶(B) Tō-ji-chō-ja-narabini-kon-gō-buji-kea-gyō-shi-dai. 東寺長者高野檢校等次第 ❷二十枚 ❸存、續群書類從第四 ❹寫本（帝國、二三七・一一〇）

東寺長者補任 ❶(B) Tō-ji-chō-ja-bu-nin. ❷一卷 ❸存、群書類從第三 ❹長者とは梵語で長吠賀鉢底（Grha-pati）と云ひ、法華玄贊に「心平性直。語實行敎。

會遇財盜。名爲長者」とある如く財を積み德を具ふる者の通稱であるが、我國に於て一般に長者と云へば京都東寺（敎王護國寺）の上首を指す例である。本書は此の東寺長者の補任記錄である。嵯峨天皇弘仁十四年正月十四日勅によつて僧空海に東寺を賜つた事を以て起筆し、これを長者補任の初めとなしてゐる。併し其時宣下の太政官符等を見ても別當の語はあるが長者の語は見當らない。從つて空海の弟子實惠が仁明天皇承和三年五月十日權律師に任ぜらるゝと共に長者に補せられたのを以て最初とすべきである。而して同八年十一月には權律師眞濟も亦長者に任ぜられたので二長者同者の任官となり、更に醍醐天皇昌泰元年には益信、聖寶、峯延と三人の長者となり、冷泉天皇の安和二年には僧正寬空、少僧都敎世、律師定照、權少僧都寬忠の四人が同時に長者となつた例を聞いた。斯くて本書は貞治六年大僧正定憲が長者に再任せられたのを以て終つてゐる。即ち弘仁十四年から五百四十五年間の補任記錄である。

（高倉永輝）

東寺塔供養記 ❶(日)Tō-ji-tō-kū-yō-no-ki. ❷一卷 ❸存、新校群書類從第一八 ❺應德三(A. D. 1086) ❻本書は京都東寺(敎王護國寺)の五重塔婆再興供養の記錄である。東寺塔は初め嵯峨天皇天長三年(皇紀一四八六)に建立せられたが、後冷泉天皇天喜三年(皇紀一七一五)八月廿一日に雷火の爲めに燒失した。その再興の爲め右大臣源顯房が勸賞を蒙り白河天皇應德三年(皇紀一七四六)八月十八日に上棟あり、遂で平等院法成寺金堂の供養せられた吉日を撰び十月廿日に供養が行はれたのである。同塔供養の事は後二條師通記、扶桑略記、百練抄、東寺王代記、東寺長者補任、東要記等に見えてゐる。本書は大納言三條實忠の記錄にかゝるもので、諸寺塔供養記にも同文を收錄してゐる。該書は權中納言藤原伊房の抄本を收め、群書類從所收本は權大僧都賢寶が後龜山天皇元中四年(嘉慶元年)十月彼寶院門跡本に據り傳寫せるものである。前者に收めたるものは後末の「往反東寺已及數度云々」の數行が省略されてゐる。

❹古寫本(帝國圖書館)

（高倉永輝）

東寺塔供養記 ❶(日)Tō-ji-tō-kū-yō-no-ki. ❷一卷 ❸存、群書類從第一五、新校群書類從第一九、輪池叢書第一一 ❹道意(文永八—延元元A. D. 1271—1336) ❻建武元(A. D. 1334) ❻後醍醐天皇建武元年九月廿四日天皇の親臨を仰ぎ嚴修せられたる東寺塔婆供養に就て記錄した日記である。本書は八月二十七日筆者なる道意が參內し、塔供養に行幸を奏請する事に初まり、十二月二十六日行幸賞を行はゝる事を以て終つてゐる。是より先道意は同塔供養に付き古記錄を探求し、其の蒐集の結果儀式次第は守覺法親王(後白河天皇第三皇子)の曼荼羅供養次第を以て指南と爲し、其の記錄は藤原伊房の記したる應德三年八月の東寺塔供養記即ち應德記に準據したものである。今其の奧書に依れば初め道意は應德記一本を所持してゐたが概記であつて其の詳細を知る事が出來ず遺憾に感じてゐた所、たまたま建武元年八月二十七日行幸奏請の爲め參內した時退出が深更に至つたので大納言三條實忠卿の邸に寄宿した。其の時道意は塔供養に關する詳細なる記錄あらば一見したき旨を請ふた所、實忠卿は幾多の古記錄中から前記伊房の應德塔供養一卷を撰て示された。仍ち道意は其の熟慮の顧然たるに感激し舊記十餘卷と共に併せ借用し書寫した事が記されてゐる。道意が此の供養に如何に周密なる用意を有ち故實の典據に苦心したかと窺はるゝのである。

道意は藤原實俊の子で初め辨慧上人に師事して灌頂を受け、元亨二年第九十八世東寺の長者となつた。建武二年秋、勅により宮中に於て守護經の法を修し大僧正に任ぜられてゐる。

（高倉永輝）

東寺二種並安然四種連聲事 ❶(日)Tō-ji-ni-shu-narabini-an-nen-shi-shu-ren-jō-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺慶長一二寫 ❹(寶龜院)

東寺入堂次第 ❶(日)Tō-ji-nyū-dō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(實善提院)

東寺年中行事 ❶(日) Tō-ji-nen-chū-gyō-ji. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東寺八幡宮御遷宮記 ❶(日)Tō-ji-hachi-man-gū-gyo-sen-gū-no-ki. ❷一冊 ❸存 ❹東寺鎭守八幡宮の舍殿修理による遷宮の記錄である。❹寫本(實善提院)

東寺碑文 ❶(日)Tō-ji-hi-mon. ❷一紙 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(實龜院)

東寺佛舍利奉請記 ❶(日) Tō-ji-butsu-shari-ni-hō-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考)大日本佛敎全書續刊豫定書目

東寺舞樂大曼荼羅供次第 ❶(日)Tō-ji-bu-gaku-dai-man-da-ra-kū-shi-dai. ❷一冊 ❸存 ❹享保一九寫 足利時代寫(實善提院)

東寺舞樂曼荼羅供 ❶(日) Tō-ji-bu-gaku-man-da-ra-kū. ❷二冊 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(實善提院)

東寺門流加行中禁制 ❶(日)Tō-ji-mon-ryū-kō-gyō-chū-kin-sei. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(實龜院)

東寺略史 ❶(日)Tō-ji-ryaku-shi. ❷一卷 ❸存 ❹東寺編 ❺大正一一刊 ❹(龍大、研史)(京專)(高大、一・二二二)(帝國、一一五・三九)

東宗要 ❶(日)Tō-jō-yō. 淨土宗要集、宗要論義、鎌倉宗要、鎌倉淨土宗要集 ❷五卷 ❸存、淨土宗全書第一一 ❹然阿良忠(正治元—弘安一〇A. D. 1199—1287)述

❻淨土宗要集の下を見よ。

東宗要見聞 ❶(日) Tō-jō-yō-kem-mon. 淨土宗要集見聞、東宗要良榮見聞 ❷十卷 ❸存、淨土宗全書第一一 ❹良榮(康永元—應永三〇A. D. 1342—1423)述

❻淨土宗要集見聞の下を見よ。

東宗要玄談 ❶(日)Tō-jō-yō-gen-dan. ❷一卷 ❸存、玄談集之內 ❹性譽妙

瑞(一天明七A. D. 1787)述 ❹寫本、正大、一五五三・六八、(谷大、宗大・一七四五)

東宗要備講 ❶(日) Tō-jō-yō-hi-kō. ❷八卷 ❸存 ❹性譽妙瑞(一天明七A. D. 1787)述 ❼(參考)大日本佛敎全書續刊豫定書目

東照宮御八講記 ❶(日)Tō-shō-gū-go-hak-kō-ki. 日光山修善雜記 ❷三卷 ❹存 ❹寫本(正大、一〇八・一七四)

東照宮御本地供 ❶(日)Tō-shō-gū-go-hon-ji-ku. ❸存、慈眼大師全集卷上

東照宮遷宮記 ❶(日) Tō-shō-gū-sen-gū-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(叡山、鄰藏)

東照大權現緣起 ❶(日) Tō-shō-dai-gon-gen-en-gi. ❸存、慈眼大師全集卷上 ❹天海(天文五—寬永二〇A. D. 1536—1643)

東照大權現假名緣起 ❶(日)Tō-shō-dai-gon-gen-ka-na-en-gi. ❸存、慈眼大師全集卷上 ❹天海 (天文五—寬永二〇A. D. 1536—1643)

東晉竺法護贈安公書 ❶(日)Tō-shin-jiku-hō-go-an-kō-no-okura-sho. (支) Tung-chin-chu-fa-hu-tseng-an-kung-shu. ❷一本 ❼(參考) 智證大師請來目錄

東漸和尚傳 ❶(日) Tō-zen-wa-shō-den. ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹東漸健易(康永三—應永三〇 A. D. 1344—1423)

❻在光寺の東漸健易和尚の傳記である。初に振講及び薙染に就て記し、相國寺、安國寺、東福寺、南禪寺等に安居したること、及び其の遺偈を叙し、最後に其の師なる壽福寺の樂岑一公の嗣法系統を載せてゐる。叢林拾遺略清規(一卷)、東漸和尚語錄(一卷)參照。

❼(參考) 扶桑禪林書目

（後藤大用）

東漸清規 ❶(日)Tō-zen-shin-gi. 叢林拾遺略清規 ❸存 ❹健易東漸(—應永三〇A. D. 1423) ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東禪寺詩板 ❶(日)Tō-zen-ji-shi-han. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

東草集 ❶(日) Tō-so-shū. ❷六卷 ❸存 ❹行心顯豪(弘安五—延文五以後A. D. 1282—1356—)作 ❺寬文八刊 ❹(京大、日大未・八二二)

東大寺繪所日記 ❶(日)Tō-dai-ji-e-sho-nik-ki. ❷一卷 ❸存、續々群書類從第五

❻東大寺繪所の天文年間の日記にして、原書は奈良手向山神社に所藏する。續々群書類從本は史料編纂所影寫本を底本とし、黑川氏影寫本を以て校訂せしもの。

（藤島達朗）

東大寺緣起 ❶(日)Tō-dai-ji-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東大寺緣起繪詞 ❶(日)Tō-dai-ji-en-gi-e-shi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本、谷大、餘大・一六一七

東大寺大鏡 ❶(日)Tō-dai-ji-ō-kagami. ❷十五卷 ❸存 ❹東京美術學校編 ❺大正一〇—昭和三刊 ❻南都七大寺大鑑刊行會

東大寺戒壇院緣起 ❶(日)Tō-dai-ji-kai-dan-in-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考)大日本佛敎全書續刊豫定書目

東大寺戒壇院四天王像考證 ❶(日) Tō-dai-ji-kai-dan-in-shi-ten-nō-zō-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第三

東大寺戒壇院受戒式 ❶(日)Tō-dai-ji-kai-dan-in-ju-kai-shiki. ❷一卷 ❸存、大正七四・二六Zo. 2350、日本大藏經戒律宗章疏第二、大日本佛敎全書第一二二 ❹實範(一天養元A. D. 1144) ❺保安三(A. D. 1122)八月四日

❻當書撰出の由來は、南都の受戒其の後廢忘を補む、興福寺の欣西大德大に悉歎し、中川實範上人に再興の義を懇願に及び、鼓に上人春日明神の冥助を得て、唐招提寺に於て戒脈を相傳し、四分律鈔并に戒壇圖經等に基き、別受の軌則に依る受戒の式を定め律法を興隆せり、戒法の中興すること範公功あり。

當書の內容は十六門に分ち明せり、其の第一に戒壇院莊嚴敍說、第二に最初法式、第三に諸師次第、第四に入堂儀式、第五に授沙彌戒、第六に講遺敎經、第七に敎發戒緣、第八に單白羯磨緣人、第九に出衆問緣、第十單白和僧、第十一正敎乞戒、第十二正受戒法、第十三正對衆問、第十四說戒相、第十五請師出堂を明す。只上十六門通別二受の方軌中の別受戒の法式を專ら明せるを以て當書主要と爲す。受戒法軌の研究上參考に見る良書なり。

東大寺戒壇院神名帳 ❶(日)Tō-dai-ji-kai-dan-in-shim-myō-chō. ❷一卷 ❸存 ❺文化六寫 ❹(正大、一〇三二・二八)

（北川智海）

東大寺戒壇院律法第三興隆要集記 ❶(日) Tō-dai-ji-kai-dan-in-ritsp-pō-dai-san-kō-ryū-yō-shō-ki. ❷五卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東大寺舊章勝院聖語藏古寫經目錄稿 ❶(日) Tō-dai-ji-kyū-shō-kō-sho-gō-kō-sha-kyō-mo-ku-roku-kō. ❷一卷 ❸存 ❺大正七寫 ❹(谷大、餘大・三五五七)

東大寺供養次第 ❶(日)Tō-dai-ji-kū-yō-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❺文化八刊 ❹(谷大)

東大寺供養式 ❶(日)Tō-dai-ji-kū-yō-shiki. ❸存、大日本佛敎全書第一二二 ❹藤原親經 ❺建仁三(A. D. 1203)十一月三十日

❻治承四年十二月二十八日、平重衡の放つた火に依つて炎上した東大寺は聖治承五年春早くも再興の緒に就き、五年を經た文治元年には開眼の大會行はれ、次で建久六年には盛大なる落慶の供養執行せられたが、建仁三年十一月三十日には太上天皇後鳥羽院の御幸を仰いで千僧供養の盛會が擧げられた。本書は即ちその時の供養式にして、最初に當日の狀況を述べ、次で太上天皇の敬白し給ひし藤原親經作り奉る所の御願文

を載する所である。

東大寺供養日時僧名行事官等之事 ❶(B)Tō-dai-ji-ku-yō-nichi-ji-sō-Bu-tō-mō-ji-kwan-tō-no-koto. ❸存、大日本佛教全書第一二二

❹建仁三年十一月三十日、御鳥羽上皇の御幸を仰いで執行せられた東大寺千僧供養令に關する記錄で、同年七月五日より十二月十二日迄に至つてゐる。 (藤島達朗)

東大寺血脈圖 ❶(B)Tō-dai-ji-ke-chi-myaku-zu. ❷一帖 ❸存 ❹臺朝撰

❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東大寺獻物帳 ❶(B) Tō-dai-ji-kem-motsu-chō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二 ❺天平勝寶八(A. D. 756)六月二十一日

❹天平勝寶八歲六月二十一日、聖武太上天皇七々日の忌辰に當り、皇太后光明子は先帝甄好の御遺物を擧げて東大寺大佛に奉獻し、以てその御冥福を祈り給ふた。本錄は卽ちその獻品目錄で現に正倉院北倉壓上に殘藏せられてある。卷首に皇太后御製の願文を載せて其の由來を明し、以下奏裝、厨子等所謂の「國家珍寶」二百數十點を詳述するが、卷末には關係諸官の手署を列ねてあり、全卷には一面に「天皇御寫」の文ある印四百八十九を捺す所である。尙ほこれを初度として、爾後數回に亘つて獻納の事あり、それらの獻物帳も多く現存してゐる。天平寶字二年六月一日の玉藻之王獻之眞詮一卷のそれ、同十月一日の藤原不比等書屏風二帖のそれは卽ちその一二例である。如斯獻物帳存し、その實物を失ひ、實物存して獻物帳の亡びしもの等一でないが、彼此合して正倉院の盛相を語るに缺くべからざる貴重なる資料である。東大寺獻物帳考證參照。

❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄23D1

❺明治一三刊 ❹,德大,二九九四・1)(帝國,四〇二・二〇) (藤島達朗)

東大寺獻物帳考證 ❶(B)Tō-dai-ji-kem-motsu-chō-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第五

東大寺古文書目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-ko-mon-jo-moku-roku. ❷一卷 ❸存

❹續續群書類從第一六

❹東大寺傳來古文書の簡單な目錄、所載文書の年代下限は永萬二年、大略平安朝末期迄である。尙ほ典書には「享保十二丁未年十一月十日に寫し畢」とある。(藤島達朗)

東大寺御寶物目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-go-hō-motsu-moku-roku. ❸存、溫古二十四種之內 ❹寫本(帝國,二三一・六一)

東大寺金銅碑文 ❶(B)Tō-dai-ji-kon-dō-hi-mon. 勝寶感神聖武皇帝銅板詔書 ❸存、群書類從第一五、新校群書類從第一九 ❹聖武天皇 ❺天平勝寶五(A. D. 753)

❹本文は現在奈良正倉院御物として寶藏されてゐる銅板の銘文である。銘文は銅板の表裏に刻せられてゐてその表面のものは聖武天皇が天平勝寶五年(A. D. 753)正月十五日、東大寺落成に際して其の塔中に金字金光明最勝王經一卷を安置し給へる時の願文で、裏面のものは同寺に封五千戶水田一萬町を施入し給へる時の詔書である。本文は『勝寶感神聖武皇帝詔板詔書』の別名で『古京遺文』に載せられて其の考證が見えてゐる。新校群書類從及び大日本佛教全書所載のものには後の考證を補入されてゐるが、後者には表面の銘願文のみを載せて裏面の詔書を闕いてゐる。 (不破幹雄)

東大寺墾田圖 ❶(B)Tō-dai-ji-kon-den-zu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(帝室,一一四・二八,四一九・1四)

東大寺雜集錄 ❶(B)Tō-dai-ji-zas-shū-roku. ❷十二卷并附錄 ❸實祐 ❹大日本佛教全書第一二二

❹東大寺に關する諸記錄を編集したもので、序卷一卷、本卷十二卷、附錄より成る。編者は藥師院實祐で、記錄は明和年間、大略德川の中期頃迄に及んでゐる。綱要錄以後、德川時代の東大寺を知る好資料である。 (藤島達朗)

東大寺三月堂諸佛像考證 ❶(B) Tō-dai-ji-san-gwatsu-dō-sho-butsu-zō-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第三

東大寺三倉開封勅例 ❶(B)Tō-dai-ji-san-sō-kai-fū-kan-rei. ❷一卷 ❸存、續續群書類從第一六 ❹唐性 ❺元祿六年五月

❹後鳥羽天皇建久四年八月二十五日の正倉院御開封より後水尾天皇寬文六年三月四日のそれに至る數次の御開封次第を記したもので、編者は元祿六年五月開封時の會奉行命珠院唐性である。 (藤島達朗)

東大寺三藏御寶物御改之帳 ❶(B)Tō-dai-ji-san-zō-go-hō-motsu-on-aratame-no-chō. ❸存、續々群書類從第一六

❹慶長十九年藥師院實祐記(續々群書類從十六所收)に依れば、同十五年七月二十一日の大風にて大佛殿の假屋が倒伏した際、其の整理を經藏院、北林院、中證院の三人が奉行したが、彼等は共謀して正倉院北藏の下を切り破り寶物を窃み出した、贋品の市場流行の噂に依り、三藏を檢するに北藏下の破壞あり、盜難歷然たるに依つて、遂に同十七年十一月十三日三藏を開封して寶物を改めらるゝ事となつた。本書は卽ちこの時の目錄である。中之段御藏下段の條に明かに「三長持二十六、內三ヲ符を切盜申候、二十三符如ノ昔有」とある。尙ほ三人は間もなく捕へられ、それ〴〵成敗されたが、その始末右の實祐記に詳しく語る所である。 (藤島達朗)

東大寺受戒方軌 ❶(B)Tō-dai-ji-ju-kai-hō-ki. 法進戒壇式 ❷一卷 ❸存、大正七四・二一,No.2349,日本大藏經戒律宗章疏第二 ❹法進(和銅二—寶龜九 A. D. 709—778)述 ❺天平勝寶六(A. D. 754)

❹本書は天平勝寶六年鑑眞大和上聖武天皇の請請に應じて來朝し、勅を奉じて戒壇を結作、我朝に於て始めて登壇授戒に際し法進大德師の命に基き定むる所の方軌なり。

本書の內容は、方軌十門の內左の六門を明せり、第一に最初法式章、第二に授沙彌戒章、第三に請證教經章、第四に請三師七證章、第五正授大戒作法章、第六說相教誡

章と分別して明せり。其の第一最初法式章には、食堂作法をも示し、第六章以外に四分布薩戒師作法並に大乘布薩作法、及び悔恣作法等をも示し明せり。本朝に於て別受戒四分布薩の行ふことは鑑眞大和上より始まり、故に此の方軌を以て最初の行事法を明せり。此の方軌に僧寶を建立し、以て住持佛法鎭護國家の大基と爲せし法軌なる故、日本佛教の生命の佛教歷史の研究上必要に足る良書なり。

❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2585 (北川智海)

東大寺衆徒參詣伊勢大神宮記 ❶(B) Tō-dai-ji-shū-to-tsu-dai-Jin-gū-ni-san-kei-no-ki. ❸存、大日本佛教全書第一二二 ❹慶俊 ❺文治二(A. D. 1186)五月廿七日

❹本書は文治二年(A. D. 1186)二月に東大寺大佛殿の勸進上人俊乘房重源が伊勢神宮に於て大佛殿造營所願の際、大神から受けた參詣に依つて同寺の僧綱以下六十口倍が同年四月大神宮に參詣して大般若經を慶したことを筆錄したものである。此の大般若供養に就ては先に『俊乘上人奉納大般若伊勢神宮記』の所で述べたから今は略してただ本書は特にその記述が詳細で前書の補を補足し得るものである事を言ふに止めておく。奧書に依れば筆者慶俊は此の供養に參列して隨喜感激し、此の盛儀を後代に傳ふべく同年五月廿七日に書留めたものである。尙ほ大日本佛教全書所收のものゝ底本は尾張大須寶生院本を延寶四年(A. D. 1676)に傳寫分證士の書寫したものである。 (不破幹雄)

東大寺十問答 ❶(B)Tō-dai-ji-jū-mon-dō. ❸存、拾遺黑谷語燈錄卷下(大正八三・二二五四No.2612)、淨土宗全書第九、法然上人全集之內 ❹源空(長承二—建暦二,A. D. 1133—1212)

東大寺所藏善財童子繪卷考證 ❶(B) Tō-dai-ji-sho-zō-zen-zai-dō-ji-e-maki-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第三

東大寺諸伽藍圖 ❶(B)Tō-dai-ji-sho-ga-ran-zu. ❷一枚 ❸存 ❹(帝國,一〇二・九四)

東大寺諸伽藍略錄 ❶(B)Tō-dai-ji-sho-ga-ran-ryaku-roku. ❸存、大日本佛教全書第一二二

❹東大寺の諸堂諸社の緣起並に沿革を簡單に記し、之等に安置する諸尊像の作者、尺度、寄進者などから正倉院御開封の事及びその寶物の一部、更に寺中の寶物を擧げ或は當寺の四至、末寺、院家などを輯錄し、東大寺の諸伽藍其の他の輪廓を知るに簡要のものである。撰者は不詳であるが內容から推して元祿の末のものであるとの想像は可能である。 (不破幹雄)

東大寺諸文書 ❶(B)Tō-dai-ji-sho-mon-jo. ❷一卷 ❸存 ❹文化一〇寫

❼(正大,一〇三二・三三)

東大寺正倉院開封記 ❶(B)Tō-dai-ji-sō-kō-in-kai-fū-ki. ❸存、續續群書類從第一六

❹元祿六年、正倉院破損に付き、東大寺々務淨從法眼王より奉請あり、同五月十六日開封、爾來修理を施けて遂に八月七日開封せられた。本書は卽ちその記錄にして、筆者四聖坊、寶物點檢の日程並に其の概要、行列、下行米、雜用品、寶物櫃の合文、四聖の贊等を載せてゐる。尙ほこれと同時の記錄に藥師院祐想の筆になる正倉院御開封記草書(續々群書類從第十六所收)一卷がある。彼此參照すべきものである。 (藤島達朗)

❼寫本(帝國,五・三三)

東大寺正倉院御物圖繪 ❶(B) Tō-dai-ji-shō-sō-in-gyo-butsu-zu-e. ❷三軸 ❸存 ❼寫本(帝國,五・三八)

東大寺正倉院御開封記錄附什物圖 ❶(B)Tō-dai-ji-shō-sō-in-go-kai-fū-ki-roku-tsuketari-jū-motsu-zu. ❷一卷 ❸存 ❺元祿六寫 ❼(帝室,一一四・四七)

東大寺正倉院藏子日鋤及子日考證 ❶(B)Tō-dai-ji-shō-sō-in-zō-ne-no-hi-no-saki-oyobi-ne-no-hi-no-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第五

東大寺正倉院實藏開封記 ❶(B) Tō-dai-ji-shō-sō-in-hō-zō-kai-fū-ki. ❸存、溫古二十四種之內 ❹寫本(帝國,二三一・六一)

東大寺造立供養記 ❶(B)Tō-dai-ji-zō-ryū-ku-yō-no-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二、群書類從第一六、新校群書類從第一九

❹本書は大和東大寺再興に關する記錄である。安德天皇治承四年十二月廿八日東大寺が平清盛の兵燹に罹り灰燼に歸したので、聖武年(養和元年)後白河法皇再興の勸書を出し給ひし事に起筆し、後乘房重源其の幹事に當り、十餘年の歲月を費して遂に東大寺造立、金銅盧舍那佛像の再鑄に成功せし狀況を錄述し、尋で建仁三年十一月卅日後鳥羽上皇は千僧を集め公卿百官を從へて行幸、源觀朝は鎌倉より請將を率ひて同列し盛大なる大佛供養會を修した有樣を述べてをる。而して終りに當大佛殿につき、養に造立せられたる聖武帝の時と今度の造立とを比較して其の優れたる點十二を擧げてゐるのは注目すべきである。尙末尾に後花園天皇享德元年東大寺戒壇院再興の勸進文が附載されて居るのは其の著作年代を暗示するものである。 (高倉永輝)

東大寺續要錄 ❶(B)Tō-dai-ji-zoku-yō-roku. ❷九卷 ❸存、續續群書類從第一一

❹東大寺要錄の續篇にして、原本は正錄と同じく東大寺にあり國寶である。目次は造佛篇、供養篇(本末)、請會篇(本)、佛法篇、諸院篇、拜堂篇、寺領章、寶藏篇の八篇である。原本に造佛篇を第一とし、寶藏篇を第十とするより見れば、もと正錄と同じく十卷あつたものであらうが、請會篇の末が古く散佚して現存本は九卷である。集成年次並に作者正錄と同じく明かでないが、供養篇(末)の奧書には「于時文明十九年丁未林鐘下旬第二天修功訖聖日一校之」とあり、同じく拜堂篇奧書には「于時文明十七年乙巳七月二十一日筆修之云々」とあつて、大略

文明年間には御寫せられてゐた事を知るのである。正錄と共に史實研究上尉强の好史料たるは言ふ迄もない。尙此後々群書類從本は黑川眞道氏藏本と東大寺文庫本より採收せられてゐる。

（藤島達朗）

東大寺尊勝院々主次第 ❶(B)Tō-dai-ji-son-shō-in-in-shu-shi-dai. ❸存、大日本佛教全書第一二二 ❹持寶撰、道恕追加 ❺文安二(A.D.1445)撰、元祿五(A.D.1692)追加

❻本書は東大寺尊勝院主歷代の系譜である。尊勝院は其初め尊勝堂と稱し大佛殿の西の小室で來だ一寺院を成さず代々の東大寺別當の居住する所であつたが、村上天皇の時勅に依つて當院を建立され、華嚴長吏賞首上綱の居住を定められた。初代は傳燈大法師光智である。

本書は先に文安二年(A.D.1445)六月十日に當院第二十七世法印權大僧都持寶の撰になるものと其後元祿五年(A.D.1692)五月の大僧正道恕の追加とから成つてゐる。持寶のものには尊勝堂時代即ち當時の開基である根本僧正良岑から傳燈大法師基過に至る代々の東大寺別當の補任を記し、次いで尊勝院の初代光智から第二十七代持寶に至る世代を擧げ、此間光智の所には尊勝院への大政官牒、第十三世神曉の所には治承の兵火の事及び之が再興の始末其他を附記してゐる。以上が文安二年に持寶に依つて筆錄されたもので此の終に彼の奧書がある。次に二十八代禮僧正公深から三十六代大僧正道恕迄の追加があつて元祿五年五月道恕に依つて補記された旨の奧書がある。更に明和三年(A.D.1766)書寫の法師位湛盧の奧書がある。

（不破幹雄）

東大寺尊勝院記追加 ❶(B)Tō-dai-ji-son-shō-in-ki-tsui-ka. ❸存、大日本佛教全書第一二二 ❹成某

❻本記は東大寺尊勝院の第十五代法印道性、第二十七代法印權大僧都持寶兩師補任の奏請狀を北林主人成某が撰錄したものである。即ち道性のものは「上啓可任權少僧都事」、「請之」、「可被下任權少僧都事」、「請之」、「疎案云天恩、因准先例、依公請、被下任權少僧都事」、「請之」、「疎案云天恩、因准先例、依公請勞、被下任權大僧都狀」(建暦二A.D.1212)、「請之疎案云天恩、因准先例、依公請勞、被下任權大僧都狀」(同年)、「請之疎案云恩裁、謂明年維摩會講師上請狀」(同年)、「請之疎案云天恩、因准先例、可依公請勞、被下叙法印事」(建保三年五月)、「上啓狀、依三會講師叙法印事」、「請、被叙法印狀」(元和二年A.D.1616)の八通、持寶のものは「早狀、任當寺別當職」之間事」(嘉吉元年A.D.1441)の一通である。之等の奏狀に依つて當時に於ける東大寺內外教團の情勢或は寺運等が窺はれる。

（不破幹雄）

東大寺尊勝院記附錄 ❶(B)Tō-dai-ji-son-shō-in-ki-fu-roku. ❸存、大日本佛教全書第一二二 ❹成某

❻本書は足利の初期から德川の永應三年(A.D.1654)に至る間の東大寺尊勝院に關する古文書三十八を成某の撰錄したものである。之等の文書は主として當院及び鎭守八幡宮の所領、良岑僧正御庵室所管の作其他に關するもので當時の根本史料たるべきものである。尙之等の文書に依つて當時に於ける東大寺と朝幕との關係、或は當寺の教界乃至社會上の地位等の一班をも窺ひ得る。

（不破幹雄）

東大寺尊勝院華嚴宗別當權僧正宗性法印一代執筆書籍目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-son-shō-in-kegon-shū-bet-tō-gon-gō-jō-shō-shū-hō-ia-ichi-dai-shin-pitsu-shō-sō-ki-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研佛)

東大寺尊勝院寶庫書籍目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-son-shō-in-hō-ko-shō-mokuroku. ❷十一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東大寺大佛開眼供養 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-kai-gen-ku-yō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第二

❻本書は文治元年(A.D.1185)八月廿八日の東大寺大佛開眼供養の記錄である。これより先元暦二年(A.D.1184)七月廿九日附の大佛開眼供養厳修の宣旨、文治元年八月十七日の大佛開眼定の事、東大寺大佛開眼供養會日附名、同年八月二十三日附の大勸進俊乘坊重源の願白文などを揭げ、次に愈愈八月廿八日、後白河法皇臨御のもとに公家僧衆厳かに大佛開眼の供養會を修した次第を詳細に記されてゐる。當時の供養會は其趣かの真觀三年(A.D.861)正月二十一日の符の如くとか或は御齋會に準ずべしなどとあるが其の盛儀も折惡しく豪雨の爲め未だ大佛殿の成らない式場の雜設の程が偲ばれる。筆者は未詳であるが當式會の參列者に依つて其直後に筆錄されたものである事は想像し得る。

（不破幹雄）

東大寺大佛開眼供養記 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-kai-gen-ku-yō-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第一 ❹唐性、淨性 ❺元祿五(A.D.1692)四月

❻元祿五年(A.D.1692)三月八日から四月八日迄三十一日に亘つて修せられた東大寺大佛開眼供養に就いてその式場の莊厳と法式の次第を詳細に筆錄したものである。終りに當法會中の僧俗受齋者の數を擧げてゐるが之を以てしてもその盛儀が偲ばれる。元祿五年四月に當供養會の法事奉行であつた金珠院唐性及び地藏院淨性の筆錄する所である。

（不破幹雄）

東大寺大佛開眼式 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-kai-gen-shiki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第二

❻文治元年(A.D.1185)八月廿八日に行はれた東大寺大佛開眼供養の式場の莊厳及び式次を詳錄したものである。終りに參議藤原兼光(藤原伊經消書)及び文章博士菅實朝臣の二啓白文がある。

（不破幹雄）

東大寺大佛記 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-ki. 東大寺大佛堂緣起碑文、東大寺大佛殿佛前板文、東大寺大佛殿佛前板文、東大寺大佛殿碑文陰子銘文 ❷一卷 ❸存

一東大寺叢書第一、群書類從第一五、新校群書類從第一九

❻本書は大和東大寺の本尊金銅盧舍那佛像造立の由來を記したものである。內容は初め聖武天皇天平十五年十月十五日菩薩の大願を以て國訓を盡し盧舍那金銅佛像一軀の造立を發願し給ひし事より起筆し、鑄造の曲折を經て天平勝寶四年四月九日開眼供養を營む迄の經過の大略を記し、次に大佛及び脇士四天王等の尺度、佛具伽藍の結構などを精細に記錄し、終に佛師、鑄師、大工等の名を連署し、大佛建立につき餘す所なく說明せられてゐる。

本書は三善爲康の朝野群載所收の東大寺大佛殿佛前板文と殆んど同文である。尙又延曆寺阿闍梨皇圓の扶桑略記の聖武孝謙兩帝の記事中に略同文が所々に散見記述せられてゐる。

❹古寫本(宮內省圖書寮)

東大寺大佛殿緣起 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-den-en-gi. 南都大佛殿緣起 ❷一卷 ❸存 ❺天明三刊 ❹(谷大、餘大、二六〇三)(帝國、一三九・一六九)

東大寺大佛堂緣起碑文 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-butsu-dō-en-gi-hi-bun. 東大寺大佛記、東大寺大佛殿佛前板文、東大寺大佛殿碑文陰子銘文 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第一、群書類從第一五、新校群書類從第一九 ❹東大寺大佛記の下を見よ。

東大寺勅封藏目錄記 ❶(B)Tō-dai-ji-choku-fū-zō-mokuroku-ki. ❷二卷 ❸存、續々群書類從第一六

❻上下二卷あり、上卷は建久四年八月二十五日正倉院勅封藏を修理するため開封の事行はれた際の記錄で、嗣封藏に移された時の次第、並に其の寶物目錄がその主要な部分であるが、翌年三月二十日修理完成返納の際、大勸進俊乘房重源が、其の中より錫杖十支を賜つた事を最後に附記してゐる。下卷は寬元元年七月二十三日寶庫雨漏り甚りなるに依つて勅封藏の修理あり、寶物を西印藏に移した事、及び弘安十一年四月二十三日後深草上皇の南都御幸の際に於ける御開封の事等を記述する所である。

（藤島達朗）

東大寺圖書館因明部目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-to-sho-kwan-in-myō-bu-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研佛)

東大寺圖書館貴重書目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-to-sho-kwan-ki-chō-shu-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大・二〇一六・六)

東大寺圖書館倶舍部目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-to-sho-kwan-ku-sha-bu-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大・二〇一六・七)

東大寺圖書館三論部目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-to-sho-kwan-san-ron-bu-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大・二〇一六・八)

東大寺圖書館特別貴重書目錄 ❶(B)Tō-dai-ji-to-sho-kwan-tokubetsu-hi-chō-sho-mokuroku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大・二〇一六・一〇)

東大寺銅大燈臺銘附法華堂花瓶並火舍銘 ❶(B)Tō-dai-ji-dai-dō-dai-mei-tsukeri-hok-ke-dō-kwe-byō-narabini-kwa-sha-mei. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第一

❻東大寺銅大燈臺とは、現に大佛殿の前にある有名な國寶の銅造八角燈籠で、銘は其の下部燈柱にある。刻する所は菩薩本行經、阿闍世王受決經、業報差別經、施燈功德經等の要文にして、主として燈燈の意味並に功德を明かす所である。因みに同燈籠は高さ一丈三尺、其の扉に陽刻せられる菩薩の豐麗な姿態は殊に有名であり、天平盛期工藝の最優作として夙に喧傳せらるゝ所である。法華堂(三月堂)花瓶並に火舍銘は次の樣である。文永二年乙巳閏四月日銅細工大□□智、東大寺法華堂花瓶一具□花作者令勸進奉錄之。文永二年閏四月日銅細工沙彌□智、東大寺法華堂火舍一具有大人□者令勸進奉錄之。

（藤島達朗）

東大寺並東寺款狀 ❶(B)Tō-dai-ji-narabini-tō-ji-kwan-jō. ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第一 ❹藤原惟房 ❺天永三(A.D.1112)

❻天永三年十一月廿日の參講大藏輔藤原朝臣惟房の啓白文である。「建久七年(A.D.1196)七月六日武藏國於一村同政所、書了」の奧書がある。

（不破幹雄）

東大寺奴婢籍帳 ❶(B)Tō-dai-ji-nu-hi-seki-chō. ❷一卷 ❸存、群書類從第一八

❻本書は東大寺へ賣進せられた奴婢の戶籍の記錄である。大宅可是麻呂が天平勝寶元年に賣進した時の解文を初め、同二年、天平十三年、同十五年、同十八年、寶龜三年等に進獻せられた時の奴婢帳を收錄したものである。本書の奧書によれば本書は延寶九年(天和元年)六月僧油倉が南都東大寺に至り原本より寫し取つたものであるが奴婢帳の類は多數あつて繁雜の爲め僅かにその一部を取寫した事を記述してゐるが、現今正倉院文書中なる東南院文書中には事實更に多くの原本を所藏し是等が大日本古文書として刊行せられつゝある事からして此の奧書の事實を實際に裏書するものとして興味ある事である。

（高倉永輝）

東大寺八幡緣起文 ❶(B)Tō-dai-ji-hachi-man-en-gi-mon. ❷一軸 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❹(寶善提院)

東大寺八幡驗記 ❶(B)Tō-dai-ji-hachi-man-ken-ki. ❷一卷 ❸存、續群書類從第三 ❹呈寶、德治元—貞治元(A.D.1306—1362)

❻東大寺八幡は後に手向山八幡と稱せられ、現今は奈良市雜司町に存在する。東大寺大佛造立の爲めその守護神として天平勝寶元年八幡大神の神託により豐前國宇佐から勸請したもので、同年十二月大和平群郡梨原宮に新殿を設けて奉齋した。其後梨原から大佛殿の近傍に遷され更に現地に遷宮せられたのである。此の東大寺八幡の緣

起並敎論を記述したのが本書である。内容は序文に次いで當寺影向事、御本地等事、可傳法味事、敬神肇國論二世事、可正直專精進事、奏上以後造宮等事、御入洛先例等事、の七章に分けて叙述せられてゐる。（高倉永經）

東大寺八幡轉害會記 ❶(日)Tō-dai-ji-hachi-man-ten-gai-e-no-ki. ❷二卷 ❸存、續群書類從第三 ❺文明一四(A. D. 1482)

❻東大寺八幡即ち手向山八幡の手蓋會の記である。轉害會は手蓋會の音譯で放生會と異名同意のものである。手蓋會は毎年九月三日に執行せられる行事で天平勝寶元年十二月初めて宇佐八幡から東大寺へ勸請された時の儀式に則つたものと傳へられる。手蓋の意味は八幡尊神が宇佐より著御の時手を以て諸神を招き給ひしと云ふ故事に依るものである。上下二卷に分れて居り上卷には行列次第、下卷には主として神事の狀況を何れも圖解せられてゐる。續群書類從所收のものはその繪圖を多少略して載せられてゐるが、大體原本の體裁はこれにより窺ひ得られる。（高倉永經）

東大寺別當次第 ❶(日)Tō-dai-ji-be-tō-shi-dai. ❷一卷 ❸存、群書類從第三、新校群書類從第三 ❹快圓

❻本書は天平勝寶四年五月華嚴宗の始祖少僧都良辨の叙任に初まり、第百四十三世權僧正隆實が文安四年十二月寺務に任ぜらるる迄六百九十六年間に於ける大和東大寺の別當職の補任次第を列記せるものである。別當とは元來本官より別にその職に當る義で副職であつたのが後に本官となり公私共に置かれた職名である。併し僧官としての別當は諸寺の長官で一山を統轄する最高の職務である。本書によれば貞觀年間より長久年間まで即ち藤原氏全盛時代には僧侶の外に俗別當なるものが置かれ左右大臣の如き重職者がこれに當つた例が載せられてゐる。東大寺の貴會的地位がこれに依つて窺ひ知られる。付編者快圓は東南院智禪に師事し、三論を學び且つ法相俱舍をも究め、定春と並び稱せられた學僧である。（高倉永經）

❾寫本(帝室)

東大寺法隆寺の美術 ❶(日)Tō-dai-ji-ho-ryū-ji-no-bi-jutsu. ❸存、黑川眞賴全集第三

東大寺法華堂要錄 ❶(日)Tō-dai-ji-hoke-dō-yō-roku. ❷一卷 ❸存、續々群書類從第五

❻東大寺法華堂(三月堂)の記錄にして、大略長祿三年より文明十五年に至る。書中、往々「京都大變條々の事」等の如き奈良京都間に於ける世上の諸變を記載してゐるが、時寇も應仁兵亂期であり、當時の狀況を側面觀する好個の史料である。（藤島達朗）

東大寺文書目錄 ❶(日)Tō-dai-ji-mon-jo-moku-roku. ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東大寺要錄 ❶(日) Tō-dai-ji-yō-roku. ❷十卷 ❸存、續々群書類從第一一 ❹釋覺鑁

❻奈良東大寺に關する諸記錄を編集したもので、原本は東大寺に所藏され、明治三十二年に既に國寶に指定せられた。

内容は十卷より成り、各卷は左の如く配當せられる。本願章第一(卷一)、緣起章第二(卷二)、佛奬章第三(卷三)、諸院章第四(卷四)、諸會章第五(卷五)、諸宗章第六(卷五)、別當章第七(卷五)、封庄章第八(卷六)、東寺章第九(卷六)、雜事章第十(卷七、八、九、十)。編集年代並に編者は明かでないが、卷一の序文に「于時寫永元年孟秋」とあり、卷十の奥書に「長永三年八月十日東大寺僧覺鑁集之」とあるに依つて大略寫永より長永即ち平安中期の末頃に其の大部分が出來た事を知るのである。併し關後漸次增補せられたと見へ、記事は鎌倉時代の文應年間に迄至つてゐる。故に覺鑁その人を全部の編者とはなし得ないが、少くともその主要なる部分を擔當した一人である事には間違ひない。編纂年次此の如く古く、且つ東大寺に關するあらゆる史料を網羅する點、眞に佛敎史並に國史研究上の貴重なる資料と言はねばならぬ。續々群書類從本は東京帝大圖書館藏小山田與清校合影寫本を以て底本とし、丹鶴叢書本にて校訂したものであるが、誤字の多いのを遺憾とされてゐる。

❾仁治二寫(龍大、別置)（藤島達朗）

東大寺六宗未決義 ❶(日)Tō-dai-ji-roku-shō-mi-ketsu-gi. ❷一卷 ❸存 大日本佛敎全書第三諸宗要義集之內

❻寶龜六年(A. D. 775)鑑を以て申上せしめたる諸宗未決文義並未度來書等の事。即ち華嚴宗の六條。法相宗の十九條。無相大乘宗の十條。成實宗の二條。俱舍宗の一條を舉げ。一宗故に缺くる所あるは或は律宗か。

東臺子院諸略 ❶(日) Tō-dai-shi-in-ta-ryaku. ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東都伽藍記 ❶(日) Tō-to-ga-ran-ki. ❷二卷 ❸存 ❾寫本(帝國、二三一・二四六)

東都寺院方角獨案內 ❶(日)Tō-to-in-in-ho-gaku-hitori-an-nai. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(帝國、一〇六・二一一)

東都寺雹集 ❶(日) Tō-to-tera-kasami-shō. ❷二卷 ❸存 ❺享保一六刊 ❾(谷大、餘大・三五九二)

東都法華伽藍記 ❶(日)Tō-to-hokke-ga-ran-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東都本化道場記 ❶(日)Tō-to-honke-dō-jō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹運霜 ❺天保一一刊 ❾(谷大、餘小・一一六)(龍大、二九七四・三八)

東都本迹問答記 ❶(日)Tō-to-honjaku-mon-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(立大、D〇・八〇)

東都靈山記 ❶(日) Tō-to-rei-zan-ki. ❷一卷 ❸存 ❻主として淨土宗寺院の記なり。❾寫本(谷大、宗大・一三八三)

東渡集 ❶(日)Tō-to-shū. 來々禪子東渡集 ❸存、大日本佛敎全書第九六竺僧和尙語錄之內 ❹竺仙梵僊(正應五—貞和四 A. D. 1292—1348) ❻來々禪子東渡集の

下を見よ。❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東渡諸祖傳 ❶(日) Tō-to-shō-sō-den. ❷二卷 ❸存 ❹性濬高泉(寬永一〇—元祿八 A. D. 1633—1695)述 ❺大正一四刊 ❾(龍大、二九六四・四〇)(京大、一・二五ト・三)(立大、A五〇・八四)(晉、な・七・左・一)

東渡南游記 ❶(日) Tō-to-nan-yū-ki. ❸存 ❹實外格峰 ❼(參考) 禪籍目錄

東渡筆談 ❶(日) Tō-to-hitsu-dan. ❷一册 ❸存 ❾(晉、と・二・左・三二)

東渡夜話 ❶(日)Tō-to-ya-wa. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

東土十七祖 ❶(日)Tō-do-jū-shichi-so. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(京大、藏・一九ト・一)

東塔緣起 ❶(日)Tō-tō-i-n-gi. ❷一卷 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❼(參考) 山家祖德撰述當目集卷上

東塔實藏坊眞如藏目錄 ❶(日) Tō-tō-jitsu-zō-bō-shin-nyo-zō-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、二〇一六・一一)

東塔實藏坊眞如藏目錄追加 ❶(日)Tō-tō-jitsu-zō-bō-shin-nyo-zō-moku-roku-tsui-ka. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、二〇一六・一二)

東南院務次第 ❶(日) Tō-nan-in-mu-shi-dai. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第一二三東大寺叢書第二

❻東南院は自觀十七年(A. D. 875)聖寶の創建、其の後延喜四年(A. D. 904 一說には五年)に大安寺の佐伯院(或は香積院とす)を此處に移し聖寶を以て當院主第一世とする。大佛殿の南側に在つて三論講學の根本道場と爲り、同殿の北側に在る菩提院と共に東大寺の幹事であつたが近世に至り廢絕す。本書は當院主の歷代即ち第一僧正聖寶から第三十七入道親王尊孝(延享五年 A. D. 1748 寂)に至る各々院務相承の次第を記すものである。（不破幹雄）

東南堂詩歌 ❶(日)Tō-nan-dō-shi-ka. ❷一卷 ❸存 ❹慧鐵(元祿七—寶曆元 A. D. 1694—1751) ❾寫本(龍大、二〇九二・三四)

東派院家願書附御老中御書 ❶(日) Tō-ha-in-ke-gan-sho-tsuketa-ri-ro-jō-go-sho. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大)

東坡居士の禪喜 ❶(日) Tō-ba-ko-ji-no-zen-ki. ❸存、六大家講演之內 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918) ❺大正二刊 ❿東京曹洞宗青年會

東坡居士佛印禪師語錄問答 ❶(日) Tō-ba-ko-ji-butsu-in-zen-ji-go-roku-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(京大、藏・二四ト・一〇)(內閣)

東坡詩抄 ❶(日)Tō-ba-shi-shō. ❷三十卷 ❸存 ❹宗二 ❼(參考) 禪籍目錄

東坡禪喜集 ❶(日) Tō-ba-zen-ki-jū. (支)Tung-p'o-ch'an-hsi-chi. ❷五卷 ❸存、禪林叢書第一 ❹宋蘇軾(—建中靖國元 A. D. 1101) ❾元祿二刊(帝國、八二一・六二、一〇八・二六)寫本(京大、藏・一七ト・五)(高大、寄・一・二五)

東坡物類相感志 ❶(日) Tō-ba-motsu-rui-sō-kan-shi. (支)Tung-p'o-wu-lei-hsiang-kan-chih. ❷一卷 ❸存 ❹宋蘇軾(—建中靖國元 A. D. 1101) ❺元祿三初刊文化二刊 ❾(駒大)

東坡問答錄 ❶(日)Tō-ba-mon-dō-roku. (支)Tung-p'o-wen-ta-lu. ❸存、寶顏堂秘笈第一三册之內 ❹宋蘇軾(—建中靖國元 A. D. 1101) ❾(帝國、一五三・四一)

東播眞淨寺釋智還複干 ❶(日) Tō-ban-shin-jō-ji-shaku-chi-sen-fuku-kan. ❷一卷 ❸存 ❹智還(元祿三—明和五 A. D. 1693—1768) ❾寫本(龍大、一七四・八)

東風記 ❶(日)Tō-fū-ki. ❷三軸 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

東福開山聖一國師年譜 ❶(日) Tō-fuku-kai-san-shō-ichi-koku-shi-nen-pu. 聖一國師年譜 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第九五 ❹徹牛圓心(—弘安四 A. D. 1281—)編、岐陽方秀(貞治二—應永三一 A. D. 1363—1424)校 ❺聖一國師年譜の下を見よ。❾應永二四刊(帝國、八二一・一六八)元和六刊(龍大、研史)

東福紀年錄 ❶(日)Tō-fuku-ki-nen-roku. ❷一卷 ❸存、群書類從第一六、新校群書類從第一八

❻本書は洛東東福寺の創立沿革を年次に順つて記述したものである。東福寺は四條天皇嘉禎二年(皇紀一八九六)關白九條道家の發願に依つて工を起し、後嵯峨天皇寶元元年(皇紀一九〇四)橫岳の洪惠の薦により聖一國師圓爾辨圓を開山第一世となし、後深草天皇建長七年(皇紀一九一五)に至り略々竣功したので道家の三子一條實經が落慶供養を行つた。東福寺の名は國家安寧を祈り君臣壽福を祝する願意を以て、洪基を東大寺に遜ぎ、盛業を興福寺に取つて名付けられたものである。本書の內容は嘉祿二年の九條道家の造寺發願より起筆し、以上の如き創建過程を叙し、一條實經の寺領寄進、聖一國師の入寂の事等より後陽成天皇天正十七年(皇紀二二二四九)十二月朔日秀吉が當寺門前境內の地子金を免除する迄凡そ三百五十年間の重要事項を七十件に亘り記載したものである。東福寺の寺領に付いては菩提院、國師日記等にも見えてゐるが本書に依れば歷世に亘つての變遷が通覽せらるゝ便利がある。

❾舊昌平坂學問所古寫本(內閣文庫)（高倉永經）

東福四十三世性海和尙行實 ❶(日) Tō-fuku-shi-jū-san-se-shō-kai-ō-shō-gyō-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東福寺伽藍記 ❶(日) Tō-fuku-ji-ga-ran-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

東福寺誌 ❶(B)Tō-fuku-ji-shi. ❷一冊 ❸存 ❹皮月編 ❺昭和五刊 ❹(京大、一・二二ト・三)(谷大)

東福寺住持位簿 ❶(B) Tō-fuku-ji-jū-ji-i-bo. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東福寺清規 ❶(B)Tō-fuku-ji-shin-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、印哲Q・三七)

東福寺圖 ❶(B) Tō-fuku-ji-zu. ❷一枚 ❸存 ❹(帝國、一〇六・一九六)

東福寺第十一世南山和尚行實 ❶(B)Tō-fuku-ji-dai-jū-i-se-nan-zan-o-shō-gyō-jitsu. 南山和尚士曇行實 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹竹庵大鍬(—永享一一A. D.1439)撰 ❺南山和尚士曇行實の下を見よ。

東福寺塔頭宗派 ❶(B) Tō-fuku-ji-tac-chō-sha-ha. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

東福寺手日記 ❶(B) Tō-fuku-ji-te-nik-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

東福寺文書 ❶(B)Tō-fuku-ji-mon-jo. ❷五卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

東福寺友山士偲禪師度牒 ❶(B) Tō-fuku-ji-yu-zan-shi-shi-zen-ji-d-cho. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、別冊)

東福寺靈五集 ❶(B) Tō-fuku-ji-rei-gyoku-sha. ❷一冊 ❸存 ❹恩賜京都博物館編 ❺昭和五刊 ❹(京大、一・二二・大別)

東福諸祖行狀 ❶(B)Tō-fuku-sho-so-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

東福聖一國師法語 ❶(B)Tō-fuku-shō-ichi-koku-shi-hō-go. ❷一冊 ❸存 ❺慶安元刊 ❹(高大、寄・一・二五)

東福禪寺伽藍記 ❶(B) Tō-fuku-zen-ji-gy-ran-ki. ❷一卷 ❸存 ❹(帝國、一六六・二二三)

東福第十世勅賜佛印禪師直翁和尚塔銘 ❶(B) Tō-fuku-dai-jū-sei-choku-shi-butsu-in-zen-ji-jiki-ō-o-shō-tō-mei. 直翁和尚塔銘、佛印禪師直翁和尚塔銘 ❸存、續群書類從第九 ❹海藩(文保二—應永八A. D.1318—1401)撰 ❺直翁和尚塔銘の下を見よ。

東福第八世法照禪師十乘坊行狀 ❶(B) Tō-fuku-dai-hac-se-hō-sho-zen-ji-jō-jō-bō-gyō-jō. 法照禪師十乘坊琛海行狀 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❺法照禪師十乘坊琛海行狀の下を見よ。

東福二十五世古源和尚傳 ❶(B)Tō-fuku-ni-jū-go-se-ko-gen-o-shō-den. 古源和尚傳、東福二十五世古傳和尚即元傳 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❺古源和尚傳の下を見よ。

東福二十三世無德和尚行實 ❶(B) Tō-fuku-ni-jū-san-se-mu-toku-o-shō-gyō-jitsu. 無德和尚行實 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❺無德和尚行實の下を見よ。

東福佛通禪師枯木集 ❶(B)Tō-fuku-but-tsū-zen-ji-ko-boku-shū. 枯木集 ❷二卷 ❸存、禪門法語全集第五、國文東方佛教叢書第一輯第三法語部、禪門法語集卷中 ❹堀瓦大慧(寛喜元—正和元A. D. 1229—1312) ❺枯木集の下を見よ。 ❻寫永一八刊 ❹(龍大、研佛)

東福佛通禪師十牛決 ❶(B)Tō-fuku-but-tsū-zen-ji-jū-gyū-ketsu. 十牛訣 ❷一卷 ❸存 ❹堀瓦大慧(寛喜元—正和元A. D. 1229—1312)述 ❹(龍大、二六七二・六二)

東方有緣の聖者大日蓮 ❶(B) Tō-hō-u-en-no-sei-ja-dai-nit-chi-ren. ❷一卷 ❸存 ❹岡村智風著 ❺昭和二刊 ❹東京日東社

東方偈講義 ❶(B) Tō-hō-ge-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹堀江慶了(—明治二九A. D.1896) ❺明治一五寫 ❹(谷大、宗大、三九三〇)

東方最勝燈王陀羅尼經 ❶(B) Tō-hō-sai-shō-tō-ō-da-ra-ni-kyō. (支) Tung-fang-tsui-shêng-tê-wang-tu-lo-ni-ching. ❷一卷 ❸存、大正二一・八六六No. 1353、鳩摩羅什(弘一一・二二、南355過、羅350知 ❹國那崛多(普通四—開皇二〇A. D. 532—600)譯 ❹隋開皇五—二〇(A. D. 585—600)

東方最勝燈王如來經 ❶(B)Tō-hō-sai-shō-tō-ō-nyo-rai-kyō. (支)Tung-fang-tsui-shêng-tê-wang-ju-lai-ching. (梵藏)翌最上燈明如來陀羅尼經參照。東方最勝燈王如來助護持世間神呪經、最勝燈王神呪經、東方最勝燈王如來證二菩薩說呪奉釋迦如來助護持世間經、釋迦如來護持世間經、如來護持世間經、燈王如來經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八六八No. 1354、鳩摩羅什(弘一一・二二、北349過、南355過、元356過、明北352回、清352回、羅351知、天357過、指320知、法342知、至699慶、明南353莫、Nj. 366 ❹國那崛多(普通四—開皇二〇A. D. 532—600)譯 ❹隋開皇五—二〇(A. D. 585—600)

❹東方無邊華世界の最勝燈王如來の陀羅尼の功德を說いたものである。內容は一時佛舍衛城の祇樹給孤獨園に無量の菩薩並に大梵天、帝釋天、四天王、功德天、鬼子母神等の天神と俱に居られた時に、東方無邊華世界に最勝燈王如來と名づくる佛あり、大光菩薩、甘露光菩薩の二菩薩をして妥婆世界の釋迦牟尼に、彼の佛の陀羅尼を將した。卽ち彼の二菩薩は此の妥婆世界釋迦牟尼の所に至り、釋迦牟尼に對し、將す所の陀羅尼章句は、比丘尼、優婆塞、優婆夷の四衆、或は鬼神、或は魔等の侵害擾亂を除き、衆生の爲に擁護をなし安樂ならしむる功德あることを述ぶ。次に釋迦牟尼世尊は、阿難に此の陀羅尼を受持し、他の爲に解說し宣布せよと告げ、又此の

陀羅尼を受持讀誦せる者の功德を示された。時に阿逸多菩薩、文殊師利童子は各自の陀羅尼呪を說き、世尊は阿難に亦常に受持し、他の爲に宣說流通せんことを告げ、世尊は衆生を利益し安樂ならしめ、功德を增長せしめんが爲に、自ら諸種の陀羅尼を說き、阿難をして自ら受持し、他の爲に廣く流布せしめ、更に各陀羅尼の種種の功德あることを明し、次に偈を以て此の陀羅尼章句の功德を歎じ、次に彼の二菩薩(大光菩薩、甘露光菩薩)及び四天王の各陀羅尼章句を明し、復た世尊、阿難の爲に此の陀羅尼を受持する者は、水火刀杖毒藥の危難、鬼神病魔の侵害、毒獸毒蟲の恐怖を解脫し能く大利益を得、智慧辯才を增長する功德を說き、次に偈を擧げ再び此の功德を說き卷を終つてゐる。又本經の異譯に、持句神咒經(呉支謙譯(大正二一)、聖最上燈明如來陀羅尼經(宋施護譯(大正二一)の三譯あり。又高麗藏には本經の外に國那崛多譯の東方最勝燈王陀羅尼經(大正二一)との二本を收め、宋元明の三本には此の東方最勝燈王陀羅尼經を闕いてゐる。蓋し本經は元と丹藏に收載せられてゐたもので、麗本には之に東方最勝燈王陀羅尼經を加へて二本ならび收めたものである。是れは文の上に廣略の不同があつた爲であるが、此の東方最勝燈王陀羅尼經は恐らく開元錄第十二(大正五五・六〇〇c)に第一譯持句神咒經、第二譯陀隣尼鉢經、第四譯東方最勝燈王如來經の三經を擧げ「右三經同本異譯、前二本略後經粗顯後四譯三存一闕其最勝燈王經菩錄寫原本新翻梵重譯」とある、卽ち前後四譯の中、三譯は存し一譯(第三譯)東方最勝燈王陀羅尼經を闕いてゐると云ふ所の此の一闕に相當せるもので、麗本に之を始めて拾遺編入したものであらう。

❼(參考) 內典錄第五、第九、開元錄第七第十二、貞元錄第一〇 (神林隆淨)

東方最勝燈王如來遣二菩薩送呪奉釋迦如來助護持世間經

❶(B) Tō-hō-sai-shō-tō-ō-nyo-rai-ken-ni-bo-satsu-o-o-jū-hō-sha-ka-nyo-rai-jō-ju-ji-se-kon-gyō. (支) Tung-fang-tsui-sheng-wang-ju-lai-chien-êr-pu-sa-sung-shih-chia-ju-lai-chu-hu-chih-chieh-ching. 東方最勝燈王如來助護持世間神呪經、最勝燈王神呪經、如來護持世間經、燈王如來經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八六八No. 1354、鳩摩羅什(弘一一・二二、北349過、南355過、元356過、明北352回、清352回、羅351知、天351回、指320知、法342知、至699慶、明南353莫、Nj. 366 ❹國那崛多(普通四—開皇二〇A. D. 532—600)譯 ❹隋開皇五—二〇(A. D. 585—600)

東方最勝燈王陀羅尼經 ❶(B) Tō-hō-sai-shō-tō-ō-da-ra-ni-kyō. (支) Tung-fang-tsui-sheng-tê-wang-tu-lo-ni-ching. ❷一卷 ❸存、大正二一・八六六No. 1353、鳩摩羅什(弘一一・二二、南355過、羅350知 ❹國那崛多(普通四—開皇二〇A. D. 532—600)譯 ❹隋開皇五—二〇(A. D. 585—600)

❹本經は、その內容に於て、東方最勝燈王如來經と其略の異りがあり、眞言に於ても相違する所はあるが、大體に於て同一類の經である。但し今の經は他の經に比して、

東方最勝燈王如來助護持世間經 ❶(B) Tō-hō-sai-shō-tō-ō-nyo-rai-kyō-jō-kō. ❷一卷 ❸存、群書類從第一八 ❹本書は法成寺東北院供養の記錄である。東北院は長和三年(皇紀一六九〇)八月二十一日御書令に準じて供養の儀式が嚴修せられた。供養に當り之に關係の公卿僧侶等を夫々功を論じて賞を行ひ、又諸人に特赦を行つてゐる。其の典儀の盛況を評して「往古不聞事也」とあるのを以て見ても其の盛大さが察せられる。東北院供養の事は小右記、日本紀略、歷代編年集成、扶桑略記、皇年代略記首書、東寺王代記、華頂要略、今鏡等に見えてゐる。尙は諸寺塔供養記には同院供養の記事を三文收錄してゐる。群書類從所收本は其の內小右記所載の分と同文である。 (高倉永經)

東曼荼羅抄 ❶(B)Tō-man-da-ra-shō. ❷三卷 ❸存、大正七五・七一八No. 2411、鎌倉末期、東寺長者・法務・別當・供僧・三綱・年分度者・阿闍梨職・永宣旨等に關することを述べてゐる。偽て東寶記は東寺三寶記の略稱たる事明である。東寺の創立以後六百餘年間の史實を研究する根本史料として貴重なもので、東寺所藏の草本は現に國寶に指定せられてゐる。その記事は呉寶滅後の康安・貞治・康曆・永德・應永年中にまで及んでゐるが、これは弟子賢寶の補記と思はれる。

❹延享四寫(谷大、餘大・二三五九)寫本(東寺觀智院)(帝室、(龍大、二九七四・三九) (小田慈舟)

東北院供養記 ❶(B)Tō-hoku-in-kū-yō-ki. ❷一卷 ❸存、群書類從第一六、新校群書類從第一八

東密三部秘鈔別卷 ❶(日) Tō-man-da-ra-shō-bek-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹寺院(天暦九—応徳元 A. D. 955—1037)頃

❺平安時代末期の成立。大日経・金剛頂経・蘇悉地経の三部密教の教理を説いた書。

東密学生手鑑 ❶(日)Tō-mitsu-mat-to-te-kagami. ❷1卷 ❸存 ❹土田杏村(文政11—明治四〇 A. D. 1828—1907)

東明和尚語録 ❶(日) Tō-mei-o-shō-go-roku. 東明慧日禅師語録。白雲東明慧日禅師語録。東明録 ❷三巻 ❸存 ❹東明慧日(文永九—嘉暦三 A. D. 1272—1340)頃

東明和尚塔銘 ❶(日) Tō-mei-o-shō-tō-mei. ❷1巻 ❸存。塔銘碑銘拾九 ❹虎関師錬(正嘉元—延文元 A. D. 1262—1348)

東明禅師語録 ❶(日)Tō-mei-zen-ji-go-roku. 東明和尚語録。白雲東明慧日禅師語録。東明録 ❷三巻 ❸存 ❹東明慧日(文永九—嘉暦三 A. D. 1272—1340)頃 ❺完録(元禄大正)

東明録 ❶(日)Tō-mei-roku. 東明和尚語録。白雲東明慧日禅師語録。東明録 ❷三巻 ❸存 ❹東明慧日(文永九—嘉暦三 A. D. 1272—1340)頃 ❺(参考) 日本禅林僧宝伝

東洋本草図説行業 ❶(日) Tō-mei-shū-zen-ji-gyō-gō. 東洋本草図説禅師行業 ❷1巻 ❸存 ❹岡本(弘大)

東洋本草図説語録 ❶(日) Tō-mei-shū-zen-ji-go-roku. ❷1巻 ❸存 ❹東洋本草図説大師語録 ❺(参考) 臨済日録

東洋紀行 ❶(日)Tō-yū-ki-kō. ❷1巻 ❸存 ❹浜崎 ❺(参考) 臨済日録

東洋雜記 ❶(日) Tō-yū-zak-ki. ❷1巻 ❸存 ❹鶴峰(文化11—明治1 四 A. D. 1805—1881) ❺東洋手回帯 ❻(谷大・宮内庁・内閣文庫・東京大・内閣・東京・国会・内閣・東京・内閣・東京・内閣・東京

下十六世卍庵道顔禪師のことで、江州（江西）の東林寺に住して四衆を接化したので東林和尚と稱せられたものである。雲門菴主に就ては未詳である。編者は道損の侍者であり大慧の法嗣として初め博山に、後に饒州薦福寺に住した悟本和尚である。
❺明治四二刊 ❾(駒大) （大久保堅瑞）

東嶺圓慈禪師年譜 ❶(日)Tō-reiō-ji-zen-ji-nen-pu. 東嶺和尚年譜 ❷1卷 ❸存 ❾寫本(駒大)

東嶺和尚假名法語 ❶(日) Tō-rei-o-kana-hō-go. 快馬鞭、入道要訣快馬鞭 ❷1卷 ❸存、禪門法語全集第三 ❹東嶺圓慈（享保六—寛政四 A. D. 1721—1792）述、無隱編 ❺寛政二二(A. D. 1790) ❻快馬鞭の下を見よ。

東嶺和尚心經註 ❶(日)Tō-rei-o-shō-shin-gyō-chū. ❷1册 ❸存 ❹東嶺圓慈（享保六—寛政四 A. D. 1721—1792）註 ❺嘉永七刊 ❾(京大、日大未・二三)

東盧吟稿 ❶(日) Tō-ro-gin-kō. ❸存 ❹梵桂樵馨 ❼(參考)日本禪林撰述書目、禪籍目錄

東錄 ❶(日)Tō-roku. (支)Tōng-lu. ❸缺 ❻本錄は卷數並に作者を詳かにせず、唯歷代三寶紀中、二三の個處に經典の本據として細註にその名を記して居るだけで、例へば、その卷十に記載して居る涼州沙門釋智嚴の所譯に係る昆羅三昧經の細註に「明居士入定事、見東錄、萌云爰」とある如きが即ちそれである。

❼(參考)三寶紀第一〇

到於彼岸鈔 ❶(日) Tō-ri-gan-shō. ❷1卷 ❸存 ❹普敬、日是、是順共註 ❺天保五刊 ❾(龍大・二六九二・二四)(晋・て・七・右・二三)(京大、一・二六ト・五)(立大、A〇四・二九二)(谷大、鈴大・二一八二)

洞雲寺文書 ❶(日) Tō-un-ji-mon-jo. 越前洞雲寺文書 ❷1卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞雲禪師語錄 ❶(日)Tō-un-zen-ji-go-roku. ❷1卷 ❸存 ❹洞雲誓、二休有照校 ❺寛政二刊 ❾(駒大)

洞雲禪師不忍止稿 ❶(日)Tō-un-zen-ji-fu-ji-shi-kō. 不忍止稿 ❷1卷 ❸存 ❹徇淨洞雲、二休有照校 ❺寛政二刊 ❾(駒大)

洞家室內沒絃琴 ❶(日) Tō-ke-shitsu-nai-botsu-gen-kin. ❷1卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞谷開山行狀記 ❶(日)Tō-kok-kai-san-gyō-jō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹瀧谷琢宗 ❼(參考) 禪籍目錄

洞谷記 ❶(日) Tō-kok-ki. ❷1卷 ❸存 ❹紹瑾（文永五—正中二A. D. 1268—1325）❾寫本(駒大)

洞谷山永光寺誌 ❶(日)Tō-koku-zan-ei-kō-ji-shi. 永光寺誌 ❷1卷 ❸存 ❹圓谷公平編 ❺大正一三刊 ❿東京鴻盟社

洞谷山宗可禪師傳 ❶(日)Tō-kokū-zan-shū-kō-zen-ji-den. 宗可禪師傳 ❸存、大日本佛教全書第一一五龍方傳叢書第三

洞谷傳燈院五老悟則並行業記 ❶(日)Tō-koku-den-tō-in-go-rō-ō-sō-nari-gyō-gō-ki. ❸存、常濟大師初傳記附錄 ❹紹瑾（文永五—正中二A. D. 1268—1325）❺大正一四刊 ❿神奈川總持寺

洞山五位顯訣 ❶(日)Tō-zan-go-i-ken-kessō. 五位顯訣、解釋洞山五位顯訣 ❸存、卍續二・二四・五 曹山本寂禪師語錄附錄 ❹本光諸道（—安永二A. D. 1773）編 ❻本書は僅かに一百五十一字なるも、大乘禪より見たる宇宙人生若くは修證一般に關する玄理を道破し盡せるものがある。されば禪學の要點はこの文字中に內含されると云ふてよい。從つて支那以來、日本に於ける五位の研究者は頗る多く、その末書の如きも數ふるに遑なき狀態である。參考の爲め左に摘記しよう。

唐代—五位君臣旨訣一篇、五相傷五首、正偏五位旨訣一篇、解釋洞山五位顯訣、逐位頌并別揀各一篇（以上曹山禪師）、宋代—五位賓從論一篇（安國）、明代—洞上古轍二卷（永覺之賢）、日本鎌倉時代—偏正五位圓說一卷（省燈首座）、洞上雲月錄二卷（傑堂、謙宗）、東麓愚鈍訣一篇（謙宗）、德川時代—曹洞五位歸訣二卷又は中的祕密書（呂巡）、參同契並將說一卷、發覆一篇（平藏）、洞宗通翼一卷（一線）、五位辨的一卷、寶鏡三昧命鏡一卷（天桂）、寶鏡三昧吹唱一卷、洞上金剛杵一卷（面山）、不能語正偏五位說一卷、洞山五位小說二卷、金剛茶話一卷、參同契寶鏡三昧不能語一卷（指月）、五位君臣旨訣退步就已參一卷、五位顯訣參註一卷（本光）、五位訓訣一卷、永平破五位辨一篇（萬仞）、杓木篇一卷（實巖）、五位顯訣元宇闕一卷、功勳傳提一卷、沒絃琴一卷、洞山吟辨一卷、（月溪洞水）、偏正論（玄樓五分錄中の第六卷）、その他、曹洞五位鈔四卷（不明）、五位叢變蛇足一卷（補虎）、洞上五位當訓一卷（竺山）、五位顯訣末正語（指月、本光）、五位正偏一篇（心越全集の內）、五位頌釋一篇（大慧）、五位抄或問二卷（圓證）、曹山五位傳義二卷（性海）、正偏五位要解一篇（智道）、五位略註一卷（良光）、五位說講話一卷（西有綠山）、五位要訣一卷（秋野孝道）、（岡田宣法）

洞山五位顯訣附先曹山揀出話要 ❶(日) Tō-zan-go-i-ken-ketsu-tsuketari-sen-sō-zan-kan-shutsu-wa-yō. (支) Tung-shan-wu-wei-hsien-chueh & hsien-ts'ao-shan-chien-ch'u-yū-yao. ❷1册 ❸存 ❹宋慧霞編 ❼(參考) 禪籍目錄

洞山五位蒿測 ❶(日)Tō-zan-go-i-kō-soku. 五位蒿測 ❷1册 ❺天保七寫 ❾(駒大)

洞山五位頌提唱略錄 ❶(日)Tō-zan-go-i-ju-tei-shō-ryaku-roku. 五位頌提唱略錄 ❸存 ❹大賢述 ❺明治一九刊 ❿東京鴻盟社

洞山五位小說 ❶(日)Tō-zan-go-i-shō-setsu. 五位小說 ❷1卷 ❸存 ❹慧印指月（元祿二—明和元A. D. 1689—1764）

❾寫本(駒大)

洞山五位說講話 ❶(日)Tō-zan-go-i-setsu-kō-wa. 五位說講話 ❷1卷 ❸存 ❹西有環奕(禪山)（—明治四三A. D. 1910）❾刊本(駒大)(晋・け・八・右・三)

洞山悟本禪師語錄 ❶(日)Tō-zan-go-hon-zen-ji-go-roku. (支)Tung-shan-wu-pen-ch'an-shih-yü-lu. 筠州洞山悟本禪師語錄、洞山錄、洞山良价禪師語錄、洞山語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・五〇七No. 1986A、卍續二・二四・五、禪學大系組錄部第一 ❹唐良价洞山（元和二—成通一〇A. D. 807—869）語、慧印指月（元祿二—明和元A. D. 1689—1764）校 ❻筠州洞山悟本禪師語錄の下を見よ。

洞山悟本禪師語錄蒙解 ❶(日) Tō-zan-go-hon-zen-ji-go-roku-mō-ge. ❷1卷 ❸存、曹洞二師錄蒙解之內 ❹慧印指月（元祿二—明和元 A. D. 1689—1764）❾寫本(駒大)

洞山悟本大師語錄 ❶(日)Tō-zan-go-hon-dai-shi-go-roku. 洞山大師語錄 ❷1卷 ❸存、曹洞二師錄之內 ❺月坡道印（—寛文四A. D. 1664—）編、玄契宜默（—享保頃A. D. 1716—1735—）修補校訂 ❻筠州洞山悟本禪師語錄の下參照。❺元文四刊 ❾(谷大、鈴大・三四六六)

洞山悟本大師語錄附解題 ❶(日) Dō-zan-go-hon-dai-shi-go-roku-tsuketari-kai-dai. 國譯洞山悟本大師語錄附解題 ❻存、國譯禪宗叢書第八

洞山語錄 ❶(日)Tō-zan-go-roku. (支)Tung-shan-yü-lu. 筠州洞山悟本禪師語錄、洞山良价禪師語錄、洞山悟本禪師語錄、洞山錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・五〇七No. 1986A、卍續二・二四・五、禪學大系組錄部第一 ❹慧印指月（元祿二—明和元 A. D. 1689—1764）編 ❻筠州洞山悟本禪師語錄の下を見よ。❾刊本(立大、A五〇・九〇)(晋、ふ・一・右・九)

洞山語錄之餘 ❶(日) Tō-zan-go-roku-no-yo. 洞山悟本禪師語錄之餘、日本玄契校勘洞山語錄之餘 ❸存、大正四七・五〇七No. 1986A、卍續二・二四・五、洞山良价禪師語錄附錄 ❹唐良价洞山（元和二—成通一〇 A. D. 807—869）、玄契重默校 ❻筠州洞山悟本禪師語錄の下參照。

洞山守初禪師語要 ❶(日)Tō-zan-shu-shō-zen-ji-go-yō. (支) Tung-shan-shou-ch'u-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・四 ❹唐代洞山守初語 ❻嚴州（廣東嚴州府）雲門山光泰禪院の法嗣であり、襄州（湖廣襄州府）洞山の第二代として雲門の玄風を宣揚した宗慧大師守初禪師の語要を輯めたものである。上堂示衆の語要と歌頌とより成り、歌頌に偈物通貫頌、明道頌、十心頌等約四十篇を收めたものである。明道頌に云ふ「大道洪然廓落無邊。了了虛徹寂然何安。含容妙用隨物方圓。自本心法衆生迷源。道無別道玄無別玄」云々、十心頌に云ふ「心是道。凡聖同居月皓皓。只於閒處證菩提。便合如來菩正道」と其の禪風を窺ふ可きである。（大久保堅瑞）

洞山十不歸 ❶(日)Tō-zan-ju-fu-ki. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞山盡未來際置文 ❶(日)Tō-zan-jin-mi-rai-sai-oki-bumi. ❸存、常濟大師御傳記附錄 ❹瑩山紹瑾（文永五—正中二A. D. 1268—1325）❺大正一四刊 ❿神奈川總持寺

洞山大師語錄 ❶(日)Tō-zan-dai-shi-go-roku. 洞山悟本大師語錄 ❷1卷 ❸存、曹洞二師錄之內 ❹唐良价（元和二—成通一〇 A. D. 807—869）語、月坡道印（—寛文四A. D. 1664—）編、玄契（—享保頃A. D. 1716—1735—）校 ❻筠州洞山悟本禪師語錄の下參照。❺寛保元跋 ❾(駒大)

洞山大師語錄 ❶(日)Tō-zan-dai-shi-go-roku. (支) Tung-shan-ta-shih-yü-lu. 洞山良价禪師語錄、瑞州洞山良价禪師語錄、悟本大師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・五一九No. 1985B、卍續二・二四・五 ❹唐良价（元和二—成通一〇 A. D. 807—869）語、明代語風圓信、郭凝之等編 ❻洞山良价禪師語錄の下を見よ。

洞山大師語錄聞解 ❶(日)Tō-zan-dai-shi-go-roku-mon-ge. ❷2卷 ❸存、曹洞二師錄聞解之內 ❹瑞方面山（天和三—明和六A. D. 1683—1767）❾刊本(駒大)

洞山沈吟辨語錄 ❶(日) Tō-zan-chin-gin-ben-go-roku. ❸存 ❹月溪洞水 ❼(參考) 禪籍目錄

洞山八要圖 ❶(日) Tō-zan-hachi-yō-zu. ❷1卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞山長价禪師語錄 ❶(日)Tō-zan-chō-kai-zen-ji-go-roku. (支)Tung-shan-liang-chieh-ch'an-shih-yü-lu. 瑞州洞山良价禪師語錄、洞山大師語錄、悟本大師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・五一九No. 1985B、卍續二・二四・五 ❹唐良价洞山（元和二—成通一〇A. D. 807—869）語、明代語風圓信、郭凝之編

❻本書は曹洞禪に取りては最も重要な位地に置かれる。何となれば曹洞宗の名稱は洞山の洞より來ると云はれる程であるからである。曹洞禪は臨濟禪の如く機緣辛辣なるに反して實踐綿密であるが、其禪風は本書に橫溢して居るから、支那曹洞の禪風を知る最も有力なるものである。問答を錄すること一百二十則、次で歌頌十有一種がある。曰く寶鏡三昧歌、玄中銘、新豐吟、綱要頌、功勳五位頌、賓讚、自誡、規、誡、辭北堂書、後寄北堂書、玻國書これである。寶鏡三昧歌は本解說大辭典中に解說あれば其章下に見るべく、玄中銘や新豐吟の如き、金玉の妙韻は唱唱として神にせまり、辭北堂書の如きは、慈母の愛を懷ふ切々の情斷腸に堪えざるものがあり、功勳五位頌の如きは、正偏五位と共に、曹洞特殊の禪風と稱せられて、洞山の創唱に屬し、これにより修證功勳の梯程を說けるもの、五位顯訣は正偏五位の母典であり、逐位頌に功勳五位頌の如く、正偏五位を頌せるものである。日本に於ては洞山禪師の卷曹山禪師の語錄と共に曹洞二師錄なるものを指月禪師が校訂編纂し、これに二師錄聞解なる宋書

がある。
❼(注釋) 開解二卷(奔山玄淵)、彙解一卷(岡田宜法)

洞山良价禪師語錄 ❶(日)Tō-zan-ryō-kai-zen-ji-go-roku. (支)Tung-shan-liang-chieh-ch'an-shih-yu-lu. 筠州洞山悟本禪師語錄、洞山悟本禪師語錄、洞山錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・五〇七No. 1986A、卍續二・二四・五、禪學大系叢錄都第一 ❹唐良价(元和二—咸通一〇 A. D. 807—869)語、惠印(元祿二—明和元 A. D. 1689—1764)校 ❺筠州洞山悟本禪師語錄の下を見よ。

洞山良价禪師寶鏡三昧 ❶(日)Tō-zan-ryō-kai-zen-ji-hō-kyō-sam-mai. (支) Tung-shan-liang-chieh-ch'an-shih-pao-ching-san-mei. 寶鏡三昧歌 ❸存、禪海十珍之內、洞山良价禪師語錄之內 ❹寶鏡三昧は寶鏡三昧歌とも云はれ、洞山良价禪師の語錄中に收められるが、此一篇は四言九十四句三百七十字ではあるが、古來佛祖の相承し來れる禪學の眞髓を寶鏡に喩へ、この歌を讀誦する間に、自ら禪の妙旨に徹せしめんとしたものであるから、曹洞宗に於ては常にこれを讀誦してあるが、若しもこれを數行して考ふる時は禪學の大要はこの短篇の中に網羅され、殊に曹洞綱宗の禪風が躍如として居るとも云はれやう。故に本書の末書は花だ多い。
❼(注釋) 玄義一卷(宋、雲軸)、原宗神謬說一卷(清、淨訥)、註一卷(諱宗)、嘉猶說一卷(月舟)、吹唱一卷(面山)、問聞記一卷(面山)、歌論一卷(面山)、修提一卷(洞水)、

其他

洞宗剩語 ❶(日)Tō-shū-jō-go. (岡田宜法) ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞宗通翼 ❶(日)Tō-shū-tsū-yoku. ❷一卷 ❸存 ❹一線萬回 ❺延享二刊、寬延二刊 ❻(駒大)

洞宗標正 ❶(日)Tō-shū-hyō-shō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞宗佛祖禮 ❶(日)Tō-shū-butsu-sō-rai. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞照弊爐正傳糾衆論 ❶(日)Tō-shō-hei-ro-shō-den-kyū-shū-ron. ❷一卷 ❸存 ❺寬永一一刊 ❻(駒大)

洞上雲月錄 ❶(日)Tō-jō-un-getsu-roku. ❷二卷 ❸存 ❹傑堂能勝(文和四—應永三四 A. D. 1355—1427)提唱、諱宗南英(嘉慶元—寬正元 A. D. 1387—1460)指授、本高風外校 ❺享保六刊 ❻(哲、け・七・中・一)(駒大)

洞上雲月錄事實 ❶(日)Tō-jō-un-getsu-roku-ji-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上雲月錄附洞上雲月五位祕訣傑堂勝禪師傳風外禪師傳 ❶(日) Tō-jō-un-getsu-roku-tsuketari-hō-jō-un-getsu-gō-i-hi-ketsu-ketsu-dō-shō-zen-ji-den-fū-gai-zen-ji-den. ❷二卷 ❸存 ❹本高風外校 ❺享保六刊 ❻(駒大)

洞上伽藍記 ❶(日)Tō-jō-ga-ran-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書繪刊豫定書目

洞上伽藍雜記 ❶(日)Tō-jō-ga-ran-zak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹訓農慧項 ❺安永四刊 ❻(宗大、日大未・五二九)、哲、あ・二・中・一二)(龍大、二六七九・六九)(帝國、二二〇・一九八)

洞上伽藍諸堂安像記 ❶(日) Tō-jō-ga-ran-sho-dō-an-zō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺寶曆九刊 ❻(龍大、二六七九・二一)

洞上規繩 ❶(日)Tō-jō-ki-jō. ❷一卷 ❸存 ❹鐵牸編 ❺享保一八刊 ❻(龍大、二六七六・一二)(駒大)

洞上行持軌範 ❶(日)Tō-jō-gyō-ji-kei-han. ❷三卷 ❸存 ❹森田悟由(一—大正四 A. D. 1915)等編 ❺大正七刊 ❻東京鴻盟社

洞上行持諷經錦囊 ❶(日)Tō-jō-gyō-ji-fū-gyō-kin-nō. 諷經錦囊 ❷二冊 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄 ❽東京鴻盟社

洞上句中玄 ❶(日) Tō-jō-ku-chū-gen. 永平眞偈洞上句中玄 ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769)編 ❺寶曆九刊 ❻(駒大)

洞上句中玄聞解 ❶(日)Tō-jō-ku-chū-gen-bun-kai. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和四—明和六 A. D. 1683—1769)述 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上化導要義 ❶(日)Tō-jō-ke-dō-jō-gi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上劇談 ❶(日)Tō-jō-geki-dan. 洞門劇談 ❸存 ❹竺信梅峰(寬永一〇—寶永四 A. D. 1633—1707) ❼(參考) 禪籍目錄

洞上古集註 ❶(日)Tō-jō-ko-shū-chū. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上古轍 ❶(日)Tō-jō-ko-tetsu. (支)Tung-shang-ku-che. 永覺和尚洞上古轍 ❷二卷 ❸存、卍續二・三〇・四 永覺元賢禪師廣錄之內 ❹元賢料、道霈重編 ❺明崇禎一七(A. D. 1644)
❻本書は元賢が支那に於ける曹洞禪の系統に屬する人々が、往々にして宗旨を謬り、正法を破滅せんとするを慨し、邪說を斷りて古德の舊案を取り、類集して二卷としたものではあるが、彼が曹洞禪に對する獨特の見地も寫はれぬではない。故に上卷には曹洞禪に重きを爲せる參同契註を揭げ、次で洞山五位の目の下に丹霞の序によりて之を解し、更に五位圓說に於ては、先以て五位總圓によりて之を圖解し。次に洞山五位頌註の目の下に、正偏五位の遷位頌を註し、加ふるに汾陽五位總頌や、雪明圓五位總頌や、投子青頌并序や、宏智覺頌、鼓山賢頌を擧げ、殊に宏智の頌に對して『洞曹二家頌の後、この五頌を推して最と爲す』と云ひ、次で曹山五相頌を釋し、次で五位答問の目の下に、正偏五位の問に對する答頌の答を揭げて居るが、其等の祖師は汾陽昭、宏智覺、自得晫、善賢秀、大死翁、鼓山賢、道吾眞である。更に洞山五位功勳の目に於て、功勳五位の一位每の問答と、其解釋と、洞山禪師の遷位頌とを擧げ、併せて永嘉玄

超を敍せて居る。次に洞山三種證詞と明安の註釋を出し、併せ禮讚頌を添へて居る。次には洞山寶珠頌を添へて居る。次には洞山寶珠頌と其略註と、天童覺頌とを揭げ、綱宗偈并に註と、石霜五位王子の注解と頌、舊經志頌、王子答問を揭げて王子五位を終り、次で曹山君臣五位旨訣と大陽玄頌を出し、曹山四禁と其注釋、曹山三墮と其注釋、之に對する百丈鐘頌を出し、次に同安察十玄談、天陽三句、芙蓉楷門風偈、古德の小五位、天童三一色、天童覺四借、自得晫五轉位を揭げて上卷を終り、下卷には先德微言と云ふ題下藥山惟儼以降、萬松行秀に至る祖師の宗綱に關する辭揚を列擧して、其家風を知らしめ、これによりて支那曹洞禪の綱格を紹介せんと試みたものである。
❼延寶元刊(駒大) 延寶八刊(京大、藏・一七エ・五)(駒大)(哲、け・七・左・三)支那刊本(京大、藏・一七エ・四) (岡田宜法)

洞上古轍鐫要聞解 ❶(日)Tō-jō-ko-tetsu-sho-yō-mon-ge. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(駒大)

洞上古轍別揀 ❶(日)Tō-jō-ko-tetsu-betsu-kan. ❷一卷 ❸存 ❺享保一一寫 ❻(谷大、餘大・三三一七)

洞上五位辨的 ❶(日) Tō-jō-go-i-ben-teki. ❷一冊 ❸存 ❹天桂傳燈(慶安元—享保二〇 A. D. 1648—1735)述 ❺享保六刊 ❻(京大、日大未・四五八)

洞上高僧月 ❶(日) Tō-jō-kō-sō-getsu. ❷一卷 ❸存 ❹山岸安次郎著 ❺明治二六刊 ❻(駒大)(帝國、七〇・二三五)

洞上金剛杵 ❶(日) Tō-jō-kon-go-sho. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769)述 ❺元文四刊 ❻(駒大)(哲、ふ・二・中・二)

洞上金剛杵證據 ❶(日)Tō-jō-kon-gō-sho-shō-ko. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上室內及禪戒論藪 ❶(日) Tō-jō-shitsu-nai-yobi-zen-kai-ron-sō. ❷一卷 ❸存 ❹中村陸道編
❺永平回山御遺言記錄(微通義伝)。傳法室內隨聞記(面山瑞方)。洞上室內口訣(面山瑞方)。洞上傳法辨(萬仞道坦)。三歸依脊語(指月慧印)。禪戒篇(指月慧印)。宗傳戒文試參請(本光訪道)。禪戒本儀(萬仞道坦)。洞上傳戒辨(萬仞道坦)。
❻大正一四刊 ❼(駒大) ❽編井勝覺會

洞上室內三物論 ❶(日)Tō-jō-shitsu-nai-sam-motsu-ron. ❸存、室內密示聞記附錄 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺寫本(駒大)

洞上宗旨 ❶(日)Tō-jō-shū-shi. ❷一卷 ❸存 ❹道明印光 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上諸祖王臣歸崇傳 ❶(日) Tō-jō-sho-sō-ō-shin-ki-su-den. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)編 ❺明治四〇刊 ❻東京永平寺出張所

洞上諸祖系譜 ❶(日)Tō-jō-sho-so-kei-fu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書繪刊豫定書目

洞上僧堂清規考訂 ❶(日)Tō-jō-sō-dō-shin-gi-kō-tei. ❷八卷 ❸存 ❺寶曆五刊 ❻(龍大、二六七六・一四)(駒大)

洞上僧堂清規行法鈔拾遺 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi-gyō-hō-shō-i. ❷一冊 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❼(參考) 禪籍目錄

洞上僧堂清規行法鈔 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi-gyō-hō-shō. 僧堂清規行法鈔 ❷五冊 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺寶曆三刊 ❻(駒大)

洞上僧堂清規行法鈔 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi-gyō-hō-shō. ❷五卷 ❸存 ❺寶曆三刊 ❻(龍大、二六七六・一三)

洞上僧堂清規 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi. ❷八卷 ❸存 ❺寶曆三刊 ❻(龍大、二六七六・一四)(駒大)

洞上諸祖傳 ❶(日) Tō-jō-sho-so-den. 日域洞上諸祖傳 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第一一〇 ❹日浸淇元編 ❺元祿六(A. D. 1693) ❻日域洞上諸祖傳の下を見よ。 ❼元祿七年本後刷 ❽(駒大)

洞上正宗訣 ❶(日)Tō-jō-shō-shō-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹本秀圓闡編 ❺天保一〇刊 ❻(駒大)(谷大、餘大・三二一四)

洞上唱禮法 ❶(日) Tō-jō-shō-rai-hō. 改正歎佛洞上唱禮法 ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺明治一五刊 ❻(駒大)(帝國、一四三・一三二) ❼東京鴻盟社

洞上說教指南 ❶(日) Tō-jō-sekkyō-shi-nan. ❷一卷 ❸存 ❼(參考)

洞上僧堂清規 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi. ❷五卷 ❸存 ❺寶曆三刊 ❻(龍大、二六七六・一三)

洞上僧堂清規行法鈔 ❶(日) Tō-jō-sō-dō-shin-gi-gyō-hō-shō. 僧堂清規行法鈔 ❷五冊 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺寶曆三刊 ❻(駒大)

洞上叢林公論 ❶(日) Tō-jō-sō-rin-kō-ron. ❷二卷 ❸存 ❹聽丑乙堂 ❺寬保元刊(駒大) 寫保三刊(谷大、餘大・三三一三)(哲、ふ・二・左・六)

洞上大祖圓明國師御傳 ❶(日) Tō-jō-dai-so-en-myō-koku-shi-gyo-den. 圓明國師御傳 ❷一卷 ❸存、佛教各宗綱高僧實傳之內(帝國文庫第四九) ❹法雲撰

洞上斷續辨 ❶(日)Tō-jō-dan-zoku-ben. ❷一卷 ❸存 ❹林林 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上傳戒辨 ❶(日)Tō-jō-den-kai-ben. ❸存 洞上室內及禪戒論藪之內 ❹道坦萬仞(元祿一一—安永元以後 A. D. 1698—1772—) ❺大正一四刊(駒大)寫本(谷大、餘大・三二四三)

洞上傳燈講式 ❶(日)Tō-jō-den-tō-kō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹寶山梵成編 ❺明治二六刊 ❻(駒大) ❼東京森江書店

洞上傳法辨 ❶(日)Tō-jō-den-hō-ben. ❸存、洞上室內及禪戒論藪之內 ❹道坦萬仞(元祿一一—安永元以後 A. D. 1698—1772) ❺大正一四刊 ❻編井勝覺會

洞上得度或問 ❶(日) Tō-jō-tokudo-waku-mon. 得度或問 ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺刊本(駒大)

洞上得度或問辨儀章 ❶(日) Tō-jō-tokudo-waku-mon-ben-gi-shō. ❷一卷 ❸存 ❹洞流選水 ❼(參考) 禪籍目錄

洞上佛事編附四六文鑑 ❶(日)

同上佛祖歷代通載 ❶(日)Tō-jō-butsu-ji-hen-tsuketari-shi-roku-mon-kwan. ❷11卷 ❸存 ❹日本佛教 ❺1冊 ❻明治三十一年 ❼(帝國〝11八九•1 1 0)

同上學祖源流全書 ❶(日)Tō-jō-bus-so-gen-ru-ei-san. ❷1卷 ❸存 ❹真言宗僧侶 ❺天文三年 ❻(高大)(京大〝1•11 1 ム•1)(帝國〝11 1 九•11○)

同上授菩薩戒 ❶(日)Tō-jō-motsu-gen-kin. ❷四卷 ❸存 ❹日蓮宗本 ❺(參考) 藤堂日錄

同上孝明叢 ❶(日) Tō-jō-yo-ake-no-sudare. ❷1卷 ❸存 ❹西山宗祖力(天和三—明和元A. D.1683—1769)撰 ❺寶曆1 11年 ❻(高大)(京〝ふ•11•右•1 1)(京大〝叢大•11 1四五)

同上聯燈錄 ❶(日) Tō-jō-ren-tō-roku. 日本國上聯燈錄 ❷十11卷附目錄1卷 ❸存〝大日本佛教全書第1 1○ ❹秀麗峰著(一寶曆11 A. D. 1752) ❺日本國上聯燈錄の下を以て。❻寶曆11天明元11刊 ❼(高大)

同水和尚語錄 ❶(日)Tō-sui-o-shō-go-roku. ❷十11卷 ❸存 ❹日蓮宗本山〝法華寺住持了然撰 ❺文化元年刊 ❻(高大)

同水和尚拔錄 ❶(日)Tō-sui-o-shō-batsu-roku. 同水和尚拔抄卷撰 ❷1卷 ❸存 ❹日蓮宗本〝拔抄撰 ❺寶政1〇年刊 ❻(高大)

同水觀錄 ❶(日)Tō-sui-kwai-ran. 妙法蓮華經分別功德品觀錄 ❷1卷 ❸存 ❹大內弘修撰(寶政11—文久元年A. D. 1845—1918) ❻(參考) 藤堂日錄

同泉臨濟寺法流頂全眼口訣 ❶(日)Tō-sen-shi-dem-bō-kwan-jō-kon-kai-ku-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹德川時代 ❺(東叡記)

同泉觀門記 ❶(日)Tō-sen-zui-mon-ki. ❷存 ❸紀藤(寶政四—寶曆1三A. D. 1676—1763) ❻(參考) 續藤全書刊行會定目錄

同天和尚語錄 ❶(日)Tō-ten-o-shō-go-roku. 東福寺開山聞天和尚語錄 ❷1卷 ❸存 ❹東福天龍 ❺明和11 ❻(高大)

同門玄抄集 ❶(日)Tō-mon-e-nyo-shū. 法華宗本門玄抄集 ❷1卷 ❸存 ❹日蓮宗本門玄抄(寶永1 11—正德四 A. D. 1635—1714)日蓮宗玄抄 ❺正德元年刊 ❻(高大)

同門龜鑑 ❶(日)Tō-mon-ki-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹(參考) 藤堂日錄

同門劇談 ❶(日)Tō-mon-geki-dan. 同門劇談 ❷1卷 ❸存 ❹劇作者(寶永四A. D. 1633—1707) ❻(參考) 藤堂日錄

同蓮華風集 ❶(日)Tō-ri-shum-pū-shū. ❷存 ❹天台宗僧侶(正應四—正應四三A. D. 1291—1381)玉泉坊合(天文元—正德元A. D.1331—1401)明和 ❻(參考) 日本天台宗僧侶傳記〝藤堂日錄

拔隱集 ❶(日)Tō-in-shū. ❷存 ❹支那禪僧(一茅盛元A. D. 1454) ❻(參考) 藤堂日錄

拔隱禪師語錄 ❶(日)Tō-in-zen-ji-go-roku. ❷1卷 ❸存 ❹支那禪僧(一茅盛元A. D. 1454)撰〝無名會編 ❻(參考) 藤堂日錄

拔菴大仙 ❶(日)Tō-kwa-rok-keu. ❷1卷 ❸存 ❹(高大)

拔菴錄 ❶(日)Tō-kwa-roku. ❷三卷 ❸存 ❹新撰(一文化元年A. D. 1806) ❻(參考) 續藤全書刊行會定目

拔隱禪師 ❶(日)Tō-kei-i-kō. ❷1卷 ❸存〝續藤全書第七十三 ❹東隱(寶永三—寶曆11○A. D. 1675—1735)

❹此書は東隱禪師の遺稿を門人の編集せられたもの。禪は學を若年より好み、ひろく諸師に歷參して、文藝の奧旨、參究せざるなし。晚年、東隱に歸して、東隱の法を嗣ぐ。東隱は、禪を以て、學を以て、詩を以て、世に聞こえ、門人、後に出でて、東隱禪師と稱せらるるに至れり。東隱は、寶永三年、入寺

成佛論であるから第三問と同系に屬すべきもの、第五は所謂理毒性惡論であり、如來性佛性の普遍と無限無窮の慈悲救濟である。第六は平安初期に於ける日本佛教の重要問題たる日本國は圓機已熟の國なりとする天台宗の主張と南都諸宗との宗論の中心問題である。本書と德圓の疑問とを比較すれば德圓は法華經、華嚴經、法華玄義、四教義、八教大意、止觀義例、法華文句、普賢觀經、大日經等に依つて天台教義の解決を求め、そして時代問題たる卽身成佛、大日經對法華經、非情草木成佛論等を究明せんと試みてゐる。この中に於いて傳教大師・慈覺大師・智證大師に撰述ありと云はるる七論三平等義の問題が扱れてゐる。要するに本書と德圓疑問とは共に宗祖の決答を得てゐるが、光定の疑問は時代佛教の主要問題を選んで問ひ、德圓は天台大師から六祖荊溪大師までの祖典解釋を求め併せて叡山天台學徒の間に取扱れた時代佛教學に就いて疑つてゐる。ここに兩者の學的態度が窺はれると共に叡山に二の潮流、卽ち日本佛教綜合研究派と宗典祖釋研究派との對立が行れてゐた事を如實に示してゐることが推知される。恐らく本書の如き止觀業專攻の學徒と同樣に造那業(眞言密教)專攻の學徒の間にも是の如き傾向が比叡山内に現はれてゐたものと思はれる。宗祖の決答は天台山學風とは相違してゐる。この事は、唐決(德唐決)に記して置いた。長安天台。玉泉天台。蜀地天台は殆んど從來の高僧傳撰者も佛祖統紀撰者も其の史料を漏らしてゐる。この缺を補ふためには本書や法照禪師等の研究によつて將來大に努力をつくさねばならぬ。本書の如きは一小篇ではあるが日支佛教交涉史研究資料であり、長安天台の研究資料であるから學者の注意すべき研究資料である。

本書六條疑問の目次は一、盧舍那佛所說戒人法權實。二、二種五種唯識八識九識色心。三、卽身成佛者爲ゝ在ニ初住一爲ゝ復在ニ相似一。四、解廣高長者卽身入ニ佛位一入ニ法華三昧一否。五、斷惑不斷惑成佛又草木成佛誠文。六、一三權實誠文又法相三論華嚴三宗詳論是非。已上。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、山家德圓撰述篇目集卷下 (田島德晉)

唐決 ❶(日)Tō-ketsu. 日本國三十問謹案科直答、三十問、圓唐決、釋疑問答三十箇條 ❷一卷 ❸存、卍續二・五・五、日本大藏經天台宗疏章疏第二、唐決集卷下 ❹圓澄疑問、廣修決答 ❺本書は慈覺大師圓仁及び圓載等が承和五年(A. D. 838)入唐の際に天台座主圓澄から托されて唐地に渡海し、圓載が日本國三十問を天台山に持つて行き廣修座主及び維諭の決答を得たものである(入唐巡禮行記卷一。三。並に唐決集下所收の澄唐決の初めに附してある朝議郎使持節台州刺史上柱國賜赫魚袋陸邁の判印の文を參照)。この廣修維諭の兩答は共に開成五年(A. D. 840)に成つたものである。慈覺大師入唐中の他の唐決卽ち修禪院問の決答や光定の天台教義に對する宗祖の決答。德圓の十科條問に對する宗祖の決答は共に會昌五年(A. D. 845)であるやうに思ふ(安然撰錄定草木成佛私記及び光唐決參照)。修禪院とは一般には日本天台座主第一代義眞和尙のことを指す。然るに安然撰錄定草木成佛私記によれば、「修禪院問」の修禪院とは圓澄座主を意味するらしい。廣修及び維諭の決答に對する批評は錄定草木成佛私記及び寶地房證眞の三大部私記等に遙べてある。又法華大日二經の教時攝屬に就いては安然の教時義・日蓮上人御遺文等に記してある。本書の決答は天台大師や六祖荊溪等の說とは相違してゐる。故に取捨されねばならぬ點が相當にあるが日本天台の中古に於いて盛んであつた論義や口傳には唐決が重要視されてゐた。本書の疑問三十條は廣修が問の意を抄記してゐるから文意が明瞭でない場合が多い。故に維諭の決答と合せて見る必要がある。それでも猶ほ問意が不明の箇條がある。決答に必要だけを抄記したからであらう。かく問の文が抄記されてゐることは錄定草木成佛私記に問の文を引用してゐるために明らかに知られる。本書三十問は天台三大部及び六祖の註から主として摘出した疑問である。眞言密教の疑問は一條、傳教大師の在唐決卽ち天台宗未決から一條、戒に關する疑問一條が含まれてゐるが大體に於いて三大部中心卽ち天台法華宗を中心とした疑問である。三十問とは一、法華爲八教攝之爲不攝耶。二、毗盧舍那經何部何時何教攝之。三、光宅因果六義今家所破。四、爲疏因果之實體爲疏那教。五、佛果隨生有無。六、圓十二因緣生滅不生滅。七、別教權正伏斷義據何經論。八、五思次第如仁王大師配位不相似。九、圓人經歷二住已去賢。十、實佛本師本時別號。十一、一家多用四教今更立三教何爲正義。十二、退座五千涅槃中教者不見明文。十三、私錄異聞者從誰聞法。十四、定性在法華授記何故初釋云授土得圓。十五、依法華疏尸棄初釋何淨名疏云二釋王。十六、身子六心中退是何位退。十七、無情應發修成覺何故不圓。十八、苦集卽滅道者爲滅苦集名道乎。十九、六卽何等聖教的出其名。二十、唯識唯心同異二師所立其趣如何。二十一、法華三昧證相門九種證相出何經論。二十二、圓頓中道期寂光何故實報以爲其期。二十三、體相章出六師所出不審其人與所據。二十四、圓伊三點何故釋與經意異。二十五、乘急人無戒不備何故名戒經。二十六、鹿逢與無明此二有何殊。二十七、五品十信差別不同諸忍位號亦異。二十八、見思卽無明矣何故文云二信已去斷思。二十九、自初品至初住可一生修證者誰爲其人。三十、六氣一々作氣其如何等。已上。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、密乘撰述目錄、山家眼德撰述篇目集卷下 (田島德晉)

唐決 ❶Tō-kessai. 答日本國問、澄唐決、釋疑問答三十箇條 ❷存、卍續二・五・五、日本大藏經天台宗疏章疏第二、唐決集卷下 ❸圓澄疑問、維諭決答 ❹本書は「唐決、釋疑問答三十箇條」卽ち「日本國三十問謹案科直答」(又は「圓唐決」といふ)と同一の疑問に對する決答である。

後由等は「圓唐決」を參照。本書には卷首に開成五年(A. D. 840)六月一日附を以て天台山僧維諭が台州刺史陸邁に書を獻じて日支天台の交涉を述べ、次に「去年僧圓載、本國の命を奉じて太后の納袈裟を送つて天台大師の影に供奠し、聖德太子の法華經疏を天台の藏に傳し、衆の疑義五十科を質して來問し、缺くる所の經論を抄寫す。禪林寺の僧廣修は一本に答へ已に前使李鴻公の判印を蒙り寃んぬ。維諭答ふるところの一本と並びに經論疏義三十本を付す。伏して乞ふ郎中賜ふに判印を以つてせば光り日宮に浮ばん」云云と記してある。この維諭の判印を乞ふ文に對して開成五年八月十三日附を以て台州刺史陸邁が判印をなし、圓載に對しては印信を請ふにまかせて印信を記してゐる。この維諭・陸邁の文は開成年中の唐決に關する第一史料である。故に入唐巡禮行記の記事と併せて見るべきもの。ここに注意さるることは維諭の文にある聖德太子撰法華經疏を唐朝へ齎與した記事(入唐巡禮行記にも上宮疏のことが記してある)と衆疑五十科とである。廣修の決答と維諭の決答とには疑問の科條に少しく相違がある。この事は錄定草木成佛私記を見ると廣修の決答は圓澄の疑問の次第を追つてゐないことが知られる。然しながら廣修も維諭も共に「三十問」だけに決答を作り、他の二十科條は略してゐる。この缺略された疑問は不明である。或は五十科は三十科の寫誤かも計られない。或は宗祖の決答がこの略された分かも知れない。卽ち唐主圓澄の疑問を第一に答へ光定、德圓の疑問は次に答へることにしたのかも解らない。何れにせよ、圓澄の疑問のことは慈覺大師圓仁も圓載も其答を得んと努めた。此の事は本書及び入唐巡禮行記に記されてゐる。思ふに圓仁圓載の名が共に圓澄の圓の字を用ゐてゐることに何等か因緣が潛んでゐるらしいし、特に圓仁が入唐する場合に推擧してくれた人は實に圓澄であつたことなどは時の座主職なるが故にといふ理由以外に深い私的感情も加つてゐたと考へられる。但し宋解の問は唐決集下に收められてゐる「答修禪院問」である。これを加へると五十九科條となるからである。修禪院とは圓澄を指すらしいとは「澄唐決」の下で記して置いたが、若し五十科條とは圓澄、光定、德圓の疑問を合計したとすれば四十六科條となるからやや五十科に近い數となる。若し光定、德圓の疑問は會昌年代に入つて日本から唐へ送つたものなりとすれば、修禪院問十三科條は開成年中に圓仁、圓載が持つて行つたとすべきかも知れない。錄定草木成佛私記の說によれば會昌年中の宗祖決答は開成年中の後に別に日本から唐へ托送したものらしい。更に可考。次に「付日本國經論目」を記し、日本で缺けてゐる經論を寫させた書目三十種と「答日本國問一卷」とを揭げてある。「答日本國問」は本書のことである。本書の決答に對する日本天台の評は「澄唐決」の下に記して置いた。次に本書卷尾に「承和十年五月七日、從ニ內裏一賜、左少將藤原良相大夫副狀送山家」とあるから、本書は恐らく承和七年の「慈覺大師在唐送進錄」卽ち第二回目に圓仁、圓載等が日本へ送つた書中に收められてゐたものであらう。三十科問の目次は大略「圓唐決」と同一。相違の條目を記せば第四等である。但し問の文を多く揭げてゐるものは維諭決答である。答は大體に於いて同意である。

❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目 (田島德晉)

唐決 ❶(日)Tō-ketsu. (支)T'ang-chüeh. 釋疑問答十箇條、德唐決 ❷一卷 ❸存、卍續二・五・五、日本大藏經天台宗疏章疏第二、唐決集卷上 ❹德圓(八—弘仁三—承和一二 A. D. 813—845)疑、宗祖答 ❺本書は日本國比叡山延曆寺天台法華宗內供奉大德德圓法印(傳記不明。傳教大師の弟子—天台法華宗年分得度學生名帳參照)が疑問十條を唐國に送り、その決答を求めたのに對して上都(長安)右街醴泉寺沙門宗頙が答へたもの。年月を記載してゐないから確かには斷言し難いが、「光唐決」、「日本國內供奉光定法師疑問」又は「唐決、釋疑問答六科條」を見ると「唐會昌五年三月二十八日、上都右街醴泉寺義學沙門宗頙」と記してあるから、恐らく此頙、答書を記したものであらう。宗頙の傳は高僧傳・統紀等にない。僅かに勅修流頂官符(天台霞標五之一)佛全二六ノ一七)と慈覺大師傳とに「天台大師第八の弟子左街醴泉寺の僧宗頙に從つて止觀の微習を研習す」とあるのみ。醴泉寺は長安志十によれば朱雀街西之第四街の醴泉坊の街北にあるから右街に屬するのである。

百佛世界疑。第三生佛不異何度・衆生・疑。第四圓實報與・別實報・同異疑。第五建立四教與・圓・漸四教・同異疑。第六本地釋迦與・毘盧遮那・同異疑。第七毘盧遮那・經與・法華經・前後教部所攝疑。第八即身成佛時無明所感之身捨不捨疑。第九非情草木等自成佛說法否疑。第十究竟佛位性惡斷不斷決である。

日本大藏經には本書の卷尾に「慈圓和尙雜墓」を附してある。梵釋寺に關する詔書、詩四首、弘仁六年夏四月嵯峨天皇が近江國滋賀唐崎・梵釋寺（行幸遊された日本逸史の記事を載錄してゐる。詔は類聚國史から、詩は文華秀麗集・經國集から抄出したもの。目次を記せば、「詔建立梵釋寺」。「嵯峨天皇御製過・梵釋寺・詩」。「晨・梵釋寺・應・制詩三首。皇太弟。藤原冬嗣。三原春上」。と日本逸史二十三の弘仁六年の記事とである。この「慈圓和尙雜墓」は天台霞標から抄記したものである。慈圓の傳は天台法華宗年分得度學生名帳（傳教大師全集四ノ七三九。天台霞標四之一（佛全一二五ノ四〇九）慈圓阿闍梨印信（天台霞標二之二。佛全一二五ノ一七五。日本大藏經天台宗密教章疏一ノ一四五。）台密血脈譜。日本佛家人名辭典。本書等によると矛盾がある。更に可考

❼（參考） 諸宗章疏錄第二 （田島德晉）

唐決 ❶（日）Tō-ketsu. 壁唐決、答日本國師二十七問、新度唐決 ❷二卷或一卷 ❸存、大日本佛教全書第三二 ❹淳信（天慶五―寛仁元A. D. 942―1017）問、如曼（建除元―天聖六A. D. 960―1028）決 ❺壁唐決並に答日本國師二十七問の下を見よ。

❼（參考） 諸宗章疏錄第二、本朝台嶺撰述密部書目、山家目德撰述篇目集卷上、淨土眞宗教典志第一

唐決集 ❶（日）Tō-ketsu-shū. ❷二卷 ❸存

❹本書は日本天台と唐宋天台との交渉を研究する第一史料に屬するもの。敎むる所は唐貞元二十一年（A. D. 805）に最澄の十問、道邃十答。唐會昌五年（A. D. 845）に光定の六問、宗穎六答。宋咸平六年（A. D. 1003）に慧心の二十七問、知禮の二十七答。唐會昌五年に德圓の十問、宗穎の十答、唐開成五年（A. D. 840）に圓澄の三十問、廣修の三十問。同年に同問、維諫の三十答、最後は年月不明の答修禪院問十三科條とを敎む。以上七種の問疑決答を錄してある。本書編者の名も由來も不明。寫傳の間に文字の脫落誤謬も尠からずあるやに思はれる。安然の撰述や證貞の撰述中に引用されてゐる文と參照して愈其感が深い。但し圓仁の唐決、圓珍の唐決が敎められてゐないのは如何なる事由のためか。或は材料が多く有り過ぎたためか。又はなかつた爲めか。

❾寫永三刊（叡山、天海）正保三刊（京大、日大未・二五三）×立大、A一三・四・八）（谷大、餘大・二〇三五）（正大、一三七、六〇）（晉、や・七・中・三六）（高大、一・一五）（叡山、昆門） （田島德晉）

唐故終南山靈感寺大律師道宣行記 ❶（日）Tō-ko-shū-nan-zan-rei-kan-ji-dai-ritsi-shi-dō-sen-gyō-ki. （支）Tang-ku-chung-nan-shan-ling-kan-sze-ta-lü-shih-tao-hsüan-hsing-chi. ❷一卷 ❼（參考） 日本國承和五年入唐求法目錄、入唐新求聖敎目錄

唐故大廣禪師大和上楞伽峯塔碑銘並序 ❶（日）Tō-ko-dai-kō-zen-ji-dai-wa-jō-ryō-ga-tō-tō-hi-mei-narabi-jo. （支）Tang-ku-ta-kuang-ch'an-shih-ta-ho-shang-leng-ch'ieh-feng-ta-pei-ming 幷 hsü. ❷一卷 ❹陸宣撰 ❼（參考） 日本國承和五年入唐求法目錄、入唐新求聖敎目錄

唐故大律師釋道圓山龕碑並序 ❶（日）Tō-ko-dai-ris-shi-shaku-dō-en-zan-gan-pi-narabini-jo. （支）Tang-ku-ta-lü-shih-shih-tao-yüan-shan-k'an-pei 幷 hsü. ❷一卷 ❹唐李邕撰 ❼（參考） 入唐新求聖敎目錄

唐故白馬寺主翻譯慧沼神塔碑並序 ❶（日）Tō-ko-hakk-ba-ji-shu-hon-yaku-e-shō-shin-tō-hi-narabini-jo. （支）Tang-ku-pai-ma-sze-chu-fan-i-hui-chao-shen-ta-pei 幷 hsü. ❸存、卍續二乙・二三・一、玄奘三藏師資傳叢書卷下 ❹唐李邕撰

❻本碑はその名の示す如く、慈恩・棲陽と共に支那法相宗の三祖と稱せられた淄州大師慧沼の行蹟を讚え誄へるもの。先づ序に於て慧沼の小傳を叙し、次でその行蹟一般を凝縮した碑銘を出してゐる。序並に碑銘共に湮滅した箇所があつて、今日は駁字となつてゐるのは惜しい。由來、慧沼は甚だその傳に乏しい。この意味に於て本碑は頗る貴重なる文獻であると稱してよい。因に葬塚及び定鳳の追記がある。

❾寫本（京大、續・二四ケ・七） （前田聽瑠）

唐護法沙門法琳別傳 ❶（日）Tō-ho-hō-sha-mon-hō-rin-betsu-den. （支）Tang-hu-fa-sha-mên-fa-lin-pieh-ch'uan. 釋法琳別傳、法琳別傳、護法沙門法琳別傳 ❷三卷 ❸存、大正五〇・一九八No. 2051、續敎八、卍續二乙・二三・一、麗1425憲 ❹彥琮撰 ❺唐貞觀一四―二三（A. D. 640―649）

❻本書は其名の示す如く、唐の法將法琳の事歷を詳述せるもの。

本傳に序したる李懷琳は「理敎周備、搜無ノ遺、翻補有ノ則、抑亦僧中之良史也」と云うたのは、決して溢美の言ではなく、法琳の偉業は實にこゝに於て缺くる所がないと稱してよい。全篇上・中・下三卷、法琳その人を知らんとするものは勿論、佛・道二敎の交涉を究めんとする者も、必ず參考すべき價値ある好書である。この意味に於て吾人は撰者彥琮に感謝すべき理由がある。

因に本傳に序した李懷琳は法琳の弟子、彥琮とは金蘭の交があつた。 （前田聽瑠）

唐高僧傳 ❶（日）Tō-kō-sō-den. （支）Tang-kao-seng-chuan. 續高僧傳、唐傳 ❷三十卷或四十卷 ❸存、大正五〇・四二五No. 2060、續敎二―四、卍三〇・一二、北1077內至傳、南1092內至永、元1088內至永、明北1485位至西、清1509道至八、

隆2320左至明、天1576內至承、福1355左至明、法1394左至明、至1553土至何、明南1477毅至世、N. 1493 ❹道宣（開皇一六―乾封二A. D. 596―667）撰 ❺唐貞觀一九（A. D. 645） ❻續高僧傳の下を見よ。❼慶安四刊

❾（駒大、龍大、研史）高大、寄・一・二二）

唐國略灌頂儀式 ❶（日）Tō-goku-ryaku-kwan-jō-gi-shiki. ❷一卷 ❹圓仁（延曆一三―貞觀六A. D. 794―864） ❼（參考） 本朝台嶺撰述密部書目、密乘撰述目錄

唐西明寺故大德宣公律院碑 ❶（日）Tō-sai-myō-ji-ko-dai-toku-sen-kō-ritsu-in-hi. （支）Tang-hsi-ming-sze-ku-ta-te-hsüan-kung-lü-yüan-pei. ❷一本 ❼（參考） 智證大師請來目錄

唐三高僧詩集 ❶（日）Tō-san-kō-sō-shi-shū. （支）Tang-san-kao-seng-shih-chi. ❸存

❻白蓮集四卷、唐齊己。杼山集四卷、唐皎然。禪月集四卷、梁貫休（德隱）。

❾（駒大）

唐慈恩寺三藏法師傳 ❶（日）Tō-ji-on-ji-san-zō-hō-shi-den. （支）Tang-tz'u-en-sze-san-tsang-fa-shih-chuan. 大慈恩寺三藏法師傳、大唐大慈恩寺三藏法師傳、三藏法師傳、慈恩傳、大唐慈恩寺三藏法師傳、慈恩寺三藏法師傳、大唐三藏法師傳 ❷十卷 ❸存、大正五〇・二二〇No. 2053、館陽二、卍三〇・三、北1073有、南1089有、元1084有、明北1487毫、清1531執、麗1078通、天1072有、指1032通、法1066通、至1549國、明南1470高、N. 1494 ❹慧立本釋、彥悰筆 ❺唐奉持四（A. D. 688）撰 ❻大慈恩寺三藏法師傳の下を見よ。 ❾刊本（京大、印哲・乙・一一）

唐招提寺緣起抜書略集 ❶（日）To-shō-dai-ji-en-gi-nuki-gaki-ryaku-shū. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二 ❹賢盛 ❺應永二（A. D. 1395）

❻本書は大和唐招提寺緣起の略錄である。內容の主なるものを擧ぐれば、先づ天平勝寶六年（A. D. 754）鑑眞和尙の來朝からその示寂に至る迄を叙し、其の間東大寺戒壇院の創建、唐招提寺及び同寺戒壇並に諸堂草創の由來を述べ、次に鑑眞滅後の當寺の歷代相承と寺運の盛衰に就て記してゐる。即ち鑑眞の弟子法進、如寶、如寶の弟子豐安などの次第相承、降て鳥羽帝の御宇に實範の當寺再興のこと、更に藏俊、解脫（貞慶）、覺盛等の相承、最後に諸書の文を引いて當寺に關係ある諸大德の傳を載せてゐる。

本書は應永二年（A. D. 1395）九月四日に唐招提寺の僧賢盛の編する所で、諸書から當寺に關するものを網錄したものであるからその記載に前後重複する所が尠くない。尙「應永三十四年正月十日於ニ招提寺ノ寄僧書寫畢」、「天文九年丙子正月二十九日比丘良泉筆」、「招提寺敎學院以所持宗本書ノ之手時寶永四丁亥歲五月二十七日書寫畢……圓融巻玉周」等の奧書がある。 （不破幹雄）

唐招提寺大鏡 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-ō-kagami. ❷十卷 ❸存 ❹東京美術學校編 ❺昭和三刊 ❻東京大觀發行所

唐招提寺戒壇記 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-kai-dan-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二

❻最初に印度、支那に於ける戒壇の起源と其の發達を略叙し、次に本朝聖武帝の招に應じて天平勝寶六年（A. D. 754）、唐の大明寺僧鑑眞和尙の來朝、東大寺戒壇院の設立から唐招提寺の草創、同寺戒壇建築の由來などを明し、最は上下受戒のことや戒德を擧げて其の必須の理などを說いてゐる。筆者及び其年代は詳かでない。 （不破幹雄）

唐招提寺戒壇別受戒式 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-kai-dan-betsu-ju-kai-shiki. ❷一卷 ❸存、大正七四・三三No. 2351

❹惠晃 ❺元祿十一（A. D. 1698）

❻元祿十一年九月十六日、唐招提寺に於ては戒壇の復興落慶會が執行せられ、爾後連日壇上別受戒法が行はれた。時に受戒の導師圓能の資照山惠晃は舊式及び圓經鈔記等に依つて別受戒式一卷を撰したと云ふ。これ即ち本書である。內容目次を示さば左の如くである。第一受前內請、第二鳴鐘集僧、第三正行請師、第四御資登壇、第五誘遣敎經、第六敎授戒條、第七受者出壇、第八老敎授師、第九口業問難、第十單白入衆、第十一正敎乞戒、第十二對衆問難、第十三正授戒法、第十四略說戒相、第十五出界證列。洛西法金剛院に舊藏した惠晃自筆の原本は現在大谷大學圓書館に存在する。因みに撰者惠晃に就いて其の經賢並に一生の行實等明かでないが、洛西双岡に存した天安寺に住すと云ひ、枳穀易土集二十六卷の著者として知られる所である。

❾自筆本（谷大、餘丙・二八）寫本（谷大、餘大・三三九五×龍大、二六一九・四〇） （藤島達朗）

唐招提寺解 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-ge. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇五

❻天平勝寶六年（A. D. 754）二月鑑眞の來朝より起筆し元德二年（A. D. 1330）八月に至る唐招提寺戒壇の盛衰を略錄す。「文政十三寅歲六月修補畢 寶靜」の奧書あり。

唐招提寺釋迦念佛願文 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-sha-ka-nen-butsu-gwan-mon. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇五 ❹貞慶／久壽二―建保元A. D. 1155―1213）

❻本書は唐招提寺の中興上人貞慶（解脫）の願文及び今一つを敎めてゐる。前者は即ち貞慶が當時衰微の極に在つた招提寺を復舊せしめんとて建仁三年（A. D. 1203）九月十九日から二十六日迄釋迦念佛會を嚴修した時の願文。後者は建長六年（A. D. 1254）九月に同じく釋迦念佛會を修した際の當寺の僧衆十餘名の敬白文である。『招提千歲傳記卷下之二』參照。 （不破幹雄）

唐招提寺東總傳緣起 ❶（日）Tō-shō-dai-ji-tō-sō-den-e-en-gi. ❷五卷 ❸存 ❹記性（一嘉元A. D. 1303）撰 ❼（參考） 大日本佛教全書續刊豫定書目

唐韶州曹溪釋慧能實錄 ❶（日）

Tō-shō-shō-sō-kō-shaku-e-nō-jitsu-ro-ku. (支)T'ang-shao-chou-ts'ao-chi'-shih-hui-peng-shih-lu. ❷一本 ❼(参考) 智證大師請來目錄

唐玄奘師眞唯識量略解 ❶(日)Tō-ji-shi-shin-yui-shiki-ryō-ryaku-ge. (支)T'ang-chuang-shih-chea-wei-shih-liang-liao-chieh 眞唯識量略解 ❷一卷 ❸存、卍續一・八七・一 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1559—1655)略解 ⑭眞唯識量略解の下を見よ。 ⑭貴永二刊(谷大、龍大、二六二五・一八) 延寶九刊(正大、一一九二・一五七)

唐常州天興寺法花院故二大德比丘尼碑文 ❶(日)Tō-jō-shū-ten-kō-ji-hoke-ke-in-ko-ni-dai-to-ku-bi-ku-ni-hi-mon. (支)T'ang-ch'ang-chou-t'ien-hsing-ssū-fa-hua-yüan-ku-ta-te-ta-te-pi-ch'iu-ni-pei-wen. ❷一卷 ❼(参考) 智證大師請來目錄

唐常愍遊天竺記逸文 ❶(日)Tō-jō-min-yū-ten-jiku-ki-itsu-mon. (支)T'ang-ch'ang-min-yu-t'ien-chu-chi-i-wen. ❸存、大正五一・九九五No. 2089(9) 遊方記抄之內

唐栖霞寺記 ❶(日)Tō-sei-ka-ji-ki. (支)T'ang-hsi-hsia-ssū-chi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、藏・二〇ト・一)

唐僧弘秀傳 ❶(日)Tō-sō-gō-shū-den. ❷二卷 ❸存 ❹李弊和父編 ❼(参考) 禪籍目錄

唐太宗皇帝御製基公讃記 ❶(日)Tō-tai-sō-kō-tei-gyo-sei-ki-kō-san-ki. (支)T'ang-t'ai-tsung-huang-ti-yü-chih-chi-kung-tsan-chi. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二三・一玄奘三藏師資傳叢書卷下 ❹清草記 ⑤本書は唐太宗皇帝が慈恩大師基法師に讃を奉られしものを日本僧清草が入宋、五台山を巡禮して、北宋太宗太平興國九年八月十七日、東京梁苑城左衛大相國寺譯經文院に於て寫得せるものである。內容は極めて簡單な數行のものなるも、初めに略傳ありて次に讃を記し、最後に寫得の年時處を明記してゐる。然るに此の讃記につきては古來疑問存し、慈恩大師は(A. D. 1282—1342)の住にして、太宗は(A. D. 1387—1309)の在位とすれば、太宗崩御は大師十七歲の時なれば讃を奉られしとは考へられず、故に古來疑問とせる處である。 ⑭寫本(京大、藏・二四ケ・七) (橋本凝胤)

唐大薦福寺故寺主翻經大德法藏和尚傳 ❶(日)Tō-dai-sen-pukaji-ko-ji-shu-hon-gyō-dai-toku-hō-zō-wa-jō-den. (支)T'ang-ta-chi-n-fu-ssū-ku-ssū-chu-fa-ts'ang-ta-te-fa-tsang-ho-shang-ch'uan. 法藏和尚傳 ❷一卷 ❸存、大正五〇・二八〇No. 2054、卍續二乙・七・三 ❹崔致遠 ⑤新羅天復四(A. D. 904) ⑥本書は「案慕闕記云、西京華嚴寺僧千里撰藏公別錄、錄陳雷跡、然是傳宋傳海城、如湯聞梅。耳目乖長、藤紛井識、今且計片文別記中、纔見藏之軌鵠可參、人魂穩者、慢而案之」と著者崔致遠(新羅の侍講輪林學士)自らが語つてゐるやうに、著者は志願倦むことなく孜々兀々として片文を別記の中に討ねて、遂に本傳をなすに至りしもの。賢首の沒后約二百年の撰述である。序に千里の法藏傳は散逸して今日は存しない。

內容は華嚴三昧觀直心の中の十義に配當して、賢首の生涯を傳してゐる。その所謂十義とは(1)旗鼓廣大心 (2)證學甚深心 (3)削染方便心 (4)講演堅固心 (5)傳譯無間心 (6)著述折伏心 (7)修身善巧心 (8)濟俗不二心 (9)乘調無礙心 (10)示滅圓明心である。蓋しこの十義の配當には確かに著者の識見が窺はれる。但し本傳は所謂の靈驗、奇蹟瑞感の記述に滿ち、傳譯・著述の行實を輕視するの憾みがある。尾題には「華嚴宗主賢首國師傳」と記し、紹興十九年圓證大師義和の跋がある。 ❼(参考) 大唐大薦福寺故大德康藏法師之碑 ❽元祿一二刊 ⑨.龍大、研史) (前田慈隆—宅見春雄)

唐大和上東征傳 ❶(日)Tō-dai-wa-jō-tō-sei-den. 鑑眞過海大師東征傳、鑑眞大和尚傳、東征傳、法務僧大僧正唐鑑眞過海大師東征傳、過海大師東征傳 ❷一卷 ❸存、大正五一、九八八No. 2089遊方記抄之內、日本大藏經戒律宗章疏第二、大日本佛教全書第一三遊方傳叢書第一、新校群書類從第四 ❹眞人元開記 ⑤寶龜一〇(A. D. 779) ⑥鑑眞過海大師東征傳の下を見よ。

唐大和上東征傳 ❶(日)Tō-dai-wa-jō-tō-sei-den. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ❹貫位撰

⑤本書は元享二年の撰述で、觀應二年の書寫にかゝる和文である。他に類書がないので、落丁等を對校することが出來ないと、高楠博士の識語がある。本文は大體元岡の東征傳の抄錄であるが、下卷には大分異つたところがある。 (中谷在輝)

唐傳 ❶(日)Tō-den. (支)T'ang-ch'uan. 續高僧傳、唐高僧傳 ❷三十卷或四十卷 ❸存、大正五〇、四二五No. 2063、續食二—四、卍三〇・一—二、北1077內至傳、南1091內至承、元1088內至承、明北1456佐至衡、唐1469鄉至八、龐1092左至明、天1076內至承、楷1036左至明、法1064左至明、至1553土至何、明南1477穀至倉、No. 1493 ❹唐道宣(開皇一六—乾封二A. D. 596—667)撰 ❺唐貞觀一九(A. D. 645)

唐佛隴故荊溪大師讃 ❶(日)Tō-butsu-rō-ko-kei-dai-shi-san. (支)T'ang-fo-lung-ku-ching-chi'-ta-shih-tsan. ❷一卷 ❹曾禮神邑述 ❼(参考) 傳教大師將來越州錄

唐房行履錄 ❶(日)Tō-bō-gyō-ri-roku. ❸存、大日本佛教全書第一一三 ❹敬光(元文五—寶政七A. D. 1740—1795)撰 ❺明和四(A. D. 1775) ⑥本書は敬光が國清百錄や四明教行錄に據して房房大師(智證大師圓珍)の行履即ち事蹟に關する史料を蒐收したもの。上卷には

聖道の智證大師年譜を主として之が序說を集め、中卷には大師度緣公驗信表勅宣命官符等三十一種を集め、下卷には智證略譜、風藻餞言集等の大師關係者の文書を集めたもの。智證大師傳研究資料として行歷抄等と共に第一に擧ぐべきである。上卷目次は惣序、敬光記。智證大師年譜序、桃華老人撰。智證大師年譜、惣通編。題智證大師年譜後、惠風。中卷目次は(一)大師度緣公驗。(二)大師請戒驗狀。(三)大師受菩薩比丘戒戒牒。(四)修禪大師義眞示牒。(五)勅任傳燈大法師位牒。(六)議任開山學頭牒。(七)充內供奉表。(八)乞入唐巡禮公驗狀。(九)謝充內供奉表。(十)乞入唐台州府公驗。(十一)台州府公驗。(十二)進所寫經卷目錄狀。(十三)乞台州府公據印信狀。(十四)台州府公驗。(十五)台州府公據印信狀。(十六)謝加年分度者表。(十七)勅任天台座主宣命。(十八)太政官副牒。(十九)乞顯密弘傳公驗表。(二十)太政官顯密弘傳公驗。(二十一)勅任園城寺別當公驗。(二十二)勅授阿闍梨位官符。(二十三)勅授法眼和尚位牒。(二十四)勅下傳法規矩牒。(二十五)附華山僧正印信。(二十六)三部祕經許祕。(二十七)大日經義釋後書。(二十八)在唐日錄。(二十九)天安中記(天安二年歸朝の時の日記)。(三十)貞觀中記(貞觀八年宮中に於いて灌頂の記事)。下卷目次は(一)志是撰大師略譜(偈頌)。(二)敬光集・風藻餞言集(詩文集なり。附錄に三首の詩を添ふ)。(三)藤原宣士大師書。(四)澄善耀上大師書。(五)門下求・僧綱職表。(六)門下請・賜・僧職表。(七)賜・附位謚號官宣。(八)謝賜贈位謚號表。(九)敬光撰智證大師撰述目錄。(十)傳燈瑜伽教授法志、覺芳編、敬光補。(十一)高美倫大師畫讃。(十二)橘左列大師畫影讃。(十三)門流祭・大師・文。(十四)大師遺制十一箇條、寛平三年十月二十八日記。以上。

❷(参考) 山家眞德撰略傳目錄卷下 ❹寫本(龍大、二九六五・九五) (谷大、餘大・七九八) (田島德香)

唐房法橋消息 ❶(日)Tō-hō-hō-kyō-shō-sō-ku. ❷一通 ❼(参考) 淨土依憑經論章疏目錄

唐本一切經目錄 ❶(日)Tō-hon-issai-kyō-moku-roku. ❷三卷 ❸存、叶和法寶總目錄第二 ❹古寫本(高山寺)(東寺) (帝國、い・七四)

唐梵對敵韋勝眞言効天下本 ❶(日)Tō-bon-tai-teki-son-shō-shin-gon-kō-ten-ga-bon. (支)T'ang-fan-tui-ti-tsun-shen-chen-yen-hsiao-Ficn-hsin-pen. ❷一卷 ❼(参考)常曉和尚請來目錄

唐梵翻對字音般若波羅蜜多心經並序 ❶(日)Tō-bon-hon-tai-ji-on-han-nya-ha-ra-mi-ta-shin-gyō-narabi-ni-jo. (支)T'ang-fan-fan-tui-tzū-yin-pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching & hsü. ❷一卷 ❸存、大正八・八五一No. 256 ⑤本經は玄奘譯般若心經に相當するものの梵文を漢字にて音寫せるもの、瓚煌より發見せられたる古寫本(現在英國ロンドン大英博物館所藏)にて、これを刊刻せる大正藏經本によるに、初に慈恩和尚の序なるものあり、次に不空譯の蓮花部等香讃歌三寶の呪なるものあり、次に本經あり、而して右の序によるも、又卷頭書によるも、これは玄奘三藏西遊の途次、益州空惠寺に於て觀音の化身なる一僧より親授せられたるものとす、然れば貞觀三年秋(A. D. 629)のことの如けれどこの序の傳史實として疑はしき點あるを以て今譯者譯年を明記せざることゝし、たゞ右の如き傳あるを注記するに止む。

大正藏經本に依るに、本經音寫は玄奘譯心經の原本從つて現在我國に傳へらるゝ心經の梵本(廣略二種ある內)の略本の方によく合す、但し、一二原本の誤りならんと思はるゝものあり、又、一二は書寫又は翻刻の際、大文字にすべきを小文字にせる誤りあり、又、大正藏經(卷八)頁、八五一、下段、終りより二行目「尾儞也」より次頁上段、第七行目「囉斐(薩四十五)」迄は全く誤りて重復せるものに付除去すべし、其の他同頁の「世」は何れも「也」の誤り、終りより三行目「諦諦諦」は「諦諦諦」の誤りなり。

唐梵文字 ❶(日)Tō-bom-mon-ji. (支)T'ang-fan-wen-tzū. ❷一卷 ❸存、大正五四・一二二六No. 2134 ❹全眞集 ❺唐開成四(A. D. 839) ⑥本書は種々の支那語に梵語を配したる語彙の一種。天地日月等に始まり、終に如來大聖等の文ありて密教の用語が散見する。文字の排列は義淨撰の梵語千字文に酷似してゐるから、恐らく梵語千字文から作られたものであらう。安永二年刊行の梵語千字文の序言に敬光は千字文の義淨撰なることに疑を懷き、全眞の唐梵文字に依りて製したものであらうと云ふ。然し高楠順次郎博士の說に依るに、唐梵文字は承和六年十二月十九日圓行の請來する所で、その年月は千字文の請來より早きも、著作の年時よりすれば千字文世に行はれて以來一百年後に成つたものであるから、寧ろ唐梵文字から作られたものである。卷初に全眞の手になつた序文があるが、誤字極めて多く、意義通じ難き所あるも、大體の意義は、梵唐兩國の言音を知らんとするには師資相承ければならぬ、印度では悉曇章を學ぶのである、今此に傳へたものは中天の音韻最も密要の文字である、これを首として學ぶならば餘語皆通じ、細心に學習する時は一二年間にして翻譯に堪ふべし、瑜伽の行者は先づ以てこの文を精練して梵漢雙譯すべきである、仍てこれを後代に傳へる」といふ意味のやうである。梵語千字文の序言にも略ぼ同樣のことが見えてゐる。

⑨平安朝時代寫(寶書提院)延享四寫(谷大、餘大・三〇五九) 寫本(京大、日大未・文・五七) (泉芳璟)

唐梵兩語雙對集 ❶(日)Tō-bon-ryō-go-sō-tai-shū. (支)T'ang-fan-liang-yü-shuang-tui-chi. ❷一卷 ❸存、大正五四・一二四一No. 2136 ❹唐代僧世葉多、波羅羅那彌拾沙集 ⑤本書は種々日常の用語を梵漢相對した一種の語彙である。語の排列は大體一貫せる

分類者別を以てするも、同々類聚別類するも、何れも可なり。元亨釋書に曰く、慶、雄、厳、法、の四人を召び、倉日、分寂、計都、金剛、般若、厳寂、人勢、從仙日、雄自、天長、地藏、宗睿、國名、愛宕、勢海、金峯、鳥居、禪定、年齢、芳夫、淺井、愛勢、實慈、次信、天慶、宗仙等に及んでなる。然れども其分類者名は未審と雖、分て倉日は天皇と、計都は皇子と、雄自は天皇と、厳寂は皇子と、人勢は皇子と、從仙は皇子と、雄自は天皇の皇孫、愛宕は天皇の皇孫、愛海は皇子、愛勢は皇子、實慈は皇子、次信は皇子、天慶は皇子、宗仙は皇子、國名は皇子、愛宕は皇子、鳥居は皇子、禪定は皇子、年齢は皇子、芳夫は皇子、淺井

宗教的老婆心に過ぎ、教義の本質即ち知的尖鋭な筆鋒が示されてゐない。玆に禎宋天台の代表的學者の傾向と日本天台（中古天台の上代）の代表的思想傾向の片鱗を瞥見し得られる。日支天台兩偉人の末流の學風が如何だけでも、この兩偉人の筆跡を讀したに展開するであらうかを想像し得られる。次に日本佛教が印支日三國佛教の綜合佛教であり、各時代教學を著實に研究する態度を示すのに對し、支那天台は戰亂相續くと共に破佛の結果とは云へ俱舎唯識等の性相佛教の研究に手を染めず、教禪二教又は儒佛道三教の融不融に主力を注いでゐたことが知られる。日支兩國の國運の消長、研究の態度等が本書を通じてマ見し得らるることは日支思想交渉史研究上注目すべき點であらう。本書は天台、俱舎、法相の論義條目を擧げてゐる。これ明らかに性相學派と天台學派との接觸であり、印支日三國佛教の比較研究に指を染めんとしたものである。他面からは奈良教學と北嶺教學の對抗を支那佛教によつて其の解決を求めんと企てたものとも見られる。本書は法華經・法華文句・法華文句記の内に於いて、先づ三周授記作佛から問ひを起し、譬喩品・化城喩品・寶塔品・提婆品・壽量品・分別功德品・隨喜品・法師功德品・不輕品・囑累品・菩薩品・勸發品と次第に疑ひ、次に文句記第一の最初一佛に師ありや・南岳の法華懺法・妙玄第六・第九・釋籤第五・止觀第一・第三・第六・止觀等の性惡・四教義第一・第三等の疏の文に就いて問ひ、終りに至つて二家章疏の引用文と經論章疏の文句との相違。五百問論の眞僞を疑つてゐる。要するに三大部と六祖の註釋との文に就いて疑つたものである。この疑問の順序が、文句・玄義・止觀・四教義の次第を以つてゐることは中古天台で天台學攻究の順序を立つる口傳と一脈の關係があるが如く考へられる。特に五百問論の作者を疑つたことは後に寶瑜房證眞の學風に影響があると思ふ。又第二十二問の婆娑論の新舊兩譯の比較に就いて四明は「未檢」といつたことは兩者の性相學に對する關心程度が知られて興趣が深い。二十七問とは唐決集の目次によれば「慧心疑問。智證決答。一、法華授記爲初住爲妙覺？二、身子何六住退作凡夫？三、魔勸指實事、何言了始得阿羅漢？者縛行四悉。四、自銀世界黃金世界分身來耶。五、龍宮變不變。六、壽量疏大經十二劫何云九劫。七、一世八世脇相（因論、生論）生身證妙覺耶。八、一念信解所有福業無量何偏取十心具足？九、二乘通力不過大千、何梵王見大千界？十、不輕事望久遠實成、爲前爲後。十一、囑累疏云三千三百那由他、國指何等國？十二、囑累記云更加寶印首、意十三、觀音品疏受苦四句差別。十四、觀發記十記但斷十二品、盡云云何不云十品？十五、最初無教佛有無。十六、南岳法華懺法億宇莊嚴宇何與加之。十七、國土苦樂何言由佛。十八、玄文第九與分別功德品應數相違。十九、見思何故爲俗諦所破？二十止觀第一釋三藏佛神通、何故違俱舎大論？二十一、別接通人云何從秉教、來忽通登十地？二十二、止觀云超斷五品名家々未知其所從？二十三、止觀與起信論、明善惡體、何故相違。二十四、四教義豈非有云云何不云豈非無？二十五、四教義二三僧祇造修治、由何典據？二十六、圓宗教釋多與所引本文相違。二十七、五百問論以多此譯、是非大師所制不可用。以上。

⑦（參考）本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述目集卷下（田島德雲）

答馭止訛 ❶(日)Tō-baku-shi-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹大綱 ❺享保四刊 ❻（谷大、餘大・三〇七四）（龍大・二六六四・二八）（京大・一・二六ト・三）（叡山、慈眼）

答佛學問 ❶(日) Tō-butsu-gaku-mon. ❷一卷 ❸存 ❹（龍大・二五九・二七）

答辨光明眞言名加持土沙義駁 ❶(日)Tō-ben-kō-myō-shin-gon-mō-ka-ji-do-sha-gi-baku. ❷一卷 ❸存 ❹光謙寶空（承應元—元文四 A. D. 1632—1739）❻刊本（谷大、餘大・三〇七四）

答本迹訣 ❶(日)Tō-hon-jaku-ketsu. ❸存、眞宗小部集之内 ❹信敬（享保八—天明三 A. D. 1733—1783）❻寫本（龍大・一五〇一・五五）

答量撮 ❶(日)Tō-ryō-satsu. ❷一卷 ❸長載 ❼(參考) 注進法相宗章疏

答或問十如義 ❶(日) Tō-wakumon-jō-nyo-gi. 答十如義 ❷一卷 ❸存 ❹慈山妙立（寛永一四—元祿三 A. D. 1637—1690）❺元祿四刊 ❻（谷大、餘大・二六〇七）

等海口傳抄 ❶(日)Tō-kai-ku-den-shō. 宗大事口傳抄、二帖抄見聞 ❷十七卷 ❸存 ❹等海述 ❺康永二—貞和五（A. D. 1343—1349）❻宗大事口傳抄の下を見よ。❻慶安四刊（谷大、餘大・二一三二）正保二刊（立大、A一三・二一（叡山文庫）

等御諸法經 ❶(日)Tō-gyo-sho-hō-zyō.(支)Teng-yu-chu-fa-ching. 持心梵天經、持心梵天所問經、莊嚴佛法經、持心梵天經、持心經、莊嚴佛法諸義經、持心居士八城人經 ❷四卷 ❸存、大正一五・一No. 625、縮字一、卍二〇・四、北144頁、南144及、元141及、明北193葉、清193葉、麗143頁、天144頁、指133頁、法141頁、至211惟、明南158五、Nj. 197 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元（A. D. 265—313）❻持心梵天所問經の下を見よ。❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

等空大德略傳 ❶(日) Tō-ku-dai-toku-ryaku-den. ❷一册 ❸存 ❻寫本（高大、寄・一・五五）

等觀藏書目錄 ❶(日) Tō-kwan-zō-sho-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❺大正三寫 ❻（谷大、餘大・二七〇三）

等持院御八講 ❶(日) Tō-ji-in-go-hak-kō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

等持院殿三十三回御佛事 ❶(日)Tō-ji-in-dono-san-jū-san-kwai-go-butsu-ji. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

等持寺結緣灌頂事 ❶(日)Tō-ji-ji-ketchi-en-kwan-jō-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❺延文四寫 ❻(寶善提院)

等集經 ❶(日)Tō-jū-kyō.(支)Teng-chi-ching. 等集衆德三昧經、集一切福德三昧經、等集衆德經 ❷三卷 ❸存、大正一二・九七三 No. 381、縮盈一〇、卍九・一、北143及、南142及、元138及、明北124化、清124化、麗141頁、天142及、指132頁、法139頁、至219惟、明南144四、Nj. 128 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元（A. D. 265—313）

等集三昧經 ❶(日)Tō-jū-san-mai-kyō. (支)Teng-chi-san-mei-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉白法祖譯 ❺第二譯 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

等集衆德三昧經 ❶(日)Tō-jū-shu-toku-san-mai-kyō. (支)Teng-chi-chung-te-san-mei-ching. 集一切福德三昧經、等集衆德經、等集經、(梵藏)集一切福德三昧經參照 ❷三卷 ❸存、大正一二・九七三 No. 381、縮盈一〇、卍九・一、北143及、南142及、元138及、明北124化、清124化、麗141頁、天142及、指132頁、法139頁、至219惟、明南144四、Nj. 128 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元（A. D. 265—313）❻既出、集一切福德三昧經の異譯にして第一出。内容文に出没を見るも義大同なれば、右經の下の解說を見らるべし。因みに本經の西藏譯は印度親教師 Prajñavarman, Ziledrabodhi 並に西藏譯官 Ye-ses-sde の譯出に係り、内容不分明なる分品をなすものゝ如くであるが、漢譯の如く分品せざるか、本來のやうである。

❼(參考) 出三藏記第二、内典錄第二、歷代三寶紀第六、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三

等集衆德經 ❶(日)Tō-jū-shu-toku-kyō.(支)Teng-chi-chung-te-ching. 集一切福德三昧經、等集衆德三昧經、等集經 ❷三卷 ❸存、大正一二・九七三 No. 381、縮盈一〇、卍九・一、北142及、南142及、元138及、明北124化、清124化、麗141頁、天142及、指132頁、法139頁、至219惟、明南144四、Nj. 128 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元（A. D. 265—313）

等心經 ❶(日) Tō-shin-gyō. (支) Teng-hsin-ching. (E)A. II. 4. 5—6 ❸存 中阿含經第五（大正一・四四八 No. 26. 21）

等入法嚴經 ❶(日)Tō-nyū-hō-gon-kyō. (支)Teng-ju-fa-yen-ching. ❷一卷 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第一、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一

等不等觀雜錄 ❶(日)Tō-fu-tō-kwan-zatsu-roku. (支) Teng-pu-teng-kuan-tsa-lu. ❷八卷 ❸存、楊仁岳士遣著第七—一〇 ❹清楊文會 ❼(參考) 禪籍目錄 ❺民國八刊 ❻(龍大、研史・二〇九九・二〇一×谷大、餘大・二四四〇）

等目菩薩經 ❶(日) Tō-moku-bo-satsu-kyō.(支)Teng-mu-p'u-sa-ching. 等日菩薩所問三昧經、等日菩薩所問經、菩賢菩薩定意經 ❷三卷 ❸存、大正一〇・五七四 No. 288、縮六一〇、卍八・四、北103及、南102及、元100及、明北107半、清107半、麗101戎、天102及、指91戎、法93戎、至173歸、明南104體、Nj. 111 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元（A. D. 265—313）❻華嚴經の十定品である。❼(參考) 出三藏記第二、内典錄第二、歷代三寶紀第六、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四

等不等葉記 ❶(日)Tō-yō-fu-tō-yō-no-ki. ❷一帖 ❸存 ❹宥快（貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416）記

等葉不等葉口訣 ❶(日)Tō-yō-fu-tō-yō-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

等葉不等葉並停止之事 ❶(日) Tō-yō-fu-tō-yō-narabini-chō-ji-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

等葉不等葉之口說 ❶(日)Tō-yō-fu-tō-yō-no-ku-setsu. ❷一册 ❸存 ❹淨敬（寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702）記 ❺天保一〇刊 ❻(金剛三昧院)

等葉不等葉事 ❶(日)Tō-yō-fu-tō-yō-no-koto. ❷一册 ❸存 ❻寫文四寫及文祿三寫（高大、寄・一・六四）

登祖山拜謁願書序 ❶(日)Tō-zo-san-hai-etsu-gan-sho-no-jo. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山（天和三—明和六 A. D. 1683—1769）❺寶曆一三寫 ❻(駒大)

登門記名簿 ❶(日)Tō-mon-ki-mei-bo. ❷一卷 ❸存 ❻寫本（龍大、一九七一・二七）

登門諸子錄 ❶(日) Tō-mon-sho-shi-roku. ❷一卷 ❸存 ❻寫本（龍大）

統合大講習會講演集 ❶(日)Tō-gō-dai-kō-shū-kwai-kō-en-shū. ❷一卷 ❸存 ❹統合事務所編輯 ❺大正四刊 ❻(立大、B〇九・二六—二八）

統要篇 ❶(日)Tō-yō-hen. 時宗統要篇 ❷七卷 ❸存、大日本佛教全集第六八 ❹僧阿玄秀述 ❺時宗統要篇の下を見よ。❺寛延三刊（帝國、二二八・二〇）

當家口傳 ❶(日)Tō-ke-ku-den. ❷一卷 ❸存 ❹篤門日耀 ❻寫本（立大、D

○・三四○)

當家三衣鈔 ❶(日) Tō-ke-san-i-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書日蓮正宗部之内 ❹日寛 寛文五—享保一一(A. D. 1665—1726?) ❺享保一〇(A. D. 1725)

❻日蓮正宗(舊稱大石寺派)中古の五匠日寛の著述「六卷鈔」の第六。初に左傳の「衣身之章也、註云章明ら貴賤、他云云」の文を引いて衣裳の重要性を述べ、次いで佛家に云ふ三衣を說き、一轉して當門流のみ他流と異なり只だ薄墨素絹五條を著する理由を詳述し、最後に當門の三衣は袈裟、法衣、珠數の三なりと說き其の理由を說明してゐる。(馬田行啓)

當家宗旨名目 ❶(日) Tō-ke-shū-mō-mo-ku. ❷二卷 ❸存 ❹日寛述 ❺元祿八刊 ❻(立大、A〇四・三六三)、哲、え・一・右・一九)(谷大、餘大・二四七〇)(龍大、研佛)(正大、一八四・二三)寫本(京大、日大未・五四六)

當家所傳 ❶(日) Tō-ke-shō-den. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研眞)

當家諸門流繼圖之事 ❶(日) Tō-ke-shō-mo-rya-kei-zu-no-koto. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之内 ❹未詳、日寛考補

❻作者年代共に未詳なるも、記述内容より見て文祿二年乃至慶長八年以前の作なることは明らかである。尙ほ下總妙興寺の大法院日憲の考補あり。宗門近古の史實を知る參考となる書。

「六門徒之事」と總標を掲げ、其下に神阿闍梨法印日昭門流之事—日朗門家之事—六條本國寺繼圖之事—四條妙本寺繼圖之事(今云妙顯寺)眞間山根本寺繼圖之事。正中山本妙寺繼圖之事。蓮華阿闍梨日持門家繼圖之事。上總國藻原常在山妙光寺繼圖之事。富士門徒大石寺繼圖之事北山本門寺繼圖之事。身延山久遠寺繼圖之事。同宮光長寺繼圖之事」等其他多數の圖を擧げて記述す。(馬田行啓)

當家正義本迹易解抄 ❶(日) Tō-ke-shō-gi-hon-jaku-i-ge-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書顯本法華宗部第一之内 ❹日進(元祿四—安永元 A. D. 1691—1772)

❻顯本法華宗(舊稱妙滿寺派)の日進が本勝迹劣を論じた書。「迹門理三千、本門事三千相製之事。事理三千勝劣不同事。本迹二立ニ勝劣ニ法門ニ約レ事。事ニテ理理ヲ正意ト立ルル法門ニ非ル事。天台ハ迹面本裏ノ故ニ理境ヲ以テ法華一部ノ正宗トシテ本迹一致ヲ成シ、吾眞ハ本面迹裏ノ故ニ事智ヲ以テ法華一部ノ正宗トシテ本迹勝劣ヲ立ル事。本迹雖レ殊不思議一ト云フ天台ノ釋ヲ引テ我宗義ノ本迹一致ヲ立ルハ大ナル謬ノ事。」等前後十三題を設けて論述してある。(馬田行啓)

當家大事血脈抄 ❶(日) Tō-ke-dai-ji-ketsu-myaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹日蒼 ❺慶安四寫 ❻(正大、一八四・二四)

當家朝口傳 ❶(日) Tō-ke-chō-kai-den. ❷一卷 ❸存 ❹日朝 ❺寫本(立大、D〇・一八〇)

當家本尊義 ❶(日) Tō-ke-hon-zon-gi. ❷一卷 ❸存 ❹日遵記 ❺天保一三寫 ❻(立大、D〇・四七—四八)

當下成佛經 ❶(日) Tō-ge-jō-butsu-kyō. (支) Tang-hsia-ch'eng-fo-ching. 彌勒下生成佛經、彌勒受決經、彌勒成佛經、下生成佛經、彌勒當來成佛經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四二三、No. 454、鎌門九、卍一〇・五、北2306號、南211號、元2305號、明北202貞、清123貞、麗199號、宋239號、法192號、至276知、明南201貞、N. 205 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九 A. D. 344—413)一說弘始一二或義熙中譯) ❺彌勒下生成佛經の下を見よ。

當午和尙著說 ❶(日) Tō-go-o-shō-chō-sa-setsu. 長慶當午和尙著說 ❷一卷 ❸存 ❹琢應編 ❺享和二刊 ❻(谷大、餘大・六三四)(駒大)

當今公武書類 ❶(日) Tō-kon-kō-bu-sho-rui. ❷一卷 ❸存 ❹元治二寫 ❺(龍大、別置)

當今法會 ❶(日) Tō-kon-hō-e. (支) Tang-chin-fa-hui. ❸存、卍續二・二四・三 ❹御選語錄第一四

❻御選語錄の編者、清世宗帝(圓明居士)が雍正十年十二月より從上の古德の語錄を選輯しつつ聽政の餘暇、內廷の王大臣等に提出して參究せしめた結果、古今の禪侶が行雲流水、到處に參究商量して然も悟了底の那人絕めて稀であるのに反し此の春より夏に至る半載の間に一時に八人の大悟大徹の者を出した、誠に當今法會の盛事であると て選別した語錄に當今法會と題した旨を雍正十一年九月(A. D. 1733)自序し御選語錄卷十九に收めて梓行せしめたものである。

其の王大臣の八人とは、(一)皇十六弟莊親王愛月居士、(二)皇十七弟果親王自得居士、(三)皇四子和碩寶親王長春居士、(四)皇五子和碩和親王旭日居士、(五)多羅平郡王福彭如心居士、(六)大學士伯鄂爾泰担餘居士、(七)大學士張廷玉澄懷居士、(八)左都御史張照得天居士の八人であり、更に次の六名の語錄をも收めて居る。(九)覺生寺文覺禪師元信雪鴻、(一〇)聖因寺悟修禪師明慧楚雲、(一一)妙正眞人婁近垣三臣、(一二)拈花寺方丈僧超善若水、(一三)萬壽寺方丈僧超眼玉鉉、(一四)海會寺方丈僧超盛如川。

❺光緒四刊 ❻(駒大) (大久保堅瑞)

當根器所行法 ❶(日) Tō-kon-ki-sho-gyō-hō. (支) Tang-kên-chi-so-hsing-fa ❷一卷 ❸疑僞經 ❹(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八

當山金襴衣再興紀事 ❶(日) Tō-san-kin-ran-e-sai-kō-ki-ji. 當山正覺寺金襴衣再興紀事 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五一四・四七)

當山源起問辨 ❶(日) Tō-san-gen-ki-mon-ben. 當山門源記 ❷一卷 ❸存 ❹日本大藏經修驗道章疏第三、修驗聖典 ❺俊堅記 ❻寫保二(A. D. 1742) ❼當山門源記の下を見よ。

當山極深祕法血脈 ❶(日) Tō-san-goku-jin-hi-hō-ketsu-myaku. 極深祕要血脈 ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章

疏第三史傳類

❻當山派修驗の傳燈血脈である。內題の下に「當山永宣旨並行者帝書手授御黑箱大宿相承」とあつて、大日・金剛・龍樹・行者より元明・元正・聖武・孝謙・廣帝・稱德・光仁・桓武・平城・嵯峨の十帝を經て醍醐元祖聖寶附正に至り、それより四十代を經て修榮・實雅に終つてゐる。(服部如實)

當山修驗深祕行法符呪集 ❶(日) Tō-zan-shu-gen-jin-pi-gyō-hō-shū. 修驗深祕行法符呪集、修驗傳授切紙類藏鈔 ❷十卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第二法則類 ❹中野達慧編 ❺大正八(A. D. 1919)?

❻當山修驗に依用され來つた呪法四百四十種を集めたものである。三寶院義演准后の切紙、金峯の大先達勸修寺蓮光坊良勝傳受の切紙大事、醍醐山東院仁寬付法の大事、高野山の學匠印融の大事作法、豐山勝海房章如の五十通、智山隆譽の十結拔次第十卷修驗拔集記等より編錄したものである。然し全然之を以て修驗專用の呪法とのみ斷ずることは出來ない。純然たる眞言宗所用のものも交つてゐるからである。今十卷の內容を見るに、第一卷は入堂時印言以下印佛讚經作法に至る三十五種、第二卷は正觀音灌頂大事以下山神六印大事に至る四十六種、第三卷は八眼印明以下九社拜見大事に至る三十九種、第四卷は日持大事以下除夜心經會作法に至る二十六種、第五卷は堂棟六札以下百二十五種餘之內一字二字三字之祕事に至る四十七種、卷六は陳摩法兵法香大事以下渡海安全法に至る二十六種、卷七は方違守以下除惡人來符呪に至る二十九種、卷八は諸佛枕加持大事以下林祕等虫除符に至る三十種、卷九は金縛大事以下經欲罪滅法に至る五十三種、卷十には密嚴上人臨終印以下施鬼作法に至る二十五種、總計四百四十法を尖々收めてゐる。尙修驗深祕行法符呪錄集二卷は、羽黑派に於て天台修驗に依用せられるものゝ中、本集とは全然別なるもの四十八法を集めたものである。卽ち上卷には阿闍梨行信印以下不動縛末魔法に至る三十種、下卷には明惠上人七重印以下字津宮神法切紙に至る十八種を收めて居り共に修驗道に於ける祈禱禁厭の一斑を知るにいゝ資料である。(服部如實)

當山修驗傳統血脈 ❶(日) Tō-zan-shu-gen-den-tō-ketsi-myaku. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第三史傳部、修驗聖典第七史傳 ❹行智(安永七—天保一一 A. D. 1778—1841)

❻慧日房行智の踏雲錄事より抄出したもので、終に當山正大先達三十六人並に十二箇院先達を加へてゐる。血脈は大日・金剛・龍猛・役小角・聖寶・觀賢等と次第し、三十一代を經て高賢附正で終つて居る。又正大先達及び十二箇院先達は修驗道の勢力の地方的分布を知るに尤もよき史料である。(服部如實)

當山十二箇院大先達 ❶(日) Tō-zan-jū-ni-ka-in-dai-sen-datsu. ❷一卷 ❸存、修驗聖典第七史傳

❻當山修驗傳燈血脈に附加された「十二箇院先達」を別出したものである。大和の當山寺・櫻本坊・福壽院・永久寺・正曆寺・平等寺・高天寺・寶藏院・伊勢の世儀寺、紀州高野山金剛峯寺行人方、江州の岩本院・梅本院の十二院名を擧げてゐるが、これは何れも當山修驗一方の旅頭として重要な地位を占めたものである。(服部如實)

當山巡禮記 ❶(日) Tō-zan-jun-rei-ki. ❷一卷 ❸存 ❹義源記 ❺寫本(西敎寺藏)

當山巡禮修行記 ❶(日) Tō-zan-jun-rei-shu-gyō-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏三、台嶺行門修驗書 ❹宗澄記 ❺應永年間(A. D. 1394—1427)

❻台嶺行門修驗書の一。比叡山を中心として回峯修行する天台修驗一派の行者が巡拜する靈場の本尊、印明、史傳等を記錄したものである。卽ち一西塔號三昧藏界理拳印一事以下七星影向祕水に至る四十四處の本尊・印明・史傳等を記してゐる。終に秘云、此書首尾合點分以證憲法印祕本之抄、拔書之、也。御面可ノ信」之者也。宗澄記之」と。又「御本云」、宗澄阿闍梨巡禮先記仍手文奉ノ許如ノ件。應永二十九年正月二十六日、權大僧都法印大和尙位、證憲とある。(服部如實)

當山巡禮靈所法施記 ❶(日) Tō-zan-jun-rei-rei-sho-hō-se-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏三台嶺行門修驗書之內 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)記

❻台嶺行門修驗書の一にして、比叡山の三院卽ち西塔院・東塔院・橫河について、序で の如く修驗界十三大會・金剛界九會・不二三會に配し、結語すべき印明を說いたものである。(服部如實)

當山諸國三十六正大先達 ❶(日) Tō-zan-sho-koku-san-jū-roku-shō-dai-sen-datsu. ❷一卷 ❸存、修驗聖典第六史傳部之內

❻慧日房行智の踏雲錄事より別出したもの。「當山修驗傳統血脈」の終に附加された「當山正大先達三十六人」と同じで、當山修驗に屬する大先達三十六人の所居を擧げてゐる。(服部如實)

當山大千度記 ❶(日) Tō-zan-dai-sen-do-ki. ❷一卷 ❸存 ❹全眞記 ❺寶永三寫 ❻(日光文庫)

當山大塔初建立 ❶(日) Tō-zan-dai-tō-sho-kon-ryū. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶藏院)

當山庭儀依舊儀事 ❶(日) Tō-zan-ni-ni-ka-ni-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❺寫政一〇寫 ❻(金剛三昧院)

當山並末寺記 ❶(日) Tō-zin-na-rakin-matsu-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❹雲空記 ❺文明一五寫 ❻(三結寺藏)

當山派師資相承血脈 ❶(日) Tō-zan-ha-shi-shō-jō-ketsi-myaku. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第三史傳

❻當山派修驗の傳燈血脈で、大日如來・金剛薩埵・龍樹大士・役行者・理源大師・觀賢・淨祐と次第し四十二代等覺金剛慧慶に終つて居り、「文化六巳丑歲五月三日於ニ武藏國足立郡小松原配官坂東坊一乘寺小松山瀧本院

數字略號 ❶題名(書名) ❷數卷 ❸存 ❹著 ❺著者 ❻代年作譯 ❼書式 ❽內容說解 ❾參考書(註釋書) ❿月年の刊寫 ⓫寫本(書庫)所現 ⓬發行名所

道場、授與焉了」と附記されてゐる。 (服部如實)

當山八葉峯 ❶(日) Tō-zan-hachi-yō-hō. ❷一軸 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

當山祕鈔 ❶(日) Tō-zan-hi-shō. ❷金峰山祕密傳、延元法務記、深密鈔 ❸三卷 ❹存、日本大藏經修驗道章疏第一 ❺文觀(建治三—正平一一 A. D. 1277—1356)撰 ❻延元二(A. D. 1337) ❼金峰山祕密傳の下を見よ。

當山門源記 ❶(日) Tō-zan-mon-gen-ki. 當山源起問辨 ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第二教義、修驗聖典第六 ❹俊堅記 ❺寶保二(A. D. 1742) ❻當山派修驗の起原沿革及び當本兩派の分派異同を叙したるもの。或る人の質問に應じて江戸戒定慧院鳳閣寺の俊堅の撰した書である。(一)當山高祖理源大師聖寶尊師の事、(二)當本兩派分別、これを一論に開基差別二二論に入峯異義二三論に峯中摺挿二四論に證法傳燈二五論に當本各宗、の五段として辯じ、次に(三)下知狀二種、(四)行者誕生之事、(五)大先達稱號之事、(六)同行と稱する事を論述し、(七)枝折徒拾山故事和歌、西行の歌を擧げ、旣して當山派の勝れたる所以を說いて居る。 (服部如實)

當山靈所巡禮次第 ❶(日) Tō-zan-rei-sho-jun-rei-shi-dai. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第三台嶺行門修驗書 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ❺寶祚元(A. D. 848)

❻台嶺行門修驗の巡禮次第。根本神宮寺震朝鎭國道場、御髮禿山王を初め、竹臺・西塔院・橫川に亘る靈所を擧げ、玆に於て結誦すべき印明を說いたもの。終に「寶祚元年歲次戊辰八月十八日、圓—記」とあり、行門修驗研究上重要な資料である。(服部如實)

當寺三昧耶戒圖私並教授用意事 ❶(日) Tō-ji-sam-ma-ya-kai-zu-shi-narabini-kyō-ju-yō-i-no-koto. ❷一紙 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

當寺本尊不審事 ❶(日) Tō-ji-hon-zon-fu-shin-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

當宗祈願之事 ❶(日) Tō-shō-kiwan-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❹深覺(寬延二—文化一四 A. D. 1749—1817)等述 ❺寫本(谷大、宗大・三二四)

當所大明神丑日講式 ❶(日) Tō-sho-dai-myō-jin-ushi-no-hi-kō-shiki. ❷一軸 ❸存 ❹足利末期寫 ❹(金剛三昧院)

當心大事 ❶(日) Tō-shin-dai-ji. ❷存 ❹行遍 ❺元和四寫 ❹(金剛三昧院)

當世念佛者無間地獄事 ❶(日) Tō-se-no-ni-butsu-sha-mu-ken-ji-goku-no-koto. ❷一卷 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永元(A. D. 126+)九月 ❻安房國東條の蓮華寺に於て淨圓房に對し與へた書。

「問曰當世念佛者無間地獄云事其故如何」「答云就二法華之謗一撰二云也」との問答に起

筆し、以下問答體を以て法然「選擇集」選述の由來より其の內容に及び、「捨閉閣抛」の四字を以て法華經の信を止め、諸法の重罪を造つた、故に法然の選擇に迷はされた當世の念佛者は凡て法然と同じく謗法罪によつて無間地獄に墮つべきであると、詳說したものである。

❼錄內啓蒙三四、錄內扶老二三、錄內拾遺七等 (馬田行啓)

當體義鈔 ❶(日) Tō-tai-gi-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永一〇(A. D. 1273)

❻跋狀によれば、本書は最蓮房に與へて本化の妙觀を紹示した書である。

「問妙法蓮華經者其體何物乎。答十界依正卽妙法蓮華之當體也」以下十九番の問答を以て、或は支那日本天台の論釋を引用し、天台止觀の立場に於て、十界の迷悟、染淨、生死起滅の凡てが妙法蓮華經の當體ある所以を說明し、轉じて本化、獨特の立場に於て「所詮妙法蓮華當體者信二法華經一日蓮弟子禮那等父母所生肉身是也」とて法華經の信によつて價値の轉換を必要とする所以を明にし、左記の如き有名なる文を記してゐる。正直捨二方便一、但信二法華經一、唱二南無妙法蓮華經一、人頓證菩提、女人成佛、龍女是也。

❼(參考) 錄內啓蒙三〇、御書鈔一八、錄內扶老一一等 (馬田行啓)

當體義鈔聞書 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹日要述 ❹原本(稻田海素藏)寫本(立大、D・O・二六三)

當體義鈔講談 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-kō-dan. ❷一卷 ❸存 ❹日祥述 ❹寫本(立大、D・O・二六四)

當體義鈔自鏡編 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-ji-kyō-hen. 當體義鈔本迹自鏡編 ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書、顯本法華宗部第二之內 ❹日受(元祿五—安永五 A. D. 1692—1776)述 ❺明和六(A. D. 1769)

❻顯本法華宗(舊稱妙滿寺派)近古の碩學日受の著はすところ。日蓮の著述「當體義鈔」の眞意を仰ぎ、「啓蒙」「扶老」等の諸末書を引いて其の正否妥不を論じ、本宗教觀の大要を明にした書である。參考とする に足る。 (馬田行啓)

當體義鈔送狀 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-okuri-jō. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永一〇(A. D. 1273)

❻當體義鈔の本文を補遺した短文で、譬喩を以て當體蓮華を顯す經證を法華經通出品の「不染世間法、如二蓮華在一水一」の文によつて說明し、此法門妙經所說之理釋迦如

「譬喩蓮華」の二義を釋し、「凡法華經意者、譬喩卽法體、法體卽譬喩也」とて妙法卽蓮華なる所以を說き、唱顯成佛を以て結んでゐる。

❼(參考) 錄內啓蒙三〇、御書鈔一八、錄內扶老一一等 (馬田行啓)

來御本懷、地涌大士付屬本法弘通經肝心也。國主信心之後始可ㇾ申ㇾ之祕藏の法門也。日蓮傳ニ最蓮房ニ曰「」と記してゐる。以て本文の「當體義鈔」が如何に重要な教義を說示したものであるかを知ることができやう。

❼(參考) 錄外微考二 (馬田行啓)

當體義鈔文段 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-mon-dan. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書日蓮正宗部之內 ❹日寬(寬文五—享保一一 A. D. 1665—1726)述 ❺享保六(A. D. 1721)

❻日蓮正宗(舊稱大石寺派)中古の巨匠日寬の著述「寬記撮要下」の內。日蓮の著述「當體義鈔」を當門流の立場に於て釋した書。「大意」、「釋名」、「入文判釋」の三門に分つて說き、入文判釋の下に二十一の重要文を揭げて釋してある。

卷末に「享保六辛丑歲二月十六日、宗祖誕生相當五百年日講畢」

とあるところから見れば、本書は講錄であることが知られる。 (馬田行啓)

當體義鈔略要 ❶(日) Tō-tai-gi-shō-ryaku-yō. ❷一卷 ❸存 ❹日鏡 ❹寫本(立大、A〇二・九七・一〇一)

當道灌頂次第 ❶(日) Tō-dō-kwan-jō-shi-dai. ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗道章疏第二法則類 ❹實辯記

❻本山相傳の灌頂次第。授君の表德三義、法華實相一印を挿入してゐることは他の類書と異つてゐる。 (服部如實)

當年星供 ❶(日) Tō-nen-jō-kū. 屬星供、星供 ❷一卷 ❸存、修驗聖典第五

❻當年星を供養する法の次第。屬星供に同じもので、當年所屬の星宿に供養して轉禍爲福を祈る法である。終に修法の壇圖を出す。

❺鎌倉時代寫 ❹(寶善提院) (服部如實)

當年星供行法次第 ❶(日) Tō-nen-hoshi-ku-gyō-hō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

當年星供散念誦 ❶(日) Tō-nen-hoshi-ku-san-nen-ju. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

當風辻談義 ❶(日) Tō-fū-tsuji-dan-gi. ❷五卷 ❸存 ❹祿阿 ❺寶曆三刊 ❹(谷大、餘大・二九七〇)

當門一宗依的悉集 ❶(日) Tō-mon-i-ta-shō-i-teki-chū-shū. 修驗依的悉下手集 ❷一卷 ❸存、日本大藏經修驗章疏第三教義類 ❹榮慧(延享三—文政七 A. D. 1746—1824) ❺天明九(A. D. 1789)

❻山伏の行事の典據、明證を擧げて宗徒の依的を示した書。宗の名目大意の事・妻帶の事・食肉の事、總追加より成り、末題の次に當山本山法頭之事一項を加ふ。終に「此依的悉集者寬政九己夏江府官寺向因山代使憲應院以携來本、書寫之」とあり。 (服部如實)

當門徒繼圖次第 ❶(日) Tō-mon-to-kei-zu-shi-dai. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之內 ❹日晴(一—文龜元 A. D. 1501)

❻著作年代未詳なるも、大體享德元年以後の作なること本文によつて知らる。日蓮宗

上述の史料とするに足る。

日蓮大聖人、日朗聖人、日輪聖人、日山聖人、日叡聖人、日行聖人、日壽聖人の六師相承の次第を記述す。 (馬田行啓)

當門流眞言嬬家事 ❶(日) Tō-mon-ryū-shin-gon-chaku-ke-no-koto. ❷存 ❹玄雅記 ❺應安六刊 ❹(寶龜院)

當陽玉泉寺志 ❶(日) Tō-yō-gyoku-sen-ji-shi. (支) Tang-yang-yü-ch'üan-ssu-chih. ❷七卷 ❸存 ❹眞宗道等編 ❺光緒一一刊 ❹(谷大、餘大・三七九五)

當來星宿劫千佛名 ❶(日) Tō-rai-shō-shuku-kō-sen-butsu-myō. (支) Tang-lai-hsing-hsiu-chieh-ch'ien-fo-ming. ❷一卷 ❸失譯 ❹(參考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一

當來選擇諸惡世界經 ❶(日) Tō-rai-sen-chaku-sho-aku-se-kai-kyō. (支) Tang-lai-hsüan-tse-chu-e-shih-chieh-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹悲華經第十卷の抄出。❹(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

當來佛彌勒經 ❶(日) Tō-rai-butsu-mi-rō-kyō. 現代意譯當來佛彌勒經 ❷存、現代意譯根本佛教聖典叢書第五卷一阿含抄 ❹泉芳璟譯

當來變經 ❶(日) Tō-rai-hen-gyō. (支) Tang-lai-pien-ching. 迦丁比丘說當來變經、大仙迦丁所記當來歸識要集 ❷一卷 ❸存、大正四九・七No. 2028、續藏八、卍二六・九、北1045寫、南1058寫、元1057寫、明

北1365寫、清1554寫、麗1040寫、天1046寫、指1062寫、法1034寫、至1493經、明南1138寫、Nj. 1371 ❺宋代(A. D. 420—479)失譯

❻迦丁比丘說當來變經の下を見よ。

當來變經 ❶(日) Tō-rai-hen-gyō. (支) Tang-lai-pien-ching. 當來變識經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一八No. 395、續辰一〇、卍一二・五、北5241行、南5359行、元5329行、明北461寫、清464寫、麗5325寫、天5306行、指491寫、法509寫、至472寫、明南534寫、Nj. 453 ❹竺法護 ❺西晉太始二—建興元(或建武元(A. D. 265—313 or 317)

❻佛、祇樹給孤獨園に在りて五百比丘並に諸菩薩を對告として將來の世に一法乃至五事(計十五邪事)を行つて正法を毀滅せしめる由を豫言したまひ、以て修道者に誡慎を加へたまふた經。一法(唯求二菩名一、不ㇾ願二道教一)。二事(著二妻養一子買作治生と伴當相著世一奉二法者一)。三事(一不ㇾ修二三學一二不ㇾ解二句義一、自以爲ㇾ是、三明者呵ㇾ之反懷二憍慢一)。四事(一出家而不ㇾ修二同業一二情遊二人間一、求二好袈裟五色之服一、三自以爲ㇾ高德一、四不ㇾ護二根門一、行二婦女間一)。五事(一廣二深經教一、二反習二雜句一、趣得二人心一、合二其歡喜一、三賞二淺解者一、毀二深解者一、四天龍鬼神不ㇾ以爲ㇾ喜、捷疾速去、五由ㇾ是正法稍々見ㇾ捨、無二精修者一)—取意。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 (美濃晃順)

當來變識經 ❶(日) Tō-rai-hen-shiki-kyō. (支) Tang-lai-pien-shih-ching. 當

東寺百合文書 ❶1巻 ❷存〔天正1|11・1|1|八No. 395〕 編年1〇〔卍西11・五〕号521行〔市535行〕 史529行〔町号464号〕 市464号〕 置525号〕 天530行〔相491号〕 法509号〕 五472号〕 町市524号〕 Nj. 468 ❹東寺百合文書 ❺図書寮叢刊—続東京帝国大学史料編纂所 (A. D. 255—313 or 317) ❻〔参考〕 国史叢書11

東寺執事職 ❶〔日〕Tō-rai-hem-metsu-kyō. (支)Tang-lai-pien-mieh-ching. ❷1巻 ❸仏 ❹東寺百合文書 (一説年11—東寺号A. D. 148—170—) ❻〔参考〕 国史叢書1|五〕 国史叢書11五

東寺安心門者 ❶〔日〕Tō-ryū-an-jim-mon-dō. ❷1巻 ❸存〔1|撰記叢書之内 ❹著者(天明人—寛政年A. D. 1788—1860) ❺諸本(宗大〔宗大・11八五四)

東寺行事分 ❶〔日〕Tō-ryū-gyō-ji-shō. ❷1巻 ❸存〔日蓮宗々略全書日蓮正宗聖典之内 ❹日貫(貫文天—享保1|A. D. 1665—1726)撰 ❺享保1〇(A. D. 1725)

❹日蓮正宗(現在天台宗系)中古の三位日貫の著述「大事分」の略称。和漢に修行に正自分の1|ありり〔〔〔

稲蘇嚕經 ❶(日) Tō-kan-ya-kyō. (支)Tao-kan-yü-ching. 慈氏菩薩所說大乘緣生稻蘇嚕經、慈氏所說稻蘇嚕經、慈氏菩薩緣生稻稈嚕經、稻蘇經 ❷一卷 ❸存、大正一六・八一九No.710、鎌岡一五、卍一五・八、北1369悅、南1373時、元1312時、明北955興、清956興、麗1323時、天1333時、法1086府、至480詩、明南1006流、Nj. 963 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ⑥慈氏菩薩所說大乘緣生稻蘇嚕經の下を見よ。❺康安二寫 ⑨(寶菩提院)

頭韻僧譜 ❶(日)Tō-in-sō-fu. 僧譜冠字韻類 ❷百五十卷 ❸存 ❹晃全撰 ❺元祿元刊 ⑨(駒大)谷大、長保・三〇六)

頭流全志 ❶(日) Tō-ryū-zen-shi. (支)Tou-liu-ch'üan-chih. ❷三卷 ❸存 ❹朝鮮金善臣 ⑥本書は朝鮮の靈山、白頭山が南に流れ極まつたとする慶尙、全羅の兩道に跨る名山智異山とその附近の都邑の地理歷史を記したもので、朝鮮佛教史に對しても貴重なる資料を提供する。內容は次の如くである。(上卷)頭流眞宗譜第一、頭流身記第二、頭流子孫錄第三、頭流萬寶宮第四、流水經第五、麗山都邑誌第六、雲勝編第七、祠院模亭略第八 (下卷)梵天慈表第九、古蹟刹第十、點山詩話第十一、補寫遺墨章第十二、頭流雜識第十三 就中、下卷の梵天慈表は山中の寺刹六十餘の地理緣起を詳記し、尙全篇到る處寺刹の記述に滿ちてゐる。本書の製作には興地勝覽以下二十二の地志等が引用された。 (江田俊雄) ⑨寫本(江田俊雄) ❶(日) Tō-ka-ryū-hizen. ❷一卷 ❸存 ❹梵俊編 ⑨刊本(駒大)

燈指因緣經 ❶(日) Tō-shi-in-en-kyō. (支)Teng-chih-yin-yüan-ching. ❷一卷 ❸存、大正一六・八〇八No.703、鎌倉七、卍一五・一、北446竟、南539竟、元253竟、明北716孝、清716孝、麗835無、天346竟、指794無、法833孝、至1030上、明南739孝、Nj. 720 ❹馬摩羅什譯 ❺姚秦弘始四—一四(A. D. 402—412) ⑥本經は各經典中、珍らしい文學的なものである。長者の子燈指の出家因緣を描く。主人公燈指の豪遊の留守中、盜賊に襲はれて、幾らず家財を奪はれ一朝にして貧者となり、遂に尸餧を郊外の墓場に運ぶ賤業に從事したが、或日一つの尸餧が背に着いて離れず狂亂の狀態になり再び城內の家に歸るとそれは黃金であつたので、再び長者になり、一門の繁榮を見るに至つたといふ奇しき物語である。彼は貧富の因緣から此の人生の虛僞を徹見して出家した。漢文譯は流麗、詩想は豐富である。 ❼(參考) 法經錄第四、三寶紀第八、靜泰錄第四、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 (山邊習學)

燈寇策 ❶(日) Tō-ku-saku. 彈妄文 ❷一卷 ❸存 ❹玄智(享保一〇—寬政六 A. D. 1725—1794) ⑥淨土眞宗教典志第二に曰く「寧安永四年乙未十二月二十八日。築地錄所居士之寺壯司。彈破異門妄宗之教宗。初名彈妄文。後改爲今題。此有二神結兩本。世多傳初稿。」云々。 ⑦(參考) 眞宗全書刊行豫定書目

與藤朝臣乞灌頂資具書 ❶(日) Tō-fu-asa-mi-atsura-kwan-jō-shi-sai-o-kou-sho ❷一卷 ❸存、傳敎大師全集第四、新全集第五 ❹敎澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❺弘仁三(A. D. 812)十一月十九日 ⑥弘仁三年十一月十五日、傳敎大師は弘法大師より、高雄山寺に於て、金剛界の灌頂を受け、次で十二月十四日、胎藏界の灌頂を受けられた。本消息は、胎藏界灌頂を受くるに先立ち、十一月十九日、藤原冬嗣に宛て、灌頂費用の補助を請ふた際の書翰で、自ら受法僧と署し、弘法大師に對して弟子の禮をとられた、大師の謙虛な態度を窺ひ得る文面である。藤原冬嗣は、內麻呂の二子、世に閑院大臣と稱し、才文式を兼ね寬容溫雅の人物で、深く、傳敎大師に歸依された。弘仁三年當時は、正四位下、左大將を兼ね、十二年に至り右大臣に任じ、正二位となり、天長二年、左大臣を拜し、翌三年五十二歲で薨じた。 (鹽入亮忠)

藤陰積話 ❶(日)Tō-in-seki-wa. ❷中晨國月(正安二—永和元 A. D. 1300—1375) ⑦(參考) 日本禪林撰述書目

藤陰積細集 ❶(日) Tō-in-seki-sai-shū. ❸存 ❹中晨國月(正安二—永和元 A. D. 1300—1375) ⑦(參考) 禪籍目錄

復藤左大將書 ❶(日) Tō-sa-daisho-sai-fukuatsura-sho. ❸存、傳敎大師全集第四(舊)第五(新) ❹敎澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❺弘仁九(A. D. 818)四月二十三日 ⑥弘仁九年四月二十一日、左近衛大將藤原冬嗣が、傳敎大師に、書狀を寄せて、雨乞の祈願を依賴された。それに對する大師の應諾の返書が、當書狀である。翌十年二月「使を畿內諸國に遣はし富豪の貯を實錄し困窮の徒に借貸す」云々と正史に見ゆるは當時の事情を示してゐる。 (鹽入亮忠)

鬪爭を超えて ❶(日)Tō-sō-o-koe-te. ❷一卷 ❸存 ❹鵜鳥敏著 ❺昭和七刊 ⑨石川北安田香草會

遠江濱名淡海圖 ❶(日) Tō-tōmi-hama-na-tan-kai-no-zu. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ⑥本書は文中に略圖如し右とあつて地圖有りしようなれど、散佚して傳はらず、唯其の文言のみ存す。遠江國の地理を記せるものなり。石山寺に古寫本を藏す。(高見寬恭) **同安察禪師十玄談** ❶(日)Dō-an-satsa-zen-ji-jū-gen-dan. (支) T'ung-an-ch'a-ch'an-shih-shih-hsüan-t'an. ❸存、卍續二・三一・一禪海十珍之內 ⑥筠州九峯の大覺禪師道虔の法嗣である青原下六世洪州鳳棲山同安院の常察禪師が佛教の旨要を示し其の履踐を敎へられたもので、十種の項目に分けて說かれて居る。菩提無證菩提菩二十九に依れば(一)心印。

(二)眼意。(三)玄機。(四)廣別。(五)佛教。(六)證鄉自。(七)轉證鄉自。(八)轉位歸。(九)廻機。(一〇)正位前である。石門の壓縮慧洪禪師の林間錄卷下に依れば次の如き六つの題目の異りがある。(一)玄機。(二)三乘。(三)反本。(四)回歸。(五)轉位。(一〇)一色過後。また大陽警玄禪師の註を軟めた禪門諸祖偈頌の卷上に依れば(一)演教。(二)建本。(三)證源。(四)廻機。(五)轉位。(一〇)一色と云ふ六つの題目の異りがある。從つて其の解釋に就ても意義の變化が生じて居る。景德傳燈錄に於ては十玄說并序に於て序を附して其の大意を示し、註庵善卿の祖庭事苑を引用して、序引を付するに至つた事由を記して居る。林間錄に於ては是の十玄說を評して、大いに正中妙挾の旨を宏む、其の言妙屢にして叢林に照映すと言ひ、金山の拂觜屢頂禪師が五家宗派を撰して常察を雲居道膺の法嗣とした誤を指摘し、十玄說の大要を述べて居る。註釋本としては前記の大陽警玄禪師註のもの、指月禪師假名法語に收められた指月慧印禪師の十玄說假名註、千丈實晟禪師語錄上蛇足編に收められた十玄說註釋、朝鮮雲岑和尙の十玄說註、佛教通俗講義に收められた高田道見師の十玄說講義等が行はれて居る。 (大久保廓璃)

同一鹹味御書 ❶(日)Dō-itsu-kan-mi-chi-go-sho. 與檀越某書 ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內、日蓮聖人全集第六 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1283) ❺弘長元(A. D. 1261) ⑥六味(淡、鹹、辛、酸、甘、苦)、大海八不思議一、漸々轉深。二、深難得底。三、同一鹹味。四、潮不過限。五、有種々寶藏。六、大身衆生在中居住。七、不宿屍。八、萬流大雨歸之不增不減。等によつて法華經の價値德能を說明した書。 ⑦(參考) 錄外微考上、錄外考文二 (馬田行啓)

同學鈔 ❶(日)Dō-gaku-shō. 唯識論同學鈔 ❷六十八卷 ❸存、大正六六・一No. 2263、大日本佛敎全書第七六—七七 ❹良算抄 ❺建仁二(A. D. 1202) ⑥唯識論同學鈔の下を見よ。❺元亨四寫(藥師寺)延寶七刊(正大・一一九二・二八三、三七五)

同敎一乘策 ❶(日)Dō-kyō-ichi-jō-saku. (支)T'ung-chiao-i-ch'eng-tse. 註華嚴同敎一乘策 ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋師會(崇寧元—乾道二 A. D. 1102—1165)述、宋希迪(一嘉泰元 A. D. 1201—)註 ⑥註華嚴同敎一乘策の下を見よ。⑦(參考) 諸宗章疏錄第二

同行訓 ❶(日) Dō-gyō-kun. (Zuna-kun.) 童行訓 ❷一卷 ❸存 ❹蓮印指月(元祿二—明和元 A. D. 1689—1764) ⑦(參考) 禪籍目錄

同行用心大綱註 ❶(日)Dō-gyō-yō-jin-tai-kō-chū. 他阿彌陀佛同行用心大綱註 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第六六、三大師法語卷上之內 ❹託何注 ⑥他阿彌陀佛同行用心大綱註の下を見よ。❹刊本(谷大、宗大・四七三)

同號佛名經 ❶(日) Dō-gō-butsumyō-kyō. (支)T'ung-hao-fo-ming-ching. ❷一卷 ❹失譯 ⑦(參考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一二、開元錄第一六、貞元錄第二六

同舟夜話 ❶(日)Dō-shū-ya-wa. ❷三卷 ❸存 ❹西原良登述 ⑥風潭の念佛往生明瞭劃を破したもの。❹寫本(龍大、研眞)

同生同名御書 ❶(日) Dō-shō-dō-myō-no-sho. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ⑥文永九(A. D. 1272)四月 ⑥四條金吾女房に與へた書。女人の心を闇に、法華經を日輪に譬へて、法華經の力によつて女人の心の闇は破られる。又釋迦佛を母に、女人を幼子に譬へて、母子の心が常に離れざる如く、佛と女人との心が一體となつて離れないことが成佛の肝要であると說し、徹宗皇帝の破佛に對する法道三藏の直諫を引きて宋法の日蓮は當時の法道の如しと說き「女人はたとへば藤のごとし、をとこは松のごとし、須臾もはなれぬれば立あがる事なし」とて夫婦一體一心となつて法華經の信心に精進すべきを敎えてある。 ⑦(參考) 錄外微考上、錄外考文二 (馬田行啓)

同性經 ❶(日) Dō-shō-kyō. (支) T'ung-hsing-ching. 大乘同性經、一切佛行入智毘盧遮那藏說經、佛十地經 ❷二卷 ❸存、大正一六・六四〇No. 673、鎌宇二、卍一〇・四、北153薗、南153薗、元149薗、明北1911惠、清191悲、麗153方、天151薗、指143方、法151方、至535竟、明南146大、Nj. 195 ❹宇文周國那耶舍譯 ⑥大乘同性經の下を見よ。

同代之義ニ付日次抜書 ❶(日) Dō-dai-no-gi-ni-tsuki-nichi-ji-nuki-gaki. ❷一册 ❸存 ❹亮恕記 ❺元文三寫 ⑨(寶菩提院)

同道唱和 ❶(日)Dō-dō-shō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹大衲寂泰 ⑦(參考) 禪籍目錄

同入法界觀 ❶(日) Dō-nyū-hō-kai-kwan. ❸存、興敎大師全集、宋藏諸疑釋第一〇 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143) ⑥我が心月輪の中にある阿字が如意寶珠となり、此の寶珠が宇宙に滿滿し、再び自身に歸りて、此の自身が虛空藏菩薩と成ると云ふ、佛に八十字の短文なり。 ⑦(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田飛純)

同別一乘試解 ❶(日) Dō-betsu-ichi-jō-shi-kai. ❷一卷 ❸存 ❹智洞(—文化三 A. D. 1806) ⑨寫本(龍大、二六五一・二)

同朋心得十箇條講話 ❶(日)Dō-hō-kokoro-e-jū-ka-jō-kō-wa. ❷一册 ❸存 ❹南條文雄(嘉永二—昭和二 A. D. 1849—1927) ❺明治四二刊 ⑨(谷大、宗洋・七六五)

同胞愛 ❶(日)Dō-hō-ai ❷一卷 ❸存 ❹大谷光演著 ❺大正一二刊 ⑨(谷大、宗洋・五九〇)

同名異象示顕経 ❶(日)Dō-myō-i-i-ji-mō-ben. ❷1巻 ❸作 ❹説文の異説

動静経 ❶(日)Dō-shū-gi. ❷1巻 ❸唐玄奘 ❹貞観19—二二(A. D. 1752) ❺同名の本異説多く伝来せり。 ❻(参考) 他十数種説経参照

童形容形 ❶(日)Dō-gyō-tō-gyō. ❷二巻 ❸作 ❹正徳四年刊 ❺(参考)二二・二二

童扶養童扶等家百 ❶(日)Dō-ku-yō-man-ku-tō-hyō-byaku. ❷1巻 ❸作 ❹足利時代写 ❺(東番記)

童子一行招請清涼頂天第 ❶(日)Dō-jō-ichi-gyō-kechi-en-kwan-jō-shi-dai. ❷1巻 ❸作 ❹写本(奈良三蔵記)

童子上清頂奉給勅奏私記 ❶(日)Dō-jō-kwan-jō-sai-ryaku-gu-an-shi-ki. 童子上清頂奉給勅奏私記三巻記 ❸作 ❹貞観二二年 ❺(奈良三蔵記)

童子上招請三昧耶尊象等得 ❶(日)Dō-jō-kechi-en-sam-ma-ya-kai-shiki-zō-kokoro-e. ❷1帖 ❸作 ❹鎌倉時代写 ❺(東番記)

童子上三昧耶尊象等得私記 ❶(日)Dō-jō-sam-ma-ya-kai-kokoro-e-shi-ki. ❷1帖 ❸作 ❹鎌倉時代写 ❺(東番記)

童子上奉供私記奉請助伽上座様 ❶(日)Dō-jō-man-ku-shi-ki-narabini-un-jo-sō-jō-tei-gi-man-ku-shi-dai-te-kagami. ❷1巻 ❸作 ❹鎌倉時代写 ❺(東番記)

童子上奉供等手鏡 ❶(日)Dō-jō-man-ku-no-koto-te-kagami. ❷1帖 ❸作 ❹写本(東大・1・六四)

童子上奉羅供等調之私記 ❶(日)Dō-jō-man-da-ra-ku-nen-ju-no-shi-ki. ❷1巻 ❸作 ❹足利時代 ❺天明二二写(奈良三蔵記)写本(東大・1・六四)

童羅素く線仏田供養経等 ❶(日)Dō-tatsu-shū-e-ōse-ida-sare-sōō-okite-gaki. ❷1巻 ❸作 ❹明和元写 ❺(東大・二六四〇)

童知経経 ❶(日)Dō-ka-shō-gyō. (支)T'ung-chia-yeh-ching. ❷1巻 ❸天竺 ❹(参考) 田三蔵記参四

童知経経経 ❶(日)Dō-ka-shō-ge-nan-gyō. (支)T'ung-chia-yeh-chieh-nan-ching. ❷1巻 ❸唐 ❹(参考) 仁徳経経元・徳善経経元・四元経経一元・貞元経経二四

童行談苑 ❶(日)Dō-gyō-dan-en. (Zun-nan-dan-en) ❷作 ❸1軸 ❹文政二年一二四六 A. D. 1608—1646) ❺(参考) 情報日録

童子経 ❶(日)Dō-ji-kyō. (支)T'ung-tzū-ching. 童子経・童子経・二巻・童子経・童子経・二巻・童子経・二巻・童子経・十巻・童子経・十巻 ❷1巻 ❸作・大正一・九・十四一 No. 1028A・経経元・卍二二・二・元・449頁・経462頁・経456頁・明経484行・経484仁・経447頁・経455頁・経427頁・経437頁・経637頁・明経454仁・Nj. 488 ❹宋・経経元 ❺元・経経元・元・元・二二(A. D. 508—535) ❻童経・童子経・童子経・童子

類聚集集天部事原 ❶(日)Dō-ei-mam-pitsu-fu-mō-sō-gen. ❷二卷 ❸寫 ❹(參考) 藤原日章

類聚 ❶(日)Dō-ka. ❷一作類聚 ❸寫 ❹一作母抄全書之內 ❺一作宗鑑(藤原宗一) ❻二卷 A.D. 1394—1481) ❼明治三年 ❽(國文・佚文)

類聚心の素 ❶(日)Dō-ka-shin-no-saku. ❷一卷 ❸寫 ❹(藤原宗牛 ❺天保四年 ❻(參考)(文乙・文〇)

類聚三十一番 ❶(日)Dō-ka-ni-jū-is-shu. ❷一卷 ❸寫 ❹(國文・佚文)(藤原宗牛 ❺(藤原定一 ❻(文乙 A. D. 1721—1792) ❼寫 ❽(A.D.1750)

文

❾藤原時代以前に成立したと思はれる歌集で、後撰集の歌人たちの作品を中心として、その他の歌人たちの作品をも加へ、歌合・屏風・題詠・恋・雜・哀傷・釋教・神祇・旅・述懷・祝・離別・羈旅

尖譯 ❼(参考) 出三藏記第四、三寶紀第四、内典錄第一、武周錄第一一、開元錄第一、貞元錄第二

道行品諸經梵音解 ❶(日)Dō gyō-hon-shu-kyō-bon-on-ge. (支)Tao-hsing-p'in-chu ching-fan-yin-i-ho'e. ❷一卷 ❸缺 ❺後漢代失譯 ❼(参考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

道具賦 ❶(日)Dō-gu-fu. (支)Tao-chü-fu. ❷一卷 ❸存、卍續二・一〇・三 ❹宋元嘉(慶曆八—政和六A.D.1018—1116)撰

❻本書は餘杭(浙江杭州府餘杭縣)の潙酋元照和尚が佛道修行の資助となる什物としての器具に題して其の功用を賦したものである。即ち三衣、鐵鉢、坐具、漉囊、錫杖の五種に就てである。

元照は初め經律の監律師に律を、禪恰謙に教學を、廣慈才法師に菩薩戒を受けた人で常に布衣にて鉢を持して市井に乞食した道人で、宋徽宗政和六年九月(A.D.1116)壽六十九を以て示寂した。字を潙酋、號安記、諱を元照、富號を大智と云ひ、袁持記芝園集等百餘の著作がある。(大久保堅璋)

道空隨筆 ❶(日)Dō-kū zui-hitsu. ❷一卷 ❸存 ❹道空 ❺眞筆本(谷大、餘大・一八一七)

道家龜鑑 ❶(日)Dō-ke ki-kan. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮清虛著 ❼(参考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

道係德毋論 ❶(日) Dō-kei-toku-mo-ron. ❷五卷 ❸存 ❻南北關正論を載したもの。❼(参考) 大日本佛教全書擬刊豫定書目

道決鈔 ❶(日)Dō-ketsu-shō. ❷二帖 ❸存 ❹嘉曆四寫(金剛三昧院)長享二寫(寶善提院)

道顯房聖教目錄 ❶(日)Dō-ken-bō-shō-gyō-moku-roku. ❷一軸 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❻(寶善提院)

道元和尚行錄 ❶(日) Dō-gen-o-shō-gyō-roku. 道元禪師和尚行錄、道元禪師和尚希玄行錄、永平開山道元和尚行錄 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹道元禪師和尚行錄の下を見よ。

道元和尚語錄 ❶(日) Dō-gen-o-shō-go-roku. ❷一卷 ❹長翁如淨 ❼(参考) 扶桑禪林書目

道元和尚廣錄 ❶(日) Dō-gen-o-shō-kō-roku. 永平廣錄、道元錄 ❷十卷 ❸存、日本大藏經曹洞宗章疏第一、承陽大師聖教全集第三 ❹希玄道元(正治二—建長五A.D.1200—1253)詮慧等編 ❻永平廣錄の下を見よ。❼(参考) 日本禪林撰述書目

道元禪師 ❶(日)Dō-gen-zen-ji. ❷一卷 ❸存、禪學文庫第一一 ❹荒井諦禪(淨光) ❺大正四刊 ❻東京丙午出版社

道元禪師和尚行錄 ❶(日)Dō-gen-zen-ji-o-shō-gyō-roku. 永平開山道元和尚行錄、道元禪師和尚希玄行錄、道元和尚行錄 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹道元禪師和尚行錄の下を見よ。

道元禪師聖訓講話 ❶(日)Dō-gen-zen-shi-sei-kun-kō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹保坂玉泉著 ❺大正一五刊 ❻東京光融館

道元禪師全集 ❶(日) Dō-gen-zen-ji-zen-shū. ❷五卷 ❸存 ❹大久保道舟編

❻(第一輯)吾勸坐禪儀。正法眼藏。正法眼藏佛向上事。永平初祖學道心集。永平廣錄。(第二輯)佛祖正傳菩薩戒作法。永平眼師得度略作法。教授戒文。訓書。理眼に授けられたる戒脈。覺心に授けられたる戒脈。永平室中聞書。(第三輯)永平清規。佛前齋粥供養傳僧事。廊院に示されたる制規條々。永平寺住呂に誡められたる制規條々。(第四輯)寶慶記。正法眼藏隨聞記。舍利相傳記。普觀坐禪儀撰述由來。明全和尚戒牒奥書。了然道者に示されたる法語。興聖寺僧堂建立勸進疏。近衛殿との問答法語。如淨禪師忌法語。立春大吉文。弘法大吉文。鎌倉名越白衣舍示誡。吉祥山命名法語。嚴蓮現瑞記。靈山院庵室開鐘記。御遺偈。(第五輯)傘松眼道詠。和歌題賛。(附錄)永平開山道元大和尚假名法語。入宋所願文。宋寧宗皇帝に上まつるの表。再び宋寧宗皇帝に上まつるの表。妙覺寺僧守勸請文。拈評三百則序。天童如淨禪師擬語錄跋。波多野廣長に與へられたる法語。某氏に贈られたる書狀。關英隆禪師に寄へされたる書狀。盡未來際吉祥山と題ぜざる御髮文。紫衣を辭し紫衣の偈。御上洛の頃。教授坐禪。證悟と戒法。❺昭和五刊 ❻東京春秋社

道元禪師傳 ❶(日)Dō-gen-zen-ji-den. ❷一卷 ❸存 ❹雙譯觀山 ❺明治三〇刊 ❻(駒大)(帝國、一八・七四五) ❼東京弘法窟

道元禪師傳 ❶(日)Dō-gen-zen-ji-den. ❸存、佛教文庫第一九 ❹鷲尾順敬 ❺昭和七刊 ❻東京東方書院

道元禪師傳考 ❶(日)Dō-gen-zen-ji-den-kō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一五 ❹高楠順次郎編 ❻一、洞谷山宗可禪師傳。二、道正菴元祖傳。三、陶眞春慶翁之碑。四、瀬戸窓世系の四部よりなる。

道元禪師傳附螢山禪師傳 ❶(日) Dō-gen-zen-ji-den-tsuketari-ei-zan-zen-ji-den. ❷一卷 ❸存、教界偉人叢書第三 ❹峰玄光 ❺明治三七刊 ❻(京大、印哲・T・四)/谷大、餘洋・三七六)/龍大・二九六五・九二)(駒大) ❼東京文明堂

道元禪師の宗教 ❶(日) Dō-gen-zen-ji-no-shū-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹足羽默答(雪樵) ❺大正一三刊 ❻東京鴻盟社

道元禪師法語 ❶(日)Dō-gen-zen-ji-hō-go. 永平假名法語、永平法語、道元大和尚假名法語、永平開山道元大和尚假名法語 ❷一卷 ❸存、禪門法語集卷中 ❹(谷大、餘洋・四〇五)(龍大、一九六五・三〇二) ❼東京日月社

道元錄 ❶(日)Dō-gen-roku. 永平廣錄、道元和尚廣錄 ❷十卷 ❸存、日本大藏經曹洞宗章疏第一、承陽大師聖教全集第三 ❹道元(正治二—建長五A.D.1200—1253)語 ❻永平廣錄の下を見よ。❼(参考) 日本禪林撰述書目

道源德毋鈔 ❶(日) Dō-gen-toku-mo-shō. ❷五卷 ❸存 ❹伊藤某 ❻南北關正論を紀したもの。❺天和二刊 ❼(谷大、餘大・一〇四六)(立大、A〇・五・一七六)(帝國、二二八・一二〇)

道吾悟眞禪師語要 ❶(日)Dō-go-go-shin-zen-ji-go-yō. (支)Tao-wu-wu-chen ch'an-shih-yu-yao. ❸存、卍續二・二三・三古尊宿語錄卷一九 ❹宋惟白

❻石霜山慶諸寺慈明楚圓禪師の法嗣であり、黃龍慧南、楊岐方會の諸尊宿と法眷である、潭州(湖廣長沙府)道吾山興化寺悟眞禪師の語要で、道吾山に於ける開堂語要、上堂語、勸神、偈頌、序跋を收めたものである。上堂語に云く「有物先天地。無形本寂寥。能爲萬象主。不逐四時凋。且道。是什麼物。還識得麼。若識得。乾坤大地盡羅洞明。若也不識。被物抄著轉身不得。」とある。亦云く「吾化明打睛打。布袋橫擔緊擔。石室行者請確。因甚忘却下脚。」と、誠に宗眼圓明にして學人の接得また懇切なりと云ふ可きである。(大久保堅璋)

道光上人尋狀 ❶(日)Dō-kō-shō-nin-tazune-jō ❸存、續淨土宗全書第一四 ❹了惠道光(寛元元—元弘元 A.D.1243—1331)

❻其の當時一の問題たりし、極樂新生人の色心論無論の義に對する解決と、明眞(或は明心)寃の了惠(道光)の書狀を錄せる短簡の書である。

〔内容〕關東及び京中の學者が淨土の凡夫、心は是れ有漏、色身は之れ無漏なりと云へる說に對して、自教相違の失ありと非難し、記主の義を引いて「色心共に有漏なり」と主張す。元來凡夫の往生は、凡夫有漏の善業を廻して往生を願じ、彌陀攝凡の强緣となりて得生す。彼の修因既に有漏なる故に後有を感ずる能あり、彌陀は亦萬機に來迎の增上緣あり、因緣和合して往生を遂げしむ、之れ有漏の善因所感の果報なるが故に、全く有漏の五蘊にして、變易無漏の色心に非らず。然るに彌陀の別願、此有漏の衆生をして往生せしむるの後、他力本願の誓を以て變易無漏の勝德を與へ給ふ。即ち第十五願によりて分段生死の身體に於て變易長遠の壽命を感得し、第十一願力によりて有退の色心に不退の身を成じ、第二十一願によりて無相好の身に三十二相を備へ、五通の願力によりて來得通の身に五通を得るが如く、之れ自業自得の果にあらず、全く他力本願の別意なり。彼の重惡の餘燼に於て多刹花合の等流果を感ずる事、之れ分段有漏の依身なればなり。中辭の如き惡業花合にあらずと雖も見思の惑を斷じて初果を證することを之れ正しく分段人天得益の相なり。又經釋に凡夫無漏の義を示せるは、凡夫體性の邊に就て云へるかなり。又般舟讚に「彼の淨國の法性の色」と云へる、又經に「自然虛無の身」と云へる、皆之れ他力相用の邊に約せる言なり。云云。

(書狀)

謹上明眞上人御房　了惠

未だ見參に入らず候と雖も、先年の比御札に預り候ひし條尤も本意に候後。即ち便風に付て御返事申さ令め候、參着候哉、不審に存候。中略　又彼土の凡夫色心俱に有漏無漏の諍ひ多く聞候、先に聞候分は粗ほ註進せしめ候、御意如何御返事に依て承り存べく候哉以下略恐々謹言

八月十六日　了惠在判

次に「くろたにの淸きながれをくむ人ぞ

心の水は濁らざりけり」の歌を記し、此歌は元亨二年正月二十五日、知恩院へ請燈錄施入の時に詠み人の了恵自筆の添書あり。然れば本書狀の年時は少くとも、元亨二年正月二十五日以後なる事を推知し得べし。（千葉良尊）

道岬寺事蹟 ❶(日)Dō-kō-ji-ji-seki. ❷1卷 ❸存 ❹(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

道號式目 ❶(日)Dō-go-shiki-mokk. ❷1卷 ❸存 ❹深秀 ❺寫文九刊 ❻(續大,二〇七九・一〇)(銀山文庫)

道至佛問十四事經 ❶(日)Dō-shi-butsu-mon-jū-shi-ji-kyō. (支)Tao-chih-fo-wen-shih-sa-shih-ching. ❷1卷 ❸(參考) 法經錄第四

道師問佛經 ❶(日) Dō-shi-mon-butsu-kyō. (支)Tao-shih-wen-fo-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一四、貞元錄第八、第二四

道地經 ❶(日)Dō-ji-kyō. (支)Tao-ti-ching. 大道地經 ❷1卷 ❸存、大正一五・二三〇 No. 607、鎌倉六、卍二六・五、北936菩、南1002菩、元993菩、明北1319明、清1319明、麗993樣、天991菩、楷9149樣、法976樣、至949樣、明南1050慣、Nj. 1326 ❹僧伽羅刹造、安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170) ❻禪觀修道の階程方法を順に從つて說示したものであつて、一卷七章より成る。七章とは、散稍章第一・知五陰慧章第二・隨應相具章第三・五陰分別現止章第四・五種成敗章第五・神足行章第六・五十五觀章第七の七章にして、散稍章第一は禪觀修道の意義と目標とを示したる序の如きものであり、知五陰慧章第二は五陰成立の本を示せるものであり、隨應相具章第三は五陰の各々について之を定義し說明せるものであり、五陰分別現止章第四は五陰が共同して身心の行爲の成立することを示したるものであり、五種成敗章第五は生死輪廻は業因緣の力によつて五陰の集散成敗するのみであつて我の主體なき事を示さんが爲に病・死・中有・受生等の相狀を說明したるものであり、神足行章第六は止觀の別を明し更に不淨觀により四禪を得て神足通を得る事を說けるものであり、五十五觀章第七は五十五事等について人身の空無常にして厭ふべきを觀ぜしむるものである。

本經は笠法護譯修行道地經の異譯と云はれて居るのであつて、修行道地經三十品の中、本經の初五章は同上經の初五品に相當し、本經の第六章は同上經の第二十二品に第七章は第二十四品に相當して居るのである。古來の經錄によれば本經は印度西域にて行はれたる(修行道地經の)抄經を譯出したるものなりとされて居るのであるが、或は修行道地經完成以前のものかとも思はれるのである。

修行道地經は或は經集部或は大乘論部或は印度撰述部に入れられてあるけれども實は雜藏若しくは印度聖賢逸雜集部に入れらるべきであるが本經も同樣であらう。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二 ❽高麗本(龍大,別置)(大石秀典)

道地中要語章 ❶(日)Dō-ji-chū-yō-go-shō. (支)Tao-ti-chung-yao-yu-chang. ❷1卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第三、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

道綽禪師傳 ❶(日) Dō-shaku-zen-ji-den. ❷存、帝國文庫第四四佛教各宗高僧實傳之內

道綽の教義と現代の二批判 ❶(日) Dō-shaku-no-kyō-gi-to-gen-dai-no-hi-hi-han. ❷1卷 ❸存 ❹近松享了著 ❺大正一三刊 ❻(正大,一五三一・二九〇) ❼福井宗學研究會

道樹經 ❶(日)Dō-ju-kyō. (支)Tao-shu-ching. 私呵昧經、道樹三昧經、菩薩道樹經、私訶三昧經、私呵末經、私末經 ❷1卷 ❸存、大正一四・八〇九 No. 532、鎌宙七、卍二・三、北258必、南372過、元256必、明北373談後、清373談後、麗359過、天356必、楷330過、法351男、至367能、明南365忘、Nj. 377 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻私呵昧經の下を見よ。

道樹三昧經 ❶(日)Dō-ju-san-mai-kyō. (支)Tao-shu-san-mei-ching. ❷2卷 ❸缺 ❹失譯 ❺第二譯 ❻(參考) 開元錄第三、第一四、貞元錄第五、第二四

道樹錄 ❶(日)Dō-ju-roku. ❷1卷 ❸存、禪學大系眼錄部第六 ❹道樹錄文評頌、退步風州編 ❺明和八(A. D. 1771) ❻本書は日本曹洞宗系の禪僧が公案の評頌として有名なもので、之に相對するものに鐵笛倒吹がある。只だ兩者の異なる點は著語の有無これである。始めに本則を擧げ、次で之を評し、終りに之を頌して百則に及ぶ。故に天地惡百則評頌と名づけられる。天地惡とは道樹和尙の惡號である。其百則とは、(一)甘贄說喪。(二)鼎栗消波。(三)眉毛擔開。(四)佇立大悟。(五)趙州布衫。(六)洞山無寒暑。(七)雲巖七條。(八)即心即佛。(九)非心非佛。(一〇)疎山倒病。(一一)世尊陞座。(一二)婆子燒庵。(一三)胡子無鬚。(一四)洞山麻三斤。(一五)法眼指簾。(一六)趙州十二時。(一七)南泉新猫。(一八)趙州藏鞋。(一九)趙州洗鉢。(二〇)明眼落井。(二一)大悟却迷。(二二)南泉三不是。(二三)水流大悟。(二四)雲門轉句。(二五)青原鎖斧子。(二六)阿難證悟。(二七)趙州獄子。(二八)外道問佛。(二九)洞山蝦蟆。(三〇)趙州柴刹竿。(三一)平常是道。(三二)百丈再參。(三三)趙州石橋弓箭。(三四)雲門頌

頌山。(三五)雲門胡餅。(三六)趙州柴刹竿。(三七)趙州柏樹。(三八)相公常貴。(三九)菊章投道。(四〇)洞山三頓。(四一)本身說法。(四二)趙州大玉來。(四三)南泉買身。(四四)世尊滅度。(四五)芭蕉提携。(四六)曹山粪熱。(四七)石頭曹溪來。(四八)不依一物。(四九)婆子撞子。(五〇)大通智勝佛。(五一)踢倒淨瓶。(五二)石霜休去。(五三)石霜欲去。(五四)冷淡及地去。(五五)古廟香爐去。(五六)一念萬念去。(五七)寒灰枯木去。(五八)古廟香爐去。(五九)一條白練去。(六〇)文殊政璃盞。(六一)文殊探摩。(六二)調達地獄。(六三)女子出定。(六四)別峰相見。(六五)趙州柏樹。(六六)百丈奇特。(六七)寶主歷然。(六八)疎山壽塔。(六九)劫火洞然。(七〇)百丈野狐。(七一)香嚴上樹。(七二)有句無句。(七三)趙州狗子。(七四)古帆未掛。(七五)古帆掛後。(七六)丹霞燒佛。(七七)德山托鉢。(七八)南泉鴨見。(七九)龐吟虎嘯。(八〇)玄沙未徹。(八一)多福一叢竹。(八二)一菴主爭頭。(八三)婆子轉藏。(八四)中過窓櫺。(八五)倩女離魂。(八六)高峰大徹底。(八七)高峯明不明。(八八)高峰大修行。(八九)高峰片雲遮欲。(九〇)高峰影子。(九一)高峰火坑。(九二)興化中間底。(九三)南皇牡丹。(九四)法眼鈴來。(九五)雲居居山好。(九六)雲門話墮。(九七)百尺竿頭。(九八)孤峰不自。(一〇〇)曹山不知である。

❺明和八及大正元刊 ❻(狗大,(岡田宜法)

道宗覺書 ❶(日)Dō-shū-ō-ki-kaki. 赤尾道宗入道自筆二十箇條、赤尾道宗二十一箇條 ❷1卷 ❸存、眞宗全書第六一小部集附錄卷三の內、國文東方佛教叢書第一❹道宗(一—文龜元 A. D. 1501—)述 ❺文龜元(A. D. 1501—十二月二十四日 ❻本書は淨土眞宗中興の蓮如上人に歸依して深く一流の教義を信奉し、金ケ森道西と同じく上人の羽翼となつた越中赤尾の入道道宗(俗名、彌七)が、上人示寂後三年目の歲の暮れ、佛法聽聞の爲深く心を用ふべき箇條をば、安心門につけ用心門につけて書き述ね自己の誡めとした物で、其詞の屢々載せられてゐる。上人の御一代聞書と照し合せて見るべきである。而して此に總別の二があり、即ち其第一條は總じて後生は一大事故命のあらん限り常に法義相續に油斷なく心を用ふべきを示し、第三條以下の二十條は其の法義相續に付いて心の用ひ方を詳かに示した物であり、就中最後の三箇條は大切で、(最後の一條を總結とする說もあり)彼が如何に後生の一大事に身心を委ね慇ろに欣び求めたかを窺ひ知る事が出來、誠に法義相續の龜鑑と稱すべき物である。因に彼の生沒年時は今詳かでないが、丹山文庫に越中赤尾道宗物語(寫一卷)といふ物があつて、其生ひ立ちと逸話(十餘條)とを載せて居り、且つ中に「三十にたらざる內に御本願に年を取事六年」とか「五十五歲にして往生」とか見ゆるも、亦以て參考とすべきである。

❼(注釋) 赤尾道宗二十一箇條講義(香月院深耀著、寫)赤尾道宗二十一箇條錄(堅光院法宣著、寫)道宗二十一ケ條講話(內頌赤尾—略解、圓東隱士著、明治三十七年法藏館發行) ❽傳自筆本(越中行德寺、道宗寺)(橫純孝)

道順記 ❶(日)Dō-jun-ki. ❷1卷 ❸存 ❹道顯 ❺德川初期寫 ❻(寶壽院)

道正菴元祖傳 ❶(日) Dō-shō-an-gwan-sō-den. ❸存、大日本佛教全書第一一五 ❹藤原德廟卜順 ❺寬永一六(A. D. 1639)

❻藤原隆英は京極相國爲光九世の孫關盛の子にして清水谷大納言公定卿の愛子となり瓢山と號し從三位に進む、後ち同黎昇進するも隱棲與からず。且つ治承の亂に外祖父源仲家、源三位頼政に從ひ敗績自殺せしを以て道世羅髮し名を道正と云ふ、諸名山に明眼の師を訪ふ、偶ゝ曹洞宗の眼道元、明全に從つて渡宋せんとするに會し其の行に加はる、天童如淨に參じ一朝庭前に鵝毛を聞く因に如淨の提撕に依つて悟徹す、將に歸國せんとして深山虎野を涉るに及んで道元身體困羸絶死するに當つて道正稻荷神の一丸藥を感受し道元に與ふるに幾ちに蘇る、玆に於て道正其の靈方を傳へ歸朝の後京都に道正菴を營むや境內に稻荷神祠を安く、道元は佛法の守護神なりとなして道正菴建立の畢を助く、道正は三教老人と曰ひて禪坐を事とし世に交らず、嗣子隆實に瓢山家を相續せしめ寶治二年に至るまで道正菴に住して七十八歲にて薨ず棺を宇治興聖寺に葬る、寬永年中道正菴第十九世藤原德廟卜順即ち此の記を作り後世に傳ふ。(林信雲)

道性歌 ❶(日)Dō-shō-ka. (支)Tao-hsing-ko. ❷1卷 ❼(參考) 惠運禪師將來教法目錄

道章苦經 ❶(日)Dō-shō-ku-kyō. (支)Tao-chang-Pu-ching. 五苦章句經、諸天五苦經、五道章句經、諸天五苦經、除鄙苦視樂佛法經 ❷1卷 ❸存、大正一七・五四三 No. 741、鎌宙八、卍一五・一、北794安、南957安、元860安、明北726菩、清726菩、麗504酥、天794安、楷756酥、法782祥、至1029效、明南676尺、Nj. 730 ❹無憂無闕譯 ❺東晉太元六—二〇(A. D. 381—396) ❻五苦章句經の下を見よ。

道勝僧正入壇記 ❶(日)Dō-shō-sō-jō-i-ri-ki. ❷1軸 ❸存 ❹平安朝末期寫 ❺(高大,寄・一・六八)

道成寺緣起 ❶(日)Dō-jō-ji-en-gi. ❷2卷 ❸存 ❹玻璃版(龍大,別置)(正大,一六三二・二(谷大,別・三六)

道成寺考 ❶(日) Dō-jō-ji-kō. ❸存 溫知叢書第七 ❺(帝國,四二・二三)

道成寺考 ❶(日) Dō-jō-ji-kō. ❸存 燕石十種第五八冊之內溫知叢書第七 ❹岩本蛙磨校 ❺(帝國,特別よ・三)

道淨經 ❶(日)Dō-jō-kyō. (支)Tao-ching-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第四、第一五、貞元錄第六、第二五

道場觀 ❶(日)Dō-jō-kwan. ❷1帖 ❸存 ❹寫本(寶善提院)

道場觀私記 ❶(日)Dō-jō-kwan-shi-ki. ❷(參考) 本朝台祖撰述密部書目

道場觀集 ❶(日)Dō-jō-kwan-shū. ❷1卷 ❸存 ❹長寶(長和五—永保元 A. D. 1016—1081)

道場觀経 ❶(日)Dō-jō-kwan-kyō. ❷1巻 ❸存 ❹宋畺良耶舎訳(宋大一七〇三・宋六六)

道場觀経觀形圖 ❶(日)Dō-jō-kwan-kyō-kwan-sō-zu. ❷1軸 ❸存 ❹宋畺良耶舎(宋大一七・一・宋六)

道場圖 ❶(日)Dō-jō-zu. ❷1巻 ❸存 ❹足利時代写 ❺(東寺記)

道場圖三昧耶初後夜 ❶(日)Dō-jō-zu-sam-ma-ya-kai-sho-go-ya. ❷1巻 ❸存 ❹鎌倉時代写 ❺(東寺記)

道場請文 ❶(日)Dō-jō-sei-mon. ❷1巻 ❸存 ❹大日本史料(大日本史料六六) ❺建暦元年(鎌倉三一一元亨元年 A. D. 1237—1319) ❻建元四年(A. D. 1305)

❼天平年中は時代相違の年代に就いて、其の行儀の原形を保留せられた証文である。

所謂天皇受戒の1会とも其実に道場として、自己若菩薩の発願を誓願せられ、以て新尼共其他の人民の大成を示したと云る。此中殊に尼共は、又人間生命を重視し、人民の福祉を打つ為、又人間生命を知識し、此国の天平精神に基づき、現世の人民に対する義務を果たしたと云る。尼共は、此の時代に於ては

一帖 ❸存 ❹寫本（寶菩提院）

道範御消息 ❶(B)Dō-han-go-shō-soku. ❷一冊 ❸存 ❹寫延三寫（金剛三昧院）寫本（寶龜院）

道本五戒經 ❶(B)Dō-hon-go-kai-kyō.（支）Tao-pen-wu-chie-ching. ❷一卷 ❸缺 ❺魏失代失譯 ❼（參考） 出三藏記第四、法經錄第五、三寶記第五、仁壽錄第五、辯泰錄第五、內典錄第二、開元錄第二、第一五、貞元錄第三、第二五

道本山五重相承口訣並再傳式次第 ❶(B)Dō-hon-zan-go-jū-sō-kuchi-kettei-narabini-sai-den-shiki-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（正大、一五五二・一一〇）

道本禪師往生記 ❶(B)Dō-hon-zen-jō-ō-jō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（正大、一五八・三六）

道品章 ❶(B)Dō-hon-shō（支）Tao-pin-chang. ❷一卷 ❸唐神泰撰 ❼（參考） 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄

道味一背 ❶(B)Dō-mi-ichi-hai. ❷一卷 ❸存、前田慧雲（安政四—昭和五A. D. 1857—1930） ❺明治三九刊 ❹東京大槻園

道命聽記 ❶(B)Dō-myō-chō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹道命 ❺金剛蹲踞覺。大行義。行一念義。三信宇調。 ❹寫本（龍大、一五〇二・五五）

道友會法語 ❶(B)Dō-yū-kwai-hō-go. ❷一帖 ❸存 ❹耶蘇教團 ❺大正三刊 ❹東京博文館

道餘錄 ❶(B)Dō-yo-roku.（支）Tao-yu-lu. ❷一卷 ❸存 ❹道衍鶴庵（至元元—永樂一六A. D. 1335—1418） ❺明永樂二（A. D. 1404） ❼（參考） 禪籍志卷下

道餘錄破釋 ❶(B)Dō-yo-roku-haichaku. ❷一冊 ❸存 ❹(晉)、え・七・右・一九）

道用桑僑 ❶(B)Dō-yō-sō-gō. ❷一卷 ❸存 ❹無儘 ❺天明三刊 ❹(龍大、二〇五四・九）

道耀集 ❶(B)Dō-yō-shū. ❷一卷 ❼（參考） 淨土依憑經論章疏目錄

道林寺事蹟 ❶(B)Dō-rin-ji-ji-seki. ❷一卷 ❸存 ❼（參考） 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

道林禪師行實 ❶(B)Dō-rin-zen-ji-gyō-jiten. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（駒大）

道盧集 ❶(B)Dō-ro-shū. ❷一卷 ❸存 ❹中瑞月溪 ❼（參考） 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

書王卷 ❶(B)Dō-ō-no-maki. ❼（參考） 東域傳燈目錄卷下

書論抄 ❶(B)Dō-ron-shō.（支）Tao-lun-chao. ❷一卷 ❹唐道猷

幢幡竪式 ❶(B)Dō-ban-ju-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（谷大、宗大・一四一五）

導師表白 ❶(B)Dō-shi-hyō-byaku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶菩提院）

樓次第 ❶(B)Dō-shi-dai. ❷三卷 ❸存 ❹雪象 ❹寫本（谷大、宗大・二四一三）

瞳眠稿 ❶(B)Tō-min-kō. ❷一卷 ❸存 ❹玉室宗珣（元龜三—寛永一八A. D. 1572—1641） ❼（參考） 禪籍目錄

椙尾御物語 ❶(B)Toga-no-o-monomono-gatari. 椙尾物語 ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第四二 ❹椙尾物語の下を見よ。 ❺寶永八寫 ❹(高大、寄・一・五五）

椙尾高山寺聖教目錄 ❶(B)Toga-no-o-kō-zan-ji-shō-gyō-moku-roku. ❷二卷或一卷 ❸存 ❹寫本（龍大、二〇一二・一三）（帝國、一八八・四八一）

椙尾山高山寺明惠上人 ❶(B)Toga-no-o-zan-kō-zan-ji-myō-e-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹村上素道著 ❺昭和四刊 ❹京都高山寺

椙尾聖教目錄 ❶(B) Toga-no-o-shō-gyō-moku-roku. ❷一帖 ❸存 ❺延享七寫 ❹(寶龜院）

椙尾聖教目錄 ❶(B) Toga-no-o-shō-gyō-moku-roku. 椙尾目錄 ❷六卷 ❸存

椙尾の聖者明惠上人 ❶(B)Toga-no-o-no-hi-ja-myō-e-shō-nin. ❷一冊 ❸存 ❹猿田康三郎編 ❺昭和五刊 ❹(高大、一・二一）

椙尾明惠口傳五祕密事 ❶(B) Toga-no-o-myō-e-ku-den-go-hi-mitsu-ji. ❷一冊 ❸存 ❺足利初期寫 ❹(金剛三昧院）

椙尾明惠口傳護身法事 ❶(B) Toga-no-o-myō-e-ku-den-go-shin-hō-ji. ❷一冊 ❸存 ❺足利初期寫 ❹(金剛三昧院）

椙尾明惠上人傳記 ❶(B)Toga-no-o-myō-e-shō-nin-den-ki. ❷二卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一傳記部 ❹喜海 ❺明惠上人傳現存のものに多本あり、和歌山縣の上山氏本、法隆寺本、親王院本、德富氏本、大阪津田氏本、施無畏寺本等是れなり、此中上山氏本最古本なり高信上人自筆本なりとす。當本は通俗本なり、最も世に廣く行はれ、讀まれ居れり、內容は後世の多少修飾を經たるが如きも、上人の常隨者たる喜海上人の述作なれば、其記述事項は能く上人の眞面目を傳へ居れり。修道に志す者は本書を讀めば、上人の傳記を知ると同時に、眞骨二諦に亘つた盛世の格言と目すべきものが、書中に充滿して居る。 ❹喜海寫四刊（谷大）、正大、一四一・五五）寫永六刊（高大、寄・一・二一）寫文五刊（高大、寄・一・二一）、寫・ら・四・中・七）寫政三刊（谷大）（正大、一〇三七・八）寫延二寫（高大、一・二一）（土宜覺了）

椙尾明惠上人遺訓 ❶(B)Toga-no-o-myō-e-shō-nin-yui-kun. 阿留邊幾夜宇和 ❷一卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一法典部、日本教育文庫第一一 ❹高辨（承安三—貞永元A. D. 1173—1232）述 ❺阿留邊幾夜宇和の下を見よ。

椙尾目錄 ❶(B)Toga-no-o-mokuroku. 椙尾聖教目錄 ❷三卷或六卷 ❸存

❸淨土眞宗教典志第三に目し「上卷四題目、法錄憲聖教目錄、中卷內題目、高山寺經藏內眞言書目錄、下卷內題目、高山寺聖教目錄」と下卷以前數一百二十、分之。據、卷尾所記。寛永十年十一月二十一日。重增、修吉目錄者也。今案此錄總記、椙尾所藏書目、故無部類差別、不同諸目錄之體」云々。 ❹高山寺

椙尾物語 ❶(B)Toga-no-o-monogatari. 椙尾御物語 ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第四二 ❹本書は明惠上人が時々の說教、說法を輯錄したものなり、今高山寺に現存の眞聞集十卷、却廢妄記上下二卷の如き、本書と同種類の輯錄なり、本書の內容は最初に大日經疏のことを述べ、次には三密三平等事を、次には入我々入の事を、其の他陀羅尼の事、護身法事、布字觀事、淨三業事、淨土事、金剛界大法事、大佛頂事、加持寺、法花經事等の事を述べて居られる、其言節にして何れも要を得て居る。一切經を時じた、實行實修の上人の御面目が隨處に躍如して居る、修道に志す者は必ず一讀すべき書である。（土宜覺了）

常盤井殿記錄 ❶(B) Tokiwa-i-dono-ki-roku. ❷二帖 ❸存 ❹道順記 ❺應安四寫 ❹(寶壽院）

常盤嫗物語 ❶(B) Tokiwa-mono-gatari. ❷一卷 ❸存、國文東方佛教叢書第九文藝部上、群書類從第一八雜部第三、新編御伽草子 ❹大和の國に常盤嫗といふ人があつて、家は富み榮えてゐた所、年比の夫に死別し、子供は數多あるけれども、嫗の意に從はない。九十餘歲の長命を保つてゐるが、自骨に至る身を知らず空しく年月多送りしが、無常轉變の世相を觀じ偏に西方彌陀如來を念じて高齡念佛する嫗に對して子供等は「あなかしましや年寄のよな〳〵どの高齡や」とて、すゝむる子はなく制する子供の態度をいたく悲しみ「九夏三伏のなつの日はまくらをあふぎて乳をふくめ涼しき風を子にあてゝ玄冬素雪の寒き夜は溫たる床に我は寢て厚き衾を子にはきせ風をもあてじといたはりしにかゝる思をば忘れはて云々」と愚痴をこぼし、高大なる父母の恩を忘れたる我子の不孝を歎く有樣が述べてある。次に老女の性僻たる慾心を巧に描寫して、或は果物、野菜、魚、肉等樣々の嗜好物をくどきあげ、今はそれさへ得られぬ事を悲しむ。或は若く榮えし昔日の悅を偲んで現在の不幸を泣き「さてもかひなき黑髮の今年は白くなりにけり。青の鏡を今朝見れば老ほどつらきものあらじ」と己が身の行末を心もとなく思つた嫗が、念佛を唱へ彌陀の來迎を願じつゝ目出度き往生の素懷を遂げるといふ物語で、阿彌陀佛の左右の弟子、觀音勢至菩薩たち嫗を導き給へ、南無阿彌陀佛と唱へつゝ高座にのぼり念誦して西に向ひて伏拜み、やがて臨終正念にして紫雲忽樹引て音樂空にあたなり華降靈香薰じつゝ往生疑ひなかりけり。後の世までも書とゞめけるときはのうばこそめでたかりける〳〵」と筆を結んでゐる。

平田俊二郎氏の「近古小說解題」に右の物語の解題があり、猶又長谷川福平氏は「古代小說史」の中に「提中納物語のよしなしごとより脫化し來たりしものなり。作者詳ならざれども甚しく宋のものにあらず云々」と言はれてゐる。

概して言へば、老女の性僻を巧に表した滑稽文であるが、七五調の美しい筆勢には見るべきものがある。（近藤瓶眞）

常盤緣起辨妄 ❶(B)Toki-wa-en-gi-hen-mō. ❷一卷 ❸存 ❹了龍 ❹寫本（龍大、一九六一・九七）

常葉帖 ❶(B)Toki-wa-chō. ❷一冊 ❸存 ❹大谷派本願寺編 ❺大正四刊 ❹(谷大、別・一〇）

常葉年表 ❶(B)Toki-wa-nen-pyō. ❷一冊 ❸存 ❹和田康道編 ❺明治三八刊 ❹(帝國、三一八・七〇）

禿丁記 ❶(B)Toku-chō-ki. ❷一卷 ❹琴通（應永三四—永正一三 A. D. 1427—1516）記 ❺文明元寫 ❹(眞如藏）

禿尾帝集 ❶(B)Toku-bi-te-shū. ❷三卷 ❸存 ❹龍統正宗（—明應七 A. D. 1493） ❼（參考） 扶桑禪林書目、禪籍目錄

禿尾長柄帝集 ❶(B)Toku-bi-chō-hei-te-shū. ❸存 ❹龍統正宗（—明應七 A. D. 1493） ❼（參考） 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

禿尾鐵芯帝 ❶(B)Toku-bi-tes-shō-te. ❸存 ❹龍統正宗（—明應七 A. D. 1493） ❼（參考） 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

特賜宗慧大照禪師行狀 ❶(B) Toku-shi-shō-e-dai-shō-zen-ji-gyō-jō. 宗惠大照禪師行狀、宗惠禪師行狀 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹宗惠大照禪師行狀の下を見よ。

特賜大宗正統龍溪禪師語錄 ❶(B) Toku-shi-dai-shō-shō-tō-ryū-keizen-ji-go-roku. 大宗正統禪師語錄、龍溪禪師語錄、龍溪和尙語錄 ❷三卷 ❸存 ❹性潛龍籌（慶長七—寛文一〇 A. D. 1602—1670）語、祖澄等編 ❹刊本（龍大、二六七四・一七）

特種布敎講演集 ❶(B)Toku-shu-fu-kyō-kō-en-shū. ❷八篇 ❸存 ❹京都法藏館

特芳和尙語錄 ❶(B) Toku-hō-wa-shō-go-roku. 西源特芳和尙語錄、西源和尙語錄、西源錄、大淑常照禪師語錄、特芳禪傑禪師語錄 ❷三卷 ❸存、大正八一・四七九No. 2573 ❹特芳禪傑（應永二六—永正三 A. D. 1419—1506）語 ❹西源特芳和尙語錄の下を見よ。 ❼（參考） 扶桑禪林書目

特芳禪傑禪師語錄 ❶(B)Toku-hō-zen-ketsu-zen-ji-go-roku. 西源特芳和尙語錄、西源和尙語錄、西源錄、大淑常照禪師語錄、特芳和尙語錄 ❷三卷 ❸存、大正八一・四七九No. 2573 ❹特芳禪傑（應永二六—永正三 A. D. 1419—1506）語 ❹寫本（帝國、二〇六・八五）

特留此經七種編增談 ❶(B)Toku-ru-shi-kyō-shichi-shu-hen-zō-dan.

❷一巻 ❸存 ❹寫本（正大、一一五三・二〇八）

得依釋序文緣起 ❶(日) Toku-e-shaku-jo-mon-en-gi. (支)Te-i-shih-hsü-wên-yüan-chi. ❷一巻 ❸存『卍續二乙・二三・一』 ❹慧淑（―正德四 A. D. 1714）撰

❺題號は「依釋の序文を得たる緣起」と讀むべく、これ日本、滿堂（淑槃譚）が自著六物圖依釋四卷を淸の宜潔律師に始り寄れたるに、宜潔は是が序文を書けるに由り、是を依釋の卷端に冠し、以てその由來を審かにせざるを恐れて寶永五年（西紀一七〇八）にその緣起一篇を述ぶるが主眼なり。而して其緣起を述ぶるに當りて、元照律師以後宜潔律師に至る傳律の旣要を述べてゐる。即ち靈芝律師（諱は如馨）ありて世に傑出し、蕅寂して慧雲と謚せり。古心より三昧律師（諱は寂光、慧遠の再來とせらる）に、三昧律師は見月律師（諱は讀體、南山の再生といはる）に、見月は宜潔律師（諱は書玉にして別に佛菴と號せり）に相傳せり。此尼日用切要は見月和尙の所集、其れが香乳記は宜潔律師の所筆なり。而して滿堂が長崎に遊びし折、東明山興福寺主、悅峰禪師より此の香乳記二卷を贈られ、而も宜潔律師が現に紹慶に在るを知りて禪師に託して六物圖依釋を商船に附して律師に詒りしに、律師は見て隙寡し、以て序して之を證すると共に自著の羯磨儀式二册を惠まれたれば、敍ち一偈を述して其寡びを誌し、その序文は梓して卷端に冠せりとて、その序文の緣起一篇を記せるものが即ち此の書である。宜潔律師の序とは次の如しゃ六物者三衣及具瀧水囊也、用世間表缺一不可、僅能持守若不ゞ知ゞ其名相體用制起緣由、猶ゞ弗ゞ具也。故我靈芝大智照頭陀師、佛滅意、依ゞ名出ゞ相曰ゞ六物圖、流ゞ布宇內、迄ゞ今六百餘歲、第註述多端、學人難ゞ探、扶桑國江洲滿堂淑律師精通ゞ內典、深究ゞ毘尼、提ゞ挈綱宗、從ゞ國釋定、義豐文約、事理雙彰、可ゞ謂末世之光明幢也。遠來寄贈、讀ゞ之不ゞ忍ゞ釋ゞ卷、余謂今時篤信者尙不ゞ可ゞ得、何況力行、果能如ゞ是行持、則浮囊可ゞ保、彼岸可登、佛法幸甚、世間幸甚、其依釋之功豈淺鮮哉、是爲ゞ叙。旹、康熙丙戌（A. D. 1706）歲十月穀旦、清古杭昭慶萬壽戒壇、傳律沙門佛菴書玉題」とある。

❹寫本（京大、蔵・二四ケ・七） （西本龍山）

得岸和上行業記 ❶(日)Toku-gan-wa-jo-gyō-ki. ❷一巻 ❸存 ❹(參考) 眞宗全書刊行豫定書目、眞宗大系刊行豫定目錄

得嚴惟肖疏稿 ❶(日)Toku-gon-i-sho-sho-kō. ❷一巻 ❸存 ❹(參考) 禪籍目錄

得魚忘筌錄 ❶(日) Toku-gyo-bō-sen-roku. ❷一巻 ❸存 ❹梅窓（安永九―文久二A. D. 1780―1862）述、守道記 ❺安政二寫 ❻明德院）

得遇龍華修證懺儀 ❶(日)Toku-gu-ryū-ke-shu-shō-san-gi. (支) Te-yü-lung-hua-hsiu-chêng-ch'an-i. 龍華懺儀 ❷四卷 ❸存、卍續二乙・二・一 ❹明如寂

撰 ❺本書には序と跋とが附してあり、跋によれば著者たる天台山應雲寺如惺が彌勒上生經等を撰録して萬曆丙午（三十四年 A. D. 1607）の歲に龍華懺儀四卷を集むとしてある。更に本書の最初序分に著者自身次の如く言つてゐる。若し大心衆生有りて未來に於て身は鑪頭莊嚴の城に居り、日々金色にして掌の如き地に遊び、八萬歲の長壽を享け、四大藏の富饒を叛び、僧侯輪王と異なるを得、龍華に詣り彌勒に見え、阿羅漢を成じ無生忍を證し、賢劫諸佛より次第に記を受けんと欲せば、當に此の十二方便を勤修すべし。命終らば必定して先づ內院に生じて自念を覺ることを獲て不退地に入り、然る後佛に隨ひて下生し諸の同類を度すべし。此れ一超直入如來地なるものに非ざる歟。今諸大乘經及び法住記に依り此の懺法を述ぶ、云々」と。

かくて正宗分に於て懺法十二方便を列說してゐる。十二方便とは、(一)開發正信（彌勒佛は他佛より稚稚の點に於て勝れたるが故に彌勒に對する正信を開發すべし）。(二)廣求良友（廣く禪講に通じ誰靈にして力修し苦に甘んずる良友を求むべし）。(三)樂持戒律（十重禁戒・四十八輕戒を守り、十善道等を行ふべし）。(四)發菩提心（四弘誓願文を唱へて發菩提心の儀式を行ふ）。以上第一卷。(五)明結壇儀（結壇に菩賢道場・彌勒道場の二あり）。(六)禮請三寶（香華等を以て三寶を供奉し然る後、諸佛菩薩及び眷屬等の奉請及び散禮の儀式。(七)懺悔往罪（懺悔及び歸依三寶の儀式）。(八)專誦法華（專誦の意義方法等）以上第二卷。(九)三寶福田（佛法僧の三福田に對する供養等）。(一〇)總觀究竟（一、觀依報。二、觀正報。三、觀上生。四、稱名獲益）以上第三卷。(一一)別觀龍華（一、辯異、諸經による彌勒成佛に關する―彌勒佛の身長・壽量・龍華樹・說法會處に關する―異說。二、正觀、彌勒佛の佛身佛土の正觀。八相成道等）。(一二)念一實相（第一義諦一實相に關して、一、觀正體。二、顯妙用）

最後に簡單な流通分がある。要するに本書は彌勒佛に對する信仰により、過去の罪業を懺悔し、三寶に歸依して、究竟天に生じ當來佛の出世に遇ふことを目的とする懺法を說いたものである。書名中の龍華とは當來彌勒佛が出家し其下に坐して正覺を成ずる菩提樹の名である。 （水野弘元）

得自性清淨 ❶(日)Toku-ji-shō-sho-ji. ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

得自性清淨如來 ❶(日) Toku-ji-shō-shō-ji-nyo-rai. ❸存 ❹寫本（寶龜院）

得失鏡 ❶(日)Toku-shitsu-kyō. ❷一紙 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

得捨逢源 ❶(日)Toku-sha-hō-ō-gen. ❸存 ❹光殿 ❺天保一〇寫（高大、寄・一・一二）寫本（龍大・二六二三・二）

得捨逢源自席 ❶(日)Toku-sha-hō-gen-ji-seki. ❷一巻 ❸存 ❹寶雲・寬叔（―弘化四 A. D. 1791―1847） ❺寫本（龍大、二六二九・八）

得受職人功德法門鈔 ❶(日)Toku-ju-shoku-nin-ku-doku-hō-mon-shō. ❷一巻 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮（貞應元―弘安五 A. D. 1232―1283） ❺文永九（A. D. 1272）四月

❻最蓮房日淨に與へて、法華經の受職人が滅惡生善の功德を得る所以を說示した書。「受職者因位之緣際始成ゞ佛位、之義也」と先づ受職の義を釋し、次に受職に諸經と今經（法華經）との異あるを明して、

「今經之意自ゞ配旨、受ゞ職凡夫ゞ、自ゞ菩人、受ゞ職惡人ゞ、自ゞ上位、受ゞ職下位ゞ、乃至自ゞ持戒、受戒、自ゞ正見、邪見、自ゞ利根、鈍根、自ゞ高貴、下賤、自ゞ男女、自ゞ人天、畜生等、受職給經也、故未斷見思衆生我等皆悉受職（中略）釋云教彌樓位彌高、教彌實位彌下云此意也」

と說き、以て法華經は最下機を救ふ最上の教なるを說示し、次に今經の受職灌頂人に道俗の二あり、道俗に信解の二あるを說き、「修學解了受職之比丘同ゞ佛位、是卽如來之使者也」と斷じ、續いて是等諸機の受職者の相貌を明し、轉じて、

「然予雖ゞ下賤、忝學ゞ大乘、事ゞ諸經王、者、釋迦既以ゞ妙法之智水、灌ゞ日蓮之頂、令ゞ面授口決、給、日蓮又令ゞ受ゞ職日淨、受職之後爲ゞ他、說ゞ之給、如ゞ經文、者如來之使。如來所遣行ゞ如來事、人也」

と說きて本化別頭の受職を示し、進んで本化別頭の受職を受けたる人は、過去の重罪を滅して最上の功德を得る所以を說きて「此妙法蓮華經者本地甚深之奧藏、大事因緣之大白法、化導騰ゞ三說、功高ゞ一期（中略）釋云法師故人貴等云云」と斷じ、本化の正信と信心唱題の勸奬を以て結んでゐる。終りて、

「文永九年壬申四月十五日夜半記ゞ之畢」

と記し、本書が最緊要法門を明したることを示してある。

❼(參考) 錄外微考下、錄外考文六 （馬田行啓）

得生極樂義 ❶(日)Toku-shō-gokuraku-gi. ❷一巻 ❸存 ❹惠空（正保元―享保六A. D. 1644―1721）述 ❺大正九寫 ❻(谷大、宗大・三〇二六)

得生淨土神呪 ❶(日)Toku-shō-jō-do-jin-ju. (支)Te-sheng-ching-tu-shen-chou. 救一切業障根本得生淨土神呪、阿彌陀經不思議神力傳、不思議神力傳 ❷一卷 ❸存、大正一二・三五一 No. 368、續地一二、卍一〇・四、北191黃、南202乘、元198乘、明北197貞、淸197貞、天200乘、明南197貞、N. 201 ❹求那跋陀羅（太元一一九―泰始四A. D. 394―468）重譯 ❺救一切業障根本得生淨土神呪の下を見よ。

得繩 ❶(日) Toku-jō. ❷一卷 ❸存 ❹癸巳撰 ❺寫本（眞如藏）

得度因緣經 ❶(日) Toku-do-in-en-kyō. (支)Te-tu-yin-yüan-ching. 給孤長者女得度因緣經、給孤長者女得度經 ❷三卷 ❸存、大正二・八四五 No. 130、續伏四、卍一五・七、北1301且、南1305肥、元1295肥、明北932屋、淸932屋、麗1454起、天1298肥、至1137夫、明南959爾、N. 937 ❹宋施護（―太平興國五A. D. 980―）譯 ❺給孤長者女得度因緣經の下を見よ。

得度作法 ❶(日)Toku-do-sa-hō ❷一軸 ❸存 ❹應永二三寫 ❺(寶善提院)

得度略作法 ❶(日)Toku-do-ryaku-sa-hō. 永平祖師得度略作法 ❷一帖 ❸存 ❹面山瑞方（天和三―明和六A. D. 1683―1769）校 ❺刊本（駒大）

得度或問 ❶(日) Toku-do-waku-mon. 洞上得度或問 ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方（天和三―明和六 A. D. 1683―1769）

❺刊本（谷大、餘大・三二四六）（哲・ゟ・二・中・一四）（駒大）

得道果證經 ❶(日) Toku-dō-kwa-shō-kyō. (支)Te-tao-kuo-chêng-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹說哭代失譯 ❺(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、貞元錄第二五

得道梯橙錫杖經 ❶(日)Toku-dō-tai-dō-shaku-jō-kyō. (支)Te-tao-t'i-ch'êng-hsi-chang-ching. (藏)Jhar-gsil bcah-bji kun-ta-sgyod-pahi co-ga 錫杖經、得道梯橙經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七二四 No. 785、續宿七、卍一四・一〇、北798安、南811安、元804安、明北687敬、淸767敬、麗800酉、天793安、楷761酉、法786酉、至1033紋、明南682尺、N. 691 ❹東晉代（A. D. 317―420）失譯

❺本經には說時說處が記されてゐない。その主旨は、錫杖を受持すべきこと、錫杖の意義、錫杖を持する場合の威儀に在る。

內容。佛、諸比丘に告げ給はく、三世諸佛は皆錫杖を受持せり。汝等比丘應に錫杖を受持せよと。その理由は錫杖は聖智を部顯する意味で智杖と名づけ、功德の本を行ずる意味で德杖と名づくべきもので、それは聖人の表式であり、賢士の明記であり、道法に惡くの正輪であるが故である。斯くてそれを詳解し、次いで杖を持するの威儀としての二十五事が列記せられてゐる。

❼(注釋) 得道梯橙錫杖經出型鈔 (參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第三、貞元錄第五 （山邊習學）

得道梯橙錫杖經出型鈔 ❶(日) Toku-dō-tai-dō-shaku-jō-kyō-shu-kei-shō. ❷三卷 ❸存、日本大藏經方等部章疏第六 ❹大雲遙 ❺安永七（A. D. 1778）

❻得道梯橙錫杖經は錫杖の宣義を述べて、錫杖は智杖德であり、之を持すれば惡惡修善得智して獲得解脫し、三十七の助道法を具へると說き、何人も之を受持すべく敎示せられたものであるが、本書は卽ちこの得道梯橙錫杖經の講義書とも稱すべきもので、科文に依つて解釋し、語句の典故を詳細に指示してゐる。而して本書が出型鈔と書名せられた所以は、撰者大雲の序文に「錫出ゞ于聖ゞ、而用ゞ于衆ゞ、益ゞ云ひ又「出ゞ型則專稱ゞ之」等とあるによるべきであらうが、錫杖の三錄、四肢、十二環、通錄讚八、通中高五、三意四肢等の種類が各々その數に相應する諸法を表明するといふ事をも意味するであらう。又持錫杖の威儀に二十五事ある事の講說をし、終りに「持錫杖法」なる二十五事の威儀に就き再說したものを附錄としてゐる。尙卷頭には安永五年大雲書の序に次いで「四肢十二環錫杖縁訣」を出

し、錫杖を密教の立場より論じてゐるが、更に卷尾には安永七年大雲跋の「開刻由致」を掲げて本書開版の由來を述べてゐる。
❺安永七刊 ❻(京大、藏・一六・一)(龍大、二四一七・一八八)

得内豊厳王佛名經 ❶(日)Toku-nai-bu-ŋon-ō-butsu-myō-kyō. (支)Té-nei-fēng-yēn-wang-fo-ming-chīng. (龍租靜應) ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

得非得珍味錄 ❶(日)Toku-hi-toku-chin-mi-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研佛)

得名懸隔決斷 ❶(日)Toku-myō-ken-kaku-ketsu-dan. 義林章中得名懸隔決斷 ❷一卷 ❸存 ❹榮性 ❺(龍大、二七二三・五)

得名懸隔詳釋 ❶(日)Toku-myō-ken-kaku-shō-shaku. 義林章中得名懸隔詳釋 ❷一卷 ❸存 ❹運阿 ❺天明六寫 ❻(谷大、餘大・三四一六)

得名大事 ❶(日)Toku-myō-dai-ji. ❷一括 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

得無垢女經 ❶(日) Toku-mu-kō-nyo-kyō. (支)Té-wu-kou-nü-chīng. (梵藏) 無垢施菩薩應辯會參照。無垢女經、論議辯才法門經、無垢法門經 ❷一卷 ❸存、大正一二・九七 No.339、鳩摩一一、四六・四、北42裏、南26裏、元45裏、明北42裏、清41裏、麗43衣、天43裏、指34服、法43衣、至110以、明南45裏、Zi 45 ❹菩提流支譯 ❺元魏興和三(A.D.541)

(a)離垢施女經、(b)大寶積經無垢施菩薩應辯會第三十三、(c)同西藏譯の四異本あり、この中、大寶積本のみ分品して五品となすも、内容大同にして全一といつてよく、譯文の整備せる點は本經が第一である。左に諸本を參照しつゝ内容を概觀しよう。〔一〕(a)序品第一)。〔二〕佛令菩提城祇陀樹林給孤獨園に在りし時、一日命利弗・大目揵連・摩訶迦葉・須菩提・富樓那彌多羅尼子(a邪御文陀弗)・難波多(a難越)・阿泥樓大(阿那律)・阿羅陀の八大聲聞と、文殊師利(a博首)・除惡(a樂諸惡趣、b離惡趣)・寶幢(a寶英、b寶相・不虛見a不虛見・b無瑕見)・障一切罪(a樂諸除蓋、b除諸蓋)・觀世自在(a光世音、b觀世音)・辯樂(a辯積、b辯嚴)・不迷行(a超度無處迷、b不礙行)の八大菩薩が城内に行乞し、互に自らの長所を以て說法せんことを議す。〔三〕會ま波斯匿王の女、得無垢(a維摩羅達 Vimaladatta、普雷離垢施、b無垢施)、年十二(b八歲)、五百梵士を率ゐて天嗣に詣せんとするに會し、梵志(首長を梵天といふ)等見て不吉となす。得無垢施、聲聞菩薩の福田なることを說いて吉相なることを歎へ、生れて七日、諸天の語を聞きて佛を敬信することを明し、諸梵士をして菩提心を發さしむ。この下の記事を見るに、波斯匿王の未だ信仰以前の出來事とするものである。〔一二〕(b聲聞品第二及び菩薩品第三)。次で得無垢女、八大聲聞並に八大菩薩に、各々の長所を採れる一問を提するに、何れも答ふる能はず、倶に得無垢の妙辯を讚へ、既に我等無上の法食を得たるを以て行乞をやめて精舍に還るべしといひ、玆に於て得無垢女、五百梵志、波斯匿王諸眷屬等と相率ゐて佛所に向ふ。この構想、全く維摩經の弟子菩薩二品に於て、十大弟子五菩薩が維摩詰より彈呵を蒙ると揆を一にし、以て本經の思想系統並に成立年代を想知するに便である。但し維摩經に於ける文殊の地位を、本經に於ては須菩提に與へる點、般若經に於ける須菩提の地位を同情したものといへよう。今、諸弟子菩薩に對する提問の要點を掲げると、(一)舍利弗(不生法)・(二)目連(無分別)・(三)富樓那(眞語)・(四)摩訶迦葉(不取法)・(五)須菩提(不戲論法)・(六)難波多(不二法・(七)阿泥樓大(離有無法)・(八)阿難(文字離性)・(九)文殊(因緣甚深)・(一〇)不迷見(菩提堪忍者)・(一一)寶幢(希望福德)・(一二)除惡(業報)・(一三)障一切罪(五苦不障)・(一四)觀世自在(繫縛執掌)・(一五)辯樂(辯才因緣)・(一六)不迷行(菩提性)。〔三〕(a菩薩行品第四)・(二)佛、得無施の請問によつて菩薩行を說く。壞魔・翻佛界(b次と倒置す)。放光。得呪。得定。得通。得錫正。佛前化生。得富。得智。得宿命智。常値佛。得相。得好。得辯。得得佛土。得僧具足(a眷屬常和)。隨願生佛國。以上各項に各四法ありて計十八種七十二法となる。(三)次で得無垢女に發願して、この菩薩行を靈形に形ぜんと誓ふや、虛空中に華降り、彼女は女身を轉じて十六童子(a八歲)と變ず。(四)よつて佛放光微笑し、阿難の問に應じて、過去八千阿僧祇劫來、女珠に先達つて貪心せることを明し給ふ。(五)目連、何が故に女身を轉ぜざるやを得無垢女に問ふ。要するにこの段も亦、維摩經の菩薩行品觀衆生品等に模せるものに過ぎない。〔四〕(b授記品第五)。佛文殊に本經を付屬し、かつ得無垢女に無垢孝憶念轉王如來(a離無垢光英王、b無垢光相王)と授記し給ふ。
❼(參考) 三寶紀第九、内典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (美濃晃順)

得聞遣稿 ❶(日)Toku-mon-i-kō. ❷二卷 ❸存 ❹阿滿得聞(文政九—明治三九A.D.1826—1906)述、阿滿得壽編 ❺昭和五刊 ❻(京大、一・二六・七)(龍大)

德一未決答釋 ❶(日) Toku-ichi-mi-ketsu-tō-shaku. ❷一卷 ❸存、大正七七・八七三 No.2160、❹某寶(德治元—貞治元A.D.1306—1362)撰

❺筑波山德一の著眞言宗未決文に對する答釋書である。未決文には結集疑・經處疑・即身成佛疑・五智疑・梵字疑・決定二乘疑・開示悟入疑・菩薩十地疑・梵字疑・毘盧遮那佛疑・經卷數疑・鐵塔疑の十一箇條を載せてゐるが、大正藏經收載の本書には菩薩十地疑以下五箇條に對する答釋があるのみで、前六條に關するものがない。察するに本來上下二卷で全部の答釋があつたものが、上卷を散佚したのであらう。但し前六條の疑難等に對しても、玉印鈔、寶冊鈔、**刑**[illegible]鈔等を見れば、某寶の意見を知ることが出來る。德一は弘法大師同時代の人で當時南都佛教の大學匠であつた。眞言宗未決文に對する眞言家の

答釋としては本書の外に慧雲の未決答釋がある。又諸々の問題に對する部分的疏釋は諸書に散見してゐる。又弘法大師の廣付傳下第三問答決疑に溺謗子と云へるは德一などを指すものである。眞言宗未決文の條參照。
❻古寫本(東寺觀智院) (小田慈舟)

德雲和尚行狀 ❶(日)Toku-un-i-shō-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

德圓阿闍梨付法文 ❶(日)Toku-en-a-jā-ri-fu-hō-mon. 德圓阿闍梨印信 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第一、天台續標二之二(佛全一二五ノ一七五)。智證大師全集下(佛全二八ノ一二九三) ❹德圓(—弘仁三—承和一二A.D.812—845—)
❺承和九(A.D.842)
❻本書は三種悉地法による三部三昧耶の傳授印信である。この印信は唐貞元二十一年四月十八日に越府泰獄靈巖寺沙門順曉が最澄に傳授した毘盧遮那三十七尊曼荼羅の祕法たる三種悉地印信が起元をなし、義無畏・義林・順曉・最澄—[廣智]—德圓・圓珍……と次第に傳授が行われた中の德圓が圓珍へ傳へた印信である。次に此の印信は三通相傳してゐる。一は順曉阿闍梨印信。二は廣智阿闍梨印信。三は本書である。但し最澄阿闍梨印信が失はれてゐることは疑はしい。次は廣智、德圓の印信と傳教大師傳。慈覺大師傳、護國鈔起等と受法年月を對照するに「弘仁八年三月」又は「弘仁八年五月」に三種悉地の傳法が下野、上野で行はれたとあるが恐らく「弘仁六年」或は「弘仁七年」の記事でなければならぬ。此の點にも疑ひがある。この三種悉地法は胎金蘇三部に通ずる祕法であると共に五鈷曼荼羅ともいはれ、造教風らしいやうにも考へられる。圓戒論緣起に三種悉地の印信が採錄されてゐるから、傳教大師の時に行はれたかの如く考へられるが、恐らくは智證大師の相傳に初まるのではなからうか。更に可考。 (田島德晉)

德翁高和尚年譜 ❶(日)Toku-ō-kō-jō-shō-nen-pu. 西來德翁高和尚年譜 ❷一卷 ❸存 ❹白龍妙玄編 ❺寛政一一刊 ❻(駒大)

德翁高禪師語錄 ❶(日) Toku-ō-kō-zen-ji-go-roku. ❷二卷 ❸存 ❹良高德翁(慶安二—寶永六A.D.1649—1709)語、寂照編 ❺正德四年後刷本 ❻(駒大)

德翁高禪師塔銘並序 ❶(日)Toku-ō-kō-zen-ji-tō-mei-narabini-jo. 西來德翁高禪師塔銘並序 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(駒大)

德翁良高和尚夜話 ❶(日)Toku-ō-ryō-kō-ō-shō-yawa. 西來德翁良高和尚夜話 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(駒大)

德川家光公御内書之寫 ❶(日) Toku-gawa-ie-mitsu-kō-go-nai-sho-no-utsushi. ❷一卷數十通 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

德川雜記 ❶(日)Toku-gawa-zak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一〇三三・八八)

德川時代諸文第記錄類 ❶(日) Toku-gawa-ji-dai-sho-bun-dai-ki-rui. ❷一括 ❸存 ❹寫本(寶善提院)

德川幕府時代之本山 ❶(日)Toku-gawa-bakufu-ji-dai-no-hon-zan. ❷一卷 ❸存 ❹鷲尾教導、脇谷鶴謙共著 ❺寫本(龍大、一九四・四〇)

德川秀忠御内書之寫 ❶(日)Toku-gawa-hide-tada-go-nai-sho-no-utsushi. ❷一卷數十通 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

德嚴惟慧禪師年譜 ❶(日)Toku-gan-yui-e-zen-ji-nen-pu. 惟慧禪師年譜、德嚴開山惟慧禪師年譜 ❷一卷 ❸存 ❹高橋定珦(竹逢)編 ❺明治四四刊 ❻東京鴻盟社

德義樂妙義樂 ❶(日)Toku-gi-raku-myō-gi-raku. ❷一卷 ❸最澄(神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822) ❼(參考) 本朝台嗣撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

德護長者經 ❶(日)Toku-go-chō-ja-kyō. (支)Té-hu-chang-che-chīng. (梵)Śrīgupta-sūtra(藏傳)(藏)Dpaga-pa dpal-sbas shes-bya-bahi mdo. 尸利崛多長者經 ❷二卷 ❸存、大正一四・八四〇 No.545、館宙六、卍一〇・五、北2222號、南245號、元241號、明北223號、清228號、麗222衆、天223衆、指205衆、法217衆、至299必、明南236男、Zj. 232 ❹那連提耶舍(天監一六—開皇九A.D.517—589)譯 ❺開皇三(A.D.583)
❻德護は尸利崛多(Śrīgupta)と云ひ、釋尊在世の頃に於ける王舍城の長者で、外道の請を受けて釋尊を殺さんとし、却つて教化されて佛記を受くるのであるが、本經は上下二卷に亘つてその事柄を述べたものである。

即ち德護長者は己の邸の七重の門下に各々火坑を作りて、その中に無燃の火を入れ、鋼を敷として草土で以て之を覆ひ、飲食の中には毒藥を置く等、六師外道が勸むる通りにして罪業を殺し參らせんとして請じたのである。併し長者の子月光童子は父の惡事を知り、密かに母月雲夫人に告げて共に父を諫めた。如來は「一切の刀劍も傷毀する能はず、一切の猛火も燒害する能はず」、三千大千世界滿中の盛火でも、佛の一衣をも燒く事は出來ない、如來は一切智者であるとの我子の諫言に耳を藉さず、長者德護は佛を請じた。所が果して佛は大神力を現じ、少しも傷害されなかつた。以上が第一卷の所說である。

第二卷に於ては、佛德を讚嘆する爲に四方の三千大千世界から菩薩達が集つて來る。この有樣を見て長者はすつかり自分の前非を悔ひ、月光童子の妹の月上、長者の女德生、月光の弟智學童子等、何れも合掌して偈を說き、歡喜踊躍し、長者も亦頭面に佛を禮し、一切集會悉く歡喜來行するのである。佛德を讚嘆したる大文學で、修辭劇的描寫の達筆よりなる一經である。
❼(參考) 三寶紀第一二、内典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (三好鹿雄)

數・略字號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存 ❹著者 ❺著作年代 ❻内容解說 ❼書末(註釋書參考書) ❽寫本(名家書)(名藏所現) ❾月年の刊 ❿寫本 ⓫所行(名)

東洋文学史 ❶(日)Tōyō-bun-gaku-shi. 東洋文学。

東洋大学 ❶(日)Tōyō-dai-gaku. 東洋大学。

東洋哲学 ❶(日)Tōyō-tetsu-gaku. 東洋哲学。

東洋文化 ❶(日)Tōyō-bun-ka. 東洋文化。

東洋文庫 ❶(日)Tōyō-bun-ko. 東洋文庫。

東洋文化研究所 ❶(日)Tōyō-bun-ka-ken-kyū-jo. 東洋文化研究所。

東洋文庫 ❶(日)Tōyō-bun-ko. 東洋文庫。

東洋大学 ❶(日)Tōyō-dai-gaku. 東洋大学。

東洋哲学 ❶(日)Tōyō-tetsu-gaku. 東洋哲学。

東洋文化 ❶(日)Tōyō-bun-ka. 東洋文化

讀經

讀經(ドクキヤウ)

讀經(ドクキヤウ)

讀經(ドクキヤウ)

次に正に讀經の時、次に開口の時、次に經を置かんと思ふ時、次に經を置く時の各條に渡りての用心を示す。又上音讀經の時をも附說して居るが、用心の中心は一文字即實相であり、此の用心の善を以て自他共に西方に往生せん事を期する往生思想を以つて一書を通貫して居る。本書は形式上源信述の涅槃講式・菩賢講作法と一類のものである。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、天台宗章疏目錄、諸師製作目錄、天台霞標、本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述籍目集卷下、淨土眞宗教典志第一 ❽弘化三刊 ❾(叡山、密嚴)(正大、一三六・五) (淺倉最昌)

讀經要義 ❶(日)Doku-kyō-yō-gi. ❷二卷 ❸存 ❹通誠述 ❺刊本(谷大、餘大・二四七六)

讀行信私憂辨 ❶(日)Doku-gyō-shin-shi-u-ben. ❷一卷 ❸存 ❹圓月(文政元—明治三五A. D. 1818—1902) ❺善譯の「行信私憂辨」の附錄。 ❻昭和四刊 ❼(龍大)

讀顯眞錄 ❶(日)Doku-ken-shin-roku. ❷一卷 ❸存 ❹堀順乘述 ❺明治三〇刊 ❻(谷大、宗洋・一九)

讀御垂示顯正錄 ❶(日)Doku-gyo-suri-ken-shō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹古部觀順(文政七—明治四三A. D. 1824—1910)述 ❺明治三三刊 ❻(龍大、研眞)(谷大、宗洋・九六)

讀御垂示頂戴錄 ❶(日)Doku-gyo-suri-ji-chō-dai-roku. ❷一卷 ❸存 ❹森祐順述 ❺明治三一刊 ❻(谷大、宗洋・三四)(龍大)

讀言南無者釋 ❶(日)Doku-gen-na-mu-sha-shaku. ❷一卷 ❸存、宗典研究之內 ❹順藝(明和七—弘化四A. D. 1770—1847)述 ❺寫本(谷大) 昭和六刊(谷大、宗洋・九三〇)

讀七十五法名目 ❶(日)Doku-shichi-jū-go-hō-mei-moku. ❷一卷 ❸存 ❹藤岡惠隆著 ❺大正一二刊 ❻東京森江書店

讀誦論義 ❶(日)Doku-ju-ron-gi. ❷一卷 ❸存、日蓮宗令學全書本門宗部之內 ❹日辰(永正五—天正四A. D. 1508—1576) ❺水綠二(A. D. 1559) ❻本門宗(舊要法寺派)中興の碩學日辰の著。

同じく日興門流に屬する大石寺派の一部不讀論に對し一部讀論を主張せる論書「問法華圓宗之意許二部讀論耶、答云可然也」を始說とし、以下數番の難問と答釋を以て一部讀論を詳かに論證してある。 (馬田行啓)

讀書二十二則 ❶(日)Doku-shō-ni-jū-ni-soku. ❷一卷 ❸存、大正七九・八一九No. 2342 ❹祝定(—文化二A. D. 1805)撰

❺讀書二十二則を述ぶるに當り、先づ前來の密教學者その他の學者の學的態度を批判して、左の如く述べてある。

宗旨聖海及び諸師先德の文辭並に勸學弘教を論じて、讀書法を說けるものにして、先づ初に宗祖空海は華人の文辭に通曉し、顯密の深奧に洞達し、辨顯密二教論、秘藏寶鑰、秘密漫荼羅十住心論等の書を著はして、一家の教學を樹てゝ、密旗を揚げ、更に旋踵を啓發せんと欲して大日經疏第三(餘七・二八左)の「蓋綜衆藝者、謂姉衆世間種種伎藝也」の句に由り、內外の道藝を蒐綜して修學せしむる三教大學を創設し、之を綜藝種智院と題して道俗の教學に努むると雖も、空海の沒後此の學廢れ、門葉に其の志を繼ぎ、經學を興す者なく、遂に學風地に墜ち、更に後代の大德文術を究めず、唯卽身成佛の秘觀に耽り纔に僅調を以て法數の原理を傳授せしかば、大師の詩文、辭學は衰へ、獨り眞濟のみあつて、師風の後世に傳はらざるを憂へ、大師の詩文を編めて、性靈集を撰したるを述べ、後百三百年を經て仁和寺濟遠出でゝ、私記并に懸鏡抄(此の書今は世に傳はらず、古人の引く所に見ゆ)等を作つたけれども、文は則ち優諂、義は則ち鄙俗なるを歎き、時いで石山の觀賢あり、德摩其だ高く、著はす所の疏抄は、亦簡にして偉はらず。眞證、實範亦博識高德にして各抄義賛大疏を作るも自ら得る所を述して、其の得ざる所を略し、道範、覺護の二公興るに及び、乃ち研修の風大に振ふに至つたが、兩も護上人は秘義を撰し數百章を作るも文雅大師に及ばず、又顯瑜、宥快、聖憲、杲寶、印融の巨匠ありて、各廣く論章を作り、講習に息む時なく、著述に費んど虛日なしと言ふ程でも漢字に曉かならず、僅諂に賴りて爰りに漢文を講讀し、文字章句に法なく、解釋皆章段を辨へず、遂に論義百出し、役役汲汲として往復問答したるも、却て正理を失ひ、その後論學漸く衰へ、研學大いに亂るゝに至りしを慨き、書を讀む學則二十二則を列してある。識見頗る高く、學は僅に堂に入れるものゝ至言である。學者は一讀し三思するの價値あり。此の書はもと稅國隱筆、帳秘錄內典部、辨顯密二教論註釋の中の一節を抄出したものである。本書に作者の名は擧げて無いが、豐山に其の人ありと知られた戒定の作に成れることは、同師の作中に此の文が揭げてあることに依つて明かである。 (神林隆淨)

讀書餘論 ❶(日)Doku-sho-yo-ron. ❸存 ❹大山試著 ❺寫本(帝國、二三七・一六四)

讀助正釋 ❶(日)Doku-jo-shō-jaku. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第五〇 ❹僧鏡(—天保一一A. D. 1840)

❺僧鏡その師石泉僧叡師の助正釋問を讀みて、其の疑問を質したるものである。助正釋問は石泉師が文化元年四十三歲の時、歲鳥の佛護寺に於て、弘願助正の師得意の發揮を講じたる際、異辯として物議をかもしたるもの。而して石泉自らも自己の主張せる弘願助正の義を闡明せんとして後に特に命じてこれを草せしむるものなりといふ。 (內藤康道)

讀笑評破塵問對 ❶(日)Doku-shō-hyō-ha-jin-mon-tai. ❷一卷 ❸存 ❹佛德道人 ❺明治三一刊 ❻(谷大、宗洋・四五)(龍大、研眞)

讀佛祖正傳大戒訣並永平制度文 ❶(日)Doku-butsu-so-shō-den-dai-kai-ketsu-narabini-eihei-tei-do-mon. 讀大戒訣並永平制度文 ❷三卷 ❸存 ❹秀岳 ❺寶曆四刊 ❻(龍大、二六七五・二)(叡山、淨土)

讀雙經 ❶(日)Doku-so-kyō. 現代意譯讀雙經 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第四冊一阿含經抄 ❹赤沼智善譯

讀雙法邪正記 ❶(日)Doku-so-hō-ja-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹道玄記 ❺文永五寫 ❻(曼殊院)

床堅之事 ❶(日)Toko-gata-no-koto. ❸存、修驗聖典第四深祕修法集之內 ❹修驗道に於て自身卽佛の觀に住すべき床堅の祕法傳授の次第。 (眼部如實)

歲初松囃子式 ❶(日)Tosshi-no-hatsu-matsu-baya-shi-shiki. ❷一卷 ❸元祿一三(A. D. 1700) ❹(參考) 淨土眞宗教典志第二

栃社山誕生寺緣起 ❶(日)Tochi-ya-no-zan-tan-jō-ji-en-gi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇

❹本書は美作國久米郡稻岡村の栃社山誕生寺の緣起である。當寺は安元元年(A. D. 1175)卽ち法然が淨土開宗の年、故里稻岡の兩親の廟に參詣(法然の墓參に就ては異說あるも今はこれを論ぜず)の砌、草創されたものである事を述べ、降つて天正年間、宇喜田氏と日蓮宗徒の爲に堂宇を破壞され寺運一度び傾いたが當時の住持淨譽は藝州の以八、藝鳥の淨譽、初瀨院の誠譽等の協力に依り綸命を賜つて益く之が復興を成した事を記してゐる。撰者は詳でないがその年代に就いては本文中に「蓋從空聖開基專修至今五百餘」とあるから大體延寶頃のものと見て大過無からう。 (不破曾雄)

稱へて參るか、信じて參るか ❶(日)Tona-ete-mai-ru-ka, shin-ji-te-mai-ru-ka. ❷一卷 ❸存 ❹雲山龍珠著 ❺昭和五刊 ❻(龍大)(谷大、宗洋・八八二)

共に道を求めて ❶(日)Tomo-ni-michi-o-moto-me-te. ❷一冊 ❸存 ❹島地大等(明治八—昭和二A. D. 1875—1927)述 ❺大正一四刊 ❻(谷大)

豐葦原神風和氣 ❶(日)Toyo-ashi-hara-shin-pū-wa-ki. ❷三卷 ❸存 ❹慈遍撰 ❺寫本(金台院) 應永一三寫(寶龜院)

豐臣家御朱印 ❶(日)Toyo-tomi-ke-go-shu-in. ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

豐永卿葬事略記 ❶(日)Toyo-na-ga-kyō-sō-jō-ryaku-ki. ❸存、土佐國群書類從第一七二 ❹(帝國、特別・け・二六)

豐永大田豐樂寺御堂修造奉加帳 ❶(日)Toyo-naga-o-ta-hō-raku-ji mi-dō-shu-zō-hō-gya-chō. ❸存、土佐國群書類從第一五八 ❹(帝國、特別・け・二六)

豐長、重保、信康、豐晴消息 ❶(日)Toyo-naga, shige-yasu, nobu-yasu, toyo-haru-shō-soku. ❷各一通 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

豐長消息 ❶(日)Toyo-naga-shō-soku. ❷十一通 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

寅時印信 ❶(日)Tora-no-toki-no-in-jin. 乍二塔印信、後夜印信 ❸存 ❹敬覺(天喜四—保安二A. D. 1056—1121)口、良勝受

❺保安三年五月二十日寅の時、勸修寺殿覺が蓮光房良勝に授けし印信なり。

寅時念佛 ❶(日)Tora-no-toki-nem-butsu. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・六五)

取合神道護摩次第 ❶(日)Tori-ai-shin-tō-go-ma-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹德川初期寫 ❺(寶善提院)

取子之大事等 ❶(日)Tori-ko-no-dai-ji-tō. ❷一括 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶善提院)

鳥養善照寺御文 ❶(日)Tori-gai-zen-shō-ji-o-fumi. ❸存、蓮如上人全書拾遺之內

❹十帖御文校本及び拾遺御文に依て、摂州の善照寺に蓮師の御文(眞本)數通を藏せることを知る。その中、願行具足の御文は古來眞宗學上やかましい。 (安井廣度)

鳥の空音 ❶(日)Tori-no-ura-ne. ❷二卷 ❸存 ❹智月 ❺無門關の注釋。 ❻(參考) 禪籍目錄

鳥の啼音 ❶(日)Tori-no-naki-ne. ❷二卷 ❸存 ❹慈雲飲光(享保三—文化元A. D. 1718—1804) ❺無門關の著語なり ❻(參考) 禪籍目錄

鳥部野延仁寺考 ❶(日)Tori-be-no-en-jin-ji-kō. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤宗一 ❺寫本(龍大、一九六一・一二一)

烏逢野問答 ❶(日)Tori-be-no-mondō. ❷一卷 ❸存 ❹超然(寬政四—明治元A. D. 1792—1868)述 ❺自筆本(龍大、別置)寫本(龍大、一九六一・一二一七)

他眞陀羅王經 ❶(日)Ton-shin-dara-ō-kyō. (支)Tan-chēn-t'o-lo-wang-ching. 他眞陀羅所問如來三昧經、他眞陀羅經、他眞陀羅問經、他眞陀羅尼經、他眞陀羅所問實如來三昧經 ❷三卷 ❸存、大正一五・三四八No. 624、鎌宇九、卍九・八、北131化、南131化、元127化、明北157五、清157五、麗130場、天131化、指120場、法128場、至208四、明南115場、Nj. 161 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A. D. 147—186) ❻他眞陀羅所問如來三昧經の下を見よ。

他眞陀羅經 ❶(日)Ton-shin-dara-kyō. (支)Tan-chēn-t'o-lo-ching. 他眞陀羅所問如來三昧經、他眞陀羅經、他眞陀羅問經、他眞陀羅尼經、他眞陀羅所問實如來三昧經 ❷三卷 ❸存、大正一五・三四八No. 621、鎌宇九、卍九・八、北131化、南131化、元127化、明北157五、清157五、麗130場、天131化、指120場、法128場、至208四、明南115場、Nj. 161 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A. D. 147—186)

他眞陀羅所問如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-nyo-rai-sam-mai-kyō. (支)Tan-chēn-t'o-lo-so-

wên-ju-lai-san-mai-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。

❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-hō-nyo-rai-sam-mai-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-so-wên-pao-ju-lai-san-mei-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏王經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-ō-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-wang-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-mon-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-wên-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏定經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶女所問經 ❶(日)Ton-hon-hi-to-ron. ❷存。❸寶女所問。❹(參考)藏譯目錄。

寶藏雜經 ❶(日)Ton-jin-chi-chū. (支)T'an-ch'ên-ch'ih-chu. 曇無讖譯。❷1卷。❸存。❹寶藏雜經。❺(參考)開元釋教錄。

寶藏神通經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶藏陀羅尼經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏所問寶如來經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-hō-nyo-rai-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-so-wên-pao-ju-lai-ching. ❷1卷。❸存。❹寶藏。❺(參考)出三藏記集1、出經錄1。

佛說佛藏所問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-hō-nyo-rai-sam-mai-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-so-wên-pao-ju-lai-san-mei-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏王經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-ō-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-wang-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏定經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-mon-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-wên-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶女所問經 ❶(日)Ton-hon-hi-to-ron. ❷存。❸寶女所問。❹(參考)藏譯目錄。

寶藏雜經 ❶(日)Ton-jin-chi-chū. (支)T'an-ch'ên-ch'ih-chu. 曇無讖譯。❷1卷。❸存。❹寶藏雜經。❺(參考)開元釋教錄。

寶藏陀羅尼經 ❶(日)Ton-jin-chi-chū. (支)T'an-ch'ên-ch'ih-chu. 曇無讖譯。❷1卷。❸存。❹寶藏陀羅尼經。❺(參考)開元釋教錄。

寶藏神通經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶藏陀羅尼經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏所問寶如來經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-hō-nyo-rai-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-so-wên-pao-ju-lai-ching. ❷1卷。❸存。❹寶藏。❺(參考)出三藏記集1、出經錄1。

佛說佛藏所問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-sho-mon-hō-nyo-rai-sam-mai-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-so-wên-pao-ju-lai-san-mei-ching. 佛說佛藏經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-mon-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-wên-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

佛說佛藏問寶如來三昧經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-mon-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-wên-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶藏陀羅尼經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶藏神通經 ❶(日)Ton-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Tun-chên-t'o-lo-ni-ching. 佛說佛藏經問寶如來三昧經、佛說佛藏問菩薩、佛說佛藏王經、佛說佛藏定王經、佛說佛藏問菩薩所問寶如來三昧經。❷三卷。❸存。大正一五・三四八No. 624、錄字九、卍元・八、帝131北、南131北、宇127北、鼎帝157天、荒157天、藏130帝、天131北、鼎120帝、荒128帝、秦208西、鼎南115帝、Nj. 161。❹支那撰述。❺佛教經典史一中卷三頁(A. D. 147—186)。❻佛說佛藏經問寶如來三昧經の子を以て。

寶女所問經 ❶(日)Ton-hon-hi-to-ron. ❷存。❸寶女所問。❹(參考)藏譯目錄。

寶藏雜經 ❶(日)Ton-jin-chi-chū. (支)T'an-ch'ên-ch'ih-chu. 曇無讖譯。❷1卷。❸存。❹寶藏雜經。❺(參考)開元釋教錄。

kwa-on-tadashi. 和名類聚抄所載の漢和字書。 ❷1卷 ❸存 ❹弘仁四（A. D. 1847）十一月 ❺日本紀略（寛文・延宝・四元禄三「四元禄元」）同治四〇頁（寛文・延宝・一〇二頁十）

唐度貞往教書 ❶（日）Tō-jō-sei-ō-kyō-yu-sho. 唐僧鑑真伝来書 ❷不明 ❸存 ❹唐開元二十一年（A. D. 1796—1858） ❺東来聞見の記事なり。 ❻日本紀略（寛文・延宝・一二四元禄一）

唐度調理記書氏事上 ❶（日）Tō-jō-chō-ri-yū-ken-shi-sho-jō. ❷1卷 ❸存 ❹日本紀略（寛文）

唐度天医新話教誡 ❶（日）Tō-jō-tem-pō-tai-wa-kyō-kai. 唐僧鑑真天保新話教誡 ❷1卷 ❸存 ❹天保一一（A. D. 1841）六月 ❺同治四〇頁 ❻（寛文・延宝・一〇二頁）（寛文・延宝・四元禄六七）

唐度二聖供養十師像天事示録 鎌 ❶（日）Tō-jō-ni-shō-jin-shin-jik-ka-jō-fu-shin-ji-gyō-roku. ❷二卷 ❸存 ❹日本紀略（寛文・延宝・一二四元二）

唐度若狭寺縁 ❶（日）Tō-jō-bo-dai-yō. ❷1卷 ❸存"大日本史"敬公寺縁記二人"天平小松寺縁"等に次ぐ ❹四条（延仁五一貞享元二）（A. D. 814—891）

❺日本紀は正倉院の四年度"、「令制度の計要なり」と称するもの。拓殖施設の方策行は国司の任務である。国司は中国四句時に示さるれてある。国司は要求するに因縁を聞いて「令に準拠」の用語を使れば日本政治の規律の「令令」の語を用ふるは日本紀の「令」の規律の「令令」の語を用ふるは日本紀の「令」の規律の「令令」の語を用ふるは日本紀の「令」

月曇學の比丘克新の撰に成る行業記、同九年四月(A. D. 1349)翰林學士歐陽玄の撰に成る塔銘を附して上梓したものである。

曇芳は雲居の玉山德珍に從つて十二歳に髮剃し、佛光・鐵山瓊・蒙山異・東晨日・海印如・遠峰宏等に歴參し、玉山の嗣として文宗皇帝の歸依を受けて賜號外護を受け、建康杭州の五大寺に住して宗風を昂揚し、元至正八年十月二十八日(A. D. 1348)壽九十四を以て示寂したもので、本書には其の五大寺に於ける曇芳の語要を輯錄したものである。

上下二卷。上卷に建康路崇因禪寺語錄、建康路報山太平興國禪寺語錄、集慶路報山大龍祥萬壽寺語錄、杭州路孤山興聖壽萬禪寺語錄。下卷に大龍翔集慶寺語錄、並に偈頌、佛祖贊、自讃を收め、題跋、行業記、塔銘を附錄として收めたものである。

(大久保堅璟)

曇昧摩提菩薩說經 ❶(B)Dom-mai-ma-dai-bo-satsu-setsu-kyō. (支)Tan-mei-mo-ti-p'u-sa-shuo-ching. ❷1卷 ❸失譯 ❹華嚴經香薩十住行道品の抄出。 ❷(參考) 法經錄第二、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

曇無德戒本 ❶(B)Dom-mu-toku-kai-hon. (支)Tan-wu-te-chie-p'en. 四分律比丘戒本、四分戒本、四分比丘戒本 ❷1卷 ❸存、大正二二・一〇四一 No. 1429、卍一九・八、北920受、南922受、元919受、明北1149外、清1149外、麗916外、天912受、指469外、法937目、至1221目、明南1257目、N. 1154 ❹佛陀耶舍譯 ❺後秦弘始一〇—一五(A. D. 405—413) ❻四分律比丘戒本の下を見よ。

曇無德戒本 ❶(B)Dom-mu-toku-kai-hon. (支)Tan-wu-te-chieh-pen. 四分僧戒本、四分律僧戒本、四分僧戒本、四分律戒本、四分戒本、無德戒本 ❷1卷 ❸存、大正二二・一〇二三 No. 1430、縮列七、卍一九・八、北922受、南924受、元920受、明北1149外、清1149外、麗911外、天911受、指468外、法893目、至1225節、明南1257目至姑、N. 1155 三聚戒本之內 ❹佛陀耶舍譯 ❺後秦弘始一〇—一五(A. D. 405—413) ❻四分僧戒本の下を見よ。

曇無德羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-kom-ma. (支)Tan-wu-te-chieh-mo. 羯磨 ❷1卷或二卷 ❸存、大正二二・一〇五一 No. 1433、縮列七、卍一九・七、北911訓、南936訓、元934訓、明北1141縮、清1141縮、麗922傳、天926訓、指978傳、法938受、至1233歳、明南1279紙、N. 1146 ❹曇諦譯 ❺曹魏正元元(A. D. 254) ❻羯磨の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

曇無德羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-kom-ma. (支)Tan-wu-te-chieh-mo. 四分比丘尼羯磨法、四分羯磨、四分尼羯磨、雜羯磨、四分比丘尼羯磨 ❷1卷 ❸存、大正二二・一〇六五 No. 1434、縮列七、卍一九・四、北912訓、南939訓、元935訓、明北1124錄卑、清1124錄卑、麗926傳、天927訓、指976傳、法912訓、至1239歳、明南1286紙、N. 1129 ❹求那跋摩譯 ❺劉宋元嘉八(A. D. 431) ❻四分比丘尼羯磨法の下を見よ。

曇無德隨機羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-zui-ki-kom-ma. (支)Tan-wu-te-sui-chi-chieh-mo. 四分律刪補隨機羯磨、四分律羯磨、曇無德部四分刪補隨機羯磨 ❷1卷或二卷 ❸存、大正四〇・四九二 No. 1808、縮列七、卍一八・七、北913入、南940入、元935入、明北1115存、清1115存、麗929訓、天923入、指885訓、法914訓、至1240退、明南1281紙、N. 1120 ❹道宣(開皇一六—乾封二)A. D. 596—667)述 ❺唐貞觀九(A. D. 635) ❻四分律刪補隨機羯磨の下を見よ。

曇無德雜羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-zo-kom-ma. (支)Tan-wu-te-tsa-chieh-mo. 曇無德律部雜羯磨、四分雜羯磨 ❷1卷 ❸存、大正二二・一〇四一 No. 1432、縮列七、卍一九・八、北910訓、南937訓、元933訓、明北1157受、清1157受、麗925傳、天925訓、指880傳、法909受、至1237歳、明南1278紙、N. 1163 ❹康僧鎧譯 ❺曹魏嘉平四(A. D. 252) ❻曇無德律部雜羯磨の下を見よ。

曇無德部雜羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-bu-zo-kom-ma. (支)Tan-wu-te-pu-tsa-chieh-mo. 曇無德律部雜羯磨、曇無德雜羯磨、四分雜羯磨、四分雜羯磨 ❷1卷或二卷 ❸存、大正二二・一〇四一 No. 1432、縮列七、卍一九・八、北910訓、南937訓、元933訓、明北1157受、清1157受、麗925傳、天925訓、指880傳、法909受、至1237歳、明南1278紙、N. 1163 ❹康僧鎧譯 ❺曹魏嘉平四(A. D. 252) ❻曇無德律部雜羯磨の下を見よ。

曇無德部四分律刪補隨機羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-bu-shi-bun-risu-san-po-sui-ki-kom-ma. (支)Tan-wu-te-pu-sse-fen-lü-shan-pu-sui-chi-chieh-mo. 四分律刪補隨機羯磨、四分刪補隨機羯磨、四分律羯磨、曇無德隨機羯磨 ❷1卷或二卷 ❸存、大正四〇・四九二 No. 1808、縮列七、卍一八・七、北913入、南940入、元935入、明北1115存、清1115存、麗929訓、天923入、指885訓、法914訓、至1240退、明南1281紙、N. 1120 ❹道宣(開皇一六—乾封二)A. D. 596—667)撰 ❺唐貞觀九(A. D. 635) ❻四分律刪補隨機羯磨の下を見よ。

曇無德部雜羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-bu-zo-kom-ma. (支)Tan-wu-te-pu-tsa-chieh-mo. 曇無德律部雜羯磨、曇無德雜羯磨、四分雜羯磨、四分雜羯磨 ❷1卷或二卷 ❸存、大正二二・一〇四一 No. 1432、縮列七、卍一九・八、北910訓、南937訓、元933訓、明北1157受、清1157受、麗925傳、天925訓、指880傳、法909受、至1237歳、明南1278紙、N. 1163 ❹康僧鎧譯 ❺曹魏嘉平四(A. D. 252) ❻曇無德律部雜羯磨の下を見よ。

曇無德律 ❶(B)Dom-mu-toku-ritsu. (支)Tan-wu-te-lü. 四分律、四分律藏 ❷六十卷 ❸存、大正二二・五六七 No. 1428、縮列三—六、卍一七・八—一八・一、北900下至臨、南914下至臨、元910下至臨、明北1112業至無、清1112業至無、麗903和至臨、天902下至臨、指860和至臨、法858和至臨、至1214慈至佛、明南1256訓至結、N. 1117

❶佛陀耶舍、竺佛念等譯 ❺姚秦弘始一〇(A. D. 408) ❻四分律の下を見よ。

曇無德律部雜羯磨 ❶(B)Dom-mu-toku-ritsu-bu-zo-kom-ma. (支)Tan-wu-te-lü-pu-tsa-chieh-mo. 曇無德雜羯磨、四分雜羯磨、曇無德部雜羯磨、四分羯磨 ❷1卷 ❸存、大正二二・一〇四一 No. 1432、縮列七、卍一九・八、北910訓、南937訓、元933訓、明北1157受、清1157受、麗925傳、天925訓、指880傳、法909受、至1237歳、明南1278紙、N. 1163 ❹曹魏嘉平四(A. D. 252) ❺曹魏嘉平四(A. D. 252)洛陽白馬寺に於て郁伽長者所問經一卷・無量壽經二卷及び四分雜羯磨一卷を譯せりとし、高僧傳中(卷二・二在)に四部經を譯すといひて具に名を顯はさず、竺道祖の魏晉錄・僧祐の出三藏記以下の諸經錄にも皆二部を云ひて餘の二は名を出さず、今一部を得たれば餘は一經を缺くのみと記しておる。今一部を得たりと記しておるのは今の四分雜羯磨である。然るに康僧鎧より三年後(魏の正元二A. D. 255)に洛陽白馬寺に至れる曇無諦仰ち曇諦が又、曇無德羯磨一卷を譯せりとし、開元錄(結四・九在)には「竺道祖の魏錄に見えたり」とし、高僧傳にも「曇無德羯磨を出せり」とせり。而して康僧鎧より二年前、嘉平二年には中印度の人曇柯迦羅(法時)はやはり洛陽白馬寺に於て僧祇戒心(戒本なり)を出して朝夕の讀誦に備へ、梵僧を集めて羯磨受戒を行へり、これ東夏戒律の始めなりと傳へられてをるが、かくて支那佛律に於ては法時の僧祇戒心と曇諦の曇無德羯磨とを以てその最初とせして重要視され來れるも、康僧鎧の四分雜羯磨についてはあまり云爲されてゐないのである。其內容は曇諦本と大差なき故に本解說大辭典第三卷(P. 543)羯磨の下に讀りて今は略す。然し鎧本と諦本とを比較し、更に此等を四分律本文と比較する時、果して此等羯磨本なるものは四分律譯出以前に譯出されてをつたと云へるか否や、三世紀中葉に譯出されたる羯磨本が五世紀初(A. D. 412)に譯出されたる四分律と譯文譯語に於て全く相同じきものあるは首肯し得られざる所である。A. D. 382に竺佛念により譯出されたる鼻奈耶廣律の如きすら、十誦律又は四分律の譯文と比較する時にその甚だ古譯なるの面影を觀取し得る。矢吹博士將來の建初元年寫(A. D. 366)の戒本も著しく古譯なる面影を現出してをる。然るに此等の古譯よりも更に一百三十年を隔れる時代の譯出にして尙ほ且つ一百六十年後に譯出されたる四分律とは且つ同樣の感じを受くるのみならず、その譯文が全體的に相同じきものゝ存するのは極めて不可解とする所である。且つ諦本にせよ鎧本にせよ從來よりの傳說に從ふとせば四分律梵本中の羯磨文を抄出せるものと解すべきであらうが、その羯磨の一々に(註)を施してをる。その(註)なるものも皆四分律梵本中に存する羯磨文の前後にあるものを取り來りて註せるものとせなければならぬが、その註の譯文までが四分律の譯文と大略相同じであつて、多少挿入の仕方に前後せる所あること、其略の差があるとに過ぎないのは甚だ怪しむべきである。そが精細なる比較は他の機會に讓り、今は唯、曇諦本を以て支那傳律上最初にして且つ重要なる羯磨文なりとする從來の傳承に對し、再思三考せらるべきものなることを提言するに止めておく。從つて康僧鎧本も果して康僧鎧の譯せるものなるか否やの疑問も解けうる事と考へられる。

(西本龍山)

曇鸞大師傳 ❶(B)Don-ran-dai-shi-den. ❷1卷 ❸存、佛教各宗高僧實傳(帝國文庫第四四)

曇鸞大師傳 ❶(B)Don-ran-dai-shi-den. ❷1卷 ❸存、教界偉人叢書第六 ❹酒井惠璋 ❺大正一一刊 ❻龍大、二九六四・二一)

十

名古屋禅学田総書　❶(日)Na-go-ya-kō-zen-ji-yui-sho-gaki.　❷1卷

❹存　❺資料(書入)(写本)

名護波羅提　❶(日) Na-goe-ha-nō-so.　❹存(書誌上)(写本)　❺1冊

❻天竺僧仏子法師名護波羅提(又は法護法師)(又は法護)の撰

1巻と称する論題(又は法護法師・護法)の意味を問記し、次でその説の出典(経典・論書・聖者の小伝)を問記し、次でその説の因縁(問答・問答)を問記したものの。

(福田堪聞)

名僧教行手帖文事　❶(日)Na-shi-o-kyō-gyō-ji-go-bun-shō.　❷四卷　❹存　❺慶長(書写1)1—明治人 A. D. 1415—1499)　❻写本(書入)(写本)

名集亭　❶(日)Na-nashi-gusa.　❷1卷　❹存　❺寛永四刊　❻(写本)1冊(天・天・天・天)

那山集　❶(日)Na-zan-shū.　❷1卷　❹存　❺(参考)　雲樵日録

那須禅道寺縁記　❶(日)Na-su-un-gan-ji-kyō-ki.　❷(参考)禅道寺縁記　❷1卷　❹存　❺那須禅道寺縁1)1

❻本書は仏教説話集(説話)の一種であるが、なかでも那須(栃木県)の禅道寺の縁起を説いたもの。(1)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(2)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(3)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(4)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(5)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(6)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(7)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(8)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(9)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(10)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(11)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(12)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(13)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(14)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(15)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(16)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(17)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(18)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(19)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(20)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(21)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(22)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(23)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(24)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(25)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(26)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(27)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(28)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(29)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(30)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(31)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(32)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(33)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(34)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(35)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(36)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(37)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(38)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(39)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(40)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(41)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(42)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(43)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(44)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(45)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(46)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(47)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(48)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(49)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(50)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(51)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(52)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(53)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(54)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(55)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(56)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(57)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(58)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(59)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(60)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(61)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(62)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(63)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(64)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(65)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(66)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(67)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(68)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(69)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(70)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(71)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(72)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(73)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(74)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(75)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(76)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(77)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(78)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(79)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(80)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(81)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(82)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(83)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(84)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(85)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(86)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(87)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(88)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(89)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(90)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(91)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(92)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(93)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(94)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(95)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(96)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(97)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(98)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(99)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(100)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(101)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(102)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(103)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(104)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(105)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(106)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(107)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(108)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(109)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(110)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(111)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(112)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(113)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(114)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(115)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(116)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(117)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(118)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(119)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(120)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(121)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(122)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(123)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(124)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(125)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(126)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(127)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(128)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(129)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(130)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(131)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(132)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(133)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(134)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(135)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(136)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(137)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(138)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(139)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(140)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(141)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(142)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(143)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(144)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(145)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(146)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(147)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(148)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(149)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(150)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(151)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(152)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(153)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(154)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(155)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(156)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(157)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(158)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(159)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(160)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(161)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(162)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(163)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(164)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(165)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(166)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(167)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(168)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(169)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(170)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(171)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(172)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(173)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(174)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(175)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(176)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(177)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(178)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(179)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(180)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(181)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(182)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(183)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(184)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(185)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(186)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(187)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(188)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(189)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(190)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(191)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(192)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(193)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(194)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(195)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(196)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(197)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(198)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(199)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(200)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(201)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(202)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(203)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(204)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(205)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(206)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(207)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(208)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(209)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(210)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(211)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(212)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(213)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(214)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(215)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(216)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(217)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(218)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(219)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(220)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(221)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(222)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(223)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(224)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(225)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(226)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(227)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(228)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(229)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(230)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(231)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(232)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(233)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(234)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(235)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(236)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(237)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(238)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(239)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(240)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(241)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(242)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(243)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(244)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(245)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(246)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(247)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(248)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(249)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(250)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(251)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(252)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(253)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(254)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(255)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(256)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(257)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(258)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(259)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(260)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(261)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(262)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(263)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(264)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(265)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(266)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(267)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(268)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(269)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(270)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(271)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(272)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(273)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(274)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(275)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(276)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(277)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(278)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(279)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(280)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(281)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(282)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(283)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(284)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(285)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(286)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(287)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(288)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(289)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(290)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(291)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(292)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(293)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(294)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(295)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(296)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(297)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(298)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(299)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(300)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(301)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(302)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(303)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(304)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(305)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(306)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(307)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(308)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(309)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(310)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(311)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(312)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(313)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(314)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(315)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(316)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(317)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(318)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(319)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(320)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(321)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(322)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(323)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(324)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(325)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(326)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(327)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(328)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(329)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(330)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(331)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(332)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(333)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(334)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(335)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(336)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(337)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(338)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(339)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(340)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(341)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(342)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(343)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(344)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(345)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(346)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(347)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(348)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(349)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(350)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(351)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(352)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(353)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(354)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(355)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(356)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(357)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(358)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(359)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(360)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(361)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(362)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(363)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(364)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(365)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(366)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(367)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(368)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(369)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(370)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(371)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(372)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(373)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(374)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(375)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(376)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(377)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(378)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(379)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(380)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(381)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(382)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(383)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(384)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(385)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(386)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(387)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(388)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(389)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(390)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(391)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(392)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(393)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(394)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(395)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(396)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(397)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(398)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(399)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(400)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(401)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(402)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(403)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(404)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(405)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(406)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(407)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(408)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(409)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(410)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(411)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(412)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(413)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(414)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(415)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(416)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(417)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(418)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(419)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(420)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(421)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(422)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(423)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(424)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(425)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(426)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(427)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(428)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(429)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(430)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(431)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(432)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(433)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(434)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(435)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(436)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(437)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(438)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(439)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(440)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(441)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(442)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(443)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(444)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(445)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(446)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(447)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(448)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(449)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(450)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(451)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(452)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(453)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(454)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(455)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(456)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(457)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(458)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(459)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(460)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(461)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(462)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(463)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(464)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(465)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(466)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(467)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(468)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(469)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(470)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(471)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(472)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(473)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(474)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(475)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(476)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(477)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(478)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(479)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(480)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(481)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(482)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(483)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(484)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(485)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(486)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(487)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(488)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(489)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(490)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(491)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(492)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(493)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(494)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(495)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(496)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(497)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(498)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(499)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(500)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(501)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(502)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(503)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(504)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(505)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(506)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(507)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(508)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(509)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(510)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(511)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(512)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(513)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(514)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(515)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(516)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(517)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(518)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(519)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(520)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(521)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(522)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(523)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(524)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(525)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(526)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(527)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(528)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(529)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(530)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(531)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(532)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(533)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(534)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(535)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(536)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(537)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(538)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(539)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(540)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(541)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(542)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(543)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(544)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(545)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(546)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(547)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(548)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(549)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(550)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(551)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(552)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(553)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(554)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(555)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(556)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(557)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(558)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(559)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(560)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(561)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(562)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(563)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(564)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(565)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(566)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(567)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(568)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(569)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(570)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(571)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(572)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(573)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(574)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(575)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(576)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(577)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(578)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(579)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(580)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(581)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(582)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(583)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(584)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(585)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(586)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(587)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(588)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(589)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(590)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(591)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(592)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(593)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(594)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(595)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(596)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(597)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(598)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(599)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(600)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(601)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(602)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(603)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(604)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(605)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(606)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(607)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(608)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(609)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(610)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(611)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(612)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(613)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(614)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(615)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(616)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(617)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(618)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(619)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(620)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(621)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(622)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(623)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(624)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(625)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(626)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(627)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(628)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(629)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(630)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(631)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(632)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(633)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(634)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(635)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(636)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(637)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(638)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(639)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(640)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(641)「長者の娘が蛇に変じて夫を殺す」(642)「長者の

川No. 1281 ❹事項索引 ❺法華義疏二一巻 ❻(A. D. 693—706) ❼聖徳太子御伝叢書二 (A. D. 693—706)

那羅延力経 ❶(日) Na-ra-en-rik-kyō. (支)Na-lo-yen-li-ching. ❷大正一四・八五No. 547″ 鎌字三″ 卍続一・一・四″ 国1408頁 ❸聖天″ 利言共訳 ❹大唐貞元元一貞元四年 (A. D. 785—810) ❺大唐貞元釈教録四 ❻那羅延力経の下を見よ。

那頼経 ❶(日)Na-rai-kyō. (支) Na-lai-ching. ❷1巻 ❸失訳 ❹生経第1巻の抄出。❺(参考) 田三郎記巻四″ 法経録四″ 仁治録巻三″ 静泰録巻三″ 祐四″ 開元録巻1六″ 貞元録巻11六

那頼経 ❶(日)Na-rai-kyō. (支)Na-lai-ching. ❸存″ 先訳第1(大正三・七〇 No. 1541)

奈女耆婆経 ❶(日)Na-nyo-gi-iki-kyō. (支)Nai-nü-ch'i-yü-ching. ❷1巻 ❸欠 ❹西晋白法護(一巻抄11一建興元A. D. 265—313一)訳 ❺法11訳。❻(参考) 開元録巻1五″ 貞元録巻11四

奈良を中心として石造物の研究 ❶(日) Na-ra-o-chū-shin-to-shi-te-seki-butsu-an-gya. ❷1巻 ❸存 ❹古瀬奎鎧著 ❺大正一一刊 ❻(龍大″11〇六一・一一)

奈良元興寺古図 ❶(日) Na-ra-gwan-gō-ji-ko-zu. ❷1幅 ❸存 ❹宮本(奈良″四一六・一四)

奈良時代寺院寺院建築 ❶(m)Na-ra-ken-take-chi-gun-ji-in-shi. ❷1巻 ❸存 ❹高市郡役所編 ❺大正一三刊 ❻(龍大″林史)

奈良朝現在一切経疏目録 ❶(日) Na-ra-chō-gen-zai-is-sai-kyō-sho-moku-roku. ❷1巻 ❸存″ 宮崎圓遵より見たる奈良朝時代の仏教の研究所収 ❹石田茂作著 ❺昭和五刊 ❻東京美術文庫

奈良朝時代に於ける寺院建築の研究 ❶(日)Na-ra-chō-ji-dai-ni-o-ke-ru-ji-in-kei-zai-no-ken-kyū. ❷1巻 ❸存 ❹竹内理三著 ❺昭和七刊 ❻東京大岡山書院

南無阿弥陀仏 ❶(日)Na-mu-a-mi-da-butsu. ❷1巻 ❸存 ❹善導著述本(龍大″林史)

南無阿弥陀仏 ❶(日)Na-mu-a-mi-da-butsu. ❷1巻 ❸存 ❹菊中文雄 ❺民国1五刊 ❻(龍大)

南無阿弥陀仏 ❶(日)Na-mu-a-mi-da-butsu. ❷1巻 ❸存 ❹啓蒙記 ❻宮本(奈良″記)

南無阿弥陀仏 ❶(日)Na-mu-a-mi-da-butsu. 折紙改装冊子 ❷1巻 ❸存 ❹藤谷高山著 ❺明治四三刊 ❻(谷大″奈作・11三八)

南無観音 ❶(日)Na-mu-kwann-on. ❷1巻 ❸存 ❹井上角五郎著 ❺大正一五刊 ❻(谷大″1・三六六・1)

南無観世音菩薩 ❶(日) Na-mu-kwan-ze-om-bo-satsu. ❷1巻 ❸存 ❹石田大百著 ❺大正一〇刊 ❻東京宝文館

南無官経集 ❶(日)Na-mu-gon-ji-shū. 南無之舞″ 南無官経舞″ 七十一種 ❷1巻 ❸存″ 結宗法要名法要鈔巻五″ 結宗結外新鈔巻五″ 結宗鈔巻上 ❹舞″ 聖覚 (承安三一弘安元11 A. D. 1173—1262)撰 ❻(参考) 開元録巻1四″ 貞元録巻1五″ 結宗鈔巻上 ❼南無官経集の抄出。

南無分 ❶(日)Na-mu-shō. ❷存 ❸宮本(龍大″林史)

南無大師 ❶(日)Na-mu-dai-shi. ❷1巻 ❸存 ❹住伯法雲 ❺明治四二刊 ❻(龍大″11九六五・六七)(文学)(正大″1四1・七〇)(龍大″1・五五)

南無日蓮大菩薩人 ❶(日) Na-mu-nichi-ren-dai-shō-nin. ❷1巻 ❸存 ❹土屋日桂著 ❺大正一五刊 ❻(文大″B〇六・八七)

南無之舞 ❶(日)Na-mu-no-shaku. 南無官経舞″ 七十一種 南無舞″ 南無舞一種″ 南無官経舞 ❷1巻 ❸存″ 結宗法要名法要鈔巻五″ 結宗鈔外新鈔巻五″ 結宗鈔巻上 ❹不詳(参考)舞は聖覚 ❻法要鈔巻上の「名号を「南無官経舞」と称し」「南無舞」と称し」「南無舞一種」と称し」「南無官経舞」と称し」「南無舞」と称し」「南無舞」と称し」「南無

奈良手帖記 ❶(日)Na-ra-ji-tō-ki. ❷1巻 ❸存 ❹内藤湖南 ❺昭和11刊 ❻(冷大)

奈良朝時代に於ける一切經目錄 ❶(日)Na-ra-chō-ji-dai-ni-o-ke-ru-is-sai-kyō-moku-roku. ❷1巻 ❸存 ❹宮本尊(慶大"11〇1 1•11大)

内閣書籍館 ❶(日)Nai-in-an-ji-se-ki. ❷1巻 ❸存 ❹(参考) 明治年間設置 書籍行政関係者日

内學 ❶(日) Nai-gaku. (支) Nei-hsüeh. ❷1冊 ❸存 ❹支那内外学問 ❺民国1三刊 ❻(冷大"1•11〇)

内學大觀 ❶(日) Nai-gaku-roku-dai. ❷1巻 ❸存 ❹新本(支化天—明治11大A. D. 1808—1893) ❻宮本(慶大)

内閣切支尊師支太祖舊支尊教授減切文本尊師支太祖舊支尊教授 ❶(日)Nai-kyō-hon-zon-za-ryū-sai-bei-kon-ryū-shitsu-ji-jū-ju-ki i-bumi. ❷1帖 ❸存 ❺慶長時代写 ❻(家康記)

内典藏語梵語漢文合璧對照目錄 ❶(日)Nai-gu-bu-dan-en-hō-shi-tan-sai-kaku-narabini-mon. (支) Nei-kung-fêng-t'an-yen-fa-shih-t'an-ch'i-ko & wên. ❷1巻 ❸存 ❹(参考) 日本国宝和漢対照梵文目録 法日尊 梵語大辞典梵語梵語梵語 人名辞典梵語梵語 故日尊

内外境觀合璧 ❶(日)Nai-ge-kyō-kwan-shū-i. ❷元巻 ❸存 ❹慶安(一元禄頃A. D. 1688—1703—) ❻宝暦元刊(慶大"11大元元元•四大)(冷大"4 1 11•四三〇)(宝暦元刊(慶大"1三大•四四)(支大"A 1 11•四三〇)(宝暦元刊(慶大"11大元元元•四元)(支大"A 1 11•四三元)

内外境觀合璧指掌通塞 ❶(日) Nai-ge-kyō-kwan-shū-i-shi-ge-hem-pe-ki. 内外境観合璧指掌通塞 ❷元巻 ❸存 ❹ 慶安元年(一元文頃 A. D. 1652—1739) ❺慶安元年"内外境観合璧に同書したもの" ❻宝暦元刊 ❻(冷大"慶大•三元四)

内外境觀二百雜 ❶(日) Nai-ge-kyō-kwan-ni-hyaku-nan. ❷1巻 ❸存 ❹性重(一元禄頃A. D. 1688—1703—) ❺内外境観二百雑を浄書したもの" ❻宝暦11刊(慶大"11大元元元•四大)(支大"A 1 11•四三七)宝暦元刊(冷大"慶大•元元三八)(支大"A 1 11•四三七)宝暦元刊(慶大"11大元元元•四八)

内外境觀二百雜二千語 ❶(日) Nai-ge-kyō-kwan-ni-hyaku-nan-ni-sen-shū. ❷1巻 ❸存 ❹慶安元年(一元禄頃A. D. 1652—1739)慶 ❺内外境観二百雑二千語を浄書したもの" ❻宝暦元刊 ❻(冷大"慶大•元三四)(宝大"1三元•四〇)

内外十二論題 ❶(日) Nai-ge-jū-ni-ron-dai. ❷1巻 ❸存 ❹宮本(慶大)

内外神傳錄 ❶(日)Nai-ge-sō-den-roku. 1 慶安元年内外神傳録 ❷1巻 ❸存 ❺天正七写 ❻(冷大"冷大•11九11七)

内外天文考 ❶(日)Nai-ge-tem-mon-ben. ❷1巻 ❸存 ❹国書刊行 ❺宮本(冷大"慶大•11八八)

内外二教考 ❶(日)Nai-ge-ni-kyō-ben. ❷1巻 ❸存" 内外11 慶安頃 新撰 巻1 全国書 ❺慶安元年(一元文頃 A. D. 1652—1739) ❻宮本11刊 ❻(冷大"慶大•元四〇)

内外實物錄起事 ❶(日) Nai-ge-mam-motsu-en-gi-shō. 内外実物録起事 ❷1巻〔巻中〕 ❸存" 日本天文暦算三国宗教学 1 ❺天学は内外両方の実物学問を記載したるものにして三巻あり中巻のみ存" 内分は天地論" 日月論より中巻の内容は" 天文論に於ては" 天地の区" 天地の数" 三千大千世界論" 須弥山" 天の数" 天の説" 天の運行" 天の形" 天の高さ" 天の説" 天の形" 天の形" 日月に関して論ず" 日月の数" 日月の運行" 日月の所説" 日月の光" 日月の数" 日月の運行" 日月の光" 日月の数" 日月の運行" 日月の光" 日月の数" 日月の運行

相承に出て、次に心を知るべし。何ん大師の心口相承の事、相承中の大小足経等と云ひ、神宗天台の内証に出の多し。

密宗上り顕教に至る迄、悉く法相宗の内証に出の多し。

この三教の相承は、天台法華の相承を含む。

この三教の相承に至る迄、法華の相承を含む。

合して、一切諸教相承と法華相承とを、諸宗の相承と云ふべし。

諸宗の相承に、教相と行とあり。教相は、教相承と行相承とあり。教相承は、教相と教相承とあり。教相は、教相と教相承とあり。教相は、教相と教相承とあり。教相

代宣 ❹〔書名記〕

内題雪口品唐宋大集 ❶(日)Nai-dō-jō-ku-ketsu-den-ju-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹宣本〔正大〕一五五11・1九1〕

内題雪巻法華経記 ❶(日)Nai-dō-jō-shu-hō-zak-ki. ❷1帖 ❸存 ❹寫本1九宣 ❹〔書写記〕

内題雪泥抄 ❶(日) Nai-dō-jō-hi-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹〔書写記〕 ❹正本〔書写寺〕

内題天竺字 ❶(日) Nai-dō-ten-ji-nen. ❹〔参考〕 陸士奇撰『説郛』所収『日聚』

内二位殿聞書鈴鹿宮名之袋 ❶(日) Nai-ni-shū-mon-dan-na-shō-gō-no-bi-kae. ❷1帖 ❸存 ❹鈴川宮代宣 ❹〔書名記〕

内理聞書泥抄 ❶(日) Nai-ri-shu-kyō-hi-kwa. ❷1帖 ❸存 ❹鈴川宮代宣 ❹〔書名記〕

内大臣聞書聞記 ❶(日)Nai-rop-para-mitsu-kyō. (支)Nei-liu-po-lo-mi-ching. ❷1卷 ❹〔参考〕 出三蔵記集11・伝唐書巻三・開元釈教録三

内大臣聞書聞記 ❶(日)Nai-rop-para-mitsu-kyō. (支)Nei-liu-po-lo-mi-ching. 唐僧内供大臣聞書聞記・内供大臣聞書聞記 ❷1卷 ❸存・大正1・七・七1四No. 778・編覆元・卍111・1・11・ 寺504行・市518行・宋512行・明寺431葉・元431葉・麗547葉・天513行・和471葉・法501葉・明市511葉・Nj. 435 ❹開元三年 ❹唐僧内供中手天(A.D. 188) ❹唐僧内供大臣聞書聞記の下を見よ。

乃至十念義 ❶(日)Nai-shi-jū-neu-gi. ❷1巻 ❸存 ❹和漢(享保八一天明三 A. D. 1723—1783) ❹宣本〔正大〕一七五・四〇〕

乃至十念講 ❶(日) Nai-shi-jū-nem-ben-shaku. ❹存・天語六出大宮聞書 ❹宣本〔寛政九一文政七 A. D. 1759—1824〕 ❹宣本〔正大〕一五〇11・11〕

泥洹経 ❶(日)Nai-on-gyō. (支)Ni-yüan-ching. ❷11十巻 ❹宣 ❹〔参考〕 出三蔵記集11

泥洹経 ❶(日)Nai-on-gyō. (支)Ni-yüan-ching. 摩訶般泥洹経 ❷11巻 ❹存・大正1・1六〇No. 5・編反1〇・卍1四・1・寺656葉・市670葉・宋652葉・明寺548葉・法548葉・麗660葉・天656葉・和619葉・元644葉・宋893葉・明市540葉・Nj. 552 ❹白法祖撰 ❹西晋永嘉年代(A. D. 290—306) ❹摩訶般泥洹経の下を見よ。

泥洹経 ❶(日)Nai-on-gyō. (支)Ni-yüan-ching. 摩訶般泥洹経・方等般泥洹経 ❷11巻 ❹存・大正1・1七六No. 6・編反1〇・卍人・1〇・寺657葉・市671葉・宋663葉・明寺115葉・法115葉・麗661葉・天657葉・和621葉・元645葉・宋894葉・明市541葉・Nj. 119 ❹宋書 ❹摩訶般泥洹経の下を見よ。

泥洹経 ❶(日)Nai-on-gyō. (支)Ni-yüan-ching. 大般涅槃経・方等大般涅槃経 ❷六巻 ❹存・大正1・11・八五三No. 376・編覆元・卍人・1〇・寺108葉・市109葉・宋105葉・明寺116葉・法116葉・麗107葉・天108葉・和98葉・元106葉・宋186葉・明市107葉・Nj. 120 ❹法顕撰 ❹東晋末宋初 ❹一説11一説(A. D. 416—418) ❹大般涅槃経の下を見よ。

泥洹経比丘尼記 ❶(日)Nai-on-go-sho-bi-ku-kyō. (支) Ni-yüan-hou-chu-pi-ch'iu-ching. ❷1巻 ❹宋書 ❹〔参考〕 出三蔵記集巻四

泥洹経千歳蔵記 ❶(日)Nai-on-go-sen-zai-hen-gyō. (支)Ni-yüan-hou-ch'ien-sui-pien-ching. 千歳蔵記・泥洹経千歳変記記 ❷四巻 ❹宋 ❹東晋代末宋 ❹〔参考〕 出三蔵記集巻四・『開元釈教録』・『内典録』巻一・『宋高僧伝』巻一四・『開元釈教録』巻一

泥洹之道 ❶(日)Nai-on-no-michi. ❷1巻 ❹存 ❹真宗教中(天文11一一貫永1六 A. D. 1552—1639) ❹〔参考〕 陸士奇撰『説郛』所収『日聚』 ❹明末11刊(正大〕一〇八・111〕 明末四刊(正大〕一〇八・九〕 1四八〕 黄伯元刊(正大〕一〇八・1・1〕 又『冷大』『宗大』・1・11・11・1・『新』『大』・『天』・『元』・11刊(正大〕一〇八・1〇)

泥洹経 ❶(日)Nai-ri-kyō. (支)Ni-li-ching. ❷1巻 ❹宋書 ❹〔参考〕 出三蔵記集巻四・出三蔵記集巻三・『開元釈教録』巻四・『宋高僧伝』巻一1

泥洹経 ❶(日)Nai-ri-kyō. (支)Ni-li-ching. (巴) Bālapaṇḍita-s. (M. 129) ❷1巻 ❹存・大正1・1・九〇七No. 86・編反八・卍1四・1・寺712葉・市726葉・宋718行・明寺571葉・法571葉・麗719葉・天712葉・和674葉・元701葉・宋948葉・明市582葉・Nj. 975 ❹初唐末盛唐 ❹宋末天宋大一11〇(A. D. 381—395)

❹この説話は11説とされるものであるが、所説中の説話に「説話宋」「説話宋大」の語があり、11説とされるものであり、説話に収められているものであるとされるものであるとされる。後1説は已刊中国撰述11・1九説・中国撰述1・1九説説話撰述説(大正1・七五九)の説話であるが、後11説は中国撰述1三〇説・Devadūta S. 中国名不明説話撰述説(大正1・五〇11)巻の説話であるが、説話は説者名を今日語に直訳を行なうと今生に生の説話を説き、次にこれを説話の名称とを説話の名称とを受け、説話は今日語に直訳を行なうと今生に生の説話を説き、説話は説者の名称を

流灌頂供養作法 ❶(B) Nagare-kwan-jō-kū-yō-sa-hō. ❷1冊 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)作 ⑨寫本(京大・日大未・三七〇)

流灌頂作法 ❶(B) Nagare-kwan-jō-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❺元和三寫 ⑨(高大・寄・一・六五)

流灌頂私記 ❶(B) Nagare-kwan-jō-shi-ki. ❷2卷 ❸存 ❹勝如(—貞享二 A. D. 1685—)作 ⑨寫本(京大・日大未・三七一)享保一三寫(高大・寄・一・六五)

夏のふみの事 ❶(B) Natsu-no-fu-mi-no-koto. ❷1卷 ❸存 ⑨寫本(龍大・別置)

浪花のつと ❶(B) Nani-wa-no-tsu-to. ❷1卷 ❸存 ❹今北宗慣(洪川)(文化一三—明治二五 A. D. 1816—1892)

示・某室人法語 ❶(B) Nanigashi-shitsu-nin-ni-shimesu-hō-go. ❷1卷 ❼(参考) 浄土眞宗教典志第二

示・某女房法語 ❶(B) Nanigashi-nyō-bō-ni-shimesu-hō-go. 示或女房法語 ❸存、拾遺和語燈錄第六(大正八三 No. 2611) ❹源空(長承二—建暦二 A. D. 1133—1212) ❺三心及び十九願の來迎義を示す。❼(参考) 浄土眞宗教典志第一

成相寺舊記 ❶(B) Nari-ai-ji-kyū-ki. ❷1卷 ❸存、國文東方佛教叢書第二寺誌部之内 ❹秀寛 ❺正德元(A. D. 1711) ⑥一、小野仁海付正誤跡之事。二、觀山より成相寺に奉・神奥抜、の事。三、細川玄宮自讃歌の事。四、天の橋立練供養の事。五、大谷寺大圓上人の事。六、一宮別當大聖院興廢之事。七、一宮大聖院家之事。八、小田原村死靈之事。九、成相寺阿彌陀が峯の事。一〇、成相寺十町地藏奇瑞事。

本書は京都府與謝郡府中村成相寺本坊惣持院秀寛の聞書にして、成相寺及び其の附近の諸寺其の他の所傳、諸記を蒐めしもの、成相寺舊記の題號は成相寺に傳ふる舊記の意にして、成相寺其のものゝ舊記なるにはあらず。即ち全項十、成相寺に關するものは目次に示す如く三項に過ぎず、しかも其の内二項は山内阿彌陀が峯及び十町地藏の因緣譚にして、成相寺の沿革に就きては觀山より神興を奉じて來山し、改宗を迫り、其末寺たらん事を强要せしを語る一項のみなり。本書中注意すべきは天の橋立練供養の事、及び一宮諸神社(現國幣中社、京都府與謝郡府中村大垣)の別當坊大聖院並に奥院たりし大谷寺に就きての記載にして、筆意比較的正實、以て參看するに足る。大聖院は院家地一宮別當坊として、室町時代中期殊に寺運の隆盛を誇りしも、德川初期寛永以後、領主京極氏の下知に依り、大谷寺内の一坊に合併せしめられ、遂に廢絶に歸せしものなり。大谷寺は現に大破せる一堂を存し、古義眞言宗高野末寺院として纒に命脈を傳ふるに過ぎざるも、永く同社奥院として子院數字を擁し、法威殊に盛なりしものにして、本書には建武二年七月に勅願寺たるべきを奏請せし訴狀の全文を收錄す。橋立練供養はこの大谷寺の住僧にして惠心僧都に師事せし寛印供奉の創始に係ると云ひ、春秋二季殊勝なる法會たりしに現に廢絶惜しむべしと述べたり。大谷寺大圓とは京都觀勝寺の中興、所謂眞言岩倉方の祖なる良嚴上人の事にして、上人は當地の出、十歳にして大谷寺開觀の室に投じて剃染すと。尙第一項には眞言小野流の祖にして、曼荼羅寺の開山なる雨の僧正仁海の生誕地に就き一說を語り、第三項は國守たりし細川幽齋の逸話を述べ。

(藤島達朗)

成田山案内記 ❶(B) Nari-ta-san-an-nai-ki. ❷1卷 ❸存 ❹吉田銀治著 ❺明治三〇刊 ⑨(帝國・四〇・四八八)

成田山志 ❶(B) Nari-ta-san-shi. ❷1卷 ❸存 ❹吉田銀治著 ❺明治三〇刊 ⑨(帝國・四〇・七七・七)

成田山名所圖繪 ❶(B) Nari-ta-sanmei-shō-zu-e. ❷1卷 ❸存 ❹石倉重繼著 ❺明治三六刊 ⑨(京大・一・二二ナ・四)

成田山靈場實記 ❶(B) Nari-ta-san-rei-jō-jit-ki. ❷1卷 ❸存 ❹長谷川重郎兵衛編 ❺明治一八刊 ⑨(正大・一〇三二・一〇) ⑩千葉成田山

成田圖書館和漢書分類目錄 ❶(B) Nari-ta-to-sho-kwan-wa-kan-shō-bun-rui-mok-roku. ❷1卷 ❸存 ❺大正一三刊 ⑩成田圖書館

南院慧顒禪師語錄 ❶(B) Nan-in-e-gyō-sen-jō-zen-ki. (支) Nan-yuan-hui-yung-chan-shih-yü-lu. ❸存、卍續二・二三・二一 ❹宋南院慧顒(—廣順二 A. D. 953)語 ⑤錢府(何北大名縣)興化寺廣濟禪師存奬和尙の法嗣、南岳下六世、汝州南院(河南南陽府寶應院)慧顒禪師の語要を輯めたものである。慧顒は何北の人、後周太祖廣順二年(A. D. 953)示寂された。本書には上堂語並に勤辯數篇が收められて居る。其の上堂語に云く「赤肉團上樓立千仞。有僧問。赤肉團上樓立千仞。豈不是和尙話。師云。是。僧便禮倒禪牀。師云。個看這踏蹋鬼做。僧擬議。師便打趁出院。」と臨濟德山の用處を了せずして只だ棒喝を亂用する禪人の參究すべき問話である。(大久保堅璃)

南院國師規庵和尙行狀 ❶(B) Nan-in-koku-shi-ki-an-o-shō-gyō-jō. 勅謚南院國師規庵和尙行狀 ❸存、大日本佛教全書第九五、續群書類從第九南院國師語錄之内 ❹智明撰 ❺延元元(A. D. 1336) ⑥鎌倉圓覺寺開山佛光國師無學祖元禪師、(初名子元)の法嗣、南禪寺二世南院國師規庵祖圓禪師の行業を其の法嗣蒙山智明和尙が延元元年八月(A. D. 1336)に撰述したものである。

南院國師は、信州水内郡長池の人、龜山天皇弘長元年正月七日(A. D. 1261)に生れ、相模淨妙寺龍江宣和尙に祝髮し、瓦礫山建長寺佛光國師無學祖元禪師に依つて規庵の字を與へられ、佛光國師瑞鹿山圓覺寺を開山せらるゝや其の内記に侍して宗旨の玄奥を練め、其の寂後京都東福寺三世大明國師無關普門禪師に參じ、南禪寺建立の事に從ひ、紀州由良の法燈國師心地覺心禪師に參扣し、龜山法皇の歸崇を受け、花園天皇正和二年四月二日(A. D. 1313)壽五十三にて泊然として示寂され、嘉曆三年十一月(A. D. 1328)南院國師と謚號を賜つた。

❺延元元、正德元、文久二刊 ⑨(駒大)

(大久保堅璃)

南院國師語錄 ❶(B) Nan-in-koku-shi-go-roku. 規庵錄、南院國師住山城州龍安山禪林禪寺語錄 ❷3卷 ❸存、大正八〇・二八五 No. 2553、大日本佛教全書第九五 ❹規庵祖圓(弘長元—正和二 A. D. 1261—1313)語、慧眞等編 ⑥佛光國師無學祖元禪師の法嗣である、南岳下二十一世、京都南禪寺二世南院國師規庵祖圓禪師の龍安山禪林寺(後改、瑞龍山南禪寺)語錄を侍者の慧眞等が編錄したものである。

三卷二冊、延元元年本、正德元年木活本、文久二年本等があり、佛教全書、大正藏等にも收められて居る。文久二年南禪寺藏板の瑞龍山板が流通し、大正藏も本書に依つて居る。上卷は慧眞、光宗、妙準和尙等の編、正應四年十二月、龜山上皇の詔により本寺を建立し、同五年三月入寺せし開堂語、小參、上堂語を收め、中卷は師錄、志高、一肇和尙等の編にして上堂語を收め、下卷は智明、淨心、居潤和尙等の編にして上堂語、小參の語要を收め、偈頌並に延元元年八月法嗣蒙山智明の撰に成る行狀、清拙正澄の跋、及び鏡堂、元翁、清拙、竺仙、一山、絕海、虎關等の規庵に對する偈讚を附錄し其の風格を偲ばしめて居る。

❺文久二刊 ⑨(帝國・八二一・一三六)(谷大、餘大・三八)(駒大)(京大、日大未・四七四)(龍大、二六七四・一八) (大久保堅璃)

南隱老師追憶 ❶(B) Nan-in-rō-shi-tsui-oku-ro-i. ❷1卷 ❸存 ❹公田連太郎編 ❺大正五刊 ⑨(駒大) ⑩東京龍雲院

南隱老師追憶補遺 ❶(B) Nan-in-rō-shi-tsui-oku-ho-i. ❷1卷 ❸存 ❺大正九刊 ⑨(駒大) ⑩東京龍雲院

南英和尙語錄 ❶(B) Nan-ei-o-shō-go-roku. ❷1卷 ❸存 ❹南英周宗(貞治二—永享一〇 A. D. 1363—1438) ❼(参考) 扶桑禪林書目、日本禪林僧寶傳書目、禪籍目錄

南越是海全集 ❶(B) Nan-etsu-ze-kai-zen-shū. ❷2卷 ❸存 ❹清水是信編 ❺大正七刊 ⑨(龍大、一〇四・二八)(谷大、宗大・二九〇)(立大、八四〇・九三)

南圓堂銅燈台銘 ❶(B) Nan-en-dō-dō-tō-dai-mei. ❸存、大日本佛教全書第一一九寺誌叢書第三 ❺弘仁七(A. D. 816)

⑥弘仁七年(A. D. 816)藤原朝臣(名詳不詳)等が先考の遺志追遂の爲、興福寺の南圓堂前に造りし六方の銅燈臺に刻まれた銘文である。文意は燃燈供養の利益を說示するもので、六版中最後の二版を逸失してゐる。

(不破幹雄)

南柯法語 ❶(B) Nan-ka-hō-go. ❷2卷 ❸存、眞宗全書第五四 ❹超然(寛政四—明治元 A. D. 1792—1868)稿 ❺文政九(A. D. 1826)

⑥初後二編に分れ、初編は編末に文政七年稿、文政九年修正の由を記し、後編は終に文政九年冬跋稿の由が記してある。なほ天保十二年稿の附錄を添へてゐる。老若數人が問答せるを夢に見たる樣にことよせ、眞宗の宗意安心上の要義を述べたるもの。初編には大谷派を呼ぶに裏方の語を以てし、大谷派の學者間に行はるゝ安心說は意業歸命なりと非難し、本願寺派の安心を裏方より法體づのりと評破するも、敍異鈔には本願ぼこりを可とせるが故に本願寺派の安心こそ正意なりと主張し、進んで眞宗の安心を八議說によつて解釋すべきや否やの論、稱名策勵のこと、信後の疑惑のこと、十劫絕事のことに關して詳論し、後編には三心一心義について三業歸命を主張せるものゝ欲生歸命說を破し、更に轉じて別取信樂、都名信樂の評論に就て詳かに調和を試み、進んで稱名正因に關する批判に及ばんとして筆を擱いてゐる。また附錄には名號正因說を破斥する所以を述べてゐる。その裏方の主張を舉ぐる叙述は、これを反駁するに利あらしむべく强いて練磨化せるを以て、正鵠を失する嫌なしとせざるも、兎も角幕末時代東西兩本願寺の宗意上に多少色彩の異ありしことを知る好資料たるのみならず、當時の宗學上に於ける主要なる論點を詳述せるを以て珍重すべき書といふべきである。

(柏原祐義)

南海和尙傳 ❶(B) Nan-kai-o-shō-den. 正統下南海和尙傳 ❷1卷 ❸存、續群書類從第九 ❹長鑑

⑥東福寺の南海寶洲和尙の略傳である。初に其の家系を記し、出家して圓覺に掛搭し竺仙不聞兩翁に隱侍し、後に三韓に渡り盧眉皓首の老僧に相遇したることを叙し、歸朝して作州大義山理濟寺等を開剏し、晚に京師の萬壽寺を重し、六十二歳にして入寂したるを記してゐる。

(後藤大用)

南海寄歸傳 ❶(B) Nan-kai-ki-ki-den. (支) Nan-hai-chi-kuei-chuan. 南海寄歸內法傳、南海傳、大唐南海寄歸內法傳、寄歸傳、南海寄歸傳 ❷四卷 ❸存、大正五四・二〇四 No. 2125、續致七、卍三九・一〇、北1084群、南1102群、元1095群、明北1485丼、清1537說、羅1089英、天1083群、指1043英、法1071英、至1561起、明南1481功、N. 1492 ❹唐義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)撰 ⑥南海寄歸內法傳の下を見よ。 ❼(参考) 奈良朝現在一切經疏目錄23311

南海寄歸傳 ❶(B) Nan-kai-ki-ki-den. (支) Nan-hai-chi-kuei-chuan. 南海寄歸內法傳、大唐南海寄歸內法傳、寄歸傳、南海傳 ❷四卷 ❸存、大正五四・二〇四 No. 2125、續致七、卍三九・一〇、北1084群、南1102群、元1095群、明北1485丼、清1537說、羅1089英、天1083群、指1043英、法1071英、至1561起、明南1481功、N. 1492 ❹唐義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)撰 ⑥南海寄歸內法傳の下を見よ。

❾刊本(京大・五・八一ナ・一)(京專)(正大、一〇四・三〇)(貴、た・五・右・一)(高大、寄・一・二一)(内閣)

南海寄歸傳引據 ❶(日)Nan-kai-ki-den-in-ko. ❷一冊 ❸存 ❹寛政二寫(高大、寄・一・二一)寫本(京專)

南海寄歸傳科 ❶(日)Nan-kai-ki-den-kwa. 南海寄歸内法傳科 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第四 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❺南海寄歸内法傳科の下を見よ。

南海寄歸傳解纘鈔 ❶(日)Nan-kai-ki-den-gi-zan-sho. 南海寄歸内法傳解纘鈔 ❷八卷 ❸存、大日本佛教全書第一一四遊方傳叢書第二、慈雲尊者全集第四 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❺南海寄歸内法傳解纘鈔の下を見よ。 ❻寫本(京專)(高大、寄・一・二一)

南海寄歸傳講義 ❶(日)Nan-kai-ki-den-kō-gi. ❷四卷 ❸存 ❹摂諦(文化三—慶應元 A. D. 1806—1865) ❺寫本(谷大、鉾大・一五五〇)

南海寄歸傳私記 ❶(日)Nan-kai-ki-den-shi-ki. ❷四冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・二一)

南海寄歸内法傳 ❶(日)Nan-kai-ki-nai-hō-den. (支)Nan-hai-chi-kuei-nei-fa-chuan. 大唐南海寄歸内法傳、南海寄歸傳、寄歸傳、南海傳 ❷四卷 ❸存、大正五四・二〇四 No. 2125、館貴七、卍三九・一〇、北1064群、南1102群、元1095群、明北1455尹、清1537況、麗1059英、天1053群、指1043英、法1071英、至1561起、明南1481功、N. 1492 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)撰 ❺唐天授二(A. D. 691)

❻本書は撰者が印度並に南海諸國に遊在中、親しく目睹したるところに基き、比丘・比丘尼の實際生活の樣相を記述せしもの。是れ實に世界の學界に忘れ難い寄與である。『貞元新定釋教目錄』(第十三)には「淨、(義淨)嘗て遍歷の三藏、而倫功の律部、譯殺之暇、曲授學徒、凡所行事皆倚の其全、遂演發緘特異の論常、學侶傳行遍の於京洛、美哉亦遺法之盛事也。」と嘆じてゐる。

内容は一部四卷、結構は通途の如く(一)序、(二)正文(三)結語より成る。先づその序に於ては由緒と綱要を提起し詳きに據々を盡してゐる。次に正文に於ては四十章を設け、務めて聖文に準じ、詳きに見聞するところを記してゐる。その四十章の列次は左の如くである。

(一)破夏非小。(二)對境之儀。(三)食坐小牀。(四)髮分淨觸。(五)食餘去穢。(六)受齊起請。(七)著衣法式。(八)尼衣喪制。(九)結淨地法。(十)五衆安居。(十一)隨意成規。(十二)起筋合不。(十三)知時而禮。(十四)便利之事。(十五)受戒軌則。(十六)洗浴隨時。(十七)具槇身。(十八)臥息方法。(十九)經行少病。(二十)禮不相扶。(二十一)飯食之道。(二十二)客舊相遇。(二十三)先禮病源。(二十四)遊藥方法。(二十五)除其弊惡。(二十六)旋右觀時。(二十七)濯洗尊儀。(二十八)讚詠之禮。(二十九)燈敬乖式。(三十)西方學法。(三十一)長髮有無。(三十二)亡則物現。(三十三)受用僧物。(三十四)燒身不合。(三十五)傍人獲罪。(三十六)古德不爲。

終りに結語に於ては(一)懷を舊都に寄せ(二)正範を弘通せんことを請ふてゐる。

「謹で聖教及び現行の要法に依り、總じて四十章あり。分ちて四卷となし、南海寄歸内法傳と名づく。又大唐西域高僧傳二卷並に雜經論等十卷並せ錄して歸るに附す。願くば諸の大德弘法の心を興し彼我を懷くなかれ。」

これ撰者義淨の自ら記する所、本書の述傳は大法弘通のためにも、義淨その人のためにも、抑も亦た一般學者のためにも、良とに幸福と云はねばならぬ。

序に斯の書は敬洞が『南海寄歸内法傳解纘鈔』の序に於て「淨三藏積德博學、因不K俟a末學之讚揚也。其古言詞奧、梵語典雅、學者苦r繁r解。」と云つてゐるやうに、洵に慧益と稱せられる古典である。しかも我が慈雲飲光がその注釋に成功したことは、學界に鮮からざる功德である。更にわが高楠順次郎博士は斯界の權威である。博士は明治二十九年(A. D. 1896)本書を英譯した。題して A Record of the Buddhist Religion といふ。洵にわが學界の偉觀である。

❼(注釋) 解纘鈔(飲光撰)四卷、講錄(七名)二卷 (參考)奈良朝現在一切經疏目錄 ❽奈良朝時代寫(熊谷直之)刊本(正大、一〇四・一〇—一三)(龍大、二九七三・一〇)(大正一三古鈔本寫眞版(京大、一・二一・大別)(龍大、別置) (前田慈隱)

南海寄歸内法傳科 ❶(日)Nan-kai-ki-nai-hō-den-kwa. 南海寄歸傳科 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第四 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❺分科を序、正文、結語の三とし。序を標佛寶述大教光輝、標法寶明律儀綱致、標僧寶詳弘教支流、嘆神州風德示述作旨趣、重嘱寫癸々之懷の五門として更に之を細科に分ち。正文を標章簡正、隨標廣述の二門に分ちて更に四十章各々細科を分ち。結語は述懷、重嘱慰勉の二科に分つてゐる。

❻文化一四年法樹和上書寫校訂本 ❼(高見寛應)(何内高貴寺)

南海寄歸内法傳解纘鈔 ❶(日)Nan-kai-ki-nai-hō-den-gi-zan-sho. 南海寄歸傳解纘鈔 ❷八卷 ❸存、大日本佛教全書第一一四遊方傳叢書第二、慈雲尊者全集第四 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❺寫刊八(A. D. 1758) ❻この鈔は玄談一卷釋文七卷あり。尊者の奥書に依ると、高野山眞源院の懇勸に依つて、この歳五月中旬稿を始め、七月二十七日草成る。兩も六月十九日開製畢世し、その訃報が草成の十日許り前に達したので、「壺哲人既逝、其與誰語」と悼んでゐる。又その跋文を見ると解纘鈔と題せし所以を論述してゐる。

傳文を講ずるに見尼鋼要、部別討論、述作由致、別分六科、入文釋義の五門を分ち、釋文に入りて第一卷に序の文を解說し、第二卷以下に正文四十章を註釋す。其の標目左の如し。(一)破夏非小。(二)對境之儀。(三)食坐小牀。(四)髮分淨觸。(五)食餘去穢。(六)水有二蟲。(七)晨旦觀蟲。(八)朝嚼齒木。(九)受齊軌則。(十)衣食所須。(十一)結淨地法。(十二)起筋合不。(十三)知時而禮。(十四)便利之事。(十五)受戒軌則。(十六)洗浴隨時。(十七)具槇身。(十八)臥息方法。(十九)經行少病。(二十)禮不相扶。(二十一)飯食之道。(二十二)客舊相遇。(二十三)先禮病源。(二十四)遊藥方法。(二十五)除其弊惡。(二十六)旋右觀時。(二十七)濯洗尊儀。(二十八)讚詠之禮。(二十九)燈敬乖式。(三十)西方學法。(三十一)長髮有無。(三十二)亡則物現。(三十三)受用僧物。(三十四)燒身不合。(三十五)傍人獲罪。(三十六)古德不爲。

「淨、(義淨)嘗て遍歷の三藏、而倫功の律部、譯殺之暇、曲授學徒、凡所行事皆倚の其全、遂演發緘特異の論常、學侶傳行遍の於京洛、美哉亦遺法之盛事也。」

南海傳絹衣比量鈔 ❶(日)Nan-kai-den-ken-i-hi-ryō-sho. ❷存、大日本佛教全書第一一四遊方傳叢書第二 ❸快道(實曆元—文化七 A. D. 1751—1810) ❹寛政三年、高野山眞別處大乘圓通律寺の知事、鏡龍忍剃の求めにより豐山の快道林常が、南海寄歸傳卷二に於ける「袈裟の財體に絹紬を用ふるは聖開にして南山が絹を禁ぜるは徒に節目を爲して强ひて造せる、非制に强制せるものなり」との論證につき、因明學上の比量道理に基き、其正論たることを辨說せるものである。即ち寄歸傳の此一章は三量を以て絹衣を受用するも愆なしと成立して南山に對敵せるもの、其中、絁紬は聖開なりとは是れ聖教量、五天の四部は故に皆著用せりとは現量にして、三處淸淨の絹衣は應に受用せんに殺罪なかるべし(宗)、殺心なきが故に(因)、諸の殺心なき者は皆是れ現に受用せんに殺罪なきこと猶麻等の如し(同品)、諸の受用して現に殺罪なきに非ざる者は皆是れ殺心なきに非ざること、好んで肉を噉ふ等の如し(異品)等は比量である。義淨三藏には既に因明正理門論の譯ある如くに、三藏は因明の奥義を得ておらるゝから、寄歸傳の此條に於ても、三處淸淨、判在r心、愆、設乖r斯旨、但招r輕過、無r殺心故、因乃緣成、猶如受r蚊、喻便彰著、因喻既其明白無r過、衣宗自顯、三支道理且已顯然、況復金口自言……」の文の如く因明の論法を以て絹衣受用を成立しておらるゝ故に、本書に於て更に此の比量こそは眞宗にして九過を離れ、因に於て

は遍ねべて十四過なく、喻に於ても同品異品共に五過なく、獨立の三十三過なくして實に是れ眞能立なれば、著く三淨の絹衣を受用するも愆なきの義を成立せりとして、義淨の立說を擁擧せるものであり、從つて南山の袈裟禁絹說を否定せるものである。

(西本龍山)

南海傳序錄 ❶(日)Nan-kai-den-jo-roku. (支)Nan-hai-chuan-hsu-lu. ❷一卷 ❸(參考) 東域傳燈目錄卷下

南海の旅 ❶(日)Nan-kai-no-tabi. ❷一卷 ❸存 ❹廣如(寛政一〇—明治四 A. D. 1798—1871) ❺寫本(龍大、二〇五九・八)

南海普陀山志 ❶(日)Nan-kai-fu-da-san-shi. (支) Nan-hai-pu-to-shan-chih. 重修南海普陀山志 ❷二十卷 ❸存 ❹清玉昆勳青市參定、秦鐵曾邊亭編、鴻昆校 ❺刊本(谷大、鉾大・三五八七)(龍大、研史)(正大、一〇三二・六一)

南海寶舟和尚傳 ❶(日)Nan-kai-hō-shō-o-shō-den. 南海和尚傳、正統下南海和尚傳 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹具鑑 ❺南海和尚傳の下を見よ。

南海寶象林慧弓訓禪師語錄 ❶(日)Nan-kai-hō-zō-rin-e-kyō-kei-zen-ji-go-roku. (支)Nan-hai-pao-hsiang-lin-hui-kung-hsun-ch'an-shih-yü-lu. ❷一卷 ❸存 ❹清傳一等編 ❺康熙年間刊 ❻(勝大)

南海流浪記 ❶(日)Nan-kai-ru-rō-ki. ❷一卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第七紀行部 ❹道祐(治承二—建長四 A. D. 1178—1253)

❺本書は道祐阿闍梨が傳法院の事に坐して讃岐に配流せられたる時の記。

仁治四年正月三十日都を立ち出でゝより、南海の名區弘法大師の蹤跡を巡禮して吟味を事とし、又壽通寺に寓して講席を開き、著述に從事し、遠近の道俗その化益を蒙らざるはない。諸居すること七年、建長元年赦され八月十七日高野に歸らる。人に贈る歌に、

たのめおきし法のしるべの登の
かねてぞ照らす嶽をたづねん

同四年五月二十二日寂す。壽七十五、一代の著書七十餘部二百餘卷、皆學人のために珍とせらるゝ所である。

❻嘉永四刊 ❼(谷大)(京專)(高大、寄・一・五五)

南岳記 ❶(日)Nan-gaku-ki. (支) Nan-yüeh-chi. ❷一卷 ❸李邕撰 ❹(參考) 傳教大師將來台州錄

南岳高僧傳 ❶(日)Nan-gaku-kō-sō-den. (支)Nan-yüeh-kao-seng-chuan. ❷一卷 ❸黃門侍郎盧藏用撰 ❹(參考) 傳教大師將來台州錄

南岳思禪師法門傳 ❶(日) Nan-gaku-shi-zen-ji-hō-mon-den. (支) Nan-yüeh-ssu-ch'an-shih-fa-men-chuan. ❷一帖 ❸龜尋孟社撰 ❹(參考) 日本國承和五年入唐求法目錄、慈覺大師在唐送進錄、入唐新求聖教目錄

南岳思大和尚德行歌 ❶(日)Nan

-gaku-shi-daito-shū-toku-gyō-ka. (支) Nan-yueh-sang-ta-ho-shang-ta-hsing-ko. ❷一卷 ❼(参考) 入唐新求聖教目錄

南岳思大師碑文 ❶(日)Nan-gaku-shi-dai-shi-hi-mon. (支)Nan-yueh-sang-ta-shih-pei-wen. ❷一卷 ❸王郎中 ❼〔参考〕智證大師請來目錄

南岳思大師別傳 ❶(日)Nan-gaku-shi-dai-shi-betsu-den. (支) Nan-yueh-sang-ta-shih-pieh-chuan. 隋天台智者大師別傳、天台智者大師別傳、智者大師別傳 ❷一卷 ❸存、大正五〇・一九一 No. 2050・續陽一一、卍三三・七、明北1570起、清1498勒、明南1563剪、Zj. 1577 ❹隋灌頂(天寶二—貞觀六 A. D. 531—632) ❻隋天台智者大師別傳の下を見よ。❼(参考)傳教大師將來台州錄

南嶽懷讓禪師語錄 ❶(日) Nan-gaku-e-jō-zen-ji-go-roku. (支) Nan-yueh-huai-jang-ch'an-shih-yü-lu. 大慧禪師語錄 ❸存、卍續二・二三・二古尊宿語錄第一 ❹唐南嶽懷讓(儀鳳二—天寶三 A. D. 677—744)

❺別書名を大慧禪師語錄と云ふ。南嶽懷讓禪師は六祖大鑑慧能禪師の法嗣として青原山行思禪師と共に六祖門下の二大甘露門である。青原下より曹洞、雲門、法眼の三宗を出したのに對し、南嶽下よりは臨濟、潙仰、黃龍、楊岐を出し、所謂五家七宗の盛名を揚げた。南嶽懷讓禪師は、唐高宗儀鳳二年四月八日(A. D. 677)金州安康(陝西漢中府興安州)杜氏に生れ、荊州玉泉寺弘景律師に出家し、嵩山の慧安に參じ、曹溪の六祖に謁して宗旨を了得し、其の左右に侍すること十五載、玄宗帝先天二年(A. D. 712)南嶽に往き般若寺に居して、參徒に示すに「一切萬法。皆從心生。心無所生。法無能住。若達心地。所作無礙。」と、是れより南嶽を以て天下に傳唱され玄宗帝天寶三年八月十一日(A. D. 744)壽六十八を以て示寂された。本書には其の行業と共に語要を編錄したもので、語要中には有名なる磨塼の話を收められて居る。(大久保堅瑞)

南嶽悅山禪師語錄 ❶(日) Nan-gaku-etsu-zan-zen-ji-go-roku 悅山禪師語錄 ❷四卷 ❸存 ❹悅山遙 ❺延寶五刊 ❻(駒大)

南嶽金剛峯寺舊會大鑑圖 ❶(日)Nan-gaku-kon-gō-bu-ji-ku-e-dai-zu. ❷一軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶菩提院)

南嶽山茨際禪師語錄 ❶(日)Nan-gaku-san-shi-sai-zen-ji-go-roku. (支) Nan-yueh-shan-tz'ü-chi-ch'an-shih-yü-lu. 茨際禪師語錄 ❷一卷 ❸存 達登編 ❼〔参考〕禪籍目錄

南嶽志 ❶(日)Nan-gaku-shi. (支) Nan-yueh-chih. ❷八卷 ❸存 ❹清高自位重編 ❺清乾隆一八刊 ❻(正大・一〇三二・六六)(駒大)

南嶽思大禪師立誓願文 ❶(日) Nan-gaku-shi-dai-zen-ji-ryū-sei-gwan-mon. (支) Nan-yueh-ssü-ta-shih-li-shih-yüan-wen. ❷一卷 ❸存、大正四六・七八六、Zj. 1933、續陽四、卍三三・七、明北1569起、Nj. 1576 ❹慧思(天監一四—大建九 A. D. 515—577)撰 ❻陳永定二(A. D. 558)

❻天台の第三祖と仰がるゝ慧思即ち南嶽尊者が求道の歷程に於ける發菩提心の相を記した願文である。正法五百歲、像法一千歲を經て、末法の二十八年後の延昌四年に生れた慧思は幾多の內的苦惱と外的障害と闘ひつゝ勇猛精進したものである。末法の衆生を度せんが爲には先づ自身の莊嚴に專念して、自利利他の行を滿足せしめんとした。惡比丘等より惡毒藥を盛られる等、數次の迫害に遇ひしも、却つて此が爲に菩提心は益々固く、此れ等惡比丘乃至一切衆生の爲に、光州齊光寺に金字の摩訶般若經、妙法蓮華經を作り、これを七寶を以て作つた函に奉盛し、其の功德に依つて一切衆生の濟度されんことを願ふたものである。此くの如き慧思の求道歷程、菩薩行を修して行きし相を彼自ら記したものと云はれてゐる。慧思の傳は續高僧傳卷十七に見えてゐて、この願文の慧思作を疑ふものもあるが、其の積極的證左は毫末も見出し得ないものである。而して本書中には末法思想や、道教信仰による煉丹の事や、惡比丘の行動等の記載があつて、南北朝末期に於ける一般思想界の趨勢、果ては佛教界の相委を知るの史たり得るものである。

❺延寶三刊 ❾(龍大、二六五四・一二※正大、一三九・九※高大、客・一・二四)(野上俊靜)

南嶽禪巖禪師語錄 ❶(日) Nan-gaku-zen-gan-zen-ji-go-roku. 禪巖禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹悅翁禪巖話、淨可等編 ❺元祿一二刊 ❾(駒大)

南嶽禪燈錄 ❶(日)Nan-gaku-zen-tō-roku. (支)Nan-yueh-ch'an-teng-lu. ❸存 ❹清南嶽芙蓉 ❼(参考) 禪籍目錄

南嶽總勝集 ❶(日) Nan-gaku-sō-shō-shū (支)Nan-yueh-tsung-sheng-chi. ❷三卷 ❸存、大正五一・一〇五五 No. 2097 ❹陳田夫撰 ❺宋淳興元(A. D. 1163)

❻湖南省にあつて湘水資水の分水嶺をなすものが有名なる衡山であり、其の主峯は衡山縣西北にある。周廻凡そ八百里、古來南嶽と稱せらるゝ靈山で五嶽の一つである。此の靈山は南支那に於ける文化の淵藪地の一つと云ふべく、昔より僧侶道士は來つて修行し寺觀を興し、歷朝帝王は巡遊行幸し、文人墨客は其の奇觀を賞して來遊し、幾多の物語、傳說、歷史は此の南嶽を中軸として織出されてゐる。かゝる南嶽に關して編纂された地誌が本書である。

南嶽には七十二峯ある。祝融、紫蓋、雲密、石廩、天柱の五峯が最大であつて、朝日、側刀、惠日、碧蘿、烟霞の五峯は祝融に隣し、金簡、會仙、降眞、仙人、芙蓉、雲隱、碧雲、棲眞、靈芝、華蓋、紫霄、喜陽、赤帝、紗帽、柿帶、靈應、瑰寶、石囷、香爐、日蓋、女善、集賢、吐霧、巾子、白馬、馬鞍、彌勒の二十七峯は紫蓋に隣し、碧蘿、白雲、高台、峽峰、靈隱の五峯は雲

實に隣し、石橋、採霞、白石、氷泰、九女、雲龍、雙石、明月、青岑、吾賢、麓嶂、會巢、潛聖、蓮華、天堂、祥光、回雁の十七峯は石廩に隣し、彌陀、屏障、永和、薯園、靈臺、碧崙、安上、靈禽、鳳凰、文殊、鄉鉢、瑞應、雲居の十三峯は天柱に隣してゐる。第一卷に於いては此れ等の諸峯に就いて說明し、なほ一洞天、四福地、二境、三澗、六源、六門、九溪、十五洞、十六台、十四塔、三十三壇、三十八巖、二十五泉、九池、八堂等の南嶽に在ることを記してゐる。即ち第一卷は南嶽の地理を記載したものであるが、卷末に嶽廟に就いて記し、そが歷朝諸帝より尊崇を受けた次第を述べ、更に南嶽に關係ある有名なる道士、僧侶に關する記載がある。卷二は寺觀に就いての記載である。名を聞くれば次の如し。眞君、衡嶽、犀壽、招仙、九眞、降聖、光天、安寶、南朱、琴眞、普賢、玉蕊、洞門、太平、西台、西靈の諸觀、勝業、告成、衡嶽、淨嚴、西禪、華嚴、雲居、南臺、福嚴、大明、上封、應天萬壽、寶勝、觀音、雲峯登德、延壽、白雲、七寶、崇果、普濟、天柱、彌陀、清化、靈境、寶積、太平、寶林、化城、雲溪、白鶴、資福、橫龍、方廣崇壽、建方廣、保慶、靈泉、國清、靈川護國、明溪、法輪、西林、會善、普濟、石鼓、東林、無礙、福昌、西明、岣峯、白雲興國、楚寧、楚安、多寶、雙峯、雲龍、承天、靈峯、壽光、北觀、安樂、攝授、保福、兜率の諸寺、上清、中元陽、凌虛、洞靈、九仙、洞陽の諸宮、紫蓋、華蓋の諸院、高台惠安禪院、石室匡眞晨、紫虛、浮屠晨等である。卷尾にこの山に產する珍木、雜藥、異花、草香、靈草、靈禽異獸の名を附記してゐる。卷三に於いては主として唐宋時代の道異人、高僧の南嶽に關係あることを記してゐる。名を聞くれば次の如し。雙峯祖、廖沖、蓋靈護、張惠明、南嶽西國陶若雲藏禪師、何嶽師、薛季昌、鄧紫陽、田虛應、李思慕、薛岡穩、唐若山、申泰芝、劉晏、高僧慨遊、衡山隱者、李泌、金靈瑣、謝修通、惡性良、先生呂志眞、練師蔣超元、潘發、藍方、王靈輿、陳良輔、劉山市、周瑣、衡嶽泉禪師、張君猷、皇甫、皇市巳等々。

之を要するに本書は南嶽に關する綜合的地誌である。元來南嶽に關する地誌は少くなく、宋居士撰衡山記、徐靈期南嶽記、盧鴻衡山記、錢豐衍南嶽勝概等あるも今傳らない。たゞ唐李仲昭撰南嶽小錄一卷が四庫全書に錄入されしを知る。外に明彭簪衡嶽志、清道寥嶽鑑志あるを聞くも後世に出來たものであり、本書は正しく南嶽に關する地誌として第一に屈指すべきものであらう。(野上俊靜)

南嶽大師止觀頌註 ❶(日) Nan-gaku-dai-shi-shi-kwan-ju-chū. ❷一冊 ❸存 ❹慈山妙立(寬永一四—元祿三 A. D. 1637—1690)述 ❾元祿四刊 (高大、客・一・五、)眞如藏寫本(哲、の・二・中・二〇)

南嶽單傳記 ❶(日)Nan-gaku-tan-den-ki. (支) Nan-yueh-tan-ch'uan-chi. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・一九・五 ❹清弘儲(退翁)表、南潛許

❺禪の支那傳來は南朝梁の武帝の時、菩提達磨に依つて、行はれたものであり、其の後禪は獨立した一派として活躍することなく、偶宗として存在してゐたのであるが、唐の則天武后の頃、神秀出でゝ禪を北方に弘めて北宗を起し、慧能は南方に化を布きて禪の南宗を起して、此處に其の獨立を見た。而して北宗は其の後偸り振はざりしも、南宗は大いに榮えて、南嶽青原の二派となり、更に南嶽より臨濟、潙仰の二派、青原より曹洞、雲門、法眼の三派が分れ出でたが、其の內臨濟、雲門、曹洞が最も盛に行はれ、其時代的に云へば唐末、宋に於いて最も發達し、元、明これを繼承したものである。本書は即ち禪の正流を傳へ、南嶽の正系と自稱する臨濟の立場より、禪的思想の印度支那に亙る傳統を記さんが爲に、始祖釋迦牟尼佛、一祖摩訶迦葉尊者、二祖阿難尊者、三祖商那和修尊者、四祖優波毱多尊者、五祖提多迦尊者、六祖彌遮迦尊者、七祖婆須密尊者、八祖佛陀難提尊者、九祖伏馱蜜多尊者、十祖脇尊者、十一祖富那夜奢尊者、十二祖馬鳴大士、十三祖迦毗摩羅尊者、十四祖龍樹尊者、十五祖迦那提婆尊者、十六祖羅睺羅多尊者、十七祖僧伽難提尊者、十八祖伽耶舍多尊者、十九祖鳩摩羅多尊者、二十祖闍夜多尊者、二十一祖婆修盤頭尊者、二十二祖摩拏羅尊者、二十三祖鶴勒那尊者、二十四祖師子比丘尊者、二十五祖婆舍斯多、二十六祖不如密多、二十七祖般若多羅尊者、二十八祖菩提達磨大師、三十一祖慧可大師、三十二祖僧璨大師、三十三祖道信大師、三十四祖弘忍大師、三十五祖慧能大師、三十四祖南嶽懷讓禪師、三十五祖江西道一禪師、三十六祖百丈懷海禪師、三十七祖黃檗希運禪師、三十八祖臨濟義玄禪師、三十九祖興化存奬禪師、四十祖南院慧順禪師、四十一祖風穴延沼禪師、四十二祖首山省念禪師、四十三祖汾州太子院善昭禪師、四十四祖石霜楚圓禪師、四十五祖楊岐方會禪師、四十六祖白雲守端禪師、四十七祖五祖法演禪師、四十八祖昭覺克勤禪師、四十九祖虎丘紹隆禪師、五十祖應菴曇華禪師、五十一祖密菴咸傑禪師、五十二祖破菴祖先禪師、五十三祖徳山師範禪師、五十四祖仰山祖欽禪師、五十五祖天目原妙禪師、五十六祖天目明本禪師、五十七祖千晨元長禪師、五十八祖蘇州萬峰時爵禪師、五十九祖寶藏普持禪師、六十祖東明慧旦禪師、六十一祖金陵東山永慈禪師、六十二祖金陵高峰智璇禪師、六十三祖金陵本瑞禪師、六十四祖玉泉明聰禪師、六十五祖關通德寶禪師、六十六祖莉溪禹門正傳禪師、六十七祖明州天童圓悟禪師、六十八祖蘇州鄧尉山三峰法藏禪師、六十九祖衡州南嶽般若寺退翁弘儲禪師等の略傳を記し、各傳に表、評を附したものである。傳の內容の史實に關するものは殆んど全部在來の史料に據つたものであるから、特に注意すべき程のものではないが、たゞ支那臨濟の立場より見たる禪の傳統の概略を窺ふには好都合の書である。

❺康熙年間刊 ❾(駒大) (野上俊靜)

南嶽天台山記 ❶(日) Nan-gaku-ten-dai-san-ki. (支)Nan-yueh-t'ien-t'ai-

shan-chi. ❹1卷 ❺〔参考〕 慶安六年刊本今年刊本〕 諸宗教義綱要1

南学初古 ❶〔日〕Nan-gaku-roku-ko. (支)Nan-yüeh-lê-ku. ❷1卷 ❸存 ❹南学録〔同書〕 ❺〔参考〕 藤樹日録

南紀往生傳 ❶〔日〕Nan-ki-ō-jō-den. 南紀往生傳〕 近年又国学者南紀往生傳 ❷三卷 ❸存 ❹産国〔一文政四年A. D. 1818—1829—〕 ❺享和二刊 ❻〔高大〕1・二 ❼〔高大〕二・三 ❽〔高大〕一〇三大・四四—四五〕 ❾〔高大〕一〇三大・四四—四五〕 ❿〔高大〕一〇三大・四四—四五〕 ⓫〔高大〕一〇三大・四四—四五〕

南紀書樹樹書記 ❶〔日〕Nan-ki-sagi-no-mori-ku-ji-ki. 紀州書樹書記 ❷1卷 ❸存〕 大日本史紀伝本書記 ❹三卷〔国書刊二一—享保一十 A. D. 1659—1732〕 ❺紀州書樹書記のこと又云〕 ❻近年〔国書〕二二・四一 ❼〔高大〕

南紀名勝往生傳 ❶〔日〕Nan-ki-nem-butsu-ō-jō-den. 南紀往生傳〕 近年又国学者南紀往生傳 ❷三卷 ❸存 ❹産国〔一文政四年A. D. 1818—1829—〕 ❺享和二刊 ❻〔高大〕一・二 二 六・一

南京新文華華錄 ❶〔日〕Nan-kyō-i-bun-tsuketari-kai-setsu. ❷1卷 ❸存 ❹毛々夫白華編 ❺天正一〇刊 ❻〔高大〕〔国書〕

南京国大学区系列図書中国 ❶〔日〕Nan-kyō-sai-dai-ji-ni-shū-betsu-jū-sō-chū-zu. ❷1巻 ❸存〕 徳川幕府学者 ❹徳川実紀〔享保三—文化元 A. D. 1718—1804〕。

❺この図には学校〕 孔廟〕 聖殿〕 文廟〕 文庫〕 大成殿〕 明倫堂の次を詳しく図示してある。

❻〔高大〕〔高大〕 (高橋重郎)

南化玄興和尚語錄 ❶〔日〕Nan-ke-gen-kō-o-shō-go-roku. 南禅国師和尚語録 ❷四卷 ❸存 ❹南化玄興〔一慶長元 A. D. 1604〕 ❺〔参考〕 大日本史紀伝本書籍 刊漢文学者日〕 藤樹日録

南化国師語錄 ❶〔日〕Nan-ke-koku-shi-itsu-ge. ❷1卷 ❸存 ❹南化玄興〔一慶長元A. D. 1604〕 ❺〔参考〕 藤樹日録

南華経解鑑 ❶〔日〕Nan-ke-kyō-hō-tsu-in. (支)Nan-hua-ching-fa-yin. ❷存〕 唐三山宗十禅寺僧 ❸宝暦八刊 ❹〔高大〕〔国書〕

南華真経新文科記 ❶〔日〕Nan-ke-shin-kyō-narabini-sak-ki. ❷存〕 西郊叢刊後五元録

南京新分門集行在天子国教令 唐図書 ❶〔日〕Nan-kei-shū-sha-mo-m-mū-gyō-zai-ten-jiku-koku-chi-ō-tō-koku-sho. (支)Nan-ching-chou-sha-mên-wu-hsing-tsai-t'ien-chu-kuo-chih-yü-t'ang-kuo-shu. ❷1卷 ❸〔参考〕 日本国来朝宋人宋来渡日録〕 人宋僧来朝渡日録

南京録録書 ❶〔日〕Nan-kei-ken-sho. ❷1卷 ❸存〕 唐僧来日上陸口記之事録 ❹明治〔天明三—明治元 A. D. 1783—1873〕 ❺〔高大〕〔高大〕

南京書目書 ❶〔日〕Nan-kei-kem-paku-sho. ❷1卷 ❸存 ❹明治〔天明三—明治元A. D. 1783—1873〕 ❺書録〕 宋書〕 ❻〔高大〕〔高大・二九七〕

南京書籍図書目 ❶〔日〕Nan-gen-zen-ji-shi-rin-shū. 玄林集 ❷六卷 ❸存 ❹南源禅寺〔寛永八—元禄元A. D. 1631—1692〕 南源禅寺 ❺寛永三刊 ❻〔高大〕

南国北国 ❶〔日〕Nan-ko-hoku-rai. ❷1卷 ❸存 ❹日蓮聖日〔一貞享元年A.D. 1664—〕 ❺元禄一五刊 ❻〔高大〕

南国巡幸記 ❶〔日〕Nan-goku-jun-rei-ki. ❷1卷 ❸存 ❹宋南巡幸記 ❺大正五刊 ❻〔宋大〕一〇四・五〇〕

南山宗鏡行實 ❶〔日〕Nan-zan-o-shō-gyō-jitsu. 南山宗鏡行実 南山宗鏡行実行実 ❷1卷 ❸存〕 鏡島善雄 ❹大乗〔行実〕 ❺宋寛保二年刊 ❻〔高大〕〔高大〕

南山宗鏡行実と宋国教令十一 南山宗鏡行実と宋国教令十一 南山宗鏡行実行実と宋国教令十一 南山宗鏡行実と宋国教令十一 南山宗鏡行実と宋国教令十一 南山宗鏡

南山祖師語録讃文 ❶(日)Nan-zan-so-shi-rai-sam-mon. (支)Nan-shan-tsu-shih-li-tsan-wên. ❷1卷 ❸存〔卍續二乙・三・一〕 ❹宋李邕仁撰(淳化三—治平元年A. D. 992—1064)頃

❺李邕は「南山祖師語」に就き、李川仁治が「南山和尚語録」に依りて作りたるものなるべし。定説の説話は李邕の「南山法師碑」、「南山和尚語録」の南山文は南山の自作なりとの説あるべし。本書の用語は定説の説話にあるべし。

南山文は南山の自作なりとの説あるべし。本書も先づ南山。水に南山一十日。水に南山一十日。水に南山一十日

題、二十八祖説の問題等の重要なものがある。（大久保堅璃）

南詢撮要 ❶(日)Nan-jun-satsu-yō. ❷一卷 ❸存 ❼(参考) 禪籍目録

南詢錄 ❶(日)Nan-jun-roku. (支) Nan-hsün-lu. ❸存 ❹明語錄 ❺萬曆二七刊 ⑮(内閣)

南條、井上、村上、三博士佛教講演集 ❶(日) Nan-jō, inoue, mura-kami, san-haka-se-buk-kyō-kō-enshū. ❸存 ❹文明堂編 ❺明治三五刊 ⑭(谷大、鈴洋・一三二)

南條文雄自叙傳 ❶(日) Nan-jō-bun-yū-ji-jo-den. ❷一卷 ❸存 ❹南條文雄(嘉永二—昭和二 A. D. 1849—1927) ❺大正一三刊 ⑭(谷大、外小・一八三)

南條兵衛七郎殿御書 ❶(日)Nanjō-hyō-e-shichi-rō-dono-go-sho. 慰勞書 ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之内 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永元(A. D. 1264)十二月 ⑮日蓮が其の信者南條兵衛七郎に與へた書。

病氣見舞に併せて、世間の無常なこと、後世を大事と思ふべきこと、其れには主師親三德具足の本師釋尊の教に遵ふべきこと、其の教は法華經であること、末法の今時は法華經のみ利益あること、並に教・機・時・國・序の五綱等につき懇切に論してある。

❼(参考) 錄内啓蒙二八、錄内扶老一〇、錄内拾遺五等（馬田行啓）

南眞經寺藏書目錄 ❶(日) Nanshin-kyō-jī-zō-sho-mokuroku. ❸存 ❺文化一〇寫 ⑭(立大、D二・五)

南石和尚語錄 ❶(日)Nan-seki-oshō-go-roku. (支)Nan-shih-ho-shang-yü-lu. 南石文琇禪師語錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二九・二 ❹明南石文琇 (一永樂元 A. D. 1403—) 語、宗議等編 ❺崇禎一七刊 ⑭(駒大)

南石文琇禪師語錄 ❶(日) Nanseki-bun-shū-zen-shi-go-roku. (支) Nan-shih-wen-hsiu-ch'an-shih-yü-lu. 南石和尚語錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二九・二 ❹明南石文琇 (一永樂元 A. D. 1403—) 語、宗議等編 ❺崇禎一七刊 ⑭(駒大)

南石和尚語錄 ❶(日)Nan-seki-oshō-go-roku. (支)Nan-shih-ho-shang-yü-lu. 南石文琇禪師語錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二九・二 ❹明南石文琇 (一永樂元 A. D. 1403—) 語、宗議等編 ❺崇禎一七刊 ⑭(駒大)

南詢錄 ❶(日)Nan-jun-roku. (支) Nan-hsün-lu. ❸存 ❹明語錄 ❺萬曆二七刊 ⑮(内閣)

南條、井上、村上、三博士佛教講演集 ❶(日) Nan-jō, inoue, mura-kami, san-haka-se-buk-kyō-kō-enshū. ❸存 ❹文明堂編 ❺明治三五刊 ⑭(谷大、鈴洋・一三二)

南條文雄自叙傳 ❶(日) Nan-jō-bun-yū-ji-jo-den. ❷一卷 ❸存 ❹南條文雄(嘉永二—昭和二 A. D. 1849—1927) ❺大正一三刊 ⑭(谷大、外小・一八三)

南條兵衛七郎殿御書 ❶(日)Nanjō-hyō-e-shichi-rō-dono-go-sho. 慰勞書 ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之内 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永元(A. D. 1264)十二月 ⑮日蓮が其の信者南條兵衛七郎に與へた書。

病氣見舞に併せて、世間の無常なこと、後世を大事と思ふべきこと、其れには主師親三德具足の本師釋尊の教に遵ふべきこと、其の教は法華經であること、末法の今時は法華經のみ利益あること、並に教・機・時・國・序の五綱等につき懇切に論してある。

❼(参考) 錄内啓蒙二八、錄内扶老一〇、錄内拾遺五等（馬田行啓）

南石和尚語錄 ❶(日)Nan-seki-oshō-go-roku. (支)Nan-shih-ho-shang-yü-lu. 南石文琇禪師語錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二九・二 ❹明南石文琇 (一永樂元 A. D. 1403—) 語、宗議等編 ❺崇禎一七刊 ⑭(駒大)

南石文琇禪師語錄 ❶(日) Nanseki-bun-shū-zen-shi-go-roku. (支) Nan-shih-wen-hsiu-ch'an-shih-yü-lu. 南石和尚語錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二九・二 ❹明南石文琇 (一永樂元 A. D. 1403—) 語、宗議等編 ❺崇禎一七刊 ⑭(駒大)

南泉普願禪師語錄 ❶(日) Nan-sen-fu-gwan-zen-shi-go-roku. (支) Nan-ch'üan-p'u-yüan-ch'an-shih-yü-lu. ❸存、卍續二・二三・二 ❹唐南泉普願語 ⑮馬祖道一禪師の法嗣として、百丈懷海、西堂智藏と共に馬祖門下の三大士と尊崇せられ、其の活作略と道業とは禪林に喧傳されて居る池州(江南)南泉院普願禪師の上堂語並に示衆を輯めたものである。綾藏本には題南泉和尚語要と題する宋の圓悟克勤禪師の題語が附せられて居る。

其の示衆に「眞如一如。潛行密用。無人覺知呼爲滲智。亦云無滲不可思議等。空不動性。非生死流。道是大道無礙涅槃。妙用自足。始於一切行處而得自在。」と云ひ、或は大道無形、眞理無對なり、所以に見聞覺知に屬せず、蟲細の想無しとも說破して居る。（大久保堅璃）

南贍部洲萬國掌菓之圖 ❶(日) Nan-sem-bu-shū-ban-koku-shō-kwa-no-zu. ❷一軸 ❸存 ❹浪華子 ❺寶永七刊 ⑭(龍大、別置)

南禪開山國師行狀 ❶(日) Nanzen-kai-san-koku-shi-gyō-jō. 南禪開山大明國師無關普明和尚行狀 ❷一帖 ❸存 ❼(参考) 禪籍目録

南禪舊記略 ❶(日)Nan-zen-kyū-ki-ryaku. ❸存 ❹竺隱宗五 ❼(参考) 禪籍目録

南禪寺偉觀 ❶(日) Nan-zen-ji-kwan. ❷一卷 ❸存 ❹烟道温編 ❺明治二八刊 ⑭(谷大、鈴大・三八五三)(龍大、二九七四・四〇)(駒大)(京大、一・二二ナ・一)(帝國・一一〇、五六)

南禪寺記 ❶(日)Nan-zen-ji-ki. 天下南禪寺記 ❷一卷 ❸存、群書類從第一五 ❹大用有諸 (一應永頃 A. D. 1394—1427—) 記 ⑮天下南禪寺記の下を見よ。 ❼(参考) 日本禪林撰述書目

南禪寺誌稿 ❶(日)Nan-zen-ji-shi-kō. ❷一卷 ❸存 ❹烟道温編 ❺明治二八刊 ⑭(駒大)(帝國、四〇、一八)

南禪寺常住諸回向疏 ❶(日) Nan-zen-ji-jō-jū-sho-e-kō-narabini-sho. ❷一卷 ❸存 ❹玄賢 ⑭寫本(龍大、二六七六・一五)

南禪寺とその師檀塔 ❶(日)Nan-zen-ji-to-sono-shi-dan-tō. ❷一册 ❸

存 ❹井上義圓編 ❺昭和二刊 ⑭京都南禪寺

南禪寺入寺記 ❶(日)Nan-zen-ji-nyū-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(参考) 禪籍目録

南禪寺歷代住持位簿 ❶(日)Nan-zen-ji-reki-dai-jū-ji-i-bo. ❷一卷 ❸存 ❼(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

南禪禪寺月中須知 ❶(日) Nan-zen-zen-ji-getsu-chū-shu-chi. ❷一卷 ❸存 ❹玄賢 ❺文明一一寫 ⑭(龍大、二六七六・一五)

南禪入寺記錄 ❶(日)Nan-zen-nyū-ji-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ❹竺隱 ❼(参考) 禪籍目録

南宋元明禪林僧寶傳 ❶(日)Nan-sō-gen-min-zen-rin-sō-bō-den. (支) Nan-sung-yüan-ming-ch'an-lin-seng-pao-ch'uan. ❷十五卷 ❸存、卍續二乙・一〇・四 ❹清自融撰、惟謙補輯

⑮本書は南宋元明に於ける禪門尊宿の行業並に機緣の語要を輯めた叢傳である。時代は南宋高宗帝建炎元年より明の永曆元年(即ち清世祖帝順治四年 A. D. 1127—1648)に至る大約五百二十年間に渉るものであり、蒐錄せられたる尊宿は、青原下十三世宏智正覺、眞歇清了等より三十五世博山無異元來、湛然圓澄等に及ぶもの並に南岳下十五世佛燈守珣、虎丘紹隆等より三十三世天童山密雲圓悟、磐山天隱圓修、徑山語風聲雪嶋圓信等に及ぶものである。尙ほ拾遺として南岳下二十七世吹萬廣眞示附せられて居る。

編者は弘覺末陳道悉禪師の法嗣、南岳下三十五世、紫籟山瑞雲寺幻輝自融和尙であり、其の法嗣性磊をして是れに補輯せしめたもので校訂者は林友王である。自融の編するところ六十九、性磊の補輯二十八、拾遺一總計九十八尊宿を收めたものである。綾藏本に依つて其の編次を見るに、

卷首に(一)清康熙十六年七月閩浙の(福建興化府莆田縣)林友王の序、(二)古閩霍童(福建福寧府寧德縣)の崔榮鏡の序、並に自融の自序。卷末には(一)清康熙三年佛成道日(A. D. 1664)性磊の跋、及び(二)清康熙二十四年九月(A. D. 1685)明慧和尙が對校して再版した重刻附寶傳記を收め、本書の變遷を知らしめて居る。

(巻一) (一)佛燈守珣。(二)圓通眞際德止。(三)智通景深。(四)龍牙智才。(補一)性空妙善。(補二)龍翔竹菴士珪。(巻二) (補三)道吼首座。(補四)世奇首座。(五)護國此菴景元。(六)或菴師體。(補五)文殊心道。(補六)宏智正覺。(七)眞歇清了。(巻三) (八)虎丘紹隆。(九)應菴曇華。(補七)大慧宗杲。(十)徑山大禪了明。(補八)育王鐵裕。(補九)道場法全。(補十)華藏有機。(巻四)(補十一)道場明辯。(補十二)烏巨雪堂道行。(十一)慈化普菴印肅。(十二)天竺佛堂守仁。(補十三)靖堂慧遠。(十三)湖經道濟。(巻五) (十四)密菴咸傑。(十五)育王笑翁妙堪。(補十四)華藏密印安民。(補十五)徑山別峯寶印。(十六)道林淵。(十七)百梁法順。(十八)徑山楚石梵琦。(巻六) (十九)松源崇岳。(二十)忠州藥雲欣萬廣眞(一作應眞)。

(二十一)徑山無準師範。(巻七) (二十二)徑山無準師範。(二十三)北磵居簡。(巻七) (二十四)徑山無準師範。(二十五)別山祖智。(二十六)淨慈斷橋妙倫。(二十七)徑山癡絕道沖。(二十八)天目文禮。(二十九)天童長翁如淨。(補二十)上都華嚴寺全一至温。(巻八) (三十一)北平慶壽海雲印簡。(三十二)徑山雲峯妙高。(三十三)靈雲嶺牛特定。(三十四)說堂祖開。(三十五)匡廬一山了萬。(三十六)高峯原妙。(巻九) (三十七)中峯普應國師明本。(三十八)仰山佛智元照。(三十九)笑隱大訢。(四十)雪寶無印大證。(四十一)斷崖了義。(巻十) (四十二)元叟行端。(四十三)石屋清珙。(四十四)徑山虛舟普度。(四十五)孚中懷信。(四十六)楚石梵琦。(四十七)無庵智及。(四十八)夢堂曇噩。(四十九)古梅正友。(巻十一) (五十)伏龍千晨元長。(補二十一)龍池一源永寧。(補二十二)蹇水寶金。(補二十三)烏石傑峯世傑。(補二十四)古那祖能。(五十一)天界白菴力金。(五十二)性原慧明。(巻十二) (補二十五)雪峯逆川智順。(五十三)萬峯時蔚。(四十四)虛白慧昌。(五十四)東山海舟永慈。(補二十六)鐵林白雲智度。(五十五)瑞巖想中無慍。(補二十七)松隱小茂。(巻十三) (補二十八)平峯大圭正瑫。(五十七)天界瑩原慧雲。(五十八)季潭宗泐。(補二十九)海門天眞惟則。(五十九)雲居吳菴敬中普莊。(六十)楚山祖琦。(巻十四) (六十一)龍州龍泉無聞明聰。(六十二)吳嚴月心德寶。(補二十一)龍池幻有正傳。(補二十二)幻也佛慧。(六十三)法舟道濟。(補二十三)敬叔無趣如空。(六十四)壽昌無明慧經。(巻十五) (六十五)博山無異元來。(六十六)漢然圓澄。(六十七)天童密雲圓悟。(六十八)磐山天隱圓修。(六十九)徑山語風聲雪嶋圓信。拾遺 (一)忠州藥雲欣萬廣眞(一作應眞)。

❹寫本(京大、藏・一九ナ・二) (大久保堅璃)

南窓小部集 ❶(日)Nan-sō-shō-bu-shū. ❷一卷(巻二—四缺) ❸存 ❹道隱 ⑮(巻一)本顯成就文聽記。閑窓法話。一念覺知有無論。成就文殊錄。

❹寫本(龍大、一〇四・二七)

南窓塵壺 ❶(日)Nan-sō-chin-tsubo. ❷一卷 ❸存 ❹知空 (寛永一一—享保三 A. D. 1634—1718)

⑮淨土眞宗教典志第二に曰く「正德三癸巳五月成。就て安心・設・三十一條問答」云々。

❹正德三刊 (正大、一〇九・九八) 寛政五刊 (谷大、宗大・一二三二)(龍大、一七五・八六)

南窓夜話 ❶(日)Nan-sō-ya-wa. ❷一卷 ❹凌雲作 ⑮享保二〇 (A. D. 1735)

⑮淨土眞宗教典志第二に曰く「享保二十年六月。京淨寺凌雲作。彈了自知・獲信業成時日・之妄計」云々。

南朝寺殃 ❶(日)Nan-chō-ji-kō. ❷六卷 ❸存 ❹劉世珩 ❹(龍大、研史)

南天形音義 ❶(日) Nan-ten-gyō-on-gi. ❷一卷 ❸存 ❹亮柴記 ❹寫本(妙法院)

南天形音義 ❶(日) Nan-ten-gyō-on-gi. ❷一卷 ❸存 ❹沒舜記 ❹寫本(十妙院)

南天竺國菩提達磨禪師觀門 ❶(日) Nan-ten-jiku-koku-bo-dai-dara-ma-zen-ji-kwan-mon. (支)Nan-tien-chu-kuo-p'u-t'i-ta-mo-ch'an-shih-kuan-men. ❷一卷 ❸存、大正八五・一二七〇No. 2832

⑮本書は燉煌出土本で、其の影印は「鳴沙餘韻」の中に收められ、矢吹博士によつて

❶數字略號 ❷題名(書名) ❸卷數 ❹缺存 ❺著者 ❻年代 ❼年作著 ❽內容說解 ❾書式 ❿書注(註釋書參考書) ⓫寫本(名寫書)表記所現 ⓬月年の刊 ⓭寫本 ⓮所行發

解説されて居る。其の内容は七種の觀門（第一住心門、第二空心門、第三無相門、第四心解門、第五禪定門、第六菩妙門、第七智慧門）を力説したもので、附するに大乘念佛は十種の功德を得と説いて居るが、其の僞撰であることは「禪定者梵音、此名功德聚林」と云ひ、禪那の略と、其の漢語の義譯の定との兩音を以て梵音なりとし、譯語は舊譯に依り、更に同文中に「禪定者、西域梵音唐言淨慮」と云ひ、新譯の靜慮の音通を併用し且つ唐に靜慮を言ふと云ふが如きは、何人を以てしても其の僞撰なることは明かである。

僞撰者は唐以降の人であり、且つ禪淨相關の時代思潮に深い關心を持つた人であることは念佛十種功德を説くことに依つて推知せられる。即ち本書は禪思想上の參考といふよりも禪淨相關思想の研究には興味ある資料と云ふべきである。（大久保良瑞）

南天竺婆羅門僧正碑 ❶(日)Nan-ten-jiku-ba-ra-mon-sō-jō-hi. 南天竺波羅門僧正碑文 ❸存、大正五一・九八七Z.2595. 遊方記抄之内、群書類從第四、新校群書類從第四 ❹修榮撰 ❺神護景雲四(A.D. 770)

❺本碑銘はその名の示すが如く、南天竺婆羅門僧正（菩提僊那）の行狀を摘記するもの。撰者修榮は碑銘の後に「故婆羅門僧正入室弟子傳燈住位僧修榮」と自署してゐる。修榮の傳は「本朝高僧傳」（師禪撰）卷四に收む。碑銘を撰したのは神護景雲四年四月二十一日で、僧正が來朝（天平八 A.D. 736）してから三十五年以後、即ち僧正の減後僅かに十一年である。しかも平素隱化した入室の弟子が自ら筆を執つたものである以上、その總てとは云はざるまでも、甚だ信ずべき文獻であることを敢て贊するにも及ぶまい。

❼(注釋) 南天竺婆羅門僧正碑註（性空撰）（前田聽瑞）

南天竺波羅門僧正碑註 ❶(日) Nan-ten-jiku-ba-ra-mon-sō-jō-hi-chū ❸存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ❹性空撰 ❺元祿九(A.D. 1696)

❺本碑註はその名の示すが如く南天竺婆羅門僧正（菩提僊那）の碑銘を註釋せるもの。

結構は(イ)題目(ロ)本文より成る。本文は(一)序(二)贊に分かれ、更に序に於て七段(1)佛法東漸(2)僧正西來(3)來朝本國(4)行基迎接(5)獄中僧正德(6)入滅遺囑(7)述撰貴意を問ひ、贊に於ては六段(1)法身應現(2)那武弘法(3)僧正感德(4)行基禮贊(5)僧正入滅(6)寫像懺悔を設けて遂次に註釋を施してゐる。元祿十年七月、東大寺の公慶は本碑註に序して「此文或得古藏中二三傳而入律師（性空）手、律師大賞如得拔擢校閲訂正、而今有此草稿。僧正千歲隱沒之跡、今日亦得顯現世間。律師之有功乎僧正、其大者可知矣。僧正於大寂光中、豈不動喜色乎。」と嘆じてゐる。尙、公慶の序の外に、宗覺及び弟子の寶國の序がある。序に「大日本佛教全書」（遊方傳叢書第一）には「校訂者云」として「性空著婆羅門僧正碑註八元祿十一年五月京都武村市兵衛開板ノ一本ヲ存スルノミ。他ノ寫本ヲ發見セズ。故ニ版本ノ原形ヲ存シ多ク改ムル所ナシ。」と附記してゐる。（前田聽瑞）

南天竺般若菩提悉曇一十八章 ❶(日)Nan-ten-jiku-han-nya-bo-dai-shit-tan-ichi-jū-has-shō. ❸安然（承和八—延喜年間 A.D. 841—931—）撰 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述書目集卷下

南天竺般若菩提悉曇章 ❶(日) Nan-ten-jiku-han-nya-bo-dai-shit-tan-shō. ❸安然（承和八—延喜年間 A.D. 841—901—）❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

南天鐵塔法 ❶(日)Nan-ten-tet-tō-hō. ❷一帖 ❸存 ❺鎌倉末期寫 ❾(高大、寄・一・六五)

南天棒行脚錄 ❶(日)Nan-ten-bō-an-gya-roku. ❷一册 ❸存 中原郭州（天保一〇—大正一四 A.D. 1839—1925）

❺大正一〇刊 ⑩東京大阪屋號書店

南天棒禪話 ❶(日) Nan-ten-bō-zen-wa. ❷一卷 ❸存、禪學文庫第一〇 ❹中原郭州（天保一〇—大正一四 A.D. 1839—1925）詩 ❺大正四刊 ⑩東京丙午出版社

南天棒禪話集 ❶(日)Nan-ten-bō-zen-wa-shū. ❷一卷 ❸存 ❹中原郭州（天保一〇—大正一四 A.D. 1839—1925）

❺昭和二刊 ⑩東京中央出版社

南都叡山戒勝劣記 ❶(日)Nan-to-ei-zan-kai-shō-retsu-no-ki. 南都叡山戒勝劣事 ❷存、日本大藏經戒律宗章疏第二、大日本佛教全書第一〇五 ❹貞慶（久壽二—建保元 A.D. 1155—1213）記

南都叡山戒勝劣事 ❶(日)Nan-to-ei-zan-kai-shō-retsu-no-koto. 南都叡山戒勝劣記 ❷一卷 ❸存、日本大藏經戒律宗章疏第二、大日本佛教全書第一〇五 ❹貞慶（久壽二—建保元 A.D. 1155—1213）

❺年代未詳

❻本書撰出の由來は、我國聖武天皇の勅定に依り、天下に四所の戒壇を築き、僧尼受戒出家の威儀を見せしむる場所と定め來りある所、其の後傳教大師出て南都の戒壇は一向小乘人受戒壇なる故一向大乘戒壇建立の義の出願に對し、南都の先統より義錄の申請に及びたるに對し、傳敎は圓戒論三卷を撰みは以て其義錄を通釋し、終に勅許を得て一向大乘戒壇建立し受戒の擧行これあるより、南都衆徒特寂夏安居中の論議となして其の大小を研究あるも決にして、空數年月を送り來る所、鑒眞大德興福寺内に常寮院を建立し、以て律學の依所と爲し、二十人の律學僧を置き、專門に大小律儀を研究せしむ、其結果南都戒壇は大乘戒壇にありて、北嶺の戒壇に勝るに一決せしより、大衆の懇請に應じ上人執筆し留め置れたるものと傳ふのである。故に上人常寮院に御在住内の執筆にあること、上人は承元二年海住山寺に移住す、依て此書は承元二年以前の作なること明かである。

當書の内容は、始め南都の比丘戒を受けざる者は比丘僧に非ず在家に屬すべき由を

明し、永に鑑眞大和上結作の受戒壇は大乘戒壇にありて、一向小乘戒壇に非ず、天竺月氏共許の古式に基く戒壇なり、故に勝る、北嶺の戒壇は唯傳敎の新義に出て佛說に依るに非ず、故に劣る、由を明すにあり、南都北嶺兩戒壇建立の研究上、大に參考に足る良書である。（北川智海）

南都高僧傳 ❶(日)Nan-to-kō-sō-den. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇一

❻奈良平安兩朝にかけて南都に關係ある諸高僧の傳及び諸系譜を交へて一卷となせるもの。

南都七大寺緣起 ❶(日) Nan-to-shichi-dai-ji-en-gi. ❷六卷 ❸存、國文東方佛教叢書第二輯第六卷 ❹實叡

❺本書は建久二年(A.D. 1191)十二月、後鳥羽天皇の皇后藤原入道遊されて南都諸寺の巡禮せらるゝに方り、實叡に之を記せしめらるゝものといふ。

内容は東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺、西大寺、法隆寺等の南都七大寺の他、法華寺、唐招提寺、當麻寺、長谷寺、新藥師寺、超昇寺等に關する創立由來を述べてゐる。

❿原本（大阪久原文庫）

南都七大寺大鏡補輯 ❶(日)Nan-to shichi-dai-ji-ō-kyō-hō-shū. ❷一卷 ❸存 ❺昭和四刊 ⑩奈良七大寺大鏡發行所

南都七大寺巡禮記 ❶(日)Nan-to-shichi-dai-ji-jun-rei-ki. ❷上卷（幾岡一卷） ❸存、大日本佛教全書第一二〇、續々群書類從第一一

❻本書は東大寺、大安寺、西大寺、興福寺、元興寺、招提寺、法隆寺の七大寺を始め他數ケ寺の堂塔、安置佛、所藏物等に就て說明したる南都一部の舊史にして、享德元年(A.D. 1452)古記を以て書寫せらるといふ。

異本奥書に伴上卷舊本傳聞藏在大乘院御文庫未詳作者焉云々とあり、卷末に作者考ともいふべき一說に、恐らく琳尊僧正の手に出づるかと稱してゐる。

南都拾五大堂五壇護摩圖及結願作法 ❶(日)Nan-to-jū-go-dai-dō-go-dan-go-ma-zu-oyobi-kechi-gwan-sa-hō. ❷二紙 ❸存 ❺足利時代寫 ⑨(寶龜院)

南都石佛巡禮 ❶(日)Nan-to-seki-butsu-jun-rei. ❷一卷 ❸存 ❹西村貞 ❺昭和四刊 ⑨(正大、一〇五・七一三)(立大、B一六・一〇七) ⑩東京太平洋書房

南都僧俗職服記 ❶(日)Nan-to-sō-zoku-shoku-fuku-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七三 ❹上司延興

❻内容を僧侶、法服、袈裟、見裝束、諸具、僧役とし、更に諸名目に分つてその初例制規等を說明したるもの。

本書製作については文政十一年延寅の記に「亡父故三位延興卿所編集敢不可出文庫稿成不遂清書納東寮爲子孫疊惜者也」とあるを以て知る。

南都大佛供養物語 ❶(日)Nan-to-dai-butsu-kū-yō-mono-gatari. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二一 ❹慶宣記

❺文明一七(A.D. 1479)五月

❻此物語は建久六年(A.D. 1195)三月の東大寺供養の際、法然上人が勅朝の請ひに依り說法されたことに假託して大いに淨土念佛門の教旨特に女人往生のことを宣揚したものである。上人が此供養に參列して說法されたことは事實として信憑し得ざる所で此物語の構想はかの大原談義のそれに類似するものがあり、恐らくは淨土門の要旨に關する碧潭某の請問に任せて筆者の創意に成るものであらう。文明十七年五月十五日の慶宣の記す所である。

❺天文六刊 ⑨(正大、一五四・三六六)（不破脇雄）

南都大佛殿緣起 ❶(日) Nan-to-dai-butsu-den-en-gi. 東大寺大佛殿緣起 ❷一册 ❸存 ❹墨憲(—天明元 A.D. 1781—記) ❺天明三刊 ⑨(京大、一・二ナ・二)(谷大、餘 大・二六〇三)(帝國、一三九・一六九)

南都天界寺募田疏 ❶(日)Nan-to-ten-kai-ji-bo-den-sho. ❸存 ⑨寫本（龍大、一九七一・六〇）

南都東大寺戒壇院略緣起 ❶(日)Nan-to-tō-dai-ji-kai-dan-in-ryaku-en-gi. ❸存、大日本佛教全書第一二二東大寺叢書第二

❻本書は東大寺戒壇院の創立由來及びその略歷を記すものである。最初に天平十三年(A.D. 741)の聖武天皇の御發願によつて、東大寺を初め諸國の國分寺同尼寺の創立、並びに天平勝寶六年(A.D. 754)に唐大明寺の鑑眞和尙來朝し、翌七年に東大寺戒壇院創建された由來を述べてゐる。次いで當寺の盛衰變遷を叙し、先づ治承四年(A.D. 1180)の兵火に遭つたのを源頼朝の庇護により勸進僧西迦等が諸堂を再建した事、續いて海龍王寺の實相房圓照上人を當寺の長老に請じて大いに律法の興隆を圖つたこと、圓照が當寺を凝然國師に附屬し國師能く後宇多院の崇敬を受けて華嚴宗の弘通につとめたことなどを記し、更に禪爾以下惣圓に至る歷代住持を擧げてゐる。次に文安三年(A.D. 1446)に再度炎上したのを足利義政（義敎とあれど義敎は嘉吉元年に殁してゐるから義政の誤なるべし）の戒壇復興、文龜永正年間能範上人の請堂宇再建の事を記し、其の後永祿十年(A.D. 1567)十月に三度び兵火に罹り、久しくその復舊成らずして衰微したのを、享保十年(A.D. 1725)に新禪院成慶阿闍梨之が再興を發願し、江府靈雲寺の惠光律師を請じて大いに律儀を興隆せしめ、遂に享保十八年の二月二十日から二十二日迄の三日間落慶の大法會が營まれるに至つたことなどを記し、特に此の法會中に於ける第二日の別受大戒會及び第三日の講讃梵網會は共に久しく廢絶してゐたものが今度復舊されたものであると言つて居る。最後に附錄として「登壇受戒王臣交名」及び「寶物」が收載されてゐる。本書の撰者は詳かでないがその年代は内容から推して永享十八年二月の大法會直後のもの

【ナ】

と見てよいであろう。（天理図書館）

南都書紀寺院寺院録　❶(日)Nan-to-tō-shō-dai-ji-ryaku-roku. ❷巻. ❸存. 大日本史編纂全書第一｜八。今日の南都寺院の沿革を考証して、寺院の建立、寺領の変遷、寺の盛衰、寺の由来を記す。（天理図書館）

南都西京薬師寺縁起　❶(日) Nan-to-nishi-no-kyō-yaku-shi-ji-zō-sho-moku-roku. ❷1巻. ❸存. ❹〔参考〕大日本史編纂全書所収薬師寺目

南都西之京薬師寺縁起　❶(日) Nan-to-nishi-no-kyō-yaku-shi-ji-ryaku-en-gi. ❷1巻. ❸存. ❹〔延天〕二九七四・一七。

南都諸寺縁起　❶(日)Nan-to-fuku-rō. 西京名所目録抄　❷1巻. ❸存. ❹平本（宝天・享・一・一一）〔延天〕二六二・九・九〔宝暦〕〔寛天〕一九・一一〇〕天理元禄（寛天・享・一一三〇）天理元禄（寛天・享・一一〇六三）

南都法華寺縁起　❶(日) Nan-to-hō-ryū-ji-en-gi. ❷1巻. ❸存. ❹宝天（寛永）

南都北朝院寺法隆記　❶(日)Nan-to-hoku-rei-ryō-ji-hō-buku-ki. ❷1巻. ❸存. 大日本史編纂全書第七回収録寺院の沿革を明記す。

南都諸寺　❶(日)Nan-to-ron-sō. ❸存. ❹宝平（宝天・享・一・一九六八）

南京記　❶(日)Nan-dō-ki. ❹〔参考〕本朝古三国記巻第巻第巻目

南京大学　❶(日) Nan-dō-shi-dai. ❷四巻. ❹写本（延仁五—貞享三）A. D. 814—891）❹〔参考〕本朝古三国記巻第巻第巻目

南京大学図界　❶(日)Nan-dō-shi-dai-ryō-kai. ❷四巻. ❹写本（延仁五—貞享三）A. D. 814—891）❹〔参考〕西京学定巻第巻目、本朝古三国記巻第巻第巻目、南京図巻第巻目、山城国巻第巻第巻目、南京図巻第巻目

南京金石句語録　❶(日) Nan-dō-o-shō-go-roku. (漢)Nan-t'ang-ho-shang-yü-lu. 南唐李先主撰。了庵清欲著。❷1巻. ❸存. 卍続二・二八・四. ❹元延宗（一三六三）A. D. 1363）❹南唐李先主撰語録の下を見よ。❺慶安元年. ❻〔寛天〕・・・一四〕

南京禅語録　❶(日)Nan-dō-kō-zen-ji-go-yō. (漢) Nan-t'ang-hsing-ch'an-shih-yü-yao. ❷1巻. 卍続二・二三・三。南唐石鼓山の僧、清平山の出家、清平山の住持。（南唐石鼓山の僧、清平山の出家、清平山の住持）天正

文、故文、南文、經論令之所造したもの。外に三十四部一百卷あるも、大正十二年刊行の目録に載せず、又南宋の時、天台宗の僧、知禮、法華文句、金光明文句、觀音玄義、觀音義疏、法華玄義、法華玄義釋籤、法華玄義釋籤要、法華玄義釋籤問、法華玄義釋籤問答、法華玄義釋籤問答復古、法華玄義釋籤問答復古正、法華玄義釋籤問答復古總、法華玄義釋籤問答復古通、法華玄義釋籤問答復古通釋、法華玄義釋籤問答復古通釋補、法華玄義釋籤問答復古通釋補正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記、法華玄義釋籤問答復古通釋補正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會正記輔行搜玄記會本末會

の日を以て定めたもので、種・苗・芽の順序は、左の如く定めてある。

天干合合	天種、井初合分・竹初合分・柱初合分・1分	
合干合	合種、地初三分・柱初11分・1分	
歳徳合	木種、井初11分・竹初三分・井初三分	
正勝合	天種、井初合分・柱初合分・地初合分	
月干合	天種、月初1分・柱初1分・月初1分	
歳支合	木種、月初三分・竹初11分・月初三分	
天符合	合種、月初11分・元初三分・正初三分	
天徳合	天種、正初1分・月初1分・合初1分	
人月合	木種、月初1分・月初1分・子初1分	
歳禄合	土種、子初三分・子初11分・天初11分	
歳支合	土種、天初11分・月初三分・正初三分	
歳殺合	木種、正初1分・月初1分・月初1分	

右の天々の初正日に因つて、生れる男女に各々種能禍福、長短貴賤、壽夭吉凶、及び天折等の事を定む。

（中略）

ニ天七

難

ひ、後世の結果を生ずることを免れる可きを説いたものである。種・苗・芽の順序は、左の如く定めてある。

天干合合	天種、井初合分・竹初合分・柱初合分・1分	
合干合	合種、地初三分・柱初11分・月初11分	
歳徳合	木種、井初11分・竹初三分・月初三分	
正勝合	天種、井初合分・柱初合分・地初合分	
月干合	天種、月初1分・柱初1分・月初1分	
歳支合	木種、月初三分・竹初11分・月初三分	
天符合	合種、月初11分・元初三分・正初三分	
天徳合	天種、正初1分・月初1分・合初1分	
人月合	木種、月初1分・月初1分・子初1分	
歳禄合	土種、子初三分・子初11分・天初11分	
歳支合	土種、天初11分・月初三分・正初三分	
歳殺合	木種、正初1分・月初1分・月初1分	

右の天々の初正日に因つて、生れる男女に各々種能禍福、長短貴賤、壽夭吉凶、及び天折等の事を定む。

（中略）

ぶるように、人・動物の三種に種子をうえることを記している。天・地・人・日・月・星・辰・時・年の九星は、天種に、竹・柱・地・月・星・辰・時・年・心・尾の九宿は、地初種に、井・竹・柱・月・星・辰・時・年・天・角・亢・氐・房・心・尾の九宿は、人種に、天々種能禍福、長短貴賤、壽夭吉凶、及び天折等の事を定めたものである。

（中略）

なお、天・人・地・月・日・星・辰・時・年

ho-shi-fum-betsu-tai. ❹一袋 ❺存 ❻
勝川春代筆 ❼〔参考記〕

二教論疏 ❶(日)Ni-kyō-ron. ❷一卷
❸存、慶安川合清重版 ❹医方集 ❺寛
文元刊 ❻〔今天"宗天・二二〇二〕〔慶天"二
六八五・二二二〕

二教論 ❶(日)Ni-kyō-ron. 龍樹菩二
教論、龍菩二教論 ❷二卷 ❸存、大正セ
セ・三七四No. 2427、巻法大師全集第三、東
寺大師遺全集第五二 ❹宗祖(貞観五—永
和二二A. D.774—835)撰 ❺龍樹菩二教論の
下を見よ。 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論引文 ❶(日)Ni-kyō-ron-im-
mon. 二教論引文 ❷十一卷 ❸存
❹倉庫番に曰く「愛宗"顕宗"教"行"証"
ヲ開宗"顕ノ作ナル事。上巻十二卷アリ。但三四教"
ヲ作"ル事ハ、天台宗ノ作ナル事。正法ノ義ヲ立ル
云々。

二教論圓意鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
en-kyō-shō. ❷蓮心寂信撰述 ❸存 ❻〔参考〕
倉庫番

二教論王義疏 ❶(日)Ni-kyō-ron-
ō-gi-sho. ❷八卷 ❸天禄版 ❻〔参考〕
倉庫番

二教論淵玄義 ❶(日)Ni-kyō-ron-
on-chi-hen. 龍樹菩二教論淵玄義 ❷四卷
❸存 ❹浄厳撰 ❺元文五年(A. D. 1740)
❻龍樹菩二教論淵玄義の下を見よ。 ❻〔参考〕
倉庫番

二教論勘文 ❶(日)Ni-kyō-ron-kam-
mon. ❷十四卷 ❸存 ❹源光(法名天一
天承元年A. D.1063—1144)撰 ❻〔参考〕 前
言宗全書刊行廣定書目

二教論記 ❶(日)Ni-kyō-ron-ki. 龍
樹二教論記 ❷八卷 ❸存 ❹顕教(貞元
二一嘉祥元年A. D.1304—1379)撰 ❻〔参考〕
前宗全書第第三、倉庫番

二教論聞書 ❶(日)Ni-kyō-ron-ki-
ki-gaki. ❷八卷 ❹顕密(一番本二〇A. D.
1403) ❻〔参考〕 倉庫番

二教論聞書 ❶(日)Ni-kyō-ron-kiki
-gaki. 二教論聞聞書、知恵鈔、聞書鈔
❷五卷 ❸存 ❹宥快(貞和元一番本二三
A. D. 1345—1416)撰 ❺倉庫番に曰く「正和
記二卷和日下書行之。但、聞書、本文、聞聞
鈔、又、文、和聞鈔、手、文ナリ。 ❻番本三〇倉
❼〔参考記〕

二教論聞書 ❶(日)Ni-kyō-ron-kiki
-gaki. ❷二卷 ❹宗泉(一番本三〇A. D.
1423) ❻〔参考〕 倉庫番

二教論聞書 ❶(日)Ni-kyō-ron-kiki
-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹宗泉作 ❺寛永
写 ❼〔参考記〕

二教論口筆 ❶(日)Ni-kyō-ron-ku-
hitsu. ❷八卷 ❹顕密(貞治二一永文三A.
D. 1025—1115)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論口筆 ❶(日)Ni-kyō-ron-ku
-hitsu. ❷五卷 ❸存 ❹顕教(嘉元二一
延慶元A. D. 1304—1379)撰 ❺二教論体裁
鈔の下を見よ。 ❻明暦三写 ❼〔参考記〕

二教論愚鈔 ❶(日) Ni-kyō-ron-gu
-shō. 龍樹菩二教論愚鈔、龍菩二教論愚
鈔 ❷四卷 ❸存 ❹顕密(嘉暦二一元文二A.
D. 1226—1304)撰 ❻〔参考〕 前宗全書第第
三、倉庫番、倉庫番、 ❼〔参考記〕明暦
二写〔参考記〕

二教論科文 ❶(日)Ni-kyō-ron-kwa
-mon. ❻〔参考〕 倉庫番

二教論下卷鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
ge-kwan-shō. ❷一帖 ❸存 ❹快全(一
番本三二 A. D. 1424) ❺本正七写 ❻〔参
考記〕

二教論下卷論義 ❶(日) Ni-kyō-
ron-ge-kwan-ron-gi. ❷一卷 ❸存 ❹
文安六写 ❻〔参考記〕

二教論永盲 ❶(日)Ni-kyō-ron-ke-
tsu-dō. 龍樹菩二教論永盲、龍菩二教論永
盲 ❷一卷 ❸存 ❹栄松(明和五—天保
八A. D. 1758—1837)撰 ❺文政一〇刊 ❻
(正天"一四三一・二二七"二二〇)(新"は・
二・右・四)

二教論永撰鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kec-chaku-shō. ❷一卷 ❹顕密(貞治二一
永文三A. D. 1025—1115)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論見聞記 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kem-mon-ki. ❷一卷 ❸存 ❹宥本(応
天"宗・一・四四)

二教論所疑鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
ken-kaku-shō. 龍樹菩二教論所疑鈔、龍菩
二教論所疑鈔、二教論疑鈔 ❷十二卷
❸存 ❹実敏(嘉祥元一延徳元A. D. 1306—
1362)撰、九卷以下顕教(嘉元二一嘉慶元A.
D. 1304—1379)ロ
❺実敏、正平七年(A. D. 1352)、正平元年
(A. D. 1354)ニ至ル間、安芸国安芸郡
宗三、倉庫番、 ❻〔参考記〕明暦
二写〔参考記〕

二教論顕密鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
ken-kyō-shō. 龍樹菩二教論顕密鈔、龍菩
二教論顕密鈔 ❷六卷 ❸存、大正セセ・
四二二 No. 2434 ❹顕密(嘉祥二一永文三
A. D. 1025—1115)撰 ❺龍樹菩二教論顕密
鈔の下を見よ。 ❻〔参考〕 倉庫番 ❼〔明
天〔応天"宗・一・四四〕

二教論古貫語々 ❶(日) Ni-kyō-
ron-ko-sō-shu-ju. ❻〔参考〕 倉庫番

二教論事實鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
gō-hō-shō. 二教論法義鈔、龍樹菩二教論
法義鈔、龍菩二教論法義鈔 ❷十卷 ❸存
❹実敏(嘉祥二一延徳元A. D. 1306—1362)
撰 ❺二教論法義鈔の下を見よ。 ❻〔参考〕
(応天"宗・八・天・一・二)

二教論綱要 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
yō. ❷六卷 ❹顕密(延宝七—宝永四A.D.
1679—1747)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論国鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kō-koku-shō. 二教論国鈔、知恵鈔、知恵
鈔 ❷五卷 ❸存 ❹宥快(貞和元一番本二
三A. D. 1345—1416)撰 ❺倉庫番に人鈔(貞
治元)文安六写文安六写(応天"宗・一・四四)
(応天"宗・一・四四)

二教論講義 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
en. 龍樹菩二教論講義 ❷七卷宝三卷 ❸
存 ❹浄厳和尚(元禄二一享保元 A. D.
1698—1755)撰 ❺寛永(応天"宗・一・四四)

二教論講演 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
yoku. 龍樹菩二教論講演 ❷六卷 ❸存
❹元禄(寛永二一文政九 A. D. 1756—1826)
撰 ❺宥本(新撰記)

二教論問答鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kō-yō-shō. ❷二卷 ❹顕密(永延元一貞和
二A. D. 1165—1223)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論環鎖鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
satsu-gi-shō. 龍樹菩二教論環鎖鈔、龍菩二
教論環鎖鈔 ❷三十卷宝六卷 ❸存 ❹慶
恵(貞永二一〇一寛保一〇 A. D. 1643—1725)
撰 ❻〔参考〕 倉庫番、前宗全書刊行廣定書
目

二教論義要 ❶(日)Ni-kyō-ron-sann
-yō. ❷一卷 ❹四宗論義 ❺安永年中(A.
D. 1772—1779)作 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論私記 ❶(日)Ni-kyō-ron-shi
-ki. ❷六卷 ❸存 ❹顕密(嘉祥二一貞和
二A.D. 1674—1742)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼本体一九写 ❽〔応天"一・四四〕

二教論私示 ❶(日)Ni-kyō-ron-shi
-ji. ❷二卷 ❹宗泉 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論指示鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
shi-kō-shō. 龍樹菩二教論指示鈔 ❷五卷
❸存、即称指之鈔 ❹顕密(嘉暦二一永文元
二A. D. 1226—1304)撰 ❻〔参考〕 前宗全書
第第三、倉庫番 ❼明本(正天"一四三一・
三九"二二一一二二〇)(新"ま・八・中・天)
(応天)宥本二二写(新撰記)本正五四写(倉庫
記)

二教論指示鈔記 ❶(日) Ni-kyō-
ron-shi-kō-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹安永
❺二教論指示鈔を見に註せるもの。

二教論指事 ❶(日)Ni-kyō-ron-shi
-ji. ❷一卷 ❸存 ❹宗泉(一番本三〇A.
D. 1423)ロ ❻〔参考〕 倉庫番 ❼文安三
写 ❽〔倉庫記〕

二教論指要鈔 ❶(日) Ni-kyō-ron
-shi-yō-shō. 龍樹菩二教論指要鈔 ❷四卷
❸存 ❹浄能(寛永一六一元禄一五 A. D.
1639—1702)撰 ❻〔参考〕 倉庫番 ❼宥
本(応天"宗・一・四四)

二教論紗羅羅鈔 ❶(日) Ni-kyō-
ron-sha-ga-ra-shō. ❷一卷 ❸存 ❹浄
能(寛永一六一元禄一五 A. D. 16.9—1702)
撰 ❻〔参考〕 倉庫番、前宗全書刊行廣定書
目

二教論手鏡鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
shu-kyō-shō. 龍樹菩二教論手鏡鈔 ❷三卷
❸存 ❹浄厳(元禄二一享保元 A. D. 1306—1362)
撰 ❺二教論法義鈔の下を見よ。 ❻明本
(応天)〔新"ま・八・天・一・二〕

二教論聚鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-tan-
kai-ki. ❷四卷 ❸存 ❹顕密(応天元
一文永元A. D. 1204—1268) ❻〔参考〕 倉
庫番、前宗全書刊行廣定書目

二教論談意 ❶(日)Ni-kyō-ron-dan
-jin. ❷四卷宝六卷 ❸存 ❹慶恵(一正徳
元A. D. 1715)撰
❻〔参考〕 倉庫番 ❼文政六写 ❽〔応天"
宗・一・四四〕

二教論唯記録 ❶(日)Ni-kyō-ron-
chō-hi-roku. 龍樹二教論唯記録 ❷二卷
❸存 ❹覚定(一文化二二 A. D. 1805)撰 ❻
〔参考〕 前宗全書刊行廣定書目

二教論書鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-chō
-shō. ❷一卷 ❸存 ❹聖覚(嘉祥二一建
長二二A. D. 1095—1143) ❻〔参考〕 倉庫番、
前宗全書刊行廣定書目

二教論頌解 ❶(日)Ni-kyō-ron-tsū
-ge. 龍樹菩二教論頌解、龍菩二教論頌解
❷一卷 ❸存 ❹浄能(寛永一六一元禄一
五A. D. 1639—1702)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼宥本(応天)

二教論泥犯鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
hi-kyō-shō. ❷一卷 ❹快全(一番本三二
A. D. 1424)ロ ❻〔参考〕 倉庫番

二教論科事 ❶(日)Ni-kyō-ron-hi-
mō. 龍樹菩二教論科事、龍菩二教論科事
❷二卷 ❸存 ❹浄厳(寛永二一一文化二二
A. D. 1745—1816)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼明本(正天"一四三一・二二八二)(応天"A二
〇・三六)(新"ま・二・右・八)(応天"宗・一・四
四)

二教論科意別記 ❶(日) Ni-kyō-

に分けるロ伝の聞書である。結ぶに意義に
ようて意義中間し、天台は二教論巻上三義
段の前後部門の文の義にて等る。宗義三
年(A. D. 1453)に宗門の新義は宗義の前人巻
に天台宗の聞書聞ロ伝宗巻巻とし十三巻と
なし、二教論巻上下二巻の聞書とするとしし。
現行印本文義鈔七巻目ちうしれてある。和三
巻は法華義鈔、四巻は三教指帰以下巻
下は口伝宗と聞える。
❹〔参考〕 前宗全書第第三、天聞名目聞書
記、倉庫番 ❺文政前後代筆(倉庫記)
(倉庫記)貞文二二刊(応天"宗・一・元・
二二三)(応天"宗・一・四四)

二教論断惑鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kan-chaku-shō. ❷栄松(貞和元一番本二三
A. D. 1345—1416)作
❹倉庫番に曰く「栄松作ナリ。其前者人作。
正和記元禄二卷アリ。其花厳下文ヲ釋ス。
古鈔也」云々。
❻〔参考〕 倉庫番

二教論聞聞記鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
ken-kyō-shō. 龍樹二教論聞聞記鈔、龍樹菩
二教論聞聞記鈔 ❷六卷 ❸存、大正セセ・
四二二 No. 2434 ❹顕密(嘉祥二一永文三
A. D. 1025—1115)撰 ❺龍樹菩二教論聞聞記
鈔の下を見よ。 ❻〔参考〕 倉庫番 ❼明
天(応天"宗・一・四四)

二教論古貫語々 ❶(日) Ni-kyō-
ron-ko-sō-shu-ju. ❻〔参考〕 倉庫番

二教論事實鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
gō-hō-shō. 二教論法義鈔、龍樹菩二教論
法義鈔、龍菩二教論法義鈔 ❷十卷 ❸存
❹実敏(嘉祥二一延徳元A. D. 1306—1362)
撰 ❺二教論法義鈔の下を見よ。 ❻〔参考〕
(応天)〔新"ま・八・天・一・二〕

二教論綱要 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
yō. ❷六卷 ❹顕密(延宝七—宝永四A.D.
1679—1747)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論国鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kō-koku-shō. 二教論国鈔、知恵鈔、知恵
鈔 ❷五卷 ❸存 ❹宥快(貞和元一番本二
三A. D. 1345—1416)撰 ❺倉庫番に人鈔(貞
治元)文安六写文安六写(応天"宗・一・四四)

二教論講演 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
en. 龍樹菩二教論講演 ❷七卷宝三卷 ❸
存 ❹浄厳和尚(元禄二一享保元 A. D.
1698—1755)撰 ❺寛永(応天"宗・一・四四)

二教論講演 ❶(日)Ni-kyō-ron-kō-
yoku. 龍樹菩二教論講演 ❷六卷 ❸存
❹元禄(寛永二一文政九 A. D. 1756—1826)
撰 ❺宥本(新撰記)

二教論問答鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
kō-yō-shō. ❷二卷 ❹顕密(永延元一貞和
二A. D. 1165—1223)撰 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論環鎖鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
satsu-gi-shō. 龍樹菩二教論環鎖鈔、龍菩二
教論環鎖鈔 ❷三十卷宝六卷 ❸存 ❹慶
恵(寛永二一〇一寛保一〇 A. D. 1643—1725)
撰 ❻〔参考〕 倉庫番、前宗全書刊行廣定書
目

二教論義要 ❶(日)Ni-kyō-ron-sann
-yō. ❷一卷 ❹四宗論義 ❺安永年中(A.
D. 1772—1779)作 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論私記 ❶(日)Ni-kyō-ron-shi
-ki. ❷六卷 ❹顕密(嘉祥二一貞和
二A.D. 1674—1742)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼本体一九写 ❽〔応天"一・四四〕

二教論私示 ❶(日)Ni-kyō-ron-shu
-ji. ❷二卷 ❹宗泉 ❻〔参考〕 倉庫番

二教論指示鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
shi-kō-shō. 龍樹菩二教論指示鈔 ❷五卷
❸存、即称指之鈔 ❹顕密(嘉暦二一永文元
二A. D. 1226—1304)撰 ❻〔参考〕 前宗全書
第第三、倉庫番 ❼明本(正天"一四三一・
三九"二二一一二二〇)(新"ま・八・中・天)
(応天)宥本二二写(新撰記)本正五四写(倉庫
記)

二教論指示鈔記 ❶(日) Ni-kyō-
ron-shi-kō-shō-ki. ❷一卷 ❹存 ❹安永
❺二教論指示鈔を見に註せるもの。

二教論指事 ❶(日)Ni-kyō-ron-shi
-ji. ❷一卷 ❹存 ❹宗泉(一番本三〇A.
D. 1423)ロ ❻〔参考〕 倉庫番 ❼文安三
写 ❽〔倉庫記〕

二教論指要鈔 ❶(日) Ni-kyō-ron
-shi-yō-shō. 龍樹菩二教論指要鈔 ❷四卷
❸存 ❹浄能(寛永一六一元禄一五 A. D.
1639—1702)撰 ❻〔参考〕 倉庫番 ❼宥
本(応天"宗・一・四四)

二教論紗羅羅鈔 ❶(日) Ni-kyō-
ron-sha-ga-ra-shō. ❷一卷 ❸存 ❹浄
能(寛永一六一元禄一五 A. D. 16.9—1702)
撰 ❻〔参考〕 倉庫番、前宗全書刊行廣定書
目

二教論手鏡鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
shu-kyō-shō. 龍樹菩二教論手鏡鈔 ❷三卷
❸存 ❹浄厳(元禄二一享保元 A. D. 1306—1362)
撰 ❺二教論法義鈔の下を見よ。 ❻明本
(応天)〔新"ま・八・天・一・二〕

二教論聚鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-tan-
kai-ki. ❷四卷 ❹存 ❹顕密(応天元
一文永元A. D. 1204—1268) ❻〔参考〕 倉
庫番、前宗全書刊行廣定書目

二教論談意 ❶(日)Ni-kyō-ron-dan
-jin. ❷四卷宝六卷 ❹存 ❹慶恵(一正徳
元A. D. 1715)撰
❻〔参考〕 倉庫番 ❼文政六写 ❽〔応天"
宗・一・四四〕

二教論唯記録 ❶(日)Ni-kyō-ron-
chō-hi-roku. 龍樹二教論唯記録 ❷二卷
❸存 ❹覚定(一文化二二 A. D. 1805)撰 ❻
〔参考〕 前宗全書刊行廣定書目

二教論書鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-chō
-shō. ❷一卷 ❹存 ❹聖覚(嘉祥二一建
長二二A. D. 1095—1143) ❻〔参考〕 倉庫番、
前宗全書刊行廣定書目

二教論頌解 ❶(日)Ni-kyō-ron-tsū
-ge. 龍樹菩二教論頌解、龍菩二教論頌解
❷一卷 ❹存 ❹浄能(寛永一六一元禄一
五A. D. 1639—1702)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼宥本(応天)

二教論泥犯鈔 ❶(日)Ni-kyō-ron-
hi-kyō-shō. ❷一卷 ❹快全(一番本三二
A. D. 1424)ロ ❻〔参考〕 倉庫番

二教論科事 ❶(日)Ni-kyō-ron-hi-
mō. 龍樹菩二教論科事、龍菩二教論科事
❷二卷 ❹存 ❹浄厳(寛永二一一文化二二
A. D. 1745—1816)撰 ❻〔参考〕 倉庫番
❼明本(正天"一四三一・二二八二)(応天"A二
〇・三六)(新"ま・二・右・八)(応天"宗・一・四
四)

二教論科意別記 ❶(日) Ni-kyō-

法・四分・僧祇・十誦・五部・作法・受戒・羯磨・五位等行の
儀式作法を以て法の正しい伝授したものであり、戒壇
律学者の必須書とされたものである。

⑥同本(宮内)・一・六二・〇)　(東本願寺蔵)

二卷分戒本　①(日)Ni-kwan-shō-e-ge.　②十二巻　③同書　④(宮内省蔵)一冊　⑤(古文書)　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分畫讃　①(日)Ni-kwan-shō-on-ko-roku.　画家分画讃録　②二巻写本　③不詳　⑤起筆、享保八(一七二三)年　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集三

二卷分記　①(日)Ni-kwan-shō-ki.　②不詳、十二絵巻巻之四　④写本(国文研・一〇三・八)

二卷分雜事　①(日)Ni-kwan-shō-gi-yō.　雑分雑事要　②十巻写八巻　③不詳　④雑事要(享保八)年　⑤享保八(A. D. 1723)十月日　⑥雑分雑事要の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分書版讃　①(日)Ni-kwan-shō-kwan-ken-roku.　②二巻　③不詳　④版刻(寛政元一七九九年 A. D. 1793—1861)頃　⑤写本(国文研・一〇〇)　(東本願寺蔵)

二卷分光讃記　①(日)Ni-kwan-shō-kō-ken-ki.　②四巻　③浄土教者鸞(文永一七一二年 A. D. 1730—1782)頃　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分毋意記　①(日)Ni-kwan-shō-kō-kō-ki.　雑分雑事毋意記　②三巻　③不詳　④天明(寛政元一文化元 A. D. 1759—1804)頃、東日本巡歴　⑤明治三八年　⑥(参考)　二〇・三二)

二卷分講會　①(日)Ni-kwan-shō-kō-shō.　②二巻　③不詳　④雑講(一文化頃 A. D. 1844—1847—)頃　⑤写本(宮内)

二卷分講林　①(日)Ni-kwan-shō-kō-rin.　雑分雑講林　②三巻写六巻　③不詳　④和刊(一文化三 A. D. 1805)頃　⑤雑分雑講林の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分記　①(文)Êrh-ch'iao-chih-ching.　②一巻　④宋(宮内省蔵)

二卷分記　①(日)Ni-kwan-shō-kō-den-ki.　②一巻　③不詳　④伝奇雑書(文化三一明治一九 A. D. 1806—1886)頃　⑤写本(国文研蔵)

二卷分雜藏　①(日)Ni-kwan-shō-san-shaku.　雑分雑藏　②四巻　③不詳　④回覧雑　⑤享保一〇(A. D. 1735)三月日　⑥雑分雑藏雑の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分四十二科雜藏　①(日)Ni-kwan-shō-shi-jū-ni-tai-kwam-ben.　②一巻　④雑録(宝暦七一寛政元 A. D. 1694—1751)作　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分雜心讃　①(日)Ni-kwan-shō-ji-shin-roku.　雑分雑心讃　②四巻　③不詳　④和漢(宝暦三一明治元 A. D. 1690—1768)頃　⑤写本(A. D. 1750)三月日　⑥雑分雑心讃の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分堂江問答　①(日)Ni-kwan-shō-shō-kō-mon-tai.　雑分雑堂江問答　②一巻　③不詳　④幕末(天保元一明治)頃 A. D. 1830—1893)頃　⑤明治三一月　⑥(参考)「宗教」四六)(宮内「宗教」四・四七)

二卷分和新讃　①(日)Ni-kwan-shō-chi-shin-roku.　雑分雑和新讃　②二巻　③不詳　④雑録(宝暦七一寛政元一〇 A. D. 1741—1813)　⑤雑分雑和新讃の下を以て。

二卷分書記　①(日)Ni-kwan-shō-chō-ki.　②二巻　③不詳　④医者弁慶(文化七一明治二六 A. D. 1810—1893)　⑤写本(国文研)

二卷分宣言書　①(日)Ni-kwan-shō-tō-kō-san.　雑分雑宣言書　②二巻　③不詳　④了学(一寛政一〇 A. D. 1760)頃　⑤雑分雑宣言書の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分内法法文書　①(日) Ni-kwan-shō-nai-ryū-jo-mon-shō.　雑分内法法文書　②一巻　③不詳　④宗法(浄土真宗)作　⑤明和元年(A. D. 1765)十一月　⑥雑分雑内法法文書の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分二種深心問答　①(日)Ni-kwan-shō-ni-shu-jin-shin-shaku-gi.　②一巻　③不詳　④和漢(文化六一安政六 A. D. 1809—1859)頃　⑤写本(国文研)一二冊・十四)

二卷分二種深心問答記　①(日)Ni-kwan-shō-ni-shu-jin-shin-shū-setsu.　②一巻　③不詳　④天十誦(宝暦)頃　⑤明治二六年　⑥(国文研)一二冊・十四)

二卷分雜記　①(日) Ni-kwan-shō-hik-ki.　②一巻　③不詳　④雑録　⑤写本(国文)

二卷分分疏　①(日) Ni-kwan-shō-bun-kwa.　②一巻　③不詳　④安藤(文化元一明治一四 A. D. 1804—1881)作　⑤写本　⑥(国文研)一二冊・十四)

二卷分分疏　①(日) Ni-kwan-shō-bun-kwa.　②一巻　③不詳　④幕末(天保一一一六)一一冊 A. D. 1841—1922)作　⑤写本　⑥(国文研)一二冊・四)

二卷分雜藏記　①(日)Ni-kwan-shō-mo-zō-ki.　雑分雑藏記　②六巻　③不詳　④雑録(宝暦七一明治元 A. D. 1694—1768)頃　⑤雑分雑藏記の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分要鈔　①(日) Ni-kwan-shō-yō-ge.　雑分雑要鈔　②四巻　③不詳　④尼明善(宝暦)作　⑤雑分雑要鈔の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分要鈔　①(日) Ni-kwan-shō-yō-ryaku.　雑分雑要鈔　②一巻　③不詳　④江戸頃　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分略鈔　①(日) Ni-kwan-shō-ryaku-ge.　雑分雑略鈔　②二巻写一巻　③不詳　④和漢(宝暦一一寛政元一一天明)二 A. D. 1730—1782)頃　⑤雑分雑略鈔の下を以て。

二卷分讃　①(日) Ni-kwan-shō-ro-ku.　雑分雑讃　②二巻写一巻　③不詳　④版刻(寛政元一文化四 A. D. 1791—1847)頃　⑤雑分雑讃の下を以て。

二卷分論考　①(日) Ni-kwan-shō-ron-sen.　②二巻　③不詳　④同書巻頭　⑤明治元年　⑥(宗教研究)一二冊・四〇・五九)

二裝坊記　①(日)Ni-ge-bō-kyō.　②一巻　③不詳　④大蔵　⑥(参考)　大日本仏教全書遺編所収文書目

二品三品口傳大事　①(日)Ni-ko-san-ko-ku-den-dai-ji.　②一帖　③不詳　⑤鎌倉時代頃　⑥(東寺宝庫)

二顯先生語錄　①(日) Ni-ko-sen-sei-go-roku.　(支)Êrh-ku-hsien-shêng-yü-lu.　②一巻　③不詳　④明版　⑤明版(内閣)

二三千里用水形勢圖書　①(日) Ni-san-zen-ri-sō-jō-ja-ryū-kwan-jō-no-koto.　②一帖　③不詳　④写本(国文研・一・六四)

二四字　①(日)Ni-shi-ji.　二四字経　②一巻　③不詳　④写文一〇頁(宮内省蔵)　⑤鎌倉二頃(東寺宝庫)

二版口傳　①(日)Ni-shi-ku-gi.　(支)Êrh-shih-k'ou-i.　②十二巻　④宋版(一天聖元 A. D. 1082)　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二版禁戒門　①(日) Ni-shi-roku-mon-ge.　雑録二巻　②一巻　③不詳　④東日本(宮内)

ron-hi-mō-bek-ki.　雑録要秘二巻　②一巻　③不詳　④宗奇(慶安元一二一文化一一三 A. D. 1745—1816)頃　⑤(宗奇)(新「ナ・ヒ・ヘ」)

二教論天回法身論　①(日)Ni-kyō-ron-fu-dō-hos-shin-shō.　②一巻　③不詳　④宋版(一天明八 A. D. 1788)頃　⑤貞享五年　⑥(宮内「宗・一・四四)

二教論輝法論　①(日)Ni-kyō-ron-ho-ketsu-shō.　③不詳　④松全(一番本三一 A. D. 1424)頃　⑥(参考)　仏教書　⑦(宗書)

二教論問題　①(日)Ni-kyō-rom-mon-dai.　雑録要二巻　②一巻　③不詳　④宝曼(宝暦頃)頃　⑤(宗書)　⑥(参考)　仏教書

二教論雜藏　①(日)Ni-kyō-ron-ryaku-ge.　雑録要二巻　②六巻　③不詳　④春屋(宝徳二一一享徳二 A. D. 1645—1717)頃　⑤元禄一〇(A. D. 1697)　⑥(参考)　仏教書　⑦(宗書)

二教論宗論　①(日)Ni-kyō-shō-ron-tsu-shō.　②一巻　③不詳　④宗論日記　⑤天文六頃(東京九一文化元 A. D. 1759—1804)頃、東日本巡歴　⑥明治三八年　⑦(宗書)

二卷論　①(日)Ni-kwan-shō-kō-shō.　②二巻　③不詳　④雑録(一天保一一一四 A. D. 1844—1847—)頃　⑤写本(宮内)

二卷論林　①(日) Ni-kwan-shō-kō-rin.　雑分雑論林　②三巻写五巻　③不詳　④和刊(一文化三 A. D. 1805)頃　⑤雑分雑論林の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷論　①(文)Êrh-ch'iao-chih-ching.　②一巻　④宋(宮内省蔵)

二卷分　①(日)Ni-kwan-shō-kō-den-ki.　②一巻　③不詳　④伝奇雑書(文化三一明治一九 A. D. 1806—1886)頃　⑤写本(国文研蔵)

二卷分雜藏　①(日) Ni-kwan-shō-san-shaku.　雑分雑藏　②四巻　③不詳　④回覧雑　⑤享保一一〇 (A. D. 1735)三月日　⑥雑分雑藏雑の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分四十二科雜藏　①(日)Ni-kwan-shō-shi-jū-ni-tai-kwam-ben.　②一巻　④雑録(宝暦七一寛政元 A. D. 1694—1751)作　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分雜心讃　①(日)Ni-kwan-shō-ji-shin-roku.　雑分雑心讃　②四巻　③不詳　④和漢(宝暦三一明治元 A. D. 1690—1768)頃　⑤雑分雑心讃の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分堂江問答　①(日)Ni-kwan-shō-shō-kō-mon-tai.　雑分雑堂江問答　②一巻　③不詳　④幕末(天保元一明治)頃 A. D. 1830—1893)頃　⑤明治三一月　⑥(参考)「宗教」四六)(宮内「宗教」四・四七)

二卷分和新讃　①(日)Ni-kwan-shō-chi-shin-roku.　雑分雑和新讃　②二巻　③不詳　④雑録(宝暦七一寛政元一〇 A. D. 1741—1813)　⑤雑分雑和新讃の下を以て。

二卷分書記　①(日) Ni-kwan-shō-chō-ki.　②二巻　③不詳　④医者弁慶(文化七一明治二六 A. D. 1810—1893)　⑤写本(国文研)

二卷分宣言書　①(日)Ni-kwan-shō-tō-kō-san.　雑分雑宣言書　②二巻　③不詳　④了学(一寛政一〇 A. D. 1760)頃　⑤雑分雑宣言書の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分内法法文書　①(日) Ni-kwan-shō-nai-ryū-jo-mon-shō.　雑分内法法文書　②一巻　③不詳　④宗法(浄土真宗)作　⑤明和元年(A. D. 1765)十一月　⑥雑分雑内法法文書の下を以て。　⑦(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分二種深心問答　①(日)Ni-kwan-shō-ni-shu-jin-shin-shaku-gi.　②一巻　③不詳　④和漢(文化六一安政六 A. D. 1809—1859)頃　⑤写本(国文研)一二冊・十四)

二卷分二種深心問答記　①(日)Ni-kwan-shō-ni-shu-jin-shin-shū-setsu.　②一巻　③不詳　④天十誦(宝暦)頃　⑤明治二六年　⑥(国文研)一二冊・十四)

二卷分雜記　①(日) Ni-kwan-shō-hik-ki.　②一巻　③不詳　④雑録　⑤写本(国文)

二卷分分疏　①(日) Ni-kwan-shō-bun-kwa.　②一巻　③不詳　④安藤(文化元一明治一四 A. D. 1804—1881)作　⑤写本　⑥(国文研)一二冊・四)

二卷分分疏　①(日) Ni-kwan-shō-bun-kwa.　②一巻　③不詳　④幕末(天保一一一六)一一冊 A. D. 1841—1922)作　⑤写本　⑥(国文研)一二冊・四)

二卷分雜藏記　①(日)Ni-kwan-shō-mo-zō-ki.　雑分雑藏記　②六巻　③不詳　④雑録(宝暦七一明治元 A. D. 1694—1768)頃　⑤雑分雑藏記の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分要鈔　①(日) Ni-kwan-shō-yō-ge.　雑分雑要鈔　②四巻　③不詳　④尼明善(宝暦)作　⑤雑分雑要鈔の下を以て。　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分要鈔　①(日) Ni-kwan-shō-yō-ryaku.　雑分雑要鈔　②一巻　③不詳　④江戸頃　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二卷分略鈔　①(日) Ni-kwan-shō-ryaku-ge.　雑分雑略鈔　②二巻写一巻　③不詳　④和漢(宝暦一一寛政元一一天明)二 A. D. 1730—1782)頃　⑤雑分雑略鈔の下を以て。

二卷分讃　①(日) Ni-kwan-shō-ro-ku.　雑分雑讃　②二巻写一巻　③不詳　④版刻(寛政元一文化四 A. D. 1791—1847)頃　⑤雑分雑讃の下を以て。

二卷分論考　①(日) Ni-kwan-shō-ron-sen.　②二巻　③不詳　④同書巻頭　⑤明治元年　⑥(宗教研究)一二冊・四〇・五九)

二裝坊記　①(日)Ni-ge-bō-kyō.　②一巻　③不詳　④大蔵　⑥(参考)　大日本仏教全書遺編所収文書目

二品三品口傳大事　①(日)Ni-ko-san-ko-ku-den-dai-ji.　②一帖　③不詳　⑤鎌倉時代頃　⑥(東寺宝庫)

二顯先生語錄　①(日) Ni-ko-sen-sei-go-roku.　(支)Êrh-ku-hsien-shêng-yü-lu.　②一巻　③不詳　④明版　⑤明版(内閣)

二三千里用水形勢圖書　①(日) Ni-san-zen-ri-sō-jō-ja-ryū-kwan-jō-no-koto.　②一帖　③不詳　④写本(国文研・一・六四)

二四字　①(日)Ni-shi-ji.　二四字経　②一巻　③不詳　④写文一〇頁(宮内省蔵)　⑤鎌倉二頃(東寺宝庫)

二版口傳　①(日)Ni-shi-ku-gi.　(支)Êrh-shih-k'ou-i.　②十二巻　④宋版(一天聖元 A. D. 1082)　⑥(参考)　徳川幕府発布禁令集二

二版禁戒門　①(日) Ni-shi-roku-mon-ge.　雑録二巻　②一巻　③不詳　④東日本(宮内)

二時貪作法 ❶(日)Ni-ji-jiki-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❹徳川時代寫 ❺(家藏記)

二時貪作法支證注 ❶(日)Ni-ji-jiki-sa-hō-shi-gen-chū. ❷1卷 ❸存 ❹弘化三刊 ❺(正大〞一一八八・七三〞一〇八・八一)

二時貪作法依思注 ❶(日)Ni-ji-jiki-narabini-se-ga-ki-chū. ❷1卷 ❸存 ❹性愛(一貞享頃 A. D. 1684—1687—) ❺(安藤)

二時貪法雜注 ❶(日)Ni-ji-jiki-hō-hō-chū. ❷1卷 ❸存 ❹性愛(一貞享頃 A. D. 1684—1687—) ❺天保六刊 ❻(正大〞一一八八・七四〞一〇八・八一)(龍大〞一一六一三・一六)

二手十指 ❶(日)Ni-shu-jis-shi. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷俊光寫 ❺(東京堂記)

二種生死義 ❶(日)Ni-shu-shō-ji-gi. ❷三十卷 ❸落缺(仁治元—文安元 A. D. 1240—1321)無量 ❹(參考) 西宗教學部藏目

二種生死集 ❶(日)Ni-shu-shō-ji-shū. ❷1卷 ❸缺(寶亀九—弘仁一一三 A. D. 767—822) ❹(參考) 大明寺目錄 淺草寺目〞 山城目錄 藤原通憲 醍醐目錄 卷上

二種深信眞執者釣鉤書類 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-i-shū-sha-tai-ben-shō-rui. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(谷大〞宗大・三六一一〇)

二種深信記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ki. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大〞一五〇一一・一一一一)

二種深信記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ki. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大〞十一一法藏寫之內 ❺寫本(龍大〞一〇三・八)

二種深信記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ki. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大〞妹尾)

二種深信義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-gi. ❷1卷 ❸存 ❹法寶(享和三—慶應三 A. D. 1803—1867)寫 ❺寫本(谷大〞宗大・一六四五)

二種深信義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-gi. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一明治七 A. D. 1874)寫 ❺寫本(谷大〞宗學・三六)

二種深信決擇 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kec-chaku. ❷1卷 ❸存 ❹關川子龍(天保元—明治三〇 A. D. 1834—1897)寫 ❺明治三四刊 ❻(龍大〞妹尾)

二種深信講義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹眞谷智恵(一明治一六 A. D. 1883)寫 ❺寫本(谷大〞宗大・三〇七六)

二種深信講義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(寶歷八—安政五 A. D. 1795—1858)寫 ❺古梅園墨(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)製 ❻明治三一刊 ❼(谷大〞宗小・一九〞一一五七〞一一八一)

二種深信講義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹關宗寶 ❺寫本(谷大〞宗大・三六四一一)

二種深信講辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kō-ge. ❷1卷 ❸存 ❹天田愛 ❺寫本(龍大〞妹尾)

二種深信講話 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹宗山龍寶寫 ❺明治四四刊 ❻(龍大〞一五〇一一・一一一九)

二種深信心得之次第 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kokoro-e-no-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹朝心(一慶應三一一 A. D. 1865)寫 ❺寫本四冊 ❻(谷大〞宗大・一一六一一)

二種深信讃仰記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-san-gō-ki. ❸存 ❹古梅園墨(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)寫 ❺明治四一刊 ❻(龍大〞一〇五五・一四六)(谷大〞宗學・六四六)

二種深信私決 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shi-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹關倉了昌(一明治四三 A. D. 1910)寫 ❺明治三一刊 ❻(谷大〞宗小・五五五)(龍大〞一五〇一一・一一一一)

二種深信目錄錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ji-shuku-roku. ❷1卷 ❸存 ❹寫本一冊 ❻(谷大〞宗大〞三四六七)

二種深信邪正辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ja-shō-ben. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(一安政元 A. D. 1854—1359—)寫 ❺寫本(龍大)

二種深信辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-jaku. ❸存 ❹十四卷藏寫之內 ❺寫本(龍大〞一〇三・七)

二種深信辨講義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-jaku-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(谷大〞宗大・一六四一)

二種深信語意 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shu-i. ❷1卷 ❸存 ❹藤龍(安永元—

一安政元 A. D. 1772—1858)寫 ❺寫本(谷大〞宗大・三六三四)

二種深信集錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shū-roku. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一明治七 A. D. 1874) ❺寫本(谷大〞宗大・三四四六一一)

二種深信書上 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-sho-jō. ❷1卷 ❸存 ❹眞月(天明七—安政六 A. D. 1787—1859) ❺寫本(谷大〞宗大・一一六一一)

二種深信正因辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-in-ge. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(寶歷八—安政五 A. D. 1796—1858)寫 ❺安政二刊(A. D. 1855)寫 ❻寫本(谷大〞宗大・一九八九)

二種深信正因ノ義ニ付子事ノ條々 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-in-no-gi-ni-tsuki-fu-shio-no-jō-jō. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(寶歷七—明治二一〇 A. D. 1795—1837) ❺寫本四冊(A. D. 1851) ❻寫本(谷大〞宗大・一九八九)

二種深信註辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-ge. ❷1卷 ❸存 ❹東陸圓月(文政元—明治三五 A. D. 1818—1902)寫 ❺明治三四刊 ❻(谷大〞宗小・一四六一)(龍大〞妹尾)(帝國〞六九・一四五一) ❼宗教發法會

二種深信版辨釋 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-zui-ben-jaku. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大〞一五〇一一・一一四四)

二種深信願起發 ❶(日)Ni-shū-jin-shin-sō-ki-shō. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(谷大〞宗大・三六三四)

二種深信業錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shū-roku. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一明治七 A. D. 1874) ❺寫本(谷大〞宗大・三四四六一一)

二種深信心得之次第 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-kokoro-e-no-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹朝心(一慶應三一一 A. D. 1865)寫 ❺寫本四冊 ❻(谷大〞宗大・一一六一一)

二種深信讃仰記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-san-gō-ki. ❸存 ❹古梅園墨(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)寫 ❺明治四一刊 ❻(龍大〞一〇五五・一四六)(谷大〞宗學・六四六)

二種深信私決 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shi-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹關倉了昌(一明治四三 A. D. 1910)寫 ❺明治三一刊 ❻(谷大〞宗小・五五五)(龍大〞一五〇一一・一一一一)

二種深信目錄錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ji-shuku-roku. ❷1卷 ❸存 ❹寫本一冊 ❻(谷大〞宗大〞三四六七)

二種深信邪正辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ja-shō-ben. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(一安政元 A. D. 1854—1359—)寫 ❺寫本(龍大)

二種深信辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-jaku. ❸存 ❹十四卷藏寫之內 ❺寫本(龍大〞一〇三・七)

二種深信辨講義 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-jaku-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(谷大〞宗大・一六四一)

二種深信語意 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shu-i. ❷1卷 ❸存 ❹藤龍(安永元—一安政元 A. D. 1772—1858)寫 ❺寫本(谷大〞宗大・三六三四)

二種深信業錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shū-roku. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一明治七 A. D. 1874) ❺寫本(谷大〞宗大・三四四六一一)

二種深信書上 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-sho-jō. ❷1卷 ❸存 ❹眞月(天明七—安政六 A. D. 1787—1859) ❺寫本(谷大〞宗大・一一六一一)

二種深信正因辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-in-ge. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(寶歷八—安政五 A. D. 1796—1858)寫 ❺安政二刊(A. D. 1855)寫 ❻寫本(谷大〞宗大・一九八九)

二種深信正因ノ義ニ付子事ノ條々 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-in-no-gi-ni-tsuki-fu-shio-no-jō-jō. ❷1卷 ❸存 ❹眞鶴(寶歷七—明治二一〇 A. D. 1795—1837) ❺寫本四冊(A. D. 1851) ❻寫本(谷大〞宗大・一九八九)

二種深信註辨 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-shō-ge. ❷1卷 ❸存 ❹東陸圓月(文政元—明治三五 A. D. 1818—1902)寫 ❺明治三四刊 ❻(谷大〞宗小・一四六一)(龍大〞妹尾)(帝國〞六九・一四五一) ❼宗教發法會

二種深信版辨釋 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-zui-ben-jaku. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大〞一五〇一一・一一四四)

二種深信願起發 ❶(日)Ni-shū-jin-shin-sō-ki-shō. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(谷大〞宗大・三六三四)

二種深信釣鉤 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-tai-mon. ❷1卷 ❸存 ❹足利學山(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910) ❺明治三三刊 ❻(谷大〞宗學・三三六)(龍大〞妹尾)

二種深信短讃 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-tan-kyō. ❷1卷 ❸存 ❹明日俊英著 ❺天正六刊 ❻(龍大〞一五〇一一・一一四四)

二種深信鬼記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-chō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹眞法 ❺寫本(龍大)

二種深信鬼錄 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-chō-roku. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一安政元 A. D. 1858) ❺寫本(龍大〞一〇五一一・一一一七)

二種深信十五箇条永 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-ni-jū-go-ka-kō-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹曾我(一寶永頃 A. D. 1848—1853—)寫 ❺明治四一寫 ❻(谷大〞宗大・一一六六〇)

二種深信事 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-no-koto. ❷1卷 ❸存 ❹宗住(一明治七 A. D. 1874)寫 ❺日蓮宗(谷大〞宗學・一一六六)

二種深信鉄帝記 ❶(日)Ni-shu-jin-shin-hei-sō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹雨森善興(文化一一一明治二一〇 A. D. 1814—1887)著〞雨森文興(寶永二一明治二一 A. D. 1849—1927)校 ❺大正一一一刊 ❻安藤義法館

二種深信問記 ❶(日)Ni-shu-jin-shim-mon-ki. ❷1卷 ❸存 ❹梅園(寶歷一一一一

❹1巻 ❺〔参考〕 感聖大師年譜資料纂

二十卷定理論 ❶(日)Ni-jik-kwan-nai-on-setsu. ❷1巻 ❸〔参考〕 東京修證日蓮宗史

二十五ケ條問答 ❶(日)Ni-jū-go-ka-jō-hen-tō. 二十五箇条問答行人方 ❷1編 ❸存 ❹豊川稲荷代詣 ❺〔資料記〕

二十五三昧起請 ❶(日)Ni-jū-go-sam-mai-ki-shō. 横川首楞厳院二十五三昧起請 ❷1巻 ❸存 ❹天正八酉・八七月No. 2724 慈心往生要集1巻之内 ❺源信(天慶元—貞応元 A. D. 942—1017)撰 ❻横川首楞厳院二十五三昧結縁講の下を見よ。

二十五三昧結縁講過去帳 ❶(日)Ni-jū-go-sam-mai-kechi-en-kwa-ko-chō. 首楞厳院二十五三昧結縁講過去帳 ❷1巻 ❸存 慈心往生要集1巻之内 ❺源信(天慶元—貞応元 A. D. 942—1017) ❻宝和二(A. D. 1013)以後

❹❺この天禄は源信の二十五三昧式を修した結衆の人の過去帳であり、慈心往生要集巻中中に「二十五三昧の過去帳は寛和二年七月十日より記しはじめられて、結衆の人名録」とあるから、それはこの人の名をしるし、一回のみ行法をもしたる限のみられたる過去帳なりしと信じてしかるべきなれども、今は現存しているこの過去帳は寛和二年以後の行法のみを記録したるものなり。しかるに行法の行和に入りて、この過去帳は寛和二年以後の行法のみを記録したるものなり。しかるに行法の行和に入りて、この過去帳は寛和二年以後の行法のみを記録したるものなり。

❹❺この過去帳は源信の二十五三昧式を修した結衆の人の過去帳であり、慈心往生要集巻中中に「二十五三昧の過去帳は寛和二年七月十日より記しはじめられて、結衆の人名録」とあるから、それはこの人の名をしるし、一回のみ行法をもしたる限のみられたる過去帳なりしと信じてしかるべきなれども、今は現存しているこの過去帳は寛和二年以後の行法のみを記録したるものなり。

❹❺過去帳は寛和二年以後の行法のみを記録したるものなりとの説は、横川首楞厳院二十五三昧結縁講過去帳の下を見よ。

❹❺この

入天王部 ❹一卷 ❺未詳 ❻〔参考〕 田三寺雲記巻四〃 法隆寺巻三〃 仁和寺巻三〃 醍醐寺巻三〃 東寺巻巻三〃 四天王寺巻一六〃 真定寺巻巻二六

二十八部衆経 ❶(日)Ni-jū-hachi-bu-shū-shaku. 十百千億陀羅尼神呪延命経釋〃 千手千眼二十八部衆陀羅尼経釋〃 千手観二十八部衆経釋 ❷一巻 ❸存〃 大正六一・七四九 No. 2243 ❹定慶(一六七七定A. D. 1677—) ❺千手千眼二十八部衆経釋の下を見よ。

二十八部衆経十二神将図 ❶(日)Ni-jū-hachi-bu-shū-narabini-jū-ni-shin-shō-zu. ❷一幅 ❸存 ❹正安一四四 ❺〔高大〕巻・九四〇)

二十八品外別雑論懺二部 ❶(日)Ni-jū-hachi-hon-ge-betsu-jutsu-hi-kwai-ni-ni-zetsu. ❷存〃 慧苑大師全集巻巻三(蓮) ❸京都(慧苑) 唐一弘仁一三A. D. 767—822)

❹法華二十八品偈二十八首と同チる懺悔文 題目に云はゆる巻末に説キ巻七百二部 なり。 (慧人宗合)

二十八品大意 ❶(日)Ni-jū-hachi-hon-tai-i. ❷存 ❸同会(弘仁五一貞寿三三 A. D. 814—891)撰 ❹貞文五刊 ❺〔文大〕八一二・三二一)

二十部要決 ❶(日) Ni-jū-bu-yō-ketsu. ❷三巻 ❸浄蓮(仁治元一応元元 A. D. 1240—1321)撰述 ❹〔参考〕 浄宗要集巻巻二

二十帙論記 ❶(日)Ni-jū-moku-yo-ei. ❷一巻 ❸存 ❹奈良法隆寺文殊菩薩 ❺天正九刊 ❻重源法隆寺文殊菩薩

二十唯識樞要抄 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ken-kō-shō. 二十唯識樞要抄〃 二十唯識記樞要抄 ❷十巻 ❸存 ❹鈴鹿(寛延一文化七 A. D. 1751—1810)撰 ❺〔参考〕

二十唯識頌釋論 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ju-shaku-ron. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-sung-shih-lun. 唯識論釋論〃 二十唯識論頌釋論〃 唯識論釋論〃 ❷五巻 ❸存〃 大正三一・七七 No. 1591"論住一〇〃 卍二二・二〃 北617号〃 南631号〃 宇623号〃 明北1203号〃 京1203号〃 鹿612カ〃 天613号〃 昭581カ〃 法606号〃 新1340号〃 明南1360ロ〃 Nj. 1210 ❹護法菩薩造〃 玄奘譯(貞観元一永徽元 A. D. 635—713)訳 ❺唯識論釋論の下を見よ。

二十唯識論 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-juk-ki. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-shu-chi. 唯識二十論述記〃 二十唯識論述記 ❷二巻 ❸存〃 大正四三・九七八 No. 1834"卍続一・八三・二〃 ❹法護菩薩(貞観六一永徽元 A. D. 632—682)造 ❺唯識二十論述記の下を見よ。 ❻〔参考〕 奈良朝現在一切経疏目録2394

二十唯識論述記筆録 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-juk-ki-hitsu-roku. ❷二巻 ❸存 ❹〔谷大〕

二十唯識頌釋論 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-jun-shaku-ron. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-shun-shih-lun. 唯識論釋論〃 唯識論釋論〃 二十唯識論頌釋論〃 二十唯識論頌釋論〃 唯識論釋論〃 ❷五巻 ❸存〃 大正三一・七七 No. 1591"論住一〇〃 卍二二・二〃 北617号〃 南631号〃 宇623号〃 明北1203号〃 京1203号〃 鹿612カ〃 天613号〃 昭58 カ〃 法606号〃 新1340号〃 明南1360ロ〃 Nj. 1210 ❹護法菩薩造〃 玄奘譯(貞観九一永徽元 A. D. 635—713)訳 ❺唯識論釋論の下を見よ。

二十唯識疏 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-sho. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-su. ❷二巻 ❸未詳 ❹〔参考〕 奈良朝現在一切経疏目録2394

二十唯識帳秘鈔 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-chō-hi-roku. 二十唯識論述記帳秘鈔 ❷一巻 ❸存 ❹覚定(一文化一二A. D. 1805)撰 ❺宝永七(正天一一九二・三二四)

二十唯識略鈔 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-ryaku-shō. ❷一巻 ❸護命(天平勝宝一一永徽元 A. D. 75)—834)撰 ❹〔参考〕 諸宗要集巻巻二

二十唯識論 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-lun. 唯識二十論 ❷一巻 ❸存〃 大正三一・七四 No. 1590"論案九"卍二二・二〃 北616号"南630号"宇622号"明北1234号"京1234号"鹿615カ"天617号"昭575カ"法601号"新1338号"明南1366号" Nj. 1240 ❹世親菩薩造〃 玄奘(仁治二一貞観元 A. D. 602—664)訳 ❺唯識二十論の下を見よ。

二十唯識論解説 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-kai-setsu. 唯識二十論解説 ❷一巻 ❸存 ❹明石英雄 ❺大正一五刊 ❻〔高大〕二四三四・一〇七) (高大"巻数・二四・一)〔谷大〕

二十唯識論聞書 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-kiki-gaki. ❷一巻 ❸存 ❹天保九写 ❺〔高大〕二四三四・一一七)

二十唯識論玄義 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-gen-gi. ❷一巻 ❸存 ❹宝永(高大)二四三四・一一八)

二十唯識論述記 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-lun-shu-chi. 唯識二十論述記〃 二十唯識論述記〃 二十唯識論述記 ❷二巻 ❸存〃 大正四三・九七八 No. 1834"卍続一・八三・二〃 ❹法護菩薩(貞観六一永徽元 A. D. 632—682)撰 ❺唯識二十論述記の下を見よ。 ❻明和五刊 (高大〃一・二四三・七)(正大〃一一九二・三二四)(高大〃二四三四・一一九—一一四四)(高大〃一・一四三) 完巻一五刊(高大〃二四三四・一一九)(正大〃一一九二・三二五)(新〃〜・四・左・一)(高大"巻・一・一四三)

二十唯識論述記類記 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki. 述記三二十唯識論述記 ❷二巻 ❸存 ❹明和五刊(高大〃一・一四三)

二十唯識論述記科圖 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-kwa-zu. ❷一巻 ❸存 ❹天竺寺静(弘化二一一天正七 A. D. 1845—1918)撰 ❺明治一九刊 ❻〔高大〕二四三四・一二五)

二十唯識論述記冠註 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-kwan-chū. ❷二巻 ❸存 ❹天竺寺静(弘化二一一天正七 A. D. 1845—1918)注 ❺明治一九刊 ❻〔高大〕二四三四・一二六)

大〃二四三四・一二六)

二十唯識論述記類聚抄 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-ken-kō-shō. 二十唯識論述記聚抄〃 二十唯識論述記聚抄 ❷十巻 ❸存 ❹鈴鹿(寛延一文化七 A. D. 1751—1810)撰 ❺〔文大〕一〇刊 (正大〃一一九二・三二一) 明治二九刊 (高大)〃写本(高大〃二四三四・一〇八)

二十唯識論述記文談 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-gen-dan. ❷四巻 ❸存 ❹扇三十郎(天保五一明治三〇 A. D. 1834—1897)撰 ❺写本(谷大〃高大・四四一〇)

二十唯識論述記講義 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-kō-gi. ❸存〃 仏教講義之内 ❹雲井良治 ❺明治二五一二八刊 ❻〔帝国〕六二・二五八〇)

二十唯識論述記講義 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-kō-gi. ❷一巻 ❸存 ❹春藤宏輝(天保一一一明治三七 A. D. 1840—1904)撰 ❺明治二六刊 ❻〔高大〕法像

二十唯識論述記講義 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-kō-gi. ❷二巻 ❸存 ❹宝暦(享保三一寛政三 A. D. 1718—1791)撰 ❺明治一九刊 ❻〔高大〕二四三四・一一〇)(高大"巻・一・六・右・一一)(帝国"六・一五三)

二十唯識論述記講考 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-juk-kō. ❷六巻 ❸存 ❹泉涼(一建暦元 A. D. 1211—1212—)撰 ❺〔参考〕 大正新修大蔵経索引巻定本巻

二十唯識論述記講衍鈔 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-chō-hi-roku. 二十唯識論述記講衍鈔〃 二十唯識論述記講衍鈔 ❷二巻 ❸存 ❹覚定(一文化一二A. D. 1805)撰 ❺明治二七刊(高大〃二四三四・一一一)(正大〃一一九二・三二一〇〃三二五)(新〃〜・四・左・一三)(帝国〃六・一〇〇)(高大〃二四三四・一一三〃)(高大〃二四三四・一一三〃)(正大〃一一九二・三二三)

二十唯識論述記講記 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-chō-ki. ❷二巻 ❸存 ❹安貞宗厳(文化一一一明治一三 A. D. 1815—1880)撰 ❺写本(高大〃二四三四・一二八)

二十唯識論述記講受 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-hitsu-ju. ❸存 ❹高橋 ❺写本(高大〃二六二五・一九)

二十唯識論述記文集 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-mon-shū. ❷十巻 ❸存 ❹仲尊 ❺写本(高大〃二四三四・一一四)

二十唯識論述記要纂 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-juk-ki-yō-san. ❷四巻 ❸存 ❹荘厳堂 ❺写本(高大〃二四三四・一一六)

二十唯識論順釋論 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-jun-shaku-ron. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-lun-shun-shih-lun. 唯識論釋論〃 唯識論釋論〃 二十唯識論順釋論〃 二十唯識論順釋論〃 ❷五巻 ❸存〃 大正三一・七七 No. 1591"論住一〇〃 卍二二・二〃 北617号〃 南631号〃 宇623号〃 明北1203号〃 京1203号〃 鹿612カ〃 天613号〃 昭581カ〃 法606号〃 新1340号〃 明南1360ロ〃 Nj. 1210 ❹護法菩薩造〃 玄奘譯(貞観九一永徽元 A. D. 635—718)訳 ❺唯識論釋論の下を見よ。

二十唯識論疏 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-ron-sho. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-lun-su. 唯識二十論疏記〃 二十唯識論疏記〃 二十唯識論疏記 ❷二巻 ❸存〃 大正四三・九七八 No. 1834"卍続一・八三・二〃 ❹法護菩薩(貞観六一永徽元 A. D. 632—682) ❺唯識二十論述記の下を見よ。 ❻〔参考〕 諸宗要集巻一〃 奈良朝現在一切経疏目録巻下〃 法相法相宗疏巻巻

二十唯識論疏 ❶(日) Ni-jū-yui-shiki-ron-sho. (梵) Ṅrh-shih-wei-shih-lun-su. ❷二巻 ❸未詳 ❹〔参考〕 諸宗要集巻巻一〃 法相法相宗疏巻巻〃 奈良朝現在一切経疏目録巻下

二十唯識論疏別記 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-shō-bek-ki. ❷二巻 ❸存 ❹〔正大〕一一九二・三二一八)

二十唯識論列鈔 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-rom-betsu-roku. ❷二巻 ❸存 ❹来鶴(享保三一寛政三 A. D. 1718—1791)撰 ❺〔高大〕二四三四・一一九)

二十唯識論聞記 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-rom-mon-ki. ❷二巻 ❸存 ❹松岡(文政九一明治三九 A. D. 1826—1906)撰 ❺文政九写 ❻〔高大〕二四三四〃一一三〇)

二十唯識論略鈔 ❶(日)Ni-jū-yui-shiki-ron-ryaku-shō. ❷一巻 ❸〔参考〕 奈良朝現在一切経疏目録巻下

二十四日講茶毘 ❶(日)Ni-jū-yok-ka-kō-rai-yu. 茶毘二十四日講茶毘 ❷一巻 ❸存 ❹文政四写 ❺〔谷大〕谷大・二一八三)

二十四講記 ❶(日) Ni-jū-yo-hai-ki. 四講聞人名簿記〃 四講聞人数帳簿巻巻二十四講記 ❷七巻 ❸存〃 結衆全巻巻巻

二十四輩順拝記 ❶(日)Ni-jū-yo-hai-jum-pai-ki. 親鸞聖人二十四輩順拝記 ❷二巻 ❸存 ❹天保五辰年 ❺町井四四郎刊 ❻(宗大・宗全・二二六)

二十四輩順拝図絵 ❶(日)Ni-jū-yo-hai-jum-pai-zu-e. ❷十巻 ❸存 ❹了海(一安永四年 A. D. 1801—1803—)著 ❺竹原春泉画 ❻浮世絵 (宗大・一・二二二二・二四五)(宗全・一〇五四) 文化元年刊(宗大・一二三)(新・ノ・一二六・一二二図)

二十四輩詣図教左記 ❶(日)Ni-jū-yo-hai-sho-koku-san-zai-ki. ❷二巻 ❸存 ❹宗教家(正保二—享保一二年 A. D. 1645—1728) ❻(参考) 二十四輩詣図下巻参照教左記とほぼ同じである。二十四輩詣教左記の下を見よ。 ❼(宗全・宗大・宗大・一・八六二)

二十四輩帳 ❶(日) Ni-jū-yo-hai-chō. ❷一巻 ❸存 ❹鎌倉(建暦元—正安二年 A. D. 1239—1300)記 ❻(参考) 法然上人伝記 ❼(宗大・一・二二四)

二十四輩名位 ❶(日)Ni-jū-yo-hai-myō-i. ❷一巻 ❸存 ❹宗教家(天正—寛文年間 A. D. 1678) ❻(参考) 法然上人伝記 ❼(宗大・一・二二四

二藏宗教抄 ❶(日)Ni-zō-shū-kyō-shō. 二藏宗教抄。❷一卷 ❸存 ❹(大)一六〇二 ❺(大)二六・一〇二

法の因縁を説かれたもの。書にて「今賢法の原、人の初は如何なるものか、何者か、何識に依るか、如何なるものか、何心か」といふ。如何に解脱を求めんか、死後如何、眼の修法とは何か。一切不定法に関して詳細なる解答を求めてゐる。本回では相手に対して問ひ答へる形式を以て人比丘尼等人の作は不本意ながら同一のものと考へられるが、それは既に失はれてゐる。石井先人の作は不本意ながら作りたるものと見るべきである。（宗教大辞）

二人比丘尼 ❶(日) Ni-nin-bi-ku-ni. ❷1巻 ❸存 ❹鈴木正三（天正七—明暦元A. D. 1579—1655）

❺下野国人。岡田長庵氏の門に入り、後に出家して仕人となる。其の後に出家して隠りたる因果物語を説くこと作り、因果の原を説くこと明らかなり。其の文章は簡にして要を得たるもの。其の思ひ出にて思はるるものあり。其の後人の作り。其の後半小説の如く思ひ出にて作せり。

❻貴文堂西村 ❼(今昔)・(谷)・(大)・(谷大)（谷大・慶大・1)（天四人）

二人比丘尼抄 ❶(日)Ni-nin-bi-ku-ni-shō. ❷1巻 ❸存 ❹木庵性瑫 ❺生駒宗家 ❻刊本(谷大・1)・1(天三・1)

二宮尊徳翁と弟敬 ❶(日)Ni-no-miya-son-toku-ō-to-buk-kyō. ❷1巻 ❸存 ❹生駒宗家 ❺刊本四〇刊 ❻法令 ❼宮敬敬記

二流既学十ケ大事 ❶(日) Ni-hi-kiki-gaki-shichi-ka-dai-ji. ❷1巻 ❸存 ❹心敬 ❺書本法寺 ❻(日本庵)

二百五十条説 ❶(日)Ni-hyaku-go-juk-kai-kyō. (支)Êrh-pai-wu-shih-chieh-ching. ❷1巻 ❸欠 ❹欠 ❺(参考) 田三蓮記巻四、法華義疏五、武周義疏1 1、開元釈教1 八、貞元釈教1 八

二百般伊呂波字引 ❶(日)Ni-hyaku-dai-i-ro-ha-ji-biki. ❷1巻 ❸存 ❹安藤鶴 ❺安斎11賀 ❻(岡山文庫)

二百般補助記 ❶(日) Ni-hyaku-dai-ho-jo-ki. ❷五巻 ❸存 ❹盛谷（一文政11A. D. 1819）幾 ❺貴本(足利学校)

二百般補助雑々部 ❶(日)Ni-hyaku-dai-ho-jo-zō-zō-bu. ❷存 ❸(写書)

二百般問答抄 ❶(日) Ni-hyaku-dai-mon-dō-shō. ❷一五巻 ❸鷲谷鶴 ❹(参考) 山家三蓮記鶴鶴幾四日幾巻下

二百般問答抄唐補助記 ❶(日) Ni-hyaku-dai-mon-dō-shō-kō-ho-jo-ki. ❷五巻 ❸鷲谷鶴 ❹(参考) 山家三蓮記鶴鶴幾四日幾巻下

二百般問答抄補助記 ❶(日)Ni-hyaku-dai-mon-dō-shō-ho-jo-ki. ❷五巻 ❸鷲谷鶴 ❹(参考) 山家三蓮記鶴鶴幾四日幾巻下

二百六十戒三部合集 ❶(日)Ni-hyaku-roku-jik-kai-sam-bu-gō-i. (支) Êrh-pai-liu-shih-chieh-san-pu-ho-i. ❷11巻 ❸欠 ❹(参考) 開元釈教1 五、貞元釈教11 五

二部僧祇戒本標式 ❶(日)Ni-bu-sō-ju-kai-gi-shiki. (支) Êrh-pu-sêng-shou-chieh-i-shih. ❷11巻 ❸存、卍続11・1 11・11 ❹法化寺法雲 ❺法華四四11(A. D. 1703)

❻法雲文章巻の前後ちて出定したる書の教示の標式作法を記したるもの。先づ十定無量の各に於て本出定文章を正説するから11巻にもしく。而して十定の説述は方便であるから説教を停止めるに止まり、実相の説定は正説の段に行く。此の巻の上巻には十定を十段の説教式を十人法をしてして記し、下巻には十段より四定説を四説として記す。頃日法は説のようである。巻中、説者人頃日とは大字に、説明の部分は小字になつてゐる。

著者は記子義説に説に見えるように、南山律の規定に関して研究したものであるが、十人とは著者の自ら見出したものであるが、これは法を説明したものであり、之を説明したのは行じ定無定とその見の説法同じ十人であり、之もまた説明したものに過ぎない。

既著に於て「古来諸説の説定を整理」であり。方軌の大意は小律の規定を整理するとの言はれたことがあるが、可なり大部信仰作者の言はれたことがあるようである。

❼貴文堂 ❽(支)(大)・(谷)・(大)・(谷大)（谷大・慶大・1)（天四人）

二部僧祇戒本 ❶(日) Ni-ben-ryō-shoku-hen. ❷三巻 ❸存、続法令巻巻五九 ❹令和(一八四六A. D. 1853)

❺前法令巻巻の巻巻巻

【三】

尼乾蹇經　❶(日)Ni-ken-sai-kyō. (支) Ni-chien-chai-ching. ❷1卷 ❸存 ❹宋譯 ❺(參考) 出三藏記集四・宋周續錄1 11・開元錄卷五・錄1 五・貞元錄卷八・錄11 五

尼瑪磨　❶(日)Ni-kom-ma. (支)Ni-chieh-mo. 四分尼戒本 ❷三卷 ❸存・大正四〇・五三八No. 1810・龍朔七・卍1 七・三・宋915入・元916・明942入・宋938入・明宋1111・宋1111宋・宋1111宋・元931頁・宋930入・明885頁・宋916頁・宋1242頁・明宋1284字・Nj. 1116 ❹出家戒 ❺法上天三(A. D. 676) ❻(參考) 此戒本文は梵語の尼戒本に基づいて漢訳されたものであるが、その梵語原本は現在の所、未だ発見されていない。しかしながら、この戒本の文は、その内容の大部分が、パーリ語の比丘戒本と、一致する点が多いから、この戒本の原本は、パーリ語の比丘戒本と、同じ系統に属する、インドの、部派の、戒本であったと、推定される。この戒本は、パーリ語の比丘戒本と、同じく、二百五十戒を、説いている

myō-moku-ku-ge. ❹七卷 ❺存 ❻了意（一六四五 A. D. 1685—）

西谷名目抄 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-shō. 天台圓宗西谷名目抄、西谷名目抄卷抄 ❷六卷 ❸存 ❹慈眼（一六五九 A. D. 1659） ❺貞享年間（徳川綱吉 A. D. 1684—1688） 正保三刊（慶長一二六七 A. D. 1607）（寛永一二六三 A. D. 1636）（寛永一二六四 A. D. 1637）（寛永一二六五 A. D. 1638）（寛永一二六六 A. D. 1639）（寛永一二六七 A. D. 1640）（寛永一二六八 A. D. 1641）（寛永一二六九 A. D. 1642）（寛永一二七〇 A. D. 1643）（寛永一二七一 A. D. 1644）（寛永一二七二 A. D. 1645）（寛永一二七三 A. D. 1646）（寛永一二七四 A. D. 1647）（寛永一二七五 A. D. 1648）（寛永一二七六 A. D. 1649）（寛永一二七七 A. D. 1650）（寛永一二七八 A. D. 1651）（寛永一二七九 A. D. 1652）（寛永一二八〇 A. D. 1653）（寛永一二八一 A. D. 1654）（寛永一二八二 A. D. 1655）（寛永一二八三 A. D. 1656）（寛永一二八四 A. D. 1657）（寛永一二八五 A. D. 1658）（寛永一二八六 A. D. 1659）（寛永一二八七 A. D. 1660）（寛永一二八八 A. D. 1661）（寛永一二八九 A. D. 1662）（寛永一二九〇 A. D. 1663）（寛永一二九一 A. D. 1664）（寛永一二九二 A. D. 1665）（寛永一二九三 A. D. 1666）（寛永一二九四 A. D. 1667）（寛永一二九五 A. D. 1668）（寛永一二九六 A. D. 1669）（寛永一二九七 A. D. 1670）（寛永一二九八 A. D. 1671）（寛永一二九九 A. D. 1672）（寛永一三〇〇 A. D. 1673）（寛永一三〇一 A. D. 1674）（寛永一三〇二 A. D. 1675）（寛永一三〇三 A. D. 1676）（寛永一三〇四 A. D. 1677）（寛永一三〇五 A. D. 1678）（寛永一三〇六 A. D. 1679）（寛永一三〇七 A. D. 1680）（寛永一三〇八 A. D. 1681）（寛永一三〇九 A. D. 1682）（寛永一三一〇 A. D. 1683）（寛永一三一一 A. D. 1684）（寛永一三一二 A. D. 1685）（寛永一三一三 A. D. 1686）（寛永一三一四 A. D. 1687）（寛永一三一五 A. D. 1688）（寛永一三一六 A. D. 1689）（寛永一三一七 A. D. 1690）（寛永一三一八 A. D. 1691）（寛永一三一九 A. D. 1692）（寛永一三二〇 A. D. 1693）（寛永一三二一 A. D. 1694）（寛永一三二二 A. D. 1695）（寛永一三二三 A. D. 1696）（寛永一三二四 A. D. 1697）（寛永一三二五 A. D. 1698）（寛永一三二六 A. D. 1699）（寛永一三二七 A. D. 1700）（寛永一三二八 A. D. 1701）（寛永一三二九 A. D. 1702）（寛永一三三〇 A. D. 1703）（寛永一三三一 A. D. 1704）（寛永一三三二 A. D. 1705）（寛永一三三三 A. D. 1706）（寛永一三三四 A. D. 1707）（寛永一三三五 A. D. 1708）（寛永一三三六 A. D. 1709）（寛永一三三七 A. D. 1710）（寛永一三三八 A. D. 1711）（寛永一三三九 A. D. 1712）（寛永一三四〇 A. D. 1713）（寛永一三四一 A. D. 1714）（寛永一三四二 A. D. 1715）（寛永一三四三 A. D. 1716）（寛永一三四四 A. D. 1717）（寛永一三四五 A. D. 1718）（寛永一三四六 A. D. 1719）（寛永一三四七 A. D. 1720）（寛永一三四八 A. D. 1721）（寛永一三四九 A. D. 1722）（寛永一三五〇 A. D. 1723）（寛永一三五一 A. D. 1724）（寛永一三五二 A. D. 1725）（寛永一三五三 A. D. 1726）（寛永一三五四 A. D. 1727）（寛永一三五五 A. D. 1728）（寛永一三五六 A. D. 1729）（寛永一三五七 A. D. 1730）（寛永一三五八 A. D. 1731）（寛永一三五九 A. D. 1732）（寛永一三六〇 A. D. 1733）（寛永一三六一 A. D. 1734）（寛永一三六二 A. D. 1735）（寛永一三六三 A. D. 1736）（寛永一三六四 A. D. 1737）（寛永一三六五 A. D. 1738）（寛永一三六六 A. D. 1739）（寛永一三六七 A. D. 1740）（寛永一三六八 A. D. 1741）（寛永一三六九 A. D. 1742）（寛永一三七〇 A. D. 1743）（寛永一三七一 A. D. 1744）（寛永一三七二 A. D. 1745）（寛永一三七三 A. D. 1746）（寛永一三七四 A. D. 1747）（寛永一三七五 A. D. 1748）（寛永一三七六 A. D. 1749）（寛永一三七七 A. D. 1750）（寛永一三七八 A. D. 1751）（寛永一三七九 A. D. 1752）（寛永一三八〇 A. D. 1753）（寛永一三八一 A. D. 1754）（寛永一三八二 A. D. 1755）（寛永一三八三 A. D. 1756）（寛永一三八四 A. D. 1757）（寛永一三八五 A. D. 1758）（寛永一三八六 A. D. 1759）（寛永一三八七 A. D. 1760）（寛永一三八八 A. D. 1761）（寛永一三八九 A. D. 1762）（寛永一三九〇 A. D. 1763）（寛永一三九一 A. D. 1764）（寛永一三九二 A. D. 1765）（寛永一三九三 A. D. 1766）（寛永一三九四 A. D. 1767）（寛永一三九五 A. D. 1768）（寛永一三九六 A. D. 1769）（寛永一三九七 A. D. 1770）（寛永一三九八 A. D. 1771）（寛永一三九九 A. D. 1772）（寛永一四〇〇 A. D. 1773）（寛永一四〇一 A. D. 1774）（寛永一四〇二 A. D. 1775）（寛永一四〇三 A. D. 1776）（寛永一四〇四 A. D. 1777）（寛永一四〇五 A. D. 1778）（寛永一四〇六 A. D. 1779）（寛永一四〇七 A. D. 1780）（寛永一四〇八 A. D. 1781）（寛永一四〇九 A. D. 1782）（寛永一四一〇 A. D. 1783）（寛永一四一一 A. D. 1784）（寛永一四一二 A. D. 1785）（寛永一四一三 A. D. 1786）（寛永一四一四 A. D. 1787）（寛永一四一五 A. D. 1788）（寛永一四一六 A. D. 1789）（寛永一四一七 A. D. 1790）（寛永一四一八 A. D. 1791）（寛永一四一九 A. D. 1792）（寛永一四二〇 A. D. 1793）（寛永一四二一 A. D. 1794）（寛永一四二二 A. D. 1795）（寛永一四二三 A. D. 1796）（寛永一四二四 A. D. 1797）（寛永一四二五 A. D. 1798）（寛永一四二六 A. D. 1799）（寛永一四二七 A. D. 1800）（寛永一四二八 A. D. 1801）（寛永一四二九 A. D. 1802）（寛永一四三〇 A. D. 1803）（寛永一四三一 A. D. 1804）（寛永一四三二 A. D. 1805）（寛永一四三三 A. D. 1806）（寛永一四三四 A. D. 1807）（寛永一四三五 A. D. 1808）（寛永一四三六 A. D. 1809）（寛永一四三七 A. D. 1810）（寛永一四三八 A. D. 1811）（寛永一四三九 A. D. 1812）（寛永一四四〇 A. D. 1813）（寛永一四四一 A. D. 1814）（寛永一四四二 A. D. 1815）（寛永一四四三 A. D. 1816）（寛永一四四四 A. D. 1817）（寛永一四四五 A. D. 1818）（寛永一四四六 A. D. 1819）（寛永一四四七 A. D. 1820）（寛永一四四八 A. D. 1821）（寛永一四四九 A. D. 1822）（寛永一四五〇 A. D. 1823）（寛永一四五一 A. D. 1824）（寛永一四五二 A. D. 1825）（寛永一四五三 A. D. 1826）（寛永一四五四 A. D. 1827）（寛永一四五五 A. D. 1828）（寛永一四五六 A. D. 1829）（寛永一四五七 A. D. 1830）（寛永一四五八 A. D. 1831）（寛永一四五九 A. D. 1832）（寛永一四六〇 A. D. 1833）（寛永一四六一 A. D. 1834）（寛永一四六二 A. D. 1835）（寛永一四六三 A. D. 1836）（寛永一四六四 A. D. 1837）（寛永一四六五 A. D. 1838）（寛永一四六六 A. D. 1839）（寛永一四六七 A. D. 1840）（寛永一四六八 A. D. 1841）（寛永一四六九 A. D. 1842）（寛永一四七〇 A. D. 1843）（寛永一四七一 A. D. 1844）（寛永一四七二 A. D. 1845）（寛永一四七三 A. D. 1846）（寛永一四七四 A. D. 1847）（寛永一四七五 A. D. 1848）（寛永一四七六 A. D. 1849）（寛永一四七七 A. D. 1850）（寛永一四七八 A. D. 1851）（寛永一四七九 A. D. 1852）（寛永一四八〇 A. D. 1853）（寛永一四八一 A. D. 1854）（寛永一四八二 A. D. 1855）（寛永一四八三 A. D. 1856）（寛永一四八四 A. D. 1857）（寛永一四八五 A. D. 1858）（寛永一四八六 A. D. 1859）（寛永一四八七 A. D. 1860）（寛永一四八八 A. D. 1861）（寛永一四八九 A. D. 1862）（寛永一四九〇 A. D. 1863）（寛永一四九一 A. D. 1864）（寛永一四九二 A. D. 1865）（寛永一四九三 A. D. 1866）（寛永一四九四 A. D. 1867）（寛永一四九五 A. D. 1868）（寛永一四九六 A. D. 1869）（寛永一四九七 A. D. 1870）（寛永一四九八 A. D. 1871）（寛永一四九九 A. D. 1872）（寛永一五〇〇 A. D. 1873）（寛永一五〇一 A. D. 1874）（寛永一五〇二 A. D. 1875）（寛永一五〇三 A. D. 1876）（寛永一五〇四 A. D. 1877）（寛永一五〇五 A. D. 1878）（寛永一五〇六 A. D. 1879）（寛永一五〇七 A. D. 1880）（寛永一五〇八 A. D. 1881）（寛永一五〇九 A. D. 1882）（寛永一五一〇 A. D. 1883）（寛永一五一一 A. D. 1884）（寛永一五一二 A. D. 1885）（寛永一五一三 A. D. 1886）（寛永一五一四 A. D. 1887）（寛永一五一五 A. D. 1888）（寛永一五一六 A. D. 1889）（寛永一五一七 A. D. 1890）（寛永一五一八 A. D. 1891）（寛永一五一九 A. D. 1892）（寛永一五二〇 A. D. 1893）（寛永一五二一 A. D. 1894）（寛永一五二二 A. D. 1895）（寛永一五二三 A. D. 1896）（寛永一五二四 A. D. 1897）（寛永一五二五 A. D. 1898）（寛永一五二六 A. D. 1899）（寛永一五二七 A. D. 1900）（寛永一五二八 A. D. 1901）（寛永一五二九 A. D. 1902）（寛永一五三〇 A. D. 1903）（寛永一五三一 A. D. 1904）（寛永一五三二 A. D. 1905）（寛永一五三三 A. D. 1906）（寛永一五三四 A. D. 1907）（寛永一五三五 A. D. 1908）（寛永一五三六 A. D. 1909）（寛永一五三七 A. D. 1910）（寛永一五三八 A. D. 1911）（寛永一五三九 A. D. 1912）（寛永一五四〇 A. D. 1913）（寛永一五四一 A. D. 1914）（寛永一五四二 A. D. 1915）（寛永一五四三 A. D. 1916）（寛永一五四四 A. D. 1917）（寛永一五四五 A. D. 1918）（寛永一五四六 A. D. 1919）（寛永一五四七 A. D. 1920）（寛永一五四八 A. D. 1921）（寛永一五四九 A. D. 1922）（寛永一五五〇 A. D. 1923）（寛永一五五一 A. D. 1924）（寛永一五五二 A. D. 1925）（寛永一五五三 A. D. 1926）（寛永一五五四 A. D. 1927）（寛永一五五五 A. D. 1928）（寛永一五五六 A. D. 1929）（寛永一五五七 A. D. 1930）

西谷名目雜考 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-hyō-jō-bi-kō. ❷四卷 ❸存 ❹元祿一四刊 ❺（寛永一一六三四 A. D. 1634）

西谷名目醫疾 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-fuku-rō. ❷1卷 ❸存 ❹（前〻・六・右・1111）

西谷名目要義 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-yō-gi. 西谷名目私記 ❷11卷 ❸存 ❹寶永（寛永一一六三五六・四11）刊本（谷大〝寛大・11六八三）

西谷名目略語 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-ryaku-shi. ❸存〝書籍記之內 ❹寶永（寛大）

西谷名目六卷抄 ❶(日)Nishi-dani-myō-moku-roku-kwan-shō. 天台圓宗西教記宗會西谷名目抄〝西谷名目抄 ❷六卷 ❸存 ❹徳川（一六五九 A. D. 1659） ❺刊本（谷大〝1・11六〇・八）

西院 ❶(日)Nishi-no-in. 慶安日錄 ❷1卷 ❸存 ❹文政1111寫 ❺（今園三藏記）

西院 ❶(日)Nishi-no-in. ❷11冊 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院一流印信 ❶(日) Nishi-no-in-ichi-ryū-in-jin. ❷1卷 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院印可 ❶(日)Nishi-no-in-in-ka. ❷1卷 ❸存 ❹明治時代寫 ❺（東書記）

西院印信 ❶(日)Nishi-no-in-in-jin. 密方相傳 ❷1卷 ❸存 ❹鎌倉末〜南北朝頃に成ったと思はる印信集。 ❺寫本（寛大〝巻・1・七〇）

西院印信 ❶(日)Nishi-no-in-in-jin. ❷1冊 ❸存 ❹寫本（寛大〝巻・1・七〇）

西院印信集 ❶(日)Nishi-no-in—in jin-shū. ❷1卷 ❸存 ❹鎌倉の眞言に於ける印信集。 ❺寫本（寛大〝巻・1・七〇）

西院印信類集 ❶(日) Nishi-no-in-in-jin-rui-jū. ❷1卷 ❸存 ❹寫本（金園三藏記）

西院圓祐方自誂 ❶(日) Nishi-no-in-en-yū-gata-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院方之拔書漢頂 ❶(日)Nishi-no-in-gata-no-nuki-gaki-kwan-jō. ❷1帖 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院加行所作 ❶(日)Nishi-no-in-ke-gyō-sho-sa. 西院加行所作次第方 ❷1冊 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院自誂 ❶(日)Nishi-no-in-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存 ❹印度（未考ヤ—未至1六 A. D. 1435—1519）記 ❺寫本1七寫 ❻（寛大〝巻・1・五五）

西院自誂 ❶(日)Nishi-no-in-kechi-myaku. ❸存 ❹足利末—藤川書代寫 ❺（今園三藏記）

西院自誂私記 ❶(日)Nishi-no-in-kechi-myaku-shi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹足利中期寫 ❺（今園三藏記）

西院元祿方自誂 ❶(日) Nishi-no-in-gen-yu-gata-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院元祿方傳受目錄考證記 ❶(日) Nishi-no-in-gen-yu-gata-den-ju-moku-roku-narabini-kiki-gaki. ❷11帖 ❸存 ❹伊藤義〝考證記 ❺文化九寫 ❻（寛大〝巻・1・六1）

西院四師聞書 ❶(日)Nishi-no-in-shi-do-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹行快（貞和元—應永11111 A. D. 1345—1416）口〝伝授（一應永三1 A. D. 1424）記 ❺足利時代寫 ❻（東書記）

西院四師諸尊傳受次第 ❶(日) Nishi-no-in-shi-do-sho-son-den-ju-shi-dai. ❷1冊 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院十八道口決 ❶(日) Nishi-no-in-jū-hachi-dō-ku-ketsu. ❷11卷 ❸存 ❹頼瑜（寛安11—應永元 A. D. 1304—1379） ❺〔參考〕 城吉安全參刊行東定卷四

西院十八道金胎護摩私次第 ❶(日) Nishi-no-in-jū-hachi-dō-kon-tai-go-shi-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹寫本（寛大〝1・六11）

西院諸尊口訣 ❶(日)Nishi-no-in-sho-son-ku-ketsu. ❷十1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院諸大事 ❶(日)Nishi-no-in-sho-dai-ji. ❷1卷 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院諸方相傳 ❶(日)Nishi-no-in-sho-gata-sō-den. ❷1帖 ❸存 ❹行快（貞和元—應永11111 A. D. 1345—1416） ❺西院流の定法方・四法方・四行上人傳（定四方）・相傳方の四方相傳の傳授目錄を記げ、相傳次第を記したものら。 ❻足利時代寫（東書記）寫本（今園三藏記）

西院諸教相承 ❶(日) Nishi-no-in-shō-gyō-sō-jō. ❷1帖 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院諸教目錄 ❶(日)Nishi-no-in-shō-gyō-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院先德略名 ❶(日)Nishi-no-in-sen-doku-ryaku-myō. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（寛大〝巻・1・七11）

西院相承記 ❶(日)Nishi-no-in-sō-jō-ki. ❷1帖 ❸存 ❹寫文天寫 ❺（寛大〝巻・1・五五）

西院相承次第 ❶(日)Nishi-no-in-sō-jō-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹諸師の相承に關する西院相承次第。 ❺貞和11寫 ❻（寛大〝巻・1・七〇）

西院相承諸尊等目錄 ❶(日)Nishi-no-in-sō-jō-sho-son-tō-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院相承諸法等目錄 ❶(日)Nishi-no-in-sō-jō-som-pō-tō-moku-roku. 西院相承諸法等目錄相傳方 ❷1帖 ❸存 ❹應永11111寫 ❺（今園三藏記）

西院相續記 ❶(日)Nishi-no-in-sō-zok-ki. 西院流相續記 ❷1帖 ❸存 ❹寫鎌倉末 ❺（今園三藏記）

西院傳受記 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-ki. ❷1卷 ❸存 ❹行快（貞和元—應永11111 A. D. 1345—1416） ❺〔參考〕 西院教授傳授目錄

西院傳受記 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-kiki-gaki. ❷十卷 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（今園三藏記）

西院傳受抄 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-shō. ❷11卷 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院傳受日記 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-nik-ki. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院傳受目錄 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹文保（今園三藏記）藤川書代寫（東書記）

西院傳受錄 ❶(日)Nishi-no-in-den-ju-roku. ❷十五卷 ❸存 ❹鎌倉 ❺〔參考〕 城吉安全參刊行東定卷四

西院傳法印信口決 ❶(日)Nishi-no-in-dem-bō-in-jin-ku-ketu. ❷1帖 ❸存 ❹寫文（今園三藏記）

西院傳法灌頂記 ❶(日) Nishi-no-in-dem-bō-kwan-jō-ki. ❷11帖 ❸存 ❹寫文天寫 ❺（東書記）

西院傳法文書類 ❶(日) Nishi-no-in-dem-bō-mon-jo-rui. ❷1帖 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院能禪方自誂 ❶(日) Nishi-no-in-nō-zen-gata-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院能禪方傳圓記方傳受私記 ❶(日)Nishi-no-in-nō-zen-gata-narabini-en-yū-gata-den-ju-shi-ki. ❷五卷 ❸存 ❹行快 ❺寫文（今園三藏記）

西院人拔 ❶(日) Nishi-no-in-hak-ketsu. ❸存 ❹西院流相傳の拔書法の拔書を聞集ナシしたもの。 ❺足利中期寫 ❻（東書記）

西院人拔聞書 ❶(日)Nishi-no-in-hak-ketsu-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺（東書記）

西院人拔目錄 ❶(日)Nishi-no-in-hak-ketsu-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西院付法記 ❶(日)Nishi-no-in-fu-hō-ki. ❷1帖 ❸存 ❹文保11寫 ❺（今園三藏記）

西院付法相承自誂 ❶(日)Nishi-no-in-fu-hō-sō-jō-kechi-myaku-shō. ❷11卷 ❸存 ❹鎌倉（寛元11—應永元 A. D. 1304—1379）口 ❺鎌倉末寫 ❻（寛大〝巻・1・五五）

西院法流相傳記 ❶(日) Nishi-no-in-hō-ru-sō-zok-ki. 西院相續記 ❷1卷 ❸存 ❹寫本（東書記）

西院流 ❶(日)Nishi-no-in-ryū. ❷1卷 ❸存〝大日本佛教全書卷11 ❹西院流人師全法流大日錄11卷の上卷ヤ〝西院流の系統人師の代表日錄を示した卷。西院流の受は院の片名ヤるら。下卷は相承卷法等日錄と題し〝全法と流承法の日錄を示したヤるら。 （小田慶喜）

西院流印可印信自誂 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-in-ka-in-jin-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存 ❹藤川書代寫 ❺（東書記）

西園寺家古今和歌集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kin-ka-shū. ❷1卷 ❸存 ❹(家番記)

西園寺家古今集 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kin-kyō. ❷1卷 ❸存 ❹(家番記)

西園寺家記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-ki. ❷十二卷 ❸存 ❹宣賢(建武年間—一四三四A. D. 1345—1416) ❺(參考) 結城宗廣所行家定書目

西園寺家記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺家行幸記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-gyō-yō-sai-ryaku. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家金玉歌大集書目錄 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kin-gyoku-i-sui-mu-gom-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家口訣 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-ku-ketsu. 松園三位抄 ❷1帖 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—)三"初抄(貞和元—一三四五A. D. 1345—1416)抄 ❺勝川會代筆 ❻(家番記)

西園寺家漢詩會記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kwan-jō-zak-ki. ❷六帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺家漢詩會用書 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kwan-jō-yō-i. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家自談 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kechi-myaku. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(元應元—建武元年A. D. 1184—1255)頃 ❺西園寺家の祖西園寺公經"實氏"實兼等を記したもの。❻宣賢本(寫大"家•1•七〇)

西園寺家自談裏書方 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kechi-myaku. 西園寺家自談裏書方 ❷1帖 ❸存 ❹(家番記)

西園寺家記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kem-mon. ❷1帖 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—) ❺足利義教代筆 ❻(家番記)

西園寺家記古今集目錄 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-go-tsū-in-jin-kiki-gaki. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢筆 ❺(家番記)

西園寺家記雅楽神事儀式 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-go-ma-shō-narabini-shin-gu. ❷1帖 ❸存 ❹足利義教代筆 ❺(家番記)

西園寺家歌合集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kon-kai-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺家金追儀口訣 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kon-tai-go-ku-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(寫大"1•六11)

西園寺家作法 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-sa-hō. ❷四帖 ❸存 ❹大安宣賢 ❺(家番記)

西園寺家四季口訣 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shi-do-ku-ketsu. ❷四卷 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—)頃 ❺十八番口訣•金葉集口訣•千載集口訣等を一卷にまとめ。

西園寺家四季歌集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shi-do-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"1•六11)

西園寺家四季歌集記並行作法書口決 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-shi-do-shi-ki-narabini-ke-gyō-sa-hō-tō-ku-ketsu. ❷1帖 ❸存 ❹文明天寶 ❺(家番記)

西園寺家四季歌題記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-shi-do-zui-mon-ki. ❷四帖 ❸存 ❹法光(家番記—一文政元A. D. 1752—1821)ロ"紀事記 ❺文化六年四月十八日より同元年七月七日に至る歌題等を記す。

西園寺家式 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shiki. ❷六帖 ❸存 ❹家番(一一番参照A. D. 1258—1341)抄 ❺宣賢(家番記)

西園寺家教授館全令讃文集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shō-gyō-ryaku-gon-nen-ju-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"1•六11)

西園寺家書法 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-sho-bō. ❷九帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"家•1•六〇)

西園寺家追歌文集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-tai-kai-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺大事自談 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-dai-ji-narabini-kechi-myaku. ❷存 ❹宣賢(家番記)

西園寺殿記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-den-ju-ki. ❷1卷 ❸存 ❹文安宣賢(寫大"1•六四)頃 ❺勝川會代筆(家番記)(家番目錄)

西園寺殿記書 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢筆 ❺(家番記)

西園寺殿記抄 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-sei-yaku. ❷1卷 ❸存 ❹足利義教筆 ❺(家番記)

西園寺殿記日記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-nik-ki. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺殿記之事 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-no-koto. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(1)筆 ❺(家番記)

西園寺殿記法語 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-hō-go. ❷1卷 ❸存 ❹後土御門(安政四—一四五六A. D. 1857—1921)帝"後日の宣賢 ❺天正1三年 ❻(寫大"家•1•五七) ❼天文歌論記卷

西園寺法副 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-hos-soku. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺田楽禮式抄 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-yu-rai-bi-mō-shō. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(寫寫"1•1四•九11)

西園寺家歌會集十人集 ❶(日) Nishi-no-in-ryō-kai-go-ma-ho-ketsu-narabini-jū-hachi-dō. 西園寺家 ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(家番目錄記)

西園寺殿記書 ❶(日) Ni-shi-no-in-

西園寺家古今和歌集口決 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-in-ka-ryaku-ju-sa-hō-ku-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(家番目錄記)

西園寺家古事 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-in-jin. ❷1卷 ❸存 ❹足利一勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家記書 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kiki-gaki. ❷十二卷 ❸存 ❹宣賢(貞和元—一三四五A. D. 1345—1416) ❺(參考) 結城宗廣所行家定書目

西園寺家記書 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kiki-gaki. ❷11帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺家行幸事記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-gyō-yō-sai-ryaku. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家金玉歌大集書目錄 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kin-gyoku-i-sui-mu-gom-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家口訣 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-ku-ketsu. 松園三位抄 ❷11帖 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—)三"初抄(貞和元—一三四五A. D. 1345—1416)抄 ❺勝川會代筆 ❻(家番記)

西園寺家漢詩會記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kwan-jō-zak-ki. ❷六帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番記)

西園寺家漢詩會用書 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kwan-jō-yō-i. ❷1帖 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番記)

西園寺家自談 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kechi-myaku. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(元應元—建武元年A. D. 1184—1255)頃 ❺西園寺家の祖西園寺公經"實氏"實兼等を記したもの。❻宣賢本(寫大"家•1•七〇)

西園寺自談裏書方 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kechi-myaku. 西園寺家自談裏書方 ❷1帖 ❸存 ❹(家番目錄記)

西園寺家記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kem-mon. ❷1帖 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—) ❺足利義教代筆 ❻(家番記)

西園寺家古今集目錄書 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-go-tsū-in-jin-kiki-gaki. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢筆 ❺(家番目錄記)

西園寺家雅楽神事儀式 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-go-ma-shō-narabini-shin-gu. ❷1帖 ❸存 ❹足利義教代筆 ❺(家番記)

西園寺家歌合集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-kon-kai-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺家金追儀口訣 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-kon-tai-go-ku-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(寫大"1•六11)

西園寺家作法 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-sa-hō. ❷四帖 ❸存 ❹大安宣賢 ❺(家番目錄記)

西園寺家四季口訣 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shi-do-ku-ketsu. ❷四卷 ❸存 ❹本書(一一番参照A. D. 1394—1427—)頃 ❺十八番口訣•金葉集口訣•千載集口訣等を一卷にまとめ。

西園寺家四季歌集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shi-do-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"1•六11)

西園寺家四季歌集記並行作法書口決 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-shi-do-shi-ki-narabini-ke-gyō-sa-hō-tō-ku-ketsu. ❷1帖 ❸存 ❹文明天寶 ❺(家番目錄記)

西園寺家四季歌題記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-shi-do-zui-mon-ki. ❷四帖 ❸存 ❹法光(家番目—一文政元A. D. 1752—1821)ロ"紀事記 ❺文化六年四月十八日より同元年七月七日に至る歌題等を記す。

西園寺家式 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shiki. ❷六帖 ❸存 ❹家番(一一番参照A. D. 1258—1341)抄 ❺宣賢(家番目錄記)

西園寺家教授館全令讃文集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-shō-gyō-ryaku-gon-nen-ju-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"1•六11)

西園寺家書法 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-sho-bō. ❷九帖 ❸存 ❹宣賢(寫大"家•1•六〇)

西園寺家追歌文集 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-tai-kai-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹藤谷會代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺大事自談 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-dai-ji-narabini-kechi-myaku. ❷存 ❹宣賢(家番目錄記)

西園寺殿記 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-den-ju-ki. ❷1卷 ❸存 ❹文安宣賢(寫大"1•六四)頃 ❺勝川會代筆(家番目錄記)(家番目錄記)

西園寺殿記書 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿記抄 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-sei-yaku. ❷1卷 ❸存 ❹足利義教筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿記日記 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-nik-ki. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿記之事 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-no-koto. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(1)筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿記法語 ❶(日) Nishi-no-in-ryū-den-ju-hō-go. ❷1卷 ❸存 ❹後土御門(安政四—一四五六A. D. 1857—1921)帝"後日の宣賢 ❺天正1三年 ❻(寫大"家•1•五七) ❼天文歌論記卷

西園寺法副 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-hos-soku. ❷1卷 ❸存 ❹勝川會代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺田楽禮式抄 ❶(日)Nishi-no-in-ryū-yu-rai-bi-mō-shō. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(寫寫"1•1四•九11)

西園寺家歌會集十人集 ❶(日) Nishi-no-in-ryō-kai-go-ma-ho-ketsu-narabini-jū-hachi-dō. 西園寺家 ❷1卷 ❸存 ❹宣賢(家番目錄記)

西園寺殿記書 ❶(日) Ni-shi-no-in-

kiki-gaki. ❷1卷 ❸存 ❹宣賢筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿書目錄 ❶(日)Ni-shi-no-in-sho-moku-roku. 西園寺殿書目錄 ❷1帖 ❸存 ❹足利一勝川會代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿神示書 ❶(日)Ni-shi-no-in-sō-jō-no-koto. ❷1帖 ❸存 ❹宣賢(貞和11—一三四五A. D. 1228—1319)記 ❺足利和同宣賢 ❻(家番目錄記)

西園寺殿心流孔明書 ❶(日)Ni-shi-no-in-ryū-shi-kiki-gaki. ❷1帖 ❸存 ❹足利義教代筆 ❺(家番目錄記)

西園寺殿語寺縁起 ❶(日)Nishi-no-kyō-yaku-shi-ji-en-gi. ❷1卷 ❸存 ❹大日本史料記載記事抄11〇今讃寺縁起四 ❺本書は南北朝時代の人である。西園寺家出身の僧侶で、讃岐の國に住して、讃岐の國の國司を勤めた。寺縁起には、「讃岐國の國司、藤原朝臣、讃岐の國の國司、藤原朝臣、讃岐の國の國司、藤原朝臣、讃岐の

shū-ō-fuku-mon-jo. ❷一卷 ❸存 ❹原本(稲田海素)寫本(立大、D O・二三一)

日奥聖書 ❶(B)Nichi-ō-shō-sho. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一八四・一九)

日奥聖人御消息集 ❶(B)Nichi-ō-shō-nin-go-shō-soku-sha. ❷一卷 ❸存 ❹花屋日秀編 ❺大正一〇刊 ❻(立大、A O六・一一九) ❼同山妙覺寺

日應言上 ❶(B)Nichi-ō-gon-jō. ❷一卷 ❸存 ❹介門日應作 ❺原本(飯路妙立寺)(立大、D O・二一八)

日遠聖人御書 ❶(B)Nichi-on-shō-nin-go-sho. ❷一冊 ❸存 ❺延寶九寫 ❻(立大、A O四・三二八)

日月記 ❶(B)Nichi-gwatsu-ki. ❷十帖 ❸存 ❹永寶 ❺正應三寫 ❻(金剛三昧院)

日月行度集異鈔 ❶(B) Nichi-gwatsu-gyō-do-shū-i-shō. ❷一卷 ❸存 ❹快道(寶曆元—文化七 A. D. 1751—1810) ❺明和七寫 ❻(谷大)

日月行道圖解 ❶(B)Nichi-gwatsu-gyō-dō-zu-kai. ❷一冊 ❸存 ❹(哲、え・七・右・三〇)

日月行品講義 ❶(B)Nichi-gwatsu-gyō-hon-kō-gi. 立世阿毘曇論日月行品講義 ❷一冊 ❸存 ❹明雲 ❺安政二(A. D. 1855) ❻明治九寫 ❼(谷大、餘大・八九九)

日月行品講義 ❶(B)Nichi-gwatsu-gyō-hon-kō-gi. 立世阿毘曇論日月行品講義 ❷一卷 ❸存 ❹雲英晃耀(文政七—明治四三 A. D. 182+—1910)述 ❺寫本(谷大、餘大・一六二〇)

日月行品講解 ❶(B)Nichi-gwatsu-gyō-hon-kō-kai. 立世阿毘曇論日月行品講解 ❷二卷 ❸存 ❹雲遊 ❺寫本(谷大、餘大・八〇八)

日月行品講解私記 ❶(B)Nichi-gwatsu-gyō-hon-kō-kai-shi. 立世阿毘曇論日月行品講解私記 ❷二卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・三五三一)

日月行品臺麓考 ❶(B) Nichi-gwatsu-gyō-hon-dai-roku-kō. 立世阿毘曇論日月行品台麓考 ❷二卷 ❸存 ❹佐田介石(文政元—明治一五 A. D. 1818—1882) ❺明治一三刊 ❻(龍大、二六二九・一一)(谷大、餘大・二一四〇)(帝國、四・一六五)

日月金剛王院流大事 ❶(B)Nichi-gwatsu-kon-gō-ō-in-ryū-dai-ji. ❷十一卷 ❸存 ❹我寶 ❺元祿二寫 ❻(寶菩提院)

日月西行解 ❶(B) Nichi-gwatsu-sai-gyō-kai. ❷二卷 ❸存 ❹雲遊 ❺萬延元刊 ❻(龍大、二七三・二六)(谷大、餘大・三〇〇)(哲、え・七・左・六)

日月警經 ❶(B) Nichi-gwatsu-hi-kyō. (支) Jih-yueh-pi-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

日月祕觀 ❶(B) Nichi-gwatsu-hi-kwan. ❷一卷 ❻曇護(宮保二—康治二 A. D. 1693—1143) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

日持上人海外遺跡探驗記 ❶(B)Nichi-ji-shō-nin-kai-gwai-seki-tan-ken-ki. ❷一卷 ❸存 ❹柿花啓正 ❺大正八刊 ❻(正大、一八一・一八)

日珠鈔 ❶(B)Nich-ju-shō. 梵網戒本疏日珠鈔 ❷五十卷 ❸存、大正六二・四No. 2247 ❹湛然(仁治元—元亨元 A. D. 1240—1321)述 ❺梵網戒本疏日珠鈔の下を見よ。

日什御一期間記 ❶(B)Nichi-jū-go-ichi-gi-no-aida-no-ki. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書、顧本法華宗部第一之内 ❹日穆 ❺永德元(A. D. 1381) ❻著者傳記未詳。奥書に「永德元年辛酉十二月下旬 日穆記之」と記してあるところから同年代頃の人と推知せらる。

顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の派祖日什は永德元年京都御所に參向、二條關白を經て「安國論」及び「申狀」を献上し、捨邪歸正を勸め、宗内の壞法亂明を泰問せる始終を記錄せるものである。 (馬田行啓)

日什師年表化導略頌附目錄 ❶(B)Nichi-jū-shi-nen-pyō-ke-dō-ryaku-jū-tsuketari-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹日蓮 ❺原本(顧本宗學會)寫本(立大、D O・二二〇)

日什上人置文諷誦抄 ❶(B)Nichi-jū-shō-nin-oki-bumi-fū-ju-shō. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(立大、D O・一五一)

日什上人集 ❶(B) Nichi-jū-shō-nin-shū. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内 ❹日什(正和三—元中九 A. D. 1314—1392)

❻顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の派祖日什の短篇集。

諷誦文(敬白、告諷誦事、眞問歸伏狀、眞問起請文、法華門戒血脈、日什門徒等可存知事、置文、與妙顧寺書の七篇を收む。諷誦文に什師所立の教義を顯在せりとなし尊重せらる。 (馬田行啓)

日什聖人御由來之事 ❶(B)Nichi-jū-shō-nin-go-yu-rai-no-koto. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内 ❹宗尊

❻作者の傳記及年代未詳。顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の派祖日什の由緒記で極めて短篇である。 (馬田行啓)

日什聖人朝夕勤行掟事 ❶(B) Nichi-jū-shō-nin-chō-seki-gon-gyō-okite-no-koto. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内 ❹日穆(—寶德三 A. D. 1451)

❻什門即ち顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の朝夕勤行の心得を記述した短篇。奥書に「智壽坊日滿傳畢、日穆謹授之、御本云、寶德元年己巳二月二十八日」とあるところから見れば寶德元年頃の作と思はる。 (馬田行啓)

日什聖人略傳記 ❶(B)Nichi-jū-shō-nin-ryaku-den-ki. 妙滿開山日什聖人略傳記 ❷一卷 ❸存 ❺安政五刊 ❻(谷大、餘大・二九一一)

日什奏聞記 ❶(B)Nichi-jū-sō-mon-ki. ❷一冊 ❸存 ❹日什(正和三—元中九 A. D. 1314—1392) ❻寫本(京大、日大未・五四四)

日什名相本地之口訣 ❶(B)Nichi-jū-myō-sō-hon-ji-no-ku-ketsu. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内 ❹日穆(—寶德三 A. D. 1451)

❻顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の派祖日什を以て日蓮の再來又は本地淨行菩薩等と稱する口傳の記述で極めて短篇である。奥書に「御本云、明德三年壬申閏書、應永十年云云、日穆在判」とあるところから見れば明德三年頃の作と思はる。 (馬田行啓)

日什門徒建立由緒 ❶(B)Nichi-jū-mon-to-ri-kon-ryū-yui-sho. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内 ❹宗尊

❻作者及年代未詳。奥書に「本云、應永三年、宗尊私」とあるところから見れば應永三年の作か。

顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)が別立して一派を建立するに至つた事情を要記した短篇。

日什門徒等可存知事 ❶(B)Nichi-jū-mon-to-tō-zon-chi-subeki-koto. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書顧本法華宗部第一之内、日什上人集之内 ❹日什(正和三—元中九 A. D. 1314—1392) ❺嘉慶二(A. D. 1388)

❻顧本法華宗(舊稱妙滿寺派)の派祖日什が、本立山玄妙寺を本寺とすべきこと、本派は六門跡(六老僧の門流)等に依らず直接日蓮大聖人の御書より直接せられたるものなること等の重要事項を箇文としたものである。 (馬田行啓)

日什門流化儀法理 ❶(B)Nichi-jū-mon-ryū-ke-gi-hō-ri. ❷一卷 ❸存 ❹妙滿寺日善 ❺慶長二寫 ❻(立大、D O・二二一)

日出經 ❶(B)Nik-shutsu-kyō. (支) Jih-chu-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一

日像傳記 ❶(B)Nichi-zō-den-ki. ❷一卷 ❸存 ❻(京大、一・二二二・六)

日像菩薩德行記 ❶(B)Nichi-zō-bo-satsu-tok-kō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹日潛述、小林日重(—明治三八 A. D. 1905)編 ❻明和九刊(立大、A O六・一一三)(谷大、餘大・二二五六)(龍大、二九六五・一八二)(京大、一・二二二・二)明治二二刊(立大、A O六・一二六)

日像菩薩德行記 ❶(B)Nichi-zō-bo-satsu-tok-kō-ki. 增補龍華日像菩薩德行記 ❷一卷 ❸存 ❹(立大、A O六・五八)

日像菩薩年譜備考 ❶(B)Nichi-zō-bo-satsu-nen-pu-bi-kō. ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

日像門家分散之由來記 ❶(B) Nichi-zō-mon-ke-bun-san-no-yu-rai-ki. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書、史傳舊記部之内

❻作者年代共に未詳、本文及奥書により欠略天文二十一年以後元龜三年以前の作なることを推知せらる。日蓮宗中古の史料たり。

一、第一妙覺寺出也。一、直綴事。一、御正體事。一、廻向事。一、月明僧正之御代分寺之事。一、立本寺呉出之事。一、妙蓮寺退出事。本能寺退出之事。一、妙教寺退去之事。一、久成寺退出之事。日具僧正之御代ニ分ル、寺ノ事。一、妙光寺分ル、事。一、本隆寺之事

の諸條目を立て、日像門流分散の事情を記し、以下これに關係した起請文類を掲げてある。 (馬田行啓)

日藏經 ❶(B)Nichi-zō-kyō. (支) Jih-tsang-ching. 日藏分、大乘大方等日藏經、大方等大集日藏經、大方等日藏經、❷十卷 ❸存、大方等大集經第三四—四五(大正一三・二三三 No. 397, 14)、❹陪那連提耶舍(天監一六—開皇九 A. D. 517—589)譯

❻文明以前翻刻宋版(高大、寄・一・二三三)

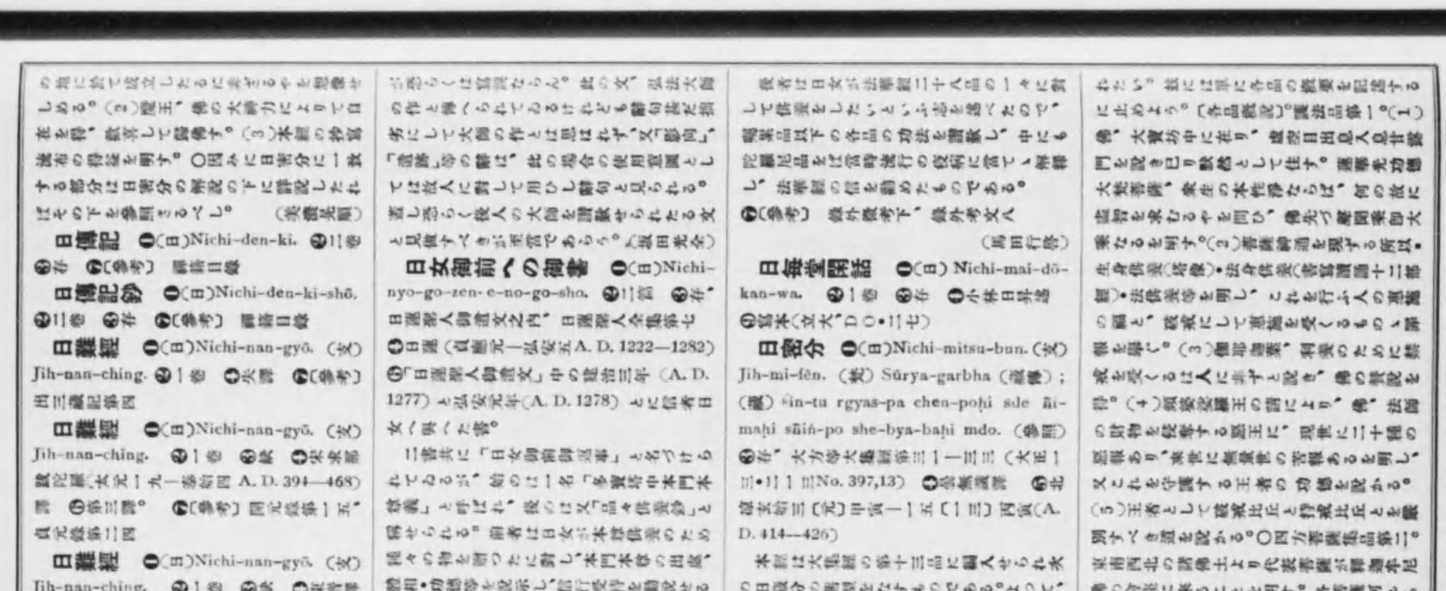
日藏觀世音經 ❶(B) Nichi-zō-kwan-ze-on-gyō. (支) Jih-tsang-kuan-shih-yin-ching. ❷一卷 ❻曇無讖(北涼玄始十年—永和二 A. D. 412—414)譯 ❼(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

日藏分 ❶(B)Nichi-zō-bun. (支)Jih-tsang-fen. (梵) Sūrya-garbha (藏傳) (藏) nin-tu rgyas-pa chen-poji sde dimahi sñiñ-po shes-bya-bahi mdo. 大乘大方等日藏經、大方等大集日藏經、大方等日藏經、日藏經 ❷十卷 ❸存、大方等大集經第三四—四五(大正一三・二三三 No. 397, 14)、❹闍那崛多・笈多譯、隋代、❺開皇九(A. D. 517—589)譯、❻開皇五(A. D. 557—595)

❻本經は元來單本として譯されしものなるを、後、僧就によりて曇無讖譯の大方等大集經の末尾へ附加編入せられたるものといはれ(但し宋元明三本は舊の如く大乘大方等日藏經と稱して別行せり、その僧就編入の事情に就ては大方等大集經の下の解說を見よ)、内容西藏譯に粗全同す(但し西藏譯は本經の第四第五の二品を合品するを以て品數に於て一品を減じて十二品となれり)。然るに曇無讖譯の大集經には別に日密分あり、題名は梵語を同じくするものにして、内容亦本經の原始的形態をなすを以て、本經の聖典史的研究に取りては貴重なる資料となすべし。兩分の品名を比較すれば左の如し。

日藏分　日密分

護持正法品第一——護法品第一



国土に於ける方の日蓮宗教団は法華経を主として一切経に対する研究を進め、日蓮聖人の教説を中心として、日蓮聖人の教説を研究し

❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正二一刊 ❽東京大法館

日蓮主義と近代思潮 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-to-kin-dai-shi-chō. ❷存″ 日蓮宗大系修六 ❹守尾貫教著 ❼昭和七刊 ❽東京大林園

日蓮主義と現代精神 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-to-gen-dai-shō-rai. ❷一卷 ❻存 ❹山川智應著 ❼大正九刊 ❽東京新潮社

日蓮主義と女性 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-to-jo-sei. ❷存″ 日蓮宗大系修七 ❹結城愛子著 ❼昭和七刊 ❽東京大林園

日蓮主義と世の中 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-to-yo-no-naka. ❷一卷 ❻存 ❹志村和雄著 ❼大正八刊 ❽東京新潮社

日蓮主義日訓 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-nik-kun. ❷一卷 ❻存 ❹小林一郎著 ❼大正七刊 ❽東京文四館

日蓮主義の運用 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-un-yō. ❷一卷 ❻存 ❹本多日生(一昭和六 A. D. 1931)著 ❼大正八刊 ❽(日)(梵大″二二六丸二・二二六)

日蓮主義の宗教 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-shū-kyō. ❷一卷 ❻存 ❹北尾吉孝著 ❼大正一〇刊 ❽東京新潮社

日蓮主義の心髓 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-shin-zui. ❷一卷 ❻存 ❹本多日生(一昭和六 A. D. 1931)著 ❼昭和四刊 ❽東京中央出版社

日蓮主義の新体究 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-shin-ken-kyū. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正七刊 ❽東京大法館

日蓮主義の本質 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-hon-ryō. 結印書類著 ❼昭和六刊 ❽(日)(梵大″二二六丸二・二二六)

日蓮主義の妙理 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-myō-shu. ❷一卷 ❻存 ❹妙著 ❼大正八刊 ❽東京小西書店

日蓮主義法難集 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-hō-nan-shū. ❷一卷 ❻存 ❹(梵大″二〇六・四三″六〇)

日蓮宗教論 ❶(日)Nichi-ren-shū-gai-ron ❻存″ 巻数文献之内 ❹渡本秋麦 ❼昭和七刊 ❽東京東方書院

日蓮宗各本山名所圖會 ❶(日)Nichi-ren-shū-kaku-hon-zam-mei-sho-zu-e. ❷一卷 ❻存 ❹石倉重継編 ❼明治三六刊 ❽東京博文館

日蓮宗教義大意 ❶(日)Nichi-ren-shū-kyō-gi-tai-i. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正七刊 ❽東京大法館

日蓮宗教義大意 ❶(日)Nichi-ren-shū-kyō-gi-tai-i. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正八刊 ❽(梵大″一・二二六〇・一九)(梵大″二〇四・四二)

日蓮主義の爲に ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-tame-ni. ❷一卷 ❻存 ❹松倉豊治著 ❼大正七刊 ❽東京修山閣

日蓮主義の文化的研究 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-bun-kwa-teki-ken-kyū. ❷一卷 ❻存 ❹尾崎胤雄著 ❼大正一〇刊 ❽東京大藤民書社

日蓮主義の本質 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-hon-ryō. 結印書類著 ❼昭和三刊 ❽(日)(梵大″二二六丸二・二二六)

日蓮主義の妙理 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-no-myō-shu. ❷一卷 ❻存 ❹妙著 ❼大正八刊 ❽東京小西書店

日蓮主義法難集 ❶(日)Nichi-ren-shu-gi-hō-nan-shū. ❷一卷 ❻存 ❹(梵大″二〇六・四三″六〇)

日蓮宗教論 ❶(日)Nichi-ren-shū-gai-ron ❻存″ 巻数文献之内 ❹渡本秋麦 ❼昭和七刊 ❽東京東方書院

日蓮宗各本山名所圖會 ❶(日)Nichi-ren-shū-kaku-hon-zam-mei-sho-zu-e. ❷一卷 ❻存 ❹石倉重継編 ❼明治三六刊 ❽東京博文館

日蓮宗教義大意 ❶(日)Nichi-ren-shū-kyō-gi-tai-i. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正七刊 ❽東京大法館

日蓮宗教義大意 ❶(日)Nichi-ren-shū-kyō-gi-tai-i. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮書類著 ❼大正八刊 ❽(梵大″一・二二六〇・一九)(梵大″二〇四・四二)

日蓮宗教理史 ❶(日)Nichi-ren-shū-kyō-ri-shi. ❷一卷 ❻存 ❹宇田一郎著 ❼昭和四刊 ❽東京三松堂

日蓮宗古事傳記 ❶(日)Nichi-ren-shū-ko-ji-den-ki. ❷一卷 ❻存 ❹貫主(梵大″一・二二六〇・四)

日蓮宗宗祖傳傳 ❶(日)Nichi-ren-shū-kō-sō-den. ❷一卷 ❻存 ❹渡部智之著 ❼大正元刊 ❽東京博文館

日蓮宗綱要 ❶(日)Nichi-ren-shū-kō-yō. ❷一卷 ❻存″ 日本宗教教義大意 ❹小林日薩(一明治三八 A. D. 1905)著 ❼明治三一刊 ❽(梵)巻数文献之内

日蓮宗綱要 ❶(日)Nichi-ren-shū-kō-yō. ❷一卷 ❻存 ❹北尾吉孝著 ❼大正三刊 ❽東京日宗新報社

日蓮宗綱要 ❶(日)Nichi-ren-shū-kō-yō. ❷一卷 ❻存 ❹清水宗山著 ❼昭和三刊 ❽東京四十田書院

日蓮宗講義錄 ❶(日)Nichi-ren-shū-kō-gi-roku. ❷七卷 ❻存 ❹中沼法雄編 ❼大正六刊 ❽東京本化聖教院

日蓮宗史要 ❶(日)Nichi-ren-shū-shi-yō. ❷一卷 ❻存 ❹櫛釣天明著 ❼大正九刊 ❽(梵)巻数文献之内

日蓮宗宗學書流目錄 ❶(日)Nichi-ren-shū-shū-gaku-shō-sho-moku-roku. ❷一卷 ❻存 ❹日蓮宗大学聯盟編輯 ❼大正七刊 ❽(日)(梵大″B〇九・五五一五八″七七″八八)(梵大″一八〇・一・二二)(梵大″二〇四・四二)

日蓮宗本尊論 ❶(日)Nichi-ren-shū-hon-zon-ron. ❷一卷 ❻存 ❹北尾吉孝著 ❼昭和二刊 ❽東京宗教社

日蓮宗珍禁手鑑本宗宗學講要 ❶(日)Nichi-ren-shū-myō-man-ji-ha-hon-shū-shū-gi-kō-yō. ❷一卷 ❻存 ❹山崎明日菊 ❼明治三六刊 ❽(冷大″一九・四四七)

日蓮宗名僧図筆 ❶(日)Nichi-ren-shū-mei-sō-zui-hitsu. ❷一卷 ❻存 ❹宮本(梵大″八〇四・三二〇九)

日蓮宗門末寺目錄 ❶(日)Nichi-ren-shū-mon-cho-sho-moku-roku. ❷一卷 ❻存 ❹三宝尾誠人 ❼明治三六刊 ❽(冷大″巻大・一一二〇三)

日蓮宗論講要規 ❶(日)Nichi-ren-shū-rai-ju-yō-ki. ❻存 ❼昭和七刊 ❽東京護王寺

日蓮宗論講要編 ❶(日)Nichi-ren-shū-rai-ju-yō-hen. ❷一卷 ❻存 ❹村田清風(宮川文化)著 ❼大正三刊 ❽(梵大″B明治・〇・二二六〇)(梵大″B〇八″・九二八″五三)

日蓮宗歷史 ❶(日)Nichi-ren-shū-reki-shi. ❷一卷 ❻存″ 巻数文献之内 ❼明治三一—三二刊 ❽(冷)(梵大″一四・二二四)

日蓮宗歷史 ❶(日)Nichi-ren-shū-reki-shi. 新編日蓮宗歷史 ❷一卷 ❻存 ❹沼山宗慶著 ❼大正一〇刊 ❽東京四聖社

日蓮宗々學全書 ❶(日)Nichi-ren-shū-shū-gaku-zen-sho. ❷十八卷 ❻存 ❹日蓮宗々學全書刊行會編 ❼大正一〇—一五刊 ❽東京宗四刊行會

日蓮宗々規宗制 ❶(日)Nichi-ren-shū-shū-ki-shū-soku. ❷一卷 ❻存 ❹牧田慶存編 ❼明治三七刊 ❽(梵大″二二〇九・四三七)

日蓮宗學問博士業論 ❶(日)Nichi-ren-shū-shō-myō-haku-shi-gaku-ron. ❷一卷 ❻存 ❹多田玄龍著 ❼昭和六刊 ❽(日)日蓮宗法要式編纂會

日蓮宗法品三問答 ❶(日)Nichi-ren-shū-jō-do-shū-shina-gawa-mon-dō. ❷一卷 ❻存 ❹宮本(冷)(梵大″一四〇・六)

日蓮宗辭典 ❶(日)Nichi-ren-shū-sei-ten. ❷一卷 ❻存 ❹柴田一能″ 山田一郎共編 ❼大正一〇刊 ❽東京東京堂

日蓮宗全書 ❶(日)Nichi-ren-shū-zen-sho. ❷三十卷 ❻存 ❹日蓮宗全書出版會編 ❼明治四三—大正五刊 ❽(梵大″一・二二六〇・二八)(梵大″B〇九・四一″五四″七八・八六)(梵大″B〇九・四一″五四″七八・八六) ❽東京宗四館

日蓮宗組織實踐略傳 ❶(日)Nichi-ren-shū-so-shin-jitsu-ryaku-den. ❷一卷 ❻存 ❹山田名大著編輯 ❼明治一九刊 ❽(梵大″八〇九・三七七)

日蓮宗大意 ❶(日)Nichi-ren-shū-tai-i. ❷一卷 ❻存 ❹(冷)″外・一・左・一八)

名所行日 ❶(日)(冷)(梵)(梵)(梵

五刊 ⑨(帝國、三一八・六一)

日蓮上人化導記 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-ke-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹鎌倉日朝(應永二九—明應九 A. D. 1422—1500)撰 ❺寛文六刊 ⑨(立大、A〇六・四)

日蓮上人御一生記 ❶(日)Nichi-ren-shō-o-i-ki-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

日蓮上人御傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-den. ❷一卷 ❸存 ❹井田秀明著 ❺大正一〇刊 ⑨(龍大、二九六五・一八七)

日蓮上人世界統一の本尊 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-sa-kai-tō-itsu-no-hon-zon. ❷一卷 ❸存 ❹清山梁山著 ❺昭和五刊 ⑨(正大、一八九・一九)

日蓮上人聖典の新解釋 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-sei-ten-no-shin-kai-shaku. ❷一卷 ❹存 ❹里見擇雄著 ❺大正九刊 ⑩東京天業民報社

日蓮上人傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-den. ❷一卷 ❸存、教界偉人叢書第七 ❹姉川龍夫、菊地松堂 ❺明治四四刊 ⑩東京興文館

日蓮上人傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-den. ❸存、佛教文庫之內 ❹鷲尾順敬編 ❺昭和七刊 ⑩東京東方書院

日蓮上人傳記集 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-den-ki-shū. ❷一卷 ❸存 ❹日蓮宗全書出版會編 ❺明治四三刊 ⑨(龍大、二九六五・一九一)(京大、印哲・N・H)(立大、B〇九・八・六二) ⑩東京須原屋

日蓮上人とその教へ ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-to-so-no-oshi-e. ❸存 ❹塚本清純著 ❺昭和七刊 ⑩大阪佛立弘通後援會

日蓮上人の研究 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-no-ken-kyū. ❷一冊 ❸存 ❹古定賢正著 ❺明治三八刊 ⑨(京大、一・二一a・八)(立大、B〇四・二七)(帝國、三一九・一四四) ⑩東京須原屋

日蓮上人の思想と宗教 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-no-shi-sō-to-shū-kyō. ❷一卷 ❸存、佛教思想大系第二〇 ❹馬田行啓著 ❺昭和七刊 ⑩東京大東出版社

日蓮上人文集 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-bun-shū. ❷一冊 ❸存、有朋堂文庫第二五 ❹塚本哲三編 ❺昭和七刊 ⑩東京有朋堂

日蓮上人文抄 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-bun-shō. ❷一卷 ❸存、岩波文庫 ❹姉崎正治校正 ❺昭和五刊 ⑩東京岩波書店

日蓮上人要集 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-yō-shū. ❷一卷 ❸存 ❹加藤文雄編 ❺大正三刊 ⑩東京日宗新報社

日蓮上人靈驗物語 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-rei-kem-mono-gatari. ❷一卷 ❸存 ❹青木日薩著 ❺大正六刊 ⑨(龍大、二九六五・一九三)

日蓮正宗教義一班 ❶(日)Nichi-ren-shō-shū-kyō-gi-ip-pan. ❷一卷 ❸存、大日蓮第六卷第二號附錄 ❹松本諦煌著 ❺大正一〇刊 ⑩東京大日蓮社

日蓮正宗の建前 ❶(日)Nichi-ren-shō-shū-no-tate-mae. ❷一卷 ❸存 ❹小笠原慈聞著 ❺昭和七刊 ⑩横濱大日蓮社

日蓮聖人 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin. 研究資料日蓮聖人 ❷一卷 ❸存 ❹黑澤鐵馬著 ❺大正四刊 ⑩大阪盛文館

日蓮聖人 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹馬口義宏述 ❺大正七刊 ⑩京都正日蓮主義社

日蓮聖人 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹前海夢樂編 ❺大正一一刊 ⑩東京春江堂

日蓮聖人遺文集 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-i-bun-shū. ❷一卷 ❸存 ❹小林一郎編 ❺大正九刊 ⑩東京法華會

日蓮聖人遺文要編 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-i-bun-yō-hen. ❷一卷 ❸存 ❹牧口泰存編 ❺大正元刊 ⑩東京蘭江社

日蓮聖人一代繪卷 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-ichi-dai-e-maki. ❷一卷 ❸存 ❹日浚(嘉吉元—永正七 A. D. 1441—1510)撰、井上隆雲編 ❺昭和七刊 ⑩東京積英刊行會

日蓮聖人一代圖會 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-ichi-dai-zu-e. ❷六卷 ❸存、帝國文庫第四四、日本歷史圖會第八 ❹中村經年(寛政七—文久二 A. D. 1795—1862)著、葛飾北齋(—寛政頃 A. D. 1789—1801—)

❻本書は聖人一代の事歷を述べ、加ふるに間々圖繪を以つてしたものである。繪は口繪の四圖を合して總て四十三圖あり、全六卷を四十四項に分ちて叙述し、聖人の家系、誕生、及び清澄寺に入りて修學する事より始めて、御入滅並茶毘葬儀の事迄も、往々異說を擧げて說くものである。卷頭には房州小湊誕生寺現住、日琢の安政五年に記したる叙文あり、中に「無ㇾ此書、者無ㇾ由ㇾ見ㇾ法眼一代之成功」ことあり、又「欲ㇾ見ㇾ法花之理體、宜ㇾ於ㇾ此書、尋求ㇾ焉」等と本書の價値を說明してゐる。

❼(參考) 日蓮聖人註書講、本化別頭佛祖統紀 ❺安政五刊 ⑨(立大、A〇六・四一)(關根靜雄)

日蓮聖人全言集 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-kin-gen-shū. ❷一卷 ❸存 ❺昭和七刊 ⑩東京和寫堂

日蓮聖人研究 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-ken-kyū. ❷二卷 ❸存 ❹山川智應著 ❺昭和四—六刊 ⑩東京新潮社

日蓮聖人言行錄 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-gen-kō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹大屋德城著 ❺明治四一刊 ⑩東京內外出版協會

日蓮聖人御遺文 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-i-bun. 本化聖教日蓮聖人御遺文 ❷一卷 ❸存 ❹加藤文雄編 ❺昭和三刊 ⑩東京日宗社

日蓮聖人御遺文講義 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-i-bun-kō-gi. ❷十九卷 ❸存 ❹清水梁山著 ❺明治四二—六正一〇刊 ⑩名古屋唯一佛教團

日蓮聖人御遺文對照記 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-i-bun-tai-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹稻田海素著 ❺明治四一刊 ⑩京都村上書店

日蓮聖人御繪傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-e-den. ❷一卷 ❸存 ❺昭和七刊 ⑩京都平樂寺書房

日蓮聖人御弘通次第 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-gu-tō-shi-dai. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書上聖部之內 ❹日遵(—曆應五 A. D. 1342)

❺日蓮の主なる事蹟年代の記錄。

「眞應元年壬午御誕生、天福元年癸巳登ニ清澄山、安房國御年十二歲、延應元年己亥御出家御年十八歲也」

以下、三十二歲の開宗、三十九歲の安國論獻上、四十歲の伊東配流等前後合計十四條をあげてゐる。(馬田行啓)

日蓮聖人御自傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-ji-den. ❷一冊 ❸存 ❹鈴木一成編 ❺大正一五刊 ⑩東京隆文館

日蓮聖人御書日訓 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-sho-nik-kun. ❷一卷 ❸存 ❺昭和七刊 ⑩聖典研究會

日蓮聖人御消息文全集附御門下の新研究 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-go-sho-shō-soku-bun-zen-shū-tsuketari-go-Bon-ka-no-shin-ken-kyū. ❸存 ❹鹽田義遜編著 ❺大正一三刊 ⑩東京日比書院

日蓮聖人御眞蹟 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-shin-seki. ❷十五卷 ❸存 ❹神保紹靜編 ❺大正二—三刊 ⑨(京大、一・二一a・大別)(龍大、別藏)(立大、D七一・一—三)

日蓮聖人御眞蹟對照錄 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-go-shin-seki-tai-shō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹稻田海素編 ❺大正三刊 ⑩東京對照錄出版會

日蓮聖人御傳 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-go-den. ❷一卷 ❸存 ❹宇都宮主計之助著 ❺大正八刊 ⑩京都平樂寺書房

日蓮聖人四大聖訓 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-shi-dai-sei-kun. ❷一卷 ❸存 ❹志村智鐵撰 ❺大正一〇刊 ⑨(立大、B〇四・八六)

日蓮聖人自叙傳 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-ji-jo-den. ❷一卷 ❸存 ❹國友日斌編 ❺大正二刊 ⑩東京文玉閣

日蓮聖人十八名篇 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-jū-hach-mei-hen. ❷一卷 ❸存 ❹田中智學編 ❺大正九刊 ⑩東京師子王文庫

日蓮聖人正傳 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-shō-den. ❷一卷 ❸存 ❹本多日生(—昭和六 A. D. 1931)著 ❺大正一四刊 ⑩東京博文館

日蓮聖人正傳 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-shō-den. ❷一卷 ❸存、日蓮宗五第三 ❹鈴木一成著 ❺昭和七刊 ⑩東京大林閣

日蓮聖人聖訓要義 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-sei-kun-yō-gi. ❷七卷 ❸存 ❹本多日生(—昭和六 A. D. 1931)著 ❺大正九刊 ⑩東京大鐙閣

日蓮聖人全影 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-zen-ei. ❷二冊 ❸存 ❹柴田一能著 ❺昭和七刊 ⑩東京同刊行會

日蓮聖人全書 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-zen-sho. ❷三卷 ❸存 ❹日蓮宗全書出版會編 ❺大正三—五刊 ⑨(正大、一八〇・四) ⑩東京須原屋

日蓮聖人全集 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-zen-shū. 原文對照口語譯日蓮聖人全集 ❷七卷 ❸存 ❹清水龍山監修 ❺大正一〇—一四刊 ⑩東京隆文館

日蓮聖人全集 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-zen-shū. ❷五卷 ❸存 ❹日蓮宗出版會編 ❺昭和六刊 ⑨(京大、一・二六)

日蓮聖人大遠忌と壽鼓 ❶(日) Nichi-ren-shō-nin-dai-on-ki-to-doku-ko. ❷一卷 ❸存 ❹法華後援會 ❺昭和七刊 ⑩神奈川一乘會教學部

日蓮聖人註畫讚 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-chū-ga-san. 日蓮聖人註畫讚鈔、日蓮大聖人註畫讚 ❷五卷 ❸存、續群書類從第九、國文東方佛教叢書第一輯第五 ❹日澄(嘉吉元—永正七 A. D. 1441—1510)撰、日牧注

❺本書は日蓮聖人の行狀を五卷に亙つて記述したもので、即ち、五卷中に、御誕生第一。登山出家第二。學問第三。宗旨建立第四等すべて三十二條の主な出來事を編年體にあげて居る。而して著者、日澄はこの序の終りに「予謹註ㇾ前書、彙集ㇾ後素、略讚ㇾ玄德、號曰ㇾ註畫讚」と云々と、以てこの書の本文は行狀繪圖の前書なることを知り得る。この書、初め漢文體であつたものを後に和文に改められたもので、寛文九年本は和文、同十三年本は漢文で、その他慶長頃の漢文體の木活本や古寫本等がある。

❻寛永九刊(谷大、餘大・二九五三、三〇九、外洋・九〇五)寛永一三刊(正大、一八一・六)(龍大、二九六五・一八九)

日蓮聖人傳考證 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-den-kō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹船口萬壽著 ❺大正一四刊 ⑨(立大、B〇六・九〇)

日蓮聖人傳十講 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-den-jik-kō. ❷一卷 ❸存 ❹山川智應著 ❺大正一〇刊 ⑩東京新潮社

日蓮聖人と鎌倉時代 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-to-kama-kura-ji-dai. ❷一卷 ❸存 ❹螢澤藍川著 ❺大正八刊 ⑩東京佐藤出版部

日蓮聖人と親鸞 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-to-shin-ran. ❷一卷 ❸存 ❹山川智應著 ❺大正一一刊 ⑩東京新潮社

日蓮聖人と法然 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-to-hō-nen. ❷一卷 ❸存 ❹山川智應著 ❺大正一二刊 ⑩東京天業民報社

日蓮聖人の感激 ❶(日)Nichi-ren-shō-nin-no-kan-geki. ❷一卷 ❸存 ❹本多日生(—昭和六 A. D. 1931)著 ❺大正

八刊 ⑨(龍大、二六九九・一八)

日蓮聖人の教義 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-kyō-gi. 通俗日蓮聖人の教義 ❷一卷 ❸存 ❹北尾日大著 ❺大正一〇刊 ⑩京都平樂寺書房

日蓮聖人の教義 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-kyō-gi. 妙宗大意 ❷一册 ❸存 ❹田中智學著 ❺大正一三刊 ⑩修倉師子王文庫

日蓮聖人の御一生 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-go-i-sei. ❷一卷 ❸存 ❹水島芳靜著 ❺昭和七刊 ⑩東京大本館

日蓮聖人の孝道 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-kō-dō. ❷一卷 ❸存 ❹磯野本精著 ❺大正五刊 ⑩東京日鳴社

日蓮聖人の言葉 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-koto-ba. ❷一卷 ❸存 ❹星野武男著 ❺大正一四刊 ⑩東京太平洋書房

日蓮聖人の三本誓願 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-san-hon-zei-gwan. ❷一卷 ❸存 ❹田中智學著 ❺大正一二刊 ⑨(高大、一・一七)

日蓮聖人の實現の宗教 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-jitsu-gen-no-shū-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹山川智應著 ❺昭和四刊 ⑩東京天業民報社

日蓮聖人の宗教 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shū-kyō. 高祖遺文要集 ❷一卷 ❸存 ❹北尾日大著 ❺大正一三刊 ⑩東京新日蓮主義社

日蓮聖人の宗教 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shū-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹中村又衛著 ❺昭和二刊 ⑩東京生命社

日蓮聖人の宗教及哲學 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shū-kyō-oyobi-tetsu-gaku. ❷一册 ❸存 ❹馬田行啓著 ❺昭和四刊 ⑩東京丙午出版社

日蓮聖人の宗教と其の實踐 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shū-kyō-to-sono-jis-sen. ❷一卷 ❸存 ❹黒見岸雄著 ❺大正一〇刊 ⑨(龍大、研究)(谷大、餘洋・五三四)(高大、一・一七)

日蓮聖人の宗旨 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shu-shi. ❷一卷 ❸存 ❹井村日成著 ❺大正一三刊 ⑨(立大、BO四・八七) ⑩東京純一閣

日蓮聖人の生涯 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shō-gai. ❷一卷 ❸存 ❹鹽田義遜著 ❺大正一五刊 ⑨(立大、BO六・八九)

日蓮聖人の信と行 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-shin-to-gyō. ❷一卷 ❸存 ❹田邊善知述 ⑨寫本(立大、BO四・一三九)

日蓮聖人の人格と主張 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-jin-kaku-to-shu-chō. ❷一卷 ❸存 ❹河合陸明著 ❺昭和七刊 ⑩東都河合陸明

日蓮聖人の法華經色讀史 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-hok-ke-kyō-shiki-doku-shi. ❷一卷 ❸存 ❹豐澤藍川著 ❺大正一〇刊 ⑩東京佐藤出版部

日蓮聖人の本尊 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-hon-zon. ❷一卷 ❸存 ❹鳴村日正著 ❺大正五刊 ⑨(立大、BO四・七八、九六、一二四) ⑩大阪吉田書店

日蓮聖人の本尊論 ❶(B)Nichi-ren-shō-nin-no-hon-zon-ron. ❷一卷 ❸存 ❹田邊善知著 ❺大正一四刊 ⑩京都平樂寺書房

日蓮深祕傳辨妄論 ❶(B)Nichi-ren-jin-pi-den-ben-mō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹日稱令正著 ❺明治二五刊 ⑨(谷大、餘洋・四六)

日蓮大士 ❶(B)Nichi-ren-dai-shi. 宗祖にしたる日蓮大士 ❷一卷 ❸存 ❹足立栗園著 ❺明治三九刊 ⑨(帝國、九七・三四二)

日蓮大士言行錄 ❶(B)Nichi-ren-dai-shi-gen-kō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹足立栗園著 ❺大正四刊 ⑩東京東亞堂

日蓮大士御一代記繪入 ❶(B)Nichi-ren-dai-shi-go-ichi-dai-ki-e-iri. ❷一卷 ❸存 ❹日證(嘉吉元—永正七A.D.1441—1510) ⑨刊本(立大、AO六・二四)

日蓮大士御一代記圖繪 ❶(B)Nichi-ren-dai-shi-go-ichi-dai-ki-zu. 頭書日蓮大士御一代記圖繪 ❷一卷 ❸存 ❹宇喜多小十郎著 ❺明治一三刊 ⑨(谷大、餘小・一九)

日蓮大士眞實傳 ❶(B)Nichi-ren-dai-shi-shin-jitsu-den. ❷五卷 ❸存、日宗文庫第一 ❹小川孝榮、小川泰堂、町田雅雄編輯 ⑨慶應三刊(谷大、餘大・三〇三)(正大、一八一・二二) 明治二九刊(立大、BO六・三一)明治三二刊(帝國、八四・六)明治三四刊(立大、BO六・三二)大正一二刊(龍大、二九六五・一九四)

日蓮大聖人 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹熊田韋城著 ❺昭和五刊 ⑩東京平凡社

日蓮大聖人御書新集 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin-go-sho-shin-shū. ❷一卷 ❸存、昭和新口譯大藏經宗典部第七 ❹佐藤慈豐、三井昌史編 ❺昭和三刊 ⑩東京東方書院

日蓮大聖人御傳記 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin-go-den-ki. ❷十一卷 ❸存 ⑨延寶九刊(立大、AO六・二九)天和元刊(京大、一・二一n・六)(谷大、餘大・三〇五)天保一四刊(正大、一八一・一) ⑩京都村上平樂寺書店

日蓮大聖人十一通之回狀 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin-jū-ichi-tsū-no-kwai-jō. ❷一卷 ❸存 ❹萬治三刊 ⑨(立大、AO一・一二七)(龍大、二〇四二・三二)

日蓮大聖人註畫讃 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin-chū-gwa-san. 日蓮聖人註畫讃 ❷五卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第五、續群書類從第九 ❹日證(嘉吉元—永正七A.D.1441—1510)錄、日敎註 ⑩日蓮聖人註畫讃の下を見よ。⑨(立大、AO六・一〇七—一〇八) ⑩京都村上平樂寺書店

日蓮大聖人の國體觀 ❶(B)Nichi-ren-dai-shō-nin-no-koku-tai-kwan.

❷一卷 ❸存 ⑨賀木英一著 ❺大正九刊 ⑨(立大、BO四・六〇)

日蓮大菩薩記 ❶(B)Nichi-ren-dai-bo-satsu-ki. ❸存 ❹松井加倉井忠珍撰 ❺明治四三寫 ⑨(立大、DO・一一一)(帝國、二三二・二五)

日蓮大菩薩御一代記 ❶(B)Nichi-ren-dai-bo-satsu-go-ichi-dai-ki. ❷二卷 ❸存 ❹日浚(寫吉元—永正七A.D.1441—1510)撰 ❺文化一一刊 ⑨(立大、AO六・二三、二五)

日蓮大菩薩御妙判錄內假字要文集 ❶(B)Nichi-ren-dai-bo-satsu-go-myō-han-rok-nai-kan-ji-yō-mon-shū. ❷一卷 ❸存 ⑨(龍大、二六九一・一〇)

日蓮大菩薩傳 ❶(B)Nichi-ren-dai-bo-satsu-den. ❷二卷 ❸存 ❹日省著 ❺享保二一刊 ⑨(京大、一・二一n・一二)

日蓮珍話 ❶(B)Nichi-ren-chin-wa. ❷一卷 ❸存 ❹劍場愚道著 ❺大正一〇刊 ⑨(立大、BO六・七二)

日蓮と我等 ❶(B)Nichi-ren-to-wa-re-ra. ❷一卷 ❸存 ❹田邊善知著 ❺大正一一刊 ⑩東京大法館

日蓮銅像記 ❶(B)Nichi-ren-dō-zō-ki. 元寇紀念日蓮銅像記 ❷一卷 ❸存 ❹小野學營編 ❺明治三二刊 ⑨(帝國、八二・八七)

日蓮讀本 ❶(B)Nichi-ren-dok-hon. ❷一卷 ❸存 ❹星野武男著 ❺昭和六刊 ⑩東京萬里閣

日蓮の勤王主義 ❶(B)Nichi-ren-no-kinnō-shu-gi. ❷一卷 ❸存 ❹野島草民著 ❺大正八刊 ⑩東京大阪屋號書店

日蓮の國へ ❶(B)Nichi-ren-no-kuni-e. ❷一卷 ❸存 ❹田島健著 ❺大正九刊 ⑩東京イリス社

日蓮の生涯 ❶(B)Nichi-ren-no-shō-gai. ❷一卷 ❸存 ❹小林營里著 ❺昭和三刊 ⑩東京文藝社

日蓮の人生觀 ❶(B)Nichi-ren-no-jin-sei-kwan. 蕉閣主義日蓮の人生觀 ❷一卷 ❸存 ❹鷲尾日顯著 ❺昭和七刊 ⑩東京養文堂

日蓮の復活靈格の體現 ❶(B)Nichi-ren-no-fuk-watsu-rei-kaku-no-tai-gen. ❷一卷 ❸存 ❹常樂院日紹、小倉道敏共著 ❺明治三九刊 ⑨(龍大、二九六五・一七八)(帝國、三三・四四三)

日蓮法華綱要 ❶(B)Nichi-ren-hok-ke-kō-yō. 中日兩文日蓮法華綱要 ❷一册 ❸存 ❹中里日勝著 ❺昭和二刊 ⑨(京大、一・二六二・二四)(立大、BO四・一六五、一二七) ⑩東京圓通寺

日蓮本地義 ❶(B)Nichi-ren-hon-ji-gi. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第九七 ❹日信 ⑨大合宗の眞迹が日蓮法華宗を評破せるに對して之を反駁せる宗論書。上下二卷に分つ。

「日蓮本地是上行菩薩事」を總稱とし、「此有二十ケ道理、十ケ證文、十ケ誇耀、矣」として以下順次にこれを論述し、以て日蓮法華宗に本化別頭の教法なることを論證してある。

日蓮本佛論 ❶(B)Nichi-ren-hon-butsu-ron. ❷一册 ❸存 ❹福重照平著 ❺昭和二刊 ⑩横濱大日蓮社

日蓮本佛論辭典 ❶(B)Nichi-ren-hon-butsu-ron-ji-ten. ❷一卷 ❸存 ❹福島照平 ❺昭和七刊 ⑩横濱大日蓮社

日蓮曼陀羅 ❶(B)Nichi-ren-man-da-ra. ❷一軸 ❸存 ⑨(龍大、研史)

日蓮門下十一派綱要 ❶(B)Nichi-ren-mon-ka-jū-ichi-ha-kō-yō. ❷一卷 ❸存、日蓮宗大系第五 ❹北尾日大著 ❺昭和七刊 ⑩東京大林閣

日蓮門下の殉教史 ❶(B)Nichi-ren-mon-ka-no-jun-kyō-shi. ❷一卷 ❸存、日蓮宗大系第四 ❹井上惠宏著 ❺昭和七刊 ⑩東京大林閣

日蓮より觀たる親鸞 ❶(B)Nichi-ren-yo-ri-mi-ta-ru-shin-ran. 淨土眞宗論 ❷一卷 ❸存 ❹清水梁山著 ❺大正一二刊 ⑩東京西午出版社

日蓮論 ❶(B)Nichi-ren-ron. ❷一卷 ❸存 ❹高橋五郎著 ❺明治三八刊 ⑨(帝國四五・五二五) ⑩東京桐川文學園

日蓮論 ❶(B)Nichi-ren-ron. ❷一卷 ❸存 ❹木下尚江著 ❺明治四三刊 ⑨(谷大、餘洋・二八九)

日蓮論批論 ❶(B)Nichi-ren-ron-hi-ron. ❷一卷 ❸存 ❹小倉道敏著 ❺明治三八刊 ⑨(龍大、二九六五・一九七)(帝國四五・五五五)

日蓮は聖人か國賊か ❶(B)Nichi-ren-wa-sei-jin-ka-koku-zoku-ka. ❷一卷 ❸存 ❹雲嶽著 ❺大正八刊 ⑩東京菊地書店

日蓮は聖人なり忠臣なり ❶(B)Nichi-ren-wa-sei-jin-na-ri-chū-shin-na-ri. ❷一卷 ❸存 ❹野島草民著 ❺大正八刊 ⑨(立大、BO五・一九、二七)

日蓮は甦る ❶(B)Nichi-ren-wa-yomigae-ru. ❷一卷 ❸存 ❹黒見岸雄著 ❺昭和四刊 ⑩京都國體科學社

日朗書簡 ❶(B)Nichi-rō-sho-kan. ❷一軸 ❸存 ⑨(龍大、二九九一・七)

日朗聖者正傳附錄御消息 ❶(B)Nichi-rō-shō-jin-shō-den-fu-roku-go-shō-soku. ❷一册 ❸存 ⑨(立大、BO六・七六—七七)

日記及語錄 ❶(B)Nik-ki-oyobi-go-roku. ❷一卷 ❸存、清澤全集第二 ❹清澤滿之(文久三—明治三六 A.D.1863—1903) ❺大正四刊 ⑨(谷大、餘洋・三三八)

日諫貴本紀 ❶(B)Nik-kī-hon-ki. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

日敎上人像 ❶(B)Nik-kyō-shō-nin-zō. ❷一葉 ❸存、明治以前洋畫類集之內 ⑨(龍大、別藏)

日經日淨本迹問答 ❶(B)Nik-kyō-nich-jō-hon-jaku-mon-dō. ❸存 ❹日博記 ⑨原本(顯本宗學會)寫本(立大、DO・二一〇)

日本二東三文目錄抄 ❶(日)Nik-kwa-ni-ko-ō-mom-moku-roku-shō. ❷1卷 ❸存 ❹西川俊信 ❺(寛政年間記)

日本詩月詩雜記目錄 ❶(日) Nik-kwa-gek-kwa-zak-ki-moku-roku. ❷1卷 ❸存 ❹〔參考〕 藤森目錄

日本詩名物動考記 ❶(日)Nik-kwa-nem-butsu-kwan-dō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹藤定(享保1—元一寶永1—11 A. D. 1734—1800) ❺天保三刊(舊大1—五五七•1—七)天保三刊(舊大11六八四•1六七)

日本詩名物十文字訓 ❶(日)Nik-kwa-nem-butsu-shi-nyo-kun. ❷1卷 ❸存 ❹全海(一文化元A. D. 1812) ❺文化八刊(舊大1—五五五•四二—四三)(舊大11六八四•1六八)(谷大"宗大•1〇四五)文政二〇刊(京大"日大宗•六四九)(前"と•四•右•1四)(高大"谷•1•1八)

日本詩名物拾遺輯 ❶(日) Nik-kwa-nem-butsu-tō-shuku-hen. ❷1卷 ❸存 ❹藤定(享保1—元一寶永1—11 A. D. 1734—1800) ❺享和元刊(舊大"11六八四•1六九)文化三刊(舊大"1五五七•1九)

日本詩學訓 ❶(日)Nik-kwa-yō-kun. ❷1卷 ❸存 ❹新井 ❺文化七刊 ❻(舊大"1五五七•11一)

日本詩學訓 ❶(日)Nik-kwa-yō-kun. ❷1卷 ❸存 ❹鈴木 ❺文化二11刊 ❻(舊大"法貴)

日本詩學集 ❶(日) Nik-kwa-yō-shū. 菅原定安日本詩學集 ❷存 ❸(前大)

日本史略協語卷 ❶(日)Nik-kwan-shi-ni-teisuru-no-shō. ❷1卷 ❸存 ❹皇明 ❺寶永(文大"四〇•三三三)

日本醫談錄 ❶(日)Nik-kei-ei-roku. ❷四卷 ❸存"延宗全書卷七三 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741) ❺延宗四代の祖先"日本出雲の醫師である。出雲の延宗六十卷中"中興の名門である延宗"その醫道を愛好し平生行したものである。 ❻享和11刊 ❼(舊大"11〇五三•三六)

(長谷部言人)

日本醫學 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku. ❷1卷 ❸存" 日本三學之內 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741) ❺明和五刊(舊大"1〇五1•11四)(谷大"宗大•四和五刊(舊九"四九)安永元刊(舊大"1〇五1•11六)寶永(舊大"1〇五1•11八)

日本醫學記錄 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-gi-ki. ❷11卷 ❸存 ❹寶永(舊大"1〇五1•11九)

日本醫學弘道 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-gu-sō. ❷1卷 ❸存 ❹印藤(享保六—寶永六A. D. 1721—1794) ❺寶永(舊大"1〇五1•三〇)

日本醫學問答文 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-kwa-mon. ❸存 ❹小川愛了 ❺寶永(舊大"1111•1三七)

日本醫學問答 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-ge. ❷1卷 ❸存 ❹春潮 ❺明和元刊 ❻(舊大"1〇五1•三11)

日本醫學問考 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-kō. ❷1卷 ❸存 ❹寶永(舊大"1〇五1•三11)

日本醫學問書 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-kō-shō. ❷1卷 ❸存 ❹玄碩 ❺寶永(舊大)

日本醫學問書 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-kō-yō. ❷三卷 ❸存 ❹新藏(享保八—天明三A. D. 1723—1783)撰 ❺寶永(谷大"宗大•11六九三)

日本醫學問答門分 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-mon-shin-shō. ❷11卷 ❸存 ❹新藏(享保八—天明三A. D. 1723—1783)撰 ❺寶永(舊大"1〇五1•三四)

日本醫學問弘學錄 ❶(日)Nik-kei-gaku-soku-wa-ge. ❷1卷 ❸存 ❹盛今 ❺寶永(舊大"1〇五1•三五)

日本醫雜錄 ❶(日)Nik-kei-zatsu-roku. ❷1卷 ❸存 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741) ❺寶永(舊大)

日本醫三書 ❶(日)Nik-kei-san-sho. ❷三卷 ❸存 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741) ❺春潮1卷"鳥獸1卷"魚類1卷より成る。 ❻〔參考〕 佛子藏宗教會叢書11 ❼天明元刊 ❽(谷大"宗大•四九)

日本醫私記 ❶(日)Nik-kei-shi-ki. ❷1卷 ❸存 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741) ❺寶永(舊大"法貴)

日本醫學語 ❶(日)Nik-kei-chō-go. 日本三學之內 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741)撰 ❺寶永元刊(舊大"1〇五1•11六)寶永(舊大"1〇四•1七)刊本(谷大"宗大•四九)

日本醫學語 ❶(日)Nik-kei-doku-go. 日本三學之內 ❷1卷 ❸存" 日本三學之內 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D 1693—1741)撰 ❺寶永元刊(舊大"1〇四•1八)寶永(舊大)(谷大"宗大•四九)

日本醫百問書 ❶(日)Nik-kei-hyaku-mon-sho. ❷三卷 ❸存 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741)撰 ❺〔參考〕 佛子藏宗教會叢書11

日本醫百問書 ❶(日)Nik-kei-hyaku-mon-dō. ❷1卷 ❸存 ❹出雲(元禄六—寶永元A. D. 1693—1741)撰 ❺寶永(舊大"1三〇•五1)

日本往來 ❶(日)N.k-ken-roku. ❷四卷(前卷三—文明五 A. D. 1392—1473) ❸〔參考〕 日本圖書館協會目

日本王事 ❶(日)Nik-kō-shū. ❷四卷(前卷(至中11—寶永11 A. D. 1325—1388) ❸〔參考〕 日本圖書館協會目

日本三山諸王堂十三寺住持大師御行狀錄 ❶(日)Nik-kō-zan-i-ō-in-jū-ni-se-shi-dō-dai-o-shō-gyō-gō-ryaku. ❷1卷 ❸存 ❹新藏記 ❺寶永六寶 ❻(方廣寺)

日本三山京著略記 ❶(日) Nik-kō-zan-en-kaku-ryak-ki. ❷1卷 ❸存 ❹長谷寺圓秀 ❺明治四1刊 ❻(舊大"1•11111)

日本三山著記 ❶(日)Nik-kō-zan-ki. ❷三卷 ❸存 ❹長谷寺圓 ❺寶永元年六月"文化1三錄(舊大"1〇四1•四八)

日本三山古記 ❶(日)Nik-kō-zan-ko-ki. ❷1卷 ❸存" 倉橋長谷寺縁1 ❹寶藏寺 ❺明和元寶(寶政院)刊本(帝國"鈴岡•ち•ナ)

日本三山寺會著起 ❶(日)Nik-kō-zan-san-gwatsu-e-en-gi. ❷1卷 ❸存" 日本三山寺會著起 ❹天平寶字元年1五" 新說日本三山寺會著起 ❺天平寶字元年1九 ❻天平寶字元年(西紀七五七)三月十日"日本三山寺會の由來を記したものである。 藤原仲麻呂の人は四分律天台宗學の師で下野國出身の人である。 孝謙天皇の寵臣である。 天平寶字元年"孝謙天皇の命を受けて"日本三山寺會を開いた。 ❼寶永元年"三月十日"日本三山寺會の由來を記したものである。 ❽(舊大"1〇三三•1四一—1三五)

日本三山寺會著起 ❶(日)Nik-kō-zan-sen-gū-choku-e-go-hō-ji-nado-no-ki. ❷1卷 ❸存 ❹寶永(正大"1〇三11•11一)

日本三山大師法華經護摩祭年中行事 ❶(日) Nik-kō-zan-dai-yū-in-den-mi-dō-ryō-narabini-nen-chū-gyō-ji. ❷1卷 ❸存 ❹寶永(舊大)

日本三山滝嶽寺記 ❶(日)Nik-kō-zan-taki-no-o-rei-taku-ki. ❷11卷 ❸存 ❹寶永 ❺文政元刊 ❻(正大"1〇三三•11四—11五)

日本三山寺社領立記 ❶(日)Nik-kō-zan-dō-sha-kon-ryū-ki. ❷三卷 ❸存 ❹天海記 ❺元禄四寶 ❻(日本文庫)

日本三山列寺大系 ❶(日) Nik-kō-zan-bet-tō-shi-dai. 日本三山門跡大系 ❷存" 續群書類從卷四 ❸日本三山門跡大系の下を見よ。

日本三山法華人講記 ❶(日)Nik-kō-zan-hok-ke-hak-kō-ki. ❷存 ❸藤原錄象 ❹寶永(舊大"11四•九)

日本三山本願所法華經會記

❶(日) Nik-kō-zan-hom-bō-narabini-sō-to-kyū-seki-ki. ❷11卷 ❸存 ❹天海記 ❺元禄四寶 ❻(日本文庫)

日本三山門跡大系 ❶(日) Nik-kō-zam-mon-zeki-shi-dai. ❷1卷 ❸存" 續群書類從卷四 ❹文化11(A. D. 1814) ❺日本三山門跡は僧王寺門跡ともいふ。僧王寺は天台宗九大門跡の一つで天平寶字1年藤原仲麻呂の創建に係る。初めは四天王寺と稱し後三條天皇の時に僧王寺と改稱した。後醍醐天皇の時に再び四天王寺と稱し後又は天明記等の寺號を稱つた。

本書もある。藤原の滅亡後は天台宗に屬し後三條天皇の時下山あつたのであるが"これを後1年とする。 慶長十八年大御所家康公十三年の山主となつてから"は公家の後陽成天皇に其弟の宮を迎へ"これを中興として"その後は公家の子弟を住職とする。 本書はこの僧王寺門跡歷代の歷史を記したものである。 天海の大年公海大年正月から正月初旬までの"天海の大年公海大年正月から正月の大年公海大年正月十日月十日迄の僧王寺門跡の文化七年四月十日迄の僧王寺門跡の僧王寺門跡の文化七年四月十日迄の僧王寺門跡の僧王寺門跡の文化七年四月十日迄の僧王寺門跡

宋法天譯 ⑥開寶六以後(A. D. 973—) ⑦大乘日子王所問經の下を見よ。

日志上人 ❶(B)Nis-shi-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹富谷實城 ❺大正三刊 ❻(立大、一三〇六・一)

日宗雜記 ❶(B)Nis-shū-zak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹日鏡 ❺寫本(正大、一八九・四)

日宗史談附統合史論 ❶(B)Nis-shū-shi-dan-tsu-kō-shi-ron. ❷一卷 ❸存 ❹小笠原毅堂著 ❺大正七刊 ❻東京日宗社

日宗聖典 ❶(B)Nis-shū-sei-ten. ❷一卷 ❸存 ❹林鳳定編 ❺明治三九刊 ❻(帝國、一八七・四三二) ❼京都村上書店

日宗叢書 ❶(B)Nis-shū-sō-sho. ❷三卷 ❸存 ❹岡井敬遠集編 ❺(立大、BO九・九一)

日宗哲學 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺大正六刊 ❻東京廣文堂

日宗哲學序論 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku-jo-ron. ❷一卷 ❸存 ❹井上圓了(安政五—大正八、A. D. 1858—1919)著 ❺明治二八刊 ❻(谷大、餘洋・三〇)(帝國、七二・二〇〇)

日宗文庫 ❶(B)Nis-shū-bun-ko. ❷一卷 ❸存 ❺明治三二刊 ❻(帝國、八四・六) ❼春風堂

日宗寶物書輯 ❶(B)Nis-shū-hō-motsu-sya-shū. ❸存 ❺昭和四刊 ❻(立大、D七二・二〇)

日州平治記 ❶(B)Nis-shū-hei-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❹文之玄昌南浦(弘治元—元和六、A. D. 1555—1620) ❼(參考)

(帝國、一八七・四三二) ❼京都村上書店

日宗哲學 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺大正六刊 ❻東京廣文堂

日宗哲學序論 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku-jo-ron. ❷一卷 ❸存 ❹井上圓了(安政五—大正八、A. D. 1858—1919)著 ❺明治二八刊 ❻(谷大、餘洋・三〇)(帝國、七二・二〇〇)

日宗文庫 ❶(B)Nis-shū-bun-ko. ❷一卷 ❸存 ❺明治三二刊 ❻(帝國、八四・六) ❼春風堂

日宗寶物書輯 ❶(B)Nis-shū-hō-motsu-sya-shū. ❸存 ❺昭和四刊 ❻(立大、D七二・二〇)

(帝國、一八七・四三二) ❼京都村上書店

日宗叢書 ❶(B)Nis-shū-sō-sho. ❷三卷 ❸存 ❹岡井敬遠集編 ❻(立大、BO九・九一)

日宗哲學 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺大正六刊 ❻東京廣文堂

日宗哲學序論 ❶(B)Nis-shū-tetsu-gaku-jo-ron. ❷一卷 ❸存 ❹井上圓了(安政五—大正八、A. D. 1858—1919)著 ❺明治二八刊 ❻(谷大、餘洋・三〇)(帝國、七二・二〇〇)

日宗文庫 ❶(B)Nis-shū-bun-ko. ❷一卷 ❸存 ❺明治三二刊 ❻(帝國、八四・六) ❼春風堂

日宗寶物書輯 ❶(B)Nis-shū-hō-motsu-sya-shū. ❸存 ❺昭和四刊 ❻(立大、D七二・二〇)

日州平治記 ❶(B)Nis-shū-hei-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❹文之玄昌南浦(弘治元—元和六、A. D. 1555—1620) ❼(參考)

禪籍目錄

日出台隱記 ❶(B)Nis-shutsu-tai-in-ki. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第九七 ❹日澄 ❺天台宗の日蓮法華宗許破に對する反駁。本末二卷に分つ。

「一、三國傳來事付宗旨事並會不二入唐・經二事及會不二無勅許・事二。二、天台傳教信二彌陀如來・等之難會事。三、於二開會上一何可レ拾二權前經一事」。以下總て六十二條目を揚げて、台勝日劣を破折し、日勝台劣を建立してある。

❻寶文九刊(龍大、二八一二・二五、二〇三・)(谷大、餘大・二七八五)(京大、日大未・五四八)明治三一刊(谷大)寫本(立大、DO・五六)

日涉記 ❶(B)Nis-shō-ki. ❸存 ❹周麟景徐(永享一二—永正一五、A. D. 1440—1518) ❼(參考) 禪籍目錄、日本禪林撰述書目

日鈔 ❶(B)Nis-shō. 過口鈔 ❸存 ❹實歸鈔を月鈔と名くるに對して、過口鈔を日鈔と名づく。松橋流に用ふる稱呼。

日辰師問要集 ❶(B)Nis-shin-shi-mon-yō-shū. ❷二卷 ❸存 ❹寫本、立大、DO・一五三)

日清交戰法の光 ❶(B)Nis-shin-kō-sen-nori-no-hikari. ❷一卷 ❸存 ❹佐々木惠琼編 ❺明治二七刊 ❻(谷大、宗洋・七)

日清戰爭法の鑑 ❶(B)Nis-shin-sen-sō-nori-no-kagami. ❷一卷 ❸存 ❹旭恢恩編 ❺明治二八刊 ❻(谷大、宗洋・六)

日親上人德行記 ❶(B)Nis-shin-shō-nin-toku-gyō-ki. ❷二卷 ❸存、國文東方佛教叢書第五 ❹日匠(寶永四—元祿二、A. D. 1637—1689)記

❺本書は京都本法寺開山日親上人の行狀を編年體に記述したるものである。上下二卷より成り、誕育薩染第一より示寂第二十及び滅後應驗第二十一に至るまでの條に上人の剛毅なる一生が緊實なる筆致によつて如明に記されて居る。著者日匠は日親上人沒後百四十年寶永四年(A. D. 1637)に生れ、京都本法寺第二十代の住持となり、日親上人の遺風を追慕す。本法寺二十七世日建の序に漢文體の本書を章榮を便するために假名體とし、更に古記傳記によりて殘りたるをあげ詳ならざるを訂し、章版を分ちて其趣を書いたと述べて居る。

❻寶永元刊(谷大、餘大・二一五四)(龍大、二九六五・一八一)(京大、一・二一二・一)(立大、AO六・五九—六七)

日鮮關係と日蓮聖人 ❶(B)Nis-sen-kwan-kei-to-nichi-ren-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❺大正九刊 ❻(立大、BO六・五六—五七)

日想觀 ❶(B)Nis-sō-kwan. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(寶龜院)(寶書提院)

日想觀法 ❶(B)Nis-sō-kwan-pō. ❷一帖 ❸存 ❺享保八寫 ❻(立大、宗洋・六九)

日蓮門流五段相對之辨 ❶(B)Nis-ren-mon-ryū-go-dan-sō-tai-no-ben. ❷一卷 ❸存 ❹日奏 ❻(立大、DO・二七七)

日朝大上人略傳 ❶(B)Nis-chō-dai-shō-nin-ryaku-den. ❷一卷 ❸存 ❺文政一〇刊 ❻(帝國、二三二・二〇三)

日天 ❶(B)Nit-ten. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿婆縛抄第六 ❹承澄(元久二—弘安五、A. D. 1205—1282)

日天子 ❶(B)Nit-ten-shi. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

日天子所作 ❶(B)Nit-ten-shi-sho-sa ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

日天子拜 ❶(B)Nit-ten-shi-hai. 日天子拜大樂院傳 ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

日天子法 ❶(B)Nit-ten-shi-hō. ❷一帖 ❸存 ❻南北朝時代寫(寶書提院)德川時代寫(寶龜院)

日天禮拜式 ❶(B)Nit-ten-rai-hai-shiki. ❷一軸 ❸存 ❺足利中期寫 ❻(高大、等・一・四四)

日徒教誡拔 ❶(B)Nit-to-kyō-kai-batsu. ❸存 ❻寫本(龍大、二六九九・三〇)

日徒繫珠錄之返破 ❶(B)Nit-to-kei-ju-roku-no-hen-pa. ❷一卷 ❸存 ❹堯海 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

日峰宗舜禪師語錄 ❶(B)Nip-pō-

-shō-shuso-zen-ji-go-roku. ❸存 ❹日峰宗舜(應安元—文安五、A. D. 1368—1448)

❼(參考) 禪籍目錄

日本一流祕密念佛中興略記 ❶(B)Nip-pon-ichi-ryū-hi-mitsu-nem-butsu-chū-kō-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹片山信德 ❺(龍大、二六八九・一四)

日本往生極樂記 ❶(B)Ni-hon-ō-jō-gok-raku-ki. 日本往生傳 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇七、群書類從第六六、新校群書類從第三、續本朝往生傳、續淨土宗全書第六、後拾遺往生傳、日本往生全傳 ❹慶滋保胤(—長德三、A. D. 997) ❺著者慶保胤は平安朝に流行した支那の三字名に倣つたもので、本名は慶滋保胤、近江掾に任ぜられ、次いで朝散太夫に任ぜられる。後ち出家して寂心と號し、壓賀、源信に就學した。本書は著者出家前寬和年中(A. D. 1645—1646)迦才の淨土論、淨土往生瑞應劃傳の往生傳に倣ひ、國史及び諸人の別傳等から異相往生ある者を撿出し、聖德太子、行基、美濃、圓仁、淨雨、壓命、無空、明祐、濟源、智光、觀光、虎意、延曆寺東塔某僧、金算、寂靜、春素、昌延、弘也、千觀、明請、宣祖、廣道、勝如、橘津某面某僧、平珍、壓祐、玄海、眞覺、樂蓮、琴祐、光孝天皇孫、寬忠勝某、伊勢飯高某尼、高階眞人、藤原義孝、源恂、越智益躬、產眞妻、佐世妾、藤原某女、息長某女、伊勢飯高某老女、加賀某女等四十三人の傳を叙したもので、我が國往生傳の權與である。淨土往生の思想は平安朝以後、我が國上下を風靡したものであるから、我が佛教史、思想史研究者は本書によりて當代の信仰を窺ふ根本史料である。後代撰出する諸種往生傳が破戒無慙の人の往生を說いて彌陀大悲の願願を叙するに對し、本書は專ら持戒精進の往生人のみを擧ぐるは他の往生傳と趣を異にする點である。

❻延寶二刊(正大、一〇三六・一五—一六、八一)寬文九刊(正大、一〇三六・一八)(龍大、二〇三・四二・二九六五・二四九)(高大、等・一・一八)明治一四刊(龍大、二九六五・二五〇)明治一五刊(正大、一〇三六・一四)(正大、一〇三六・一四B) (高瀨承厳)

日本往生全傳 ❶(B)Ni-hon-ō-jō-zen-den. 皆恩訂正日本往生全傳 ❷五卷 ❸存 ❹慶滋保胤(—長德三、A. D. 997)撰、赤松皆恩(文政一〇—明治二九、A. D. 1827—1896)訂

❺一、日本往生極樂記。二、拾遺往生傳。三、後拾遺往生傳。四、本朝新修往生傳。五、附錄の五卷より成る。

❻明治一四刊 ❼(谷大、宗小・九三)(正大、一〇三六・一四)(龍大、二九六五・二五〇)(哲、一・中・二六)(帝國、一八三・一九一)

日本往生傳 ❶(B)Ni-hon-ō-jō-den. 日本往生極樂記 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇七、群書類從第六六、新校群書類從第三、續本朝往生傳、續淨土宗全書第六、後拾遺往生傳、日本往生全傳 ❹慶滋保胤(—長德三、A. D. 997) ❼(參考)

淨土依憑經論章疏目錄

日本往生傳和解 ❶(B)Ni-hon-ō-jō-den-wa-ge. ❷二卷 ❸存 ❹僧純(寶政三—明治五、A. D. 1791—1872) ❺嘉永四刊 ❻(龍大、二九六五・二五一)(京大、一・二一二・九)(帝國、一八一・五三)

日本各宗高僧傳 ❶(B)Nip-pon-kaku-shō-kō-sō-den. ❷一卷 ❸存 ❹來馬琢道編 ❺明治三三再版 ❻(駒大) ❼東京鴻盟社

日本各宗祖師遺文 ❶(B)Nip-pon-kaku-shō-so-shi-i-mon. ❷一卷 ❸存 ❹金子大榮編 ❺大正八刊 ❻(谷大、餘洋・四七四)

日本感靈錄 ❶(B)Nip-pon-kan-rei-roku. ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

日本紀神代折紙記 ❶(B)Ni-hon-gi-jin-dai-ori-kami-ki. ❷三卷 ❸存、慈雲尊者全集第一〇 ❹慈雲飲光(享保三—文化元、A. D. 1718—1804)

❺この折紙の傳は嵯峨天皇より弘法大師へ授け給ひしもので、天皇の叡慮と大師の來答と相雜れりと尊者は記してゐる。その主なる標目を列擧すると、無義。混沌。緣起。國。八洲起源。天浮橋。瓊矛。滄海。鹽ゴロ島。天御柱。天津敎。蛭元蛭元。淡路島。八尋之殿。太占。鵜鷀。第三四神出生。木祖。草祖。天照皇。天地相去未遠。月讀。蛭兒。素尊。白道鏡。黃泉。(以上第一卷)泉門塞大神。豐約中。靈運〇〇。冥治。黑心赤心濁心淸心。岩戸章。(以上第二卷)八雲章。神代下。(以上第三卷)の三十餘章である。 (高見寬應)

日本求法僧最澄目錄 ❶(B)Nip-pon-gu-hō-sō-sai-chō-mok-roku. 傳教大師將來目錄 ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第四 ❹最澄、神護景雲元—弘仁一三、A. D. 767—822) ❼(參考) 山家祖德撰述篇目集卷上

日本回國六十六部緣起 ❶(B)Nip-pon-ko-kai-roku-ju-roku-bu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寶永五刊(谷大、餘大・三一五二)文政五刊(谷大、餘小・一四九)

日本古今往生略傳 ❶(B)Ni-hon-ko-kon-ō-jō-ryaku-den. ❷一卷 ❸存 ❹山本治齋 ❺天和三刊 ❻(谷大、宗大・一四九八)

日本古代佛像記 ❶(B)Nip-pon-ko-dai-butsu-zō-ki. ❸存、黑川眞頼全集第三 ❹黑川眞頼述

日本高僧畫像選 ❶(B)Nip-pon-kō-sō-ga-sen. ❷一卷 ❸存 ❹橋川正(明治二七—昭和六、A. D. 1894—1931) ❺昭和四刊 ❻(京都大谷大學國史研究室

日本高僧傳指示抄 ❶(B) Nip-pon-kō-sō-den-shi-jō-shō. ❸存、大日本佛教全書第一〇一 ❹宗性 ❺建長元—三(A. D. 1249—1251)

❻本邦最初の僧傳集「日本高僧傳要文抄」の著者宗性が、建長元年の秋より冬にかけて、東大寺知足院の別所信願上人の菴室に於て、日本高僧の諸傳記を拔見した時、その行實の綱目を列擧記載したもの、即ち本書である。敕むる所弘法大師(空海)、禪林寺僧正(宗睿)、書寫上人(性空)、靜觀僧正

名所行從 ◎(名事書)表題所現 ◎月年の刊寫 ◎(書考參書註)書文 ◎說解容內 ◎代年作著 ◎著者 ◎缺存 ◎數卷 ◎(名書)名題 ◎號略字數

（增榮）、淨藏、陽勝仙人、傳教大師（最澄）、慈覺大師（圓仁）、智證大師（圓珍）、無動寺大師（相應）、登壇僧正、慈惠大僧正（良源）、池上阿闍梨（皇慶）、晉石山大僧都傳（明詮）、增利僧都の十五名。その中、現今知られざる行實の本書によりしのみ傳へられるものもあつて、同著「要文抄」と共に貴重なる史籍である。

❹自筆本（東大寺）

（藤原猶雪）

日本高僧傳要文抄

❶（日）Nippon-kō-sō-den-yō-mon-shō. ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇一 ❹宗性 ❺建長元—三（A.D.1249—1251）

❻宗性その生國伯耆共に不詳、出家して東大寺に入り、華嚴學の蘊奥を極め、後大安寺に住し當に登勝院に座した。後嵯峨天皇の勅を榮りて華嚴を講じ、斯學の鈔數卷を撰して叡覽に供し高名を博した。後海印寺の廢頽せるを復興し、文應元年勅を奉じて東大寺の主となる。住持三年にして登勝院に退き、壽七十有餘にて示寂した。門に彼の有名なる凝然を出し、彼は師を「近代之名哲也、智辯縱橫、把二彌天之德一、論難清雅、播二經國之量一、華嚴目明俱令法相皆悉研究無レ不二精詳一、諸宗奧旨彙焉無レ遺」（傳通緣起）と評し、又「解秀二千古一、學照二萬代一」（應鸞章）と讃へた。本書は實に宗性の抄撰にかゝり、本邦最古の僧傳集にして、元亨釋書の跋文に「寔本朝僧傳之權與也」と自贊した該書の上表に先つこと、實に七十餘年のものである。建長五年七月四日、東大寺知足院の別所信願上人の菴室に「南北往還之隙、身心清淨之時、連々參二籠此洞閉之勝地一」して、當時現存したる高僧の傳記について其要文を鈔出したるに始まり、すべて三卷の中、第二卷に收むる七人（傳教大師、慈覺大師、慈惠大僧正、池上阿闍梨皇慶）の傳、僧正、慈惠大僧正、池上阿闍梨皇慶）の傳、最も早く成り、四年七月晦日に抄寫を終へた。次で第一卷に收むる八人（婆羅門僧正、弘法大師、禪林寺僧正宗睿、靜觀僧正、淨藏、書寫上人、道場法師、陽勝仙人）の傳は、同菴室に於て其年の十月五日を以て抄寫を畢り、第三卷所收の二十七人（護命僧正、晉石山大僧都明詮、增利僧都、戀眞、道璿、思託、榮叡、善照、隆寶、上宮皇太子、近江天皇、勝寶感神聖武皇帝、天平仁政皇后、長岡天皇、盛瑞應皇后、釋淨三、釋慶俊、釋戒明、感神功臣太夫、守眞居士魚名、眞木尾居士雉麻呂、雲亭居士、東大居士、龍泉居士、淡海居士、琵琶居士、加古居士）の傳は、同院實弘法師の菴室に移つて建長三年十月一日に抄寫を終つた。時に宗性滿五十一歲。本書收むる所の僧傳の行實には現今已に逸せるもの、例へば晉石山明詮の傳の如きは、師壁が延曆僧錄に據りて自著の本朝高僧傳に、詮師の德業は釋書に在る時は、則ち玉の荊山に埋れて其光を發せざるが如し、僧錄に據る時は、則ち金の麗水より出でゝ自ら厥の價を定むるが如し、晉東禪の岐陽秀禪師、釋書を兼ずる者多し、詮の傳も其一なり、秀公僧錄を見ずば何を以てか之を兼ぜんや等と、師練の元亨釋書を難じて、明詮の傳を詳述したが、今にして彼此對照するに、宗性の所傳の一層詳細を極めて啓發する所多きを發見する。この類例が勘くない、以て本書の史的價値を推知するに足るであらう。

（藤原猶雪）

❹自筆本（東大寺）

日本高僧の人格

❶（日）Nippon-kō-sō-no-jin-kaku. ❷一卷 ❸存 ❹塩川龍夫著 ❺明治三九刊 ❻（龍大、二九六五・一九）（帝國、四〇・七九九）（駒大） ❼東京博文館

日本校訂大藏經目錄

❶（日）Nippon-kō-tei-dai-zō-kyō-mokū-roku. 卍字版目錄、藏經目錄、大日本校訂藏經目錄 ❷一卷 ❸存、昭和法寶總目錄第二之內 ❹日本國求法齊文 ❶（日）Nippon-kokū-gu-hō-sai-mon. ❷一卷 ❸（參考）傳教大師將來台州錄

日本國求法僧最澄目錄

❶（日）Nippon-kokū-sō-hō-sai-chō-mokū-roku. 傳教大師將來目錄 ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第四 ❹最澄（神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822） ❺（參考）本朝台嶺撰述密部書目

日本國求法目錄

❶（日）Nippon-kokū-gu-hō-mokū-roku. ❷一卷 ❸（參考）傳教大師將來台州錄

日本國京師建仁禪寺高山照禪師塔銘

❶（日）Nippon-kokū-kei-shi-ken-nin-zen-ji-kō-zan-shō-zen-ji-tō-mei. ❷一卷 ❸存 ❹梵琦楚石（元貞二—洪武三A.D.1295—1370） ❺（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

日本國京城東山建仁禪寺別源和尚塔銘

❶（日）Nippon-kokū-kei-jō-higashi-yama-ken-nin-zen-ji-betsu-gen-ō-shō-tō-mei. ❷一卷 ❸存 ❹中岩圓月（正安二—永和元A.D.1300—1375）撰 ❺（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

日本國現報善惡靈異記

❶（日）Nihon-kokū-gen-pō-zen-aku-rei-i-ki. 日本靈異記、靈異記、日本現報善惡靈異記 ❷三卷 ❸存、群書類從第一六、新校群書類從第一九 ❹奈良朝景戒撰 ❺靈異記の下を見よ。 ❻（參考）淨土眞宗教典志第三 ❼正德四刊 ❽（谷大、餘大・一九九七）

日本國三十問謹案科直答如後 附日本國經論目

❶（日）Nippon-kokū-san-jū-mon-kin-an-kwa-jiki-tō-gyō-no-tankatari-nip-pon-kokū-kyō-ron-mokū. ❷一卷 ❸存 ❹廣修 ❺正保三刊 ❻（龍大、二六五五・五一）

日本國首傳禪宗記

❶（日）Nippon-kokū-shu-den-zen-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹唐契元、日本慧等 ❺（參考）禪籍目錄

日本國承和五年入唐求法目錄

❶（日）Nip-pon-kokū-shō-wa-go-nen-nit-tō-gu-hō-mokū-roku. ❷一卷 ❸存、大正五五・一〇七四No.2165、大日本佛教全書書籍目錄第二 ❹圓仁（延曆一三—貞觀六A.D.794—864） ❺承和六（A.D.839）

❻慈覺大師圓仁の聖教目錄に三部あり、曰く慈覺大師在唐送進錄、曰く入唐新求聖教目錄、而して第三は本錄である。圓仁、承和二年入唐留學の詔を請け承和五年六月大使倚害右丞恭常嗣に從つて唐に向ふ、八月揚州大都督府に到り、城內諸寺を巡歷し、偶ま終南山宗叡和尚に會す、宗叡は教學に明にして悉曇に精しく、印度に向はんとして準備中なりしを以て圓仁悉曇並に漢語を習ひ、又入唐內供奉留弘阿闍梨付法の弟子、全雅阿闍梨に就て密教の祕要を窮く、遂に念誦法門、胎藏金剛兩部曼荼羅、諸壇樣等を授けらる、其の後天台山を訪はんとせしも路遙かにして往復に長日時を要するの故を以て、勅によつて赴くことを許されず、留學の本半にして求めし法門未だ完全ならずと雖も揚都を中心に索訪し得たる法寶目錄を製す、是れ即ち本目錄である。其の內容次の如し。

第一軸
- 大吉祥天女十二契一百八名無垢
- 觀自在菩薩如意輪念誦儀軌一卷
- 不空譯等九部十卷

第二軸
- 金剛頂瑜伽千手千眼觀自在菩薩修行儀軌一卷
- 阿闍如來念誦供養法不空金剛譯等十部十卷

第三軸
- 修眞言三昧四時禮懺供養儀要一卷
- 理趣釋一卷等八部八卷
- 梵漢兩字大毘盧舍那經字輪品悉曇一卷
- 梵漢兩字法華二十八品題目彙諸羅漢名一卷等三十六部三十七卷

第四軸
- 梵漢名一卷等三十六部三十七卷

第五軸
- 淨名經五卷　文殊述

第六軸
- 淨名集解圖中疏四卷　道液集

第七軸
- 法華經圖中疏釋義二卷　契眞述

第八軸
- 華論略疏一卷　東山矩作
- 華論略出要義彙註附焉并序一卷
- 靈興撰等四部六卷

第九軸
- 因明往抄三卷
- 因明入正理義纂要一卷等三部五卷

第十軸
- 却章頌一卷
- 却章科文一卷等四部四卷

第十一軸
- 智者大師修三昧常行法一卷
- 法華三昧修證訣一卷等九部十三卷

第十二軸
- 最上乘佛性歌一卷
- 大乘楞伽正宗論十三部十三卷

第十三軸
- 南岳思禪師法門傳二卷
- 清涼山略傳一卷等八部十卷

第十四軸
- 寶林傳十卷
- 歌道俗德文三卷等八部十二卷

第十五軸
- 楊州東大雲寺演和上碑并序一卷
- 天台大師答陳宣帝書一卷等九部九卷

第十六軸
- 詩集五卷

第十七軸
- 法華二十八品七言詩集一卷等十二部四十一卷
- 大毘盧遮那大悲胎藏大曼荼羅一鋪
- 舍利五粒並納白石壺子等二十二點

右の如く經疏章、傳記等百三十七部二百一卷、曼荼羅并に印契、壇樣、諸聖者影、舍利等の目錄であつて、唐開成四年四月に記されたものである。

❼（參考）入唐新求聖教目錄　（林信雲）

日本國上都延曆寺僧圓珍求法目錄

❶（日）Nip-pon-kokū-jō-tō-en-ryaku-ji-sō-en-chin-gu-hō-mokū-roku. 日本比丘圓珍入唐求法目錄、日本國上都比叡山延曆寺僧圓珍入唐求法目錄 ❷一卷 ❸存、大正五五・一〇九七A.D.2172、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ❹圓珍（弘仁五—寬平三A.D.814—891） ❺天安元（A.D.857） ❻日本比丘圓珍入唐求法目錄の下を見よ。 ❼（參考）本朝台嶺撰述密部書目

日本國千光法師祠堂記

❶（日）Nip-pon-kokū-sen-kō-hō-shi-shi-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

日本國現報善惡靈異記攷證

❶（日）Ni-hon-kokū-gen-pō-zen-aku-rei-i-ki-kō-shō. ❷三卷 ❸存 ❹碧谷望之（安永四—天保六A.D.1775—1835）著 ❺刊本（京大、一・二六ュ・一五）

日本國體と日蓮主義

❶（日）Nip-pon-kokū-tai-to-nichi-ren-shu-gi. ❷一卷 ❸存 ❹佐藤鐵太郎著 ❺大正七刊 ❻東京博文館

日本國天台宗章疏目錄

❶（日）Nip-pon-kokū-ten-dai-shū-shō-shō-mokū-roku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書佛教書籍目錄第一 ❹日本天台名匠の人別著作目錄である。傳教著作章疏として守護國界章九卷、長講仁王般若經一卷等四十八部（法華宗傳記重複）。慈覺著述章疏として三寶補行記五卷、內證佛寶集等七十部。智證章疏として、授決集二卷、法華論記十卷等三十七部、安然章疏として菩提心義五卷、教時義四卷等九部、慧心章疏として往生要集三卷、一乘要決三卷等五十四部、覺超著、實相義私記以下十四部、義科書三觀義以下百二十七部、良舜の著懸鏡抄以下六部、明賢の寶珠指以下三部、順曜、疏記抄等八部、永心、三大部抄以下十五部、性舜、新三百帖以下六部、其の外倒晴。佛眼院。良聖。華王房。忠琳。勝範。皇覺。俊範。俊承。政海。康實。祐朝。經海等の撰述三十三部を掲げ終りに唐決の內容を摘記して居る。

❺弘治二寫（正大、一三〇・三×龍大、二〇三・四二）　（林信雲）

日本國の佛法

❶（日）Nip-pon-kokū-no-bup-pō. ❷存 ❸昭和七刊 ❹神戶立正教報社

日本國未來記

❶（日）Nip-pon-kokū-mi-rai-ki. ❷一卷 ❸存 ❹傳、聖德太子 ❺慶安元刊（京大、蔵・一九ュ・一）慶安二刊（高大、寄・一・二二×帝國、一〇一・五〇）

日本國民總安心

❶（日）Nip-pon-kokū-min-sō-an-jin. ❷一册 ❸存 ❹釋雲照（文政一〇—明治四二A.D.1827—1909） ❺明治三三刊 ❻（高大、一・二六）（京大、一・二六ュ・三）

日本最初念佛法語諺註

❶（日）Nip-pon-sai-shō-nen-butsu-hō-go-gen-chū. ❷一卷 ❸存 ❹諦忍（寶永二—天明

日本霊異記 説話集 ❶(日)Nip-pon-zen-mon-i-ketsu-den. ❷1 仏教。説話集。説話。 ❸1 仏教。説話集。説話。

日本霊異記の説話 ❶(日)Nip-pon-zen-rin-ko-toka-ryaku-den. ❷1 説話集。説話。

日本霊異記抄 ❶(日)Nip-pon-zen-rin-sen-jitsu-sho-moku. ❷1 説話集。説話。 ❸1 説話集。説話。

日本霊異記抄目 ❶(日)Nip-pon-zen-rin-sen-jitsu-sho-moku. ❷1 説話集。説話。

日本霊異記説話 ❶(日)Nip-pon-ji-in-ko-ron. ❷1 仏教。 ❸1 仏教。 ❹1 説話集。説話。

日本霊異記説話集 ❶(日)Nip-pon-ji-in-ko-ron. ❷1 説話集。説話。

日本霊異記抄 ❶(日)Nip-pon-ji-in-kei-zai-shi-ron. ❷1 説話集。説話。 ❸1 仏教。 ❹1 説話集。説話。

日本霊異記説話集 ❶(日)Nip-pon-ji-in-kei-zai-shi-ron. ❷1 説話集。説話。

日本霊異記抄 ❶(日)Nip-pon-sho-ki-to-sho-shi-ryo. ❷1 仏教。 ❸1 仏教。 ❹1 説話集。説話。

日本霊異記説話集 ❶(日)Nip-pon-sho-ki-to-sho-shi-ryo. ❷1 説話集。説話。

日本霊異記抄 ❶(日)Nip-pon-sho-ki-to-sho-shi-ryo. ❷1 説話集。説話。 ❸1 仏教。 ❹1 説話集。説話。

日本霊異記説話 ❶(日)Nip-pon-sho-ki-to-sho-shi-ryo. ❷1 説話集。説話。 ❸1 仏教。 ❹1 説話集。説話。

日本霊異記説話集 ❶(日)Nip-pon-sho-ki-to-sho-shi-ryo. ❷

大乘起信論章疏、眞言密教論章疏、諸大乘論章疏、三論章疏、常珍・智度・宗輪論章疏、唯識論章疏、金七十論章疏、六離合釋章疏に分ち、宗典部を三論宗章疏、法相宗章疏、戒律宗章疏、華嚴宗章疏、天台宗顯教章疏、天台宗密教章疏、眞言宗事相章疏、曹洞宗章疏、修驗道章疏に分つ。

⑤大正八―二〇刊 ⑩東京日本大藏經編纂會

日本大藏經解題 ❶(B) Nihon-daizō-kyō-kai-dai. ❷二卷 ❸存 ❹大村西崖(明治元―昭和二 A. D. 1868―1927)中野義照共著 ⑤大正一〇刊 ⑩東京日本大藏經編纂會

日本大藏經冠字目錄 ❶(B) Nihon-daizō-kyō-kwan-ji-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹藤井宣正(安政六―明治三六 A. D. 1859―1903) ⑤明治三一刊 ⑩京都貝葉書院

日本大藏經總目錄 ❶(B) Nihon-daizō-kyō-sō-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹中野達慧(―昭和九 A. D. 1934)編 ⑨刊本(谷大、日本藏・甲・四九、乙・四九、丙・四九)

日本帝系紀年 ❶(B)Nip-pon-teikei-ki-nen. ❷一册 ❸存 ⑤寶曆九寫 ⑨(貴書提院)

日本天台教理史 ❶(B)Nip-pon-ten-dai-kyō-ri-shi. ❷二卷 ❸存、島地大等全集 ❹島地大等(明治八―昭和二 A. D. 1875―1927)述 ⑤明治四〇―四三刊 ⑩東京明治書院

日本天台口決 ❶(B)Nip-pon-ten-dai-ku-ketsu. ❸存 ⑨寫本(立大、D一・一二)

日本洞上紀年 ❶(B) Nip-pon-tō-jō-ki-nen. 曹洞宗年表 ❷一卷 ❸存 ❹栗山泰音著 ⑤明治二五刊 ⑨(帝國、四・一九四)

日本洞上宗派圖 ❶(B)Nip-pon-tō-jō-shū-ha-zu. ❷一卷 ❸存 ⑦(參考) 禪籍目錄

日本洞上聯燈錄 ❶(B)Nip-pon-tō-jō-ren-tō-roku. ❷十二卷附目錄一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一〇 ❹嶺南秀恕 ⑤享保年間(A. D. 1716―1735)

❻本書は秀恕が三十年間の研究に成れるものであるだけ、日本曹洞宗の史料としては大著であつて、其傳は七百餘人に上つて居る。この書の資料は云ふ迄もなく元亨釋書や、扶桑僧寶傳や、延寶傳燈錄や、洞上諸祖傳や、續洞上諸祖傳や、重續諸祖傳等であるが、これ等は凡そ二百五十頁を傳するに過ぎず、而も其間には異同區々にして適從するに苦しむものがある。秀恕は此等に批判的態度を以て臨み、傍ら正確なる資料を搜索して大成したものである。

⑨寬保二刊(京大、一・二一 a・一八)(駒大)明治一八刊(京大、一・二一 a・三)(正大、一七・一・一、三二)(帝國、一三四・二六五)大正三刊(谷大、餘大・三四七七)(龍大、二九六五・二三、二〇三・四二、研史)(哲、ち・三・右・八)

(岡田宜法)

日本南禪寺佛惠廣慈禪師在奄大和尙行業 ❶(B) Nip-pon-nan-zen-ji-butsu-e-kō-ji-en-ji-zai-an-dai-o-shō-gyō-gō. 佛惠廣慈禪師在奄大和尙行業 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹一光撰 ⑩佛惠廣慈禪師在奄大和尙行業の下を見よ。

日本二十六祖傳 ❶(B) Nip-pon-ni-jū-roku-so-den. ❷二卷 ❸存 ❹榮雲 ⑦(參考) 禪籍目錄

日本年事略儀集 ❶(B) Nip-pon-nen-ji-ryaku-gi-shū. ❷一卷 ❸存 ❹一雨音道海(寬永五―元祿八 A. D. 1628―1695) ⑦(參考) 禪籍目錄

日本の經濟と佛教 ❶(B) Nip-pon-no-kei-zai-to-buk-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹河田嗣郎、岡本一郎共著 ⑤明治四五刊 ⑨(立大、B一七・三) ⑩京都法學會

日本の國體と日蓮聖人 ❶(B) Nip-pon-no-koku-tai-to-nichi-ren-shō-nin. 王佛一乘論 ❷一卷 ❸存 ❹清水梁山著 ⑤明治四四刊 ⑨(谷大、餘洋・三五二) ⑩名古屋慈敎館

日本の寺院と國寶 ❶(B) Nip-pon-no-ji-in-to-koku-hō. ❷一卷 ❸存 ❹木下茂雄 ⑤大正八刊 ⑩東京眞文社

日本の僧侶 ❶(B)Nip-pon-no-sō-ryo. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤義賢著 ⑤明治四四刊 ⑨(京大、一・二一 a・一五)

日本の佛教 ❶(B)Nip-pon-no-buk-kyō. ❷一卷 ❸存、佛教大觀第四 ❹境野黃洋(明治四―昭和八 A. D. 1871―1934) ⑤大正六刊 ⑩東京丙午出版社

日本の文明と佛教 ❶(B) Nip-pon-no-bun-mei-to-buk-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹長沼賢海著 ⑤大正九刊 ⑩東京大鐘閣

日本比丘圓珍入唐求法目錄 ❶(B) Nip-pon-bi-ku-en-chin-nit-tō-gu-hō-moku-roku. 日本國上都比叡山延曆寺僧圓珍入唐求法目錄、日本國上都延曆寺僧圓珍求法目錄 ❷一卷 ❸存、大正五五・一〇九七No. 2172、大日本佛教全書第二八、智證大師全集第四 ❹圓珍(弘仁五―寬平三 A. D. 814―891)撰 ⑤天安元(A. D. 857)

❻智證大師圓珍、仁壽三年(A. D. 853)に入唐巡禮開元寺に於て那爛陀寺三藏般若怛羅に就て梵字悉曇章を學び、次いで存式より喜祥寺惠思の法華疏・華嚴疏及び律倶舍等の講を聽き、溫州開元寺に轉じて宋本務師疏四分律疏を得、台州に轉じ天台山に上り禪林寺に到つて智者の芳蹟を訪ね、國清寺に於て物外より止觀の講を聞き、越州開元寺に於て智者九世の孫良諝より天台の教學を講授さる、又法全より菰墨地大法を禀け、興聖寺智慧輪に見へて兩部大曼荼羅の秘旨を承け、天安二年(A. D. 857)我が國に歸朝し、在唐中得たる天台宗、密教、禪等の諸宗の經書を進奉す、本錄は長安に於て得たる密教關係の聖典、圖像、道具並に國清寺、禪林寺等にて求得したる天台教學の典籍碑銘其の他の諸宗に屬する章疏等總計三百四十一本七百七十二卷、梵夾法物等十七事の目錄にして其の內容次の如し。第一、密教聖典并に圖像道具等百十七本百五十八卷、道具十事。

第二、天台智者大師傳法華宗聖典并に碑銘等六十七本二百二十七卷。

第三、別家章疏等百五十七本三百八十七卷、別に法物七事。

第一の內容、大毘盧遮那成佛經一部七卷以下求法目錄一卷に至る百十七本百五十八卷、道具十事なり。中に於て聖典は開元錄中より二部、貞元錄所載中より八十六部を寫得し、自餘の二十九部は他より寫得す。道具中二事は眞言和上傳法印信、八事は長安城にて傳へ得たるもの。

第二の內容、天台疏科點妙法蓮華經一部七卷を始め法華部十六本、摩訶止觀十卷、止觀部八本、金光明經四卷以下四十三本。

第三の內容、法華玄論一卷より大涅槃法師書贊一卷に至る華嚴家、禪家等の典籍并に梵夾、金剛杵等。

本錄は大中十一年即ち我が天安元年歸朝の前年に支那の地に於て錄されたるものであつて圓城寺に古寫本現存せり。(林信雲)

日本美術と佛教との關係 ❶(B) Nip-pon-bi-jutsu-to-buk-kyō-to-no-kwan-kei. ❸存、黑川眞頼全集第三 ❹黑川眞頼

日本佛家人名辭書 ❶(B) Nip-pon-buk-ka-jin-mei-ji-sho. ❷一卷 ❸存 ❹鷲尾順敬著 ⑤明治四四刊 ⑩東京光融館

日本佛教 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō. 平叙日本佛教 ❷一卷 ❸存 ❹藤本慶純著 ⑤大正六刊 ⑩東京洛陽堂

日本佛教 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹井上圓了(―大正八 A. D. 1919)著 ⑤大正元刊 ⑨(龍大、研佛)(谷大、餘洋・三一七)

日本佛教一貫論 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-ik-kwan-ron. ❷一卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四―昭和四 A. D. 1851―1929)著 ⑤明治三二刊 ⑩東京哲學書院

日本佛教一斑 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-ip-pan. ❷一卷 ❸存 ❹淺藤寬瑞著 ⑤明治二七刊 ⑨(帝國、一八・四九二)

日本佛教沿革 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-en-kaku. ❷一卷 ❸存 ❹林正躬著 ⑤明治二三刊 ⑨(帝國、一八・一四八)

日本佛教學協會年報 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-gaku-kyō-kwai-nem-pō. ❷四册 ❸存 ❹日本佛教學協會編 ⑤昭和四―七刊 ⑩日本佛教學協會

日本佛教々理史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-kyō-ri-shi. ❷一卷 ❸存、島地大等全集 ❹島地大等(明治八―昭和二 A. D. 1875―1927)著 ⑩東京明治書院

日本佛教外史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-gwai-shi. ❷一卷 ❸存 ❹菊池亮三郎著 ⑤大正八刊 ⑩東京隆文館

日本佛教現勢史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-gen-sei-shi. ❷一卷 ❸存 ❹月輪元瀛、三玄見龍共編 ⑤明治二五刊 ⑨(龍大、二九四・七)(京專)

日本佛教史 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹加藤咄堂著 ⑤明治二五刊 ⑨(帝國、六八・二六五)

日本佛教史 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi. 概說日本佛教史 ❷一册 ❸存 ❹橋川正(明治二七―昭和六 A. D. 1894―1931)著 ⑤昭和四刊 ⑩東京文獻書院

日本佛教史 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi. ❷一册 ❸存 ❹三宅雄次郎著 ⑤明治一九刊 ⑨(龍大、二九四・九)(帝國、六八・二一〇)

日本佛教史 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi. ❷一卷 ❸存、帝國百科全書第一一八 ❹石原朗聞著 ⑤明治三七刊 ⑩東京博文館

日本佛教史 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi. 通俗日本佛教史 ❷一卷 ❸存 ❹足立栗園著 ⑤大正三刊 ⑩東京警醒社

日本佛教史綱 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-kō. ❷二卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四―昭和四 A. D. 1851―1929)著 ⑤明治四二刊 ⑩東京金港堂

日本佛教史講話 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-kō-wa. ❷二卷 ❸存 ❹境野黃洋(明治四―昭和八 A. D. 1871―1933)著 ⑤昭和六刊 ⑩東京森江書店

日本佛教史斷 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-dan. ❸存、歷史及地理講義錄一、二册之內 ❹鷲尾順敬 ⑤明治三四―三五刊 ⑨(帝國、七七・二〇八)

日本佛教史の研究 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi-no-ken-kyū. ❷三卷 ❸存 ❹大屋德城著 ⑤昭和五刊 ⑩京都東方文獻刊行會

日本佛教史の研究 ❶(B) Nip-pon-buk-kyō-shi-no-ken-kyū. ❷二卷 ❸存 ❹辻善之助著 ⑤大正八、昭和六刊 ⑩東京金港堂

日本佛教史要 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-yō. ❷一卷 ❸存 ❹境野黃洋(明治四―昭和八 A. D. 1871―1933)著 ⑤明治四二刊 ⑩東京鴻盟社

日本佛教史要 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-yō. ❷一卷 ❸存 ❹平安專修學院編 ⑤大正一五刊 ⑨(龍大、二九四・一四)

日本佛教史略 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shi-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二―大正七 A. D. 1845―1918)著 ⑤明治一七刊 ⑨(龍大、二九四・一五)(帝國、七・三一)

日本佛教十二傑傳論 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-jū-ni-ketsu-den-ron. ❷一卷 ❸存 ❹中村諦榮著 ⑤明治三四刊 ⑨(谷大、餘洋・六〇)(帝國、二九・二一〇八)

日本佛教小史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-shō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹境野黃洋(明治四―昭和八 A. D. 1871―1933)著 ⑨明治四四刊(龍大、二九四・一六)大正一一刊(高大、一・二一)

日本佛教圖像史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-zu-zō-shi. ❸存 ❹內藤藤一郎著

日本佛教通史 ❶(B)Nip-pon-buk-kyō-tsū-shi. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤義賢著 ⑨明治四三刊(谷大、餘洋・三七〇)明治四四刊(龍大、二九四・一八)

日本學教授法要 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-tetsu-gaku. ❷1卷 ❸洋 ❹小野善太著 ❺明治三八刊 ❻(帝國)〔ヤヤ・一二四〕 ❼東京文明會

日本學教授法に就きての書 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-to-ni-ata-ū-ru-no-sho. ❷1卷 ❸洋 ❹石黒國夫・高谷文藏外國學者編輯部譯 ❺明治三四刊 ❻東京

日本學教授法訪問錄 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-to-hō-kwa-yō-roku. ❷1卷 ❸洋 ❹木村港雄著 ❺明治三刊 ❻東京日本學教授會合會

日本學教と社會事業 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-to-sha-kwai-ji-gyō. ❷1卷 ❸洋 ❹穂川正(明治二七—昭和六A. D. 1894—1931)著 ❺大正一四刊 ❻東京西宇田書店

日本學教と四食事務錄 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-niku-jiki-saj-tai-ron. ❷1卷 ❸洋 ❹日高義雄著 ❺明治三四刊 ❻(帝國)〔ヘ二・一二ヤヤ〕

日本學教教年表 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-nem-pyō. 新訂日本學教年表 ❷1卷 ❸洋 ❹穂川正(明治二七—昭和六A. D. 1894—1931)著 ❺昭和二刊 ❻東京西宇田書店 東京帝大會計

日本學教の意趣 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-no-shin-zui. 增訂日本學教の新意趣 ❷1卷 ❸洋 ❹大田泰雄著 ❺明治三四刊 ❻(龍大〔一二〇九九・一二〇ヤ〕)

日本學教の新紀元 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-no-shin-ki-gen. ❷1卷 ❸洋 ❹中野方城著 ❺明治二七刊 ❻(宮大〔一〇九・一四ヤ〕)(帝國〔一八・五〇八〕)

日本學教の大系 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-no-tai-kei. ❷1卷 ❸洋 ❹佐田惟善(安政四—昭和元A. D. 1857—1930)著 ❺大正一五刊 ❻東京哲學會

日本學教發達概略論 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-hat-tatsu-gai-ron. ❷1卷 ❸洋 ❹綱島榮吉(明治四一—昭和八A. D. 1871—1933)著 ❺昭和七刊 ❻東京大東出版社

日本學教美術之研究 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-bi-jutsu-no-ken-kyū. ❷1卷 ❸洋 ❹巨勢進著 ❺昭和四刊 ❻東京藝術研究會

日本學教文化史の研究 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-bun-kwa-shi-no-ken-kyū. ❷1卷 ❸洋 ❹穂川正(明治二七—昭和六A. D. 1894—1931)著 ❺大正一三刊 ❻東京西宇田書店

日本學教四食事務錄 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-niku-jiki-saj-tai-ron. ❷1卷 ❸洋 ❹日高義雄著 ❺明治三四刊 ❻(帝國〔ヘ二・一二ヤヤ〕)

日本學教要覽 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-yō-ran. ❷1卷 ❸洋 ❹學教會合會編 ❺大正一四刊 ❻東京學教會合會

日本學教歷史 ❶(日)Nip-pom-buk-kyō-reki-shi. 新訂日本學教歷史 ❷1卷 ❸洋 ❹田歷藏明 ❺學教會叢書第六著 ❺明治四八刊 ❻(帝國〔ヤ三・一四〕)

日本學教論 ❶(日) Nip-pom-buk-kyō-ron. ❷1卷 ❸洋 ❹佐田介石(文政一—明治一六A. D. 1818—1882)著 ❺明治二四刊 ❻(帝國〔一九・一ヤ二〕)

日本學教發達概略論 ❶(日)Nip-pom-butsu-zō-chō-koku-setsu. ❷洋 ❸荒川良雄著 ❹全國學教

日本學教學物語 ❶(日)Nip-pom-butsu-zō-mono-gatari. ❷1卷 ❸洋 ❹大林宗嗣著 ❺大正六刊 ❻(宮大〔一・二六一・二〇〕)

日本學教法穴報註註 ❶(日) Nip-pom-bup-pō-ana-sagashi-hyō-chū. ❷1卷 ❸洋 ❹文安宗論著 ❺明治二二刊 ❻(帝國〔一ヤ・一ヤヤ〕)

日本學教法弘通次第之書 ❶(日) Nip-pom-bup-pō-gu-zū-shi-dai-no-koto. ❷1冊 ❸洋 ❹日蓮(鎌倉時代)著 ❺日蓮(一二二二歿A. D. 1342)

❻「日本學教法弘通次第之書」と題する書は教團の歷史である。

「日本」創業十二代之中天皇十代迄當天代「天皇十代代者(下卷)」「神武天皇代者(下卷)」「人代」「百王數」等トシテ(中卷)「第九十六今上代」の間ニ、故聖天皇の治の學法傳來、眞言宗の善惡、「新」天皇の治の善惡、法華宗の善惡、「天皇十五年人」「天皇」「孝靈天皇代」の日蓮聖人御出世、「三十二代後」の國宗法華宗興隆迄二千二百二十年ニ至ル迄ノ記人ニ下ルコトのみである。

(高田日啓)

日本學法史 ❶(日) Nip-pom-bup-pō-shi. ❷三卷 ❸洋 ❹佐藤哲英著 ❺田島佳也大藏 ❻明治三〇刊 ❼東京本田文信堂

日本學法中眞語文 ❶(日) Nip-pom-bup-pō-chū-kō-gwam-mon. ❷1卷 ❸洋 ❹明治學院 ❺(東京)一橋學生 A. D. 1141—1215)撰 ❻(參考) 山家信樹著佛教語彙日義參考

日本文學と法華經 ❶(日) Nip-pom-bun-gaku-to-hok-ke-kyō. ❷1卷 ❸洋 ❹山上知良著 ❺大正一三刊 ❻東京三尾社 文學手藝學會叢書

日本文化辭典 ❶(日)Nip-pom-bun-kwa-kyō-ten. ❷三卷 ❸洋 ❹佐々木月樵(明治八—昭和元 A. D. 1875—1926)編 ❺大正元刊 ❻(宮大〔一・二〇〇ヨ・三〕)

日本文化と學教 ❶(日)Nip-pom-bun-kwa-to-buk-kyō. ❷1卷 ❸洋 ❹谷本富著 ❺大正一一刊 ❻東京丁子平凡社

日本語對大藏經索引目錄 ❶(日)Nip-pon-hen-shū-dai-zō-kyō-saku-im-moku-roku. ❷1卷 ❸洋 ❹藤堂恭俊編 ❺明治三八刊 ❻東京藤堂恭俊

日本法華經驗記 ❶(日)Nip-pon-hok-ke-kyō-ken-ki. ❷三卷 ❸洋 ❹(唐)〔ヘ・一・九・一六〕

日本法華經記 ❶(日)Nip-pon-hok-ke-ken-ki. ❷1卷 ❸洋 ❹仁井田陸 ❺(帝國)

日本佛教史 ❶(日) Nip-pom-mik-kyō-shi. ❷1卷 ❸洋 ❹境本有以著 ❺明治四四刊 ❻東京日本佛教會

日本名僧傳 ❶(日) Nip-pom-mei-sō-den. 日本名僧傳 ❷平安 (東京)一〇—天安二A. D. 779—858) ❸(參考) 僧侶

若只若傳 ❶(日) Nyaku-bon-nyaku-shō. ❷1冊 ❸洋 ❹藤川自牧著 ❺(東京記)

若菩薩論語抄 ❶(日) Nyaku-an-zen-ji-go-roku. ❷四卷 ❸洋 ❹法華金山撰 ❺鎌倉(文永)〔一・七ヨ・一〕

入唐求法巡禮記 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-roku. ❷1卷 ❸洋 ❹慈覺大師 ❺貞觀(文永)〔一四三二・一〇八〕

入唐求法巡禮記 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron. (支) Ju-ê-p'i-ta-mo-lun. (梵)Abhidharmâvatāra-prakaraṇa (羅馬)(藏)rab-tu-byed-pa chos-mṅon-pa la ḥjug-pa shes-bya-ba. ❷二卷 ❸洋 ❹大正二八・九八〇No. 1554 編纂〔一〕 卍二二五・六 第957頁 第933頁 第979頁 明第1284頁 第1284頁 第971頁 第972頁 第929頁 第956頁 第1415頁 明第1421頁 Nj. 1291 ❺(唐)玄奘(七世紀一—唐顯慶A. D. 602—664)撰 ❻法護著三(A. D. 653)

❼本論の著者無著菩薩(Skandila)は著に註して世人と云ふ。西藏天竺記田者 無著(Vasubandhu)と同名の未詳である。本論は唯識の原出として法相宗の所依の論書である。(一卷)「論藏」第十・第四一 (梵)の原本に「明菩ふ」印度無著菩薩著論師 世親菩薩 世親菩薩 世親菩薩

入阿毗達磨論指示請願記 ❶(日)Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-shi-ji-kō-yō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹文化11頃 ❺(谷大"慶大•三九四七)

入阿毗達磨論衆賢釋 ❶(日)Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-shū-gi-shaku. ❷1帖 ❸存 ❹寛永(前"ら•六•元•三1)

入阿毗達磨論上卷引文考 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-jō-kwan-im-mon-kō. ❷1卷 ❸存 ❹慶應(一文政五A. D. 1822)撰 ❺寛永(谷大"慶大•三五六七)

入阿毗達磨論雖疑 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-sui-ken. ❷1卷 ❸存 ❹藤敬撰 ❺寛永(慶大"11四三11•1 1四)

入阿毗達磨論華鬘 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-sū-ken. ❷1卷 ❸存 ❹寛永11(A. D. 1849)撰 ❺寛永(谷大"慶大•三八八11)

入阿毗達磨論註解 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-chū-ge. ❷11帖 ❸存 ❹(前"ち•11•中•11六)

入阿毗達磨論述解 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-tsū-ge. ❷11卷 ❸存 ❹寛永(寛永三一元和四 A. D. 1791—1847)撰 ❺明治11 11刊 ❻(慶大"体像)(谷大"慶大•11〇八六)

入阿毗達磨論述解 ❶(日) Nyū-a-bi-datsu-ma-ron-tsū-ge. ❷11卷 ❸存 ❹小山寛秀(一明治三六A. D. 1903)" 小山秀穆編 ❺明治11 11刊 ❻(慶大"11四三11•1 1五)(慶大"後•1•1 11)(京都"1六•六六)

入阿毗達磨論指示請願記 ❶(日)Nyū-a-bi-datsu-ma-rom-mon-ki. ❷1卷 ❸存 ❹堂山(一寛和元A. D. 1801)撰 ❺寛永元(A. D. 1776)撰 ❻寛永(谷大"慶大•三五六11七)

入一切佛法智印無礙解脫經 ❶(日) Nyū-is-sai-buk-kyō-chi-bi-ru-sha-na-zō-kyō. (支)Ju-i-chieh-fo-ching-chih-p'ei-lu-chê-na-ts'ang-ching. 唐罽賓三藏譯 ❷11卷 ❸存" 大正1六•六五11No. 674" 續藏六" 卍1〇•1" 宋154函" 元152函" 元150函" 明北192函" 清192函" 麗153方" 天154函" 縮142方" 清150方" 宋231函" 明南152函" Nj. 177 ❹唐永徽元年(A. D. 650) ❺唐永徽元年(A. D. 680) ❻唐罽賓三藏譯の下と以上。

入我我入觀 ❶(日)Nyū-ga-ga-nyū-kwan. ❷1卷 ❸眼藏 ❹(寛喜11一寛元11 A. D. 1226—1304)撰 ❺(參考) 諸宗教理綱要11

入我我入觀 ❶(日)Nyū-ga-ga-nyū-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹眼藏 ❺(參考) 大日本學說全書解題叢書11

入唐求法巡禮行記 ❶(日)Nyū-gaku-saku-shin-narabini-yui-mon. ❷1卷 ❸存"続宗全書卷七三 ❹弘仁(一弘仁A. D. 1783—1836)撰 ❺入唐僧慧運は東都西京の名所寺院の新伽藍を開き子孫の僧"唐僧を招待して文字を教授せしものなり。信文は記行"詩文"賛は知文と題せるもの詩文"等諸方の僧を集めたるものなり。

(内藤雋輝)

入唐之集 ❶(日) Nyū-gaku-no-en. ❷1卷 ❸存" 慈雲尊者全集1六輯 ❹明和元(寛延元一天保四 A. D. 1756—1833)撰 ❺寛政1 11(A. D. 1800)

❻この文集は慈雲尊者が安永十二年に始り寛政元年に至る間慈雲尊者が入唐の志を抱かれて明州の地に渡来の僧たちと筆談せられたる問答を書したる書物の題目及び文字である。

❼(參考) 日本佛教學會年報第十号

入佛記門卷 ❶(日) Nyū-ge-datsu-mon-gi. 唐般若譯 ❷11卷 ❸存" 大正1七•七四No. 2331" 日本大藏經 寶積部宗教部卷下" 大日本學說全書第1三 ❹明和(寛延元一天保四 A. D. 1173—1232")撰 ❺寛元11(A. D. 1221) 元刊 ❻唐般若譯佛說入佛境界經の下と以上。 ❼(參考) 諸宗教理綱要11

入全面門受戒經 ❶(日)Nyū-kon-gō-mon-jō-i-kyō. (支) Ju-chin-kang-mên-ting-i-ching. 法賢譯 ❷三卷 ❸存" 三昧分子觀" 入菩薩觀" 菩薩受戒觀" 菩薩觀" 三昧分子觀" 入菩薩觀" 菩薩受戒觀" 菩薩觀" 菩薩受戒觀" 入菩薩觀" 菩薩受戒觀" 菩薩觀" 菩薩受戒觀" 菩薩觀" 菩薩受戒觀"

の長崎の聞書に依る長崎奉行所の役人として出張し、文政十年(A. D. 1827)に帰府するまで十一年の間長崎奉行所に勤務したことは明かである。但し文政の外に天保十四年(A. D. 1843)又は弘化の頃にも長崎に出張したことがあるらしく、これは恐らく式部の誤りであるまい。今、聞書本に拠つて其の要目を見るに、

(1)宗門帳。(2)人別帳。(3)諸宗寺院帳。(4)寺社帳。(5)諸宗寺院帳。(6)諸宗寺院帳。(7)小寺寺院帳。(8)宗門帳。(9)人口出稼帳。(10)宗教寺院帳。(11)宗教寺院帳。(12)諸宗寺院帳。(13)諸宗寺院帳。(14)寺社帳。(15)諸宗寺院帳。(16)諸宗寺院帳。(17)諸宗寺院帳。(18)諸宗寺院帳。(19)諸宗寺院帳。(20)諸宗寺院帳。(21)諸宗寺院帳。(22)諸宗寺院帳。(23)諸宗寺院帳。(24)諸宗寺院帳。(25)諸宗寺院帳。(26)諸宗寺院帳。(27)諸宗寺院帳。(28)諸宗寺院帳。(29)諸宗寺院帳。(30)諸宗寺院帳。(31)諸宗寺院帳。(32)諸宗寺院帳。(33)諸宗寺院帳。(34)諸宗寺院帳。(35)諸宗寺院帳。(36)諸宗寺院帳。(37)諸宗寺院帳。(38)諸宗寺院帳。(39)諸宗寺院帳。(40)諸宗寺院帳。(41)諸宗寺院帳。(42)諸宗寺院帳。(43)諸宗寺院帳。(44)諸宗寺院帳。(45)諸宗寺院帳。(46)諸宗寺院帳。(47)諸宗寺院帳。(48)諸宗寺院帳。(49)諸宗寺院帳。(50)諸宗寺院帳。(51)諸宗寺院帳。(52)諸宗寺院帳。(53)諸宗寺院帳。(54)諸宗寺院帳。(55)諸宗寺院帳。(56)諸宗寺院帳。(57)諸宗寺院帳。(58)諸宗寺院帳。(59)諸宗寺院帳。(60)諸宗寺院帳。(61)諸宗寺院帳。(62)諸宗寺院帳。(63)諸宗寺院帳。(64)諸宗寺院帳。(65)諸宗寺院帳。(66)諸宗寺院帳。(67)諸宗寺院帳。(68)諸宗寺院帳。(69)諸宗寺院帳。(70)諸宗寺院帳。(71)諸宗寺院帳。(72)諸宗寺院帳。(73)諸宗寺院帳。(74)諸宗寺院帳。(75)諸宗寺院帳。(76)諸宗寺院帳。(77)諸宗寺院帳。(78)諸宗寺院帳。(79)諸宗寺院帳。(80)諸宗寺院帳。(81)諸宗寺院帳。(82)諸宗寺院帳。(83)諸宗寺院帳。(84)諸宗寺院帳。(85)諸宗寺院帳。(86)諸宗寺院帳。(87)諸宗寺院帳。(88)諸宗寺院帳。(89)諸宗寺院帳。(90)諸宗寺院帳。(91)諸宗寺院帳。(92)諸宗寺院帳。(93)諸宗寺院帳。(94)諸宗寺院帳。(95)諸宗寺院帳。(96)諸宗寺院帳。(97)諸宗寺院帳。(98)諸宗寺院帳。(99)諸宗寺院帳。(100)諸宗寺院帳。(101)諸宗寺院帳。(102)諸宗寺院帳。(103)諸宗寺院帳。(104)諸宗寺院帳。(105)諸宗寺院帳。(106)諸宗寺院帳。(107)諸宗寺院帳。(108)諸宗寺院帳。(109)諸宗寺院帳。(110)諸宗寺院帳。(111)諸宗寺院帳。(112)諸宗寺院帳。(113)諸宗寺院帳。(114)諸宗寺院帳。(115)諸宗寺院帳。(116)諸宗寺院帳。(117)諸宗寺院帳。(118)諸宗寺院帳。(119)諸宗寺院帳。(120)諸宗寺院帳。(121)諸宗寺院帳。(122)諸宗寺院帳。(123)諸宗寺院帳。(124)諸宗寺院帳。(125)諸宗寺院帳。(126)諸宗寺院帳。(127)諸宗寺院帳。(128)諸宗寺院帳。(129)諸宗寺院帳。(130)諸宗寺院帳。(131)諸宗寺院帳。(132)諸宗寺院帳。(133)諸宗寺院帳。(134)諸宗寺院帳。(135)諸宗寺院帳。(136)諸宗寺院帳。(137)諸宗寺院帳。(138)諸宗寺院帳。(139)諸宗寺院帳。(140)諸宗寺院帳。(141)諸宗寺院帳。(142)諸宗寺院帳。(143)諸宗寺院帳。(144)諸宗寺院帳。(145)諸宗寺院帳。(146)諸宗寺院帳。(147)諸宗寺院帳。(148)諸宗寺院帳。(149)諸宗寺院帳。(150)諸宗寺院帳。(151)諸宗寺院帳。(152)諸宗寺院帳。(153)諸宗寺院帳。(154)諸宗寺院帳。(155)諸宗寺院帳。(156)諸宗寺院帳。(157)諸宗寺院帳。(158)諸宗寺院帳。(159)諸宗寺院帳。(160)諸宗寺院帳。(161)諸宗寺院帳。(162)諸宗寺院帳。(163)諸宗寺院帳。(164)諸宗寺院帳。(165)諸宗寺院帳。(166)諸宗寺院帳。(167)諸宗寺院帳。(168)諸宗寺院帳。(169)諸宗寺院帳。(170)諸宗寺院帳。(171)諸宗寺院帳。(172)諸宗寺院帳。(173)諸宗寺院帳。(174)諸宗寺院帳。(175)諸宗寺院帳。(176)諸宗寺院帳。(177)諸宗寺院帳。(178)諸宗寺院帳。(179)諸宗寺院帳。(180)諸宗寺院帳。(181)諸宗寺院帳。(182)諸宗寺院帳。(183)諸宗寺院帳。(184)諸宗寺院帳。(185)諸宗寺院帳。(186)諸宗寺院帳。(187)諸宗寺院帳。(188)諸宗寺院帳。(189)諸宗寺院帳。(190)諸宗寺院帳。(191)諸宗寺院帳。(192)諸宗寺院帳。(193)諸宗寺院帳。(194)諸宗寺院帳。(195)諸宗寺院帳。(196)諸宗寺院帳。(197)諸宗寺院帳。(198)諸宗寺院帳。(199)諸宗寺院帳。(200)諸宗寺院帳。(201)諸宗寺院帳。(202)諸宗寺院帳。(203)諸宗寺院帳。(204)諸宗寺院帳。(205)諸宗寺院帳。(206)諸宗寺院帳。(207)諸宗寺院帳。(208)諸宗寺院帳。(209)諸宗寺院帳。(210)諸宗寺院帳。(211)諸宗寺院帳。(212)諸宗寺院帳。(213)諸宗寺院帳。(214)諸宗寺院帳。(215)諸宗寺院帳。(216)諸宗寺院帳。(217)諸宗寺院帳。(218)諸宗寺院帳。(219)諸宗寺院帳。(220)諸宗寺院帳。(221)諸宗寺院帳。(222)諸宗寺院帳。(223)諸宗寺院帳。(224)諸宗寺院帳。(225)諸宗寺院帳。(226)諸宗寺院帳。(227)諸宗寺院帳。(228)諸宗寺院帳。(229)諸宗寺院帳。(230)諸宗寺院帳。(231)諸宗寺院帳。(232)諸宗寺院帳。(233)諸宗寺院帳。(234)諸宗寺院帳。(235)諸宗寺院帳。(236)諸宗寺院帳。(237)諸宗寺院帳。(238)諸宗寺院帳。(239)諸宗寺院帳。(240)諸宗寺院帳。(241)諸宗寺院帳。(242)諸宗寺院帳。(243)諸宗寺院帳。(244)諸宗寺院帳。(245)諸宗寺院帳。(246)諸宗寺院帳。(247)諸宗寺院帳。(248)諸宗寺院帳。(249)諸宗寺院帳。(250)諸宗寺院帳。(251)諸宗寺院帳。(252)諸宗寺院帳。(253)諸宗寺院帳。(254)諸宗寺院帳。(255)諸宗寺院帳。(256)諸宗寺院帳。(257)諸宗寺院帳。(258)諸宗寺院帳。(259)諸宗寺院帳。(260)諸宗寺院帳。(261)諸宗寺院帳。(262)諸宗寺院帳。(263)諸宗寺院帳。(264)諸宗寺院帳。(265)諸宗寺院帳。(266)諸宗寺院帳。(267)諸宗寺院帳。(268)諸宗寺院帳。(269)諸宗寺院帳。(270)諸宗寺院帳。(271)諸宗寺院帳。(272)諸宗寺院帳。(273)諸宗寺院帳。(274)諸宗寺院帳。(275)諸宗寺院帳。(276)諸宗寺院帳。(277)諸宗寺院帳。(278)諸宗寺院帳。(279)諸宗寺院帳。(280)諸宗寺院帳。(281)諸宗寺院帳。(282)諸宗寺院帳。(283)諸宗寺院帳。(284)諸宗寺院帳。(285)諸宗寺院帳。(286)諸宗寺院帳。(287)諸宗寺院帳。(288)諸宗寺院帳。(289)諸宗寺院帳。(290)諸宗寺院帳。(291)諸宗寺院帳。(292)諸宗寺院帳。(293)諸宗寺院帳。(294)諸宗寺院帳。(295)諸宗寺院帳。(296)諸宗寺院帳。(297)諸宗寺院帳。(298)諸宗寺院帳。(299)諸宗寺院帳。(300)諸宗寺院帳。(301)諸宗寺院帳。(302)諸宗寺院帳。(303)諸宗寺院帳。(304)諸宗寺院帳。(305)諸宗寺院帳。(306)諸宗寺院帳。(307)諸宗寺院帳。(308)諸宗寺院帳。(309)諸宗寺院帳。(310)諸宗寺院帳。(311)諸宗寺院帳。(312)諸宗寺院帳。(313)諸宗寺院帳。(314)諸宗寺院帳。(315)諸宗寺院帳。(316)諸宗寺院帳。(317)諸宗寺院帳。(318)諸宗寺院帳。(319)諸宗寺院帳。(320)諸宗寺院帳。(321)諸宗寺院帳。(322)諸宗寺院帳。(323)諸宗寺院帳。(324)諸宗寺院帳。(325)諸宗寺院帳。(326)諸宗寺院帳。(327)諸宗寺院帳。(328)諸宗寺院帳。(329)諸宗寺院帳。(330)諸宗寺院帳。(331)諸宗寺院帳。(332)諸宗寺院帳。(333)諸宗寺院帳。(334)諸宗寺院帳。(335)諸宗寺院帳。(336)諸宗寺院帳。(337)諸宗寺院帳。(338)諸宗寺院帳。(339)諸宗寺院帳。(340)諸宗寺院帳。(341)諸宗寺院帳。(342)諸宗寺院帳。(343)諸宗寺院帳。(344)諸宗寺院帳。(345)諸宗寺院帳。(346)諸宗寺院帳。(347)諸宗寺院帳。(348)諸宗寺院帳。(349)諸宗寺院帳。(350)諸宗寺院帳。(351)諸宗寺院帳。(352)諸宗寺院帳。(353)諸宗寺院帳。(354)諸宗寺院帳。(355)諸宗寺院帳。(356)諸宗寺院帳。(357)諸宗寺院帳。(358)諸宗寺院帳。(359)諸宗寺院帳。(360)諸宗寺院帳。(361)諸宗寺院帳。(362)諸宗寺院帳。(363)諸宗寺院帳。(364)諸宗寺院帳。(365)諸宗寺院帳。(366)諸宗寺院帳。(367)諸宗寺院帳。(368)諸宗寺院帳。(369)諸宗寺院帳。(370)諸宗寺院帳。(371)諸宗寺院帳。(372)諸宗寺院帳。(373)諸宗寺院帳。(374)諸宗寺院帳。(375)諸宗寺院帳。(376)諸宗寺院帳。(377)諸宗寺院帳。(378)諸宗寺院帳。(379)諸宗寺院帳。(380)諸宗寺院帳。(381)諸宗寺院帳。(382)諸宗寺院帳。(383)諸宗寺院帳。(384)諸宗寺院帳。(385)諸宗寺院帳。(386)諸宗寺院帳。(387)諸宗寺院帳。(388)諸宗寺院帳。(389)諸宗寺院帳。(390)諸宗寺院帳。(391)諸宗寺院帳。(392)諸宗寺院帳。(393)諸宗寺院帳。(394)諸宗寺院帳。(395)諸宗寺院帳。(396)諸宗寺院帳。(397)諸宗寺院帳。(398)諸宗寺院帳。(399)諸宗寺院帳。(400)諸宗寺院帳。(401)諸宗寺院帳。(402)諸宗寺院帳。(403)諸宗寺院帳。(404)諸宗寺院帳。(405)諸宗寺院帳。(406)諸宗寺院帳。(407)諸宗寺院帳。(408)諸宗寺院帳。(409)諸宗寺院帳。(410)諸宗寺院帳。(411)諸宗寺院帳。(412)諸宗寺院帳。(413)諸宗寺院帳。(414)諸宗寺院帳。(415)諸宗寺院帳。(416)諸宗寺院帳。(417)諸宗寺院帳。(418)諸宗寺院帳。(419)諸宗寺院帳。(420)諸宗寺院帳。(421)諸宗寺院帳。(422)諸宗寺院帳。(423)諸宗寺院帳。(424)諸宗寺院帳。(425)諸宗寺院帳。(426)諸宗寺院帳。(427)諸宗寺院帳。(428)諸宗寺院帳。(429)諸宗寺院帳。(430)諸宗寺院帳。(431)諸宗寺院帳。(432)諸宗寺院帳。(433)諸宗寺院帳。(434)諸宗寺院帳。(435)諸宗寺院帳。(436)諸宗寺院帳。(437)諸宗寺院帳。(438)諸宗寺院帳。(439)諸宗寺院帳。(440)諸宗寺院帳。(441)諸宗寺院帳。(442)諸宗寺院帳。(443)諸宗寺院帳。(444)諸宗寺院帳。(445)諸宗寺院帳。(446)諸宗寺院帳。(447)諸宗寺院帳。(448)諸宗寺院帳。(449)諸宗寺院帳。(450)諸宗寺院帳。(451)諸宗寺院帳。(452)諸宗寺院帳。(453)諸宗寺院帳。(454)諸宗寺院帳。(455)諸宗寺院帳。(456)諸宗寺院帳。(457)諸宗寺院帳。(458)諸宗寺院帳。(459)諸宗寺院帳。(460)諸宗寺院帳。(461)諸宗寺院帳。(462)諸宗寺院帳。(463)諸宗寺院帳。(464)諸宗寺院帳。(465)諸宗寺院帳。(466)諸宗寺院帳。(467)諸宗寺院帳。(468)諸宗寺院帳。(469)諸宗寺院帳。(470)諸宗寺院帳。(471)諸宗寺院帳。(472)諸宗寺院帳。(473)諸宗寺院帳。(474)諸宗寺院帳。(475)諸宗寺院帳。(476)諸宗寺院帳。(477)諸宗寺院帳。(478)諸宗寺院帳。(479)諸宗寺院帳。(480)諸宗寺院帳。(481)諸宗寺院帳。(482)諸宗寺院帳。(483)諸宗寺院帳。(484)諸宗寺院帳。(485)諸宗寺院帳。(486)諸宗寺院帳。(487)諸宗寺院帳。(488)諸宗寺院帳。(489)諸宗寺院帳。(490)諸宗寺院帳。(491)諸宗寺院帳。(492)諸宗寺院帳。(493)諸宗寺院帳。(494)諸宗寺院帳。(495)諸宗寺院帳。(496)諸宗寺院帳。(497)諸宗寺院帳。(498)諸宗寺院帳。(499)諸宗寺院帳。(500)諸宗寺院帳。(501)諸宗寺院帳。(502)諸宗寺院帳。(503)諸宗寺院帳。(504)諸宗寺院帳。(505)諸宗寺院帳。(506)諸宗寺院帳。(507)諸宗寺院帳。(508)諸宗寺院帳。(509)諸宗寺院帳。(510)諸宗寺院帳。(511)諸宗寺院帳。(512)諸宗寺院帳。(513)諸宗寺院帳。(514)諸宗寺院帳。(515)諸宗寺院帳。(516)諸宗寺院帳。(517)諸宗寺院帳。(518)諸宗寺院帳。(519)諸宗寺院帳。(520)諸宗寺院帳。(521)諸宗寺院帳。(522)諸宗寺院帳。(523)諸宗寺院帳。(524)諸宗寺院帳。(525)諸宗寺院帳。(526)諸宗寺院帳。(527)諸宗寺院帳。(528)諸宗寺院帳。(529)諸宗寺院帳。(530)諸宗寺院帳。(531)諸宗寺院帳。(532)諸宗寺院帳。(533)諸宗寺院帳。(534)諸宗寺院帳。(535)諸宗寺院帳。(536)諸宗寺院帳。(537)諸宗寺院帳。(538)諸宗寺院帳。(539)諸宗寺院帳。(540)諸宗寺院帳。(541)諸宗寺院帳。(542)諸宗寺院帳。(543)諸宗寺院帳。(544)諸宗寺院帳。(545)諸宗寺院帳。(546)諸宗寺院帳。(547)諸宗寺院帳。(548)諸宗寺院帳。(549)諸宗寺院帳。(550)諸宗寺院帳。(551)諸宗寺院帳。(552)諸宗寺院帳。(553)諸宗寺院帳。(554)諸宗寺院帳。(555)諸宗寺院帳。(556)諸宗寺院帳。(557)諸宗寺院帳。(558)諸宗寺院帳。(559)諸宗寺院帳。(560)諸宗寺院帳。(561)諸宗寺院帳。(562)諸宗寺院帳。(563)諸宗寺院帳。(564)諸宗寺院帳。(565)諸宗寺院帳。(566)諸宗寺院帳。(567)諸宗寺院帳。(568)諸宗寺院帳。(569)諸宗寺院帳。(570)諸宗寺院帳。(571)諸宗寺院帳。(572)諸宗寺院帳。(573)諸宗寺院帳。(574)諸宗寺院帳。(575)諸宗寺院帳。(576)諸宗寺院帳。(577)諸宗寺院帳。(578)諸宗寺院帳。(579)諸宗寺院帳。(580)諸宗寺院帳。(581)諸宗寺院帳。(582)諸宗寺院帳。(583)諸宗寺院帳。(584)諸宗寺院帳。(585)諸宗寺院帳。(586)諸宗寺院帳。(587)諸宗寺院帳。(588)諸宗寺院帳。(589)諸宗寺院帳。(590)諸宗寺院帳。(591)諸宗寺院帳。(592)諸宗寺院帳。(593)諸宗寺院帳。(594)諸宗寺院帳。(595)諸宗寺院帳。(596)諸宗寺院帳。(597)諸宗寺院帳。(598)諸宗寺院帳。(599)諸宗寺院帳。(600)諸宗寺院帳。(601)諸宗寺院帳。(602)諸宗寺院帳。(603)諸宗寺院帳。(604)諸宗寺院帳。(605)諸宗寺院帳。(606)諸宗寺院帳。(607)諸宗寺院帳。(608)諸宗寺院帳。(609)諸宗寺院帳。(610)諸宗寺院帳。(611)諸宗寺院帳。(612)諸宗寺院帳。(613)諸宗寺院帳。(614)諸宗寺院帳。(615)諸宗寺院帳。(616)諸宗寺院帳。(617)諸宗寺院帳。(618)諸宗寺院帳。(619)諸宗寺院帳。(620)諸宗寺院帳。(621)諸宗寺院帳。(622)諸宗寺院帳。(623)諸宗寺院帳。(624)諸宗寺院帳。(625)諸宗寺院帳。(626)諸宗寺院帳。(627)諸宗寺院帳。(628)諸宗寺院帳。(629)諸宗寺院帳。(630)諸宗寺院帳。(631)諸宗寺院帳。(632)諸宗寺院帳。(633)諸宗寺院帳。(634)諸宗寺院帳。(635)諸宗寺院帳。(636)諸宗寺院帳。(637)諸宗寺院帳。(638)諸宗寺院帳。(639)諸宗寺院帳。(640)諸宗寺院帳。(641)諸宗寺院帳。(642)諸宗寺院帳。(643)諸宗寺院帳。(644)諸宗寺院帳。(645)諸宗寺院帳。(646)諸宗寺院帳。(647)諸宗寺院帳。(648)諸宗寺院帳。(649)諸宗寺院帳。(650)諸宗寺院帳。(651)諸宗寺院帳。(652)諸宗寺院帳。(653)諸宗寺院帳。(654)諸宗寺院帳。(655)諸宗寺院帳。(656)諸宗寺院帳。(657)諸宗寺院帳。(658)諸宗寺院帳。(659)諸宗寺院帳。(660)諸宗寺院帳。(661)諸宗寺院帳。(662)諸宗寺院帳。(663)諸宗寺院帳。(664)諸宗寺院帳。(665)諸宗寺院帳。(666)諸宗寺院帳。(667)諸宗寺院帳。(668)諸宗寺院帳。(669)諸宗寺院帳。(670)諸宗寺院帳。(671)諸宗寺院帳。(672)諸宗寺院帳。(673)諸宗寺院帳。(674)諸宗寺院帳。(675)諸宗寺院帳。(676)諸宗寺院帳。(677)諸宗寺院帳。(678)諸宗寺院帳。(679)諸宗寺院帳。(680)諸宗寺院帳。(681)諸宗寺院帳。(682)諸宗寺院帳。(683)諸宗寺院帳。(684)諸宗寺院帳。(685)諸宗寺院帳。(686)諸宗寺院帳。(687)諸宗寺院帳。(688)諸宗寺院帳。(689)諸宗寺院帳。(690)諸宗寺院帳。(691)諸宗寺院帳。(692)諸宗寺院帳。(693)諸宗寺院帳。(694)諸宗寺院帳。(695)諸宗寺院帳。(696)諸宗寺院帳。(697)諸宗寺院帳。(698)諸宗寺院帳。(699)諸宗寺院帳。(700)諸宗寺院帳。(701)諸宗寺院帳。(702)諸宗寺院帳。(703)諸宗寺院帳。(704)諸宗寺院帳。(705)諸宗寺院帳。(706)諸宗寺院帳。(707)諸宗寺院帳。(708)諸宗寺院帳。(709)諸宗寺院帳。(710)諸宗寺院帳。(711)諸宗寺院帳。(712)諸宗寺院帳。(713)諸宗寺院帳。(714)諸宗寺院帳。(715)諸宗寺院帳。(716)諸宗寺院帳。(717)諸宗寺院帳。(718)諸宗寺院帳。(719)諸宗寺院帳。(720)諸宗寺院帳。(721)諸宗寺院帳。(722)諸宗寺院帳。(723)諸宗寺院帳。(724)諸宗寺院帳。(725)諸宗寺院帳。(726)諸宗寺院帳。(727)諸宗寺院帳。(728)諸宗寺院帳。(729)諸宗寺院帳。(730)諸宗寺院帳。(731)諸宗寺院帳。(732)諸宗寺院帳。(733)諸宗寺院帳。(734)諸宗寺院帳。(735)諸宗寺院帳。(736)諸宗寺院帳。(737)諸宗寺院帳。(738)諸宗寺院帳。(739)諸宗寺院帳。(740)諸宗寺院帳。(741)諸宗寺院帳。(742)諸宗寺院帳。(743)諸宗寺院帳。(744)諸宗寺院帳。(745)諸宗寺院帳。(746)諸宗寺院帳。(747)諸宗寺院帳。(748)諸宗寺院帳。(749)諸宗寺院帳。(750)諸宗寺院帳。(751)諸宗寺院帳。(752)諸宗寺院帳。(753)諸宗寺院帳。(754)諸宗寺院帳。(755)諸宗寺院帳。(756)諸宗寺院帳。(757)諸宗寺院帳。(758)諸宗寺院帳。(759)諸宗寺院帳。(760)諸宗寺院帳。(761)諸宗寺院帳。(762)諸宗寺院帳。(763)諸宗寺院帳。(764)諸宗寺院帳。(765)諸宗寺院帳。(766)諸宗寺院帳。(767)諸宗寺院帳。(768)諸宗寺院帳。(769)諸宗寺院帳。(770)諸宗寺院帳。(771)諸宗寺院帳。(772)諸宗寺院帳。(773)諸宗寺院帳。(774)諸宗寺院帳。(775)諸宗寺院帳。(776)諸宗寺院帳。(777)諸宗寺院帳。(778)諸宗寺院帳。(779)諸宗寺院帳。(780)諸宗寺院帳。(781)諸宗寺院帳。(782)諸宗寺院帳。(783)諸宗寺院帳。(784)諸宗寺院帳。(785)諸宗寺院帳。(786)諸宗寺院帳。(787)諸宗寺院帳。(788)諸宗寺院帳。(789)諸宗寺院帳。(790)諸宗寺院帳。(791)諸宗寺院帳。(792)諸宗寺院帳。(793)諸宗寺院帳。(794)諸宗寺院帳。(795)諸宗寺院帳。(796)諸宗寺院帳。(797)諸宗寺院帳。(798)諸宗寺院帳。(799)諸宗寺院帳。(800)諸宗寺院帳。(801)諸宗寺院帳。(802)諸宗寺院帳。(803)諸宗寺院帳。(804)諸宗寺院帳。(805)諸宗寺院帳。(806)諸宗寺院帳。(807)諸宗寺院帳。(808)諸宗寺院帳。(809)諸宗寺院帳。(810)諸宗寺院帳。(811)諸宗寺院帳。(812)諸宗寺院帳。(813)諸宗寺院帳。(814)諸宗寺院帳。(815)諸宗寺院帳。(816)諸宗寺院帳。(817)諸宗寺院帳。(818)諸宗寺院帳。(819)諸宗寺院帳。(820)諸宗寺院帳。(821)諸宗寺院帳。(822)諸宗寺院帳。(823)諸宗寺院帳。(824)諸宗寺院帳。(825)諸宗寺院帳。(826)諸宗寺院帳。(827)諸宗寺院帳。(828)諸宗寺院帳。(829)諸宗寺院帳。(830)諸宗寺院帳。(831)諸宗寺院帳。(832)諸宗寺院帳。(833)諸宗寺院帳。(834)諸宗寺院帳。(835)諸宗寺院帳。(836)諸宗寺院帳。(837)諸宗寺院帳。(838)諸宗寺院帳。(839)諸宗寺院帳。(840)諸宗寺院帳。(841)諸宗寺院帳。(842)諸宗寺院帳。(843)諸宗寺院帳。(844)諸宗寺院帳。(845)諸宗寺院帳。(846)諸宗寺院帳。(847)諸宗寺院帳。(848)諸宗寺院帳。(849)諸宗寺院帳。(850)諸宗寺院帳。(851)諸宗寺院帳。(852)諸宗寺院帳。(853)諸宗寺院帳。(854)諸宗寺院帳。(855)諸宗寺院帳。(856)諸宗寺院帳。(857)諸宗寺院帳。(858)諸宗寺院帳。(859)諸宗寺院帳。(860)諸宗寺院帳。(861)諸宗寺院帳。(862)諸宗寺院帳。(863)諸宗寺院帳。(864)諸宗寺院帳。(865)諸宗寺院帳。(866)諸宗寺院帳。(867)諸宗寺院帳。(868)諸宗寺院帳。(869)諸宗寺院帳。(870)諸宗寺院帳。(871)諸宗寺院帳。(872)諸宗寺院帳。(873)諸宗寺院帳。(874)諸宗寺院帳。(875)諸宗寺院帳。(876)諸宗寺院帳。(877)諸宗寺院帳。(878)諸宗寺院帳。(879)諸宗寺院帳。(880)諸宗寺院帳。(881)諸宗寺院帳。(882)諸宗寺院帳。(883)諸宗寺院帳。(884)諸宗寺院帳。(885)諸宗寺院帳。(886)諸宗寺院帳。(887)諸宗寺院帳。(888)諸宗寺院帳。(889)諸宗寺院帳。(890)諸宗寺院帳。(891)諸宗寺院帳。(892)諸宗寺院帳。(893)諸宗寺院帳。(894)諸宗寺院帳。(895)諸宗寺院帳。(896)諸宗寺院帳。(897)諸宗寺院帳。(898)諸宗寺院帳。(899)諸宗寺院帳。(900)諸宗寺院帳。(901)諸宗寺院帳。(902)諸宗寺院帳。(903)諸宗寺院帳。(904)諸宗寺院帳。(905)諸宗寺院帳。(906)諸宗寺院帳。(907)諸宗寺院帳。(908)諸宗寺院帳。(909)諸宗寺院帳。(910)諸宗寺院帳。(911)諸宗寺院帳。(912)諸宗寺院帳。(913)諸宗寺院帳。(914)諸宗寺院帳。(915)諸宗寺院帳。(916)諸宗寺院帳。(917)諸宗寺院帳。(918)諸宗寺院帳。(919)諸宗寺院帳。(920)諸宗寺院帳。(921)諸宗寺院帳。(922)諸宗寺院帳。(923)諸宗寺院帳。(924)諸宗寺院帳。(925)諸宗寺院帳。(926)諸宗寺院帳。(927)諸宗寺院帳。(928)諸宗寺院帳。(929)諸宗寺院帳。(930)諸宗寺院帳。(931)諸宗寺院帳。(932)諸宗寺院帳。(933)諸宗寺院帳。(934)諸宗寺院帳。(935)諸宗寺院帳。(936)諸宗寺院帳。(937)諸宗寺院帳。(938)諸宗寺院帳。(939)諸宗寺院帳。(940)諸宗寺院帳。(941)諸宗寺院帳。(942)諸宗寺院帳。(943)諸宗寺院帳。(944)諸宗寺院帳。(945)諸宗寺院帳。(946)諸宗寺院帳。(947)諸宗寺院帳。(948)諸宗寺院帳。(949)諸宗寺院帳。(950)諸宗寺院帳。(951)諸宗寺院帳。(952)諸宗寺院帳。(953)諸宗寺院帳。(954)諸宗寺院帳。(955)諸宗寺院帳。(956)諸宗寺院帳。(957)諸宗寺院帳。(958)諸宗寺院帳。(959)諸宗寺院帳。(960)諸宗寺院帳。(961)諸宗寺院帳。(962)諸宗寺院帳。(963)諸宗寺院帳。(964)諸宗寺院帳。(965)諸宗寺院帳。(966)諸宗寺院帳。(967)諸宗寺院帳。(968)諸宗寺院帳。(969)諸宗寺院帳。(970)諸宗寺院帳。(971)諸宗寺院帳。(972)諸宗寺院帳。(973)諸宗寺院帳。(974)諸宗寺院帳。(975)諸宗寺院帳。(976)諸宗寺院帳。(977)諸宗寺院帳。(978)諸宗寺院帳。(979)諸宗寺院帳。(980)諸宗寺院帳。(981)諸宗寺院帳。(982)諸宗寺院帳。(983)諸宗寺院帳。(984)諸宗寺院帳。(985)諸宗寺院帳。(986)諸宗寺院帳。(987)諸宗寺院帳。(988)諸宗寺院帳。(989)諸宗寺院帳。(990)諸宗寺院帳。(991)諸宗寺院帳。(992)諸宗寺院帳。(993)諸宗寺院帳。(994)諸宗寺院帳。(995)諸宗寺院帳。(996)諸宗寺院帳。(997)諸宗寺院帳。(998)諸宗寺院帳。(999)諸宗寺院帳。(1000)諸宗寺院帳。(1001)諸宗寺院帳。(1002)諸宗寺院帳。(1003)諸宗寺院帳。(1004)諸宗寺院帳。(1005)諸宗寺院帳。(1006)諸宗寺院帳。(1007)諸宗寺院帳。(1008)諸宗寺院帳。(1009)諸宗寺院帳。(1010)諸宗寺院帳。(1011)諸宗寺院帳。(1012)諸宗寺院帳。(1013)諸宗寺院帳。(1014)諸宗寺院帳。(1015)諸宗寺院帳。(1016)諸宗寺院帳。(1017)諸宗寺院帳。(1018)諸宗寺院帳。(1019)諸宗寺院帳。(1020)諸宗寺院帳。(1021)諸宗寺院帳。(1022)諸宗寺院帳。(1023)諸宗寺院帳。(1024)諸宗寺院帳。(1025)諸宗寺院帳。(1026)諸宗寺院帳。(1027)諸宗寺院帳。(1028)諸宗寺院帳。(1029)諸宗寺院帳。(1030)諸宗寺院帳。(1031)諸宗寺院帳。(1032)諸宗寺院帳。(1033)諸宗寺院帳。(1034)諸宗寺院帳。(1035)諸宗寺院帳。(1036)諸宗寺院帳。(1037)諸宗寺院帳。(1038)諸宗寺院帳。(1039)諸宗寺院帳。(1040)諸宗寺院帳。(1041)諸宗寺院帳。(1042)諸宗寺院帳。(1043)諸宗寺院帳。(1044)諸宗寺院帳。(1045)諸宗寺院帳。(1046)諸宗寺院帳。(1047)諸宗寺院帳。(1048)諸宗寺院帳。(1049)諸宗寺院帳。(1050)諸宗寺院帳。(1051)諸宗寺院帳。(1052)諸宗寺院帳。(1053)諸宗寺院帳。(1054)諸宗寺院帳。(1055)諸宗寺院帳。(1056)諸宗寺院帳。(1057)諸宗寺院帳。(1058)諸宗寺院帳。(1059)諸宗寺院帳。(1060)諸宗寺院帳。(1061)諸宗寺院帳。(1062)諸宗寺院帳。(1063)諸宗寺院帳。(1064)諸宗寺院帳。(1065)諸宗寺院帳。(1066)諸宗寺院帳。(1067)諸宗寺院帳。(1068)諸宗寺院帳。(1069)諸宗寺院帳。(1070)諸宗寺院帳。(1071)諸宗寺院帳。(1072)諸宗寺院帳。(1073)諸宗寺院帳。(1074)諸宗寺院帳。(1075)諸宗寺院帳。(1076)諸宗寺院帳。(1077)諸宗寺院帳。(1078)諸宗寺院帳。(1079)諸宗寺院帳。(1080)諸宗寺院帳。(1081)諸宗寺院帳。(1082)諸宗寺院帳。(1083)諸宗寺院帳。(1084)諸宗寺院帳。(1085)諸宗寺院帳。(1086)諸宗寺院帳。(1087)諸宗寺院帳。(1088)諸宗寺院帳。(1089)諸宗寺院帳。(1090)諸宗寺院帳。(1091)諸宗寺院帳。(1092)諸宗寺院帳。(1093)諸宗寺院帳。(1094)諸宗寺院帳。(1095)諸宗寺院帳。(1096)諸宗寺院帳。(1097)諸宗寺院帳。(1098)諸宗寺院帳。(1099)諸宗寺院帳。(1100)諸宗寺院帳。(1101)諸宗寺院帳。(1102)諸宗寺院帳。(1103)諸宗寺院帳。(1104)諸宗寺院帳。(1105)諸宗寺院帳。(1106)諸宗寺院帳。(1107)諸宗寺院帳。(1108)諸宗寺院帳。(1109)諸宗寺院帳。(1110)諸宗寺院帳。(1111)諸宗寺院帳。(1112)諸宗寺院帳。(1113)諸宗寺院帳。(1114)諸宗寺院帳。(1115)諸宗寺院帳。(1116)諸宗寺院帳。(1117)諸宗寺院帳。(1118)諸宗寺院帳。(1119)諸宗寺院帳。(1120)諸宗寺院帳。(1121)諸宗寺院帳。(1122)諸宗寺院帳。(1123)諸宗寺院帳。(1124)諸宗寺院帳。(1125)諸宗寺院帳。(1126)諸宗寺院帳。(1127)諸宗寺院帳。(1128)諸宗寺院帳。(1129)諸宗寺院帳。(1130)諸宗寺院帳。(1131)諸宗寺院帳。(1132)諸宗寺院帳。(1133)諸宗寺院帳。(1134)諸宗寺院帳。(1135)諸宗寺院帳。(1136)諸宗寺院帳。(1137)諸宗寺院帳。(1138)諸宗寺院帳。(1139)諸宗寺院帳。(1140)諸宗寺院帳。(1141)諸宗寺院帳。(1142)諸宗寺院帳。(1143)諸宗寺院帳。(1144)諸宗寺院帳。(1145)諸宗寺院帳。(1146)諸宗寺院帳。(1147)諸宗寺院帳。(1148)諸宗寺院帳。(1149)諸宗寺院帳。(1150)諸宗寺院帳。(1151)諸宗寺院帳。(1152)諸宗寺院帳。(1153)諸宗寺院帳。(1154)諸宗寺院帳。(1155)諸宗寺院帳。(1156)諸宗寺院帳。(1157)諸宗寺院帳。(1158)諸宗寺院帳。(1159)諸宗寺院帳。(1160)諸宗寺院帳。(1161)諸宗寺院帳。(1162)諸宗寺院帳。(1163)諸宗寺院帳。(1164)諸宗寺院帳。(1165)諸宗寺院帳。(1166)諸宗寺院帳。(1167)諸宗寺院帳。(1168)諸宗寺院帳。(1169)諸宗寺院帳。(1170)諸宗寺院帳。(1171)諸宗寺院帳。(1172)諸宗寺院帳。(1173)諸宗寺院帳。(1174)諸宗寺院帳。(1175)諸宗寺院帳。(1176)諸宗寺院帳。(1177)諸宗寺院帳。(1178)諸宗寺院帳。(1179)諸宗寺院帳。(1180)諸宗寺院帳。(1181)諸宗寺院帳。(1182)諸宗寺院帳。(1183)諸宗寺院帳。(1184)諸宗寺院帳。(1185)諸宗寺院帳。(1186)諸宗寺院帳。(1187)諸宗寺院帳。(1188)諸宗寺院帳。(1189)諸宗寺院帳。(1190)諸宗寺院帳。(1191)諸宗寺院帳。(1192)諸宗寺院帳。(1193)諸宗寺院帳。(1194)諸宗寺院帳。(1195)諸宗寺院帳。(1196)諸宗寺院帳。(1197)諸宗寺院帳。(1198)諸宗寺院帳。(1199)諸宗寺院帳。(1200)諸宗寺院帳。(1201)諸宗寺院帳。(1202)諸宗寺院帳。(1203)諸宗寺院

徳川幕府儒者考略川

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷三卷 ❸存 ❹寛政(享保八—天明三 A. D. 1723—1783)頃 ❺[illegible](東京大—[illegible])

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷川卷 ❸存 ❹宝暦(寛保元—文化一〇 A. D. 1741—1813)頃 ❺[illegible](谷大・[illegible]五〇)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. 入田川[illegible]學詩稿 ❷六卷 ❸存 ❹[illegible](寛延川—文化一四 A. D. 1749—1817)頃 ❺[illegible](谷大・[illegible]大・一六七七)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷川卷 ❸存 ❹[illegible]稿川八 ❺[illegible](寛延川—文政四 A. D. 1749—1821)頃

❻[illegible]は已[illegible]と[illegible]し、[illegible]の人であつて、年十八にして學業に入り、[illegible]の[illegible]に[illegible]し、天明七年[illegible]中[illegible]に住し、天保十三年の頃に[illegible]に[illegible]る。[illegible]年と[illegible]年とを大[illegible]の[illegible]である。文政四年の「入田川十七日[illegible]」を見るに、[illegible]に分たれ、本文中[illegible]川[illegible]の[illegible]の川分れたものである。即ち、[illegible]土の[illegible]を[illegible]として「入田川[illegible]」を[illegible]せられたものである。 ([illegible])

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷三卷 ❸存

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷川卷 ❸存 ❹[illegible](天保五—明治川六 A. D. 1808—1893)頃 ❺[illegible]([illegible]川[illegible]四・川川)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷川卷 ❸存 ❹[illegible](天保五—明治三〇 A. D. 1834—1897)頃 ❺明治川九(A. D. 1896)[illegible] ❻明治川九月 ❼明治川九月 ❽[illegible](谷大・[illegible]・一一七・四七・一一七・四九月川)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷川卷 ❸存 ❹河尻[illegible](一明治四四 A. D. 1911)頃 ❺明治四川(A. D. 1909)[illegible] ❻[illegible](谷大・[illegible]・川一五川)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-kō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹[illegible]([illegible]川一四五)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-sai-ko-roku. ❷川卷 ❸存 ❹[illegible](一安政元 A. D. 1858)頃 ❺〔參考〕 [illegible]大系刊行[illegible]定日[illegible]

入田川[illegible]學參考 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-san-kō. 入田川[illegible]學參考 ❷川卷 ❸存 ❹了[illegible]頃 ❺明和五(A. D. 1768)頃 ❻明和七月 ❼(谷大・[illegible]川[illegible]四・川〇)

入田川[illegible]學試稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-shi-ge. ❷一卷 ❸存 ❹[illegible]稿川[illegible] ❺〔參考〕 徳川[illegible]考略川 ❻享保一川[illegible]刊 ❼(谷大・[illegible]・八八)(谷大・[illegible]四・川六)

入田川[illegible]學詩 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-shi. ❷一卷 ❸存 ❹宝明(寛延一—文政四 A. D. 1749—1821)頃 ❺(谷大・[illegible]・川七七八)

入田川[illegible]學業修行談 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-shū-gi-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❹[illegible](寛政川—[illegible]川 A. D. 1790—)頃 ❺(谷大・[illegible]川[illegible]四・川六)

入田川[illegible]學十[illegible]考水[illegible] ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-jū-ju-tō-ketsu-gi. ❷一卷 ❸存 ❹[illegible](文化川—明治一四 A. D. 1805—1881)頃 ❼明治一一刊 ❽(谷大・[illegible]小・一四八)([illegible]大・一一川三四・川九)

入田川[illegible]學詩稿 ❶(日) Nyū-shu-tsu-ni-mon-ge-jō-kō. ❷川卷 ❸存 ❹[illegible](谷大・[illegible]川[illegible]四・川川)

入田川[illegible]學頌 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-ju. 川[illegible]學頌 ❷一卷 ❸存 大正八三・六五四 No. 2549 徳川[illegible]考略[illegible]文之[illegible] 徳川[illegible]考略川 ❹[illegible]一[illegible]川 A. D. 1173—1262)作 ❺[illegible](A. D. 1236)川月川十三日 ❻入田川[illegible]は[illegible]人十四歳(徳川八

[illegible]學は[illegible]の[illegible]に[illegible]ては[illegible]の[illegible]の[illegible]の

⑩宮本(編天)一一三四・四六)

入唐求法巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-chō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹慈覚(貞観三—延喜元 A. D. 1791—1847)撰 ❺宮本(編天)一一三四・四八)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-chō-ki. ❷存 ❹宗天(一寛永元 A. D. 1853)撰 ❺宮本(編天)(体裁)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-chō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹慈覚大師(文化三—明治一九 A. D. 1806—1886)撰 ❺宮本(編天)(体裁)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-chō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹長谷寛純(天保一一—大正八 A. D. 1841—1919)撰 ❺明治三〇刊 ❻(編天)一一三四・四五一四七)(体裁)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-chō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹宮本(編天)

入唐求法記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-tei-ni. ❷1卷 ❸存 ❹宮本(編天)

入唐求法巡礼記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-tō-shō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹ト山(一天保五 A. D. 1834—)撰 ❺天保五跋 ❻(谷天)(宗天・三五九一)

入唐求法巡礼記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-ni-tei-ki. ❷四卷 ❸存 ❹慈覚(貞観二—文化一四 A. D. 1749—1817)撰 ❺宮本(編天)一一三四・五〇)

入唐巡礼求法記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-haku-sui-ki. ❷1卷 ❸存 ❹圓載 ❺宮本(谷天)(宗天・七四七)

入唐巡礼求法記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-hik-ki. ❷四卷 ❸存 ❹圓仁(貞観四—安貞元 A. D. 1792—1859)撰 ❺宮本(編天)一一三四・五四)

入唐巡礼求法記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-hik-ki. ❷四卷 ❸存 ❹南條(天明三—明治六 A. D. 1783—1873)撰 ❺宮本(編天)一一三四・五四)

入唐風俗録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-fū-ban-roku. ❷二卷 ❸存 ❹前嶋(一天保元 A. D. 1830)撰 ❺宮本(編天)

入唐分類 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-bun-shaku. ❷1卷 ❸存 ❹圓載(一貞観四 A. D. 1661—1672—)撰 ❻(参考) 仏土篇宗教篇等篇二 ❼貞文四刊 ❽(谷天)(宗天・九六〇)(編天)一一三四・五五)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-hei-go-ki. ❷五卷 ❸存 ❹慈覚(安永四—寛永四 A. D. 1775—1851)撰 ❺宮本(谷天)(宗天・八九)

入唐録 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-hok-ki. ❷二卷 ❸存 ❹公猷(寛政八—文政四 A. D. 1758—1821)撰 ❺宮本(谷天)(宗天・七〇六)

入唐化貨録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-biun-ō-roku. ❷1卷 ❸存 ❹了空(一寛政一〇 A. D. 1760)撰 ❺寛政四跋 ❻(編天)一一三四・五一)(谷天)(宗天・三八〇六)

入唐巡礼求法記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-mō-tai-roku. 入唐巡礼求法記 ❷1卷 ❸存 ❹新潟(一文化三 A. D. 1806)撰 ❺弘和元跋(谷天)(宗天・七四六)宮本(編天)

入唐巡礼記 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-mon-ki. ❷三卷 ❸存 ❹新宮(一天保一一 A. D. 1840)撰 ❺宮本(編天)(体裁)

入唐巡礼注 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-yō-chū. ❷1卷 ❸存 ❹朝令(一—寛暦一一 A. D. 1866)撰 ❺弘化一一跋 ❻日蓮宗(谷天)(宗天・一三九七)

入唐略求 ❶(日) Nyū-shu=tsu-ni-mon-ge-ryaku-ge. ❷1卷 ❸存 ❹慈猷全事後三七 ❺慈猷(安永一一—文政七 A. D. 1773—1824)撰

❻慈猷法師は紀伊山に住び又東大寺の上足として文政七年寛元十二月遷化せり。「入唐巡礼求法記」は何れの書物か明了なりたらず。その解釈を以ちて、三門に分類せられ、「修学篇」「聞見篇」「求法篇」とせられ、解文句に分ちて「行」とせられ、「説」とせられたるものである。

❼天正三刊 ❽宮本(編天)(体裁)

(宗山高春)

入唐録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-ryū-shō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹慈覚(貞観三 A. D. 1753—)撰 ❺天保四跋 ❻(谷天)(宗天・一九四五)

入唐巡礼事記 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-ru-jō-ki. 入唐巡礼事記 ❷三卷 ❸存 ❹新潟(宝暦三—明和五 A. D. 1699—1768)撰 ❺宝暦一一(A. D. 1761)三刊 ❻(参考) 仏土篇宗教篇参考篇二 ❼宝暦一一刊 ❽(編天)一一三四・五八)(谷天)(宗天・八四一四七一一五)(谷天)一・一一六〇・一一一)(谷天)八四〇九〇)

入唐巡礼事記目録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-ru-jō-ki-ji-ge. ❷1卷 ❸存 ❹宮本(谷天)(宗天・二一一九九)

入唐録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-roku. ❷1卷 ❸存 ❹新潟(一文化一一 A. D. 1806)撰 ❺宮本(編天)一一三四・五九)

入唐録 ❶(日) Nyū-shutsu-ni-mon-ge-roku. ❷三卷 ❸存 ❹高橋(寛延三—文化一一三 A. D. 1750—1816)撰 ❺宮本(谷天)(宗天・二一一)

入諸部菩薩界所住境経 ❶(日) Nyū-sho-butsu-kyō-gai-shō-gon-gyō. (支) Ju-chu-fo-ching-chieh-chuang-yen-ching. 大乗入諸部菩薩界所住境経 ❷五巻 ❸存 ❹大正一一・一五三 No. 357 ❺編字三 ❻卍一六・一一 ❼明北1008之 ❽北1008之 ❾南1515号 ❿明南1070号 Nj. 1013 ⓫宋法賢(太平興国元—雍熙三 A. D. 963—1058)訳 ⓬大乗入諸部菩薩界所住境経の下を見よ。

名所行図会(名所図会)(京都)(清水寺の図)(清水寺の図)(清水寺の図

入眞言門住如實見講演法華略儀 ❶(日)Nyū-shin-gon-mon-jū-nyo-jitsu-ken-kō-en-hok-ke-ryaku-gi. 講演法華儀、法華略儀、入眞言門講演法華儀 ❷二卷或一卷 ❸存、大正五六・一八九No. 2192、大日本佛教全書第二四、第二七 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) ❺貞觀九(A. D. 867) ❻講演法華儀の下を見よ。 ❼寛文五刊(龍大、二六五二・一八二)寛政二刊(正大、一三六・六五、一四四・七)

入水往生傳 ❶(日) Nyū-sui-ō-jō-den. 亮月亮順亮信亮緣入水往生傳 ❷一卷 ❸存 ❹普空編 ❺慶應元刊 ❻(龍大、二九六五・二五二)(正大、一〇三六・二七、八〇) ❽三州味濃瑞國寺

入水灌頂 ❶(日)Nyū-sui-kwan-jō. 入水灌頂持明院流 ❷三帖 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❻(高大、寄・一・六八)

入水受授記 ❶(日)Nyū-sui-ju-ju-ki. ❷三卷 ❸存 ❹長谷寺編 ❺大正一三刊 ❽東京國譯密教刊行會

入總持經 ❶(日) Nyū-sō-ji-kyō. (支)Ju-tsung-chih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 武則錄第一一

入胎藏會 ❶(日)Nyū-tai-zō-e. (支)Ju-t'ai-tsang-hui. 佛爲難陀發出家入胎經 ❷二卷 ❸存、大寶積經第五六—五七(大正一一・三二六 No. 310, 14) ❹唐義淨(貞觀九發出家入胎經の下を見よ。

入大乘論 ❶(日)Nyū-dai-jō-ron. (支)Ju-ta-ch'eng-lun. ❷二卷 ❸存、大正三二・三六No. 1634、續藏一一、卍二二・四、北621盡、南633盡、元627盡、明北1237靜、清1237靜、麗625則、天621盡、增537則、法629則、至1343會、明南1369都、Nj. 1243 ❹堅意菩薩造、道泰等譯 ❺本論の翻譯年月は明瞭でない。北凉道泰譯であるから、北凉代、即ち A. D. 397—439の間の翻譯であることは云ふ迄も無い。併し開元錄及び貞元錄等には「東歸の於凉、遇ふ浮陀跋摩、共翻ふ毘婆沙論、奉後自譯ふ大丈夫論等二部」とありて、而も玆に二部とは大丈夫論と入大乘論とを指すから、入大乘論は毘婆沙論の譯出後の翻譯といふことになる。然るに毘婆沙論の譯出年月は、道挺の序に依れば「乙丑之歲(426)四月中旬於凉城內苑閑豫宮寺請曾傳譯理昧沙門智嵩道朗等三百餘人考文詳義……至丁卯(427)七月上旬都訖」とあるから、乙丑の歲即ち四二五年(若し嚴密にその完成年月を云へば丁卯の歲即ち四二七年)となり、從つて入大乘論の譯出は四二五年(或は四二七年)より四三九年に至るまでの間といふことになる。更に又高僧傳の浮陀跋摩の傳に依れば「承和五年歲次丁丑(四三七年)四月八日、即宋元嘉十四年於淳州城內閑豫宮中請跋摩譯焉、秦即筆受沙門慧嵩道朗與義學僧三百餘人考正文義再周方訖」とあるし、又開元錄、內典錄、三寶記等の記は大體これに一致するから、毘婆沙の翻譯は丁丑の歲、即ち四三七年となり(若しその正文完了の年を云へば乙卯の歲即ち四三九年となる)、從つて入大乘論の譯出は四三七年—四三九年(或は四三九年)となる譯である。道挺の序に依る說と、高僧傳及び開元錄等に依る說との二說の中、孰れが正しいか、遽かに斷定は出來ぬ。常識からすれば最古の文獻たる道挺の序に重きを置くべきである。然し、その序文を知つてゐた高僧傳の作者慧皎が何故殊更に序文と異つた年月を採用したかは明かでない。開元錄は高僧傳の說を用ひ乍ら一方に於て割註として序の說をも揭げ、兩者の相違の所以は未詳であると云つてゐる。

これを實際問題に關聯せしめて考ふると「共譯ふ毘婆沙論ふ奉後自譯大丈夫論等二部」の翻

その大中元年八月乘船して歸朝した。時に我が承和十四年九月である。在唐九ヶ年、目錄によれば請來せしものは經論五百八十五部、七百五十四卷と稱せられる。

右は本書に見ゆる圓仁の入唐旅行の概略であるが、その記載誠に精細を極めて居り、圓仁が親しく見聞せしところを記したものであるが故にその史料的價値は今更論ずるまでもなく、入唐僧の記錄の内、最的に最も大なるものであるばかりでなく質的にも最も重要性を有するものである。加之、彼の地に於ける行程の記載甚しく忠實なるものあつて、唐朝佛教の狀勢、殊に密教的儀式、佛教寺院の經濟狀態、佛教遺跡の有樣等を知るに好資料たるを免れぬ。特に武宗の會昌の法難の當時彼の地にあつてその慘狀を親しく見て記載してある故に、此の事件に關する支那側の記錄の不足を補ふて充分であり、偖り日本佛教史研究者の必讀すべきものなるのみならず、支那佛教史研究の好資料である。

❹明治四〇寫(正大、一〇四・二二四)

(野上俊靜)

入唐求法巡禮行記附解說

❶(日)Nit-tō-gu-hō-jun-rei-gyō-ki-tsuke-tari-kai-setsu. ❷四卷 ❸存 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A.D. 794—864)撰、同田正之解說 ❺大正一五刊 ❻(京大、一・二二二・二二六)(高大、一・二二)(立大、D二・二)

入唐求法總目錄

❶(日)Nit-tō-gu-hō-sō-mokū-roku. ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寛平三 A.D. 814—891) ❼(參考)本朝古組撰述密部書目

入唐願文

❶(日)Nit-tō-gwan-mon. ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寛平三 A.D. 814—891) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝古組撰述密部書目、山家組德撰述篇目集卷上、密乘撰述目錄

入唐五家傳

❶(日)Nit-tō-go-ke-den. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一三、續群書類從第八

❹入唐求法僧の巡運、宗叡、常曉、高岳親王(眞如)、圓行等五人の略傳並びに其の入唐の次第を記せるものである。

惠運は山城の人、延曆十七年に生れ、幼にして東大寺、藥師寺等に於いて法相を學び、更に實惠阿闍梨に師事して眞言秘密の法を學修した。後勤により筑紫觀世音寺に移住して、九國の僧統となつたが、承和九年密教研究の爲、來入の唐船に乘じて入唐した。五ヶ年の巡禮求道を了へて承和十四年六月歸朝したが入唐中の記錄は本書には殆んど見えてゐない。だが請來せし經典佛具等相當多量なるもので、惠運禪師請來教法目錄一卷がある。歸朝後の惠運は大いに唐朝風の密教を宣揚し、寺院の建立、尊像經論の圓寫等に力を用ひ當時の佛教界に活躍した。貞觀十一年七十二歲で寂す。

宗叡は山城の人、大同四年に生れ、十四歲にして出家し主として叡山にあつて天台の教義を修得し、後東寺に移住して密教の奧義を窮めた。朝廷よりの尊崇厚く、清和帝の東宮の時其の側近に侍し、貞觀四年には高岳親王に從ふて入唐した。先づ汴州の阿闍梨玄慶について金剛界法を習し、五台山天台山を歷訪して、青龍寺法全より胎藏を學び、慈恩寺、洛陽を訪れ、後、靈鷲長の遺跡を尋ねた。在唐約五年貞觀八年明州より歸朝した。其の後彼は東寺を根據として密教興隆に精進し朝廷の信任を一身に集めて名聲高きものがあつた。元慶八年七十六歲で寂す。彼に關する記載は元亨釋書卷三、扶桑略記卷二二、本朝高僧傳卷七東、寺長者補任卷一等に見えてゐる。

常曉は生年月日幼少の時についての記載がない。彼は承和五年入唐して楊州花林寺の元恒より太元帥法を受けて歸朝し、吾國に始めて此の法を傳へたものであり、宇治の法琳寺を開いて、眞言八家の一である。著書も數種あり請來目錄もある。なほ彼の傳の下にその法統を次ぐ法琳寺別當歷代の次第が附記されてゐる。

高岳親王は平城帝の御子、故あつて皇太子の位を退き佛門に歸せられ法名を眞如と申す。空海を始め其の他の高僧について學德を進められ、貞觀三年入唐の志を達すべく難波津より筑紫に向ひ翌年肥前を發して船出された。途中難船であつたが事なく明州に到着され、貞觀六年長安に到着されて半ケ年滯留の間高僧を歷訪されたが更に渡天を計畫されるに至つた。即ち貞觀八年正月少數の從者を具して廣州より渡天の航程につかれたが不幸中途羅越國に於て遷化された。羅越國が現在の如何なる土地に當るかは論議の中心となつてゐたが馬來半島に比定するのが定說となつてゐる。

圓行は山城の人、幼にして出家し、密教兩部の大法を高野に於て學び命に依つて承和五年入唐した。長安に入つて彼の地の佛徒と交はり、日本佛教の爲大いに氣を吐き同六年歸朝した。請來目錄がある。仁壽二年春秋五十四歲で寂す。末尾に付法の弟子に關しての附記がある。

右本書の内容であるが各傳の體裁整はず、精疎統一がない。されど五家ともに密教系の人であり、入唐求法の狀態、平安初期佛教の一面、ひいては唐朝佛教の一端を物語るものであり、且入唐交通を知るよすがとはなり得るものであらう。(野上俊靜)

入唐取經願文

❶(日)Nit-tō-shu-kyō-gwan-mon. 雲願寺雲關盆緣起、雲關盆法華一品經緣起 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一五 ❹榮西(永治元—建保三 A.D. 1141—1215)撰 ❺治承二(A.D. 1178)

❻本文は大日本史料第四編十三卷七〇七頁の次に「榮西筆、雲願寺雲關盆緣起、筑前太泉坊所藏」と肩書して親筆をコロタイプ版に印刷してあるものによつて載錄したもの。親筆原寸は「縱一尺一寸五分、横五尺」ある。題號の具名は「菱婆世界南閻浮提震山東北外海孤絕大日本國儀西太宰府筑前州島縣今津雲願寺雲關盆一品經緣起」。本書は先づ入法は互に相依り相待つて興隆佛法されるのだと求法傳教の志望を述べ、次に榮西禪師の自傳を記し、先きに戊子歲(仁安三年 A.D. 1168)に入宋し、歸國(同年九月)

以後宋朝から大藏經を請來せんと切りに心願した。此の頃比叡山の座主明雲、平親盛等の援助を得た。そして渡海のために丙申歲伸秋から戊戌歲伸秋(安元二年—治承二年 A.D. 1176—1178)まで滿二箇年誓願寺に留錫し、一切經渡海を待つ間、治承二年七月十五日篤信者を勸進して法華一品經を寫し、孟蘭盆菩提の日に開講演說し、七世の四恩並に法界の恩に報んと願つた。此の時の大檀那は大法師寛智(傳は未詳)と女檀那伸原氏女子と莊園内の官民の同心とを得て素懷を果し得ることとなつた。○中略。

「治承二年太歲戊戌七月庚申十五日丙子日曜宜謹錄。○中略。迴照金剛榮西。勸緣兼執行東海沙門□□□」と記してある。かくしてゐる間に天下は源平の爭亂となり、遂に文治元年には平家一門は壇浦で全滅。ために組盛の外護もなくなつた。しかし榮西は文治三年の夏、重ねて入宋。在宋五年。建久二年(A.D. 1191)歸朝。再入宋によつて宋の藏經を請來し得たか否か不明だけれど恐らくは入手することに失敗したらしい。然し鎌倉へ往つて壽福寺を開き宋版藏經の經藏を建ててゐる。この經藏所收藏は榮西將來本ではなからうか。榮西が誓願寺留錫中の記述は本書の外に「法華入眞言門決」往生講私記」とがある。「決」の奥書によれば「治承二年戊戌十月十五日、於佛西筑前州今津誓願寺僧房、無言念佛之次記之、金剛佛子榮西」とあり、「私記」の奥書には「壽永二年太歲癸卯季冬十四日、於誓願寺僧房、終日書之矣、且爲無上菩提、且依比丘尼阿□耳。榮西」と(大日本史料第四編十三ノ七〇九—七一五頁)。また「千光祖師年譜」には「安元元年乙未、師三十五歲、大法師寛智、及伸原氏女、於筑前州今津、創誓願寺、請師(榮西)居之、師記寺之緣由」(同上七三五頁)と以上四種の述作があつたやうである。本書に記される宋版藏經請來の願望は先きに東大寺奮然が將來したのに刺戟されたからであらう。榮西の後には泉涌寺俊芿が入宋して藏經を將來した。是のやうに吾國へ宋版高麗版藏經の輸入が屢々行れるやうになつたが、本書は先德が如何に不惜身命の苦心努力を積んで法寶を請來したかを知る最も善い史料である。

(田島德晉)

入唐諸家傳考

❶(日)Nit-tō-sho-ke-den-kō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一六 ❹高楠順次郎

入唐諸師傳

❶(日)Nit-tō-sho-shi-den. ❷一卷 ❸存 ❹心覺(永久五—治承四 A.D. 1117—1180) ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定目錄

入唐諸師祕密總錄

❶(日)Nit-tō-sho-shi-hi-mitsu-sō-roku. ❸存、興教大師全集之內 ❹覺禪(嘉保二—康治二 A.D. 1095—1143)

❺入唐八家の相承したる、諸經論等を灌頂部、金剛部、胎藏部等の十六門に分類したるものなれども、今は其の目錄のみ傳りて分類の內容を知ることを得ず。此の總錄は興教大師が求聞持法修行の誓願はれたる十六願中の第一願、第二願を果さん爲めの豫備目錄なれば、具なる目錄の存したるんには、興教大師の諸經論に對する見解を知ることを得べきものなるに、傳はらざるは實に遺憾千萬なり。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田斐純)

入唐請來進官錄

❶(日)Nit-tō-sei-rai-shin-kan-roku. ❷一卷 ❸存 ❹元祿七刊 ❹(龍大、二〇一三・三)

入唐新求聖教目錄

❶(日)Nit-tō-shin-gu-shō-kyō-moku-roku. ❷一卷 ❸存、大正五五・一〇七八 No 2157、大日本佛教全書第二 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A.D. 794—864)撰 ❺承和一四(A.D. 847)

❻圓仁慈覺大師の法寶目錄三部中の隨一である。圓仁は承和五年六月入唐、同十四年九月太宰府に歸着したのであつて、在唐前後拾年中、長安城に在つて求めし經論章疏、傳等四百二十三部、五百五十九卷、胎藏金剛兩部大曼荼羅、及び諸尊曼荼羅壇樣並に道具等二十一種。五臺山に在つて求めし天台の教迹、及び章疏、傳等三十四部三十七卷、及び五臺山の土石等三種。揚州に在つて求めし經論章疏、傳等百二十八部百九十八卷、胎藏金剛兩部大曼荼羅、及び諸尊壇樣、高僧像影、及び舍利等二十二種。以上將求の經論念誦法門及び章疏傳記等合して五百八十四部八百二卷、胎藏金剛兩界曼荼羅及び諸尊壇像、舍利並に高僧眞影等四十七種の總目錄である。

圓仁在唐十年中に圓密禪の三教の秘奧を窮めて歸國し、歸國の年直ちに本目錄を製して表進せしを以て、勅を降して其の勞を稿らい賞を賜ひ、頂德願官圓仁の新求の法に依つて灌頂を受け、仁壽帝亦た新たに傳へし密教を以て鎭護國家所念の法とせらる。

長安城興善寺、青龍寺及び其の他の諸寺にて求得せしは聖迦祇怒金剛童子菩薩成就儀軌經三卷不空三藏譯を始めとして、金剛五鈷小金剛杵一口に至る四百四十四點。五臺山大華嚴寺に於て求得せるは、文殊所說寶藏陀羅尼經一卷以下五臺山土石二十丸に至る三十七點。

揚州大都府に於て諸寺を巡り尋訪し抄寫せしは大吉祥天女十二契一百八名無垢大乘經一卷以下舍利五粒に至る百五十點であつて揚都求得の法寶目錄は別に日本國承和五年入唐求法目錄の名を以て行はる。(其の項參照)

本目錄中著しく多きを占むるは不空三藏の新譯密教聖典であつて、其の外に六妙門文句釋上宮疏、勝鬘經疏義私抄明空述釋上宮疏の如き我が聖德太子の疏を唐人によつて釋されたるものあり、又た六波羅蜜經、證道歌の如き禪籍數部存するありて叡山と禪との關係を示す一鑑を見得るのである。鎌倉時代寫本現に京都高山寺に藏せらる。

(林岱雲)

入唐撰歌

❶(日)Nit-tō-sen-ka. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

入唐勅宣

❶(日)Nit-tō-choku-sen. ❸存、傳教大師全集第五(新)附錄、全集別卷(叢) ❺延曆二二(A.D. 803)

⑮尺書喪治帳に出ず。叡山大師傳等に類似の文あり。

入唐天神記 ❶(日)Nit-tō-ten-jin-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本 京大・印哲・S.II・四一)

入塔眞言 ❶(日)Nyū-tō-shin-gon. ❷一軸 ❸卷 ❹鎌倉時代寫 ❹寶菩提院)

入堂作法論談 ❶(日)Nyū-dō-sahō-ron-dan. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大・宗大・三一三八)

入道次第 ❶(日)Nyū-dō-shi-dai. (支)Ju-tao-tzu-ti. 大乘入道次第、大乘入道章、大乘入道次第章、入道章 ❷一卷 ❸存、大正四五・四四九No. 1864、卍續二・三・二 ❹唐智周 儀鳳三—開元二一 A. D. 678—733) 述 ⑤大乘入道次第の下を見よ。

入道出世要法 ❶(日)Nyū-dō-shussei-yō-hō. (支)Ju-tao-chu-shih-yao-fa. ❷二卷或一卷 ❸信行述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

入道章 ❶(日)Nyū-dō-shō. (支)Ju-tao-chang. 大乘入道次第、大乘入道次第章、大乘入道章、入道次第 ❷一卷 ❸存、大正四五・四四九No. 1864、卍續二・三・二 ❹唐智周 儀鳳三—開元二一 A. D. 678—733) 述 ⑤大乘入道次第の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一、東域傳燈目錄卷下

入道場儀式 ❶(日)Nyū-dō-jō-gishiki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大・一〇八・七一)

入道親王尊快御灌頂記 ❶(日)Nyū-dō-shinnō-son-kwai-go-kwan-ji-ki. ❷一卷 ❸存、續群書類從第二六輯上 ❺承久元(A. D. 1219) ⑥承久二年庚辰二月十九日の尊快親王(元久元—寛元四 A. D. 1204—1246)の灌頂記。親王は後鳥羽院の皇子にて時に御年十七歳なり。後鳥羽、土御門兩院臨幸のもとに行はれし宮式會の次第を詳かに記してゐる。(不破幹雄)

入道禪門秘要 ❶(日)Nyū-dō-zen-mon-hi-yō. (支)Ju-tao-ch'an-mên-pi-yao. ❷一卷 ❹智儼述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三、華嚴宗綱論章疏目錄

入道大旨 ❶(日)Nyū-dō-dai-shi. (支)Ju-tao-ta-chih. ❷一卷 ❹智顗(大同四—開皇一七 A. D. 538—597) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

入道要訣 ❶(日)Nyū-dō-yō-ketsu. ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第一 ❹東嶺圓慈(享保六—寛政四 A. D. 1721—1792)

入道要訣快馬鞭 ❶(日)Nyū-dō-yō-ketsu-kwai-ma-ben. 快馬鞭、東嶺和尚假名法語 ❷三卷或一卷 ❸存、禪門法語全集第三 ❹東嶺圓慈(享保六—寛政四 A. D. 1721—1792)語 ⑤快馬鞭の下を見よ。 ❺明治二六刊 ❹京大、日大未・五〇二)

入道類聚 ❶(日)Nyū-dō-rui-ju. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大・研史)

入如來智德經 ❶(日)Nyū-nyo-rai-chi-toku-kyō. (支)Ju-ju-lai-chih-te-ching. 大方廣入如來智德不思議經、入如來智德不可思議經 ❷一卷 ❸存、大正一〇・九二四No. 304、續天一二、卍八・二、北56伏、南83伏、元63伏、明北39壺、清39壺、麗57臣、天25伏、指77臣、法25首、至158率、明南25邇、Nj. 93 ❹唐實叉難陀(永徽三—景雲元 A. D. 652—710) ⑥大方廣入如來智德不思議經の下を見よ。

入如來智德不可思議經 ❶(日)Nyū-nyo-rai-chi-toku-fu-kō-gi-kyō. (支)Ju-ju-lai-chih-te-pu-ko-i-ching. 大方廣入如來智德不思議經、入如來智德經 ❷一卷 ❸存、大正一〇・九二四No. 304、續天一二、卍八・二、北56伏、南83伏、元63伏、明北39壺、清39壺、麗57臣、天83伏、指77臣、法25首、至158率、明南25邇、Nj. 93 ❹唐實叉難陀(永徽三—景雲元 A. D. 652—710) ⑥大方廣入如來智德不思議經の下を見よ。

入如來智德不思議經 ❶(日)Nyū-nyo-rai-chi-fu-shi-gi-kyō. (支)Ju-ju-lai-chih-pu-sê-i-ching. ❷三卷 ❸缺 ❹字文則 開那耶舍譯 ⑥第二譯。 ❼(參考) 開元錄第二四、貞元錄第二四

入布薩堂說偈文等 ❶(日)Nyū-fusatsu-dō-setsu-ge-mon-tō. (支)Ju-pu-sa-t'ang-shuo-chieh-wên-têng. ❷一卷 ❸存、大正八五・一三〇一No. 2852 ⑥燉煌出土本。スタイン氏の蒐集に係り、大英博物館の所藏。本斷片は燉煌諸寺に於ける說戒布薩式に用ゐられた諸偈の集錄、入布薩堂說偈文、受水偈文、浴僧說偈文、受香湯說偈文、唱行香說偈文、受齋說偈文、讚齋偈文、清淨妙偈文、布薩竟說偈文の九偈を出して後都愈白。詳しくは鳴沙餘韻解說第一部二一八—二二一頁を參照せよ。 ❹燉煌出土古寫本(大英博物館S. 2586)(矢吹慶輝—成田昌信)

入峰功德抄 ❶(日)Nyū-bu-kū-dokusō. ❷一册 ❸存 ❹羽黑義圓述 ❺明治四〇刊 ❹京大、日大未・七四六)

入峰床堅大事 ❶(日)Nyū-bu-tokoro-gatame-dai-ji. ❷一卷 ❸存 ❺天正二寫

入佛作法 ❶(日)Nyū-butsu-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶菩提院)

入佛問答 ❶(日)Nyū-butsu-mondō. ❷一卷 ❸存 ❹問橋 ❺民國三刊 ❹(龍大・研眞)

入菩薩行 ❶(日)Nyū-bo-satsu-gyō. ❷一卷 ❸存 ❹シャンテーデヴ著、河口慧海譯 ❺大正一〇刊 ❹東京博文館

入法界經 ❶(日)Nyū-hok-kai-kyō. (支)Ju-fa-chieh-ching. 入法性界經、入法界體性經 ❷一卷 ❸存、大正一一・二三四No. 355、續地一二、卍六・五、北241傷、南249傷、元253傷、明北47衾、清47衾、麗242毀、天254傷、指234毀、法240毀、至318改、明南242男、Nj. 51 ❹陰開那耶舍譯 ⑥開皇一五(A. D. 595) ⑥八法界體性經の下を見よ。

入法界觀 ❶(日)Nyū-hok-kai-kwan. ❸存、興教大師全集之內、密嚴諸祖釋第一〇 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095

—1143)

⑥自身も地水火風空識の六大を體性とし、一切衆生も六大多體性とし、また法界も六大を體性とする故に、此の三は無二平等なれば、本尊も行者も法界も衆生も塵數も一味平等なりと觀じ、自身を廣ふすれば法界に周遍し、法界も飲むれば自身の中に入ると觀想する觀門なり。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田敬純)

入法界體性經 ❶(日)Nyū-hok-kai-tai-shō-kyō. (支)Ju-fa-chieh-ti-hsing-ching. (梵藏)寶積三昧文殊師利菩薩問法身經參照、入法界經、入法界性經、法界體性經 ❷一卷 ❸存、大正一一・二三四No. 355、續地一二、卍六・五、北241傷、南249傷、元253傷、明北47衾、清47衾、麗242毀、天254傷、指234毀、法240毀、至318改、明南242男、Nj. 51 ❹闍那崛多譯 ⑥隋開皇一五(A. D. 595)

⑥本經に安世高譯の寶積三昧文殊師利菩薩問法身經、並に同西藏譯の二異本あり、安世高譯は譯文簡なるも別に本經に比して缺くるところはない。(大旨)佛、寶積三昧に入れるを緣として、文殊、一切諸法が法界(高譯、法身)より離れざる道理を快說し、舍利弗之を領解して本經流布の證囑を受くとなすにある。(文段解說)。(一)。(1)佛、寶積三昧に入れる時、文殊來問す。(2)佛、文殊の問に依り寶積三昧の義趣を說く。淨摩尼に一切影像の影現する如く、この三昧中に一切法界影現す。一法として法に非ざるなく、これを行ずれば辯才不斷を得、故に又、實際印と名づく(實際印に關する項、高譯に缺く)。(二)。(1)文殊、佛の問により て、實際(高譯本際)・行・修道の義を說く。實際とは凡夫際のことゝす。(2)文殊、佛問により、初行の男子女人の爲に說法する法を明す。佛法、凡夫法の何れにも著せず、又諸法を舉げず捨てずして說くと。(三)。文殊の問に依り、佛、我れ諸法を壞せずして菩提を成ずとて、佛即ち法界(高譯、法身)なることを明し、諸法本來名字なく別相なく、無去無來不可見なり、これを法界なりと說く。文殊、之を領解して、六道本來別なく參見の想に過ぎず等と說く。(四)。文殊、佛の設問に依りて法界の實義を廣說す。(1)法界は世間を離れず、世間はこれ幻化、不生不滅の無相法なれば一法として法界を離るゝなし。(2)諸佛の滅度、衆生の更生、樂聽、聽者恐怖の問題を例として、前說を成立し、一切諸法これ金剛句といふ。(3)諸法金剛の句義を詳說す。諸法無恐怖・法性不壞・諸法不可思議・諸法無思・諸法是菩提・一切法無所有・諸法是如來境界・諸法自性本來寂滅(高譯、諸法無所依)の八句あり。(4)佛、阿難を呼んでこの法を受持せしめよと宣ふに、文殊、一法として說くべきなし、何ぞ多句ありて受持すべけんと白し、佛これを善しとしたまふ。(五)。(1)時に舍利弗門外に來る。佛、彼を內に呼び入れて聽法せしめよと宣ふに、文殊、舍利弗はこれ法界、法界に何ぞ內あり外あり入あり出あらんや、舍利弗、何處よりか當に內に入るべきと答ふ。(2)佛命によりて舍利弗內に入り、文殊の問によりて、この法は凡夫阿羅漢の發起する所にあらず、唯如來法のみ發起する所、器に非れば聽知聽見の勝法なりと歎ず。(3)文殊、阿羅漢これ法器に非ざるを明す。(六)。文殊、舍利弗に聽法知足に就て問ひ、次でその所信を問ふこと十句。舍利弗即ち領解を述ぶ。(1)諸法本性成就故、我無涅槃。(2)法界不死不生。(3)無智智平等故、具足徧盡阿羅漢。(4)諸法離諸法、然不取諸法。(5)諸佛、不思議界無生無滅者。(6)法界不可分別。(7)諸佛刹依如、無盡刹亦無盡。(8)自體不自知自體、本性不捨本性。(9)諸法性不可得。(10)默行般若法界、是阿羅漢界、然法界體離非狀而體、其阿羅漢豈能離法界也。(11)世尊本性是自性應。(七)。佛、本經受持者の功德を歎じ、其の受持流布を勸む。

❼(參考) 三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (美濃見順)

入法界體性經 ❶(日)Nyū-hok-kai-tai-shō-kyō. (支)Ju-fa-chieh-ti-hsing-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 武則錄第一二

入法界品四十二字觀 ❶(日)Nyū-hok-kai-hon-shi-jū-ni-ji-kwan. (支)Ju-fa-chieh-p'in-sê-shih-êrh-tz'ŭ kuan. 大方廣佛華嚴經入法界品四十二字觀門、華嚴經入法界品四十二字觀門、華嚴入法界四十二字觀門 ❷一卷 ❸存、大正一九・七〇七No. 1019、續閏八、卍二七・二、北1396武、南1400衡、元1388衡、明北1444諫、清1444諫、麗1355宅、天1377衡、法1089相、至153首、明南1170寬、Nj. 1450. ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

⑥大方廣佛華嚴經入法界品四十二字觀門の下を見よ。

入法界品十八問答 ❶(日)Nyū-hok-kai-hon-jū-hachi-mon-dō. (支)Ju-fa-chieh-p'in-shih-pa-wên-ta. ❷一卷 ❸存 ❹唐澄觀(開元二五—開成三 A. D. 737—835)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二 ❹寫本(龍大・二六三四・八×京大・藏・一〇ケ・一九)

入法界品頓證法身字輪瑜伽儀軌 ❶(日)Nyū-hok-kai-hon-ton-shō-hos-shin-ji-rin-yu-ga-gi-ki. (支)Ju-fa-chieh-p'in-tun-chêng-fa-shên-tzŭ-lun-yu ch'ieh-i-kuei. 大方廣佛華嚴經入法界品頓證毘盧遮那字輪瑜伽儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・七〇九No. 1020、續閏八、卍二七・二、北1395武、南1400衡、元1388衡、明北1444諫、清1444諫、麗1355宅、天1377衡、法1089相、明南1170寬 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

⑥大方廣佛華嚴經入法界品頓證毘盧遮那字輪瑜伽儀軌の下を見よ。

入法界品禮讚 ❶(日)Nyū-hok-kai-hon-rai-san. (支)Ju-fa-chieh-p'in-li-tsan. ❷一卷 ❹善聽述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

入曼荼羅受三昧耶菩薩戒行儀

入間郡（ニュウかぐん）**入間郡**（ニュウまぐん）**入間郡**（ニュウまぐん）**入間郡**（ニュウま

註の字を以て。

入楞伽経百八義海心鈔 ❶(日) Nyū-ryō-ga-kyō-hyaku-hachi-gi-tsū-shin-ji-ketsu. (支)Ju-lêng-ch'ieh-ching-pai-pa-i-t'ung-hsin-ti-chūeh. ❷〔参考〕 東京帝国大学蔵目録巻上

入楞伽経文 ❶(日)Nyū-ryō-ga-kwa-mon. (支)Ju-lêng-ch'ieh-k'o-wên. ❷1巻 ❸楞伽経密意 (一本宋安A. D. 528) ❹〔参考〕 東京帝国大学蔵目録巻上

入楞伽経玄義抄録 ❶(日)Nyū-ryō-ga-gen-gi-kō-gi. ❷1巻 ❸存 ❹新撰本朝法華験記 (一説孝安 A. D. 1653—1744) ❺〔参考〕 諸宗目録

入楞伽宗義論 ❶(日)Nyū-ryō-ga-shū-yō-ron. (支)Ju-lêng-ch'ieh-tsung-yao-lun. ❷1巻 ❸吉蔵撰 (隋末王三丸A. D. 617—) 逸 ❹〔参考〕 東京帝国大学蔵目録巻上

入楞伽義疏 ❶(日)Nyū-ryō-ga-shū-gi-sho. ❷五巻 ❸東京帝国大学蔵目録巻上に題註して云く「宋義天」。

入楞伽心玄義 ❶(日) Nyū-ryō-ga-shin-gen-gi. (支) Ju-lêng-ch'ieh-hsin-hsüan-i. ❷1巻 ❸存〻 大正三九•四二五 No. 1790〻 卍続1•二五•三 ❹法宝義林 (貞元三年•七八七 A. D. 643—712)逸

❺入楞伽経玄義を解すること十門分別〻 即ち1〻 教起所由。 二〻 経宗所被。 三〻 題教所被。 四〻 教所被機。 五〻 教起次第。 六〻 所依法体。 七〻 教相。 八〻 依経。 九〻 顕教。 十〻 密教の十門因縁に由りて論じて経の教を顕さしむ。 之れを以て教起所被機には二〻 初成三種。 二〻 初二種。 三〻 初十二種の三種を合して一〻 初成三種。 次三種教所被には二〻 初十二種。 三〻 初二種。 次三種教所被には二〻 真如法。 二〻 法如法。 四〻 真如法の四法に分つて所詮〻 この四法を大綱として総摂し 次に開合して分ち〻 この四の教所被機中では初めに顕教〻 後に密教に分ち〻 五性機根に分別〻 法器を開ひて 次に開合して分ち〻 次五の相応教機には二〻 名句相応門。 二〻 言説応法門。 三〻 義名句合応門。 四〻 義名体相門。 五〻 相摂所応門。 六〻 唯識法門。 七〻 義起所応門。 八〻 分義建立門。 九〻 性相摂属門。 十〻 四種相対門に依つて 次に相応機中では二〻 顕教機門。 三〻 密教機門。 次に顕教機中では二〻 実教門。 二〻 権教門。 次に実教門中では二〻 実教1。 五〻 実教二諦。 六〻 三乗分別。 七〻 実教四門。 法界。 八〻 実教五門。 相教。 九〻 立教摂属。 十〻 顕密相対の十分別に分つ。 次に密教機中では二〻 顕密相対門。 三〻 顕二門。 四〻 顕教。 五〻 密法。 六〻 密行。 七〻 密法。 八〻 四種。 九〻 分別。 十〻 密教分別門。 次に密教の十門中では 次に密教の十門中では 次に密教の十門中では

應じ、三心念佛の義趣を書き記して上覽に備へた。女院は宗祖大師の勸化にも御歸依になり强信の方であつた、栖谷の御文を上覽になり非常に御歡びになつたことは文中に窺はる。『故上人(法然)御房の御をしへをば疑ふ心も、又あらたむる心も候まじと、なを〳〵悅びて候ぬ。』又云、かへす〳〵も悅びて承り候ひぬ、ふたゝび故上人の御房に逢まゐらせ候やうにこそ覺え候へ、いづれの世にも忘れまじくうれしく候。』と云々。内容には、北白河女院の御尋によりて、答へたまへる條々と題し、現生護念の利益、三心の義趣等、已證の法義を親切に示されてゐる、一流の信仰書とすべきである。

❺文政三刊 ❾(龍大、研眞)(谷大、宗大・一九四八、二八〇三) ⑫紀州總持寺 (石黑觀道)

女院御抄 ❶(日)Nyo-in-go-sho. 女院御書 ❷一卷 ❸存、假名聖教八八部之内 ❹證空(治承元—寶治元 A. D. 1177—1247) ⑥女院御書と同一の寫本にて文に多少の出入あるのみ。 ❾寛文一一寫 (龍大、二六八五・二七)惠空寫傳本(龍大、研眞)

女人厭欣鈔 ❶(日)Nyo-nin-en-gun-sho. ❷一卷 ❸存 ❹天聖 ❺文化元刊 ❾(正大、一五五八・七三)

女人往生記 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-ki. ❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄

女人往生聞書 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存、眞宗法要第一〇、眞宗假名聖教第三、八、假名聖教八八部、眞宗聖典全書和文之部、眞宗聖教大全上卷 ❹存覺(正應三—應安六 A. D. 1290—1373) ❻元亨四(A. D. 1324)

❻本書は聖性坊了源の請に依つて女人往生(成佛)の義を述べたるもの。著者は阿彌陀如來の第十八願に十方衆生の救濟が誓はれ、重ねて第三十五願に女人の往生が誓はれてゐる願意を明にせんとて、先づ女人の五障三從や諸寺諸山に女人を禁制する事實を擧げ、次に斯く一般に嫌はれる女人であるから、かうして特別に女人往生の願を起されたのだといひ、更に菩提の觀念法門や親鸞の和讃や、法然の婦人教化を引證し、「おほよそ大經の四十八願にはまづ女人往生の願をたてゝ別してこれをすくひ、つぎに觀經には韋提希夫人を正機としてこれがために念佛往生のみちをとき、をはりに阿彌陀經には舍利子善女人とつらねて念佛の機男女にわたることをあらはせり」云々と結んでゐる。

❼(注釋) 琢成の「女人往生聞書壬辰記」等 (參考) 存覺の淨典目錄、鎌古錄、淨土眞宗教典志第一、淨土眞宗聖教目錄等 ❾寛文九刊(谷大)(龍大、研眞)文化八刊(谷大、宗小・八二)(智、と・七・中・八)文政八寫(谷大、宗丙・一〇九) 古寫(龍大、別置) 惠空寫傳本(龍大、研眞) (安井廣度)

女人往生聞書記 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki-no-ki. ❷一卷 ❸存 ❹宣成(安永六—文久元 A. D. 1777—1861)述 ❺文政一三(A. D. 1830)講 ❾寫本(谷大、宗大・一八五五)

女人往生聞書鼓吹 ❶(日) Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki-kosui. 勸化因緣女人往生聞書鼓吹 ❷五卷 ❸存 ❹南溟 ❺享保一六刊 ❾(龍大、一二四二・三)(高大、寄・一・二四)

女人往生聞書講話 ❶(日) Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki-kō-wa. ❷一卷 ❸存、眞宗通信講義之内 ❹大須賀秀道著 ❾(龍大、一二四一・一)(谷大、宗大・三三九)

女人往生聞書壬辰記 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki-jin-shin-ki. ❷一卷 ❸存、眞宗大系第二八之内 ❹琢成 ❺天保三(A. D. 1832)七月講

❸存覺の女人往生聞書の講義で、來意、大意、類聚、本文の四段に分ち懇切に講ぜられてゐる、同書講義の代表的なもの。 (安井廣度)

女人往生聞書略述 ❶(日) Nyo-nin-ō-jō-kiki-gaki-ryaku-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三 A. D. 1842—1914)述 ❺明治四一刊 ❾(龍大、一二四一・二)(谷大、宗小・一八〇)

女人往生集 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-shū. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、別置)

女人往生章 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-shō. 本願念佛利益章 ❷一卷 ❸存 ❹洞空 ❺延享元刊 ❾(谷大、宗大・一四〇四)

女人往生鈔 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-shō. 所藏鈔典、所藏鈔後記 ❷一卷 ❸存、日蓮聖人全集第七、高祖遺文錄第二二、縮刷御遺文四七 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❻法華第七卷勸發品の後五百歲の文によつて、末法の女人は法華經に依つてのみ往生成佛すべきを說く。先づ大小、權實、顯密を判じて法華經の眞實なるを說き。次に藥王品の三處、勸發品の二處の後五百歲の文を擧げて法華經によつて後五百歲の女人の往生を說き。次に釋尊の無虛妄を示してこの經の往生の信ずべきを論し。最後に二問答を設けて法華經が末法最愚の女人を機とする所以と、觀經等によつては往生の叶ふべからざるとを論ず。この書に說くところは本門同居の淨土にして彌陀の淨土は眞實ならざるを示すにあり。然れども未だ卽身成佛を骨張せずして往生といふは、宗義上猶淺の說なりとするのである。

所藏鈔典等の別名あるは、御書編輯上所藏鈔典書とせられたることあるによる。

❼(參考) 御書鈔一七(六六)、錄內扶老一〇(五八)、錄內拾遺四(四二) (望月歸厚)

女人往生手鏡 ❶(日)Nyo-nin-ō-jō-te-kag-mi. ❷一卷 ❸存 ❹藤岡了空 ❺明治三三(A. D. 1900)

❻蓮如上人御文一ノ一〇及び三ノ一を講じて著者が實母に捧げしもの。

❺明治三四刊 ❾京都法藏館 (機部文鏡)

女人往生傳 ❶(日) Nyo-nin-ō-jō-den. ❷二卷 ❸存 ❹向西 ❺貞享二(A. D. 1685)三月 ❾刊本(谷大、宗大・二三六八)(龍大、二九六五・二五三)(京大、一・二二一 a・七)

女人教誡 ❶(日)Nyo-nin-kyō-kai. ❷一卷 ❸存 ❹雲解 ❾寫本(龍大)

女人教化集 ❶(日)Nyo-nin-kyō-ka-shū. ❷二卷 ❸存、眞宗法典帖外聖教之内、眞宗聖教大全附錄之内 ❹傳、蓮如(應永二二—明應八 A. D. 1415—1499)

❻本書の前半には存覺の女人往生聞書を材料として、更に通俗的に女人往生の旨を述べ、後半には父母孝養その他の心得を說く。卷尾に明應七年八月中旬信證院御判とあるも果して蓮如上人の作なるや否や定めがたし。但し、他の帖外聖教に往々見るやうな宗義上の難はなく善い啓蒙書であるから上人の撰に加へても宜しからう。

❺享保二刊 ❾(谷大、宗大・一八八)(龍大、一一三・五三、研眞) (安井廣度)

女人教化鈔 ❶(日)Nyo-nin-kyō-ka-shō. ❷一卷 ❸存、假名聖教八八部(惠空筆寫)之内

❻本書は蓮如上人の作と傳ふ女人教化集を摡りに改作したもので、しかも改作の部分が甚だ不文卑俗である。別項の女人最要集と相通ずる所があるから、その邊の著の妄作であらう。

❾享保一三寫(谷大、宗大・三〇六七)古寫本(谷大、宗大・二一〇七)惠空寫傳本(龍大、研眞) (安井廣度)

女人最要集 ❶(日)Nyo-nin-sai-yō-shū. 女人最要鈔 ❷一卷 ❸存、異義集第一六、眞宗假名法典卷中、眞宗聖教大全附錄、眞宗小部聖教卷下、四部國字抄之内

❻本書は阿彌陀如來の第三十五願并に親鸞の和讃により女人往生の道を說いたもので、後半には信後の心得をも示してゐる。蓮如上人の筆格に似るが餘りに通俗卑近であるから上人の作とはなし難く、大方上人以後の宗門人の作であらう。

❾天保一四刊(龍大、研眞)明和九刊(龍大、研眞)明治三四刊(龍大、一〇三・一五) (安井廣度)

女人最要鈔 ❶(日)Nyo-nin-sai-yō-shō. 女人最要集 ❷一卷 ❸存、異義集第一六、眞宗小部聖教卷下、眞宗假名法典卷中、眞宗聖教大全附錄、四部國字抄之内 ❾寫本(谷大、宗大・三〇二三) (安井廣度)

女人取捨聞書 ❶(日)Nyo-nin-shu-shā-kiki-gaki. ❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄

女人衆への御書 ❶(日)Nyo-nin-shū-e-no-go-sho. ❷九篇 ❸存、日蓮聖人全集第七 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1282)

自解佛乘書(寂日房御書)(與日家書)
弘安二著(三二九) 縮刷御遺文(八五)、
內房女房御返事(中臣某女書)
弘安三著(三二六) 同 一九四一、
形部左衞門尉女房御返事(忠孝書)
弘安三著(三二七) 同 一九八四、
日眼尼御前御返事
弘安三著(三二八) 同 三〇二一、
玉日殿御返事
弘安三著(三二〇) 同 三〇四一、
法衣書
弘安三著(三二八) 同 三〇四六、
是日尼御書 同撥集 八二、
十字御書 同 一三〇、

女人最愛鈔 ❶(日)Nyo-nin-sai-yō-shō. 女人最要鈔 ❷一卷 ❸存、異義集第一六、眞宗假名法典卷中、眞宗聖教大全附錄、眞宗小部聖教卷下、四部國字抄之内

❻本書は阿彌陀如來の第三十五願并に親鸞の和讃により女人往生の道を說いたもので、後半には信後の心得をも示してゐる。

衣食御書 同 (望月歸厚) 一五六、

女人出家の因緣 ❶(日)Nyo-nin-shuk-ke-no-in-en. ❷一卷 ❸存、慈雲燈著全集第一六 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804)說、皓月尼(寶曆六—天保四 A. D. 1756—1833)記

❻この書は摩訶パジャパダイヤ五百の女人が釋尊の出家生活を拜して、王宮の生活をいとひ、祇園精舍の附近に到りて住せしより女人出家の因緣が成立せしことを假字交り文章にて記してゐる。

❾皓月尼自筆本(京都長福寺) (高見寬應)

女人成佛 ❶(日)Nyo-nin-jō-butsu. ❷一卷 ❸存 ❹稻村修道著 ❺昭和四刊 ❾(龍大)

女人成佛鈔 ❶(日)Nyo-nin-jō-butsu-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮聖人全集第七、高祖遺文錄九一三、縮刷遺文五二九 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永二 (A. D. 1265) 或は建長六 (A. D. 1254)

❻法華經提婆品を證據として惡人、女人の成佛を說き、以て信者の亡靈を弔へる書である。前段には提婆品の惡人提婆の成佛によつて末代愚惡の成佛はこの經に限るを示し、後段には提婆品の龍女成佛によつて末代愚痴の女人の成佛は他經に無きを論ぜり。特に女人成佛に重きを置くよりすれば、亡靈は信女なるべし。

❼錄外考文八(三八)、錄外微考下(四二) (望月歸厚)

女人念佛聞書 ❶(日)Nyo-nin-nen-butsu-kiki-gaki. ❹存覺(正應三—應安六 A. D. 1290—1373)

❻眞宗假名聖教目錄に曰く「此鈔は、存覺上人具に經釋の明文をぬきかきて、別に女人念佛の事ばかりを示し玉ふ。たゞ菩提これを修受すと記して、制述の年時もさだからず。まことに女人念佛の司南この抄に闕れたり」云々と。

女人欲熾荒迷經 ❶(日)Nyo-nin-yoku-shi-kō-mei-kyō. (支) Nü-jên-yü-chih-huang-mi-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

女人欲熾盛荒迷經 ❶(日) Nyo-nin-yoku-shi-jō-kō-mei-kyō. (支)Nü-jên-yü-chih-sheng-huang-mi-ching. ❷一卷 ❻出曜經第三卷の抄出。❼(參考) 法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

女利行經 ❶(日)Nyo-ri-gyō-kyō. (支)Nü-li-hsing-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二、武周錄第一一、開元錄第二、第一五、貞元錄第三、第二五

如愛敬護摩次第 ❶(日) Nyo-ai-kyō-go-ma-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

如愛後夜念誦 ❶(日)Nyo-ai-go-ya-nen-ju. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

如愛染 ❶(日)Nyo-ai-zen. ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

如意輪菩薩 ❶(日)Nyo-i-rin-bo-satsu. ❷1巻 ❸不 ❹藤川時代写 ❺(家看記)

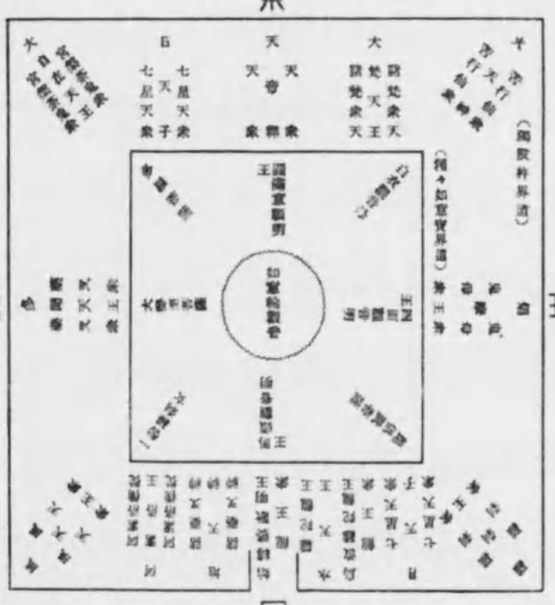
如意輪菩薩祭 ❶(日)Nyo-i-rin-bo-satsu-sai. ❷1巻 ❸不 ❹藤川時代写 ❺(家看記)

如意輪菩薩祭儀 ❶(日)Nyo-i-rin-bo-satsu-sai-gi

如意輪陀羅尼経 ❶(日)Nyo-i-rin-da-ra-ni-kyō. (梵)Ju-i-lun-t'o-lo-ni-ching. (蔵)ḥphags-pa spyan-ras-gzigs-dbaṅ-phyug-gi gsaṅ-baḥi mdsod thogs-pa med-paḥi yid-bshin gyi ḥkhor-loḥi sñiṅ-po shes-bya-baḥi gzuṅs. ❷1巻 ❸作 ❹大正二〇・一八八 No. 1080 編者未詳 卍一〇・一〇 号299経 帙311経 函307経 国字320経 帙320経 函299経 天307経 新232経 帙293経 新550経 国字302経 Nj. 324 ❺未詳 ❻未詳 ❼(A. D. 709) ❽この経は仏説如意輪陀羅尼経 如来説如意輪陀羅尼経 如来説如意輪陀羅尼経 如来

ふと遂べ、誦んで以に此の陀羅尼を成就するには、一切處に於て、食不食若しくは淨不淨を論ずることなく、一心に聖觀自在の相好を觀想し、不妄念に住して斯の陀羅尼を誦じすべきであつて、かくして間斷なければ、聖觀自在菩薩は、金色の身を現して、諸の塡障を除き、加被護念して諸願を滿足せしめ玉ふ旨を明し、次に國王・王子・公主・宰官・婆羅門・刹利乃至比丘・男・女・童男・童女・外道等に應じて、此の陀羅尼を誦持する福數に差異があること、及び加護を願する事に依り、各々其の作法に差別あることが說かれてある。第四の法印品には、大蓮華三昧耶印明・解脫印明・治土明・擁護身印明・漱口印明・浴三寶印明・洗浴印明・自灌頂印明・著衣印明・禁頂印明・護身印明・大護身明・十方界明・結壇界印・治路明・請召印明・迎印明・香水印明・華座印明・請坐印・除障印明・供養印明・求生印明・根本印・大心印・淨治珠明・寶珠印明・解界印明・五淨明の二十四印・二十六呪が示されてある。第五の壇法品には、如意輪陀羅尼大曼荼羅が說かれてゐる。今それに基いて圖示すると、下圖の通りである。

この中、如意輪菩觀自在菩薩の像容は、西に面つて結跏趺坐し、慈眼熙怡して身を金色の相に作し、首に化佛あり、寶冠を戴き、左手に開蓮華を執り、其の蕚上には如意寶珠を置き右手は說法の相に作すことに成つて居る。又若し力建ばざる者は、俱座位を畫き、其の上に尊名を書くも、亦成就を得と言つてある。第六の佩藥品に於ては如意輪陀羅尼に佩藥と含藥と服藥との三種藥ある中、第一の佩藥は、牛黃・白栴檀香・鬱金香・龍腦香・麝香・丁香・白豆蔻・紅蓮華・青蓮華・肉豆蔻・素秋羅・鉢曲羅/金薄・石蜜を等分に和合して丸と爲したもので、之を器中に盛り、壇內の聖觀自在菩薩の前に置いて、根本明・大心明・小心明を誦じて加持すれば、その藥より煙相と烟相と光相との四相が現れるに應じて、夫々衣服を薰じ、次に頂上・臉上・眉間上に點ずる時は、次での如く、一切の民衆に愛敬され尊崇され、若し煙相即ち成就の一相が現はれた時、その煙を衣服に薰じ、且つ其


東
西
北
南
如意輪觀自在
金剛手菩薩
金剛拳菩薩
金剛寶菩薩
金剛法菩薩
金剛因菩薩
金剛業菩薩
金剛薩埵菩薩
金剛王菩薩
金剛愛菩薩
金剛喜菩薩
金剛光菩薩
金剛幢菩薩
金剛笑菩薩
金剛語菩薩
金剛利菩薩
金剛牙菩薩
金剛拳菩薩
金剛寶菩薩
金剛法菩薩
金剛因菩薩
金剛業菩薩
金剛薩埵菩薩
金剛王菩薩
金剛愛菩薩
金剛喜菩薩
金剛光菩薩
金剛幢菩薩
金剛笑菩薩
金剛語菩薩
金剛利菩薩
金剛牙菩薩
(閻魔羅王)
(閻魔天王)
(閻魔天王)
(閻魔天

ch'ieh-nien-sung-fa. 聞日光菩薩如意寶像陀羅尼經、聞日光菩薩如意寶像陀羅尼念誦法、如意寶像經 ❹1卷 ❺存、大正二〇•一二〇No. 1086、編目一〇、卍二六•一〇、昭定1395社、法1395社、聞1405帝、法1140聞、天852聞、昭定1205帝、Nj. 1402 ❻宋天息災(唐末—宋初A. D. 705—774)譯 ❼聞日光菩薩如意寶像陀羅尼經の下文に見える。

如意輪陀羅尼法經 ❶(日)Nyo-i-rin-yu-ga-hō-yō. (梵)Ju-i-lun-yū-ch'ieh-fa-yao. 聞日光菩薩如意寶像陀羅尼法經、聞日光菩薩如意寶像陀羅尼法經 ❹1卷 ❺存、大正二〇•一一一No. 1087、編目一三、卍二一•八、昭定468寺、聞482寺、天476寺、昭定534寺、法534寺、聞479寺、天474寺、昭439寺、法456寺、天655天、昭定474寺、Nj. 538 ❻金剛智(唐末—開元A.D. 671—741)譯 ❼宋版一八(A.D. 730) ❽聞日光菩薩如意寶像陀羅尼法經の下文に見える。 ❾唐代目録 ❿(資料提供)

如意輪陀羅尼心觀門儀 ❶(日)Nyo-i-rin-ren-ge-shin-kwam-mon-gi. (梵)Ju-i-lun-lien-hua-hsin-kuan-mên-i. 如意輪陀羅尼心觀門儀、如意輪陀羅尼心觀門儀 ❹1卷 ❺存、❻大正二〇•一一一〇 No. 1090、編目一三、卍二一七•一一、昭定1430聞、法1430聞、天870聞、昭定1198帝、Nj. 1437 ❼唐代密教目録

如意輪陀羅尼心印法華行觀門儀 ❶(日) Nyo-i-rin-ren-ge-shin-nyo-rai-shu-gyō-kwam-mon-gi. (梵)Ju-i-lun-lien-hua-hsin-ju-lai-hsiu-hsing-kuan-mên-i. 如意輪陀羅尼心印法華行觀門儀、如意輪陀羅尼心印法華行觀門儀 ❹1卷 ❺存、大正二〇•一一一〇No. 1090、編目一三、卍二一七•一一、昭定1430聞、法1430聞、天870聞、昭定1198帝、Nj. 1437 ❼唐代密教目録

如幻三昧經 ❶(日)Nyo-gen-sam-ma-ji-mu-ryō-in-hō-mon-gyō. (梵)Ju-huan-san-mo-ti-wu-liang-yin-fa-mên-ching. (梵)Māyopama-samādhi(幻喩) (蔵)ḥphags-pa sgyu-mal ta-buḥi tiṅ-ne-ḥdsin ces-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 聖如幻法門經 ❹1卷 ❺存、大正一一•三五七No. 372、編目一一、卍一五•一〇、昭定1414文、昭1419聞、天1410聞、昭定972聞、法972聞、聞1476聞、天1399聞、天494寶、昭定1024聞、Nj. 977 ❻竺法護(西晉—宋初A. D. 980)

❼聞思修菩薩 ❽宋天息災(唐末—宋初A. D. 980)

❾聞思修菩薩の三昧の名である。内容的なものも本書は聞切聞法多く説法の場面にしてあるが、聞思修は聞切聞法多く説法の場面にしてある。聞思修は聞切聞法多く説法の場面にしてある。

〔内容概要〕〔注釈〕 (1)聞思修菩薩(如意輪)が如幻三昧を説くことを請じ、西方無量無辺の聖衆(如来菩薩)の聞日光(観世音)・大勢至(弥勒)の二菩薩、そしてこの三菩薩に法を説くことを請ず。(2)後、聞思修菩薩の問に応じ、三世諸仏の法身は虚空の如く、三世諸仏の法身は虚空の如くであり、三世諸仏の法身は虚空の如くであり、三世諸仏の法身は虚空の如くであり

[illegible]

知眞論疏 ❶(日)Nyo-jitsu-ron-sho. (支) Ju-shih-lun-su. ❷1卷 ❸佚 ❹(支)天一—天竺元A. D. 499—569)頃 ❺(参考) 眞言宗章目錄卷下 『教法傳來目錄』 1

知眞論区眞難品 ❶(日) Nyo-jitsu-ron-han-shitsu-nam-bon. (支) Ju-shih-lun-fan-chih-nan-p'in. 如實論 ❷1卷 ❸佚 ❹天竺三•二人No. 1633 『論家』 『卍』二•九 『宋』631『元』645『明』637『明』1245『宋』1245『麗』633『天』631『聖』594『宋』613『明』1353『明』1341『Nj. 1252 ❺龍樹(紀元元—天竺元A. D. 499—569)頃 ❻(参考) 眞言宗教王經(A. D. 550) ❼如實論 ❽1卷

知宗了義和尚語錄 ❶(日) Nyo-shū-ryō-ha-o-shō-shi-ge. 大慧宗杲禪師語錄 ❷1卷 ❸佚 ❹宗了義、定海縣 ❺(参考) 臨濟目錄

知參禪尼之十五回參請記 ❶(日)Nyo-shun-zen-ni-no-ni-jū-go-kwai-butsu-ji-ki. 如淳尼之二十五回參佛記 ❷1卷 ❸佚 ❹元年元錄

❺(参考)天(眞宗)

知法華和尚語錄 ❶(日)Nyo-jō-o-shō-go-roku. (支) Ju-ching-ho-shang-yū-lu. 天童如淨禪師語錄 ❷2卷 ❸佚 ❹天竺四人•1 2 No. 2002A 『卍續』二•九•天 『禪學大辭典』卷二 ❺天天童如淨 『文類聚』 ❻寶定三(A. D. 1210)頃

❼如淨禪師(紀元—)卷は宋代禪僧の四會の語を集めたものである。四會とは法堂今之、佛殿今之、僧堂今之、寺舍今之である。下卷には法語・小參・拈古・頌古・偈頌・佛祖贊・自贊・法堂・佛殿・僧堂・寺舍・佛祖・

kyō-ki-shiki-jō-jō. ❷1卷 ❸存 ❹家禮三寶 ❺(東福寺)

如法經現修作法 ❶(日) Nyo-hō-kyō-gen-shu-sa-hō. ❷1卷 ❸存 ❹圓性寺 ❺文保11寶 ❻(東福寺)

如法經現修作法 ❶(日) Nyo-hō-kyō-gen-shu-sa-hō. ❷天福 ❸存〃大正人西•八九〇No. 2732 ❹宗祖 ❺西本願寺 ❻日蓮法華宗の作法で日蓮宗を說いたもの。如如法法華經修行の作法は鎌倉時代で日蓮上人が文永十年に初めたもので佛教大辭典にも天文十年に初めたもの、佛教語大辭典にも「日蓮宗で法華經を修行する法會」とある。❼寶曆11寶 ❽(東福寺) (小田慈舟)

如法經記 ❶(日)Nyo-hō-kyō-zak-ki. ❷1卷 ❸存 ❹延文年寶 ❺(東山文庫)

如法經十種供養文案 ❶(日) Nyo-hō-kyō-jis-shu-ku-yō-shi-dai. ❷1卷 ❸存 ❹文保11寶 ❺(日蓮聖人)

如法經十種供養式 ❶(日)Nyo-hō-kyō-jis-shu-ku-yō-shiki. ❷1編 ❸存 ❹慶長末年寶寶 ❺(續大〃法•1•四九)

如法經參詣記 ❶(日) Nyo-hō-kyō-sho-sha-ki-soku. ❷1卷 ❸僧侶上總宗教者參詣「日蓮」「日蓮」「日蓮」十師、「鎌倉時代十三師」「鎌倉時代日蓮宗參詣」「今號」云々。

如法經模法作法 ❶(日) Nyo-hō-kyō-sem-bō-sa-hō. ❷1卷 ❸存 ❹慶應記 ❺大永六寶 ❻(鎌倉文庫)

如法經印佛 ❶(日) Nyo-hok-ke-in-ji. 如法法華印佛 ❷1編 ❸存 ❹足利時代寶 ❺(東福寺記)

如法三衣記 ❶(日) Nyo-hō-sann-e-ki. ❷1卷 ❸存 ❹德寶(寶永1—正德1 A. D. 1539—1702)寶 ❺(參考) 大日本佛教全書第四卷所收本書日

如法書寫法副 ❶(日)Nyo-hō-sho-sha-hō-soku. ❷1卷 ❸存〃西宮市人西藏藏(藏西)藏目(大正人西•1目11 No. 2911)〃佛子法令書寫法〃藏西藏藏卷上 ❹源孝(定家11—寶曆11 A. D. 1133—1212) ❺(東福寺)

如法懺法所作眞忍授訓 ❶(日) Nyo-hō-sem-bō-sho-sa-ryō-nin-ju-kun. ❷1卷 ❸存 ❹眞忍藏〃宗眞記 ❺(東福寺)

如法經 ❶(日)Nyo-hō-son-jō. ❷1卷 ❸存 ❹明治時代寶(東福寺記)足利時代寶(東福寺記)藤川時代寶(東福寺記)(東福寺記)(續大〃法•1•六六)

如法經記 ❶(日) Nyo-hō-son-jō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹定禪(寶治元—保元A. D. 1093—1156) ❺(參考) 佛法僧寶藏藏卷三

如法經問異說 ❶(日) Nyo-hō-son-jō-dō-i-setsu. ❷1卷 ❸存〃大日本佛教全書第四天皇藏藏卷之四 ❹寶藏(治承11—寶曆11 A. D. 1143—1212—)

如法經法 ❶(日) Nyo-hō-son-jō-hō. ❷1編 ❸存 ❹正德四寶(東福寺記)寶永(續大〃法•1•六六)

如法經法智全 ❶(日) Nyo-hō-son-jō-hō-zō-yaku. 如法經法智全 ❷11編 ❸存 ❹藤原11寶 ❺(續大〃法•1•六六)

如法經法華懺 ❶(日)Nyo-hō-son-jō-hō-narabini-go-ma. ❷1編 ❸存 ❹天正三寶 ❺(續大〃法•1•六六)

如法經法日記 ❶(日) Nyo-hō-son-jō-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存〃大日本佛教全書第三十五皇藏藏卷之四 ❹東院(定久11—延保元A. D. 1205—1282)

如法大毒財天供次第 ❶(日)Nyo-hō-dai-ben-zai-ten-ku-shi-dai. ❷1編 ❸存 ❹德川時代寶 ❺(東福寺)

如法大毒財天供次第私記 ❶(日) Nyo-hō-dai-ben-zai-ten-ku-shi-dai-shi-ki. ❷1編 ❸存 ❹明治時代寶 ❺(東福寺)

如法金剛法副 ❶(日)Nyo-hō-nem-butsu-hos-soku. ❷1卷 ❸存〃西宮市人西藏藏(藏西)(大正人西•1目11 No. 2911)〃佛子法令書寫法〃藏西藏藏卷上

如法不動供次第 ❶(日)Nyo-hō-fu-dō-ku-shi-dai. ❷1編 ❸存 ❹文化八寶 ❺(東福寺記)

如法佛眼法記 ❶(日) Nyo-hō-butsu-gen-hō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹延慶記 ❺文明八寶 ❻(東福寺記)

如法佛眼法日記 ❶(日) Nyo-hō-butsu-gen-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存 ❹能禪記 ❺延慶元寶 ❻(東福寺記)

如法北斗法 ❶(日) Nyo-hō-hoku-to-hō. ❷1編 ❸存 ❹德川時代寶 ❺(東福寺記)

如法佛彌勒法 ❶(日) Nyo-hō-mi-ro-ku-hō. ❷1編 ❸存 ❹德川時代寶 ❺(東福寺記)

如法寶塔儀式 ❶(日) Nyo-rai-i-seki-kō-shiki. 如法寶塔式 ❷1卷 ❸存〃大正人西•九〇11 No. 3731 ❹明治寶(東安11—延安元A. D. 1173—1232)寶 ❺西蓮寺 ❻(參考) 如法經の項をかき、如法寶塔式の下をとる。

如來寶塔儀式勸法 ❶(日) Nyo-rai-i-seki-kō-shiki-kan-chū. ❷1卷 ❸存 ❹本願寺 ❺(參考) 大日本佛教全書第四卷所收本書日

如來會科文 ❶(日) Nyo-rai-e-kwa-mon. ❷1卷 ❸存 ❹宗祖(宗大)

如來及び菩薩の觀念 ❶(日)Nyo-rai-oyo-bi-jō-do-no-kwan-nen. 如來及び菩薩の觀念 ❷1卷 ❸存 ❹金子大榮氏 ❺明治時代 ❻(續大)(宗大〃宗法•八〇〇)

如來及び菩薩の觀念批判 ❶(日) Nyo-rai-oyo-bi-jō-do-no-kwan-nen-hi-han. ❷1卷 ❸存 ❹ひ金子大榮氏 ❺明治時代 ❻(續大)

如來眼前不思議經 ❶(日) Nyo-rai-on-chi-fu-shi-gi-kyō. (支) Ju-lai-ên-chih-pu-ssŭ-i-ching. ❷天卷 ❸散 ❹北涼曇無讖 ❺(參考) 七寶塔品第十〃佛滅後第五〃囑累品第十〃國定藏第1四〃眞定藏第11四

如來教誡王經 ❶(日)Nyo-rai-kyō-shō-ō-kyō. (支)Ju-lai-chiao-shêng-wang-ching. 如來示教勝軍王經〃示教勝軍王經 ❷1卷 ❸存〃大正1四•十八六No. 515〃續法六〃卍1〇•六〃寺259卷〃宋271卷〃元279卷〃明寺245卷〃北245卷〃麗259卷〃天(續藏經)

如來壽命利樂經 ❶(日) Nyo-rai-shi-sha-ri-den-rai. ❷1卷 ❸存〃大日本佛教全書第111卷記錄卷 ❹如來壽命利樂經は佛の壽命が無量であることを說いたものと考へられたもので、本書はその相承系譜を記すものである。成佛大年(A. D. 1367)大日本佛教全書所收の記に從ふ。

如來示教勝軍王經 ❶(日) Nyo-rai-ji-kyō-shō-gun-ō-kyō. (支)Ju-lai-shih-chiao-shêng-chün-wang-ching. (宋譯)如來示教勝軍王所問經〃勝軍王經 ❷1卷 ❸存〃大正1四•七八六No. 515〃續法六〃卍1〇•六〃寺259卷〃宋271卷〃元279卷〃明寺245卷〃北245卷〃麗259卷〃天268卷〃宋241卷〃法254卷〃宋336卷〃明寺274卷〃Nj. 249 ❹北宋末(仁宗11—寶曆元A. D. 602—664)譯 ❺本經の譯出年代は確定が不明であるが、一六四五年頃の譯出年代に就ては確定が不明であるが、一六四五年頃の譯出年代に就ては確定が不明であるが、日本國内の傳來は遣唐使の歸朝年代は

給孤獨園(Jetavana-Anāthapiṇḍadasyārāma)に在す時、在俗の篤信者憍薩羅主勝軍大王が佛に來詣した折に、佛が王眞について懇ろに大王に說法されたものである。先づ佛は國王又は諸侯が邪法を棄捨して正法を以て國王とならば、衆聖賢の稱讚する所となり、後に憂悔なく、死後善趣に超昇して諸天の中に生れ、諸妙樂を受けるとし、父母の子に對する如く國民に對し、四事(布施・愛語・利行・同事)を以て攝受し、醫僧を補佐せしめよと述べる。國詐・身命も夢の如く虛無にして、王の富貴樂・自在樂・愛欲樂・其他諸欲樂を受ける是即ち宮殿諸兵一家臣民訓度は命終の時に皆棄捨すべきものである。樹草の繁茂と枯衰の如く、火の熾盛と消滅の如く、日月輪の出沒の如く、天候の晴暴の如く、諸樂と樂具は壞墮・零落・斷壞・離散するものである。故に無常觀・虛誑觀に隱ひ、善く勤修すべく正法を以てし、非法を以てすべからずと勸誡する。

四方より迫り來る大山の逃れ難き如く、老病死衰の四大事は人間に迫り來り、獄王も人の毒箭には敵し難く、欲樂の具—宮殿諸裝飾訓度衣服者香にて飾るもこの四事迫り來れば、肉身は衰え、死滅し、死しては諸民悲しむも詮なく、肉は腐り醜惡に、土に入りては骨も灰滅する。是れ失壞の法であり、怖畏あり、煩惱多く、壞墮・零落・斷壞・離散の法である。

病に乘、飢渴に飢食、熱に涼を求める可く之を愈すものを求むべく、無常觀・虛誑觀に從つて勤修すべく、食欲に汚染されず、嗔恚に鼓動されず、愚痴に覆蔽されず、王の富貴樂・愛欲樂、他の諸欲樂を受ける具に耽染せず、財命情逸を減除し、無常の孔隙を怖るべしと誡め、法行に隱ひ、非法に隱はず、衆生を慈むこと一子の如く、至誠を以て佛法を護持し、三寶を紹隆して餘を顧る勿れと喩し、諸欲樂の具を厭離し、正法聖慧の財寶を願求すべしと述べてゐる。

上述の如くこの經の思想は特異のものはなく、王者の佛教的處世を說いた者で、第二義的俗諦門的であつて、尼柯耶の思想系統に屬し、小乘阿毘達磨論的思想も、大乘的菩薩思想も何はれず、原始的無常觀を出でない。

❼〔參考〕 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 (平等通昭)

如來自誓三昧經 ❶(日)Nyo-rai-ji-sei-sam-mai-kyō. (支)Ju-lai-tzū-shih-san-mei-ching. 如來獨證自誓三昧經、獨證自誓三昧經 ❷一卷 ❸存、大正一五・三四六No. 623、鎬宙六、卍一〇・七・北270女、南283女、元283女、明北279良、清279良、麗275傷、天279女、指255傷、法255傷、至347待、明南277才、Nj. 283 ❹無法護譯 ❺西晉太始二—建興元(A. D. 266—313) ❻如來獨證自誓三昧經の下を見よ。

如來寺妙觀傳 ❶(日) Nyo-rai-ji-myō-kwan-den. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五一六・一四三)

如來舍利講式 ❶(日)Nyo-rai-sha-ri-kō-shiki. 舍利講式 ❷一卷 ❸存、大正八四・九〇四No. 2751 ❹明惠高辯(承安三—貞永元A. D. 1173—1232)撰 ❺四座講式の項目の中、舍利講式の下を見よ。

如來舍利講式勸注 ❶(日) Nyo-rai-sha-ri-kō-shiki-kan-chū. ❷一卷 ❸存 ❹永辨述 ❼〔參考〕 大日本佛敎全書續刊豫定書目

如來所說示現衆生經 ❶(日)Nyo-rai-sho-setsu-ji-gen-shu-jō-kyō. (支)Ju-lai-so-shuo-shih-hsien-chung-sheng-ching. 須摩提長者經、會諸佛前經 ❷一卷 ❸存、大正一四・八〇五No. 520、鎬宿七、卍一四・一〇、北422無、南422無、元526無、明北536敬、清536敬、麗523甚、天519無、指734無、指734甚、法510甚、至1057來、明南703敬、Nj. 693 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻須摩提長者經の下を見よ。

如來所說淸淨調伏經 ❶(日)Nyo-rai-sho-setsu-sei-jō-chō-fuku-kyō. (支)Ju-lai-so-shuo-ch'ing-ching-tiao-fu-ching. 寂調音所問經、寂調音經 ❷一卷 ❸存、大正一四・一〇八一No. 1497、鎬列一一卍一七二一、北543作、南556作、元530作、明北1084定、清1084定、麗547念、天549作、指534念、法531念、至1196儀、明南1245儀、Nj. 1059 ❹劉宋代法海譯 ❺寂調音所問經の下を見よ。

如來壽量義 ❶(日)Nyo-rai-ju-ryō-gi. (支)Ju-lai-shou-liang-i. ❷一卷 ❹隋智顗(大同四—開皇一七 A. D. 534—597) ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第二

如來十力得勝論 ❶(日)Nyo-rai-jū-riki-toku-shō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹眞諦(延寶五—寶曆六A. D. 1677—1756)述 ❺明治一六刊 ❻(龍大、二六八四・一三四)(帝國、一四一・二〇一)

如來正敎祕要藏經 ❶(日)Nyo-rai-shō-kyō-hi-yō-zō-kyō. (支)Ju-lai-chêng-chiao-pi-yao-tsang-ching. ❷一卷 ❺疑僞經。❼〔參考〕 開元錄第一八、貞元錄第二八

如來性起經 ❶(日)Nyo-rai-shō-ki-kyō. (支)Ju-lai-hsing-ch'i-ching. ❷二卷 ❹失譯 ❼〔參考〕 三寶紀第四

如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經 ❶(日) Nyo-rai-shō-gon-chi-e-kō-myō-nyū-is-sai-butsu-kyō-gai-kyō. (支) Ju-lai-chuang-yen-chih-hui-kuang-ming-ju-i-chi'e-fo-ching-chie'r-ching. (梵藏)大乘入諸佛境界智光明莊嚴經參照。如來入一切佛境界經、智慧莊嚴經、如來莊嚴佛境界經 ❷二卷 ❸存、大正一一・三三九No. 357、鎬宇三、卍一〇・六、北189衆、南203衆、元196衆、明北241男、清241男、麗189翰、天192衆、指175翰、法185翰、至25・良、明南192惡、Nj. 245 ❹曇摩流支譯 ❺元魏登明二(A. D. 501) ❻扶南國人曼陀羅仙の將來せる梵本を譯出せるものといはれ、三譯ある中の第一出である。聖典史的考察に就ては度一切諸佛境界智嚴經の下を、又內容解說に就ては大乘入諸佛境界智光明莊嚴經の下を見らるべし。

❼〔參考〕 三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (美濃晃順)

如來莊嚴佛境界經 ❶(日) Nyo-rai-shō-gon-butsu-kyō-gai-kyō. (支) Ju-lai-chuang-yen-fo-ching-chie'r-ching. 如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經、如來一切佛境界經、智慧莊嚴經 ❷二卷 ❸存、大正一一・三三九No. 357、鎬宇三、卍一〇・六、北189衆、南200衆、元195衆、明北241男、清241男、麗189翰、天192衆、指175翰、法185翰、至357良、明南192惡、Nj. 245 ❹曇摩流支譯 ❺元魏登明二—正始四(A. D. 501—507) ❻如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經の下を見よ。

如來成道經 ❶(日)Nyo-rai-jō-dō-kyō. (支)Ju-lai-ch'êng-tao-ching. ❷一卷 ❸存、大正八五・一四五No. 299) ❺本經は燉煌出土古寫本、スタイン氏の蒐集に係り大英博物館の所藏。武周刊定錄は初めて之を僞經として指摘した。一經の內容は、題名を如來成道經と稱するも、經文は「如來槃兩不ノ死、涅兩不ノ生、提ノ之不ノ淘、澄ノ之不ノ清」といひ、專ら涅槃不死を主張し、其の他老莊の口吻に近き言葉甚だ多い。詳しくは鳴沙餘韻解說第二部二七二—二七四頁を參照せよ。

❹燉煌出土古寫本(大英博物館No. 1032) (矢吹慶輝—成田昌信)

如來成道經 ❶(日)Nyo-rai-jō-dō-kyō. (支)Ju-lai-ch'êng-tao-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❺雜阿含經第二十三卷の抄出。❼〔參考〕 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

如來善巧呪經 ❶(日)Nyo-rai-zen-gyō-jū-kyō. (支)Ju-lai-shan-chiao-chou-ching. 如來方便善巧呪經、如來方便巧呪經 ❷一卷 ❸存、大正二一・五六五No. 1334、鎬成八、卍一一・二・北345過、南352過、元357過、明北363回、清363回、麗339知、天354過、法339男、至606慶、明南354莫、Nj. 367 ❹闍那崛多(—天嘉二—開皇一〇A. D. 587) ❺如來方便善巧呪經の下を見よ。

如來奏聞鈔 ❶(日)Nyo-rai-sō-mon-shō. ❷一卷 ❸存 ❹慎玄撰 ❼〔參考〕 大日本佛敎全書續刊豫定書目

如來藏經 ❶(日)Nyo-rai-zō-kyō. (支)Ju-lai-tzang-ching. 大方等如來藏經 ❷一卷 ❸存、大正一六・四五七No. 666、鎬宇三、卍一一・四、北367必、南383過、元373必、明北380後、清380後、麗361過、天375必、指337過、法365男、至371能、明南368必、Nj. 384 ❹佛陀跋陀羅(升平三—元嘉六A. D. 359—429)譯 ❺東晉元熙二(A. D. 420) ❻大方等如來藏經に下を見よ。

如來藏經 ❶(日)Nyo-rai-zō-kyō. (支)Ju-lai-tzang-ching. 大方廣如來藏經 ❷一卷 ❸存、大正一六・四六〇No. 667、鎬成六、卍續一・三・四、麗1285且 ❹唐不空(神龜元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺大方廣如來藏經の下を見よ。

如來藏經私記 ❶(日)Nyo-rai-zō-kyō-shi-ki. (支)Ju-lai-tzang-ching-sai-chi. ❷一卷 ❼〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2015

如來藏經私記 ❶(日)Nyo-rai-zō-kyō-shi-ki. (支)Ju-lai-tzang-ching-sai-chi. 大方等如來藏經私記 ❷三卷 ❹圓光 ❼〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2016—2017

如來藏經疏 ❶(日)Nyo-rai-zō-kyō-sho. (支)Ju-lai-tzang-ching-su. 大方等如來藏經疏 ❷二卷 ❹行法師 ❼〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2012

如來藏論 ❶(日)Nyo-rai-zō-ron. (支)Ju-lai-tzang-lun. 大乘法界無差別論 ❷一卷 ❸存、大正三一・八九四No. 1627、鎬秦一、卍二六・一、明北1311過、清1311過、麗647念、明南1435陵、Nj. 1318 ❹堅慧菩薩造、唐提雲般若譯 ❺永昌元—天授二(A. D. 689—692) ❻大乘法界無差別論の下を見よ。

如來大哀經 ❶(日)Nyo-rai-dai-ai-kyō. (支)Ju-lai-ta-ai-ching. 大哀經、大愛經 ❷八卷 ❸存、大正一三・四〇九No. 398、鎬玄五、卍七・一、北73發、南74發、元72發、明75周、清75周、麗73周、天73周、指63周、法72周、至144朝、明南72周、Nj. 79 ❹竺法護譯 ❺西晉元康元(A. D. 291) ❻大哀經の下を見よ。

如來大哀經記 ❶(日)Nyo-rai-dai-ai-kyō-ki. (支)Ju-lai-ta-ai-ching-chi. ❷一卷 ❼〔參考〕 東域傳燈目錄卷上

如來智印經 ❶(日)Nyo-rai-chi-in-gyō. (支) Ju-lai-chih-yin-ching. (梵) Tathāgata-jñāna-mudra-samādhi (舊譯名義大集)(藏) bhags-pa de-bshin-gśegs-pahi ye-śes kyi phyag-rgyahi tiṅ-ne-ḥdsin ces-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo 諸佛慧法身經 ❷一卷 ❸存、大正一五・四六八No. 632、鎬宙一、卍一〇・七、北175常、南174常、元174常、明北251才、清251才、麗174五、天175常、指161五、法171五、至233男、明南179傷、Nj. 255 ❹劉宋代(A. D. 420—479)失譯 ❺初めに舍利弗等の大聲聞が三昧に入つて佛身の見えざるを明し、文殊の導入により、佛が舍利弗に向つて佛身は非身非作等その境界は不可思議にして、一切相中佛身

の得られざるを明し、智印三昧を說く。そしてこの三昧を修することに依つて佛身を觀ずることが出來るとなす。次いで佛は彌勒にこの經の護持を明し、七法發菩提心等を說明し、書寫讀誦を勸說す。

その佛身觀は般若の思想に立つものであり、維摩經見阿閦佛品の佛身觀とも相應するものである。そして舍利弗等の辭聞彈呵は入法界品、維摩經、思益經等とも相通ずるものである。又彌勒の護持には法滅末世の思想が窺はれ、又集經月藏分等の思想とも相對比して注意せらるべきであらう。

（梶芳光運）

如來智印經 ❶(B)Nyo-rai-chi-in-kyō.(支)Ju-lai-chih-yin-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、貞元錄第八

如來獨證自誓三昧經 ❶(B)Nyo-rai-doku-shō-ji-sei-zam-mai-kyō.(支)Ju-lai-tu-chêng-tzŭ-shih-san-mei-ching. 獨證自誓三昧經、如來自誓三昧經 ❷一卷 ❸存、大正一五・三四六、No.623、鎔宙六、卍一〇・七、北270女、南283女、元236女、明北279良、清279良、麗273傷、天279女、指255傷、法265傷、至347得、明南277才、N.1233 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元(A.D.265—313)

❻句潭彌國大叢樹間の交露精舍の獨證自誓三昧と云ふ道場に於ける說法である。賢劫菩薩の佛前の偈に始り、聖師が賢劫菩薩に佛法に三因緣あり、或は童眞、或は了生に、或は阿惟越致に向ひ、如來は一々授決すと云ふ。これは華嚴の十住に第八第九第十住に相當するものであつて、十住十地思想の上からは注意せらるべきである。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四

如來獨證自誓三昧經 ❶(B)Nyo-rai-doku-shō-ji-sei-zam-mai-kyō. (支)Ju-lai-tu-chêng-tzŭ-shih-san-mei-chi-ya. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉祇多蜜譯 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

如來二種廻向文 ❶(B)Nyo-rai-ni-shu-e-kō-mon. 往相廻向涅相廻向文類、往還廻向文類 ❷一卷 ❸存、大正八三・六七七No.2553、大谷遺法纂彙、中外版眞宗聖典 ❹親鸞/永安三—弘長二 A.D.1173—1262) ❺康元(A.D.1256)

❻曾根の「管寶錄」には、この書は三經往生文類を鈔出せるものとみへたり、高田の親鸞にはあらざるべし、御門人中の鈔錄ならん、技文と合せ勘へよ」とあれど、先哲の「聖教目錄」には「康元元丙辰十一月二十九日撰、甚肇在三州上宮寺寶庫」とあり、又高田專修寺には「正嘉元年閏三月二十一日」書寫の眞蹟あり、今中外版眞宗聖典に收む。これ曇信に附與せるもので、顯智の署名ある包紙と共に傳はれり。即ち康元本は專修寺本の原本と見られる。

內容は阿彌陀佛の誓願に就て往相還相の二種の廻向あることを、經論の文によつて辨ぜるものなり。卷頭に「淨土論」の「廻向」の解說を引き、其れに二種の廻向あることを示し、先づ往相廻向に行信證の三法あり、之れ第十七、十八、十一の三願の配當たるを記し、次に還相廻向に就て第二十二願を擧げてゐる。

❼(參考) 眞宗法要藏外諸書晉寬錄、淨土眞宗聖教目錄 ❽寶曆七刊 ❾(谷大、宗大・四八四六)

（禿譽住）

如來入一切佛境界經 ❶(B)Nyo-rai-nyū-i-sai-butsu-kyō-gai-kyō. (支)Ju-lai-ju-i-chiech-fo-chêng-chieh-ching. 如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經、如來莊嚴佛境界經、智慧莊嚴經 ❷二卷 ❸存、大正一二・二三九No.257、鎔宇三、卍一〇・六、北189養、南203養、元199養、明北241男、清241男、麗159制、天192養、指175制、法185制、至257良、明南193基、N.245 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A.D.980—) ❻如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經の下を見よ。

如來祕藏錄 ❶(B)Nyo-rai-hi-zō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹元政(元和九—寬文八A.D.1623—1668) ❼寬文八刊(正大、一〇九・八九—九〇)(谷大、鎔大・二一三六)(哲、う・一・右・一一二)(高大、寄・一・二四) 文政一二刊(立大、A.O四・九九—一〇三、三二七、四〇二)文久元刊(立大、A.O四・九八)

如來祕藏錄集註 ❶(B)Nyo-rai-hi-zō-roku-shū-chū. ❷一卷 ❸存 ❹正德二寫 ❼(立大、D.O・四二)

如來祕密藏經 ❶(B)Nyo-rai-mitsu-zō-kyō. (支)Ju-lai-pi-mi-tsang-ching. 大方廣如來祕密藏經、祕密藏經 ❷二卷 ❸存、大正一七・八三七No.821、鎔宇一〇、卍一二・二、北416菊、南426菊、元423菊、明北439菜、清439菜、麗414菜、天423菊、指384菜、法410菜、至421菜、明南421菜、N.443 ❹失譯 ❺大方廣如來祕密藏經の下を見よ。❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、武周錄第一一、貞元錄第四

如來祕密大乘經 ❶(B)Nyo-rai-hi-mitsu-dai-jō-kyō. (支)Ju-lai-pi-mi-ta-chêng-ching. 如來不思議祕密大乘經 ❷二十卷 ❸存、大正一一・七〇四No.312、鎔堀七、卍一六・七—八、明北1033咲、清1033咲、麗1512井鏡、至783奪、明南1043咲、N.1013 ❹宋法護(乾德元—嘉祐三A.D.963—1053)譯 ❺如來不思議祕密大乘經の下を見よ。

如來表現の範疇としての三心觀 ❶(B) Nyo-rai-hyō-gen-no-han-chū-to-shi-te-no-san-jin-kwan. ❷一卷 ❸存 ❹曾我量深著 ❾昭和二刊 ❿京都法藏館

如來不思議境界經 ❶(B) Nyo-rai-fu-shi-gi-kyō-gai-kyō.(支)Ju-lai-pu-sza-i-chieh-ching. 大方廣如來不思議境界經、不思議境界經 ❷一卷 ❸存、大正一〇・九〇九No.301、鎔天一一、卍八・二、北96伏、元86伏、明北93壹、清93壹、麗86臣、天86伏、指77臣、法85首、至160率、明南86通、N.97 ❹唐實叉難陀(永徽三—景雲元A.D.652—710)譯 ❺大方廣如來不思議境界經の下を見よ。

如來不思議祕密大乘經 ❶(B) Nyo-rai-fu-shi-gi-hi-mitsu-dai-jō-kyō.(支)Ju-lai-pu-sza-i-pi-mi-ta-chêng-chieh-ching. (梵藏)密迹金剛力士會參回。如來祕密大乘經、祕密大乘經 ❷二十卷 ❸存、大正一一・七〇四 No.312、鎔地七、卍一六・七—八、明北1033咲、清1033咲、麗1512井鏡、至783奪、明南1043咲、N.1013 ❹法護(乾德元—嘉祐三A.D.963—1053)譯 ❺宋登德元—嘉祐三A.D.1004—1053)譯

❻大寶積經密迹金剛力士會並に同西藏譯の二異本あり、本經は寶積本に比し少量の增廣を有するも文飾の差に過ぎず、又彼の無分品なるに對して二十五品の分品を立てゝゐる。今二本を合して內容を概說しやう。

〔菩薩身密品第一〕 (1)佛、菩薩諸菩薩摩訶薩最上勝行淸淨妙門（寶積本、淨淸廣布道義）を說いて六度四攝等の四十句（三十六句）を擧ぐ。(2)時に金剛手大祕密主菩薩（金剛力士密迹）、菩薩の一切勝行は福智二行（德慧二業）を出でざることを說いて如來祕密法となす。寂慧菩薩（寂意）、よつて彼に如來祕密之法を說かんことを求む。(3)金剛手先づ菩薩の身密を明す。菩薩はその所化の衆生に應じて隨意にその身を應現するも（今經の事例は三十五變身あり）、その本身は法爾として動ぜず、よく一切衆生を救ふとて、次に、(4)往昔因菩提に疾疫劫起りたる時、釋尊の前身たりし妙眼（善日）帝釋が身を化して善作城（俱留）に現れ、善寂といへる男子（仁良といふ蟲獄）となり、身肉を與へて衆病を救ひたるも帝釋の本身に脊減なかりし本生を說き、(5)次で菩薩身これ法身無相にして一切苦惱に現ずる身密を明す。〔菩薩語密品第二〕 菩薩語密、語業淸淨を明す。(1)一切有情の音聲、菩薩は悉く陪入し、聞くものをして身心輕安ならしむ。（以上、寶積本卷八）(2)菩薩の語言の德性を擧げて、皆これ神通智力にして福行果報の建立といひ、又菩薩の語言よく大樹の葉數、大河の沙數を觀ぜずして適說すと說き、(3)妙愛仙（樣喪）が黑相波羅門（寂然）に賢善（仁賢）といへる大樹の葉數を問ひたりといふ本生を擧ぐ。〔菩薩身密品第三〕 菩薩心密、心業淸淨を明す。〔雲吼音聲菩薩來會品第四〕 大雲世界（缺）の雲音王如來（雷音王）の下より、金剛手の說法を聞かんが爲に雲吼音聲（菩薩雷音）來會す。〔持國輪王先行品第五〕 佛、衆の心念を知り、金剛手の本行を明す。往昔、善現劫（善見）の時、莊嚴世界（同）に無邊功德寶衆莊嚴王如來（無量勳寶錦淨王）出現す。この世界の極淸淨域（淸淨）に持國（勇猛王）といへる轉輪王あり、千子具足し、別に法慧・法思（法慧を法念、法思を法念と從にせり）の二化生童子あり、俱に發心して佛を供養す。この持國輪王は、然燈佛（定光）にして、千子は賢劫千佛、法思は金剛手、法慧は尸棄梵王（讓其）なりと。〔菩提道品第六〕 六度・四攝・四梵行・三十七道品・六通・方便攝化・長養善根以下二十五句（三十二事）の菩提道を說く（以上、寶積本卷九）。〔如來身密不思議品第七〕 如來の身密を說く。(1)應化陰現の自在を明す。(2)如來の頂相は見るを得ずと、風持菩薩（能持）が釋尊の頂相を見んとして上方無限數界に上るも見る能はざりし故事を說く。(3)如來の身相は人によつてその所見を異にす。又世間食によつて養はれざる金剛身なるを明す。〔如來語密不思議品第八〕 如來の語密、語業淸淨を明す。(1)六十四種妙音を總說す。第六十三種の下に光明王如來（同）の下に至るも猶釋尊の音聲を聞き得たることを記せり。(2)如來は一切衆生の語言音聲に隨入して四諦を安立すとて、諸天の語といはるゝ四諦の名目を擧げ、十六大國の語、乃至十方世界の一切衆生の語を解することを說く（以上、寶積本卷十）。〔如來心密不思議品第九〕 如來の心密、心業淸淨を明す。〔囑讚金剛手菩薩大祕密主功德品第十〕 佛、舍利弗の問により、金剛手が常に佛及び彌勒菩薩に隨ふ事を明し、その不思議神通加持智力を成就せること讚ふ。〔菩薩苦行超勝以受食緣成熟衆生品第十一〕 寂慧の問により祕密主、菩薩の苦行、菩提道場に詣つて魔軍を降伏したまへること、轉法輪のこと、莊嚴佛土のこと等を說く。(1)菩薩の苦行、薩薩六年の勤苦は偏へに諸魔蓋に外道を降伏せんがために彼等に超勝せる苦行の相を現じたまへるに過ぎずとして、一足獨立、乃至一向立等四十七句の苦行相（寶積四十三句にして內容可なり相異す）を擧げ、さりながら善根成熟せる者はこの六年間に苦行相を見ず、たゞ寶樓閣中に入定受樂して成熟者の爲に說法したまへるを見るのみ、この說法を菩薩大智積集大悲方便攝入不思議甚深理法降伏一切邪魔外道入苦行智淸淨法門と名づくと（寶積本、この法門の下に法穢と名づくる菩薩を出し法典を入不可思議法門と名づけ、又、菩薩降伏衆邪一切諸魔入苦難慧永獲大安と說すとするも今經の文意が通じ易い）。(2)次に尼連沐沿、善生奉乳を擧げて世間の慣習に從ふのみとし、更に善生奉乳と同時に六十俱胝の天龍等妙食を飡ぜるも互に他を見る能はず、各自己の食を受けたまふと念へりといひ、これを菩薩苦行超勝以受食緣成熟衆生方便勝行と名づくと（寶積本は受供餐食開化衆生故現六年勤苦行業とし、善生女に就て記すこと詳し）。〔菩薩語菩提場品第十二〕 (1)菩薩道場に至りて善地天子等の地居諸天に對し偈を以てこの地に於て菩提を成ずることを告ぐ（寶積本、偈なく、善地天子、四天王等が菩提道場を莊嚴すと爲す）。(2)大梵天王、菩薩の成道を讚仰す（寶積本には梵天の名を威神自在とせり）。(3)菩薩、道場に入りて足下の千輻輪相より放光したまふに地獄等の苦惱暫く苦を免る。よつて迦梨迦（迦陵）龍王、菩薩に至つて菩薩を偈讚し、又その妻金光（積本欠）も來りて偈讚す（この下寶積本は黑耳地獄主の偈讚とし迦陵龍王の記事簡なり）。(4)刈草人吉祥（吉安）が草座を飡ずといひ、吉祥が毘婆尸佛（維衛佛）世に於て具慧（有志）長者たりし時の本生を擧ぐ。(5)菩提樹神の讚歌。(6)八萬四千天子の妙高座奉獻。この下次品の十六種菩詞と共に佛傳中特に大方廣莊嚴經の說相に一致することは注意を要す。〔降魔品第十三〕 (1)菩薩、菩提道場に詣つて魔軍と

いへる光明を放つて諸魔を伏し。(2)守護道場の賢聖衆は十六種の言詞を以て曁魔請佛す。(3)菩薩成道。(轉法輪品第十四) (1)成道より諸天善薩の讃歎、四天王奉鉢、怛嚕布沙、鞞梨迦(提謂・波利)二商供養等、菩薩成道七七日間の靜觀中の出來事といはるゝものを記述し、次に(2)尸棄梵天(紗式)の說法勸請を舉げ(寶積本は梵天の外に提頭羅、晉曰勇護、といへる天王が其の子と共に勸請することを舉ぐ)。(3)鹿野苑の說法を揭ぐ。內容、法印經に基けるものにて四諦經に非ざるは大乘空教の立場より初轉法輪を讚びしものか。(所緣品第十五) (1)祕密主、佛に白す。世尊、如來の所說は甚深廣にして一切世間難信の法なるに、而も我所說に違背するところなきは「皆是如來勝智在ニ我身中一、此非ニ我有ニ士夫力用一」と。佛これを印可して「汝一切衆生、皆有ニ如來勝智一在ニ於身中一」等と宣ふ。寶積本には「如來至慧入ニ我身中一非ニ我威勢聖猛之力一」「敎佛弟子班ニ宣經典一、皆承ニ如來威神聖旨一、以ト入ニ如來空法之身一、道慧玄妙靡ト不ニ通達一」とあり、般若經と同立場にめりて如來加被力の故としてあり、その間、本經はこの加被思想を佛性思想、卽身成佛思想にまで轉進せしめてゐることが看取せられる。(2)佛、寂慧の問によりて近止法(禁制)を說きたまふ。近止法とは卽ちこれ近止煩惱狂語、乃至卽ちこれ近止有身見狂語十句あり)なりとて永に有身見(貪身)の本質を究盡し。(3)同じく寂慧の問によりて近寂(寂然)の義を明し、有所緣の心は火の熾然する如し、所緣なく所作なければ熾然せず、これを近寂と名くといひ、(4)次で具善巧方便の菩薩は般若波羅蜜多等の淸淨所緣中に於て善根所緣の勝法を了知して息滅せず、煩惱所緣の染法は之を制して起らしめない等と、菩薩が一切の所緣の法に於て一切智々現前の法門に住し、皆悉く菩提に廻向する、これを菩薩善巧方便曁了一切法通達觀察(菩薩善權方便)と名づくといふ。中に「有所緣一切、皆以菩提勝相、和合相應」といへるは、寶積本に「一切衆緣、皆由ニ菩薩善權方便」といへるに比して、やはり密敎の卽事而眞思想に一歩近づけるものと思はれる。(5)菩薩は所緣の機に見えて應赴攝化することを明す。すべて五十五句あり。(金剛手菩薩大祕密主授記品第十六) 佛放光微笑し寂慧の問により祕密主に授記したまふ。曰く、賢劫最後の樓至如來の法の隱沒する時、阿閦如來の練樂世界(紗樂)に生れて祕密一百八印(祕密の語なく千八百印とす)の法を聞き、更に無量世を經て金剛步如來となり、國を善淨、劫を淸妙(殿淨)と名づくと。(無二無說品第十七) 寂慧、祕密主に授記を受けたるやと問へるに對して、智に二相なく法に說くべきものなきを明し、佛の我に授記することは夢中の自性の如しといふ。(入嚩野大城受食品第十八) 祕密主、その所居の嚩野大城に於て七日間佛附諸天等を供養せんことを請ひて歸城し、大莊嚴王三摩地(淨寶王三昧正受)に入りて城內を東方莊嚴王佛(淨王佛)の無邊功德莊嚴世界(無量寶德淨)の如くに莊嚴し、四天王に命じて一切の眷屬諸鬼を集合せしめ、又長子金剛軍(密兵)、次子妙臂(善分)をして狄色無色の諸天を招集せしめ、かくて七日間妙樂を修めたる供養を行ひ、諸天鬼神をして善心を起し歸依を行はしむ。(護世品第十九) (1)佛、祕密主の請により、十善業道、善惡業報、緣生法是苦無常等の法を說き、結んで諸行無常、諸行是苦、諸法無我、涅槃寂靜の四法印を明さる。(2)護世四天王、佛にその護世といはるゝ所以に就て、十善、護世八法、六和敬法、不貪瞋癡佛の四法、有慚有愧の二法、眞實行、善語、無諂曲の各一法(一法だけ寶積本缺)を行ふものを守護する故なることを告白す。(去來品第二十) (1)佛、衆會に合法久住の法を授けんと欲して祕密主をして嘗て初成道時阿波羅羅龍王宮に於て得た祕密大明章句を說かしめたまふ(寶積本この一項を缺く、これ祕密思想興起後の追加なるによる)。(2)金剛軍の問に依り、佛、不退轉法として當行無礙大慈等の十法、聞法不怖畏の增長勝慧等の八法、所作自在を得る具五種通等の四法、入法の智門等の四門、定力等の菩薩九力(八力)を說きたまふ。(3)佛、祕密主をして菩提道場に於て得たる護諸菩薩降伏攝受諸魔軍衆の所有祕密大明章句を說かしめたまふ。この章句、寶積本は頗る簡にして本行集經に魔軍の恐怖する形容として說かるゝ章句に類似す。これ又經典發展の段階として注意すべし。(勇力菩薩先行品第二十一) 佛鷲峯山に還りたまひ阿闍世王來問し、佛の嚩野城の供養を受けたまへるを歎ず。佛ために祕密主の本緣を明し、過去久遠の昔、多聞如來(息意如來)あり、世界を嚴淨(選主)、劫を無設(不移)と名づけ、勇力なる菩薩ありて衆のために一切自境界の法門を說きたりといふ故事を說きたまふ。(阿闍世王問答品第二十二) 祕密主、阿闍世王の心念を知り、その持するところの金剛杵は憍慢貢高の衆生を調伏せんとする時に重く、然らざる衆生に於て輕しといひて之を地に置きて取らしむ。閻王、帝釋、日遮何れも全力をつくすも上ぐる能はず、佛、これ父母所生の身力の及ばざるところ、寧ら菩薩神力によるべしとなし、この神力は十種法を修めて得らるると說かる。嚩阿闍世王の問により向自在の八法、住自在の四法、淨信、多聞、持戒等の三十句に就て說法したまふ。(賢王天子品第二十三) (1)寂慧、祕密主に、本經を滅後五百歲(寶積本單に將來世とす)に流布せんことを請ひ、祕密主卽ち法はこれ文字、文字不生の故に法に隱沒なしとして、正法の不生不滅なる理を明す。(2)會中の賢王天子、佛說の近止・近寂の法に就て領解を述べ、寂慧その緣才に驚き如何にして得たるかを問ふ。賢王、勝義諦中法として取るべきなきが故に緣才を得といふ(寶積本はこの賢王の答に代ふるに、本地を妙樂世界の菩薩とする佛說を出す)。(總持功德讚說譬喻無盡品第二十四) (1)寂慧、佛に云何なるを一切法相陀羅尼に隨入すると名づくるやと問ひ、(2)次で赤賢王を讚ずるに賢王、一切法無礙受と說いて陀羅尼を得る菩薩の德を讚ふ。(3)佛、賢王がよく

陀羅尼に陪入せることを歎ぜ、三無著、三通達淸淨法、三種通達無盡、三種獲得通達加持力、三種成就歡喜、三種遠疾法を說きたまふ。(囑累正法品第二十五) (1)祕密主、滅後五百歲に本經を護持せんを請ひ、佛爲に實月如來の下に得たる祕密章句を說かしめたまひ、又佛自らも三種の呪を說き給ふ等のことあり、次で實月如來の下に禁上、諸受の二法師ありてこれらの章句を得たり。この禁上は我にして諸受は祕密主なりとて咒の由來を明す、以上、寶積本にはすべて缺けてたし、本經に至つての追加と思はる。寶積本は單に祕密主が將來世に今經を護持せんと請ひ、佛ために偈讚したまふことゝせり。(2)佛、尸棄梵天に對し三種供養と一四句偈受持者を守護すべきことを說いて、佛が過去世光明王族中の具慧(意行)太子となりて夢中二偈を得たる故事を明し、本經受持者を守護すべきを命じたまふ。(3)かくて阿難に對して本經を依囑したまふ。

(美濃是順)

如來方便善巧呪經 ❶(日) Nyo-rai-hō-ben-zen-gyō-ju-kyō. (支) Ju-lai-fang-pien-shan-chiao-chou-ching. (梵) Saptabuddhakasa. (藏傳) (譯) hphags-pa sadsrgyas bdun-pa shes-bya ba thog-pa chen-poḥi mdo. 如來善巧呪經 ❷一卷 ❸存、大正三・五六五 No. 1334、館成八、卍二一・二、北346過、南352過、元357過、明北363回、淸363回、龍339知、天354過、指317知、法339男、至606魔、明南354莫、N. 367 ❹開那崛多譯 ❺隋開皇七(A.D. 587)

❻佛陀が雞羅婆(喜樂)山頂に居られた時に林中に於て一比丘は惡鬼に捉へられ、一比丘は邪魅に著せられて、共に苦惱憹惱して居つた。その時に會中の虛空藏菩薩が、一切の諸の病苦を除滅する爲に、神呪を說かれんことを佛陀に請問したので、佛は神通力を以て空中に六如來(毗婆尸・尸棄・毗舍浮・拘樓孫・拘那含牟尼・迦葉)を現じ、自己も亦空中に騰り、七佛各々虛空藏菩薩に對して、疾病消除・鬼魅遠離の神呪を說かれたことを明す。其の神呪持誦の儀從中に、「聞く所の事は、憶持して終に忘れず」とあるは、後世の求聞持法の思想の萌芽として、特に注意を要すべき點であると思ふ。梁代(A.D. 502—557)失譯の虛空藏菩薩問七佛陀羅尼呪經(大正二一・五六一。當解說大辯典第三卷、二四一、A參照)と、宋(開寶六A.D. 973)法天譯の聖虛空藏菩薩陀羅尼經(大正二〇・六〇四、同上第五卷、三七三、B參照)とは同本異譯である。

❼(參考) 三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇

(神林隆淨)

如來滅後五百歲始觀心本尊鈔 ❶(日) Nyo-rai-metsu-go-go-hyaku-sai-shi-kwan-jin-hon-zon-shō-sho. 觀心本尊鈔、觀心鈔 ❷一卷 ❸存、大正八四・二七二No. 2692、館霜一〇、佛敎大系第二八、日蓮聖人全集第五、日蓮聖人御遺文第九二八—九四九 ❹日蓮(貞應元—弘安五A.D. 1222—1282)述 ❺文永一〇(A.D. 1272)四月 ❻觀心本尊鈔の下を見よ。

如來滅後五百歲始觀心本尊鈔通解 ❶(日) Nyo-rai-metsu-go-go-hyaku-sai-shi-kwan-jin-hon-zon-shō-sho-tsū-kai. ❷一卷 ❸存 ❹日蓮義知著 ❺大正一一刊 ❻龍大、研佛(文大、B O二・二)

如理論 ❶(日) Nyo-ri-ron. (支) Ju-li-lun. 六十頌如理論、六十如理頌 ❷一卷 ❸存、大正三〇・二五四 No. 1575、館著一、卍二五・一〇、北1314餘、南1317續、元1307策、明北1300星、淸1300星、麗1467顚、天1399策、至1331鈔、明南1440書、N. 1307 ❹龍樹菩薩造、施護譯 ❺宋太平興國五以後(A.D. 980—) ❻六十頌如理論の下を見よ。

如罪文稿 ❶(日) Nyo-zai-mon-kō. ❷一卷 ❼(參考) 扶桑經林書目

遼塔功德經 ❶(日) Nyo-tō-kū-dokyō. (支) Ju-ta-kung-te-ching. 右繞佛塔功德經 ❷一卷 ❸存、大正一六・八〇一No. 700、館宙七、卍二一・五、北493餘、南599餘、元504餘、明北434餘、淸451餘、麗493羊、天504餘、指465羊、法483羊、至445絲、明南503貫、N. 458 ❹實叉難陀(永徽三—景雲元A.D. 653—710)譯 ❺唐證聖元—長安四(A.D. 695—704) ❻右繞佛塔功德經の下を見よ。

饒鉢口傳 ❶(日) Nyō-hatsu-kuden. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❾(寶龜院)

人有五力經 ❶(日) Nin-u-go-riki-kyō. (支) Jen-yu-wu-li-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

人於出家者經 ❶(日) Nin-o-shuke-sha-kyō. (支) Jen-yü-chu-chia-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

人經 ❶(日) Nin-kyō. 現代宣譯人經 ❷四卷 ❸存、現代宣譯根本佛敎聖典叢書第四帶一阿含經抄之內 ❹赤沼智善譯

人形圖 ❶(日) Nin-kyō-zu. ❷一包 ❸存 ❹足利時代寫 ❾(寶龜院)

人弘法經 ❶(日) Nin-gu-hō-kyō. (支) Jen-hung-fa-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺大方等大雲經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、三寶紀第四、內典錄第一、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

人間を緣として ❶(日) Nin-gen-o-en-to-shite. ❷一卷 ❸存、佛敎文化講座第四編之內、佐々木月樵全集第五 ❹佐々木月樵(明治八—昭和元 A.D. 1875—1926)著 ❺大正一一刊 ❾(龍大、二〇九九・二〇九)、谷大、餘洋・五八六)

人間學としての佛敎 ❶(日) Nin-gen-gaku-to-shite-no-bukkyō. ❷一册 ❸存 ❹高楠順次郎著 ❺昭和七刊 ❾東京大雄閣

人間苦の解決 ❶(日) Nin-gen-ku-no-kai-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹諏訪二敎著 ❺大正一四刊 ❾(龍大、二〇九九・二一〇)

人間苦の原因を探ねて ❶(日) Nin-gen-ku-no-gen-in-o-tazu-ne-te. ❷一冊 ❸存 ❹赤沼智善著 ❺昭和七刊 ❻京都大谷派宗務所

人間苦の親鸞 ❶(日)Nin-gen-ku-no-shin-ran. ❷一卷 ❸存 ❹松田青針著 ❺大正一一刊 ❻東京春陽堂

人間親鸞 ❶(日)Nin-gen-shin-ran. ❷一卷 ❸存 ❹石丸梧平著 ❺大正一一刊 ❻(龍大、二〇五六・一七)

人間としての日蓮聖人 ❶(日) Nin-gen-to-shi-te-no-nichi-ren-shō-nin. ❷一冊 ❸存 ❹里見岸雄著 ❺大正一〇刊 ❻東京大同館

人間としての日蓮聖人 ❶(日) Nin-gen-to-shi-te-no-nichi-ren-shō-nin. ❷一卷 ❸存 ❹國露春著 ❺昭和四刊 ❻東京文陽堂

人間道 ❶(日)Nin-gen-dō. ❷一卷 ❸存 ❹蜂屋賢喜代著 ❺大正一二刊 ❻(谷大、宗津・五七四)

人間道場 ❶(日)Nin-gen-dō-jō. ❷一冊 ❸存 ❹江澤默堂著 ❺昭和七刊 ❻頼路善福寺

人間の宗教 ❶(日)Nin-gen-no-shū-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹椎尾辨匡著 ❺大正一三刊 ❻東京甲子社書房

人間本質の研究 ❶(日)Nin-gen-hon-shitsu-no-ken-kyū. ❷一冊 ❸存 ❹兼子尚積著 ❺昭和七刊 ❻大阪眞法堂

人間味に富める眞宗及び親鸞 ❶(日)Nin-gen-mi-ni-to-me-ru-shin-shū-ni-oyo-bi-shin-ran. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺大正一一刊 ❻(龍大、研眞)谷大、宗津・四八三)

人間要路用心袋 ❶(日)Nin-gen-yō-ro-yō-jin-bukuro. 萬福人間要路用心袋 ❷一冊 ❸存 ❺天保一五刊 ❻(駒大)

人詐名爲道經 ❶(日) Nin-sa-gyō-i-dō-kyō. (支) Jén-cha-míng-wéi-tào-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜譬喻經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第二、開元錄第一六、貞元錄第二六

人受身入陰經 ❶(日)Nin-ju-shin-nyū-in-kyō. (支) Jén-shòu-shēn-jù-yīn-chīng. ❷一卷 ❹失譯 ❺修行道地經第一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

人誦口傳集私記 ❶(日)Nin-ju-ku-den-shō-shū-ki. ❷一帖 ❸存 ❺永祿三寫 ❻(寶龜院)

人集都部目 ❶(日)Nin-shū-tō-tō-mo-ku. (支)Jén-chí-pù-tū-mù. ❷一卷 ❸存 ❹傳燈本(大英博物館)

人從所來經 ❶(日)Nin-jū-sho-rai-kyō. (支)Jén-tsóng-suǒ-lái-chīng. ❷一卷 ❺長阿含人本欲生經の抄出。 ❼(參考) 開元錄第一六、貞元錄第二六

人所從來經 ❶(日)Nin-sho-jū-rai-kyō. (支)Rén-suǒ-cóng-lái-chīng. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 武周錄第一二

人情所行行法 ❶(日) Nin-jō-sho-gyō-gyō-hō. (支)Rén-chíng-suǒ-hàng-fǎ. ❷一卷 ❺疑僞經。 ❼(參考) 武周錄第一五

人身四百四病經 ❶(日)Nin-shin-shi-hyaku-shi-byō-kyō. (支) Jén-shēn-sì-bǎi-sì-bìng-chīng. ❷一卷 ❹失譯 ❺修行道地經第一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

人身八十種虫經 ❶(日)Nin-shin-hachi-jū-shu-chū-kyō. (支)Jén-shēn-pā-shí-chóng-chīng. ❷一卷 ❹失譯 ❺修行道地經第一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

人身不可失義 ❶(日)Nin-shin-fu-ka-shitsu-gi. ❷一册 ❸存 ❹蓮實記 ❼寫本(高大、一・五六)

人水灌頂細々日記 ❶(日)Nin-sui-kwan-jō-sai-sai-nik-ki. ❷一裝 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

人水授受記 ❶(日) Nin-sui-ju-ju-ki. ❷十卷 ❸存 ❹宥證口、知脫記 ❺寶曆九(A.D.1759) ❻恒法院法流の授受記なり。 ❺大正一三刊 ❼國譯密教刊行會

人仙經 ❶(日)Nin-sen-kyō. (支)Rén-xiēn-chīng. (E)Janavasabha-S.(D.18) ❷一卷 ❸存、大正一・二一三 No.9、龍谷一〇、卍一五・五、北1353鳳、南1259鳳、元1253鳳、明北395鳳、法595鳳、麗1273餘、天1254鳳、法1334餘、至1165外、明南927興、Nj.901 ❹宋法賢(一成平四A.D.1001)譯 ❻この經典は長阿含四經園尼沙經(大正一・三四)、長尼柯耶十八經 Janavasabha-S. の同本であつて、初めの部分は阿難が佛陀に信佛者の死後の生活に就いて授記を請ひ、それに續いて、佛陀の信者、王舍城の頻婆沙羅王が死して帝沙門天王の子として生れ、人仙(Janavasabha)と呼ばれ、佛陀に至りて、天衆の集まるところへ、梵童子が來りて佛德を讚嘆したといふ天界のことを語るを記したものである。 (赤沼智善)

人蓄區別の原因 ❶(日)Nin-chiku-ku-betsu-no-gen-in. ❷一卷 ❸存 ❹吉田謙藏著 ❺明治三三刊 ❻(正大、一〇九・二二二)

人天眼目 ❶(日)Nin-den-gam-mo-ku. (支)Rén-tiēn-yǎn-mù. ❷六卷 ❸存、大正四八・三〇〇 No.2006、卍續二・一八・五 ❹晦巖智昭 ❺宋淳熙一五(A.D.1188) ❻本書は南岳下の臨濟龜仰の二宗、青原下の曹洞雲門法眼の三宗の諸尊宿によつて示された宗要を各家の下に一括して編錄し、五家の宗要を知らしめんとしたものである。其の綱要語句は何れも人天の眼目たるべきものとの義より人天眼目と題したものである。

編者は越山晦巖の智昭禪師で、智昭が遊方參學の時、諸方の尊宿に五宗の綱要を咨扣したが師位に在つて學人を接得する此れ等尊宿の中には綱要語句の名目すら知らざる者があつたので二十年を費して本書を編み、宋淳熙十五年十二月(A.D.1188)自序して流通せしめたものである。後、宋寶祐六年(A.D.1258)物初大觀禪師、本書を重修し、元延祐四年(A.D.1317)杭州天峰の致祐禪師本書を校修師承を正し、配列を南岳下の臨濟溈仰、青原下の曹洞雲門法眼として重刊した。(但し撰藏に收むるものは致祐の元重刊本の配列ではなく、臨濟雲門曹洞溈仰法眼となつて居る。)我國でも乾元二年(嘉元元年)正月七日(A.D.1303)了部が校修した旨を記した桂堂瑋林の跋を附して重修本を出し、宝町時代の刊本、寛永十三年本、承應三年本等が傳へられて居る。

撰藏本に依つて其の編次を見るに、卷首に智昭の自序を收め、卷末に元重刊本の致祐の後序、附錄の龍潭考・物初の重修後序、桂堂の跋を收めて居る。

〔卷一〕(臨濟宗)四料揀。三句。三玄三要。四喝。賓主句。四賓主。四照用。無位眞人。汾陽十智圓悟。〔卷二〕汾陽四句。三種師子。汾陽三訣。汾陽三句。汾陽十八問。浮山九帶。黃龍三關。南堂瑋鑑十問。門庭要。要訣。綱宗頌。(雲門宗)三句。抽鎖。一字關。綱宗偈。機鋒。巴陵三句。門庭。要訣。綱宗頌。(卷三)(曹洞宗)五位君臣。明安五位賓主。洞山功勳五位。曹山五位君臣圓頌。石霜谷五位王子并頌。曹山三種墮。曹山三種綱要頌。明安三句。曹山四禁語。門風偈。五轉位頌。宏智四借頌。門庭。要訣。綱宗頌。三種功勳(新增)。〔卷四〕(溈仰宗)三種生。圓相因起。時禪。義海。玄門玄答。肆第八識。仰山付法偈。三然燈。三圓語。門庭。要訣。綱宗頌。寶鏡三昧。(法眼宗)華嚴六相義。卽物契神頌。示機。毗盧頂上。迦葉門前。三界惟心。萬法惟識。留國師宗風頌。留國師四料揀。門庭。要訣。綱宗頌。〔卷五〕(宗門雜錄)拈花。三身。四智。緣識。參同契。五問。五家宗旨序。〔卷六〕晨鐘三句。汾陽五門句。四不遷。四藏鋒。三聊王子。師子話。寶鏡話。四麗華話。古鏡話。僧陀婆話。六割。五宗問答。五家宗要。楊無爲五宗同諸祖頌。三種法界。五眼。三寶。桂杖。句意。六祖問答。十無。蘊菴一喝分五教(新增)。方語。蒼性偈。後序。(附)龍潭考。

❹永應三刊(谷大、餘大・四三五)寫永一三刊(駒大)乾元二刊(駒大)刊本(谷大、餘甲・三九)寫本(谷大、餘丙・四〇)(哲、け・六・左・一)(立大、A五〇・二六)(京大、藏・一七シ・二七)

(大久保堅璃)

人天眼目聽說 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-kō-sesetsu. ❷三卷 ❸存 ❹陽春主講 ❺享保一八刊 ❻(正大、一七五・二四)(龍大、二六七三・一)(谷大、餘大・八四七)(駒大)

人天眼目金鎖 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-kin-sa. ❷六卷 ❸存 ❹道經 ❺享保二刊 ❻(谷大、餘大・一二〇七)

人天眼目考 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-kō. (支)Rén-tiēn-yǎn-mù-kǎo. ❷一卷 ❸存 ❹清淨祥白撰 ❼(參考) 禪籍目錄

人天眼目集 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-shū. (支)Rén-tiēn-yǎn-mù-chí. 人天眼目集綱領 ❷三卷 ❸存 ❹宋慧洪覺範(然寮四—建炎二A.D.1071—1128)編 ❺寫永一二刊 ❻(正大、一七五・二二—二三)(內閣)

人天眼目集綱領 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-shū-kō-ryō. (支)Rén-tiēn-yǎn-mù-chí-kāng-lǐng. 人天眼目集 ❷三卷 ❸存 ❹宋慧洪覺範(然寮四—建炎二A.D.1071—1128)編 ❺寫永一二刊 ❻(谷大、餘大・一五九・一)(駒大)

人天眼目春堂解 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-shun-do-kai. ❷六卷 ❸存 ❻寫本(京大、印哲・ム三・一五)(龍大、研佛)

人天眼目抄 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-shō. ❷六卷 ❸存 ❹越山晦照 ❺永應三刊 ❻(谷大、餘大・四三六)(哲、け・八・中・三)(正大、一七五・二五)

人天眼目批卻集 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-hi-kyaku-shū. ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

人天眼目批判 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-hi-han. ❷一卷 ❸存 ❹瑞溪周鳳(明德二—文明五 A.D.1931—1473) ❼(參考) 禪籍目錄

人天眼目不二鈔 ❶(日)Nin-ten-gan-mokku-fu-ni-shō. ❷十二卷 ❸存 ❹岐陽方秀(貞治二—應永三 A.D.1363—1424) ❼(參考) 禪籍目錄

人天家々義 ❶(日)Nin-ten-ke-ke-gi. ❷一卷 ❸存 ❹林常快道(寶曆元—文化七A.D.1751—1810)記 ❻寫本(正大、一四九・二八)(龍大、二六二三・九)(京大、日大來・一六一)

人天寶鑑 ❶(日)Nin-ten-ho-kan. (支)Rén-tiēn-pǎo-jiàn. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・三・一 ❹曇秀撰 ❺宋紹定三(A.D.1230)

❻洪州黃龍山普覺禪師慧南の法嗣として、四明(浙江紹興府餘姚縣)並に虔州廉泉院(江西贛州府)に住して南岳下十二世の法燈を揭げた曇秀禪師が四明住山に際して道儒佛三教の先德の嘉言善行を禪傳實錄及び諸種の遺編より採錄し、叢林に在りて見聞せしところ尊宿の提唱に於得たるところなどいやしくも學道の規範となり學人の志氣を奮發して長く人天の寶鑑たるべきものを百餘段に採錄彙編し、南宋理宗帝紹定三年結制日に自序し、同年六月闡庭の劉渠の序、同年自恣前一日萬壽寺古岑師贊の跋、同年八月(A.D.1233)雲陸寺の思慧始堪の著語を附して壽梓したものである。

全篇紀譚警語に充ち滿く人天の眼目を開かしめ學佛道の指針となるを以て古來より叢林に於て禪門七部書の一に加へられて敬重されて居るものである。

❹寛文一〇刊(駒大)(帝國、八二一・二二〇)五山版(駒大)(哲、ふ・三・右・一八)古版(帝國、特別・一・貴)

(大久保堅璃)

人天寶鑑 ❶(日)Nin-ten-hō-kan. 國譯人天寶鑑 ❸存、國譯禪宗叢書第一

人道教初步 ❶(日)Nin-dō-kyō-sho-

-ho. ❹〔参〕 ❺巻 ❻存 ❼今日国書刊行会 ❽
国書刊行会本・二巻 ❾天 ❿明治二八刊 ⓫
〔分類〕 ⓬〔参考〕 田三蔵記巻三、法蘭経巻四、仁王経疏巻三、
勝鬘経巻三、巻四、同定経巻一天、仏定経
巻二天

人本欲生経 ❶〔日〕Nim-pon-yoku-shō-kyō. (支)Jên-pên-yü-shêng-ching. (巴)Mahānidāna-S. (D. 15) ❷一巻 ❸
存、大正一・二四一No. 14、編入一〇、卍一
四・一、北659号、宿673号、宇665号、列北
549号、北549号、宿662号、宇659号、列622
号、北647号、宇895号、列北543号、Nj. 553
❹安本寿書 ❺度本寿二 (A. D. 146) 支
寿二 (A. D. 152) 宋本寿二 (A. D. 156)
❻この経典は中阿含経九七経大因経(大正一・
五七七人)、長阿含十五経大縁方便経(大正一・
六〇)、増一阿含経一五経 (Mahānidāna S.)
及び梵蔵両語の大生経類(大正一・二四四)、の
五回本ともり、縁起の説教を説き、及びその
他の説話をしたに編成されたもので、単独に別
人説としたものは歴史的にはこれを編入し
人はそのために用ひられることは出来ないと
思ふ。唐代の法蔵はそのものを示されたと
ある。しかし縁起のものを示されたア
ヒダルマ系の説一切有部の学者は初期仏教
大因経第一巻四縁とされ、縁起説は十二因縁を出し、
大生経類説は十支
縁を出し、大生経類説は十支
因縁を出すに対して、この両説を中阿含経大
因経は、老死、生、有、愛、受、触、六処、名色、
識、胎、住、生、老、死、愛、分、生、業、有、
取、愛、受、触、六処、名色、識、胎、住、生、
老、死、分、生、業、有、取、愛、受、触、六処、
名色、識、胎、住、生、老、死

三種言葉の仁王護國般若波羅蜜多經を註釋したものである。初めに翻譯年代を明らかにして仁王護國の意義を定め、次に本文註解に入る。註解は一を言ひ、次に第二正宗文の科の下に仔細に解釈し、更に科を分ちて（一）内護摩壇法（二）外護摩壇法（三）内外護摩壇法（四）外護摩壇法（五）内外護摩壇法（六）内外護摩壇法（七）内外護摩壇法（八）内外護摩壇法（九）内外護摩壇法（十）内外護摩壇法（十一）内外護摩壇法（十二）内外護摩壇法（十三）内外護摩壇法（十四）内外護摩壇法（十五）内外護摩壇法（十六）内外護摩壇法（十七）内外護摩壇法（十八）内外護摩壇法（十九）内外護摩壇法（二十）内外護摩壇法（二十一）内外護摩壇法（二十二）内外護摩壇法（二十三）内外護摩壇法（二十四）内外護摩壇法（二十五）内外護摩壇法（二十六）内外護摩壇法（二十七）内外護摩壇法（二十八）内外護摩壇法（二十九）内外護摩壇法（三十）内外護摩壇法（三十一）内外護摩壇法（三十二）内外護摩壇法（三十三）内外護摩壇法（三十四）内外護摩壇法（三十五）内外護摩壇法（三十六）内外護摩壇法（三十七）内外護摩壇法（三十八）内外護摩壇法（三十九）内外護摩壇法（四十）内外護摩壇法（四十一）内外護摩壇法（四十二）内外護摩壇法（四十三）内外護摩壇法（四十四）内外護摩壇法（四十五）内外護摩壇法（四十六）内外護摩壇法（四十七）内外護摩壇法（四十八）内外護摩壇法（四十九）内外護摩壇法（五十）内外護摩壇法（五十一）内外護摩壇法（五十二）内外護摩壇法（五十三）内外護摩壇法（五十四）内外護摩壇法（五十五）内外護摩壇法（五十六）内外護摩壇法（五十七）内外護摩壇法（五十八）内外護摩壇法（五十九）内外護摩壇法（六十）内外護摩壇法（六十一）内外護摩壇法（六十二）内外護摩壇法（六十三）内外護摩壇法（六十四）内外護摩壇法（六十五）内外護摩壇法（六十六）内外護摩壇法（六十七）内外護摩壇法（六十八）内外護摩壇法（六十九）内外護摩壇法（七十）内外護摩壇法（七十一）内外護摩壇法（七十二）内外護摩壇法（七十三）内外護摩壇法（七十四）内外護摩壇法（七十五）内外護摩壇法（七十六）内外護摩壇法（七十七）内外護摩壇法（七十八）内外護摩壇法（七十九）内外護摩壇法（八十）内外護摩壇法（八十一）内外護摩壇法（八十二）内外護摩壇法（八十三）内外護摩壇法（八十四）内外護摩壇法（八十五）内外護摩壇法（八十六）内外護摩壇法（八十七）内外護摩壇法（八十八）内外護摩壇法（八十九）内外護摩壇法（九十）内外護摩壇法（九十一）内外護摩壇法（九十二）内外護摩壇法（九十三）内外護摩壇法（九十四）内外護摩壇法（九十五）内外護摩壇法（九十六）内外護摩壇法（九十七）内外護摩壇法（九十八）内外護摩壇法（九十九）内外護摩壇法（百）内外護摩壇法（百一）内外護摩壇法（百二）内外護摩壇法（百三）内外護摩壇法（百四）内外護摩壇法（百五）内外護摩壇法（百六）内外護摩壇法（百七）内外護摩壇法（百八）内外護摩壇法（百九）内外護摩壇法（百十）内外護摩壇法（百十一）内外護摩壇法（百十二）内外護摩壇法（百十三）内外護摩壇法（百十四）内外護摩壇法（百十五）内外護摩壇法（百十六）内外護摩壇法（百十七）内外護摩壇法（百十八）内外護摩壇法（百十九）内外護摩壇法（百二十）内外護摩壇法（百二十一）内外護摩壇法（百二十二）内外護摩壇法（百二十三）内外護摩壇法（百二十四）内外護摩壇法（百二十五）内外護摩壇法（百二十六）内外護摩壇法（百二十七）内外護摩壇法（百二十八）内外護摩壇法（百二十九）内外護摩壇法（百三十）内外護摩壇法（百三十一）内外護摩壇法（百三十二）内外護摩壇法（百三十三）内外護摩壇法（百三十四）内外護摩壇法（百三十五）内外護摩壇法（百三十六）内外護摩壇法（百三十七）内外護摩壇法（百三十八）内外護摩壇法（百三十九）内外護摩壇法（百四十）内外護摩壇法（百四十一）内外護摩壇法（百四十二）内外護摩壇法（百四十三）内外護摩壇法（百四十四）内外護摩壇法（百四十五）内外護摩壇法（百四十六）内外護摩壇法（百四十七）内外護摩壇法（百四十八）内外護摩壇法（百四十九）内外護摩壇法（百五十）内外護摩壇法（百五十一）内外護摩壇法（百五十二）内外護摩壇法（百五十三）内外護摩壇法（百五十四）内外護摩壇法（百五十五）内外護摩壇法（百五十六）内外護摩壇法（百五十七）内外護摩壇法（百五十八）内外護摩壇法（百五十九）内外護摩壇法（百六十）内外護摩壇法（百六十一）内外護摩壇法（百六十二）内外護摩壇法（百六十三）内外護摩壇法（百六十四）内外護摩壇法（百六十五）内外護摩壇法（百六十六）内外護摩壇法（百六十七）内外護摩壇法（百六十八）内外護摩壇法（百六十九）内外護摩壇法（百七十）内外護摩壇法（百七十一）内外護摩壇法（百七十二）内外護摩壇法（百七十三）内外護摩壇法（百七十四）内外護摩壇法（百七十五）内外護摩壇法（百七十六）内外護摩壇法（百七十七）内外護摩壇法（百七十八）内外護摩壇法（百七十九）内外護摩壇法（百八十）内外護摩壇法（百八十一）内外護摩壇法（百八十二）内外護摩壇法（百八十三）内外護摩壇法（百八十四）内外護摩壇法（百八十五）内外護摩壇法（百八十六）内外護摩壇法（百八十七）内外護摩壇法（百八十八）内外護摩壇法（百八十九）内外護摩壇法（百九十）内外護摩壇法（百九十一）内外護摩壇法（百九十二）内外護摩壇法（百九十三）内外護摩壇法（百九十四）内外護摩壇法（百九十五）内外護摩壇法（百九十六）内外護摩壇法（百九十七）内外護摩壇法（百九十八）内外護摩壇法（百九十九）内外護摩壇法（二百）内外護摩壇法（二百一）内外護摩壇法（二百二）内外護摩壇法（二百三）内外護摩壇法（二百四）内外護摩壇法（二百五）内外護摩壇法（二百六）内外護摩壇法（二百七）内外護摩壇法（二百八）内外護摩壇法（二百九）内外護摩壇法（二百十）内外護摩壇法（二百十一）内外護摩壇法（二百十二）内外護摩壇法（二百十三）内外護摩壇法（二百十四）内外護摩壇法（二百十五）内外護摩壇法（二百十六）内外護摩壇法（二百十七）内外護摩壇法（二百十八）内外護摩壇法（二百十九）内外護摩壇法（二百二十）内外護摩壇法（二百二十一）内外護摩壇法（二百二十二）内外護摩壇法（二百二十三）内外護摩壇法（二百二十四）内外護摩壇法（二百二十五）内外護摩壇法（二百二十六）内外護摩壇法（二百二十七）内外護摩壇法（二百二十八）内外護摩壇法（二百二十九）内外護摩壇法（二百三十）内外護摩壇法（二百三十一）内外護摩壇法（二百三十二）内外護摩壇法（二百三十三）内外護摩壇法（二百三十四）内外護摩壇法（二百三十五）内外護摩壇法（二百三十六）内外護摩壇法（二百三十七）内外護摩壇法（二百三十八）内外護摩壇法（二百三十九）内外護摩壇法（二百四十）内外護摩壇法（二百四十一）内外護摩壇法（二百四十二）内外護摩壇法（二百四十三）内外護摩壇法（二百四十四）内外護摩壇法（二百四十五）内外護摩壇法（二百四十六）内外護摩壇法（二百四十七）内外護摩壇法（二百四十八）内外護摩壇法（二百四十九）内外護摩壇法（二百五十）内外護摩壇法（二百五十一）内外護摩壇法（二百五十二）内外護摩壇法（二百五十三）内外護摩壇法（二百五十四）内外護摩壇法（二百五十五）内外護摩壇法（二百五十六）内外護摩壇法（二百五十七）内外護摩壇法（二百五十八）内外護摩壇法（二百五十九）内外護摩壇法（二百六十）内外護摩壇法（二百六十一）内外護摩壇法（二百六十二）内外護摩壇法（二百六十三）内外護摩壇法（二百六十四）内外護摩壇法（二百六十五）内外護摩壇法（二百六十六）内外護摩壇法（二百六十七）内外護摩壇法（二百六十八）内外護摩壇法（二百六十九）内外護摩壇法（二百七十）内外護摩壇法（二百七十一）内外護摩壇法（二百七十二）内外護摩壇法（二百七十三）内外護摩壇法（二百七十四）内外護摩壇法（二百七十五）内外護摩壇法（二百七十六）内外護摩壇法（二百七十七）内外護摩壇法（二百七十八）内外護摩壇法（二百七十九）内外護摩壇法（二百八十）内外護摩壇法（二百八十一）内外護摩壇法（二百八十二）内外護摩壇法（二百八十三）内外護摩壇法（二百八十四）内外護摩壇法（二百八十五）内外護摩壇法（二百八十六）内外護摩壇法（二百八十七）内外護摩壇法（二百八十八）内外護摩壇法（二百八十九）内外護摩壇法（二百九十）内外護摩壇法（二百九十一）内外護摩壇法（二百九十二）内外護摩壇法（二百九十三）内外護摩壇法（二百九十四）内外護摩壇法（二百九十五）内外護摩壇法（二百九十六）内外護摩壇法（二百九十七）内外護摩壇法（二百九十八）内外護摩壇法（二百九十九）内外護摩壇法（三百）内外護摩壇法（三百一）内外護摩壇法（三百二）内外護摩壇法（三百三）内外護摩壇法（三百四）内外護摩壇法（三百五）内外護摩壇法（三百六）内外護摩壇法（三百七）内外護摩壇法（三百八）内外護摩壇法（三百九）内外護摩壇法（三百十）内外護摩壇法（三百十一）内外護摩壇法（三百十二）内外護摩壇法（三百十三）内外護摩壇法（三百十四）内外護摩壇法（三百十五）内外護摩壇法（三百十六）内外護摩壇法（三百十七）内外護摩壇法（三百十八）内外護摩壇法（三百十九）内外護摩壇法（三百二十）内外護摩壇法（三百二十一）内外護摩壇法（三百二十二）内外護摩壇法（三百二十三）内外護摩壇法（三百二十四）内外護摩壇法（三百二十五）内外護摩壇法（三百二十六）内外護摩壇法（三百二十七）内外護摩壇法（三百二十八）内外護摩壇法（三百二十九）内外護摩壇法（三百三十）内外護摩壇法（三百三十一）内外護摩壇法（三百三十二）内外護摩壇法（三百三十三）内外護摩壇法（三百三十四）内外護摩壇法（三百三十五）内外護摩壇法（三百三十六）内外護摩壇法（三百三十七）内外護摩壇法（三百三十八）内外護摩壇法（三百三十九）内外護摩壇法（三百四十）内外護摩壇法（三百四十一）内外護摩壇法（三百四十二）内外護摩壇法（三百四十三）内外護摩壇法（三百四十四）内外護摩壇法（三百四十五）内外護摩壇法（三百四十六）内外護摩壇法（三百四十七）内外護摩壇法（三百四十八）内外護摩壇法（三百四十九）内外護摩壇法（三百五十）内外護摩壇法（三百五十一）内外護摩壇法（三百五十二）内外護摩壇法（三百五十三）内外護摩壇法（三百五十四）内外護摩壇法（三百五十五）内外護摩壇法（三百五十六）内外護摩壇法（三百五十七）内外護摩壇法（三百五十八）内外護摩壇法（三百五十九）内外護摩壇法（三百六十）内外護摩壇法（三百六十一）内外護摩壇法（三百六十二）内外護摩壇法（三百六十三）内外護摩壇法（三百六十四）内外護摩壇法（三百六十五）内外護摩壇法（三百六十六）内外護摩壇法（三百六十七）内外護摩壇法（三百六十八）内外護摩壇法（三百六十九）内外護摩壇法（三百七十）内外護摩壇法（三百七十一）内外護摩壇法（三百七十二）内外護摩壇法（三百七十三）内外護摩壇法（三百七十四）内外護摩壇法（三百七十五）内外護摩壇法（三百七十六）内外護摩壇法（三百七十七）内外護摩壇法（三百七十八）内外護摩壇法（三百七十九）内外護摩壇法（三百八十）内外護摩壇法（三百八十一）内外護摩壇法（三百八十二）内外護摩壇法（三百八十三）内外護摩壇法（三百八十四）内外護摩壇法（三百八十五）内外護摩壇法（三百八十六）内外護摩壇法（三百八十七）内外護摩壇法（三百八十八）内外護摩壇法（三百八十九）内外護摩壇法（三百九十）内外護摩壇法（三百九十一）内外護摩壇法（三百九十二）内外護摩壇法（三百九十三）内外護摩壇法（三百九十四）内外護摩壇法（三百九十五）内外護摩壇法（三百九十六）内外護摩壇法（三百九十七）内外護摩壇法（三百九十八）内外護摩壇法（三百九十九）内外護摩壇法（四百）内外護摩壇法（四百一）内外護摩壇法（四百二）内外護摩壇法（四百三）内外護摩壇法（四百四）内外護摩壇法（四百五）内外護摩壇法（四百六）内外護摩壇法（四百七）内外護摩壇法（四百八）内外護摩壇法（四百九）内外護摩壇法（五十）内外護摩壇法（五十一）内外護摩壇法（五十二）内外護摩壇法（五十三）内外護摩壇法（五十四）内外護摩壇法（五十五）内外護摩壇法（五十六）内外護摩壇法（五十七）内外護摩壇法（五十八）内外護摩壇法（五十九）内外護摩壇法（六十）内外護摩壇法（六十一）内外護摩壇法（六十二）内外護摩壇法（六十三）内外護摩壇法（六十四）内外護摩壇法（六十五）内外護摩壇法（六十六）内外護摩壇法（六十七）内外護摩壇法（六十八）内外護摩壇法（六十九）内外護摩壇法（七十）内外護摩壇法（七十一）内外護摩壇法（七十二）内外護摩壇法（七十三）内外護摩壇法（七十四）内外護摩壇法（七十五）内外護摩壇法（七十六）内外護摩壇法（七十七）内外護摩壇法（七十八）内外護摩壇法（七十九）内外護摩壇法（八十）内外護摩壇法（八十一）内外護摩壇法（八十二）内外護摩壇法（八十三）内外護摩壇法（八十四）内外護摩壇法（八十五）内外護摩壇法（八十六）内外護摩壇法（八十七）内外護摩壇法（八十八）内外護摩壇法（八十九）内外護摩壇法（九十）内外護摩壇法（九十一）内外護摩壇法（九十二）内外護摩壇法（九十三）内外護摩壇法（九十四）内外護摩壇法（九十五）内外護摩壇法（九十六）内外護摩壇法（九十七）内外護摩壇法（九十八）内外護摩壇法（九十九）内外護摩壇法（百）内外護摩壇法（百一）内外護摩壇法（百二）内外護摩壇法（百三）内外護摩壇法（百四）内外護摩壇法（百五）内外護摩壇法（百六）内外護摩壇法（百七）内外護摩壇法（百八）内外護摩壇法（百九）内外護摩壇法（百十）内外護摩壇法（百十一）内外護摩壇法（百十二）内外護摩壇法（百十三）内外護摩壇法（百十四）内外護摩壇法（百十五）内外護摩壇法（百十六）内外護摩壇法（百十七）内外護摩壇法（百十八）内外護摩壇法（百十九）内外護摩壇法（百二十）内外護摩壇法（百二十一）内外護摩壇法（百二十二）内外護摩壇法（百二十三）内外護摩壇法（百二十四）内外護摩壇法（百二十五）内外護摩壇法（百二十六）内外護摩壇法（百二十七）内外護摩壇法（百二十八）内外護摩壇法（百二十九）内外護摩壇法（百三十）内外護摩壇法（百三十一）内外護摩壇法（百三十二）内外護摩壇法（百三十三）内外護摩壇法（百三十四）内外護摩壇法（百三十五）内外護摩壇法（百三十六）内外護摩壇法（百三十七）内外護摩壇法（百三十八）内外護摩壇法（百三十九）内外護摩壇法（百四十）内外護摩壇法（百四十一）内外護摩壇法（百四十二）内外護摩壇法（百四十三）内外護摩壇法（百四十四）内外護摩壇法（百四十五）内外護摩壇法（百四十六）内外護摩壇法（百四十七）内外護摩壇法（百四十八）内外護摩壇法（百四十

pên. ❹三卷 ❺存〃 卍續1・四〇・四

仁王經疏記 ❶(日)Ninn-ō-gyō-sho-ki. 仁王經疏記 ❷二卷 ❸存 ❹義寂 ❺文永六刊 ❻(續大)二四二二・四〇)

仁王經疏寶記 ❶(日) Ninn-ō-gyō-sho-jin-bō-ki. (宋) Jên-wang-ching-su-shên-pao-chi. 仁王護國般若波羅蜜經疏寶記 仁王護國般若波羅蜜經寶記 ❷四卷 ❸存〃大正三三・二八大No. 1706〃 續日八〃 明本1560普〃 市1544藝〃 Nj. 1557 ❹栄叡(唐)1・大一・法華寺 元A. D. 1149—1241)撰 ❺宋紹興元年(A. D. 1230) ❻仁王護國般若波羅蜜經寶記の下を見よ。 ❼(唐)慧沼撰 ❽(續大)二四二二・四二)(唐)文殊師利問般若經疏三卷 (唐)慧沼撰(續大)

仁王經疏法衡鈔 ❶(日) Ninn-ō-kyō-sho-hō-kō-shō. (宋) Jên-wang-ching-su-fa-hêng-ch'ao. 仁王護國般若波羅蜜經疏法衡鈔〃 仁王護法衡鈔〃 仁王護法衡鈔 ❷六卷 ❸存〃 卍續1・四二・一一二 ❹法藏撰 ❺天平卷 ❻存〃 卍續1・四二・一一二 ❼法藏撰 ❽天平卷は〃 仁王護國般若波羅蜜經疏を指すものにして

の法衡鈔と称するのは、唐の法藏の著作である。しかるに、この撰述は、唐末の人なりしと云ふ。しかるに、この撰述は、唐末の人なりしと云ふ。しかるに、この撰述は、唐末の人なりしと云ふ。

天平卷は〃 仁王護國般若波羅蜜經疏を指すものにして、これは、唐末の人なりしと云ふ。

仁王護法衡鈔〃 仁王護法衡鈔〃 仁王護法衡鈔〃